

# 塩部遺跡Ⅲ

—学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書—  
(山梨県甲府市塩部二丁目 1962-4 番地他)

2019

学校法人駿台甲府学園  
甲府市教育委員会  
昭和測量株式会社





SI6・10 完掘状況 北から



SI6・10 完掘状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 北西から



SD1 下層木製品出土状況 南から



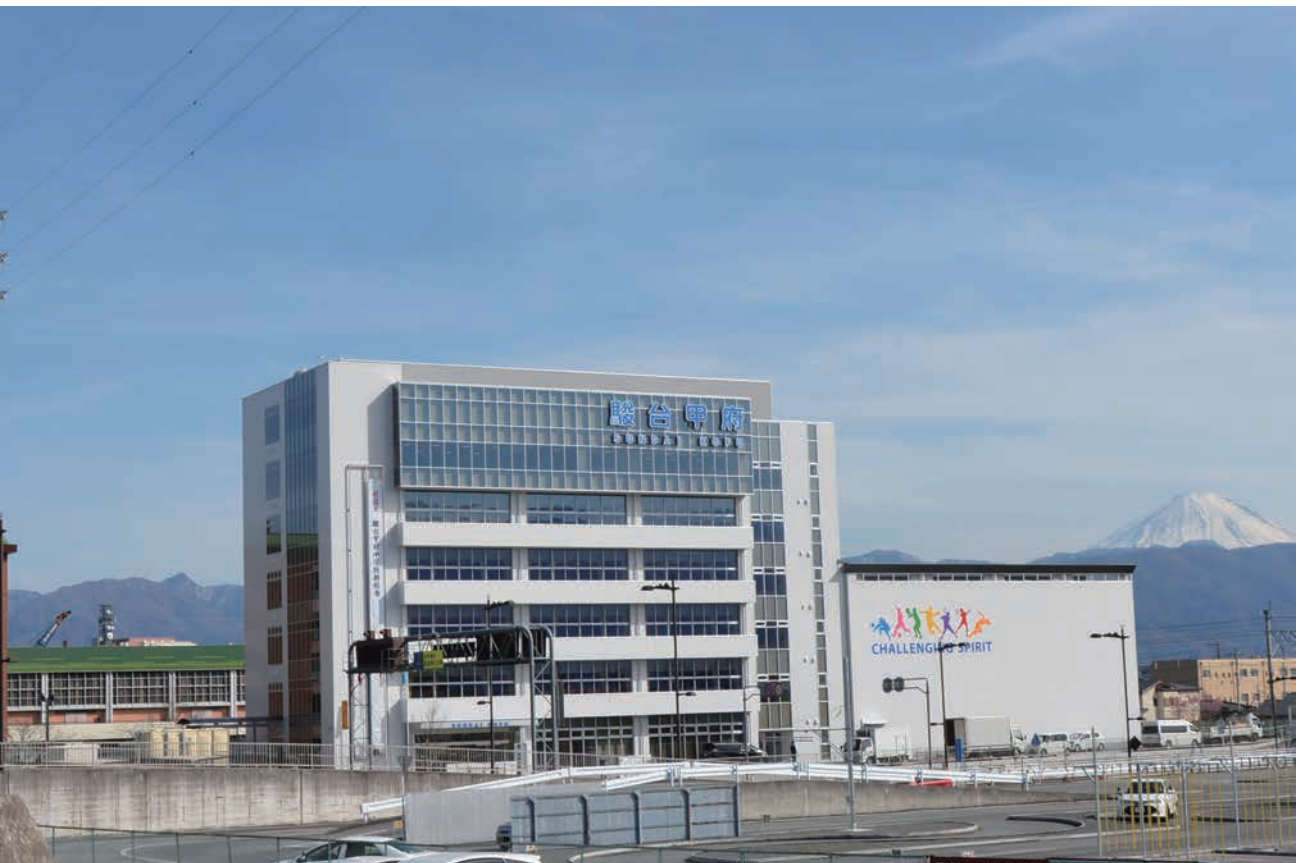
出土遺物 古墳時代前期



出土遺物 古墳時代中期



出土遺物 古墳時代後期



調査後状況（新校舎竣工） 西から

## 序

塩部遺跡は、南方に御坂山塊と勇壮な富士山の眺望、西方には甲斐駒ヶ岳と南アルプスの山並みが望まれる相川扇状地扇端部、甲府市塩部地域の約 800 m 四方に広がります。

過去、調査区周辺では本調査が数回実施され、弥生時代後期から古墳時代、さらに平安時代にかけての約一千年以上にわたる生活の痕跡が多数発見されております。特に今回の調査区に隣接する北西側からは、古墳時代初頭の方形周溝墓が検出されるとともに、外来の北陸系及び畿内系土器の出土など、古代から集落が営まれ、遠方との交流が行われていたことが確認されています。

今回の調査区は遺跡範囲の南西側に位置し、古墳時代中期を中心とする竪穴式住居が30基以上検出され、勾玉、金環、ガラス玉等の装飾品など遺跡を解明する上で重要な遺構・遺物が多数検出されています。さらに大量に出土した木製品は、古墳時代の木工技術を探る上で希少な発見であります。

本書は、このような貴重な発掘調査の成果を記録保存として公開し、歴史研究の発展に供するとともに、開府 500 年を迎えた甲府市の古代からの歴史文化を未来へ継承する遺産として、活用していただきますことを願います。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業に従事されました方々をはじめ、ご協力をいただきました駿台甲府学園並びに関係各位に心より御礼を申し上げますとともに、本市文化行政に引き続きご助力を賜われますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

甲府市教育委員会  
教育長 小林 仁

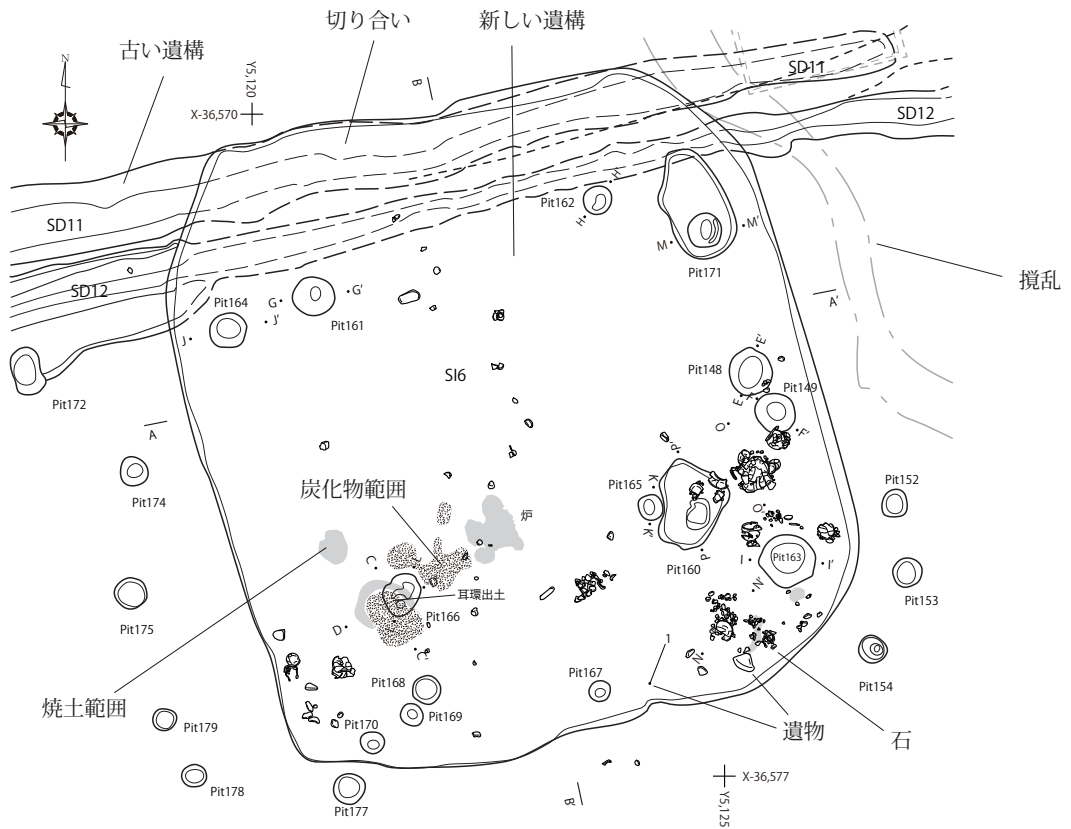
## 例 言

1. 本報告書は、山梨県甲府市塩部二丁目 1962-4 他の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会監理の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査監理は甲府市教育委員会生涯学習室歴史文化財課の志村憲一が担当し、調査実施は昭和測量株式会社の泉英樹、高野高潔が現地調査及び整理作業を担当した。
4. 本調査に関わる費用は学校法人駿台甲府学園が負担した。
5. 発掘調査は平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成 29 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで実施した。調査面積は 2,584m<sup>2</sup>である。
6. 発掘調査および本報告書の執筆は、第 1 章～第 3 章第 1 節を高野高潔、第 3 章第 2 節を泉英樹、第 4 章を泉・高野、第 6 章第 1 節を高野、第 2・3 節を泉、第 4 節を新津健（昭和測量株式会社研究顧問）が担当した。第 5 章自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。  
遺物写真は、高野・萩野谷主税（昭和測量株式会社）が撮影を行った。
7. 木製品保存処理・金属製品保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。
8. 挿図使用地図は、図 1：大日本帝国陸地測量部発行の 1/20,000 地形図甲府近傍七号「松嶋村」（明治 42 年 10 月鉄道補測発行）、八号「甲府」（明治 43 年 1 月鉄道補測発行）、図 2：国土地理院発行（平成 14 年 6 月 1 日発行）の数値地図 25000（地図画像）「甲府」所収「甲府北部」、「甲府」である。
9. 遺構平面図の XY 座標値は平面直角座標系（世界測地系）第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
10. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々にご指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。  
石神孝子、大隈清陽、大嶋正之、河西学、小林健二、佐々木満、田中浩、中山誠二、畑大介、林部光、原正人、平塚洋一、藤澤 明、保坂和博、三浦麻衣子、望月健太、山下孝司、学校法人駿台甲府学園、株式会社早野組、株式会社ユニヴァーサル（順不同、敬称略）
11. 本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会で保管している。

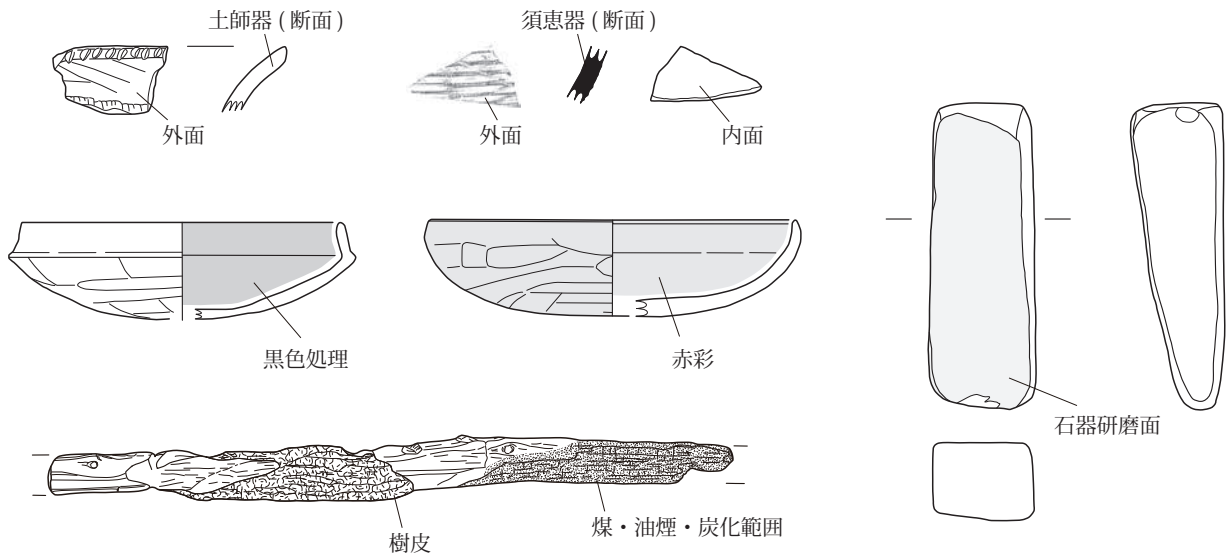


## 凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水系レベルの数字は海拔高を示し、単位はメートル (m) である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
5. 遺構実測図の表現については下図の通りである。



6. 遺物実測図の表現については下図の通りである。



# 目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表目次	
第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	1
第3章 調査の方法	
第1節 調査の方法	6
第2節 基本層序	8
第4章 調査の成果	
第1節 調査の概要	9
第2節 建物	9
第3節 土坑・ピット	24
第4節 溝・流路	25
遺物観察表	220
第5章 自然科学分析	271
第6章 まとめ	
第1節 塩部遺跡の遺構と遺物	332
第2節 塩部遺跡の焼失建物について	337
第3節 塩部遺跡の木製品について	340
第4節 塩部遺跡出土植物種子とウシ骨についての一所見	341
写真図版	

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	3	第39図	SI 11	64
第2図	周辺の遺跡分布図	4	第40図	SI 12a (1)	65
第3図	塩部遺跡既存調査地点	5	第41図	SI 12a (2)	66
第4図	調査区設定図	7	第42図	SI 12a (3)・SI 12b	67
第5図	遺構全体図(1)	30	第43図	SI 13 (1)	68
第6図	地形図	31	第44図	SI 13 (2)	69
第7図	遺構全体図(2)	32	第45図	SI 14	70
第8図	遺構全体図(3)	33	第46図	SI 15・16 (1)	71
第9図	遺構全体図(4)	34	第47図	SI 15・16 (2)	72
第10図	遺構全体図(5)	35	第48図	SI 15・16 (3)	73
第11図	遺構全体図(6)	36	第49図	SI 17 (1)	74
第12図	遺構全体図(7)	37	第50図	SI 17 (2)	75
第13図	SI 1 (1)	38	第51図	SI 17 (3)	76
第14図	SI 1 (2)	39	第52図	SI 18	77
第15図	SI 1 (3)	40	第53図	SI 19・SB 2 (1)	78
第16図	SI 1 (4)	41	第54図	SI 19・SB 2 (2)	79
第17図	SI 2	42	第55図	SI 20・21 (1)	80
第18図	SI 3 (1)	43	第56図	SI 20・21 (2)	81
第19図	SI 3 (2)	44	第57図	SI 22 (1)	82
第20図	SI 4	45	第58図	SI 22 (2)	83
第21図	SI 5・SI 8 (1)	46	第59図	SI 23・24・26 (1)	84
第22図	SI 5・SI 8 (2)	47	第60図	SI 23・24・26 (2)	85
第23図	SI 6 (1)	48	第61図	SI 25 (1)	86
第24図	SI 6 (2)	49	第62図	SI 25 (2)	87
第25図	SI 6 (3)	50	第63図	SI 27・34 (1)	88
第26図	SI 7 (1)	51	第64図	SI 27・34 (2)	89
第27図	SI 7 (2)	52	第65図	SI 28 (1)	90
第28図	SI 7 (3)	53	第66図	SI 28 (2)	91
第29図	SI 7 (4)	54	第67図	SI 29・30	92
第30図	SI 7 (5)	55	第68図	SI 31・38	93
第31図	SI 7 (6)	56	第69図	SI 32 (1)	94
第32図	SI 7 (7)	57	第70図	SI 32 (2)	95
第33図	SI 9 (1)	58	第71図	SI 33	96
第34図	SI 9 (2)	59	第72図	SI 35・36・44 (1)	97
第35図	SI 10a (1)・SD 13	60	第73図	SI 35・36・44 (2)	98
第36図	SI 10a (2)	61	第74図	SI 35・36・44 (3)	99
第37図	SI 10a (3)	62	第75図	SI 37 (1)	100
第38図	SI 10b	63	第76図	SI 37 (2)	101

第 77 図	SI 39 (1) . . . . .	102	第 113 図	SI 6 (1) 出土遺物 . . . . .	138
第 78 図	SI 39 (2) . . . . .	103	第 114 図	SI 6 (2) 出土遺物 . . . . .	139
第 79 図	SI 40 (1) . . . . .	104	第 115 図	SI 7a (1) 出土遺物 . . . . .	140
第 80 図	SI 40 (2) . . . . .	105	第 116 図	SI 7a (2) 出土遺物 . . . . .	141
第 81 図	SI 43 . . . . .	106	第 117 図	SI 7a (3) 出土遺物 . . . . .	142
第 82 図	SB 1 . . . . .	107	第 118 図	SI 7a (4) SI 7b 出土遺物 . . . . .	143
第 83 図	SB 3・4 (1) . . . . .	108	第 119 図	SI 7Pit 出土遺物 . . . . .	144
第 84 図	SB 3・4 (2) . . . . .	109	第 120 図	SI 8・SI 9 (1) 出土遺物 . . . . .	145
第 85 図	SX 3 (1) . . . . .	110	第 121 図	SI 9 (2) 出土遺物 . . . . .	146
第 86 図	SX 3 (2) . . . . .	111	第 122 図	SI 9 (3) 出土遺物 . . . . .	147
第 87 図	SX 3a . . . . .	112	第 123 図	SI 9 (4)・SI 10 (1) 出土遺物 . . . . .	148
第 88 図	SX 3b . . . . .	113	第 124 図	SI 10 (2)・SI 11・SI 12 (1) 出土遺物 . . . . .	149
第 89 図	SD 1 (1) . . . . .	114	第 125 図	SI 12 (2) 出土遺物 . . . . .	150
第 90 図	SD 1 (2) . . . . .	115	第 126 図	SI 12 (3)・SI 13・SI 14 (1) 出土遺物 . . . . .	151
第 91 図	SD 1 (3) . . . . .	116	第 127 図	SI 14 (2) 出土遺物 . . . . .	152
第 92 図	SD 1 (4) . . . . .	117	第 128 図	SI 15・SI 16 (1) 出土遺物 . . . . .	153
第 93 図	SD 2・4・5・6 (1) . . . . .	118	第 129 図	SI 16 (2)・SI 17・SI 18 出土遺物 . . . . .	154
第 94 図	SD 2・4・5・6 (2) . . . . .	119	第 130 図	SI 19 出土遺物 . . . . .	155
第 95 図	SD 10・11・12 . . . . .	120	第 131 図	SI 20 (1) 出土遺物 . . . . .	156
第 96 図	SD 13 . . . . .	121	第 132 図	SI 20 (2) 出土遺物 . . . . .	157
第 97 図	SD 11・12・14・17・27・28・ 30・32 (1) . . . . .	122	第 133 図	SI 20 (3)・SI 21 出土遺物 . . . . .	158
第 98 図	SD 11・12・14・17・27・28・ 30・32 (2) . . . . .	123	第 134 図	SI 22 (1) 出土遺物 . . . . .	159
第 99 図	SD 11・12・14・17・27・28・ 30・32 (3) . . . . .	124	第 135 図	SI 22 (2) 出土遺物 . . . . .	160
第 100 図	SD 11・12・14・17・27・28・ 30・32 (4) . . . . .	125	第 136 図	SI 22 (3) 出土遺物 . . . . .	161
第 101 図	SD 11・12・14・17・27・28・ 30・32 (5) . . . . .	126	第 137 図	SI 22 (4) 出土遺物 . . . . .	162
第 102 図	SD 33・SX 2 (1) . . . . .	127	第 138 図	SI 22 (5)・SI 23 (1) 出土遺物 . . . . .	163
第 103 図	SD 33・SX 2 (2) . . . . .	128	第 139 図	SI 23 (2) 出土遺物 . . . . .	164
第 104 図	SD 33・SX 2 (3) . . . . .	129	第 140 図	SI 24・SI 25 (1) 出土遺物 . . . . .	165
第 105 図	SD 33・SX 2 (4) . . . . .	130	第 141 図	SI 25 (2)・SI 26・SI 27 (1) 出土遺物 . . . . .	166
第 106 図	SD 33・SX 2 (5) . . . . .	131	第 142 図	SI 27 (2) 出土遺物 . . . . .	167
第 107 図	SI 1 出土遺物 . . . . .	132	第 143 図	SI 27 (3) 出土遺物 . . . . .	168
第 108 図	SI 2 出土遺物 . . . . .	133	第 144 図	SI 28 出土遺物 . . . . .	169
第 109 図	SI 3 出土遺物 . . . . .	134	第 145 図	SI 29・SI 30 (1) 出土遺物 . . . . .	170
第 110 図	SI 4・SI 5 (1) 出土遺物 . . . . .	135	第 146 図	SI 30 (2)・SI 31 (1) 出土遺物 . . . . .	171
第 111 図	SI 5 (2) 出土遺物 . . . . .	136			
第 112 図	SI 5 (3) 出土遺物 . . . . .	137			

第 147 図	SI 31 (2)・SI 32 (1) 出土遺物	第 175 図	SD 1 (14) 出土遺物
	172	第 176 図	SD 1 (15) 出土遺物
第 148 図	SI 32 (2)・SI 33 (1) 出土遺物	第 177 図	SD 2・SD 5・SD 6・SD 11 出土遺物
	173	第 178 図	SD 12・SD 13・SD 14・SD 28 出土遺物
第 149 図	SI 33 (2) 出土遺物		203
第 150 図	SI 33 (3)・SI 34 出土遺物	第 179 図	SD 17 (1) 出土遺物
	175	第 180 図	SD 17 (2) 出土遺物
第 151 図	SI 35 (1) 出土遺物	第 181 図	SD 17 (3) 出土遺物
	176	第 182 図	SD 17 (4) 出土遺物
第 152 図	SI 35 (2)・SI 36 出土遺物	第 183 図	SD 17 (5) 出土遺物
	177	第 184 図	SD 17 (6) 出土遺物
第 153 図	SI 37 (1) 出土遺物	第 185 図	SD 17 (7) 出土遺物
	178	第 186 図	SD 17 (8) 出土遺物
第 154 図	SI 37 (2)・SI 38 (1) 出土遺物	第 187 図	SD 17 (9) 出土遺物
	179	第 188 図	SD 17 (10) 出土遺物
第 155 図	SI 38 (2)・SI 39 (1) 出土遺物	第 189 図	SD 17 (11) 出土遺物
	180	第 190 図	SD 17 (12) 出土遺物
第 156 図	SI 39 (2) 出土遺物	第 191 図	SD 17 (13) 出土遺物
	181	第 192 図	SD 32・SD 33 (1) 出土遺物
第 157 図	SI 39 (3)・SI 40 (1) 出土遺物	第 193 図	SD 33 (2) 出土遺物
	182	第 194 図	遺構外出土遺物
第 158 図	SI 40 (2)・SI 43 出土遺物	第 195 図	古墳時代土師器 (1)
	183	第 196 図	古墳時代土師器 (2)
第 159 図	SI 44・SX 2 出土遺物	第 197 図	遺構変遷図
	184		336
第 160 図	SX 3 出土遺物		
	185		
第 161 図	SK 34・SK 36・SK 37 (1) 出土遺物		
	186		
第 162 図	SK 37 (2)・Pit・SD 1 (1) 出土遺物		
	187		
第 163 図	SD 1 (2) 出土遺物		
	188		
第 164 図	SD 1 (3) 出土遺物		
	189		
第 165 図	SD 1 (4) 出土遺物		
	190		
第 166 図	SD 1 (5) 出土遺物		
	191		
第 167 図	SD 1 (6) 出土遺物		
	192		
第 168 図	SD 1 (7) 出土遺物		
	193		
第 169 図	SD 1 (8) 出土遺物		
	194		
第 170 図	SD 1 (9) 出土遺物		
	195		
第 171 図	SD 1 (10) 出土遺物		
	196		
第 172 図	SD 1 (11) 出土遺物		
	197		
第 173 図	SD 1 (12) 出土遺物		
	198		
第 174 図	SD 1 (13) 出土遺物		
	199		

## 表目次

表 1	遺物観察表	220
-----	-------	-----



## 第1章 調査に至る経緯

学校法人駿台甲府学園が甲府市塩部二丁目 1962-4 他において中学校移転に伴う校舎建設事業実施を決定した。平成 27 年 12 月 24 日、学校法人駿台甲府学園が文化財保護法第 93 条に基づく埋蔵文化財発掘届を山梨県教育委員会に提出した。平成 28 年 1 月 4 日、山梨県教育委員会が教学文第 3029 号文書で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について学校法人駿台甲府学園に通知した。

平成 28 年 1 月 21 日から 2 月 23 日、甲府市教育委員会生涯学習室歴史文化財課が試掘調査を実施し、遺跡の時代・内容、遺構の残存状況などの把握を行った。試掘調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての遺構・遺物が確認された。関係部局と協議を行い開発により遺跡に重大な影響を与える範囲を対象として本調査を実施することを決定した。本調査に際し、学校法人駿台甲府学園は昭和測量株式会社と埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を交わした。また、学校法人駿台甲府学園、甲府市教育委員会、昭和測量株式会社の三者は、平成 28 年 9 月 1 日付けで三者協定を締結した。本調査は甲府市教育委員会の指導監督の下、昭和測量株式会社が主体となり実施することが決定した。

平成 28 年 9 月 1 日、昭和測量株式会社が文化財保護法第 92 条に基づく埋蔵文化財発掘届を山梨県教育委員会に提出した。平成 28 年 9 月 5 日、山梨県教育委員会が教学文第 1903 号文書で周知の埋蔵文化財発掘調査について昭和測量株式会社に通知した。

本調査は平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 9 月 30 日の期間において甲府市教育委員会の指導監督の下、昭和測量株式会社が主体となり実施した。

調査終了後は山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課に出土遺物および調査記録図面を移動して整理作業及び報告書作成を実施した。整理作業及び報告書作成業務は、平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで実施した。

なお本調査の際は、駿台甲府高校の学生を対象とした見学会を平成 29 年 1 月 16 日・17 日に、体験発掘を平成 29 年 7 月 6 日・7 日に実施した。一般を対象とした見学会を平成 29 年 7 月 22 日に実施した。甲府市教育委員会が小学生体験発掘を平成 29 年 7 月 28 日に実施した。

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

調査対象の塩部遺跡は山梨県甲府市の中央部に位置し、甲府盆地の北縁にあたる。北方には関東山地の主要部である標高 2,000 ～ 2,500 m 級の秩父山地がある。調査地点は秩父山地山中の太良峠の南方を源とする相川により形成された扇状地扇端部の緩傾斜面上に立地している。相川中流域の右岸に面し、標高は約 280 m である。

塩部遺跡の遺跡範囲は東西約 500 m、南北約 700 m の規模で周知されている。塩部遺跡では現在までも別地点での発掘調査が実施されている。従前の報告ではまず県立甲府工業高等学校校庭出土土器として古墳時代の遺物が昭和 43 年の山本寿々雄氏の著作に見られる。平成 6・7 年に山梨県埋蔵文化財センターが調査した県立甲府工業高等学校改築に伴う発掘調査地点（2）では弥生時代～古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は方形周溝墓、住居、用水路、旧河道などがある。平成 13～14 年に甲府市教育委員会が調査した「塩部町関国橋線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（3）では主に弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。遺物には縄文土器も出土している。平成 14～16 年に甲府市教育委員会が調査した「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査地点（4）では弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が出土している。遺構は建物跡、方形周溝墓、溝などがある。平成 20 年に甲府市教育委員会が調査した店舗建設に伴う発掘調査地点（5）では弥生時代～平安時代の遺構・遺物が出土している。遺構は住居、溝などがある。以上から塩部遺跡では縄文時代から人の活

動が認められ、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代を通して集落が営まれていたといえる。

その後の中世では塩部郷と呼ばれ、平安時代末期の塩部郷の領主は武田有義であったとされている。有義の子有信以後は塩部氏の本拠地であったと推定されている。また文治二(1186)年の醍醐寺文書目録(醍醐雑事記)には「甲斐国巨摩郡塩部庄」がみえるが、詳細は不明とされる。

永正十六(1519)年武田信虎の拠点移転に伴い築かれた戦国期の武田城下町では、塩部遺跡は城下町の西の出入口付近に位置することとなる。

近世では塩部村と呼ばれ甲府城下町の西側に隣接している。文禄年間(1592～1596年)には塩部村民が甲府城下町内の上府中横沢町周辺へ移住させられ、村民の居住地が田畑から離されることになったが、天明年間(1781～1789年)に帰村が許されたとされている。帰村後の塩部村の集落は関屋往還に沿って形成されている。以上のように塩部遺跡では平安時代以後も中世・近世を通して集落が営まれ、武田信虎の拠点移転以後は城下町に隣接する集落となっていったことがわかる。

次に、塩部遺跡周辺を時代を追って見ると、古くは旧石器時代の様子を伝えるものとして、相川の河床からナウマンゾウの臼歯の化石が出土している。続く縄文時代の遺跡として緑が丘一丁目遺跡(6)、宝町遺跡(7)、榎田遺跡(8)から縄文時代前期の遺物が出土している。上石田遺跡(9)では縄文時代中期の遺構が確認されている。その他にも縄文時代の遺跡として緑が丘二丁目遺跡(10)、金塚西遺跡(11)、音羽遺跡(12)、西大阪A遺跡(13)、西河原遺跡(14)、宮北遺跡(15)、食糧工場遺跡(16)、居村村上遺跡(17)などが知られている。

弥生時代から古墳時代の遺跡としては榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、富士見遺跡(18)、青沼遺跡(19)、平石遺跡(20)、向田A遺跡(21)、三光寺山遺跡(22)、八幡東遺跡(23)、神田遺跡(24)、跡部遺跡(25)、天神北遺跡(26)、伊勢町遺跡(27)、湯村町遺跡(28)などがある。榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、青沼遺跡(19)では弥生時代から平安時代までの集落が出土している。富士見遺跡(18)では古墳時代前期の水田跡が検出されている。また、榎田遺跡(8)では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。

また塩部遺跡の北側の湯村山周辺、北西側の千塚地域では古墳時代後期の大型の古墳が多く確認、もしくは存在していたことが推定されている。6世紀中葉の築造と考えられ初期横穴式石室を持つ円墳の万寿森古墳(東西約31m、南北約38m、高さ約5m)(29)、6世紀後半の築造と考えられ石室全長16.75mという大型の横穴式石室を持つ円墳の加牟那塚古墳(直径約45m、高さ約7m)(30)などが代表とされる。その他にも積石塚で円墳の湯村山一号墳(直径約15m、高さ約2.5m)(31)、円墳の湯村山二号墳(直径約14.5m、高さ約5.5m)(32)、円墳の湯村山三号墳(直径約15.3m、高さ約2.5m)(33)、円墳の湯村山四号墳(直径約14.3m、高さ約2.5m)(34)、円墳の湯村山五号墳(直径約13m)(35)、円墳の湯村山六号墳(直径約10.4m)(36)、円墳の大平一号墳(直径約20m)(37)、円墳の大平二号墳(直径約15.9m、高さ約2.2m)(38)などがある。また塩部遺跡西側の荒川河畔にも穴塚古墳(39)がある。

山梨県内で3位の石室規模を誇る万寿森古墳(29)、2位の加牟那塚古墳(30)のほか多くの大型古墳が存在する本地域は、甲府盆地東部の御坂町井之上に所在する、県内で1位の姥塚古墳(6世紀後半築造、円墳、直径約40m、高さ約10m、石室全長17.54m)を代表とする錦生古墳群の地域とともに、甲府盆地を東西に二分する勢力が存在した地域といえる。

奈良・平安時代の遺跡として榎田遺跡(8)、音羽遺跡(12)、青沼遺跡(19)、平石遺跡(20)、秋山氏館跡(40)、村之内遺跡(41)、永井遺跡(42)、十二天遺跡(43)、天神平遺跡(44)、若宮前遺跡(45)、御蔵遺跡(46)、西大阪B遺跡(47)、前田遺跡(48)、南河原A遺跡(49)、南河原B遺跡(50)、南河原C遺跡(51)、南河原D遺跡(52)、村西遺跡(53)がある。

中世の遺跡として秋山氏館跡(40)、武田氏館跡(54)、湯村山城(55)、法泉寺山の烽火台(56)、小松山の烽火台(57)、武田城下町遺跡(58)がある。近世の遺構として甲府城下町遺跡(59)がある。武田信虎の拠点移転以後、本地域が甲斐国の中心地としての役割を担うことになったといえる。





★ 調査地 (塩部遺跡: 駿台甲府学園)

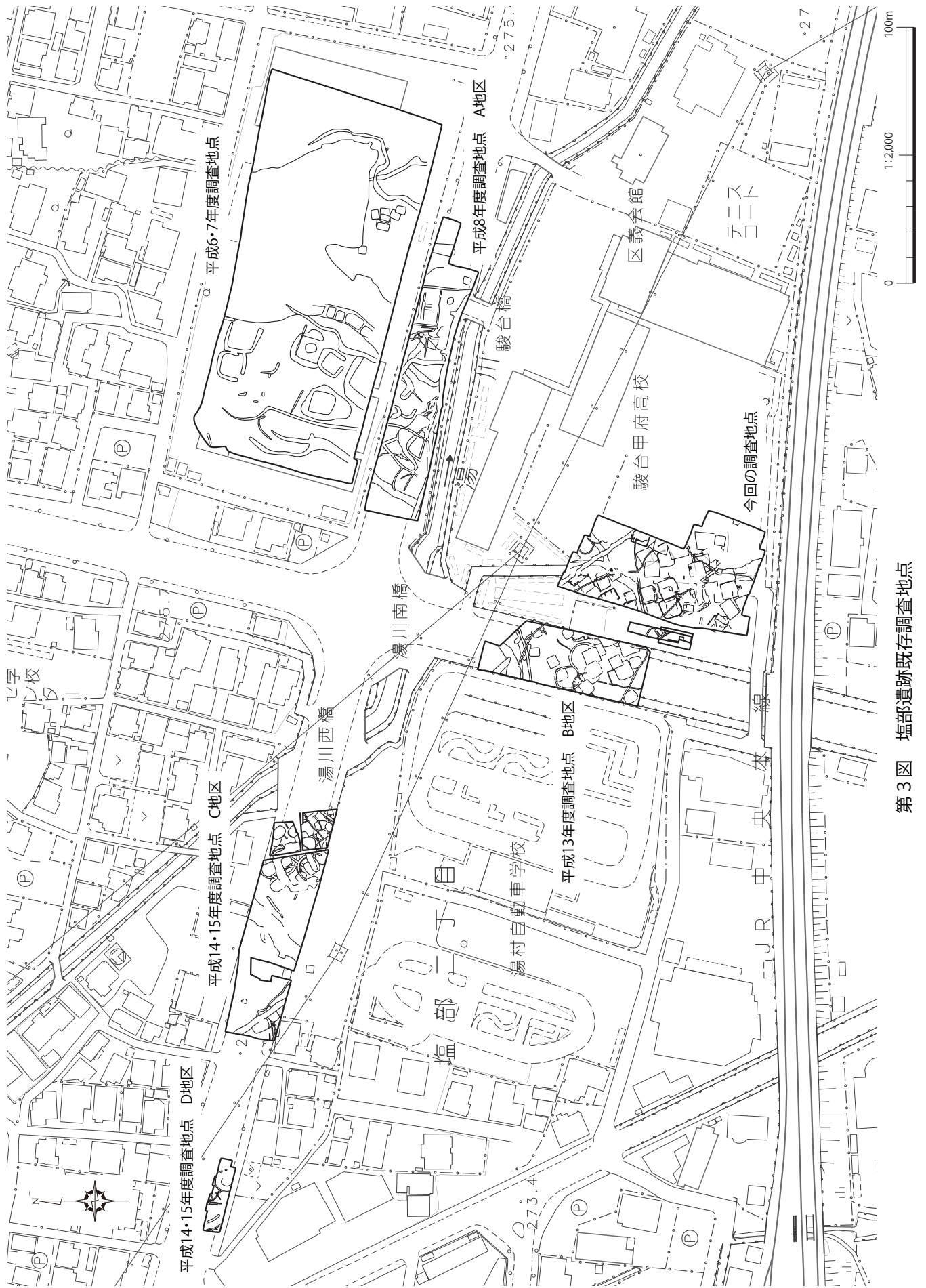
0 1:50,000 2,000m

第1図 遺跡位置図



- |                     |                   |                  |                  |                  |                   |
|---------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| ★ 1 塩部遺跡 (駿台甲府学園)   | 11 金塚西遺跡 (縄文・古墳)  | 21 向田A遺跡 (弥生～古墳) | 31 湯村山一号墳 (古墳)   | 41 村之内遺跡 (古墳～平安) | 51 南河原C遺跡 (平安)    |
| 2 塩部遺跡 (H6・7年調査)    | 12 音羽遺跡 (縄文～平安)   | 22 三光寺山遺跡 (古墳)   | 32 湯村山二号墳 (古墳)   | 42 永井遺跡 (古墳～平安)  | 52 南河原D遺跡 (平安)    |
| 3 塩部遺跡 (H13～14年調査)  | 13 西大阪A遺跡 (縄文)    | 23 八幡東遺跡 (弥生～古墳) | 33 湯村山三号墳 (古墳)   | 43 十二天遺跡 (平安)    | 53 村西遺跡 (縄文・平安)   |
| 4 塩部遺跡 (H14～16年調査)  | 14 西河原遺跡 (縄文・平安)  | 24 神田遺跡 (弥生～平安)  | 34 湯村山四号墳 (古墳)   | 44 天神平遺跡 (平安)    | 54 武田氏館跡 (中世)     |
| 5 塩部遺跡 (H20年調査)     | 15 宮北遺跡 (縄文・平安)   | 25 跡部遺跡 (古墳)     | 35 湯村山五号墳 (古墳)   | 45 若宮前遺跡 (平安)    | 55 湯村山城 (中世)      |
| 6 緑が丘一丁目遺跡 (縄文～平安)  | 16 食糧工場遺跡 (縄文・弥生) | 26 天神北遺跡 (古墳・平安) | 36 湯村山六号墳 (古墳)   | 46 御蔵遺跡 (古墳・平安)  | 56 法泉寺山の烽火台 (中世)  |
| 7 宝町遺跡 (縄文・平安)      | 17 居村村上遺跡 (縄文・平安) | 27 伊勢町遺跡 (古墳)    | 37 大平一号墳 (古墳)    | 47 西大阪B遺跡 (平安)   | 57 小松山の烽火台 (中世)   |
| 8 榎田遺跡 (縄文～平安)      | 18 富士見遺跡 (古墳～平安)  | 28 湯田町遺跡 (古墳)    | 38 大塚二号墳 (古墳)    | 48 前田遺跡 (平安)     | 58 武田城下町遺跡 (中世)   |
| 9 上石田遺跡 (縄文)        | 19 青沼遺跡 (古墳～平安)   | 29 万寿森古墳 (古墳)    | 39 穴塚古墳 (古墳)     | 49 南河原A遺跡 (平安)   | 59 甲府城下町遺跡 (近世)   |
| 10 緑が丘二丁目遺跡 (縄文～平安) | 20 平石遺跡 (弥生～平安)   | 30 加牟那塚古墳 (古墳)   | 40 秋山氏館跡 (平安～中世) | 50 南河原B遺跡 (平安)   | ※ 1～5 □ 58 □ 59 □ |

第2図 周辺の遺跡分布図



第3図 塩部遺跡既存調査地点

## 第3章 調査の方法

### 第1節 調査の方法

発掘調査は平成28年10月1日に開始し、平成29年9月30日に終了した。調査面積は2,584㎡である。調査は学校法人駿台甲府学園による駿台甲府中学校の校舎建設に伴うものである。校舎建設は中学校を甲府市上今井町の今井キャンパスから駿台甲府高等学校のある甲府市塩部の塩部キャンパスに移転するものである。発掘調査前の新校舎建設位置の現況は駐車場・駐輪場、道路、校庭であり、発掘調査の範囲は新校舎建設範囲と道路の付け替え及びマンホール設置範囲である。調査は現況の駐車場・駐輪場範囲から着手し、次に道路・校庭範囲を実施した。調査は解体工事・建設工事と並行して行われ、駐車場・駐輪場範囲は4区画に分けて調査を行い、道路・校庭範囲は埋戻しを2区画に分けて行った。以下に、作業期間と内容を示す。

9月28日基準点測量。9月30日調査区位置出し。10月3日ハウス設置。10月4日重機表土除去開始。10月6日人力掘削開始。S I 1からS I 4、S D 1などを検出。12月6日重機埋戻し開始。12月9日重機表土除去開始。12月12日人力掘削開始。S I 5からS I 12などを検出。12月28日S D 1拡張部重機埋戻し開始。1月16日・17日駿台甲府高等学校生徒現場見学会。2月16日ドローン空中写真撮影。2月21日重機埋戻し開始。2月27日重機表土除去開始。S I 13からS I 18、S D 17などを検出。4月19日重機埋戻し開始。4月21日重機表土除去開始。4月25日人力掘削開始。S I 19からS I 44、S D 33などを検出。7月6日・7日駿台甲府高等学校生徒体験発掘。7月22日現場見学会。7月24日一部重機埋戻し開始。7月28日甲府市教育委員会小学生体験発掘。9月14日重機埋戻し開始。9月30日現場終了。10月6日埋蔵物発見届提出。遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。空中写真撮影は調査区が鉄道線路や高圧電線に隣接するためドローンの飛行に制約があったが1回実施した。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」およびAgisoft社製「PhotoScan Professional」を使用した。写真測量ではポール撮影および空中撮影による写真を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真からadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描きで行い、実測図をスキャナーでデジタルデータに変換した。トレースから調査報告書の版下データ作成まではadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

#### 調査体制

調査顧問 新津健

調査担当者 現場・整理作業担当者：泉英樹、高野高潔、基準点測量担当者：米山広男、相川喜美雄、  
空中撮影担当者：石原圭、堀内太一、吉田奏司、赤池直樹

発掘調査者：青柳正史、浅川晃一、飯沼源治、上島光子、長田秋文、小澤美幸、北野礼子、北村透江、  
齊藤功記、齋藤里美、近山辰男、土屋常子、出井光、内藤敏夫、中澤保、原田隆邦、広瀬ありさ、  
松本榮一、三木一恵、宮原雄二、望月一正、横内光夫、横山忠以、渡辺智之、渡邊麗子

整理作業者：浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、小澤美幸、垣内律子、北野礼子、栗田かず子、  
小宮山みや子、齋藤里美、流石利枝子、佐野香織、土屋常子、広瀬ありさ、藤原由香、  
藤巻浩太郎、三木一恵、渡邊樹里、渡邊麗子

## 使用システム

トータルステーション TOPCON SOKKIA CX-105  
電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19  
遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応  
写真測量ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」  
デザインソフト adobe 社「illustratorCC」  
写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」  
編集ソフト adobe 社「InDesignCC」



第4図 調査区設定図

## 第2節 基本層序

遺構検出面の標高は 272.0m ～ 273.7m を測る（第 6 図）。調査区全体としては北から南へ向かって低く傾斜する地形である。また調査区南半部では、西側に古墳時代後期の流路 S D 1、東側で平安時代に埋没したとみられる流路 S D 33 を検出しており、これを反映して東西両側が低くなる地形となっている。今回の調査で検出した古墳時代前期から後期にかけての集落はこれらの流路に挟まれた微高地上に立地することができる。

基本層序は調査区の壁面で観察記録した。概ねⅠ層：現代の表土・造成土、Ⅱ層：近現代の水田層、Ⅲ層：古墳時代遺物包含層、Ⅳ層：地山（自然堆積層）とし、必要に応じて小文字のアルファベットを付与して細分した。

調査区西端では調査前の現況地盤から 40cm ほどの碎石の造成土がⅠ層である。Ⅱ層は厚さ 50cm で、オリーブ黒色粘土や灰色粘土を基調とする。Ⅲ層は上下 2 層に分層した。上層のⅢ a 層は厚さ 15 ～ 40cm で、南側に向かって厚く堆積する。灰黄褐色粘土質シルトを基調とする。下層のⅢ b 層は厚さ 15cm で、黒褐色粘土質シルトを基調とする。Ⅳ層も上下 2 層に分層した。Ⅳ a 層は黒褐色砂質シルトで、砂礫や泥岩を含む。Ⅳ b 層は南側の S D 1 に向かって地形が低くなる地点で露出した層で、黄灰色砂に砂礫・泥岩を含む。遺構検出はⅢ層を剥いだⅣ a 層またはⅣ b 層の上面で行った（第 93 図）。

調査区南端では調査前の現況地盤から 80cm ほどがⅠ層の造成土である。Ⅱ層は水田層で厚さ 20cm である。Ⅲ a 層は厚さ 20cm で、黒褐色粘土質シルトに炭化物と砂礫を少量含む。下層のⅢ b 層は厚さ 10cm で、黒褐色砂質シルトを基調とする。Ⅳ a 層は厚さ 10cm で、灰黄褐色粘土質シルトで褐色粗砂を含む。Ⅳ b 層は厚さ 10 ～ 15cm で、黒褐色粘土を基調とする。Ⅳ c 層は黒褐色粘土質シルトで泥岩粒を含む。遺構検出はⅢ b 層上面で行い、遺構を確認できない場合はⅣ a 層またはⅣ b 層上面まで掘り下げた（第 17 図）。

調査区中央ではⅠ層は造成土で、現況地盤から 40cm 堆積する。Ⅱ層は厚さ 15cm の水田層である。Ⅲ a 層は厚さ 16cm で、黒褐色粘土に炭化物と砂礫を少量含む。Ⅲ b 層は厚さ 24cm で、黒褐色粘土質シルトに径 1 ～ 2mm の砂礫と泥岩粒を含む。Ⅳ a 層は厚さ 18cm で、黒褐色粘土を基調とする。Ⅳ c 層は黒色粘土質シルトで泥岩を粒状に含む。Ⅳ b 層は調査区の中央以南に堆積するが、以北では確認されず、Ⅳ a 層下にⅣ c 層が堆積する。遺構検出はⅢ a 層を剥いだⅢ b 層上面で試みたが、遺構の重複が多くほとんど遺構を把握できなかった。最終的にⅣ a 層上面まで掘り下げて確認している（第 95 図）。

調査区北側ではⅠ層の碎石造成土や攪乱が、深いところで現況地盤下 60cm まで及んでおり、Ⅰ層直下がⅢ層の遺物包含層となる。Ⅲ層は厚さ 18cm で、黒褐色砂質シルトを基調とする。Ⅳ a 層は厚さ 10cm の黒褐色粘土で、その下に泥岩粒を含む褐灰色粘土のⅣ b 層が堆積する。遺構検出はⅣ a 層上面まで掘り下げた（第 100 図）。

調査区南東端では調査前の現況地盤から 110cm ほどがⅠ層の造成土である。造成土を 5 層にも分けられるのは調査区東側の校庭範囲が駿台甲府高等学校開校以前の 1950 年代から学校の敷地として利用されてきたためと思われる。Ⅱ層は水田層で厚さ 40cm である。水田床土下の造成土も含めて 4 層に分けられる。褐灰色粘土や黄褐色粘土を基調とする。遺構検出はⅡ層直下の黒褐色砂質シルトを基調とする厚さ 20cm のⅣ層：地山（自然堆積層）上面で行った。調査区南東端では更に下に流路の砂礫層が堆積し地下水の流れを検出した（106 図）。

## 第4章 調査の成果

### 第1節 調査の概要（第5～12図、図版1）

発掘調査では主に古墳時代前期から後期の遺構・遺物が出土した。検出された遺構は建物52軒、（S I 1～40・43・44、S X 3、S B 1～4）、土坑48基（S K 1～48）、ピット616基（Pit 1～616）、溝・流路33条（S D 1～33）である。建物の内、竪穴建物44軒、掘立柱建物2軒、平地建物6軒である。遺物は主として古墳時代の土師器が出土し、古墳時代前期から後期まで見られる。土師器、須恵器に伴い、金属製品、ガラス製品、石製品、土製品、木製品、動植物遺体などが出土している。その他には縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石製品、平安時代の土師器などが少量出土している。以下に各遺構を出土遺物とともに詳述する。

### 第2節 建物

#### S I 1（第13～16・107図、図版2・45）

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 4と重複し、切り合いでは新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は6.5m×6.4mを測る。主軸方向はN-17°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが炭化物範囲や袖を構築していたとみられる粘土塊を検出している。周溝は東壁沿いを除いては検出できなかった。貼床は建物の南西部で部分的に検出した。柱穴はPit80・85・424・419の4基である。平面形の形状はそれぞれ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とし、Pit80・85では底面に皿状に黄灰色粘土を検出している。遺構検出面からの深さはPit80が44cm、Pit85が38cm、Pit419が58cm、Pit424が66cmと、東側に位置する二基の方が深い。柱間は芯々距離でPit80・85が3.3m、Pit85・424が3.0m、Pit424・419が3.0m、Pit419・80が2.9mである。

出土遺物のうち18点を図示した。1～14は土師器である。1～3は坏である。坏蓋を逆転した形がやや扁平化している。4～6・8・9は鉢で8は有孔鉢と思われる。7は高坏、10は壺、11～14は甕である。15～17は須恵器である。15は高坏と思われる。16は蓋、17は甕である。18は砥石と思われる。上面が摩耗している。

#### S I 2（第17・108図、図版3・45・46）

調査区南側に位置する竪穴建物である。S D 8と重複し、切り合いでは新しい。建物の南半部が調査区外に延びるため平面形の全容は不明であるが約5m四方の隅丸方形を呈すとみられる。主軸方向はN-28°-Wである。遺構検出面からの深さは22cmで覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉はPit92・123の間に位置する。周溝はない。柱穴はPit123・92・122の3基を検出したが他の1基は調査区外である。平面形はそれぞれ円形に近い楕円形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは52～60cmの間に収まる。柱間はPit123・92が2.0m、Pit92・122が2.1mを測る。

出土遺物のうち16点を図示した。1～16は土師器である。1～3は坏、4・5は高坏、6は壺、7～15は甕、16は台付甕である。

#### S I 3（第18・19・109図、図版4・46）

調査区南西部に位置する。検出時は不整形な平面形からS X 1としたが炉とみられる焼土と柱穴3基を検出したため建物とし、あらためて遺構番号を付した。壁面の立ち上がりを確認できなかったため削平された竪穴

建物かあるいは平地建物とも考えられる。主軸方向はN—40°—Eである。

炉は建物中央よりやや東寄りに位置する。焼土を棒状の石が囲み、その前面に炭化物範囲を検出した。柱穴は Pit138・77・79 の3基を検出し他の1基は調査区外である。柱穴の平面形は Pit79 がやや不整形な他は円形である。覆土は Pit77・138 が黒褐色砂質シルト、Pit79 が黒褐色粘土質シルトを基調とする。深さは Pit77 が 38cm、Pit79 が 74cm、Pit138 が 66cm である。Pit138 の覆土中位から残りの良い高坏や台付甕などがまとまって出土しており、建物廃絶後に柱を抜き取り埋納した可能性がある。柱間は Pit138・77 が 3.6m、Pit77・79 が 4.0m である。SK 4 は Pit77 に隣接し建物の東壁寄りに位置する。SI 3 に伴う遺構が確認できなかったが、出土遺物に時期差はあまりなく、貯蔵穴と推測している。平面形の形状は楕円形で、長径 84cm、短径 62cm、深さ 32cm を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、粒状の炭化物と土器小片を含む。

出土遺物のうち 23 点を図示した。1～22 は土師器である。1・2 は坏、3～8・19・20 は高坏、9 は鉢、10 は有孔鉢、11～13 は壺、14～17 は甕、18 は甕の模倣のような形態で櫛描波状文を有する。21 は器台、22 は台付甕である。23 は石製品で管玉である。

#### SI 4 (第 20・110 図、図版 5・6・46)

調査区南側に位置する。SI 1・SX 3a と重複し、切り合いでは SI 1 に先行し、SX 3a より新しい。遺構検出時には平面形の形状は把握できなかったが炉とみられる焼土を検出し、SI 4 の遺構番号を付して調査を進めた。多くの Pit を検出したが、竪穴建物と判断できるような床面や壁面の立ち上がりは確認できなかった。Pit の完掘後に柱穴を検討して2軒の建物を推定した。Pit23・75・125 を柱穴とする建物を SI 4a とし、Pit130・99・143 を柱穴とする建物を SI 4b とした。

SI 4a の主軸方向はN—15°—W である。炉は Pit23・75 の間に位置する。炉を断ち割ったところ遺存状態が良好で焼土層の下に炭化材を含む炭化物層を検出した。さらに掘り進めると炉の炭化物層の直下で Pit を検出した。SI 4a に先行する建物の柱穴とみられ Pit127 とした。この柱穴が属する建物は SX 3a として後述する。SI 4a の柱穴の平面形はほぼ円形である。覆土は Pit23・75 が黒褐色粘土質シルト、Pit125 は黒褐色砂質シルトを基調とする。柱間は Pit23・75 が 2.2m、Pit75・125 が 2.0m である。

SI 4b の主軸方向はN—32°—W である。炉と判断できる焼土はなかった。柱穴の平面形は楕円形で、覆土は Pit99・130 が黒褐色砂質シルト、Pit143 は黒褐色粘土質シルトを基調とする。柱間は Pit130・99 が 2.35m、Pit130・143 が 2.7m である。

切り合いでは SI 4a の Pit125 が SI 4b の Pit143 を切っており、SI 4b が先行する。他の遺構では SI 4 に伴う遺構が不明だが、Pit140 の底面でミニチュアの壺が出土している。

出土遺物のうち 11 点を図示した。1～11 は土師器である。1～4 は高坏、5 は器台と思われる。6～8 は壺である。8 は模倣土師製甕のような形態である。9～11 は甕である。

#### SI 5 (第 21・22・110～112 図、図版 6・47・48)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SI 8・SD 32 と重複し、切り合いでは新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は 4.3m × 4.0m を測る。主軸方向はN—20°—W である。遺構検出面からの深さは 10cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

炉は建物中央から南西寄りに位置し、周溝は北東隅部で部分的に検出した。床面上では広い範囲に炭化物が粒状に散っており、西半部を中心として板状の炭化材やまとまった量の土器も出土した。焼失竪穴建物である。板状の炭化材は炉の上で検出したが、その炭化材の上に重なって遺物が出土しており、建物が焼失した後に土器が投棄されたものと考えられる。炉を持つ建物だが出土遺物の中には甕が複数みられる。また建物内で3基の Pit を検出したが散在している。



出土遺物のうち 65 点を図示した。1～54 は土師器である。1～22 は坏である。半球形の深めのものが主体を占める。23～32 は高坏である。29 は内面に粘土が貼り付けられて高台状を呈している。33・34 は鉢、35～48 は甕、49～52 は甗、53・54 は多孔の有孔鉢である。55 はガラス玉である。56～65 は石製模造品で滑石製の白玉である。

#### S I 6 (第 23～25・113・114 図、図版 6～8・48～50)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S D 11・12・32 と重複し、切り合いではそれぞれより新しい。平面形は隅丸方形を呈し、規模は 6.7m × 6.5m を測る。主軸方向は N-22°-W である。遺構検出面からの深さは 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

炉は建物中央からやや南西寄りに位置しており、周りに炭化物範囲を検出した。周溝は確認できない。柱穴は Pit161・162・166・160 の 4 基である。柱穴の平面形は Pit161・171 が円形で、Pit166・160 はやや不整形である。覆土は Pit160・162 が黒褐色粘土質シルト、Pit161 が黒褐色砂質シルト、Pit166 が暗褐色砂質シルトを基調とする。柱穴の深さは建物の東半部に位置する Pit160・162 が約 60cm を測るのに対し、西半部の Pit161・166 では約 30cm と浅い。Pit166 の上面では焼土と炭化物の塊を検出しており、この中から金環が出土している。柱間は Pit161・162 が 3.15m、Pit166・160 が 3.3m、Pit161・166 が 3.4m、Pit162・160 が 3.45m である。他の遺構では Pit163 は S I 6 に伴うか不明だが、覆土に柱痕が残り、柱根についても一部炭化して遺存していた。また建物の南半部を中心に大小様々な大きさの台付甕が出土しており、復元図化したもので 9 点を数える。遺存状態も良いが、柱穴の上で出土しているものもあり、建物の廃絶後に投棄された可能性が高い。南東隅部ではこれらの土器の下の床面上に小礫が固まって検出されている。

出土遺物のうち 22 点を図示した。1～20 は土師器である。1 は高坏、2 は器台、3・4 は丸底の鉢、5・6 は有孔鉢、7・8 は壺、9～11 は甕、12～20 は台付甕である。12～19 は S 字状口縁をもち、肩部には横走るハケ目がない。21 は鉄鏃と思われる。22 は金環である。

#### S I 7 (第 26～32・115～119 図、図版 8～10・50～53)

調査区中央に位置する。遺物の出土が多く土器集中地点も検出したが、攪乱や他遺構との重複、建物の東半部が反転調査となったこともあり、遺構検出時には平面形を把握できなかった。土層観察用のサブトレンチを設定したところ、竪穴建物の床面と推定できる硬化面やその上面に堆積する炭化物層を検出し、その下層にも遺構を確認した。そこで硬化面より上層を S I 7a、下層を S I 7b として暫定的に調査を進め、S I 7b でも新たな炭化材や焼土を検出した。また調査終了後の検討から S I 7b で 2 軒の建物が推定できたため、それぞれ S I 7b ①、S I 7b ②とした。

S I 9・10 と重複し、切り合いでは S I 7a・b とともに S I 9 に先行する。また S I 7a は S I 10 より新しいが、S I 7b は S I 10 に先行する。

S I 7a では北側で複数の壁面の立ち上がりを検出したが、他の壁面の立ち上がりは確認できず、調査後の検討でも柱穴を確定できなかった。このため平面形も推定できないが、サブトレンチで観察した床面を検出し、その直上で炭化材や多くの遺物が出土している。遺構検出面からの深さは 20cm で、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。炭化材は床面直上で出土しており、S I 7a は焼失建物とみられる。また土器の多くは炭化材の上に乗るように出土しており、建物焼失後に投棄された状況を推測する。炭化材出土地点の南側では土器集中部を検出した。甕や高坏など多量の土器が出土したが、割れているものの接合可能な個体が多く、やはり建物の廃絶後にまとめて投棄されたとみられる。土器集中部下の床面上では径 3～10cm の小礫が約 60cm 四方に渡って出土している。炭化材出土地点の北側では俵形の石が複数固まって出土した他、Pit181 の上面で完形に近い甗が出土している。

S I 7b は S I 7a の床面を掘り下げて検出した。壁面の立ち上がりは明確ではなかったが、新たに検出した

焼土、炭化材の範囲、柱穴を根拠としてSI7bとした。また調査終了後に、反転調査を行った東側の成果を踏まえて検討したところ、新たに別の1軒の竪穴建物が推定できたため、これをSI7b②とし、先に検出した1軒をSI7b①とした。SI7b①の規模は南北4.6mを測り、主軸方向はN-23°-Wと推定する。遺構検出面からの深さは24cmを測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は建物東半部のやや南寄りであるが位置関係からSI7b②に伴う可能性もある。床面では数カ所にわたって焼土塊を検出し、炭化材も出土することから焼失建物とみている。柱穴はPit195・189・229・205である。柱穴の平面形は楕円形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトまたは暗褐色砂質シルトを基調とする。Pit195では柱痕を検出しており、幅16cmを測る。柱間はPit195・189が2.3m、Pit189・205が2.9m、Pit205・229が2.4m、Pit229・195が2.9mである。

SI7b②の規模は7.2m×7.2mを測り、主軸方向はN-23°-Wである。遺構検出面からの深さは28cmを測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。柱穴はPit197・184・584・245である。柱穴の平面形はPit245が不整形で他は楕円形を呈する。柱穴の覆土は黒褐色砂質シルトまたは暗褐色砂質シルトを基調とする。Pit245では柱痕を検出しており、幅14cmを測る。柱間はPit197・184が4.7m、Pit184・584が3.9m、Pit584・245が4.4m、Pit245・197が4.1mである。またPit184の上に重複して検出したPit180は3層に土器片を多く含んでいた他、炭化物を多く検出しており、サンプルを採取して自然科学分析を行った。

SI7aは出土遺物のうち42点を図示した。1～39は土師器である。1～5は坏である。4は壙形の坏である。6・7は手捏土器で高坏と思われる。8～17は高坏、18は器台、19は蓋、20～22は鉢、23は有孔鉢、24・27は甕、25・26・28～31は壺で丸底である。32～39は甕で球胴形のもので主体を占める。40は須恵器の甗である。41は磨石、42は石製模造品の滑石製剣形である。

SI7bは出土遺物のうち13点を図示した。1～12は土師器である。1・3は器台、2は高坏、4～6は壺、7～11は台付甕である。7はS字状口縁をもち、肩部には横走するハケ目がない。12は甕である。13は須恵器の甗である。

SI7のピットは出土遺物のうち17点を図示した。1～17は土師器である。1～3は高坏、4・5は器台、6は蓋、7・8・11～14・16は甕、9・10・15は台付甕、17は甗である。

## SI8 (第21・22・120図、図版10・53)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SI5・SD32と重複し、切り合いではSI5に先行し、SD32より新しい。建物の西半部が調査区外に延びるため平面形の全容は不明であるが、一辺約5mの隅丸方形を呈すとみられる。主軸方向はN-18°-Eである。遺構検出面からの深さは40cmである。覆土は上層で黒褐色粘土質シルト、中層で黒褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂が堆積する。炭化物を粒状に含む黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉とみられる焼土を建物の中央よりやや南とみられる位置で検出したが半分は調査区外である。またPit336は、対となるPitがなく柱穴かどうか不明である。周溝は建物東側で部分的に検出した。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1・2は高坏、3は器台、4は鉢、5は壺と思われる。肩部に櫛描波状文を有する。6～8は壺、9・13～15は甕、10～12は台付甕である。10は肩部に横走するハケ目をもつ。

## SI9 (第33・34・120～123図、図版10・11・53～55)

調査区中央に位置する竪穴建物である。検出地点一帯は包含層掘削時より遺物、焼土、炭化物の検出が顕著で竪穴建物の存在が十分に予想された。カマド上面もすぐに露出したため、遺構検出作業は平面と断面を精査しつつ慎重に進めたものの、他遺構の重複や攪乱も多く建物の平面形を把握できなかった。壁面の立ち上がりも東側の一辺を部分的に検出したのみである。現場調査時はカマドとカマド前面で集中的に土器が出土

した範囲を、便宜上、S I 9として調査を進めた。S I 7・10・12、S D 13と重複し、切り合いではこれらより新しい。東側の壁面やカマドの向きから推定される建物の規模は一辺が約7.5mで、主軸方向はN-2°-Eである。遺構検出面からの深さは15cmを測り、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

カマドは北壁中央に位置し遺存状態が良い。天井部は崩落していたが、カマド前面両側の袖石と支柱石は原位置をほぼ保った状態で遺存していた。煙道もよく残っており、カマドの前面から煙道北端までの長さは1.7mを測る。カマド周りでは灰層や炭化物範囲も検出しており、サンプルを採取して自然科学分析を行っている。

出土遺物のうち42点を図示した。1～34は土師器である。1～11は坏である。4・7～9は扁平で幅広である。12・13は手捏土器、14～16は高坏、17は蓋、18は鉢、19～23は壺、24～33は甕である。長胴化したものが主体を占める。34は甗と思われる。35・36は須恵器の甕である。37～41は土玉で、39は棗玉である。42は台石で上面が摩耗している。

### S I 10 (第35～38・123・124図、図版11～13・55)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 7・9・12・S D 13と重複し、切り合いではS I 7a・9・S D 13に先行し、S I 7bより新しい。S I 12との新旧関係は不明である。平面形は隅丸方形を呈し、規模は7.8m×7.8mを測る。主軸方向はN-21°-Wである。遺構検出面からの深さは35cmで、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。

炉は建物中央からやや北西寄りに位置する。床面上では多量の炭化物を検出した。炭化物は建物の壁面に沿うように幅1～1.5mの範囲で広がっており、焼失建物である。現場観察では柱や屋根の梁・桁となるような太い材はほとんど残っておらず、繊維状の植物が炭化したものが多くみられた。樹種同定を行ったところ、イネ科草本の稈が検出された。屋根材や壁材の可能性が指摘されている。柱穴はPit201・202・203a・204で、これらが伴う建物をS I 10aとした。Pit201は円形で径60cm、深さ44cm、Pit202は楕円形で長径90cm、短径55cm、深さ54cm、Pit203aは円形で径68cm、深さ44cm、Pit204は楕円形で長径78cm、短径70cm、深さ52cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。いずれも炭化物が多量に含まれており、特にPit201では底面に、Pit203aでは覆土中位にそれぞれ明瞭な炭化物層が堆積する。現場観察では床面上とPit内の炭化物が類似しており、柱根を除去した後に柱穴が開いた状態で建物が焼失した可能性がある。柱間はPit202・201が4.0m、Pit204・203aが4.1m、Pit202・204が4.6m、Pit201・203aが4.7mである。周溝は幅10～20cmで全周巡る。S K 25は南西隅部に位置する。平面形はやや不整形な楕円形を呈し、長軸170cm、短軸86cm、深さ35cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、上層に炭化物層が堆積することからS I 10aの焼失時に埋没した土坑とみられる。またS K 25に隣接した床面上で小礫の集中する範囲を検出している。径3～5cmのものが多く炭化物に重なっている。

S I 10bはPit210a・211・230・259を柱穴とする竪穴建物と推測する。Pit210aとPit211はS I 10a内の床面上で検出したが、S I 10aの建物外で検出したPit230・259と軸線・柱間が一致した。また、S I 10aの柱穴ではそれぞれ炭化物を多量に検出したが、S I 10bの柱穴では炭化物が含まれていないか、含まれていても少量であったため別時期の建物と推定した。想定されるS I 10bの平面形の大部分はS I 10aと重複していたとみられ、竪穴の堀方は検出できなかった。切り合いも確認できなかったが、S I 10bが先行する建物で、床面はS I 10aより高い位置にあったと推測する。Pit210aは隅丸方形で長軸84cm、短軸80cm、深さ60cm、Pit211は楕円形で長径80cm、短径60cm、深さ75cm、Pit230は楕円形で長径70cm、短径60cm、深さ80cm、Pit259は楕円形で長径80cm、短径60cm、深さ55cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトまたは砂質シルトを基調とする。Pit230には柱痕が残り、柱の太さは径20cmほどであったとみられる。柱間はPit210a・211が4.5m、Pit230・259が4.6m、Pit210a・230が3.9m、Pit211・259が3.8mである。出土遺物は帰属を分けて取り上げられていないが、S I 10として取り上げた遺物にあまり時期差がなく建物の

規模もほぼ同等であることから、S I 10b の建て替えが S I 10a であった可能性がある。

出土遺物のうち 25 点を図示した。1～25 は土師器である。1・2 は坏、3～6 は高坏、7・8 は蓋、9・10 は鉢、11・12 は有孔鉢、13～21 は壺である。15・17・18 は幅広有段口縁壺である。22・23 は台付甕である。22 は肩部に横走るハケ目をもつ。23 は口縁部に刺突文をもつ。24・25 は甕である。

#### S I 11 (第 39・124 図、図版 14・56)

調査区中央の S I 10 の南側に位置する。遺構検出面での平面形は不明瞭で、壁面の立ち上がりも明確ではなかったが、Pit238・239・241 を柱穴とする建物を想定し S I 11 とした。S I 10b・S I 12a と重複する。それぞれ切り合い関係は確認できなかったが S I 12a の推定範囲内に S I 11 が丸ごと取まっており、S I 12a に削平された可能性もある。主軸方向は N-4°-E である。遺構検出面からの深さは 7cm で、覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。

炉・カマドを推定できる焼土はない。柱間は Pit238・239 が 3.8m、Pit239・241 が 4.1m である。Pit241 では柱根がわずかに遺存していたが、腐食して土壌化したとみられる柱痕部分を含めても 6cm 程度と細いものである。

出土遺物のうち 6 点を図示した。1～5 は土師器である。1～3 は坏である。3 は扁平で幅広化している。4・5 は甕、6 は須恵器甕である。

#### S I 12 (第 40～42・124～126 図、図版 14～16・56)

調査区中央の S I 10 の南側に位置する。S I 7・9・10・11、S D 13 など多数の遺構と重複しており、S I 9・S D 13 に先行するが、S I 7・10・11 との切り合いは確認できなかった。遺構検出面では平面形を把握できず、完掘後の柱穴の検討と北東部分のみ検出した壁面の立ち上りを根拠に S K 27・Pit248・270・265 を柱穴とする竪穴建物を推定し S I 12 とした。その後、遺構図の検討から S I 12 の範囲内でさらに別の小規模な建物を推定し、こちらを S I 12b、前者は S I 12a とした。このため現場で S I 12 として取り上げた遺物はわずかである。

S I 12a の推定規模は 8.8m × 8.3m で、主軸方向は N-21°-W である。遺構検出面からの深さは 18cm で、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする。炉とみられる焼土を S K 28 の東に近接する位置で検出している。周溝は北東部で部分的に検出した。柱穴では S K 27 はやや不整形な円形を呈し、径 88cm、深さ 42cm を測る。覆土は上層に暗褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂質シルトが堆積する。下層では径 3～5cm の礫が多く出土する。Pit248 は円形で径 60cm、深さ 44cm を測る。覆土は暗褐色砂質シルトを基調とし、中央に幅 20cm の柱痕が確認でき底面には腐食した柱根が遺存する。Pit265 は円形で長径 50cm、短径 48cm、深さ 80cm を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とし、上層では焼土・炭化物粒を含む。Pit270 は不整形で、長径 85cm、短径 65cm、深さ 50cm を測る。覆土は暗褐色粘土質シルトを基調とする。柱間は S K 27・Pit248 が 5.6m、Pit270・265 が 5.1m、S K 27・Pit270 が 4.0m、Pit248・265 が 3.5m である。

土坑では中央に S K 28、南東部に S K 31 が位置する。S K 28 は遺構検出面では平面形を検出できなかった。楕円形の範囲内に大量の土器が出土したため、断割確認したところ堀方の底面の形状が確認できたため土坑とした。想定される平面形の形状は楕円形で長径 76cm、短径 72cm、深さ 20cm を測る。覆土は黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色粘土のブロックが混入する。S K 31 は楕円形を呈し、長径 108cm、短径 78cm、深さ 48cm を測る。覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。覆土上層の壁面沿いに径 5～10cm の礫が多く出土した。S K 28・31 が S I 12a に伴う遺構が確認できなかったが、柱穴の Pit270 の出土遺物とはそれぞれ時期差がみられる。

S I 12b は S I 12a の東半部に位置する。遺構検出時は平面形を把握できず、竪穴としての堀方も確認できなかった。完掘後に柱穴を検討し、位置関係から Pit255・244・257・250 を柱穴とする建物を推定した。

Pit244・250の間では半分攪乱されているものの炉とみられる焼土も検出している。柱間はPit255・244が1.6m、Pit257・250が1.7m、Pit255・257が1.6m、Pit244・250が1.8mである。

出土遺物のうち13点を図示した。1～13は土師器である。1は坏、2・12は高坏、3・4は壺、5～10は甕、11は甑、13は器台である。

#### S I 13 (第43・44・126図、図版16・17・57)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SD 14・32と重複し、切り合いではS I 13が一番新しく、SD 14、SD 32の順に古くなる。現況の駐車場・駐輪場と道路にまたがっているため東側に側溝やマンホールなどの攪乱を多く受けている。平面形は隅丸方形を呈し規模は4.1m×4.0mを測る。主軸方向はN-32°-Wである。遺構検出面からの深さは25～35cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くなく細かい攪乱がおよんでいるが、内壁の焼土範囲と火床部の炭化物範囲を検出している。周溝はない。柱穴はPit311・321の2基を検出した。平面形の形状はそれぞれ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit311が30cm、Pit321が50cmである。柱間は1.8mである。S I 13周辺ではピットが複数検出されておりS I 13とも重複している。周辺南側のPit284頸部に櫛描波状文・簾状文を持つ壺破片が出土している。

出土遺物のうち12点を図示した。1～8は土師器である。1は坏、2～4は高坏、5は有孔鉢、6・7は壺、8は甕である。9～11は須恵器の甕である。12は台石で上面が摩耗している。

#### S I 14 (第45・126・127図、図版17・57・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。西側を攪乱に切られ、北側は調査区外へ続いている。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。残存する規模は5.7m×4.6mを測る。主軸方向はN-28°-Wである。遺構検出面からの深さは20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出できていない。床面から盛り上がり焼土が5か所に散在する。炭化物も検出しているが、焼け落ちた柱材が炭化した状況ではない。東壁と南壁沿いに周溝と間仕切り溝を検出した。溝幅は10～20cmである。柱穴はPit349の1基のみ検出できた。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは70cmである。

出土遺物のうち28点を図示した。1～28は土師器である。1～10は高坏、11～18は壺、19・23～28は甕、20～22は台付甕である。

#### S I 15 (第46～48・128図、図版18・19・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。S I 16と重複し、切り合いではS I 15が古い。現況の駐車場・駐輪場と道路にまたがるため東側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。残存する規模は3.9m×1.2mを測る。主軸方向はN-20°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで、重複するS I 16よりも浅い。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は東側ほぼ中央に位置する。炉はPit319・322と重複し、切り合いでは炉がPit319より古く、Pit322よりも新しい。炉の内面では焼土範囲を検出している。炉石は検出していない。周溝はない。柱穴は検出できていない。炉の北側では壺の口縁が逆位で潰れた状態で出土している。

出土遺物のうち9点を図示した。1～9は土師器である。1は高坏、2は鉢、3・4は壺、5・8・9は甕、6・7は台付甕である。

#### S I 16 (第46～48・128・129図、図版18・19・58)

調査区北側に位置する竪穴建物である。S I 15、SD 14・15と重複し、切り合いではS I 16がS I 15、SD 14・15より新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は4.9m×4.5mを測る。主軸方向はN-25°-Wであ

る。遺構検出面からの深さは20～25cmでS I 15よりも深い。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉は中央よりやや東よりに位置する。炉の焼土範囲を検出したが、炉石は検出していない。炉の南側で検出した石は攪乱内の石であった。周溝は幅10～20cmで南西角のみで検出した。柱穴はPit325・332・339・341の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit339のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit325が65cm、Pit332が40cm、Pit339が60cm、Pit341が70cmである。柱間はPit325・332が2.3m、Pit325・339が3.1m、Pit332・341が3.4m、Pit339・341が2.4mである。Pit324は南壁脇中央で検出した。平面形の形状は円形で、深さは30cmである。完形の小型の壺、小型の甕が拳大の礫とともに出土している。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1～6は高坏、7・8は線刻で模様が描かれている。破片の形状から壺と思われる。9・10は壺である。11～15は甕である。

#### S I 17 (第49～51・129図、図版19・20・59)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SD 14と重複する。切り合いではS I 17が新しい。平面形は隅丸方形を呈し規模は5.3m×4.6mを測る。主軸方向はN-34°-Wである。遺構検出面からの深さは15～20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマド・炉は検出していないが、散在する焼土を検出した。周溝はない。柱穴はPit352・362・368・373の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit362のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit352が30cm、Pit362が40cm、Pit368が30cm、Pit373が20cmである。柱間はPit352・362が2.9m、Pit352・373が2.2m、Pit362・368が2.2m、Pit368・373が1.9mである。

出土遺物のうち16点を図示した。1～15は土師器である。1～7は高坏、8～9は鉢、10・11は壺、12～15は甕である。16は砥石である。

#### S I 18 (第52・129図、図版20・59)

調査区北側に位置する。周溝と柱穴のみ検出した。SD 17と重複していたと考えられるがS I 18の方が浅いため直接的な切り合いは確認できていない。検出した周溝は南西の角と東側のみであるが、平面形は隅丸方形と思われる。規模は5.5m×3.0mを測る。主軸方向はN-42°-Eである。周溝の幅は20～40cmである。柱穴はPit358の1基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは20cmである。

出土遺物のうち4点を図示した。1～4は土師器である。1～3は高坏、4甕である。

#### S I 19 (第53・54・130図、図版20・59)

調査区北側に位置する竪穴建物である。SB 32・SD 32と重複し、切り合いではSD 32が古い。北側・東側は調査区外へ続いている。現況の道路と校庭にまたがるため西側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈し規模は4.5m×1.7mを測る。主軸方向はN-32°-Wである。遺構検出面からの深さは30cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマド・炉は検出していない。周溝・柱穴は検出していない。

出土遺物のうち14点を図示した。1～14は土師器である。1～4は坏、5は高坏、6～13は甕である。8・9は下膨れで長胴化している。14は甗である。

#### S I 20 (第55・56・131～133図、図版20・60・61)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 21・22、SD 33と重複し、切り合いではS I 20がS I 22より古く、S I 21・SD 33より新しい。西側はS I 22に切られ、南側は調査区外へ続いている。検出範囲から平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出できた規模は8.2m×2.4mを測る。主軸方向はN-15°-Wで

ある。遺構検出面からの深さは20～40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。明確な炉・カマドは検出できていないが、東壁近くに焼土範囲が2箇所ある。南側の焼土は礫を伴っていた。焼土範囲がカマドであった可能性がある。周溝・柱穴は検出していない。東壁脇でSK 47とSK 48を検出した。SK 47の平面形は隅丸長方形を呈す。規模は0.8m×0.7mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。ほぼ完形の土師器甕が出土している。SK 48の平面形は楕円形を呈す。規模は1m×0.6mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。完形の土師器鉢が出土している。

出土遺物のうち63点を図示した。1～62は土師器である。1～3は高坏、4は手捏土器、5～25は高坏、26は蓋、27・29は有孔鉢、28は鉢、30～48は壺である。丸底の壺が主体を占める。49～61は甕、62は甗である。63は砥石である。

#### SI 21 (第55・56・133図、図版20・61)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 20・22・28、SD 33と重複し、切り合いではSI 21がSI 20・22・28より古く、SD 33より新しい。南側をSI 20に切られ、西側をSI 22に切られている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は3.9m×3.5mを測る。主軸方向はN-15°-Wである。遺構検出面からの深さは15～25cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅10cmで北壁の一部のみで検出した。柱穴はPit616の1基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは35cmである。

出土遺物のうち17点を図示した。1～16は土師器である。1～3は高坏、4は蓋、5は鉢、6は壺、7は台付甕、8～16は甕である。17は石製品管玉である。

#### SI 22 (第57・58・134～138図、図版21・61～63)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 1・20・21、SD 33と重複し、切り合いではSI 22がSI 1より古く、SI 20・21・SD 33より新しい。北側をSI 1に切られ、南側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は7.3m×4.0mを測る。主軸方向はN-5°-Wである。遺構検出面からの深さは20～40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内面の焼土範囲と支柱石を検出している。周溝、柱穴は検出していない。北壁よりでSK 32を検出した。平面形の形状は不正な方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は1.7m×1.5mを測る。深さは20cmである。

出土遺物のうち64点を図示した。1～62は土師器である。1～10は坏、11～32は高坏である。21～23は低脚である。33は鉢、34～37は壺、38～59は甕、60～62は甗である。63は鉄製品鎌、64は石製模造品有孔円盤である。

#### SI 23 (第59・60・138・139図、図版22・63)

調査区南側に位置する建物である。SI 24・26と重複し、切り合いではSI 23がSI 26より新しく、SI 24より古い。また、SI 23はSI 24・26よりも床面が高い。表土除去直下の浅い遺構で平面形などを検出できていない。遺構検出面からの深さは5cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉と思われる焼土範囲を検出している。周溝・柱穴はない。

出土遺物のうち24点を図示した。1～18は土師器である。1～3は坏である。半球形の深めの坏が主体を占める。4～9は高坏、10は壺、11～17は甕である。18は甗と思われる。19～22は須恵器である。19は坏、20は高坏、21・22は甕である。23は鉄製品刀子、24は鉄製品鎌と思われる。

#### SI 24 (第59・60・140図、図版22～24・64)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 23・S D 13と重複し、切り合いではS I 24がS I 23・S D 13より新しい。北側と東側は攪乱されている。平面形は方形を呈すと思われる。検出した規模は1.9m×1.8mを測る。主軸方向はN-9°-Wである。遺構検出面からの深さは15～20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝・柱穴はない。南壁脇でS K 35を検出した。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は72cm×44cmを測る。深さは40cmである。土師器甕が出土している。

出土遺物のうち12点を図示した。1～9は土師器である。1・2は坏である。3は把手付碗の把手と思われる。4は高坏、5は鉢、6は壺、7・8は甕、9は甑である。10～12は石製模造品の滑石製白玉である。

#### S I 25 (第61・62・140・141図、図版23・64)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S D 17・27と重複し、切り合いではS I 25が新しい。東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すと思われる。検出した規模は6.5m×4.3mを測る。主軸方向はN-20°-Eである。遺構検出面からの深さは20～30cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内面の焼土範囲と袖石を検出している。周溝は幅10～15cmで検出範囲では全周している。また、壁から1mほど内側に周溝状の溝があり建物の建て替えの可能性がある。柱穴はPit519・540の2基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit519が60cm、Pit540が50cmである。柱間は3.5mである。S I 25中央でS K 43を検出した。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。規模は1.3m×0.9mを測る。深さは20cmである。

出土遺物のうち17点を図示した。1～16は土師器である。1～3は坏、4・5は高坏、6は器台、7～14は甕である。15・16は甑と思われる。17は砥石である。

#### S I 26 (第59・60・141図、図版24・64)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S I 23と重複し、切り合いではS I 26がS I 23より古い。南側は攪乱されている。検出した平面形は隅丸方形を呈し規模は5.0m×2.0mを測る。主軸方向はN-14°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝はない。柱穴はPit459の1基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは32cmである。

出土遺物のうち5点を図示した。1～5は土師器である。1・2は高坏、3は蓋、4・5は甕である。

#### S I 27 (第63・64・141～143図、図版24・25・64～66)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 34・S D 25・33と重複し、切り合いではS I 27が新しい。平面形は方形を呈し規模は5.6m×5.5mを測る。西側は攪乱を受けている。主軸方向はN-18°-Wである。遺構検出面からの深さは30～40cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、内壁の焼土範囲と焼土化した支柱を検出している。周溝はない。柱穴はPit482・487・499・522の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit499のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit482が55cm、Pit487が55cm、Pit499が70cm、Pit522が45cmである。柱間はPit482・499が2.8m、Pit482・487が3.1m、Pit487・522が2.9m、Pit499・522が3.2mである。北壁脇でS K 38を検出した。平面形の形状は長方形を呈す。規模は1.2m×0.9mを測る。深さは40～60cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土師器(完形)の小型で扁平な半球形の坏が出土している。南壁脇でS K 39を検出した。平面形の形状は方形を呈す。規模は0.8m×0.7mを測る。深さは40cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち42点を図示した。1～36は土師器である。1～6は坏である。6は扁平な半球形で小型で



ある。7～15は高坏、16～22は鉢、23は有孔鉢、24は壺、25～36は甕である。37は須恵器坏、38・39は須恵器甕である。40は土製品の足と思われる。41・42は石製品管玉である。

#### S I 28 (第65・66・144図、図版25・66・67)

調査区南側に位置する建物である。S I 21・S D 33と重複し、切り合いではS I 28が新しい。東側と西側は攪乱されている。平面形は検出していないが、柱穴の方向から推定すると主軸方向はN-2°-Wである。遺構検出面からの深さは20cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドと思われる焼土範囲を柱穴北側に検出した。周溝はない。柱穴はPit465・466・483・484の4基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit483のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit465が70cm、Pit466が55cm、Pit483が60cm、Pit484が50cmである。柱間はPit465・466が2.4m、Pit465・484が2.5m、Pit466・483が2.4m、Pit483・484が2.6mである。

出土遺物のうち14点を図示した。1～13は土師器である。1～3は坏、4・5は高坏、6～8は鉢で、7には底部に焼成前に穿孔された孔がある。9～13は甕である。14は須恵器甕である。

#### S I 29 (第67・145図、図版26・67)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S D 13・33と重複し、切り合いではS D 13より古く、S D 33より新しい。西側はS D 13に切られ、南側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出した規模は1.5m×0.7mを測る。主軸方向はN-20°-Wである。遺構検出面からの深さは5cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝・柱穴は検出していない。

出土遺物のうち13点を図示した。1～13は土師器である。1・2は坏、3は高坏、4～6は壺、7～13は甕である。

#### S I 30 (第67・145・146図、図版26・67・68)

調査区南側に位置する竪穴建物である。S D 13・25・33と重複し、S I 30がS D 13より古く、S D 25・33より新しい。北側はS D 13に切られ、南東は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈すると思われる。検出した規模は2.6×2.3mを測る。主軸方向はN-19°-Eである。遺構検出面からの深さは10～15cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。周溝は検出していない。柱穴はPit480の1基を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは22cmである。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1は手捏土器、2・3は高坏、4～6は鉢、7～9は壺、10は台付甕、11～13は甕、14は口縁部と胴部に櫛描波状文、頸部に簾状文を有する。弥生土器甕と思われる。15は鉄製品鎌と思われる。

#### S I 31 (第68・146・147図、図版26・68)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 37・38・40・S D 30と重複し、切り合いではS I 31がS I 37・38・40・S D 30より古い。北側をS I 37に、南側をS I 37に、西側をS I 40に切られる。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は5.0m×3.5mを測る。主軸方向はN-39°-Wである。遺構検出面からの深さは10cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝はない。柱穴はPit565を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは20cmである。

出土遺物のうち18点を図示した。1～18は土師器である。1は高坏、2・3は鉢、4～9は壺、10～17は台付甕、18は甕である。

### SI 32 (第 69・70・147・148 図、図版 27・68)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI 38・40、SD 26・33 と重複し、切り合いでは SI 32 が新しい。東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は 6.8m × 6.6m を測る。主軸方向は N - 18° - W である。遺構検出面からの深さは 5 ~ 30cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、中央北よりで炭化物が散布していた。周溝はない。柱穴は Pit525・550 の 2 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit525 が 70cm、Pit550 が 60cm である。柱間は 3.4m である。南壁脇中央で Pit554 を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 60cm である。

出土遺物のうち 25 点を図示した。1 ~ 24 は土師器である。1 ~ 2 は坏、3 ~ 11 は高坏、12 は器台、13・14 は蓋、15 ~ 19 は壺、20 は台付甕、21 ~ 24 は甕、25 は砥石である。

### SI 33 (第 71・148 ~ 150 図、図版 27・69・70)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 34・35 と重複し、切り合いでは SI 33 が新しい。南側は攪乱されている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は 5.8m × 4.3m を測る。主軸方向は N - 35° - W である。遺構検出面からの深さは 10 ~ 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが中央部で炭化物を検出している。周溝・柱穴はない。

出土遺物のうち 36 点を図示した。1 ~ 36 は土師器である。1 は手捏土器、2 ~ 14 は高坏、15 は器台、16 ~ 21 は壺、22 は鉢、23 ~ 36 は甕である。

### SI 34 (第 63・64・150 図、図版 27・70)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 27・33、SD 25・26・33 と重複し、切り合いでは SI 34 が SI 27・33、SD 26 より古く、SD 25・33 より新しい。北東側は SI 27 に切られている。南側は浅くなり南壁を検出できていない。平面形は方形を呈すると思われる。北東側に重複する壁があり建て替えの可能性がある。規模は 6.6m × 5.5m を測る。主軸方向は N - 13° - W である。遺構検出面からの深さは 40cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅 20cm で北東角でのみ検出した。柱穴は Pit485・489・491 の 3 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit485 が 60cm、Pit489 が 40cm、Pit491 が 58cm である。柱間は Pit485・489 が 3.9m、Pit489・491 が 2.5m である。

出土遺物のうち 14 点を図示した。1 ~ 14 は土師器である。1 ~ 5 は高坏、6 ~ 10 は壺、11 は壺と思われる。弥生時代の可能性もある。12 ~ 14 は甕である。

### SI 35 (第 72 ~ 74・151・152 図、図版 28・70・71)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 33・SD 33 と重複し、切り合いでは SI 35 が SI 33 より古く、SD 33 より新しい。南側は浅くなり南壁を検出できていない。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は 7.4m × 6.9m を測る。主軸方向は N - 5° - E である。遺構検出面からの深さは 5 ~ 25cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していない。周溝は幅 10 ~ 15cm で東壁の一部でのみ検出した。柱穴はない。北壁脇中央で長さ 20cm 位の礫 9 点がまとまって出土している。

出土遺物のうち 36 点を図示した。1 ~ 35 は土師器である。1 ~ 4 は坏、5 ~ 15 は高坏である。16 は器台と思われる。17 は蓋、18 ~ 27 は壺、28 ~ 35 は甕である。36 は鉄製品鎌と思われる。

### SI 36 (第 72 ~ 74・152 図、図版 28・71)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 44・SD 33 と重複し、切り合いでは SI 36 が新しい。平面

形は隅丸方形を呈し、規模は 3.8m × 3.8m を測る。主軸方向は N - 10° - E である。遺構検出面からの深さは 15 ~ 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、北西角の壁脇で焼土と少量の白色粘土を検出した。周溝は検出していない。柱穴は Pit530・531・534・541 の 4 基を検出した。平面形の形状は Pit531・541 は円形、Pit530・534 は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit530 が 10cm、Pit531 が 40cm、Pit534 が 20cm、Pit541 が 25cm である。柱間は Pit530・531 が 2.5m、Pit530・541 が 2.5m、Pit531・534 が 2.1m、Pit534・541 が 2.5m である。中央部で S K 41 を検出した。平面形の形状は円形を呈す。規模は 0.8m × 0.8m を測る。深さは 46cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部東よりで S K 42 を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。規模は 0.8m × 0.7m を測る。深さは 62cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土師器高環が出土している。

出土遺物のうち 11 点を図示した。1 ~ 10 は土師器である。1 ~ 2 は坏、3 ~ 6 は高坏、7 は鉢、8 ~ 10 は甕である。11 は土製品土玉である。断面が角張るため白玉状の可能性はある。

### S I 37 (第 75・76・153・154 図、図版 29・71・72)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 31・39、S D 30 と重複し、切り合いでは S I 37 が S I 39 より古く、S I 31・S D 30 より新しい。平面形は方形を呈し、規模は 6.2m × 6.0m を測る。主軸方向は N - 27° - W である。遺構検出面からの深さは 15 ~ 30cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は悪く、北側の袖と内面の焼土範囲のみ検出した。周溝はない。柱穴は Pit543・549・561・579 の 4 基を検出した。平面形の形状は円形で、Pit561 のみ楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit543 が 55cm、Pit549 が 55cm、Pit561 が 70cm、Pit579 が 60cm である。柱間は Pit543・549 が 3.3m、Pit543・579 が 3.1m、Pit549・561 が 3.2m、Pit561・579 が 3.5m である。東壁脇で Pit574 を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 20cm である。

出土遺物のうち 29 点を図示した。1 ~ 27 は土師器である。1 ~ 6 は坏、7 ~ 12 は高坏、13 は有孔鉢、14 ~ 17 は壺、18 ~ 24 は甕、25 ~ 27 は礎である。28 は須恵器蓋、29 は磨石である。

### S I 38 (第 68・154・155 図、図版 29・73)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 31・32・40、S D 30 と重複し、切り合いでは S I 38 が S I 32 より古く、S I 31・40、S D 30 より新しい。南側を S I 32 に切られ、東側は調査区外へ続いている。南側を S I 32 に切られ、東側は調査区外へ続いている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は 5.3m × 4.0m を測る。主軸方向は N - 23° - E である。遺構検出面からの深さは 20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部北よりに広がる焼土範囲を検出した。炉の可能性が考えられる。周溝はない。柱穴は Pit566・569 の 2 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit566 が 30cm、Pit569 が 45cm である。柱間は 2.3m である。

出土遺物のうち 32 点を図示した。1 ~ 30 は土師器である。1 ~ 8 は坏、9 ~ 17 は高坏、18 は器台、19 は鉢、20 ~ 24 は壺、25 ~ 29 は甕、30 は甑である。31 は須恵器蓋、32 は須恵器甕である。

### S I 39 (第 77・78・155 ~ 157 図、図版 30・73・74)

調査区中央に位置する竪穴建物である。S I 37・40 と重複し、切り合いでは S I 39 が新しい。平面形は方形を呈し、規模は 5.8m × 5.7m を測る。主軸方向は N - 3° - W である。遺構検出面からの深さは 10 ~ 15cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。カマドの遺存状況は良くないが、焼土範囲と袖石を検出している。周溝はない。柱穴は Pit562・570・571・572 の 4 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit562 が 35cm、Pit570

が 35cm、Pit571 が 60cm、Pit572 が 40cm である。柱間は Pit562・571 が 2.8m、Pit562・572 が 2.7m、Pit570・571 が 2.9m、Pit570・572 が 2.8m である。北壁脇東よりで Pit577 を検出した。平面形の形状は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 52cm である。土師器坏が出土している。

出土遺物のうち 26 点を図示した。1～24 は土師器である。1～7 は坏、8～10 は高坏、11～24 は甕である。25 は須恵器蓋、26 は須恵器甕である。

#### SI 40 (第 79・80・157・158 図、図版 30・74・75)

調査区中央に位置する竪穴建物である。SI 32・38・39 と重複し、切り合いでは SI 40 が古い。南側を SI 32 に切られ、東側は SI 38 に切られている。平面形は方形を呈すると思われる。検出した規模は 6.0m × 5.5m を測る。主軸方向は N - 13° - W である。遺構検出面からの深さは 10～25cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。中央部北よりに新旧の炉を検出した。西側の炉が新しく、東側の炉が古い。周溝は幅 15～20cm で北壁の全部と東壁・南壁の一部で検出した。柱穴は Pit580・583・585・588 の 4 基を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit580 が 60cm、Pit583 が 60cm、Pit585 が 65cm、Pit588 が 55cm である。柱間は Pit580・583 が 3.0m、Pit580・588 が 3.2m、Pit583・585 が 3.2m、Pit585・588 が 3.1m である。南周溝脇中央で Pit590 を検出した。平面形の形状は円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは 48cm である。南周溝脇で SK 46 を検出した。平面形の形状は長方形を呈す。規模は 0.7m × 0.6m を測る。深さは 28cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 22 点を図示した。1～22 は土師器である。1～4 は高坏、5～8 は鉢、9～15 は壺、16～22 は台付甕である。

#### SI 43 (第 81・158 図、図版 30・75)

調査区中央に位置する建物である。SI 7 と重複し、切り合いでは SI 43 が新しい。また、SI 43 は SI 7 よりも床面が高い。西側を SI 7 と攪乱に切られ、東側も攪乱され、平面形は検出できていない。検出した規模は 6.3m × 2.1m を測る。遺構検出面からの深さは 5cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。西壁脇で焼土範囲を検出した。周溝・柱穴は検出できていない。

出土遺物のうち 10 点を図示した。1～9 は土師器である。1・2 は坏、3・4 は高坏、5～9 は甕である。10 は砥石である。

#### SI 44 (第 72～74・159 図、図版 75)

調査区南側に位置する竪穴建物である。SI 36・SD 33 と重複し、切り合いでは SI 44 が SI 36 より古く、SD 33 より新しい。東側を SI 36 に切られ、西側は攪乱されている。平面形は隅丸方形を呈し、規模は 3.8m × 3.8m を測る。主軸方向は N - 10° - E である。遺構検出面からの深さは 15～20cm で覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。炉・カマドは検出していないが、北西角の壁脇で焼土と少量の白色粘土を検出した。周溝は検出していない。柱穴は Pit530・531・534・541 の 4 基を検出した。平面形の形状は Pit531・541 は円形、Pit530・534 は楕円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは Pit530 が 10cm、Pit531 が 40cm、Pit534 が 20cm、Pit541 が 25cm である。柱間は Pit530・531 が 2.5m、Pit530・541 が 2.5m、Pit531・534 が 2.1m、Pit534・541 が 2.5m である。

出土遺物のうち 6 点を図示した。1～5 は土師器である。1・2 は高坏、3～5 は甕である。6 は須恵器甕である。

#### SB 1 (第 82 図、図版 31)

調査区南側の SI 2 の北側に位置する。5 間 × 3 間の掘立柱建物で、平面形の規模は桁行 7.0m、梁行 5.0

～5.3mを測る。建物の南東角がS I 1と重複していたとみられるが、その部分の柱穴は検出できなかった。主軸方向はN-38°-Wである。柱穴はPit45・49・1・17～20・8～12・52・2・6・55・27である。柱穴の覆土は黒褐色粘土質シルトを基調とする。遺構検出面からの堀方の深さは30cm前後を中心として20～40cmの間に収まる。堀方の深さに柱の根入れの深さがどの程度残るかは不明である。建物内の平面に床面の痕跡は検出できなかった。桁行の1間は1.3～1.5m、梁行は1.65m～1.8mである。

### SB2 (第53・54図、図版32)

調査区北側に位置する掘立柱建物である。S I 19・S D 32と重複し、切り合いではS D 32が古い。建物の南西角にあたり、柱穴は南北方向に2本、東西方向に3本検出した。北側・東側は調査区外へ続いている。規模は5.3m×2.9mを測る。主軸方向はN-4°-Eである。柱穴はPit406・416・417・420の4基を検出した。平面形の形状はそれぞれ円形を呈す。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さはPit406が40cm、Pit416が50cm、Pit417が40cm、Pit416が40cmである。柱間はPit406・420が0.9m、Pit420・417が0.9m、Pit417・416が0.8mである。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

### SB3 (第83・84図、図版32)

調査区北側に位置する建物である。西側に隣接する平成13年度調査区地点で検出されている周溝付平地建物と類似するものと思われる。同様の遺構であるSB4と接続している。また、S D 32と重複し、切り合いではSB3が新しい。北側は調査区外へ続いている。平面形は円形を呈する。検出した規模は6.7m×4.5mを測る。炉は検出していない。Pitは散在するが柱穴は不明である。溝の覆土は黒色砂質シルトを基調とする。幅30～40cm、深さ15cmで断面形は台形を呈す。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

### SB4 (第83・84図、図版32)

調査区北側に位置する建物である。西側に隣接する平成13年度調査区地点で検出されている周溝付平地建物と類似するものと思われる。同様の遺構であるSB3と接続している。また、S D 32と重複し、切り合いではSB4が新しい。北側は調査区外へ続き、東側は攪乱されている。平面形は円形を呈する。検出した規模は6.3m×1.6mを測る。炉・柱穴は検出していない。溝の覆土は黒色砂質シルトを基調とする。幅30cm、深さ10cmで断面形は台形を呈す。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

### SX3 (第85～88・160図、図版34～36・76)

調査区南側に位置する。S I 4と重複し、切り合いでは先行する。検出地点では広範囲にわたる焼土・炭化物を検出し、その下で浅い不整形な溝状遺構や土坑、Pitを検出した。この焼土範囲と溝状遺構などを含めてSX3とした。さらに完掘後の検討でSX3の範囲から検出したPitを柱穴とする建物を2軒推定し、それぞれSX3a、SX3bとした。SX3内で竪穴の堀方は確認できず、掘立柱建物などの平地建物であった可能性がある。

SX3aはSK14・9・Pit127・103を柱穴とする。主軸方向はN-27°-Wである。焼土範囲は検出しているが、炉と判断できるものはない。柱穴の平面形は楕円形または不整形で、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは40cmから50cmの間に収まるがSK14では24cmと浅い。柱間はSK14・9間が2.6m、Pit127・103間が2.9m、Pit127・SK14間が3.8m、Pit103・SK9間が3.8mである。Pit127はS I 4の炉の下で検出しており、切り合いではS I 4に先行する。

SX3bはSX3aの北西側に隣接し、Pit69・SK16・3・13を柱穴とする。主軸方向はN-28°-Wである。炉はない。柱穴の平面形は楕円形または不整形である。SK13・16ではそれぞれ浅い落ち込みの中で柱穴状の堀方を検出している。覆土は黒褐色粘土質シルトや黒色粘土質シルトを基調とする。深さはSK3が18cm、Pit69が30cm、SK13が50cm、SK16が44cmである。柱間はPit69・SK16が2.6m、SK3・13が3.0m、SK3・Pit69が2.2m、SK13・16が2.5mである。

現場観察では焼土が部分的に集中して検出される範囲はあるものの途切れなく広く散っており、同時期に堆積したものと考えられた。また焼土はSX3a・bとした建物の柱穴の上面に覆い被さっており、柱穴の覆土内にはほとんど混入していない。少なくともSX3の範囲で何かが燃えた際に建物の柱は残っていなかったとみられる。SK8はSX3内で検出した平面形が不整形な土坑で、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。深さは4cmと浅い。堀方内で検出した小Pitは別遺構と推測するが切り合いは不明である。この厚さ4cmの覆土中から勾玉が出土している。

出土遺物のうち22点を図示した。1～21は土師器である。1～4は坏、5～11は高坏、12は鉢、13は有孔鉢、14～16は壺、17～21は甕、22は滑石製の勾玉である。

### 第3節 土坑・ピット

#### SK34 (第59・161図、図版36・76)

調査区南側のSI26の北側に位置する土坑である。平面形の形状は不整な長方形を呈す。規模は44cm×40cmを測る。深さは49cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器鉢である。

#### SK36 (第65・66・161図、図版36・76)

調査区南側のSI1の東側に位置する土坑である。平面形の形状は隅丸長方形を呈す。規模は48cm×38cmを測る。深さは28cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器高坏で短脚である。

#### SK37 (第83・84・161・162図、図版36・76・77)

調査区北側のSB4の南側に位置する土坑である。東側を攪乱されている。平面形の形状は円形を呈すと思われる。検出した規模は1.6m×0.4mを測る。深さは20cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち15点を図示した。1～15は土師器である。1～2は坏である。埴形の坏で2は平底である。3～6は高坏で3～6は緩やかに外反する脚、7は有段の脚である。7～9は壺、丸底である。10～15は甕である。10・14は球胴形、15はやや長胴形である。

#### Pit12 (第17・162図、図版77)

調査区南側のSI2の北側に位置する。平面形は円形を呈し規模は50cm×50cmを測る。深さは25cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器坏である。須恵器蓋坏を逆転した形で深めである。

#### Pit61 (第7・162図、図版77)

西側のトレンチ状調査区の北端部に位置する。西側は調査区外へ続いている。平面形は円形を呈すと思われる。検出した規模は50cm×35cmを測る。深さは18cmである。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち2点を図示した。1は土師器坏である。口縁部が小さく外反する平底の埴形の坏である。2

は土師器高坏である。緩やかに外反する脚で短脚である。

#### Pit105 (第 85・86・162 図、図版 77)

調査区南側の S X 3 の南側に位置する。平面形は円形を呈し規模は 30cm × 30cm を測る。深さは 30cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器壺である。丸底である。

#### Pit284 (第 43・162 図、図版 77)

調査区北側の S I 13 の南側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit284 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 45cm × 41cm を測る。深さは 49cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器壺である。頸部に櫛描波状文・簾状文をもつ。

#### Pit291 (第 95・162 図、図版 77)

調査区中央の S D 12 の北側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit291 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 60cm × 50cm を測る。深さは 38cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器で把手の付け根部分と思われる。土師器で模倣した把手付碗の可能性はある。

#### Pit292 (第 95・162 図、図版 77)

調査区中央の S D 12 の北側に位置する。S D 32 と重複し、切り合いでは Pit292 が新しい。平面形は円形を呈し規模は 30cm × 20cm を測る。深さは 46cm である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち 1 点を図示した。1 は土師器甕である。口唇部に刻みをもつ。

## 第 4 節 溝・流路

### SD1 (第 89～92・162～176 図、図版 37・38・78～84)

西側のトレンチ状調査区の南端部で検出した流路である。S K 1、S D 2 と重複し、切り合いでは新しい。流路の方向は北西から南東方向へ走る。しかし約 4m 隔てた東側の調査区では、S D 1 の方向へ向かって緩やかな傾斜を検出したものの流路の本体は検出できなかった。このため北西から南東方向へ流れを進めてきた S D 1 がこの地点で大きく湾曲して南方向へ流れを変えたと推測する。下層で出土した木製品も南東方向を向くものが多いが、南端部で出土したものは南方向へと向きを変えている。流路の規模は調査区内で検出したのが北肩のみで南肩を検出できなかったため確定できないが、土層断面の観察から推定した流路幅は約 5m である。最深部の深さは調査前の現況地盤から 3.5m、遺構検出面から 1.8m である。覆土は検出面上面付近では黒褐色粘土質シルトである。上層部分は黒褐色砂質シルト (4 層)、黒褐色砂 (5 層)、黒褐色粗砂 (6 層) などが堆積し、下層 (7～11 層) は腐食した植物遺体を含む黒色粘土と灰色砂の互層となる。

堆積状況から、下層では水が流れる時期と淀む時期を繰り返し、上層では水勢を得て短期間で砂層が堆積し、上面で水勢を失った後は窪地となってゆっくりと埋没していったと推測する。また遺物は木製品については主に下層の 8・9 層から出土した。土器は下層でも出土するが、7 層より上位で多く出土し、流路の北肩に沿った地点に集中する。ただし上層と下層で土器の時期差はあまりない。また、土器の割れ口が比較的鋭く、完形遺物こそないものの、出土時点で一見して接合する個体も多かったことから、原位置を保った状態と考えられた。以上から何らかの理由で木製品が流されてきて流路の湾曲部で滞留して溜まり、流れが止まったところで多量の土器が流路の北側から投棄された状況を推測する。出土遺物から流路の存続期間は古墳時代後期の限

られた期間とみられる。また、SD1の上面から底面にかけて層位ごとに土壌サンプルを採取し自然科学分析を試みている。

出土遺物のうち139点を図示した。1～57は土師器である。1は鉢と思われる。2～9は坏、10・11は手捏土器、12～19は高坏、20・21・23・27～30・32～45・47～52は甕、24～26は壺、31・46は台付甕、53・54・56・57は甑、22は単孔の有孔鉢、55は多孔の有孔鉢、58～65は須恵器である。58～60は蓋、61～63は坏、64・65は甕である。66は石製模造品剣形である。67は弥生時代の磨製石鏃と思われる。68は砥石である。69～139は木製品である。69は槽、70は横槌、71は椅子、72～75は曲物側板、76は曲物底板、77は弓状木製品である。78・79は栓と思われる部材、80・81は着柄軸と思われる。82・83・91～108・123・134は棒状木製品、84～90は斎串、109～114・116～122・136は板状木製品、115は舟形状木製品、124・125・135は杭、126～132・137～139は部材、133は木樋である。

#### SD2（第93・94・177図、図版38・85）

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北東から南西方向に走り、南西側はSD1に切られて終わる。北東側は約4m隔てて検出したSD12とつながり、同一遺構である可能性が高い。SD1・4・5と重複し、切り合いではそれぞれに先行する。溝幅は150cmで、底面までの深さは68cmを測る。覆土は粗砂と粘土が互層となりレンズ状に堆積する。上層の黒褐色砂（1層）と黒褐色粘土質シルト（2層）にそれぞれ土器片が混入するが、下層ではほとんど出土しなかった。

出土遺物のうち6点を図示した。1～5は土師器である。1・2は坏、3は高坏、4は甕、5は甑である。6は上面に研磨面を持つ砥石と思われる。

#### SD4（第93・94図）

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北西から南東方向へ走り、両端は調査区外へ延びる。SD2・5、SK1と重複し、切り合いではそれぞれより新しい。溝幅は70cmで、深さは40cmを測る。覆土は黒褐色粘土質シルトや黒色粘土を基調とする。SD1とほぼ併走しており、同時期に機能していた可能性もあるが出土遺物はほとんどない。

#### SD5（第93・94・177図、図版38・85）

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北東から南西方向へ走り、南西側はSD4に切られて終わる。北東側はSD11につながり同一遺構となる可能性がある。SD2・4・6と重複し、切り合いではSD2より新しく、SD4・6に先行する。溝幅は60cmで、深さは30cmを測る。覆土は黒褐色砂を基調とする。SD2と併走しており東側の調査区のSD11と同一遺構の可能性もある。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器坏である。

#### SD6（第93・94・177図、図版39・85）

西側のトレンチ状調査区の南半部で検出した溝である。北西から南東方向へ走り、両端は調査区外へと延びる。SD5と重複し、切り合いでは新しい。溝幅は50cmで、深さは24cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂、下層に黒褐色粘土が堆積する。東側の調査区のSD13と同一遺構である可能性が高い。

出土遺物のうち4点を図示した。1～3は土師器である。1は高坏、2は台付甕、3は甕である。4は須恵器蓋である。

#### SD10（第95図、図版39）

調査区南側に位置する。調査区の西壁から東方向へ走り、短く延びて終わる溝である。重複する遺構はない。



溝幅は70cmで、深さは14cmを測る。覆土は上層に褐灰色粘土、下層に黒褐色粘土が堆積する。出土遺物はない。

#### SD 11 (第95・97～101・177図、図版39・85)

調査区中央をSD 12と併走しながら東西方向に走る溝である。東側はSI 6の北側付近で途切れるが、西側はSD 5につながり同一遺構となる可能性がある。SI 6、SD 32と重複し、切り合いではSI 6に先行しSD 32より新しい。溝幅は80cm、深さ32cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂質シルト、下層に黒色砂質シルトが堆積する。

出土遺物のうち6点を図示した。1は縄文土器深鉢である。2～5は土師器である。2は台付甕、3～5は甕である。6は縄文時代の凹石と思われる。

#### SD 12 (第95・97～101・178図、図版39・85)

調査区中央をSD 11と併走しながら東西方向に走る溝である。東側は調査区の東端部に位置するSI 25下まで延びる。西側は約4m隔てたSD 2につながって同一遺構となる可能性が高い。SI 6・25、SD 30・32と重複し、切り合いではSI 6・25、SD 30に先行し、SD 32より新しい。溝幅は120cm、深さ44cmを測る。覆土は上層に黒褐色砂質シルト、下層に黒褐色砂が堆積する。

出土遺物のうち8点を図示した。1は縄文時代後期堀之内式の注口土器と思われる。2～8は土師器である。2・3は壺である。2は櫛描波状文、3はボタン状貼付文をもつ。4～8は甕である。

#### SD 13 (第96・178図、図版40・85)

調査区中央から南側にかけて位置する溝である。SI 9・10・24・29・30、SD 33と重複し、切り合いではSD 13がSI 9・24・29より古く、SI 10・30、SD 33より新しい。規模は長さ30.1m、幅0.4～1.1m。深さ0.5mを測る。主軸方向はN-45°-Wである。断面形は方形で、一部で底面に段を持つ。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち7点を図示した。1～7は土師器である。1は坏、2・3は高坏、4は頸部に穴のある短頸の壺、5・6は甕、7は甑である。

#### SD 14 (第97～101・178図、図版41・85)

調査区北側に位置する溝である。SI 13・16・17、SD 15・32と重複し、切り合いではSD 14がSI 13・16・17、SD 15より古く、SD 32より新しい。西側は調査区外へ続いている。東側はSI 13内で途切れるが、SD 28へと続くものと思われる。検出した規模は長さ17.0m、幅0.3～0.5m。深さ0.3～0.4mを測る。主軸方向はN-25°-Wである。断面形は方形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち2点を図示した。1は土師器壺である。2は鉄製品鎌である。

#### SD 17 (第97～101・179～191図、図版41～43・85～93)

調査区北側に位置する溝。SI 25、SD 32と重複し、切り合いではSD 17がSI 25より古く、SD 32より新しい。規模は長さ37.0m、幅1.6～1.9m。深さ0.3～0.6mを測る。主軸方向はN-35°-Wである。断面形は方形または半円形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。土器溜まりのように多数の遺物が出土している。形状が復元できるものも多く土器が溝に廃棄されたと考えられる。

出土遺物のうち177点を図示した。1～172は土師器である。1～43は高坏、44～50は器台、51～57は蓋、58～69は鉢、70・71は有孔鉢である。72は丸底に高台状の張り出しを貼り付けてある鉢と思われる。73・74は丸底の鉢、75～104は壺、105～144は台付甕、145～170は甕、171は甑把手、172は手焙形土

器である。173は叩き石、174・175は砥石である。176は鉄製品鎌である。177は黒曜石の石鏃である。

#### SD 28 (第 97～101・178 図、図版 41・85)

調査区中央に位置する溝である。SD 12 と重複し、切り合いではSD 28 がSD 12 より古い。北側は途切れているがSD 14 へ続くものと思われる。南側はSD 30 とは接続している。規模は長さ 3.4m、幅 0.5m。深さ 0.2m を測る。主軸方向はN-0°-W である。断面形は方形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物のうち1点を図示した。1は土師器甕である。

#### SD 30 (第 97～101 図、図版 41)

調査区中央に位置する溝である。SI 31・37・38、SD 12 と重複し、切り合いではSD 30 がSI 37・38、SD 12 より古く、SI 31 より新しい。東側は調査区外へ続いている。西側はSD 28 と接続している。検出した規模は長さ 15.5m、幅 0.3～0.5m。深さ 0.1m を測る。主軸方向はN-55°-W である。断面形は台形である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。

出土遺物は土師器小破片が出土している。

#### SD 32 (第 97～101・192 図、図版 43・94)

調査区中央から北側にかけて位置する流路である。SI 5・6・8・13・19、SB 2・3・4、SD 11・12・14・17 と重複し、切り合いではSD 32 が古い。北側と西側で調査区外へ続いている。北側から流れてきた2本の流路が合流して西側へ流れている。検出した規模は長さ 34m、幅 2～4m。深さ 1m を測る。主軸方向はN-58°-E で、N-4°-W から合流している。断面形は台形である。覆土は細砂と粗砂が互層となる砂礫層である。覆土には遺物がほとんど含まれず、縄文時代の遺物がわずかに出土している。SD 32 は古墳時代以前に埋没していたと考えられる。古墳時代の遺構は埋没したSD 32 を地山として掘り込んで構築されている。SD 32 は現在は水がしみ出してくる程度の流路である。

出土遺物のうち4点を図示した。1は縄文土器深鉢である。2は打製石斧、3は黒曜石の石鏃、4は黒曜石の原石である。

#### SD 33 (第 102～106・192・193 図、図版 44・94)

調査区南側に位置する流路である。SI 20・21・22・27・28・29・30・32・33・34・35・36・44、SD 13・25・26 と重複し、切り合いではSD 33 が古い。北側と東側、南側の3方向で調査区外へ続いている。検出した規模は長さ 30m、幅 21m。深さ 1.4m を測る。主軸方向はN-22°-E である。覆土は細砂と粗砂が互層となる砂礫層である。トレンチを設定して掘り下げた結果、幅 21m の中で蛇行して流路が移動している様子が観察できた。流路は時代とともに東から西へ移り、最終的にまた東へ戻っている。古墳時代後期から平安時代には流路は東端を流れており、その後更に東側の調査区外へと移動していったと思われる。覆土には縄文時代から平安時代の遺物が含まれている。トレンチの西側から縄文時代の遺物が出土している。中央部に古墳時代の遺物が多く、東側から平安時代遺物が出土している。縄文時代・平安時代の遺物は少量で主体は古墳時代の遺物である。SD 33 は現在でも常に地下水が流れ続ける流路である。北側に位置する平成6・7年度調査区地点でも川、沼が検出されているが、この川の下流域の流路となりつながることも考えられる。

出土遺物のうち23点を図示した。1・2は縄文土器深鉢である。3は撥形の打製石斧である。4～21は土師器である。4～11 坏、12 は平安時代の高台が削り出された坏、13 は器台、14～16 は高坏、17 は鉢、18 は台付甕、19～21 は甕である。22 は須恵器坏である。23 は青銅製品の鈴と思われる。馬鈴の可能性も考えられる。

## SX2 (第102～106・159 図、図版33・76)

調査区南側に位置する。東側は調査区外へ続いている。平面形は不整な方形を呈し、検出した規模は2.8m×1mを測る。遺構検出面からの深さは15cmで覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。点在する炭化物範囲と小破片ではあるが平安時代の遺物を検出した。その後、周辺にトレンチを設定しSD33との関係を検討した結果、調査区内でSX2およびその周辺でのみ平安時代の遺物が分布することが分かった。平安時代の遺物はSD33に設定したトレンチ東端で砂礫層の中からもわずかに出土したが、多くは砂礫層上の粘土質の層から出土している。平安時代後半から末には調査区の東端もSD33の西側の川縁となっており、強い水流を伴う砂礫層上に土層が堆積し始めていたと考えられる。

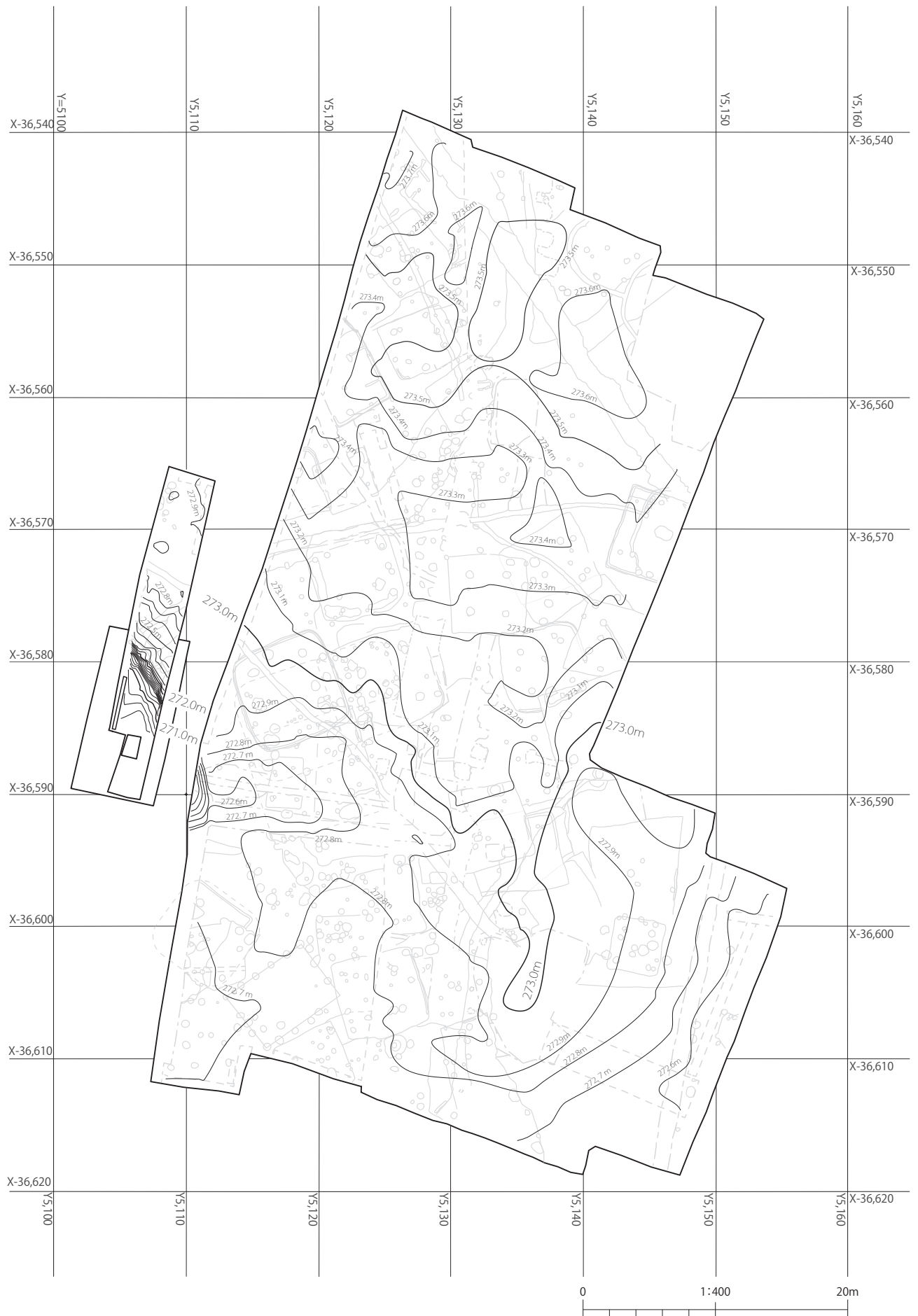
出土遺物のうち10点を図示した。1～5は平安時代の土師器坏、6は小皿である。4は底部に高台が削り出されている。5は底部が柱状気味である。7は甕である。8は須恵器蓋、9・10は須恵器甕である。

## 遺構外遺物 (第8・12・46・194 図、図版94)

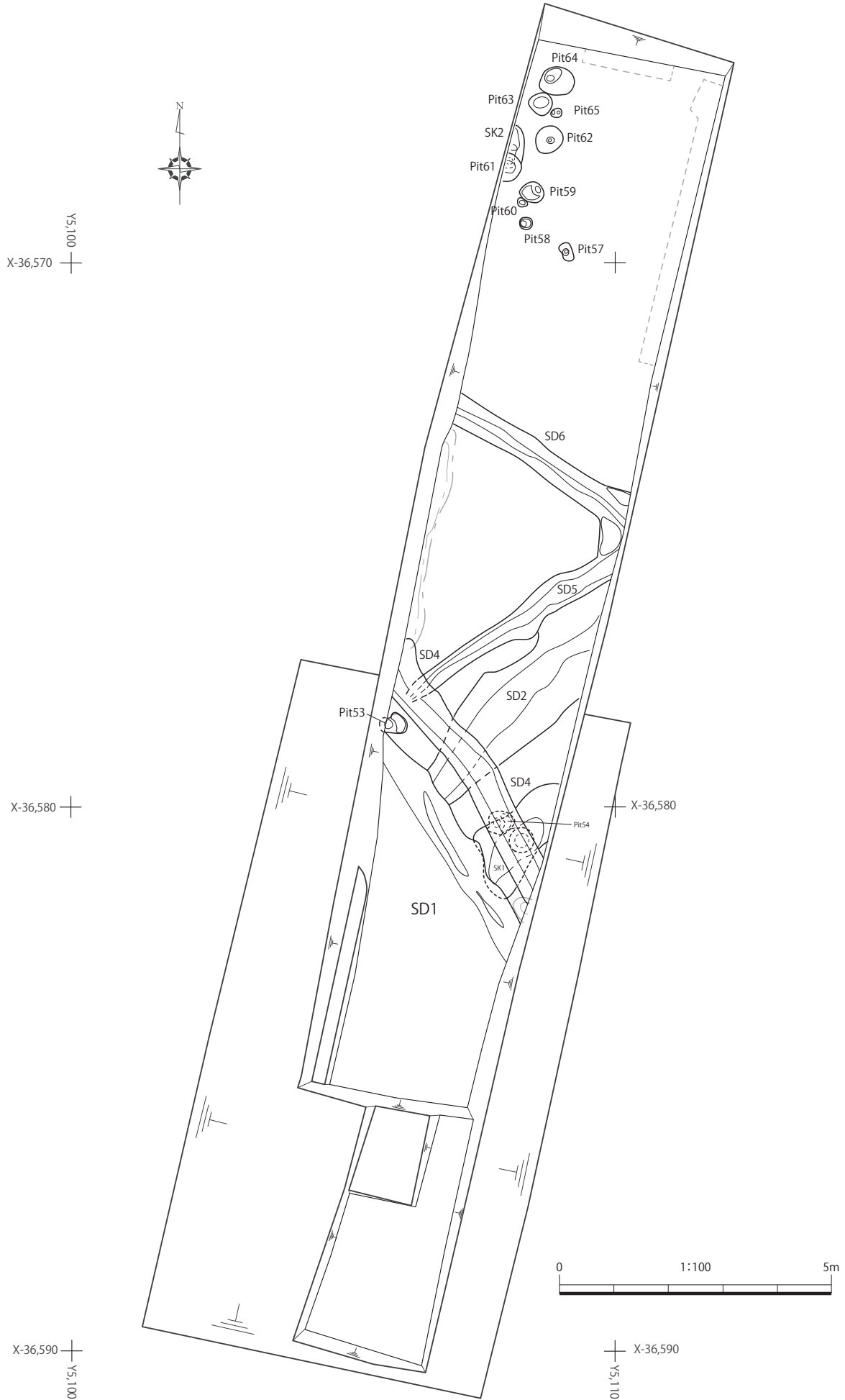
遺構外遺物は遺構検出面の上層の遺物包含層から出土している。出土遺物のうち7点を図示した。1はSI16南側付近で出土している。土師器の高坏形をした手捏土器である。2はSI3東側付近で出土している。土師器高坏である。3はSI3南側付近で出土している。土師器器台である。4はSD2南側付近で出土している。土師器蓋で摘み部に一對の穴がある。5はSD1北側付近で出土している。土師器の注口付土器の注口部と思われる。6はSI16南側付近で出土している。須恵器壺である。7はSD2南側付近で出土している。須恵器壺である。8はSD17東側付近で出土している。鉛製の鉄砲玉である。



第5図 遺構全体図(1)



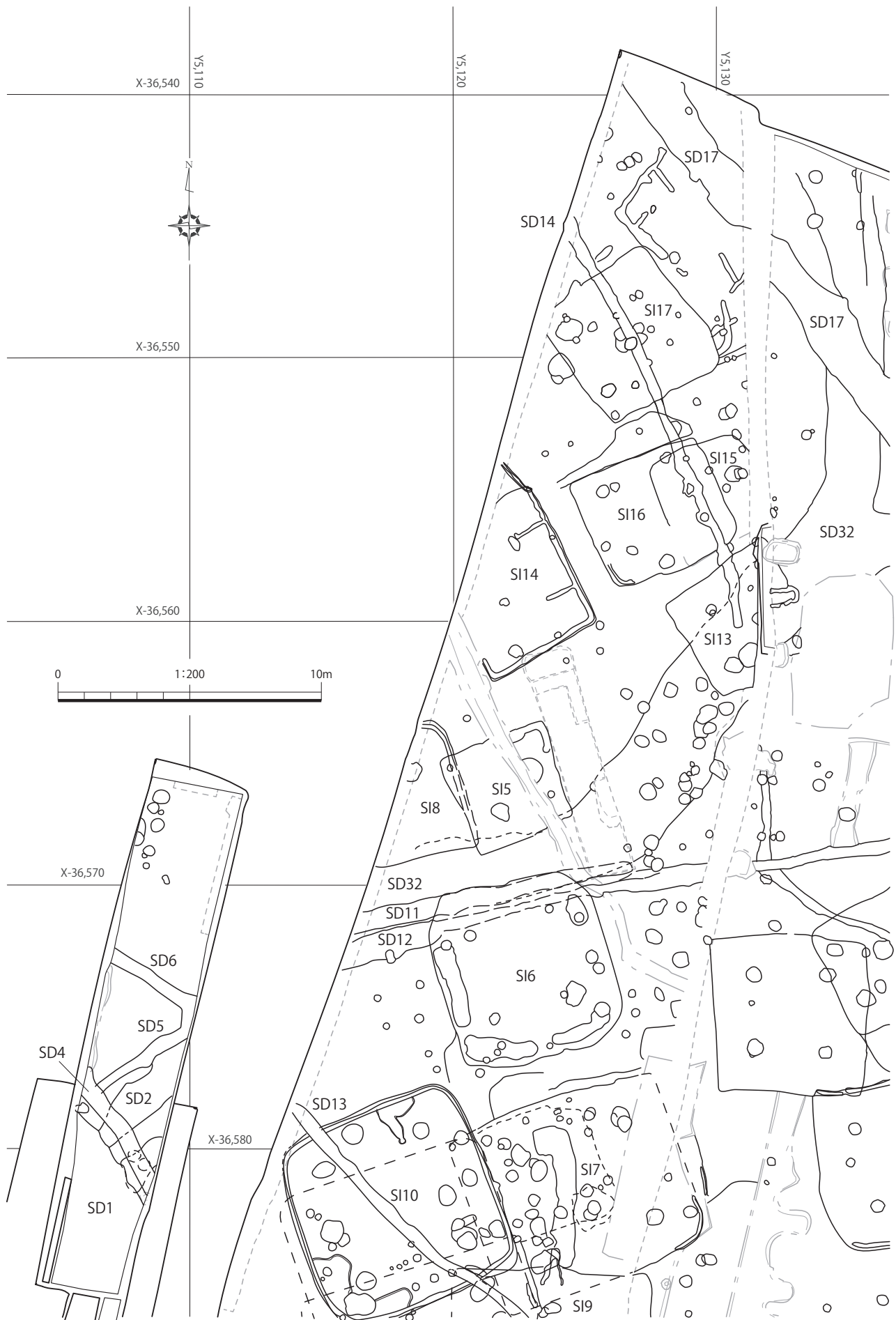
第6図 地形図



第7図 遺構全体図(2)

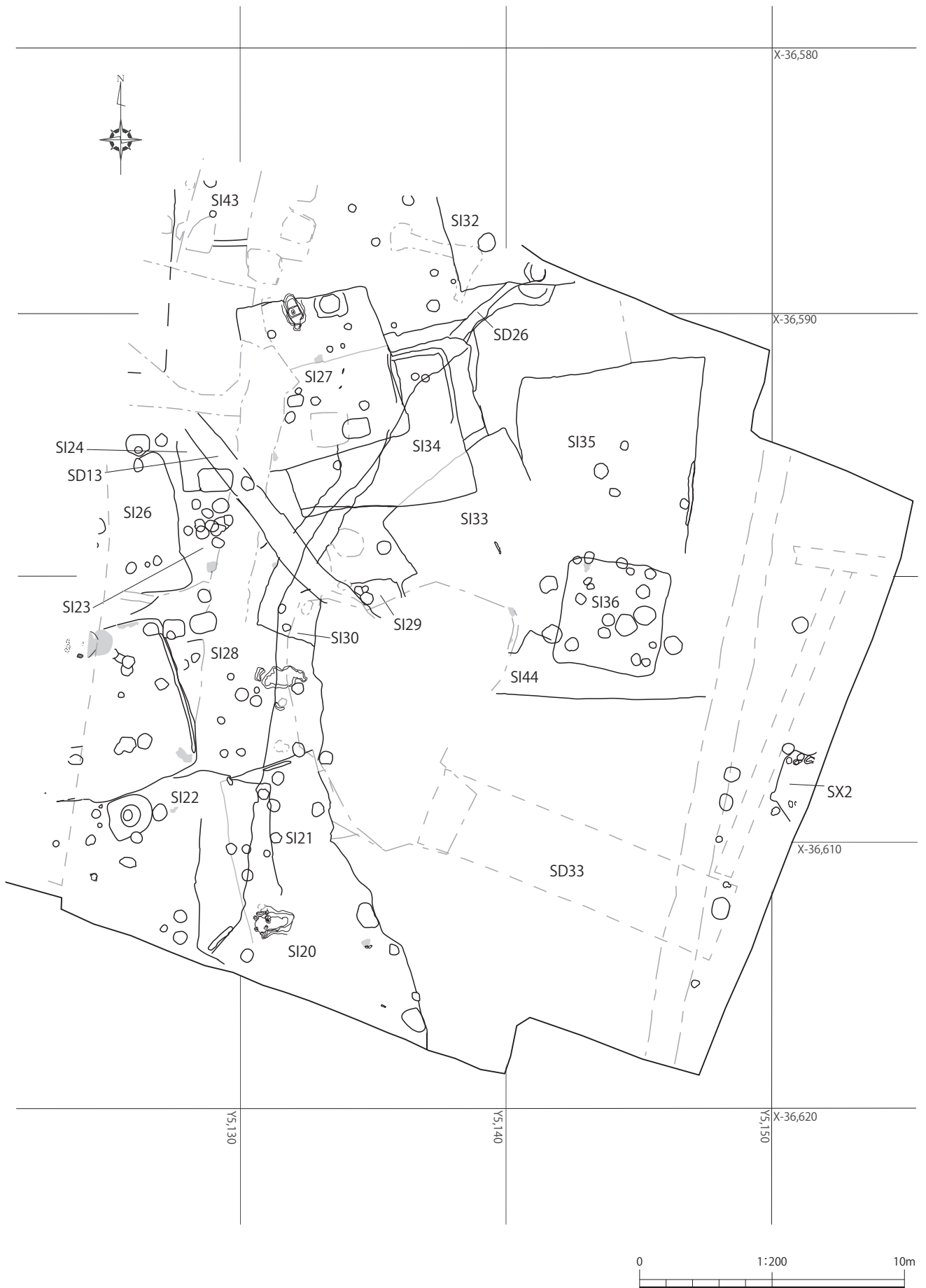


第8図 遺構全体図(3)

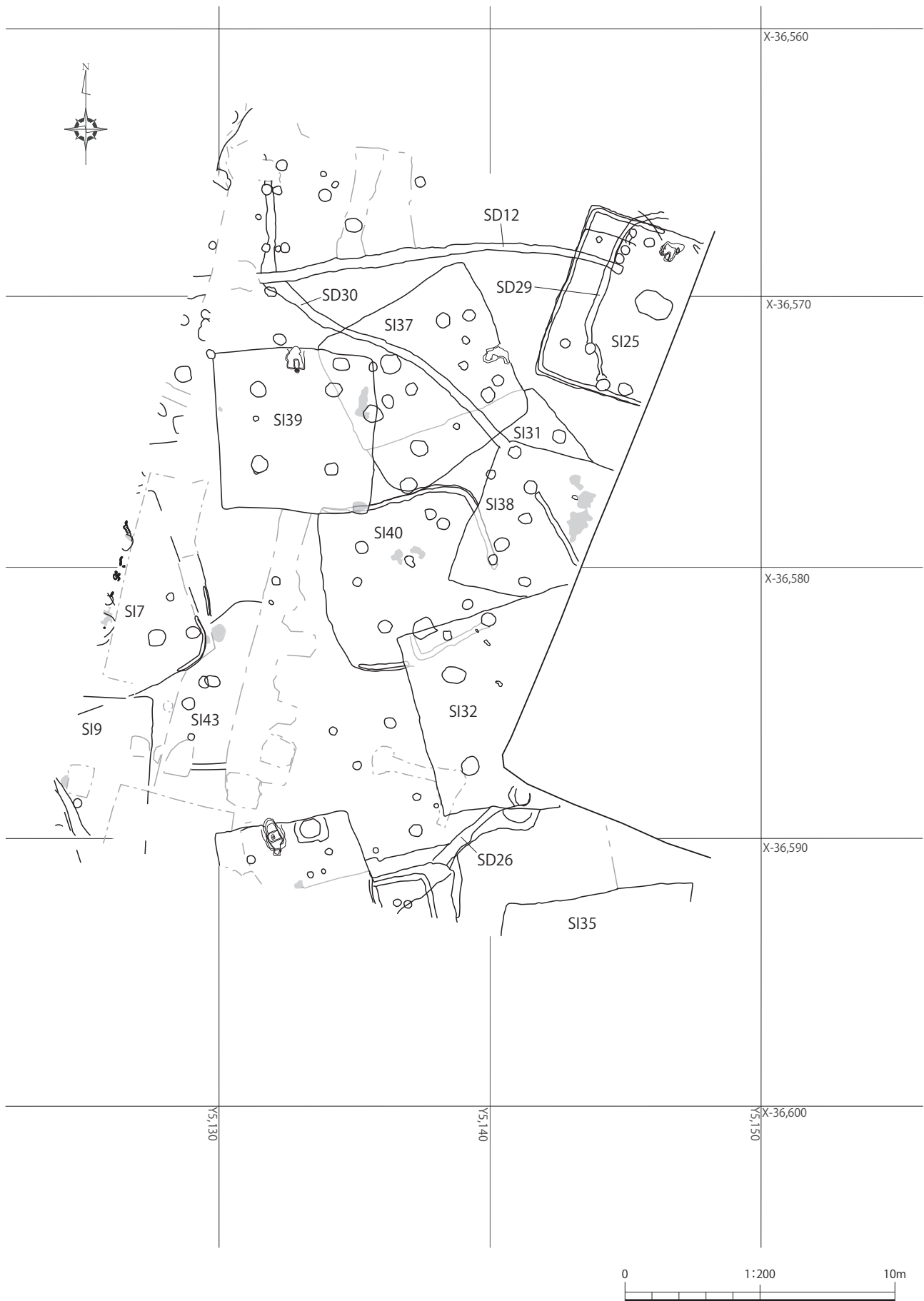


第9図 遺構全体図(4)

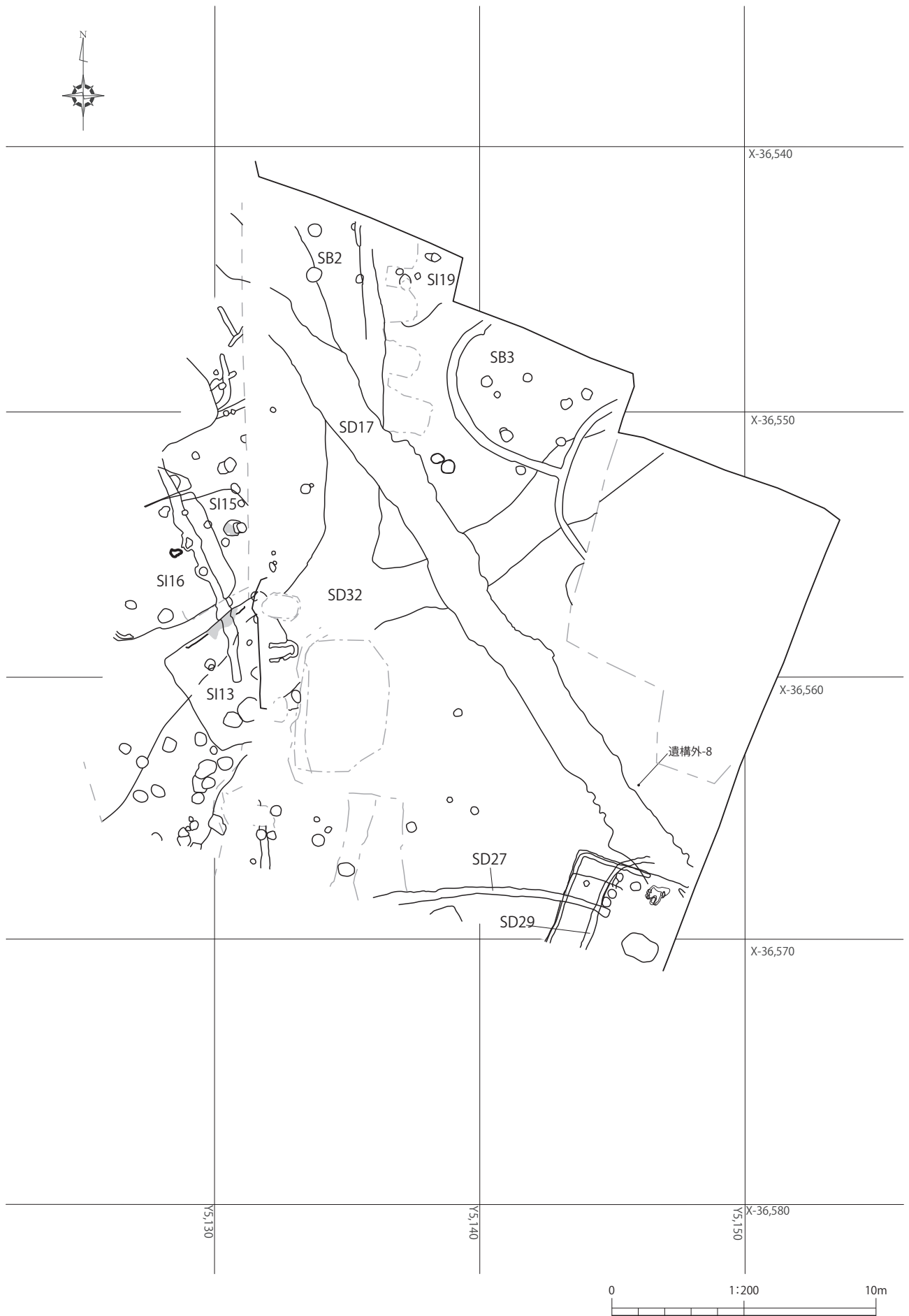




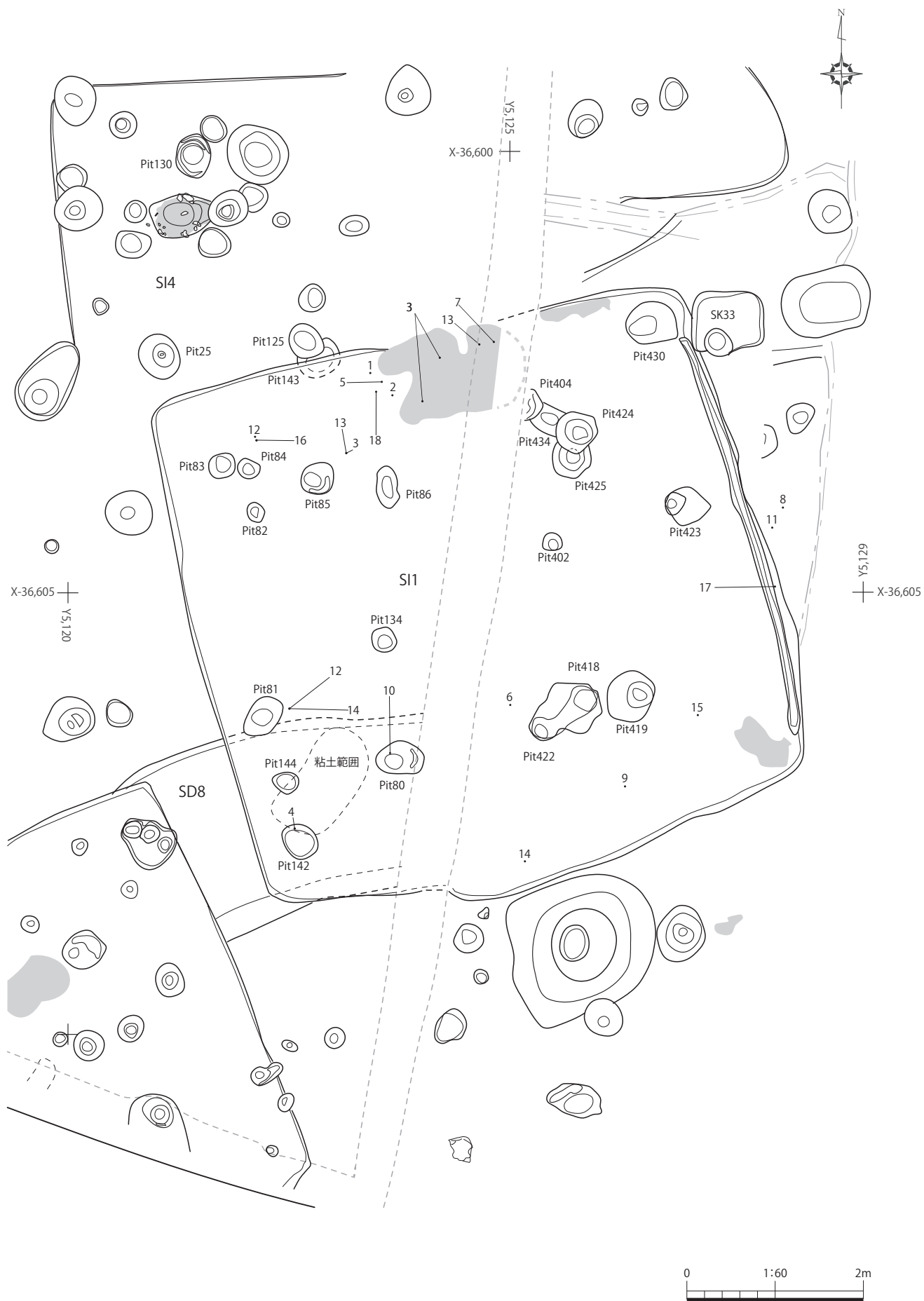
第10図 遺構全体図(5)



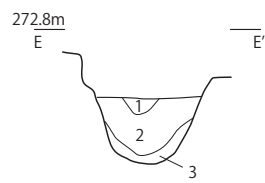
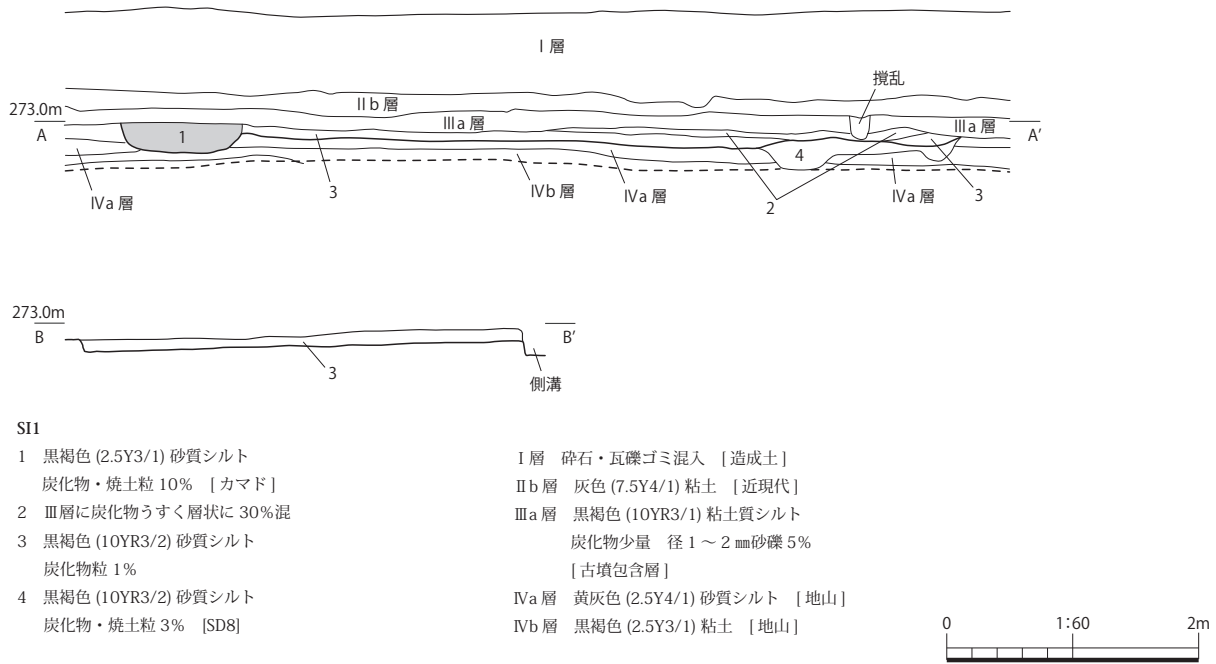
第11図 遺構全体図(6)



第12図 遺構全体図(7)



第13圖 S I 1 (1)



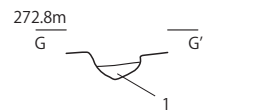
Pit 80

- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土質シルト
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%
- 3 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土



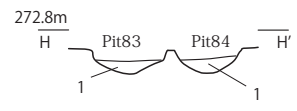
Pit 81

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒状 3%



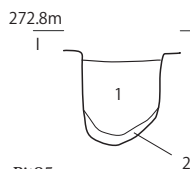
Pit 82

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒状 3%



Pit 83・84

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%



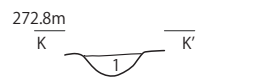
Pit 85

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土



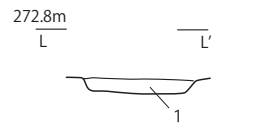
Pit 86

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%



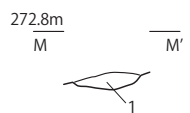
Pit 134

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト



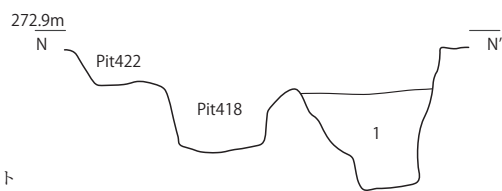
Pit 142

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物・焼土粒少量



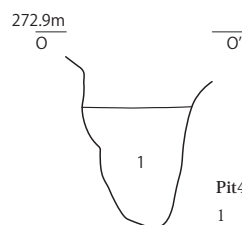
Pit 144

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物少量含む  
焼土粒 1%



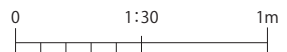
Pit 419

- 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1 mm 白色粒 3%  
径 2 mm 黄色粒 2%  
径 1 mm 炭化粒 1%

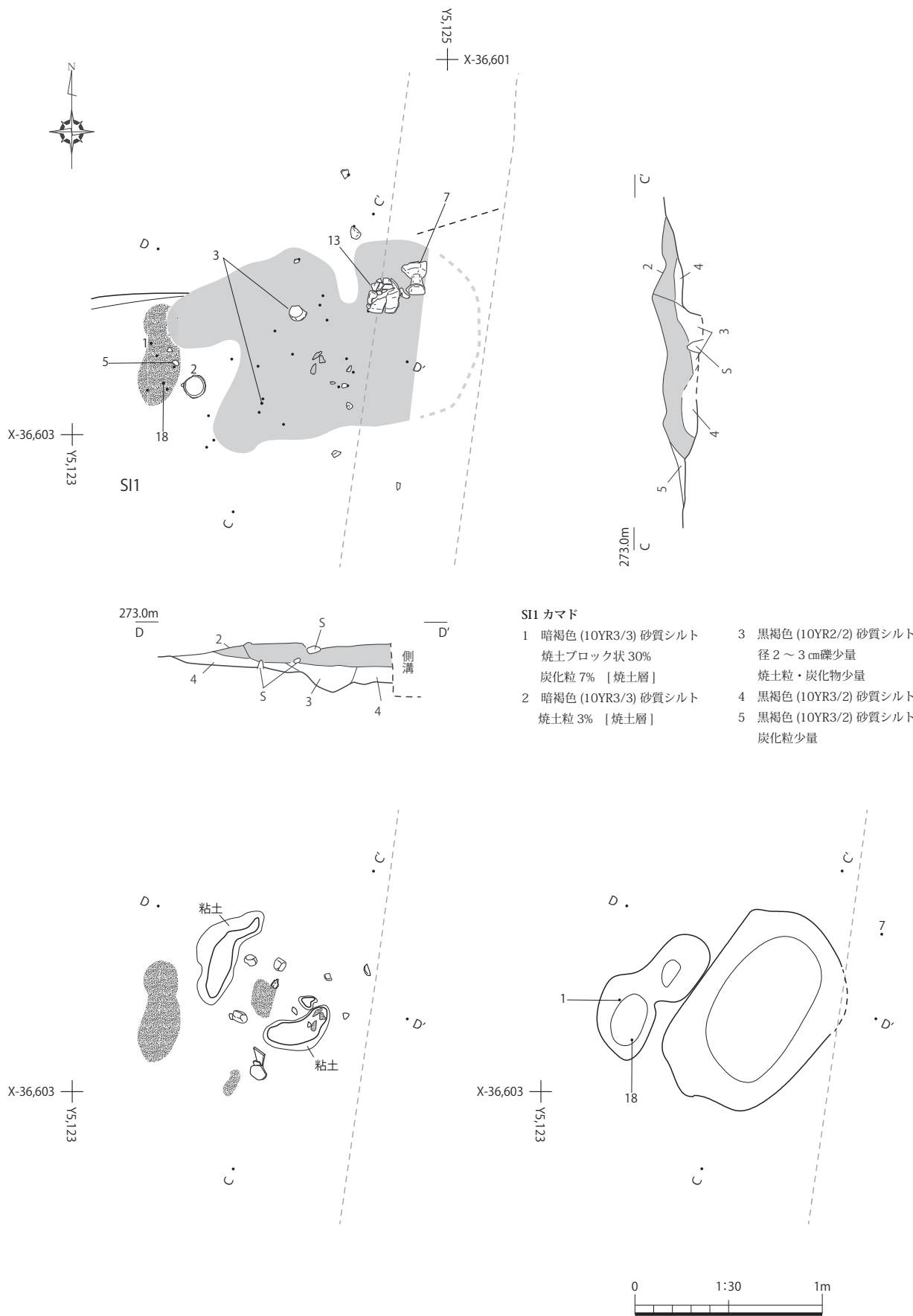


Pit 424

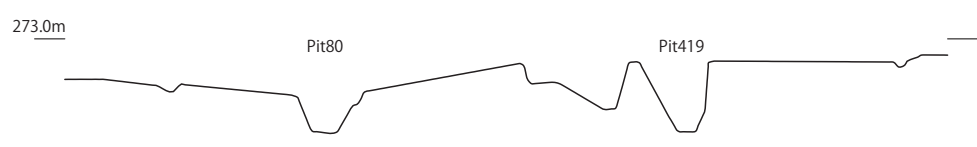
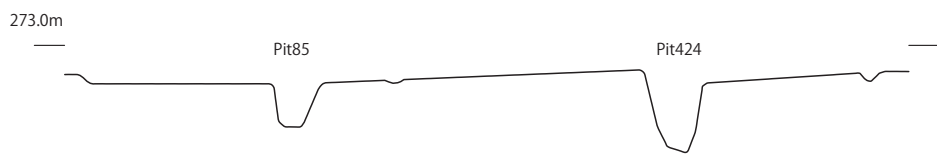
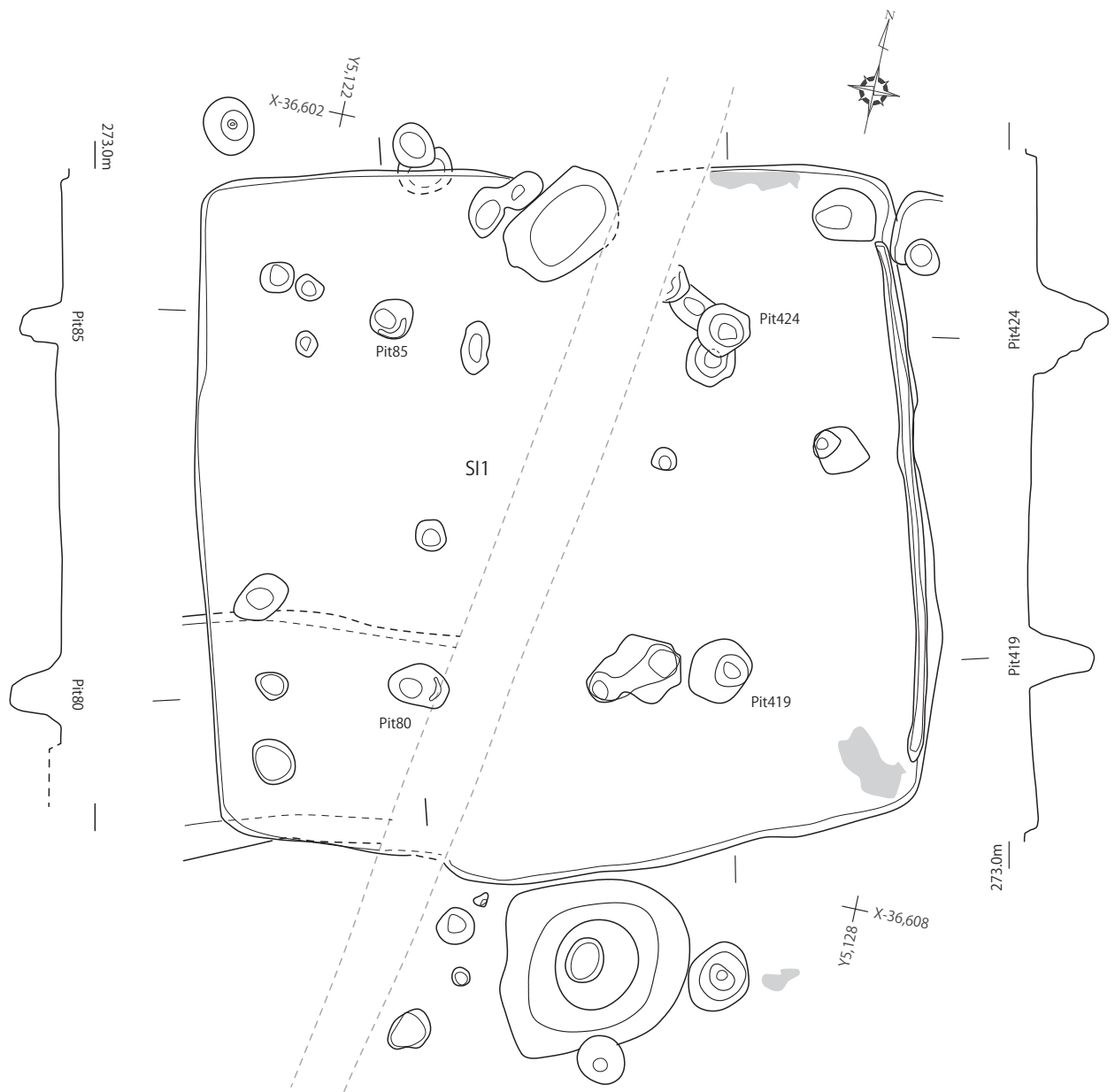
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 5 mm 焼土粒 2%  
径 1 mm 白色粒 2%  
径 1 mm 黄色粒 1%



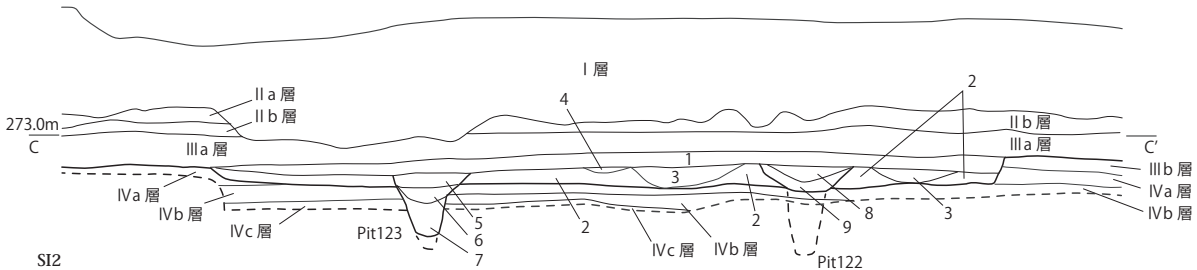
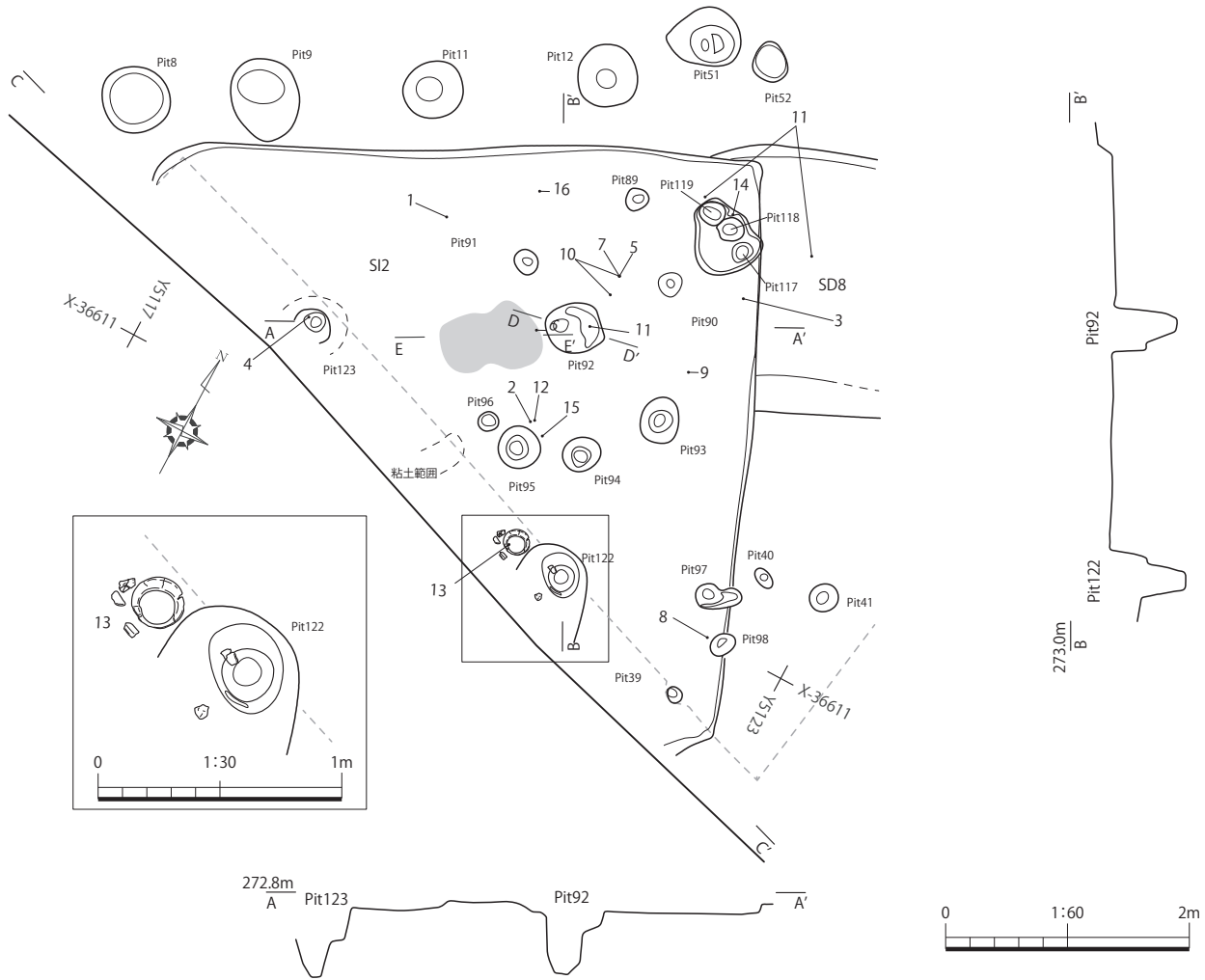
第14図 S I 1 (2)



第15図 SI1(3)



第16図 S I 1 (4)



S12

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 3% 炭化物粒少量
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物粒 3%
- 4 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘土

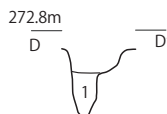
Pit123

- 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
褐色 (10YR4/4) 粗砂ブロック 7%  
灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土ブロック 5%
- 6 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト

Pit122

- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
褐色 (10YR4/4) 粗砂ブロック 7%  
灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土ブロック 5%
- 9 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト

- I 層 : [現代造成土] 碎石・瓦礫ゴミ混入
- II a 層 : [近現代] 水田床土
- II b 層 : [近現代] 灰色 (7.5Y4/1) 粘土
- III a 層 : [古墳包含層] 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
炭化物少量 径 1 ~ 2 mm の砂礫 5%
- III b 層 : [古墳包含層] 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- IV a 層 : [地山] 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト  
褐色 (10YR4/4) 粗砂 10%
- IV b 層 : [地山] 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土
- IV c 層 : [地山] 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト  
オリーブ灰色 (2.5GY5/1) の泥岩粒 5%  
マンガン分含む



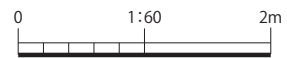
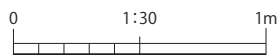
Pit123

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 3%



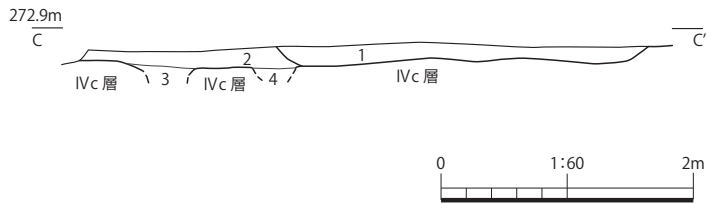
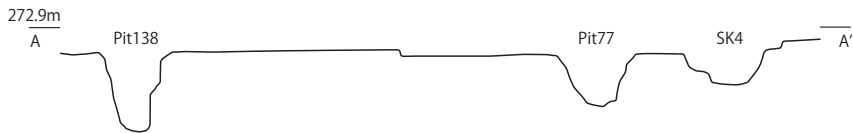
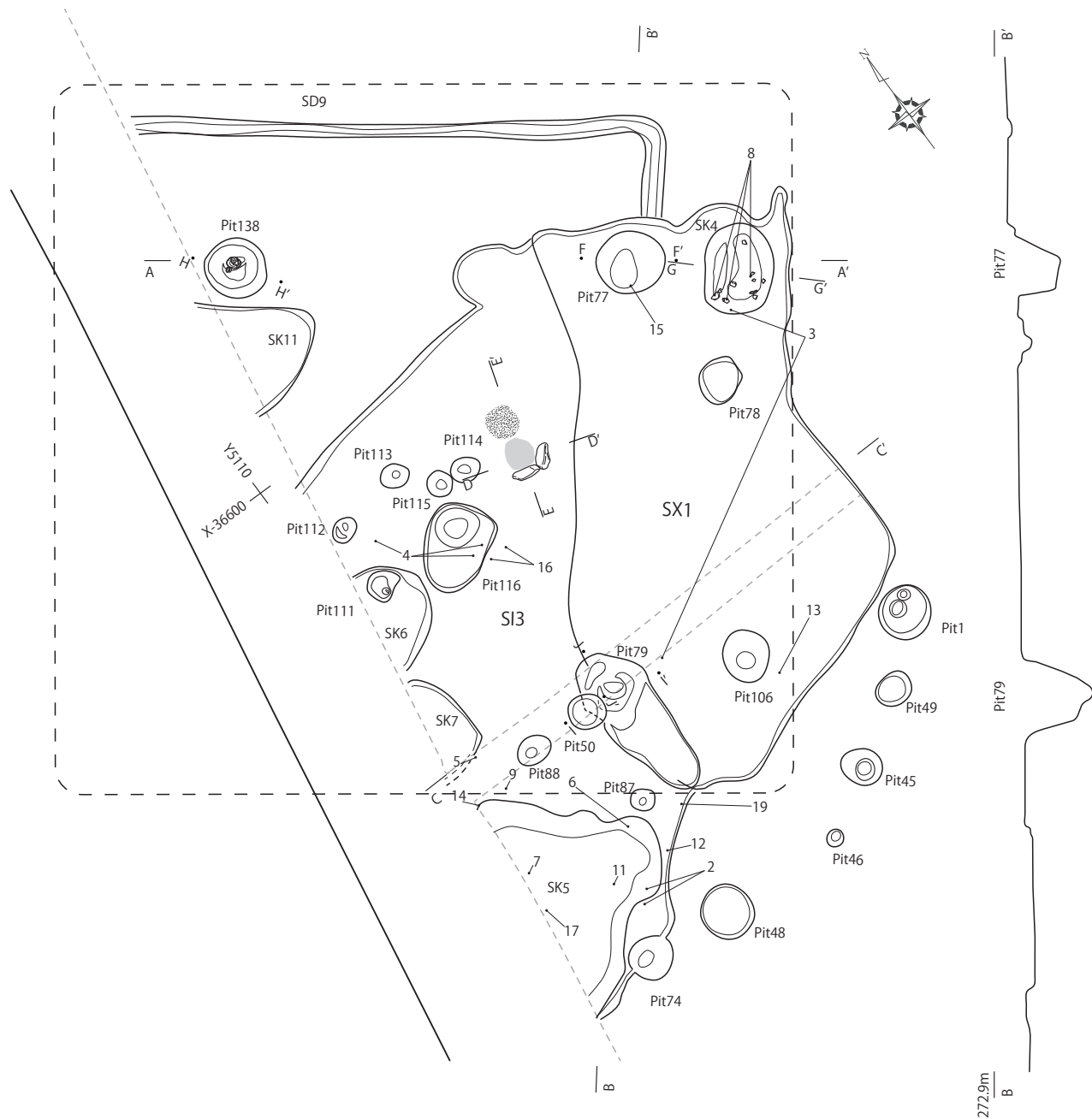
S12 炉

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
焼土・炭化物 3%
- 2 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト  
焼土 30% 炭化物 5% [焼土層]



第17図 S12

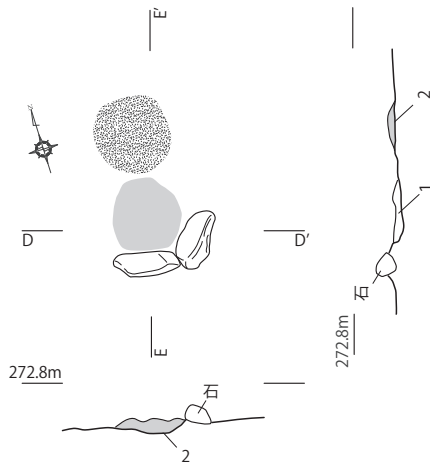




**SX1・SI3**

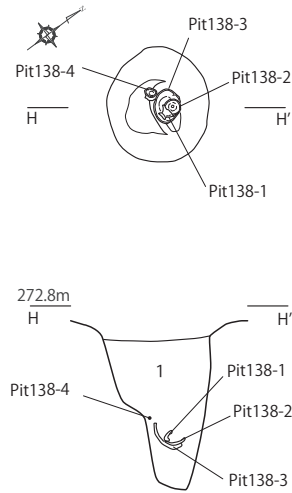
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト  
炭化物・土器小片少量 泥岩粒 3% [SX1]
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
炭化物少量 泥岩粒 5% [SI3]
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 粘土 [Pit88 上層]
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
炭化物粒 3% 粘性あり [Pit79 上層]
- IVc層 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト  
泥岩粒 10% [地山]

第18図 S I 3 (1)



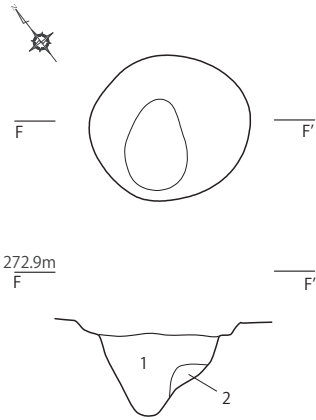
**SI3 炉**

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト  
炭化物粒 7% [炭化物層]
- 2 にぶい赤褐色 (5YR4/3) シルト  
縮まり強 [焼土層]



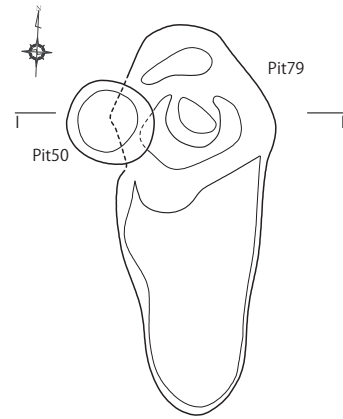
**Pit138**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
酸化鉄分粒 3%



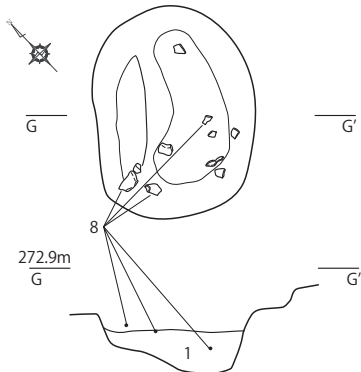
**Pit77**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1~2 mm 砂礫 3% 炭化物粒少量
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト



**Pit79**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルトをブロック状に 30% 含む  
泥岩粒 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
泥岩粒 3%

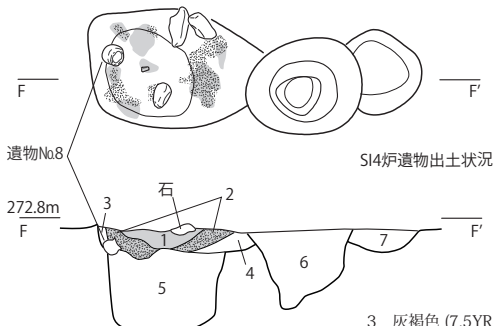
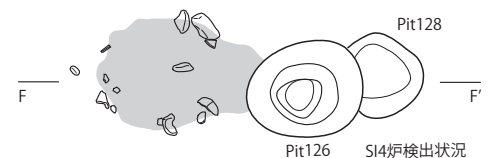
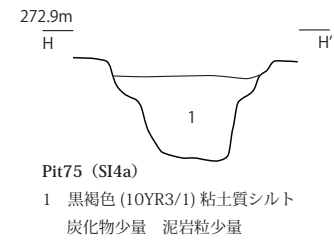
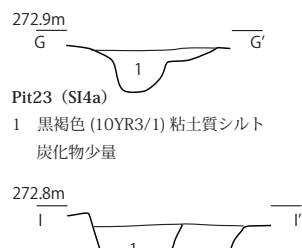
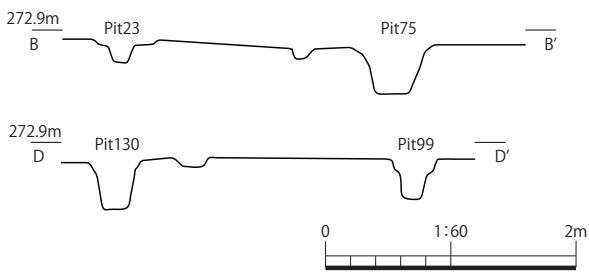
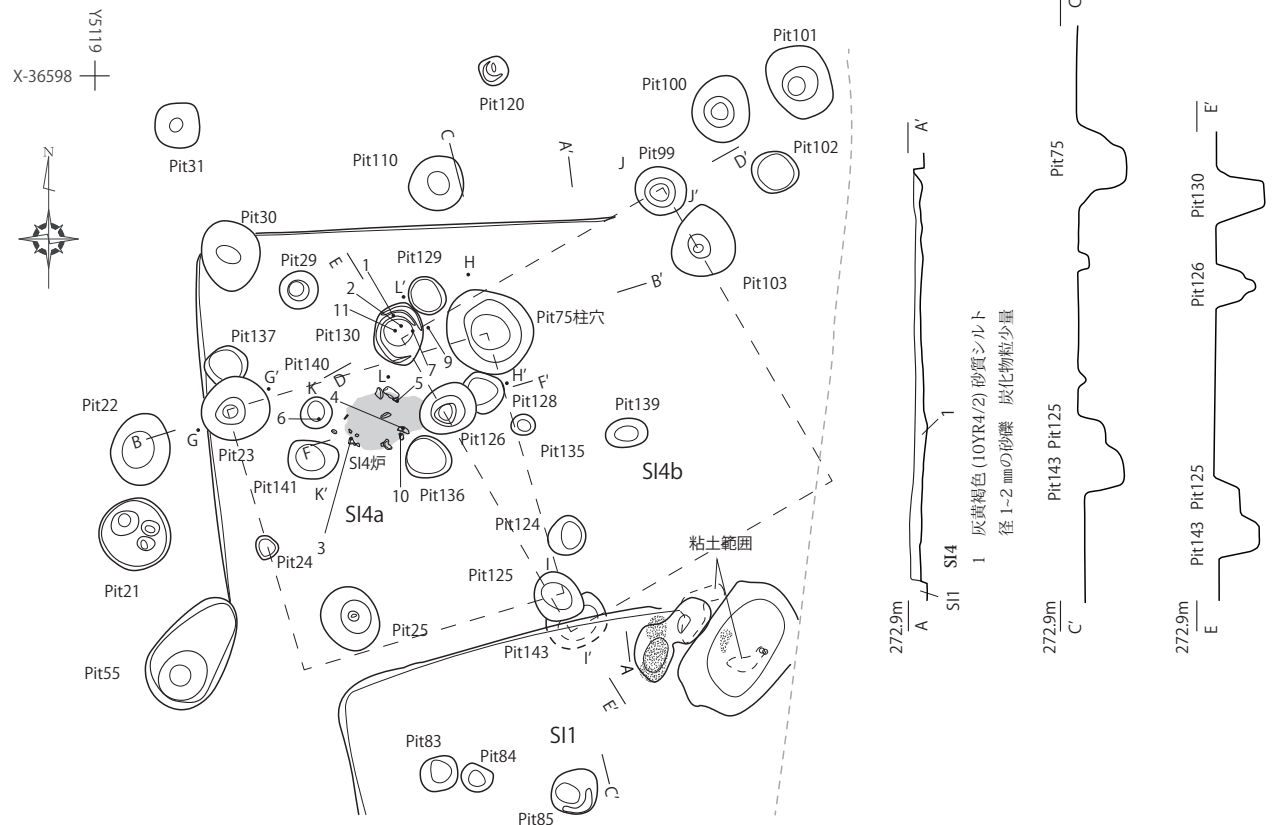


**SK4**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
炭化物粒 3% 土器小片少量



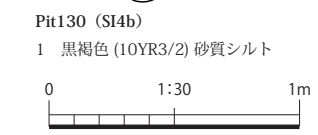
第19図 S I 3 (2)



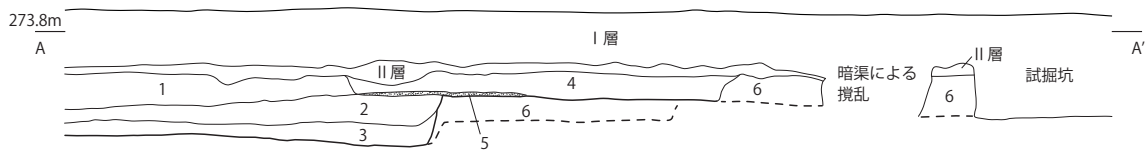
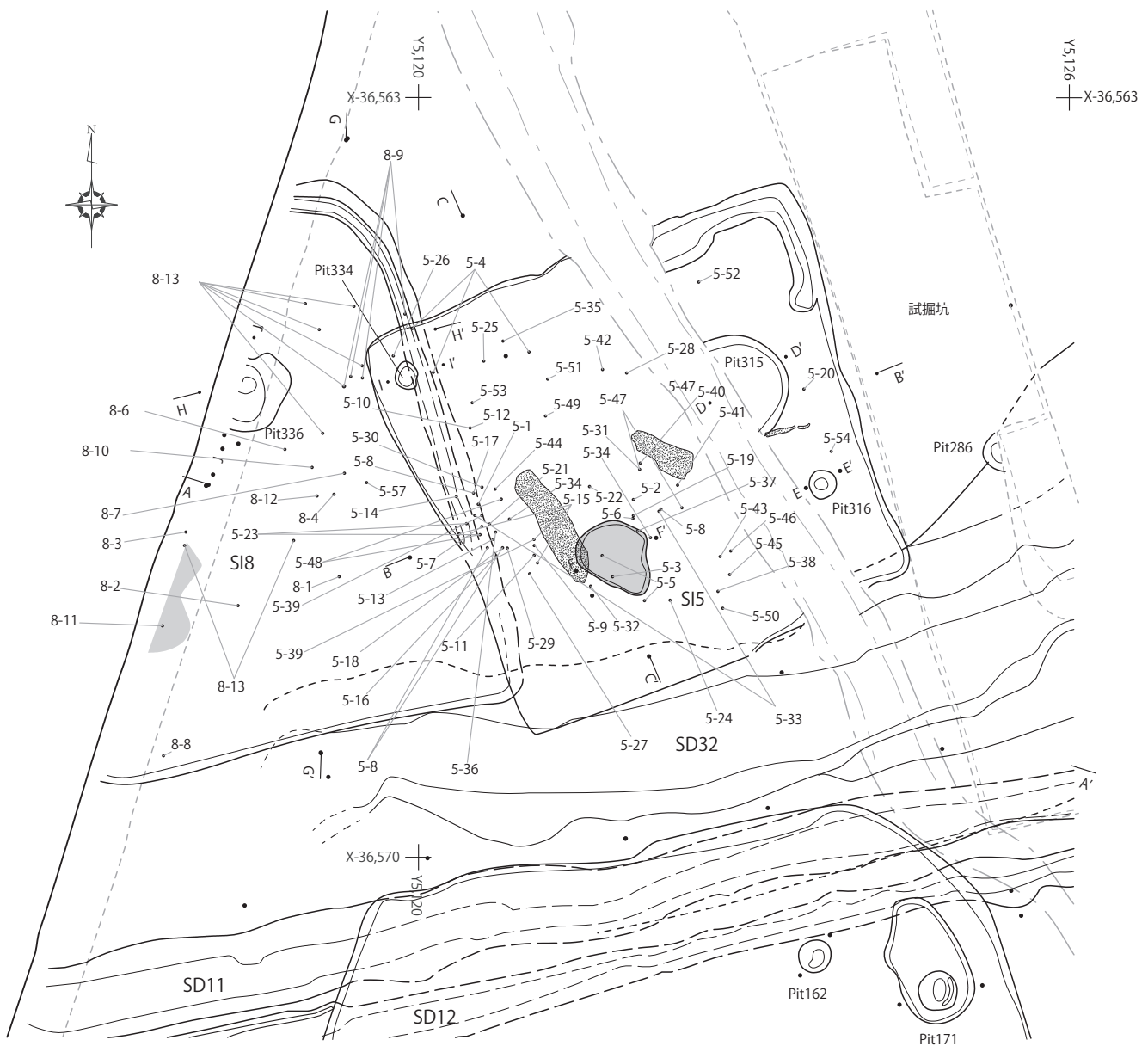
- SI4 炉・Pit126・127**
- 褐色 (7.5YR4/3) シルト  
焼土ブロック 30% 炭化物粒 7%  
[焼土層・SI4 炉]
  - 褐色 (7.5YR4/3) シルト  
焼土ブロック 30% 炭化物 30%  
[焼土・炭化物層・SI4 炉]

- 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト  
炭化物 10% [SI4 炉]
- 褐色 (7.5YR4/3) シルト [SI4 炉]
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
壁面沿いに炭化物・焼土を粒状に 3% 含む  
[Pit127・重複する別建物の柱穴]
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト [Pit126]
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
泥岩粒 1% [Pit128]

- Pit140・141**
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
焼土・炭化物粒 1%



第20図 SI4



I層：造成土 砂礫層

上層：碎石

下層：碎石に径10～30cm石多く含む

II層：水田床土 5Y4/2 灰オリブ色粘土

SI8

1 黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト

径1～2mm砂礫10%

泥岩粒3% 炭化物粒少量

2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト

径1～2mm砂礫1%

泥岩粒1% 炭化物粒少量

3 黒褐色(10YR2/3)砂 締まり弱

SI5

4 黒色(10YR2/1)砂質シルト

径1～2mm砂礫7%

炭化物粒5%

土器小片・焼土粒3% [SI5堆積土]

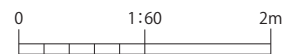
5 黒色(10YR2/1)砂質シルト

径1～2mm砂礫7%

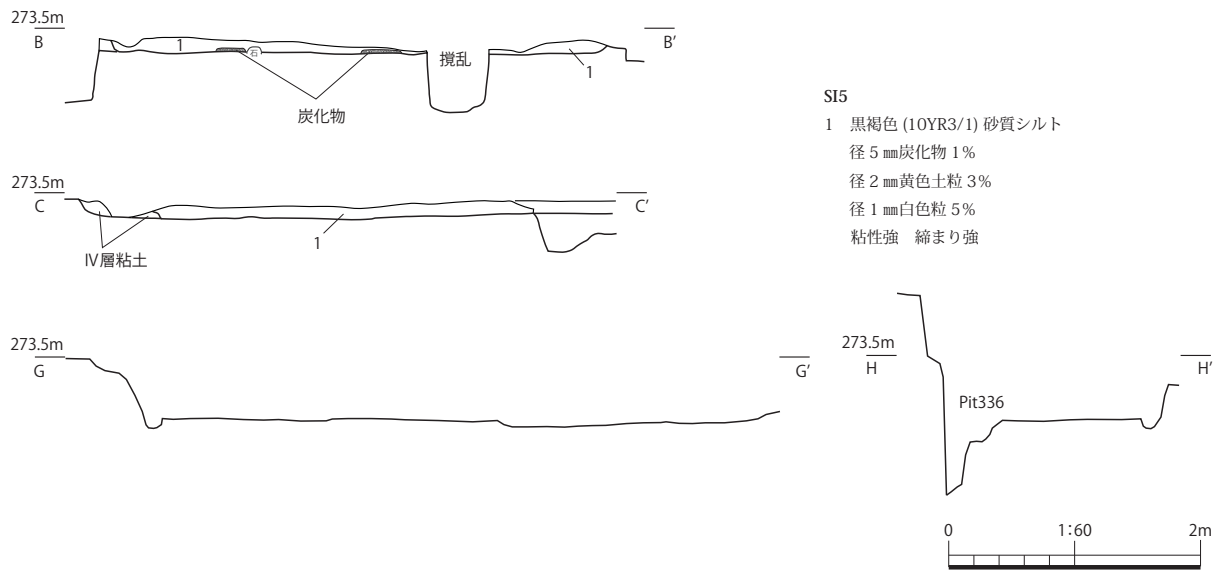
炭化物粒30% [SI5床面炭化物層]

SD32

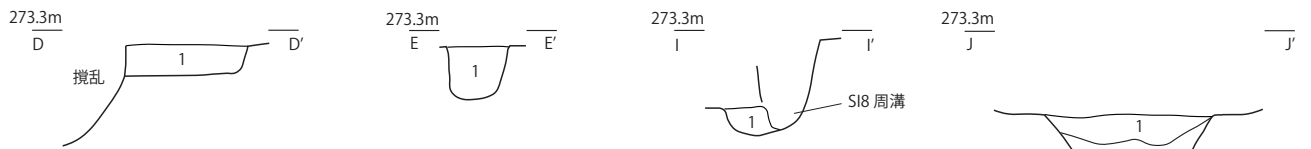
6 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂



第21図 SI5・8(1)



**SI5**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 5 mm 炭化物 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 3%  
 径 1 mm 白色粒 5%  
 粘性強 縮まり強

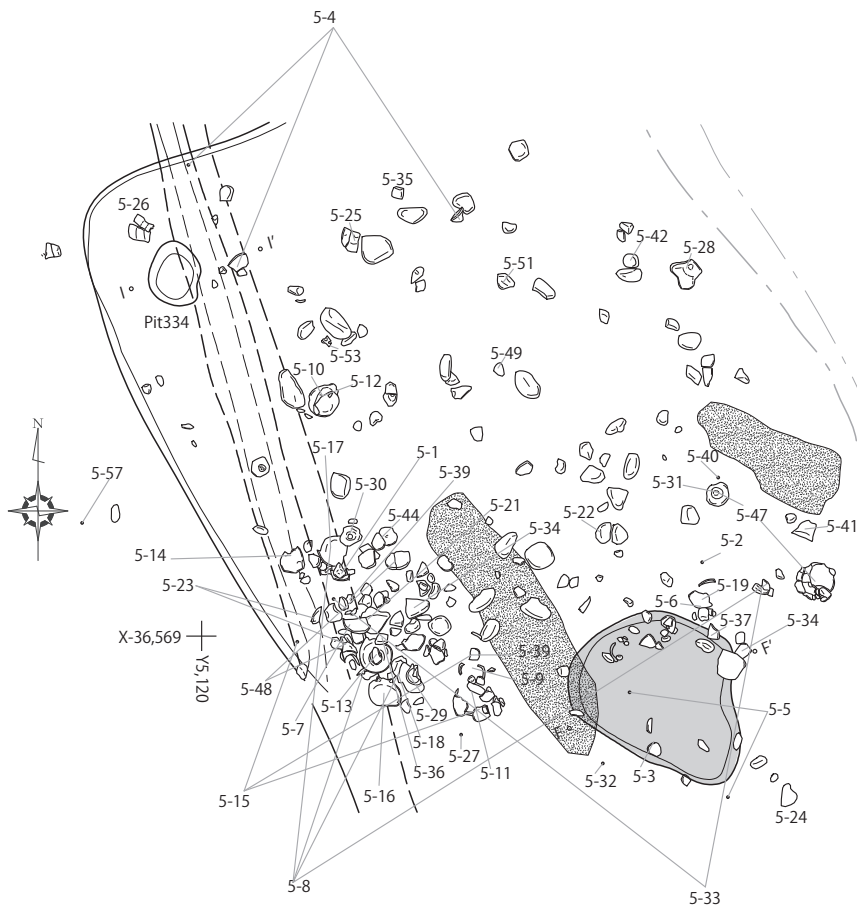


**Pit315**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 2 mm 白色粒 5%  
 径 1 mm 黄色土粒 2%  
 粘性強 縮まりやや弱

**Pit316**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 2 mm 黄色土粒 1%  
 粘性強 縮まりやや弱

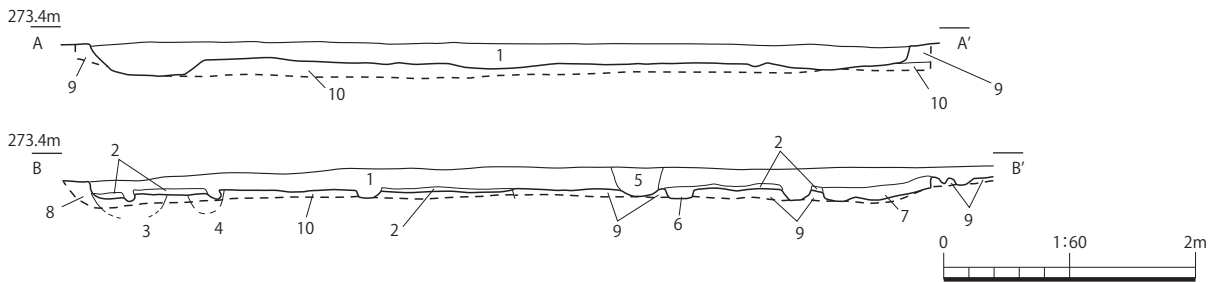
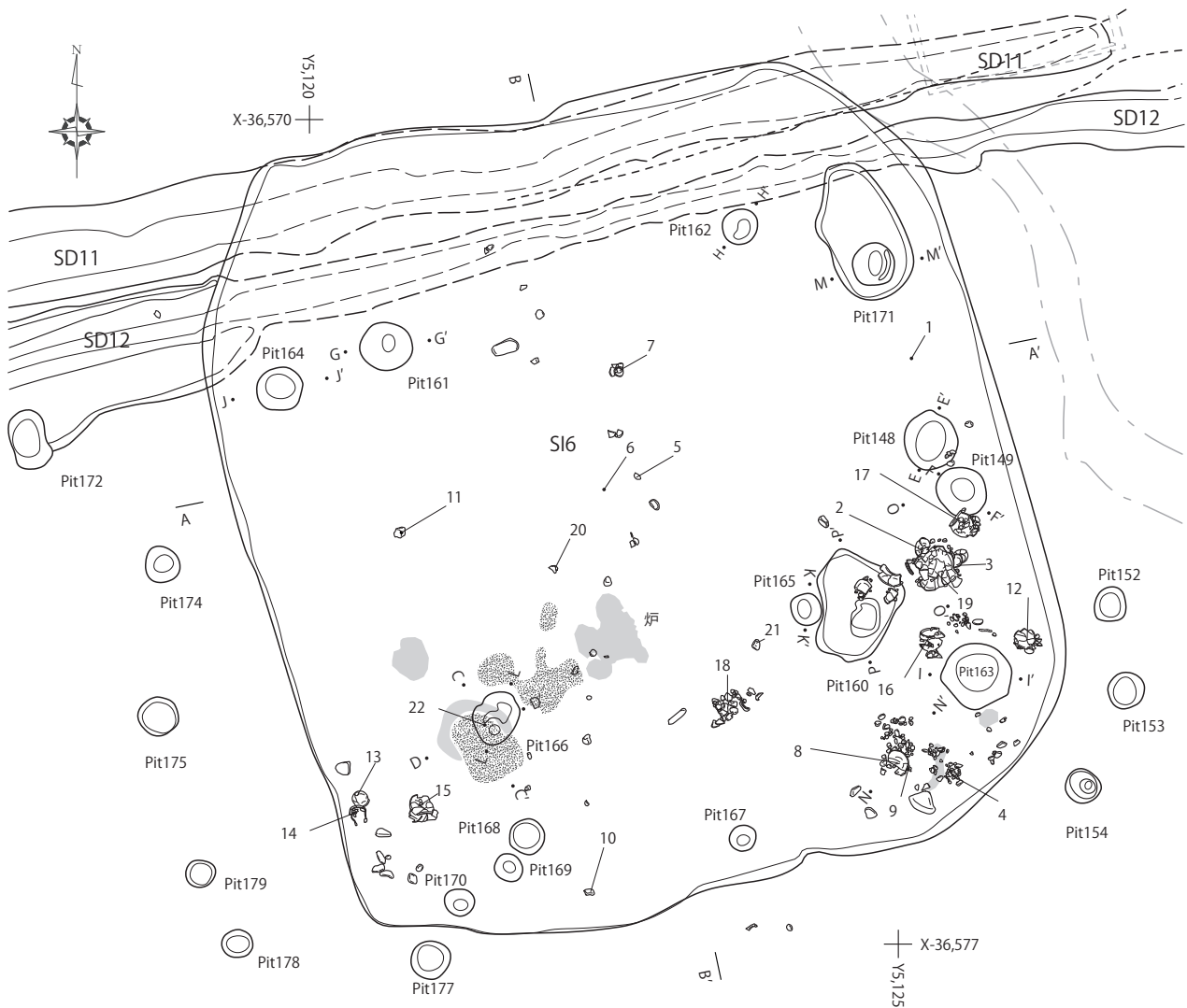
**Pit334**  
 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
 粘性強 縮まり強  
 径 10 mm 泥岩粒 1%  
 径 1 mm 白色粒 1%  
 台付裏破片出土

**Pit336**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 粘性強 縮まり強  
 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2%  
 2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
 粘性強 縮まりやや弱  
 径 5 mm 炭化粒 2%  
 径 5 mm 黄色土粒 1%  
 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 粘性強 縮まりやや弱  
 径 5 mm 黄色土粒 1%

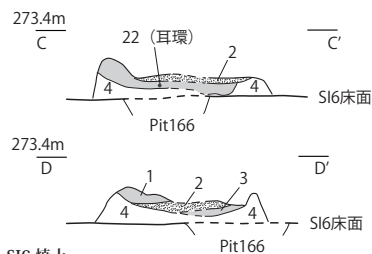


**SI5 加**  
 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
 径 1 mm 黄色土粒 5%  
 粘性弱 縮まり強  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 1 mm 焼土粒 2%  
 粘性強 縮まり強  
 3 黒色 (10YR1.7/1) 炭  
 藁束状の炭化物  
 4 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 2 ~ 5 mm 焼土粒 5%  
 径 2 mm 炭化粒 3%  
 粘性強 縮まりやや弱

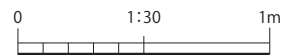
第22図 SI5・8(2)



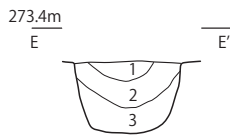
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% 径 5 ~ 10 mm 泥岩粒 1%
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土 [SI6 床面]
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 10% [SD11]
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 10% [SD12]
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒 3% [SI6 炉]
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト
- 8 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂  
径 2 ~ 5 cm の礫多く含む [SD32・SI6 地山]
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 粘土 [SI6 地山]
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
径 5 mm 泥岩粒 7%  
[SD32の影響を受けた層・SI6 地山]



- SI6 焼土
- 1 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘土質シルト 焼土ブロック 30% [焼土層]
  - 2 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘土質シルト 炭化物 30% [炭化物層]
  - 3 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘土質シルト 焼土粒 30% [焼土層]
  - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト [SI6 堆積土]

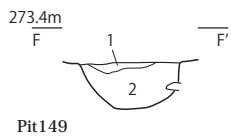


第23図 SI6(1)



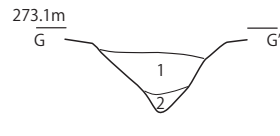
Pit148

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘土 [II層ベース]
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
径 1~2 mm 砂礫 7%  
炭化物粒 1%
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
にぶい黄褐色 (10YR5/4)30%



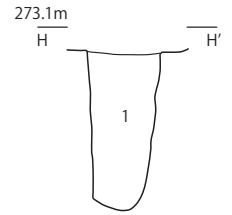
Pit149

- 1 灰色 (5Y4/1) 粘土 [II層ベース]
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
径 1~2 mm 砂礫 7%  
炭化物粒 1%



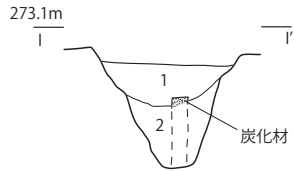
Pit161

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
締まり弱



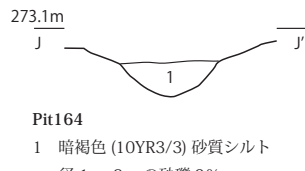
Pit162

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
締まり弱



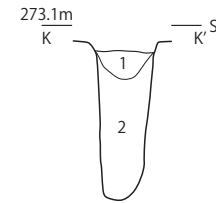
Pit163

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2 mm 砂礫・炭化物粒 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
締まり弱



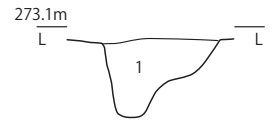
Pit164

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2 mm の砂礫 3%



Pit165

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状 30%
- 2 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト



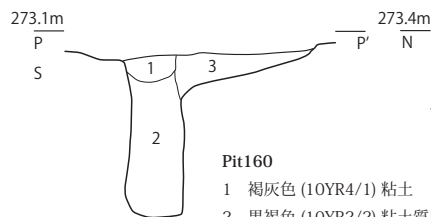
Pit166

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2 mm 砂礫 7%



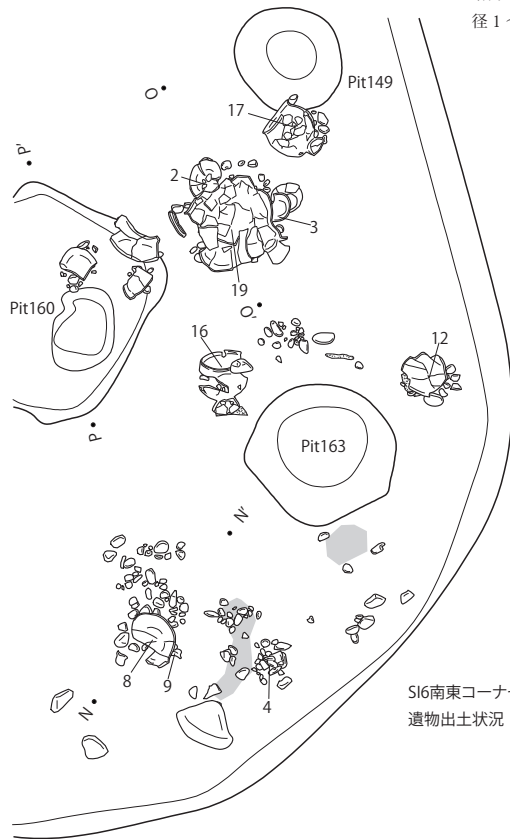
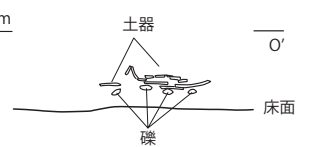
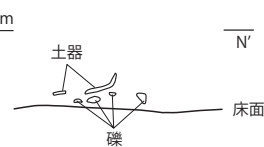
Pit171

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2 mm 砂礫 5%

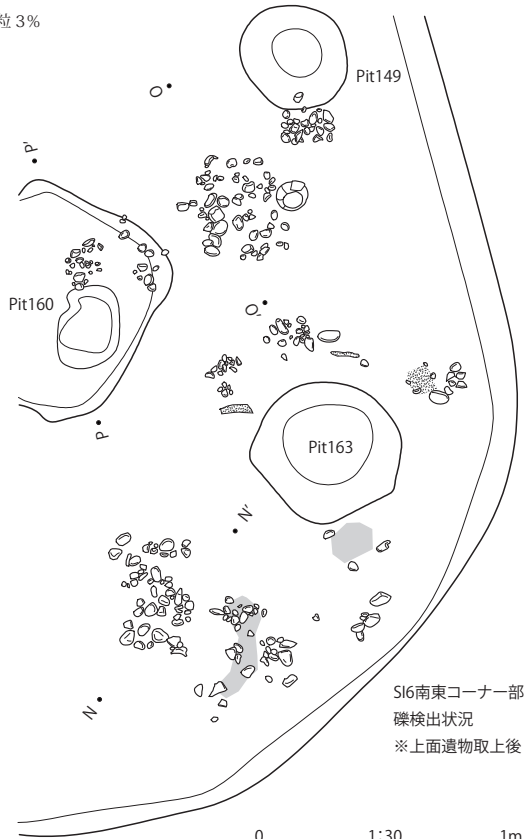


Pit160

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 粘土
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘土質シルト 締まり弱
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1~2 mm の砂礫・炭化物粒 3%



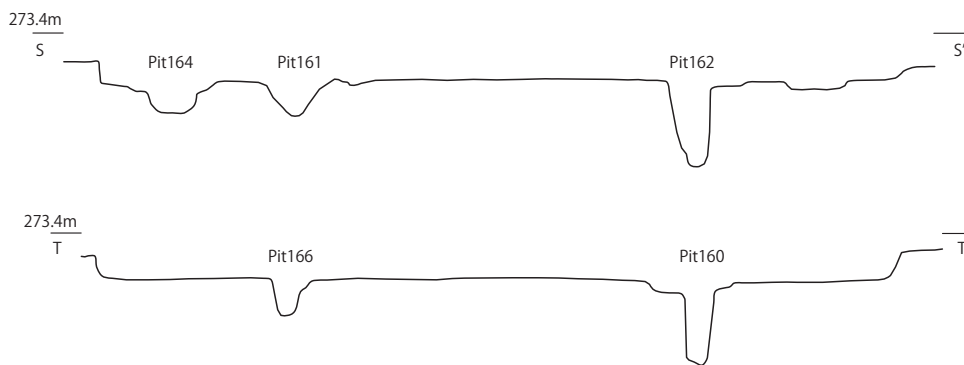
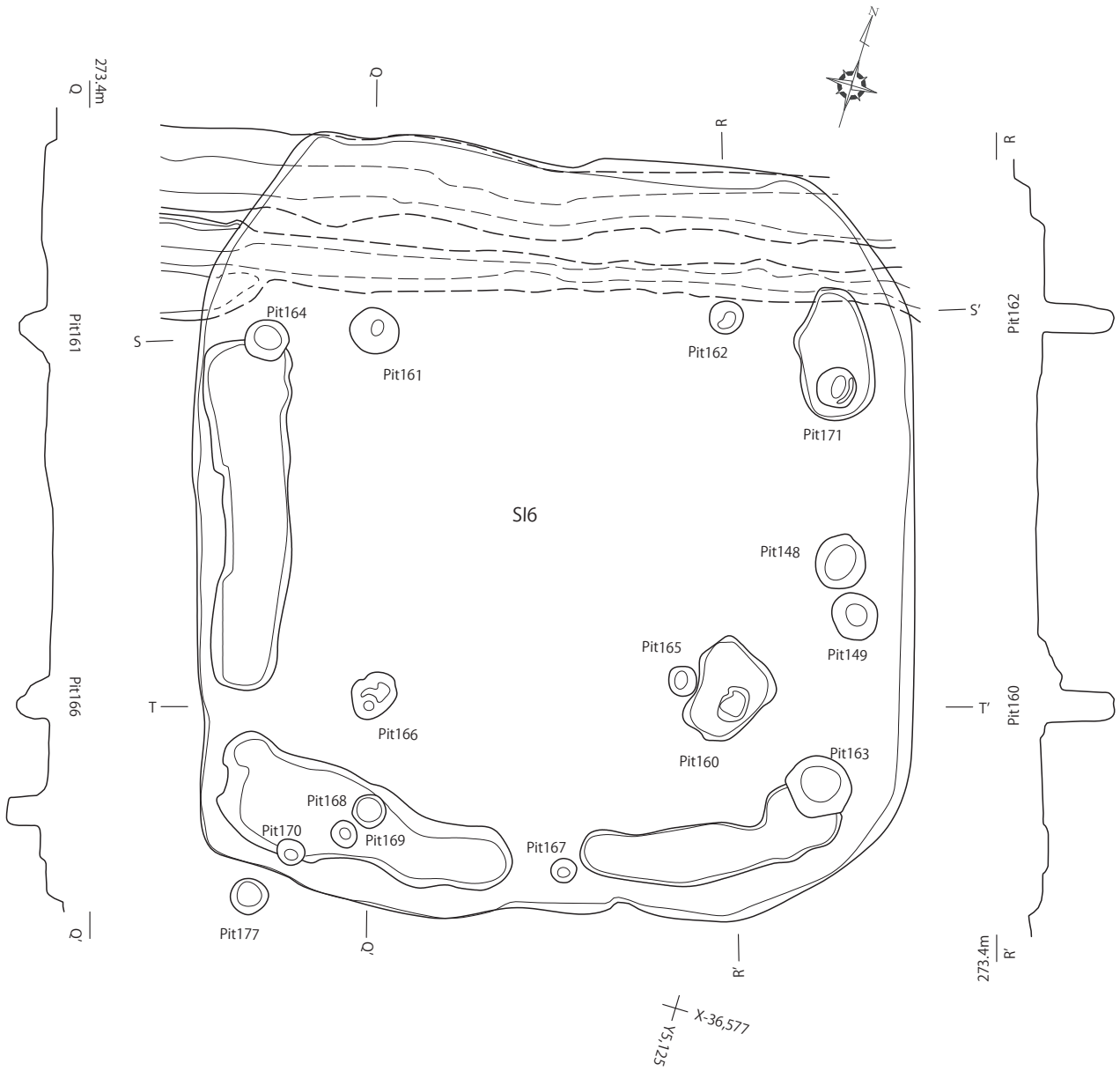
S16南東コーナー部  
遺物出土状況



S16南東コーナー部  
礫検出状況  
※上面遺物取上後

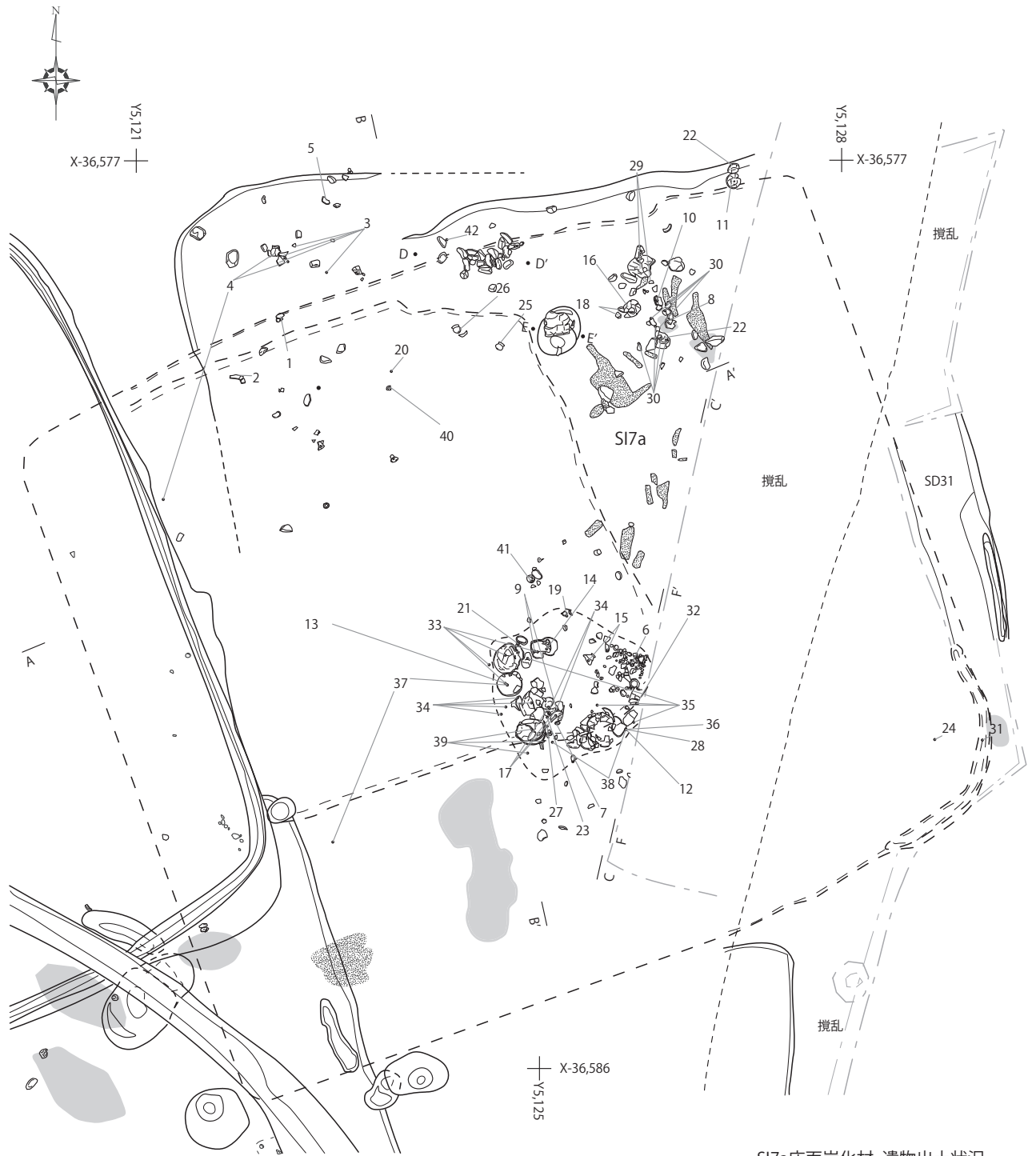


第24図 S16(2)



第25図 S16(3)

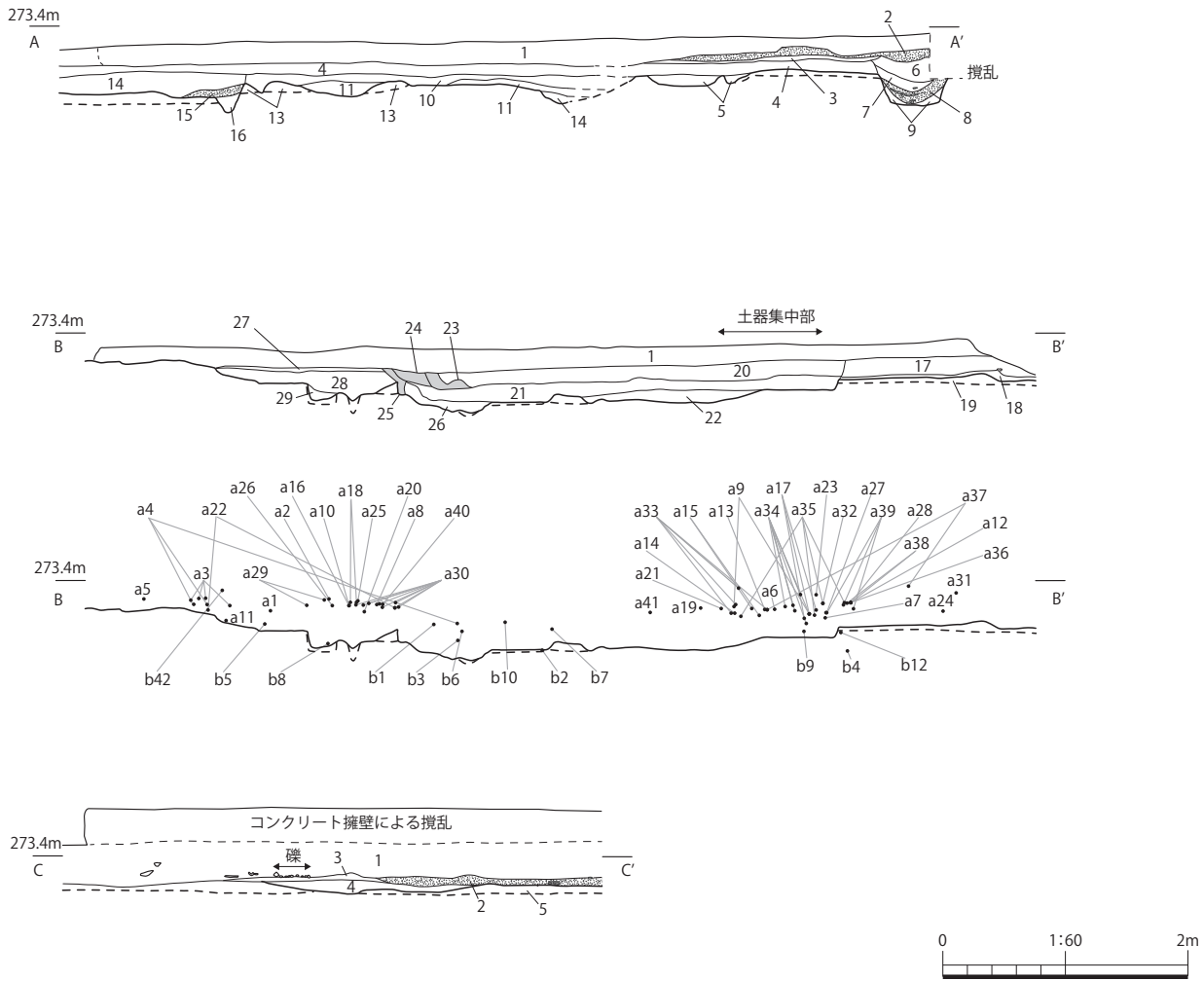




SI7a床面炭化材・遺物出土状況



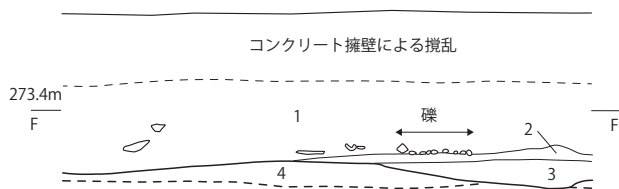
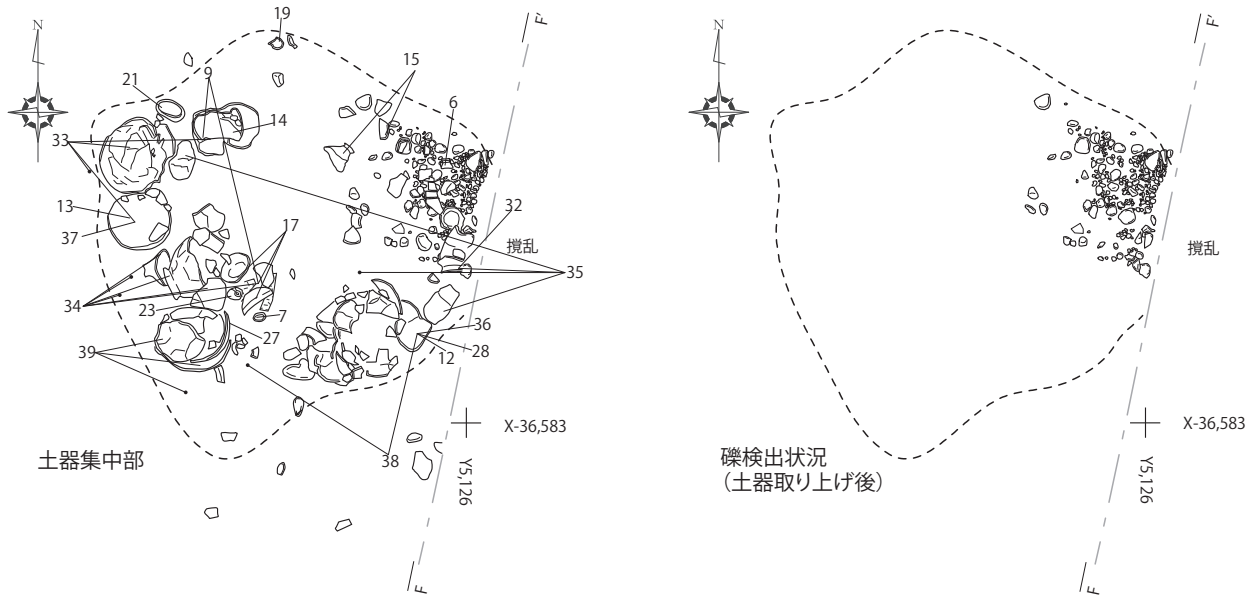
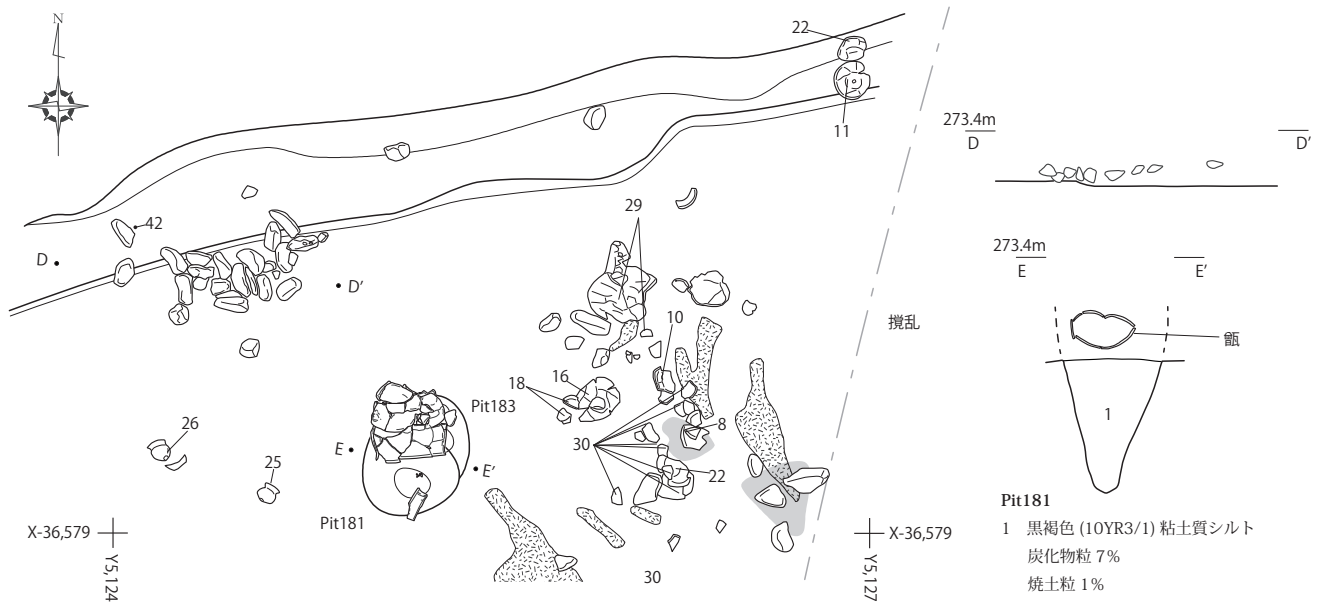
第26図 SI7(1)



SI7a・b

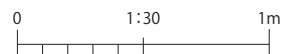
- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 10%</p> <p>2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br/>炭化物 7% [炭化物層]</p> <p>3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト<br/>暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 30%<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br/>硬く締まる [SI7a 床面]</p> <p>4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫 10%</p> <p>5 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫・泥岩粒 7%</p> <p>6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 3 mm の砂礫 10% [Pit180]</p> <p>7 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>焼土粒状に 1%<br/>炭化物粒状に 3% [Pit180]</p> <p>8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>炭化物粒状に 10%<br/>焼土ブロック状に 7% 含む<br/>土器片多く含む [Pit180・炭化物層]</p> <p>9 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト [Pit180]</p> | <p>10 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>焼土粒 10%</p> <p>11 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト<br/>焼土粒 7%</p> <p>12 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト</p> <p>13 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂<br/>崩れた泥岩多量に含む</p> <p>14 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br/>炭化物粒 3% [SI10 堆積土]</p> <p>15 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br/>炭化物粒 30%<br/>[SI10 堆積土・炭化物層]</p> <p>16 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト [SI10 堆積土]</p> <p>17 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%</p> <p>18 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト</p> <p>19 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト</p> <p>20 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% 土器細片含む</p> | <p>21 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3% [堆積土]</p> <p>22 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト [堆積土]</p> <p>23 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にぶい橙色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土ブロック 30% [焼土層]</p> <p>24 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にぶい橙色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土ブロック 10% [焼土層]</p> <p>25 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト<br/>にぶい橙色 (7.5YR6/4) シルト<br/>焼土粒 5% [焼土層]</p> <p>26 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト</p> <p>27 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト<br/>締まり強 [SI7a 床面]</p> <p>28 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト</p> <p>29 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト<br/>炭化物・焼土 5% 締まり弱 [Pit194]</p> |
|--|---|--|

第27図 SI7(2)

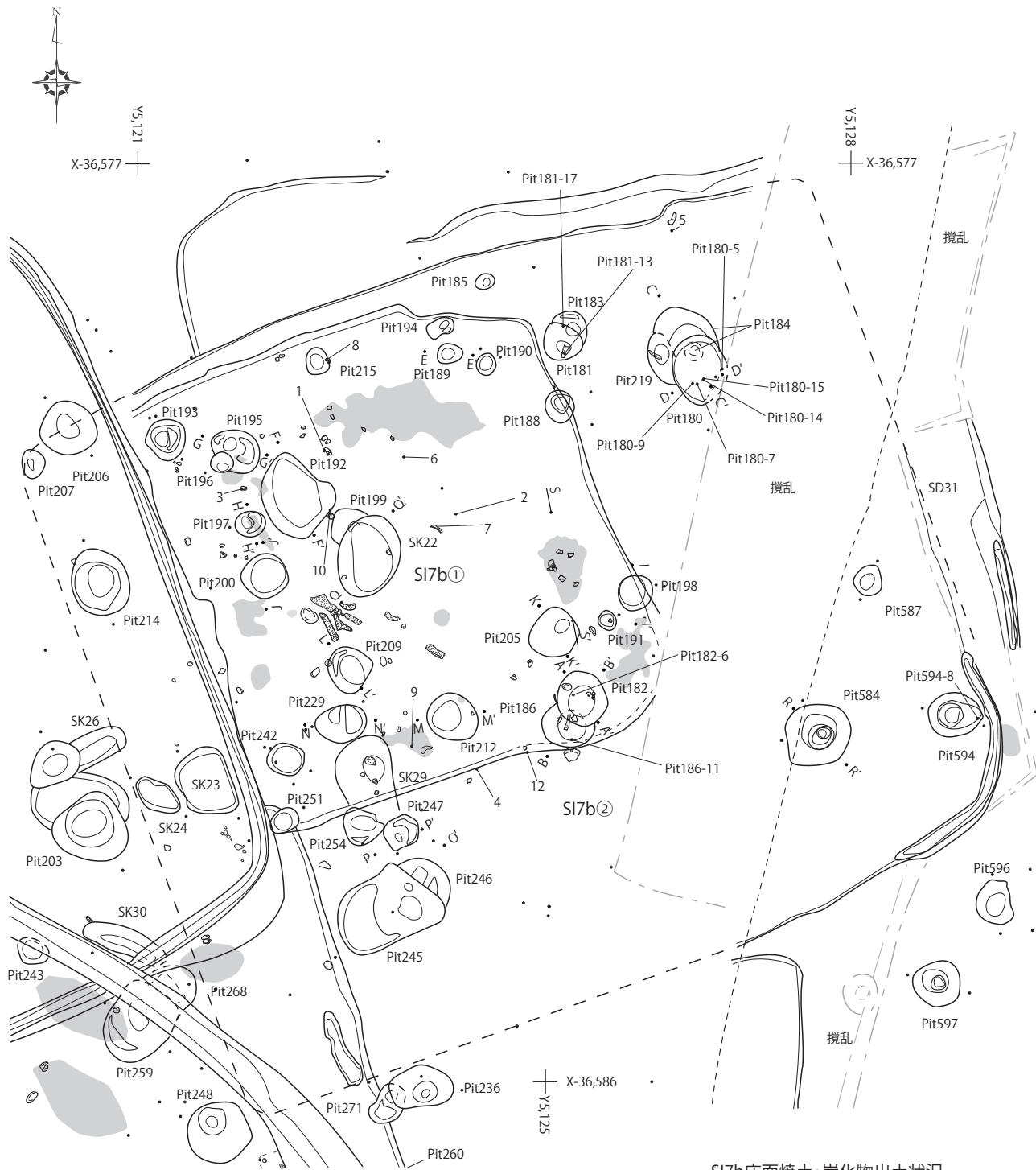


SI7

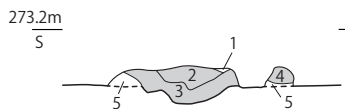
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 10%
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト  
暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 30% 含む  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
締め強 [SI7a 床面]
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 3 mm 砂礫 10%
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 ~ 3 mm 砂礫・泥岩粒 7%



第28図 SI7(3)



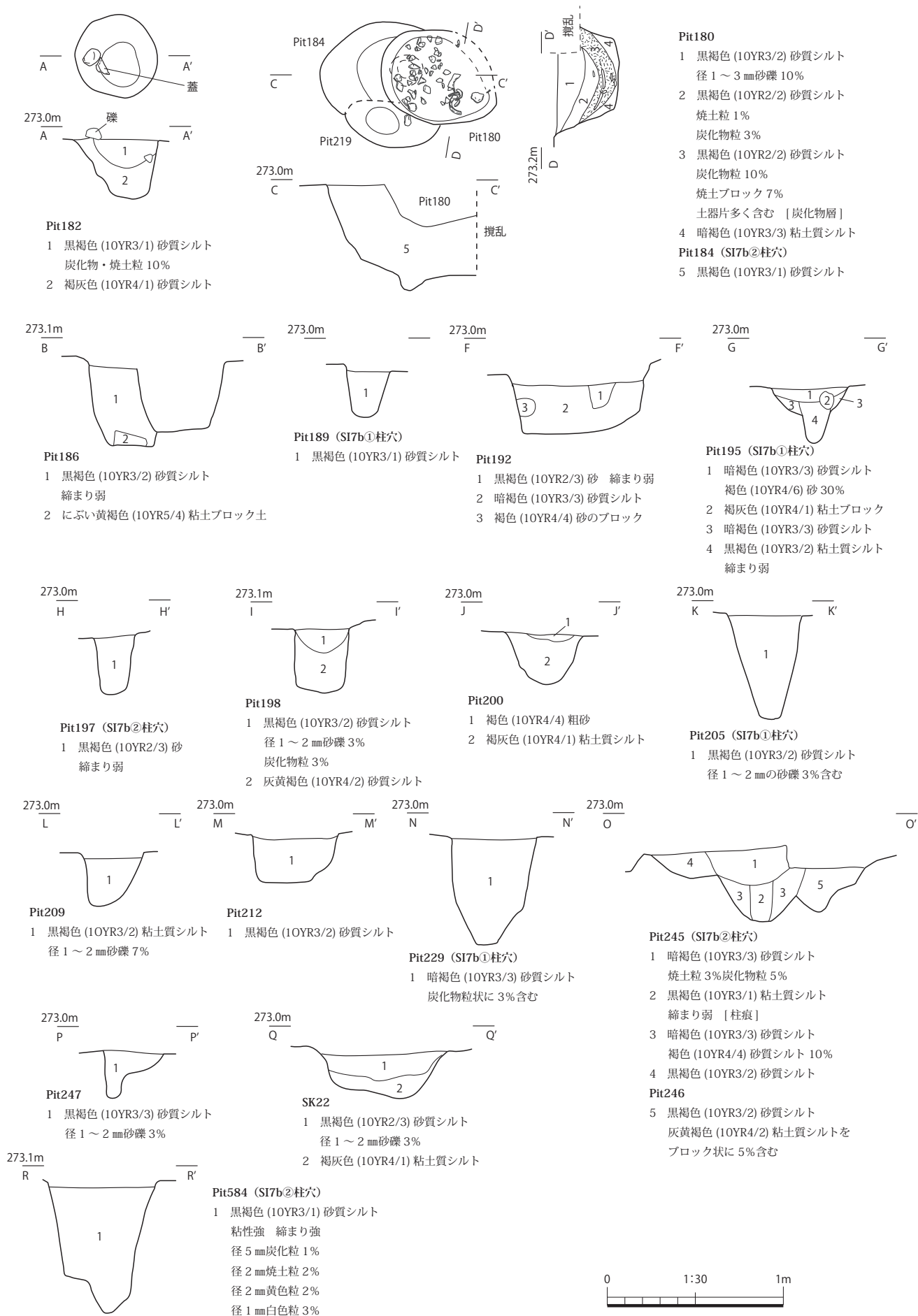
SI7b床面焼土・炭化物出土状況



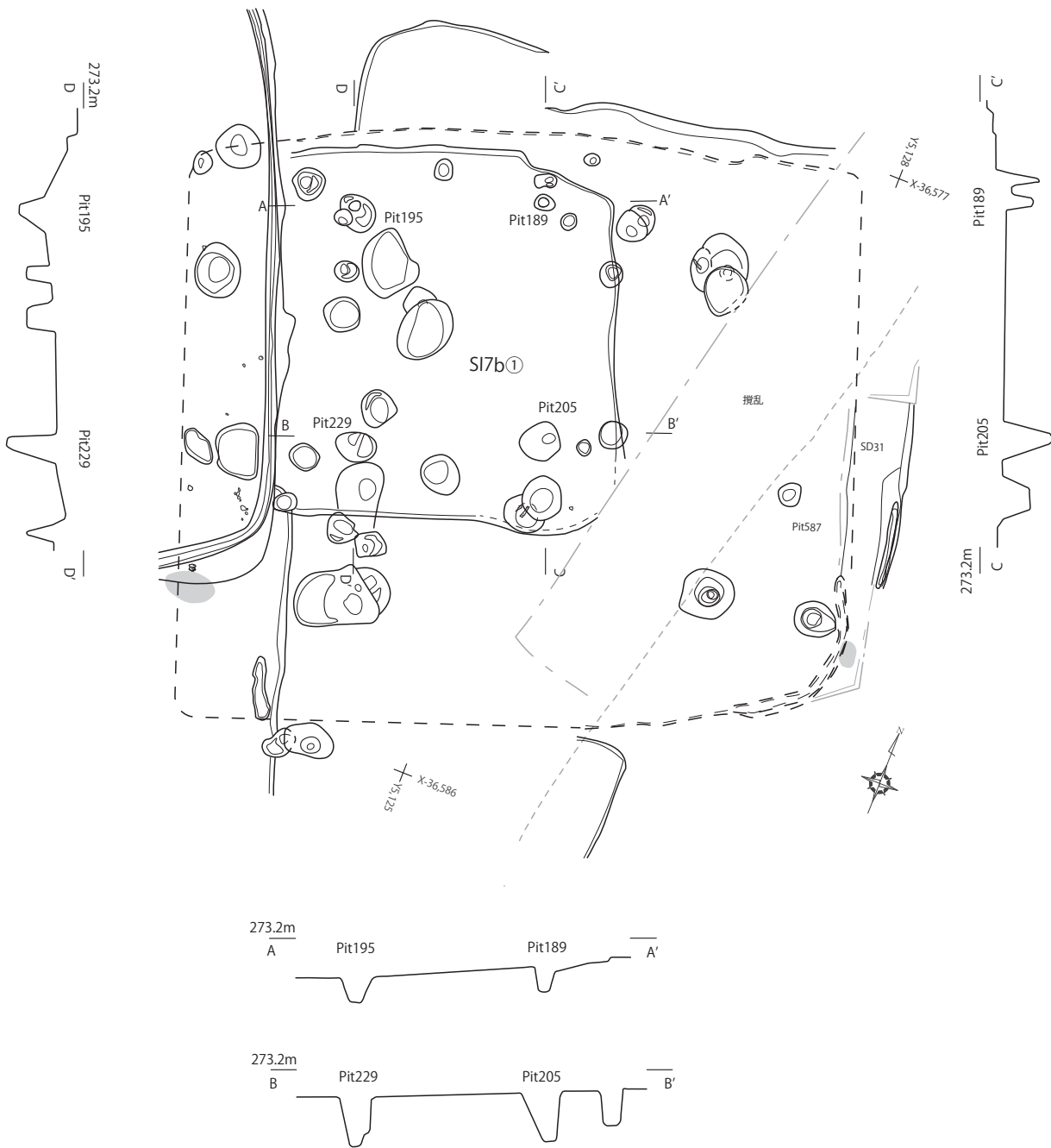
SI7b 切

- 1 にぶい黄褐色 (10YR7/3) 粘土
- 2 暗赤褐色 (5YR3/6) シルト [焼土層]
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト 焼土 10% [焼土層]
- 4 赤褐色 (5YR4/6) 砂質シルト [焼土層]
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト

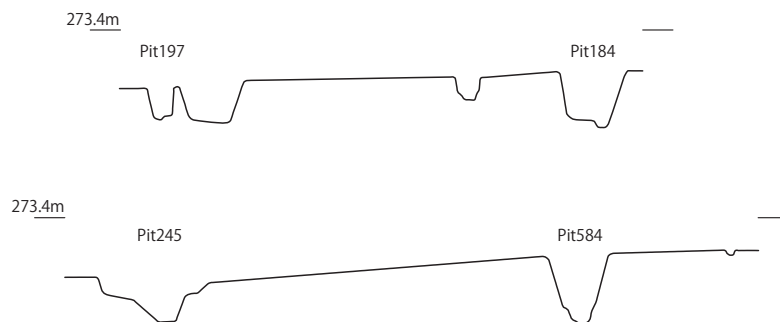
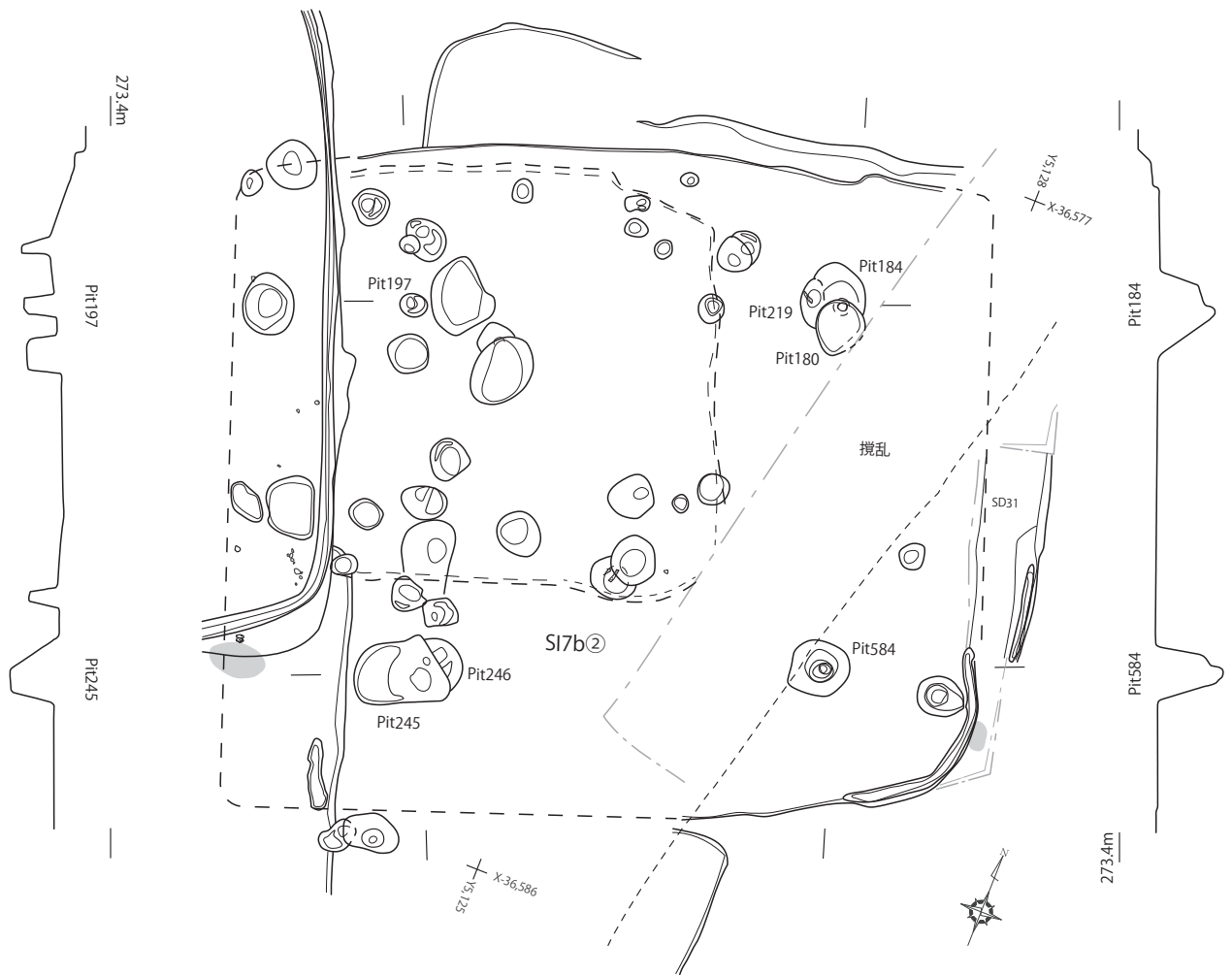
第29図 SI7(4)



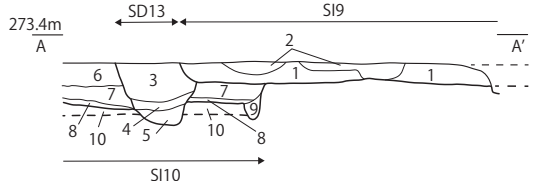
第30図 S I 7 (5)



第31图 SI7(6)



第32図 S17(7)



**SI9**

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%  
焼土粒 7%



**SD13**

- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト  
径 5 ~ 10 cm の石多く含む
- 4 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂

**SI10**

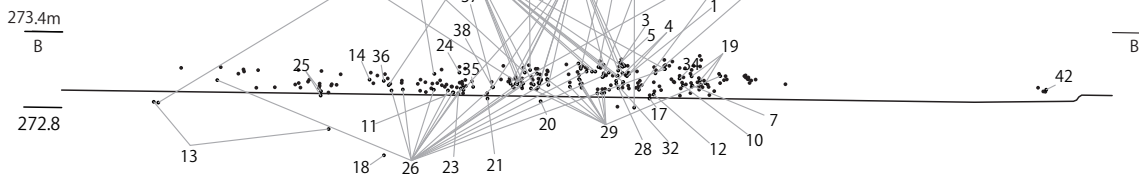
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% 炭化物粒 3%
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 5% 炭化物粒 30%  
[炭化物層]
- 9 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト [壁際溝]

**古墳包含層**

- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%  
炭化物粒 1%

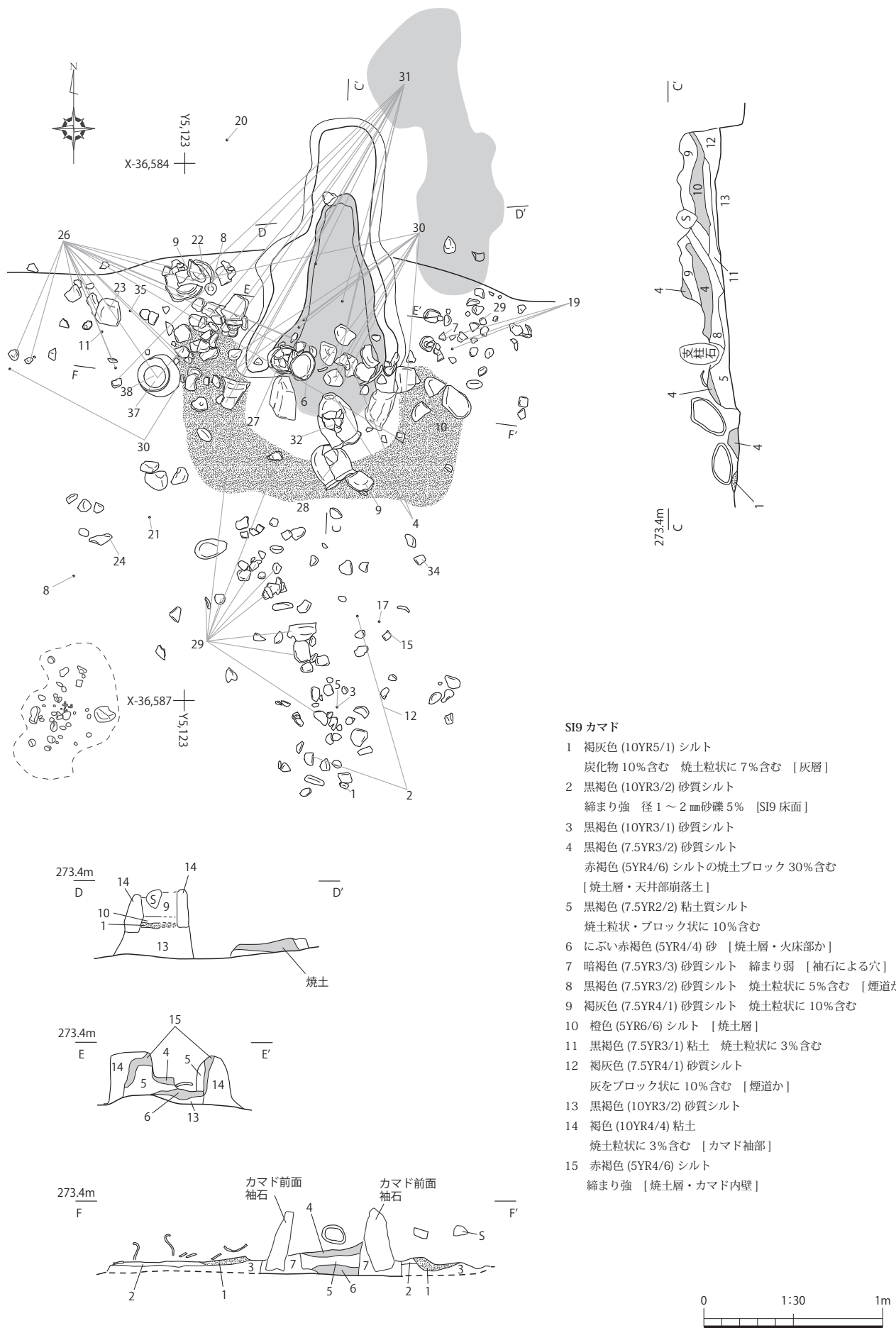
**地山・IV層**

- 10 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト  
泥岩粒 7%

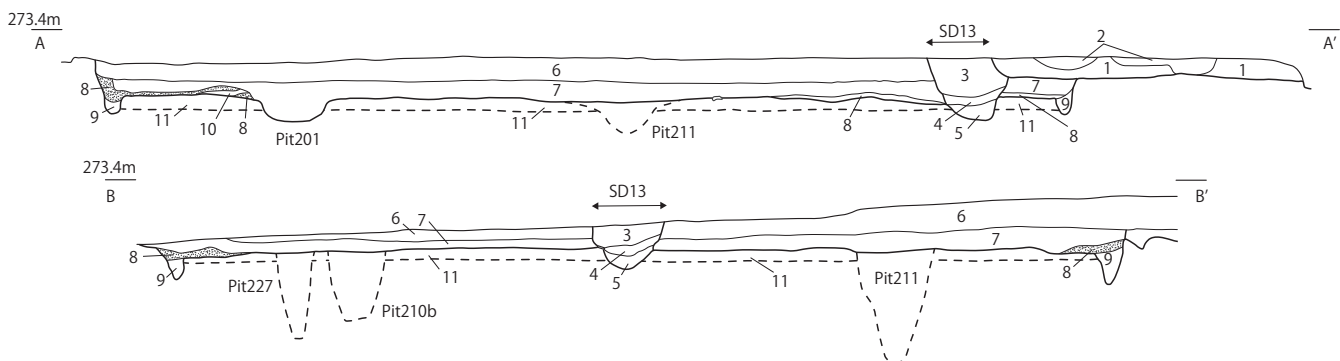
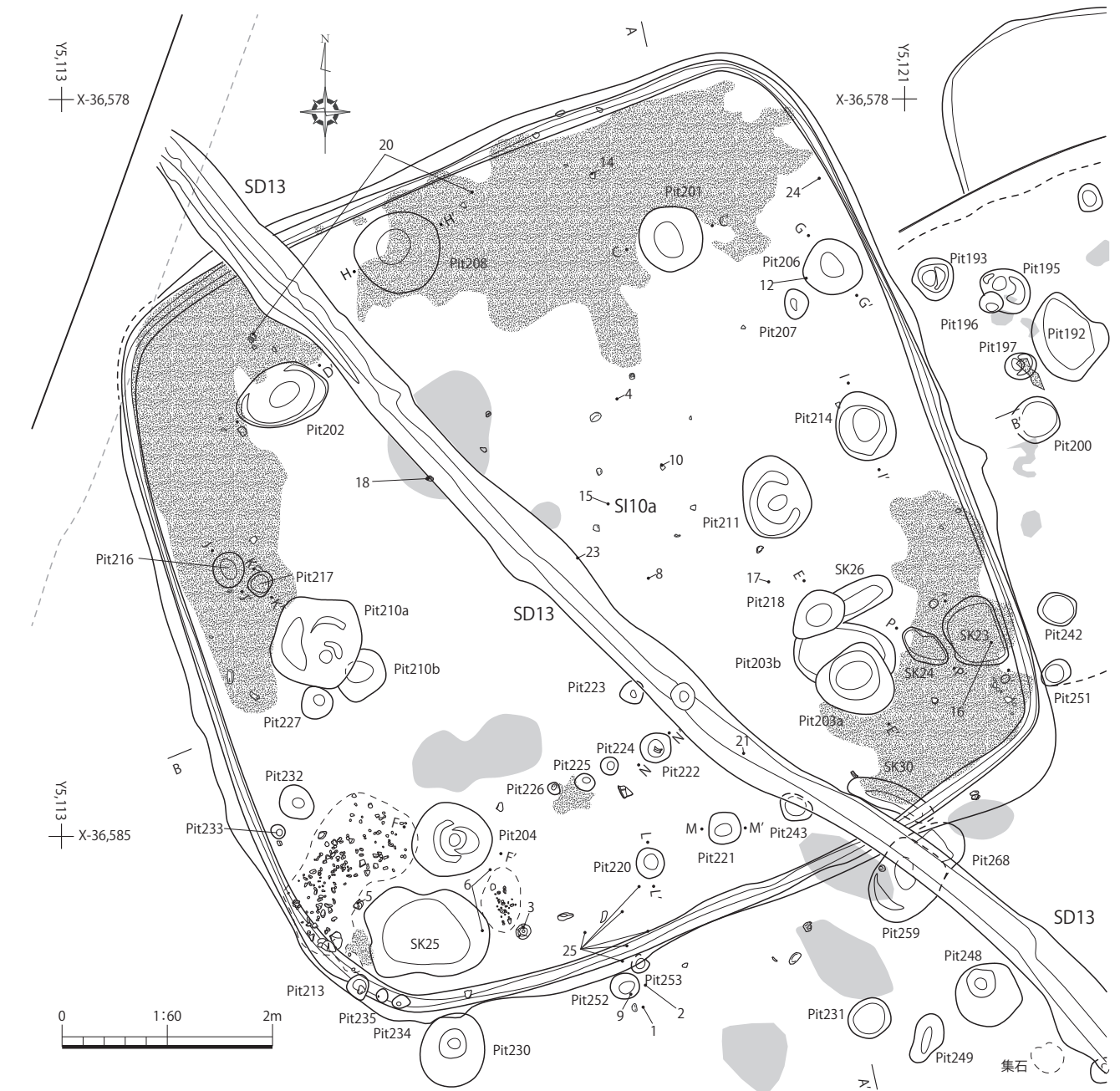


第33図 S I 9 (1)



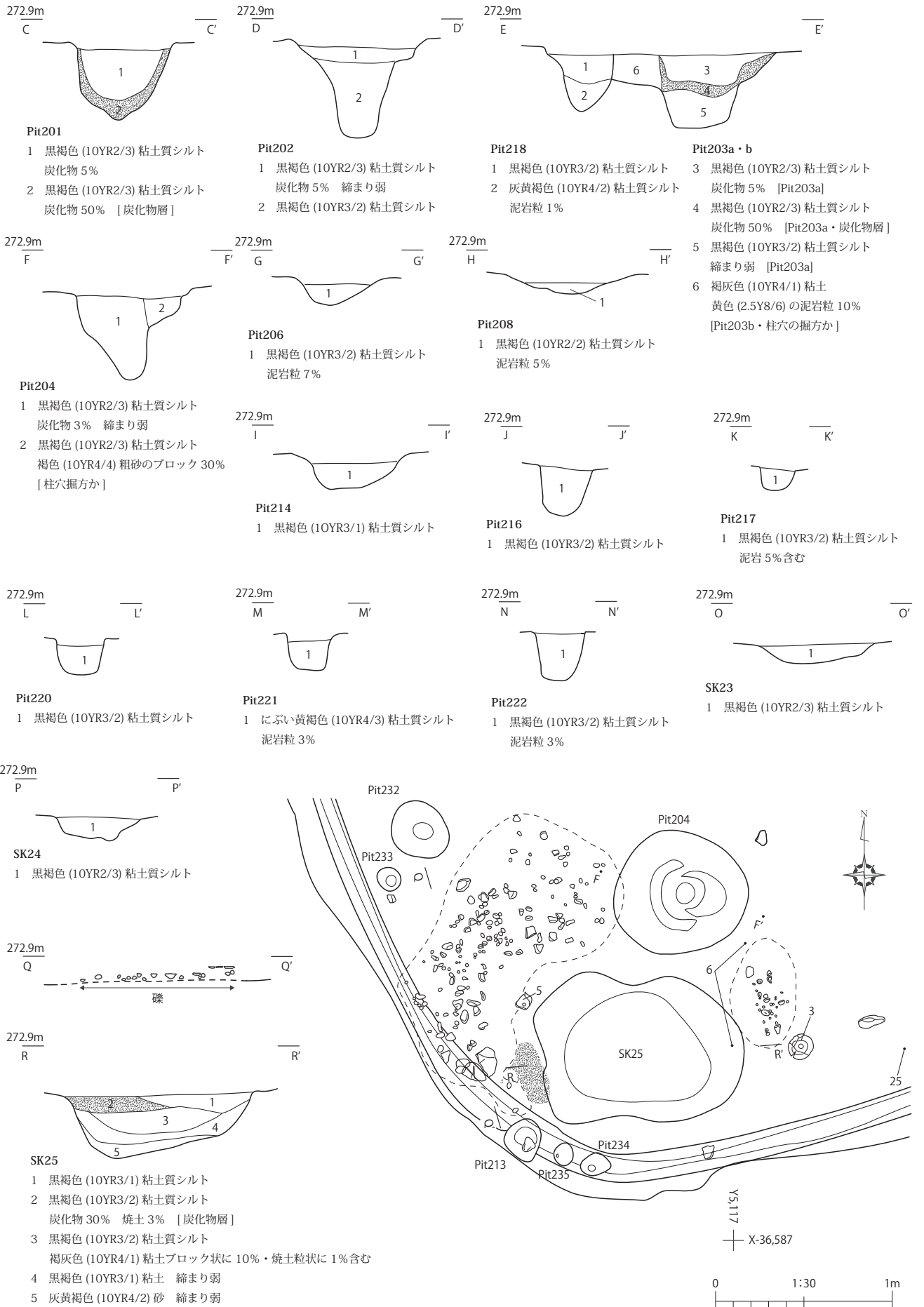


第34図 SI9(2)

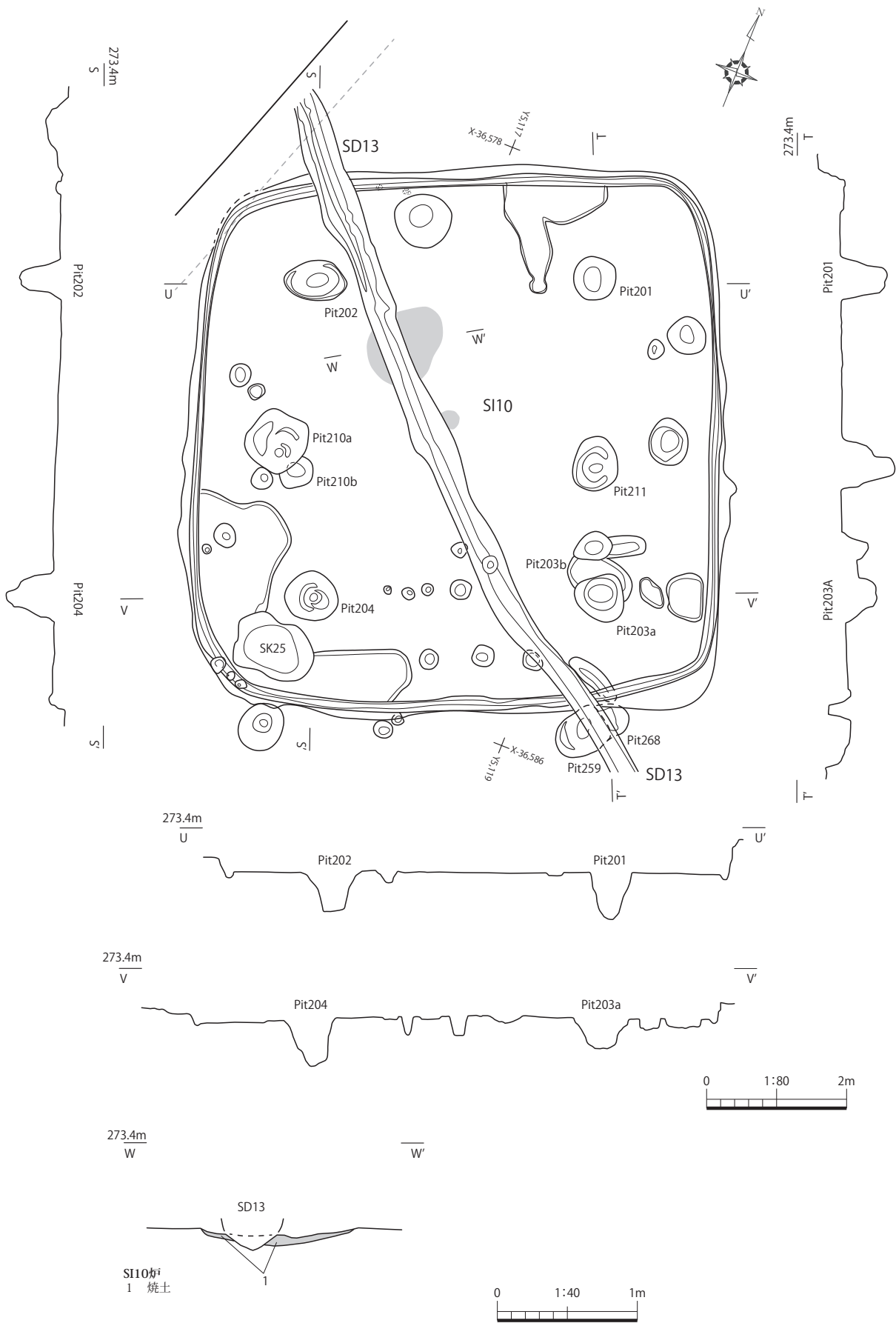


- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%<br>[SI9 堆積土]           | 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト<br>径 5 ~ 10 cm の石多く含む [SD13]           | 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br>炭化物粒 3% [SI10 堆積土]      | 9 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>[SI10 壁際溝]        |
| 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 3%<br>焼土粒 7%<br>[SI9 堆積土] | 4 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂 [SD13]                                     | 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 5%<br>炭化物粒 30%<br>[SI10 炭化物層] | 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト<br>泥岩粒 10%          |
|  | 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 [SD13]                                     |  | 11 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土質シルト<br>泥岩粒 7% [地山・IV層] |
|  | 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト<br>径 1 ~ 2 mm 砂礫 7%<br>炭化物粒 1% [古墳包含層] |  |  |

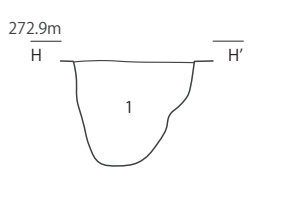
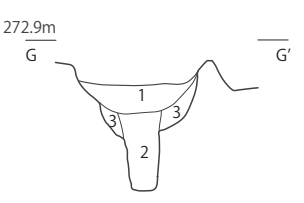
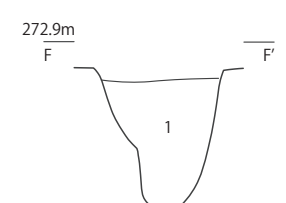
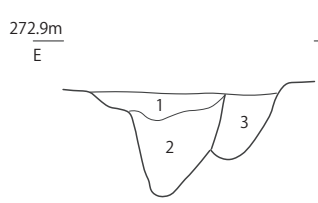
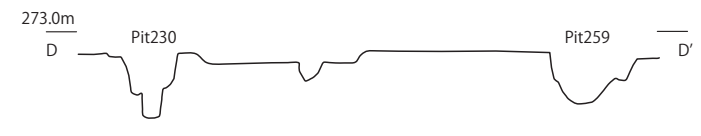
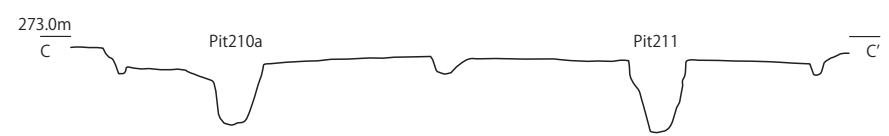
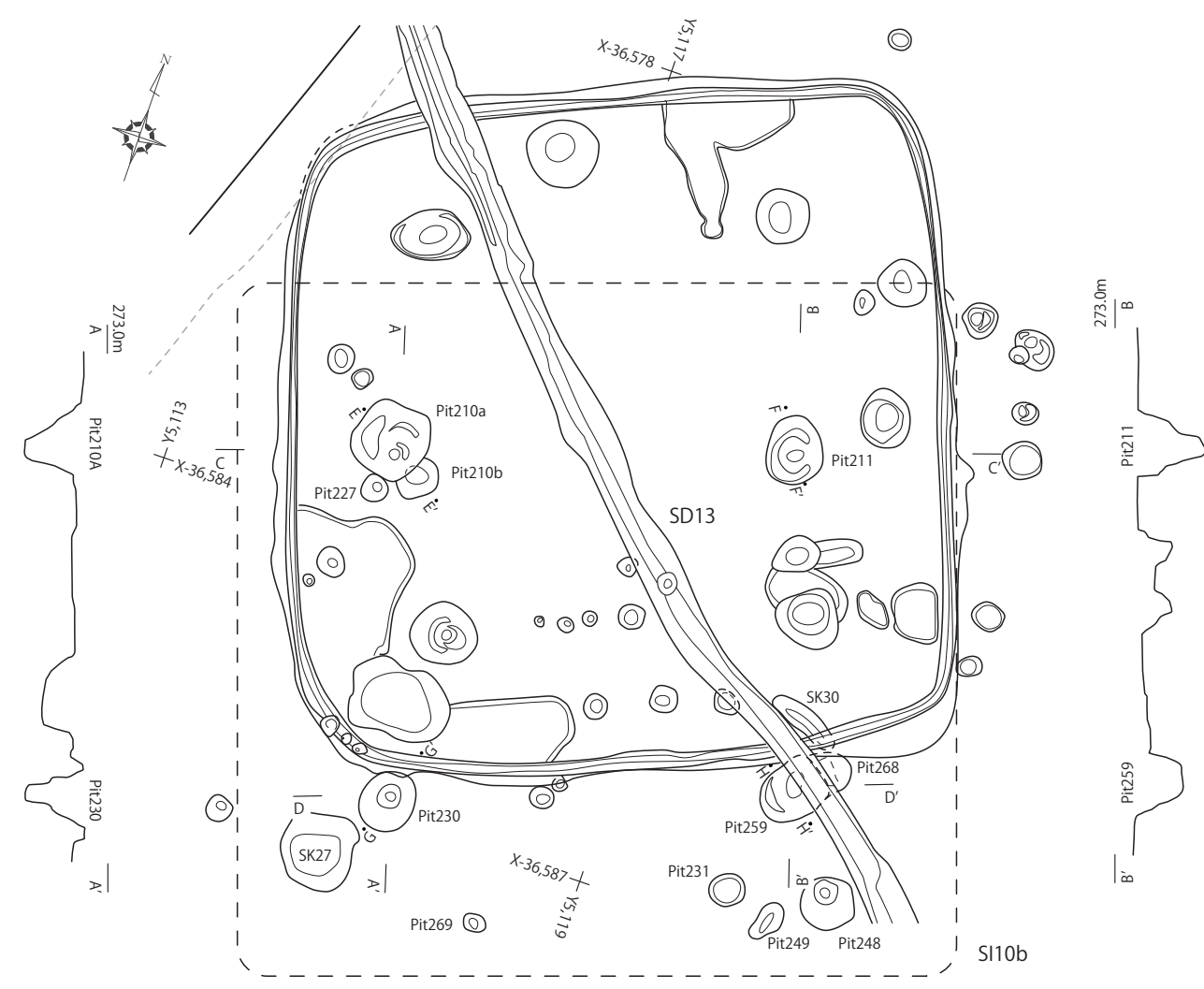
第35図 S110a(1)・SD13



第36図 S I 10a(2)



第37図 SI10a(3)



- Pit210a・b**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
[Pit210a]
  - 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
縮まり弱 炭化物 5%  
[Pit210a]
  - 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
[Pit210b・柱穴掘方か]

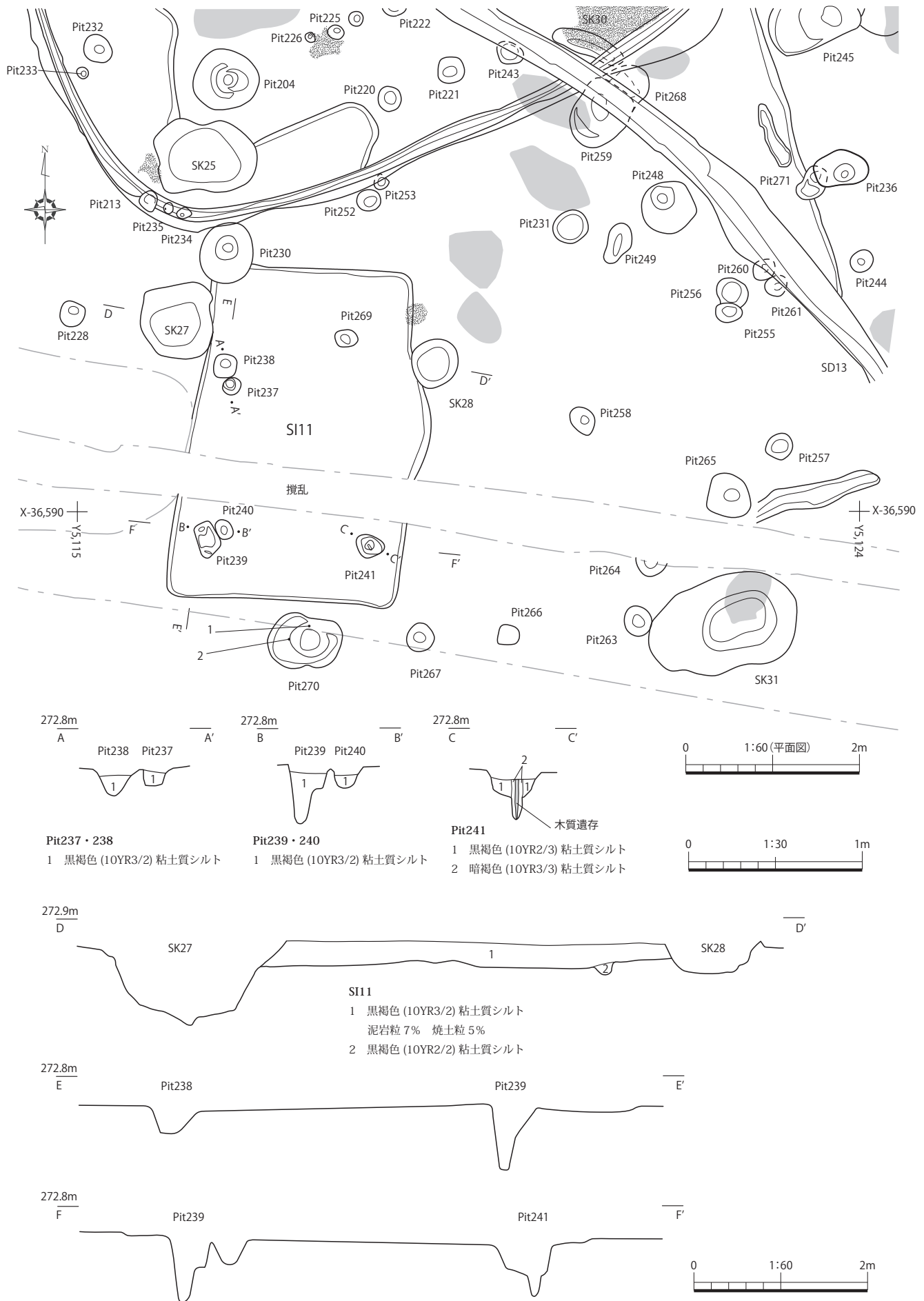
- Pit211**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト

- Pit230**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒 1%
  - 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
縮まり弱
  - 3 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
泥岩粒 3%

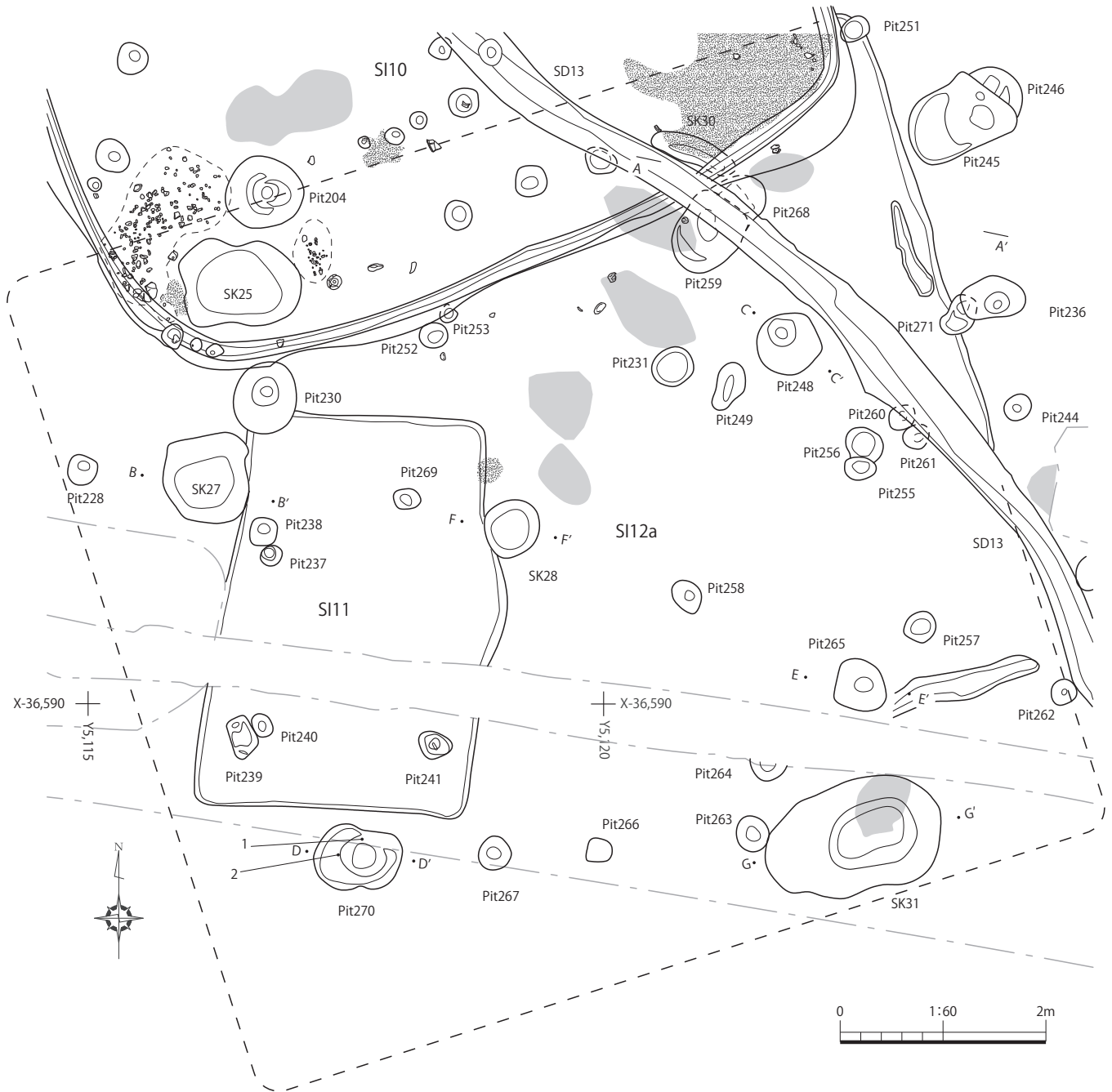
- Pit259**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
焼土・泥岩粒 1%



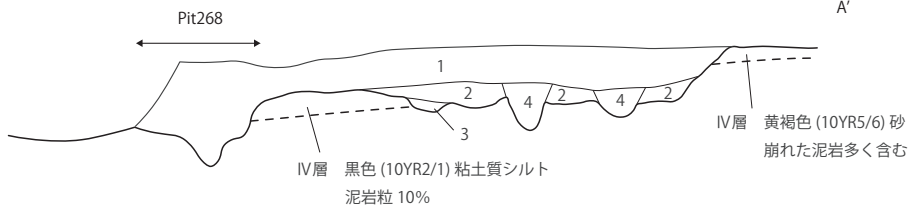
第38図 S I 10b



第39図 SI 11

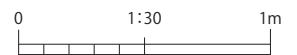


273.4m  
A

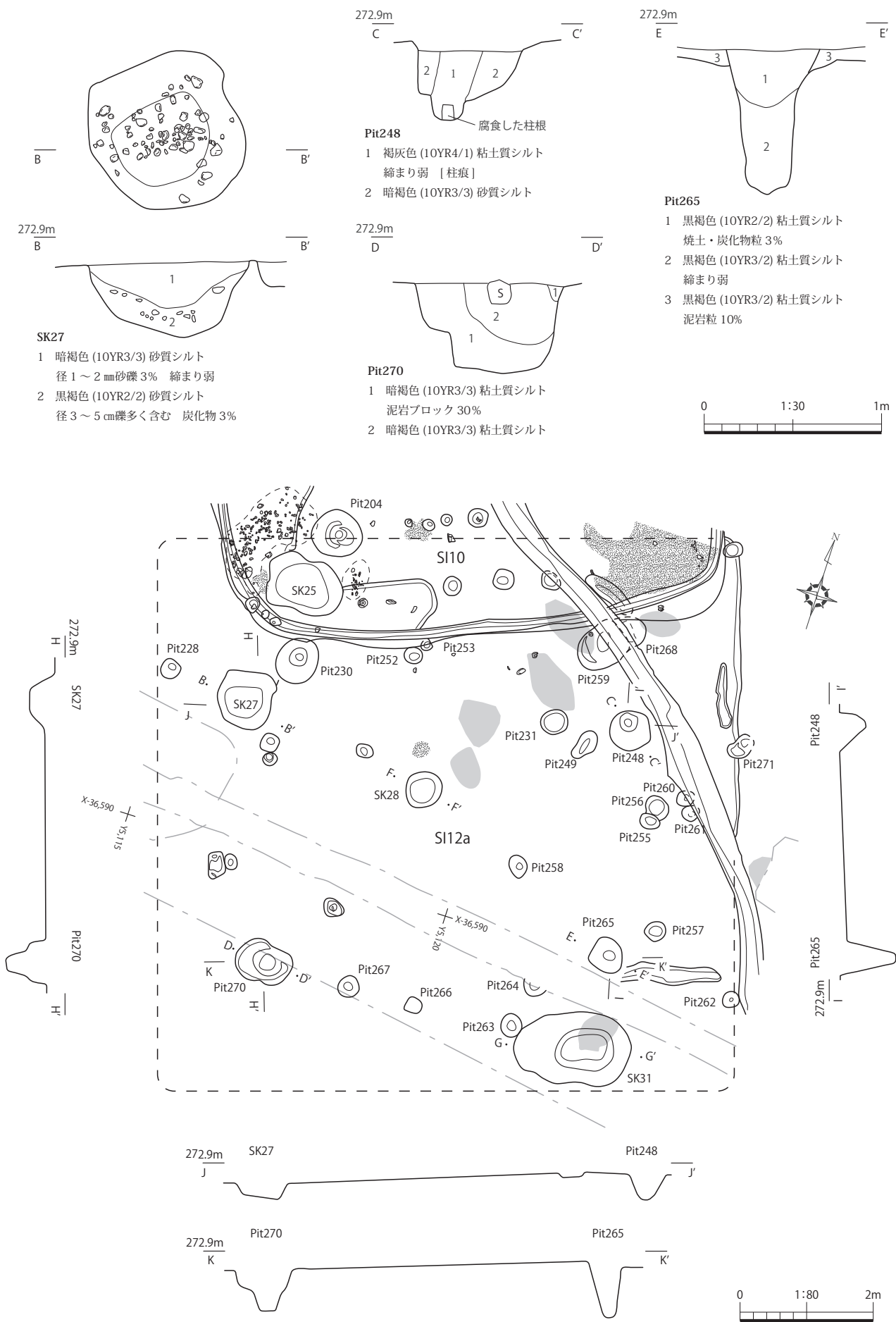


SI12

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 泥岩粒 10%
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト

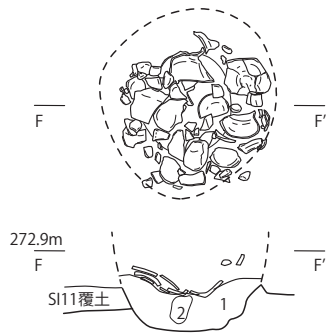


第40図 SI12a(1)



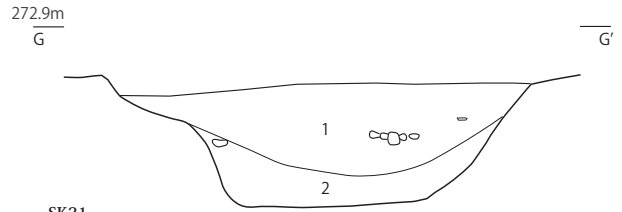
第41図 S I 12a(2)





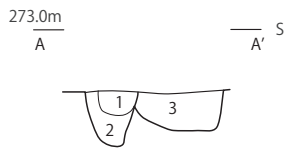
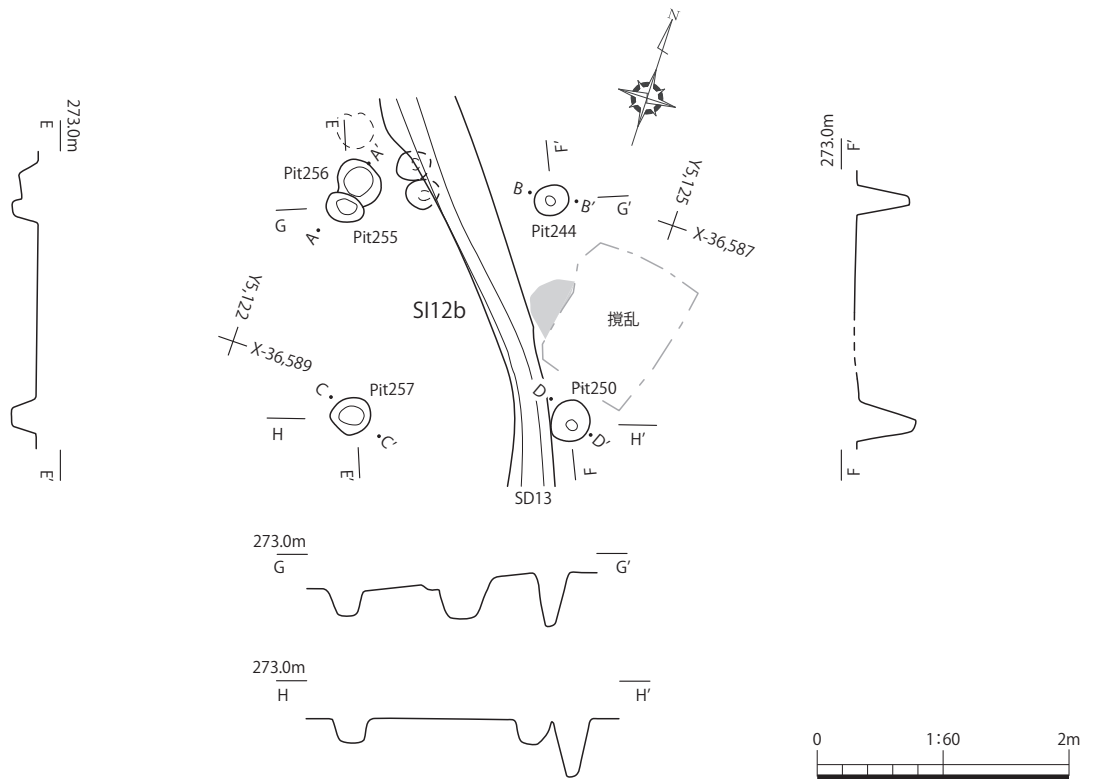
SK28

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
焼土粒 10% 炭化物粒状に 7%
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/2) 粘土



SK31

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
炭化物粒 3% 壁面沿いに径 5 ~ 10 cm の礫多く出土
- 2 黒褐色 (2.5Y2/1) 粘土質シルト

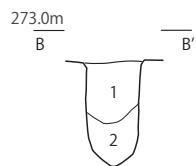


Pit255

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
焼土・炭化物粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト

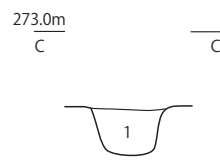
Pit256

- 3 黒褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト



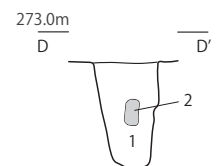
Pit244

- 1 暗褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
焼土・炭化物粒 7%
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト



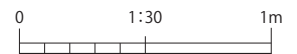
Pit257

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
焼土・炭化物粒 3%

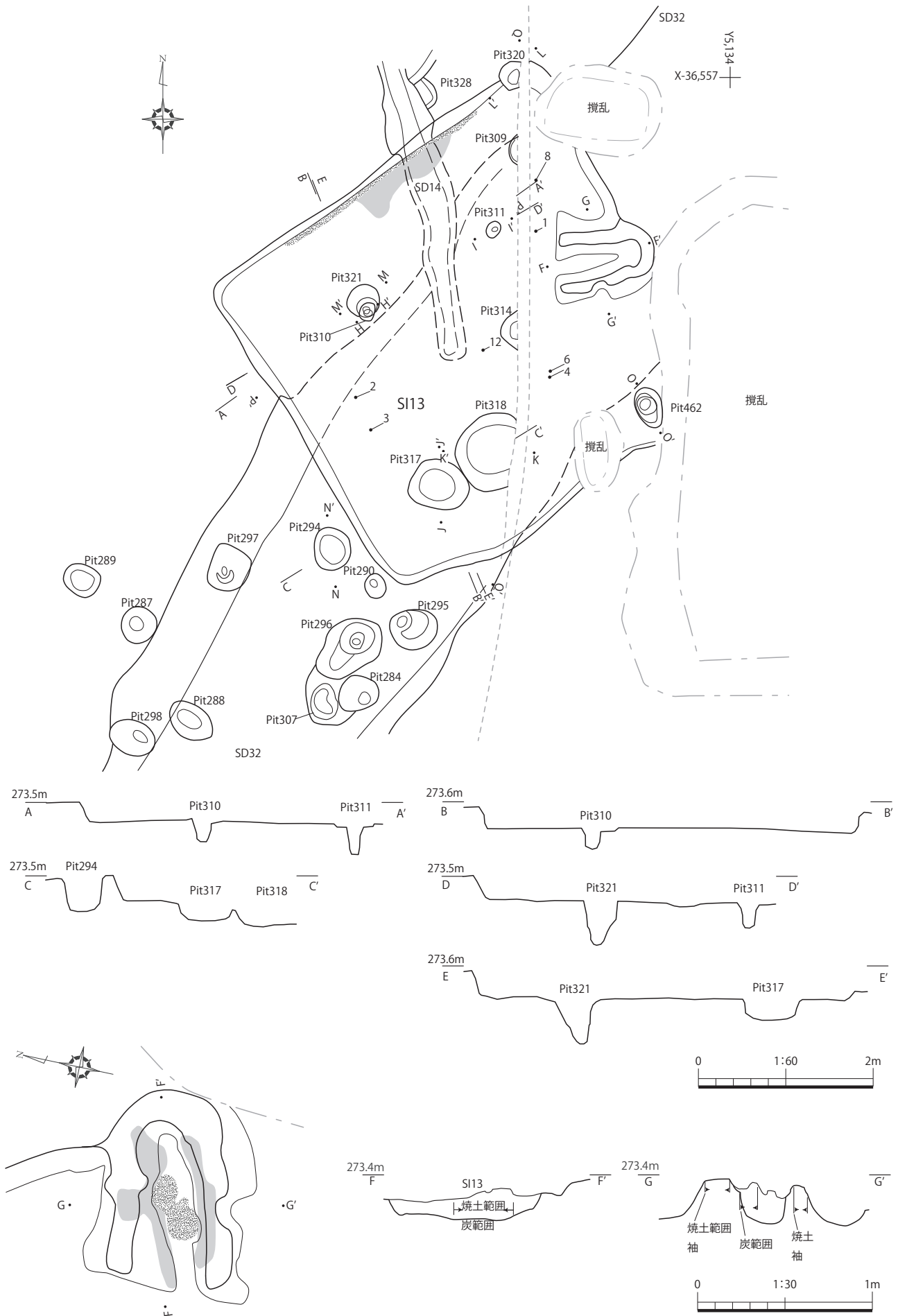


Pit250

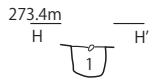
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト
- 2 焼土ブロック



第42図 S I 12a(3)・S I 12b

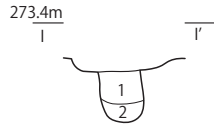


第43図 SI13(1)



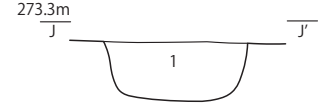
Pit310

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 縮まり弱  
径 2 mm 黄色土粒 2%



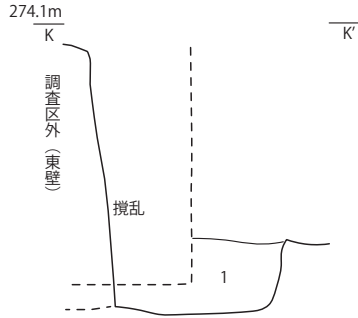
Pit311

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 縮まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒 2%  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂  
粘性なし 縮まりなし



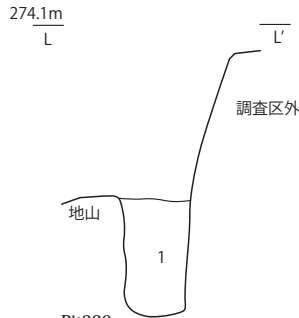
Pit317

1 黒色 (10YR2/1) シルト質砂 粘性弱 縮まり強  
径 5 mm 焼土粒 1% 径 3 mm 黄色土粒 1%  
※SI13 の床下で検出 地山は川の覆土の砂



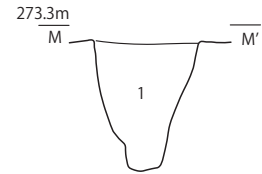
Pit318

1 黒褐色 (10YR3/2) シルト質砂 粘性弱 縮まり弱  
径 2-5 mm 黄色土粒 3% 径 1 mm 焼土粒 1%  
※SI13 の床下で検出 地山は川の覆土の砂



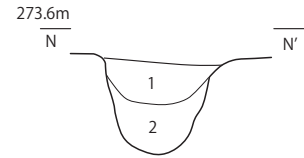
Pit320

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
2 mm 黄色土粒・焼土粒 2% 径 1 mm 炭化粒 1%  
※SI13 の北壁を切っている



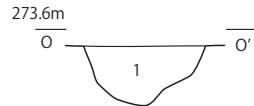
Pit321

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 砂 2%



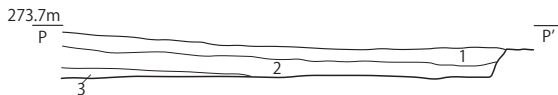
Pit294

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
2 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂



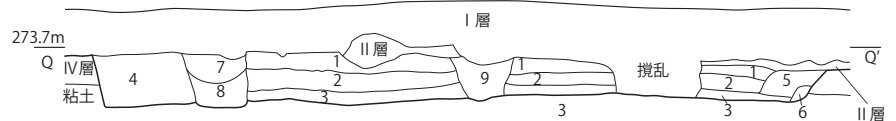
Pit462

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト

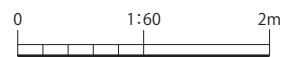


SI13

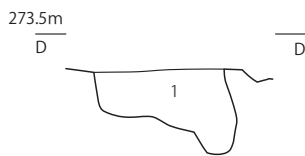
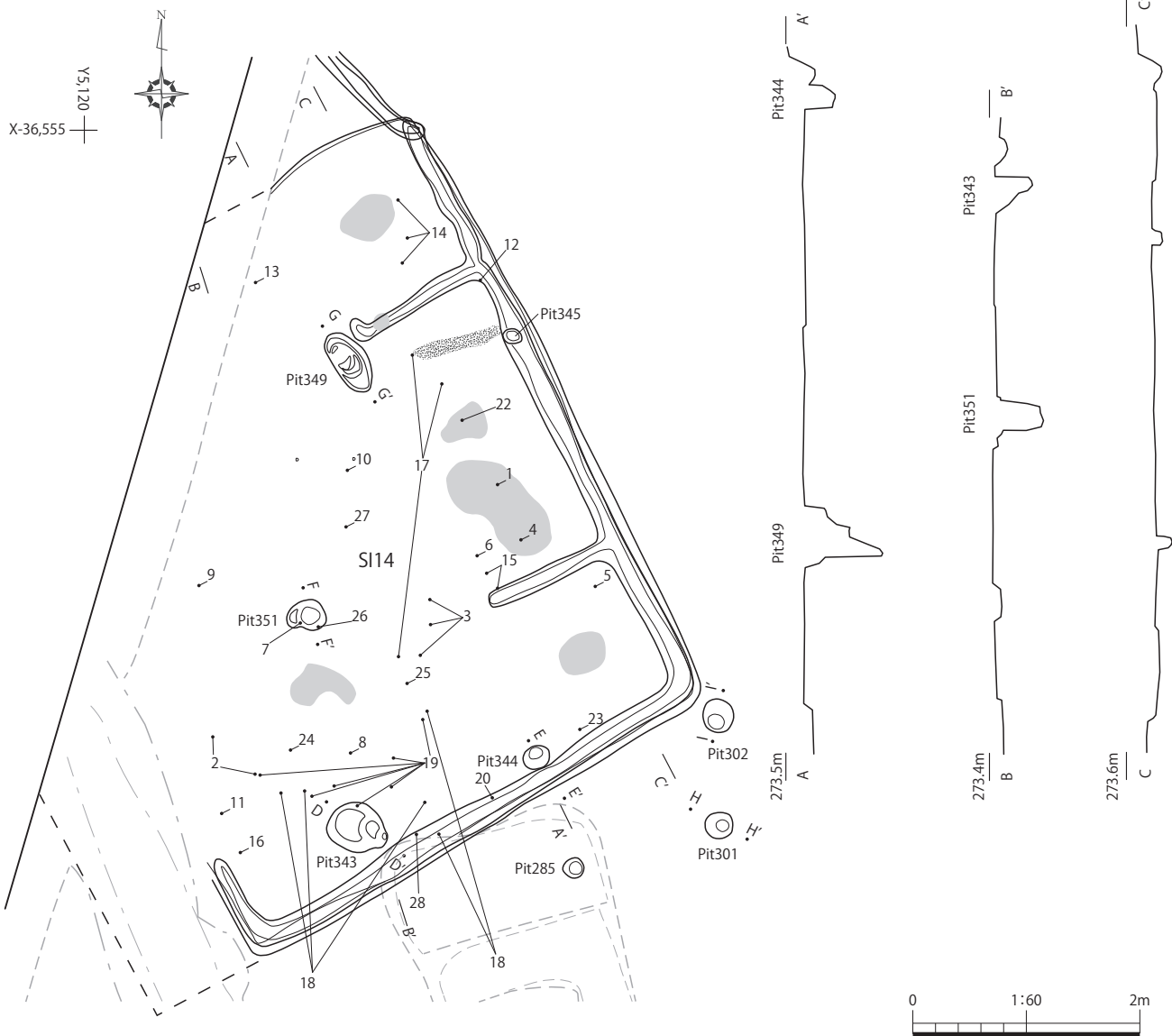
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm 炭化物 1% 径 2 mm 白色粒 5%  
径 1 mm 黄色土粒 2%  
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 1 mm 黄色土粒 2%  
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm 焼土粒 1%  
径 5 mm 炭化物粒 1%



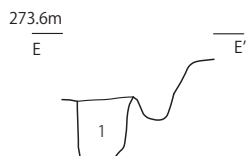
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
5 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 30%  
6 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 砂 50%  
7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
径 2 mm 白色粒・黄色土粒 5% [Pit309]  
8 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2% [Pit309]  
9 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 1% [Pit314]



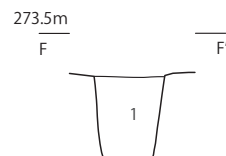
第44図 S I 13(2)



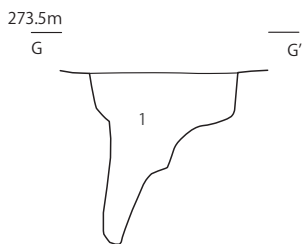
**Pit343**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径1mm白3色粒3%  
 径2mm黄色土粒・炭化粒・焼土粒1%



**Pit344**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
 径10mm炭化粒1% 径2mm黄色土粒2%



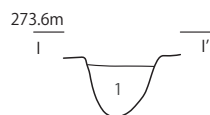
**Pit351**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
 径1mm白色粒2% 径2mm黄色土粒1% 径5mm炭化粒1%



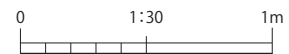
**Pit349**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
 径1mm黄色土粒・焼土粒2%



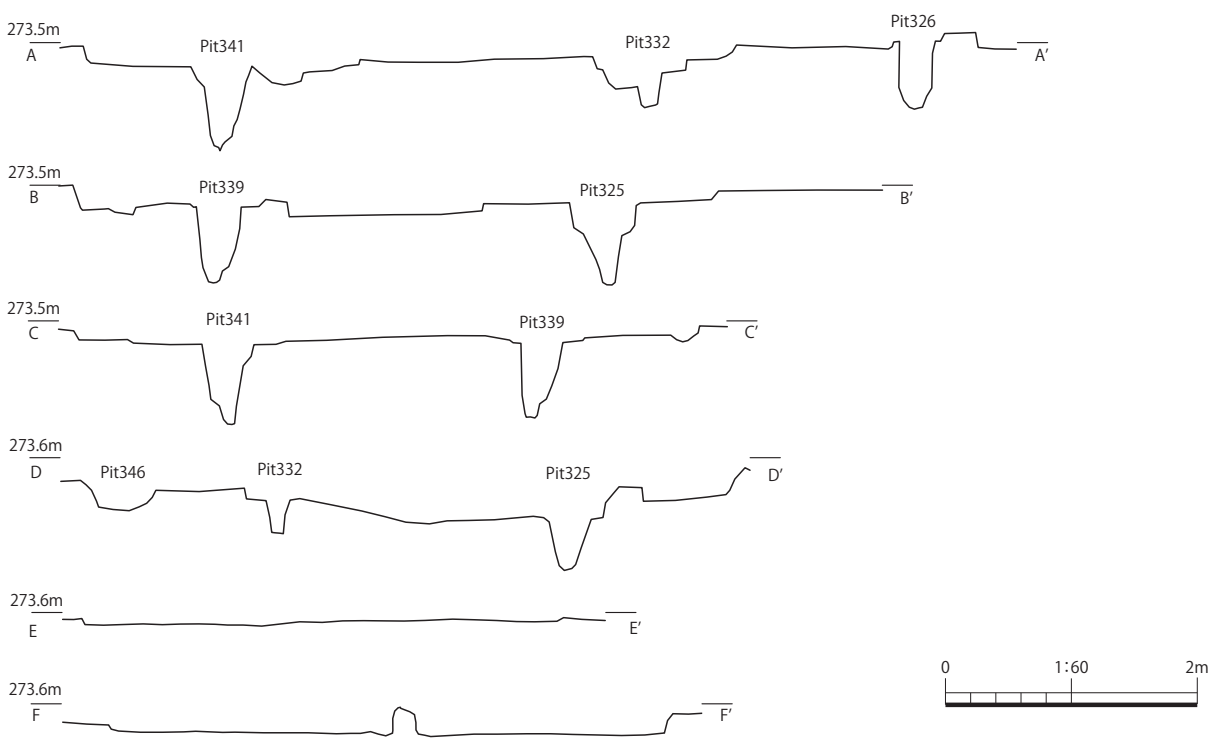
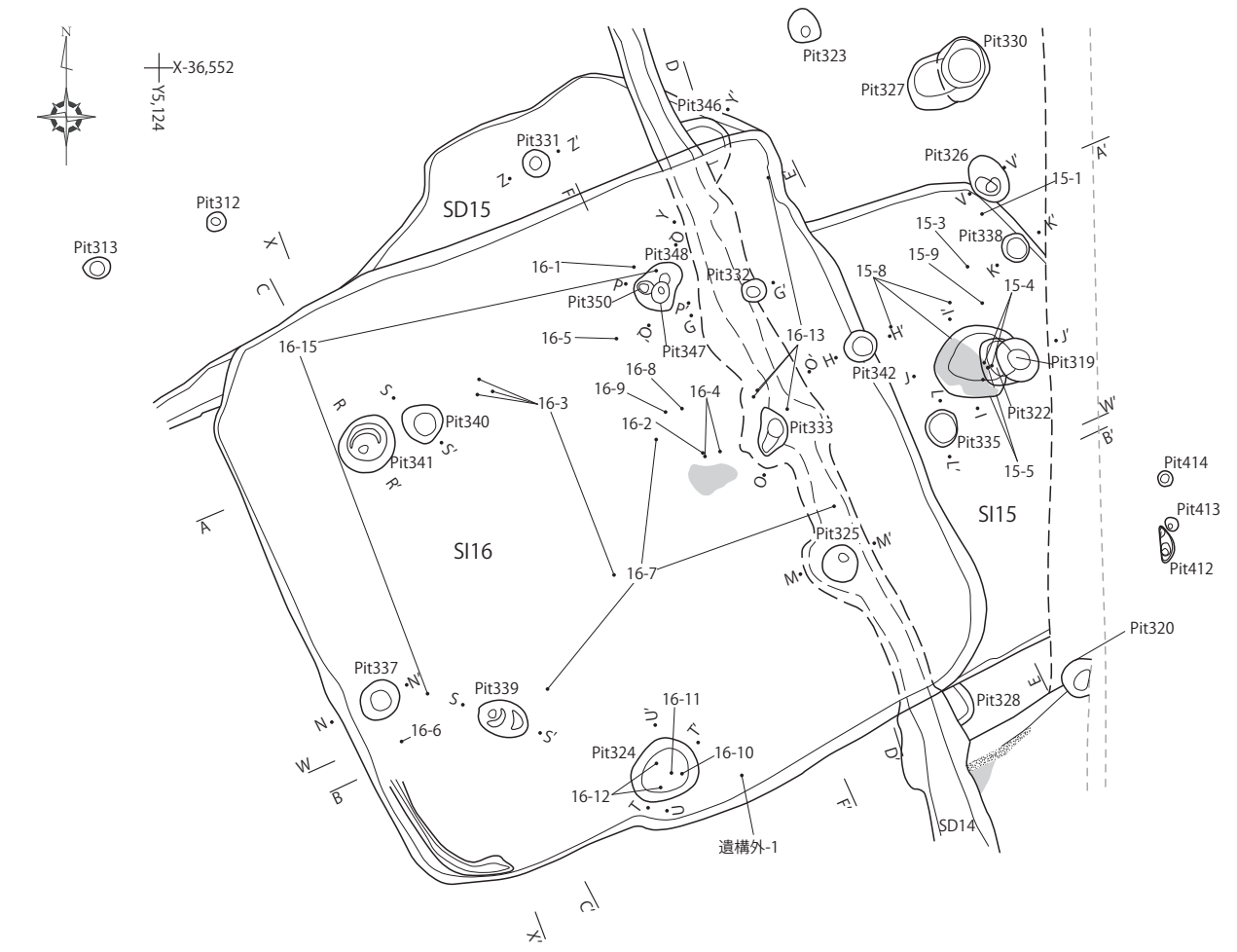
**Pit301**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 径1~2mmの砂礫7%



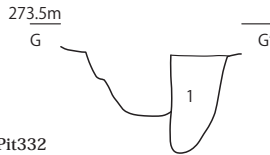
**Pit302**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 径1~2mmの砂礫5%



第45図 S114

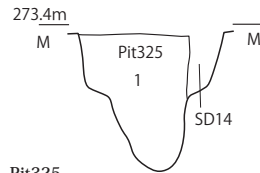


第46図 S I 15・16(1)



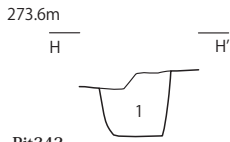
Pit332

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土砂 3% 径 1 mm 白色粒 1%



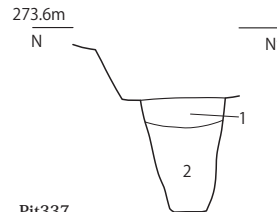
Pit325

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 5 mm 焼土粒 1%  
 ※SD14 を切る SI16 の南東 Pit



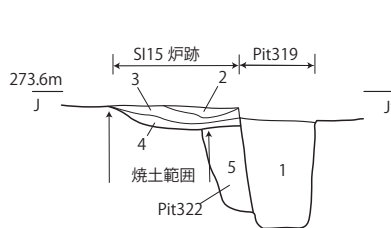
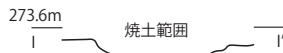
Pit342

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 2 mm 白色粒・黄色土粒 2% 径 1 mm 焼土粒 1%



Pit337

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒・焼土粒 5% 径 1 mm 黄色粒 2%  
 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 2%



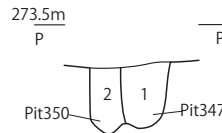
SI15 炉跡・Pit319・322

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 5 mm 炭化粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2% [Pit319]  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 黄色土粒 1%  
 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 2 mm 黄色土粒・焼土粒 5%  
 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 焼土粒 5%  
 5 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 焼土粒 5% 径 2 mm 黄色土粒 1% [Pit322]



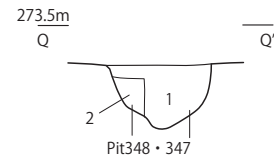
Pit333

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 5 mm 炭化物 5% 径 1 mm 白色粒 1%



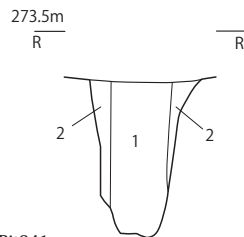
Pit347・350

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 3%  
 径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 1% [Pit347]  
 2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒・炭化粒 1% [Pit350]



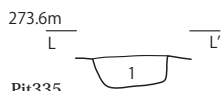
Pit338

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 炭化粒 1%



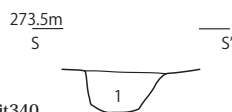
Pit341

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり弱  
 径 2 mm 焼土・炭化物・黄色土粒 1%  
 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒・白色粒 2%



Pit335

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 5% 径 2 mm 焼土粒・黄色土粒 2%



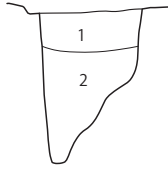
Pit340

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 1 mm 白色粒 5% 径 2 mm 黄色土粒・炭化粒 1%



第47図 S I 15・16(2)

273.6m  
S S'



Pit339

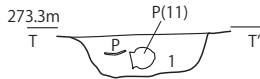
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm 白色粒・黄色土粒 2% 径 1 mm 焼土粒 1%

273.6m  
Y Y'



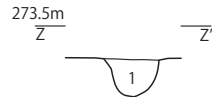
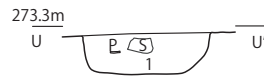
Pit346

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 10 mm 焼土粒 1% 径 5 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 2%  
径 1 mm 白色粒 3% [Pit346]  
2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径 2 mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



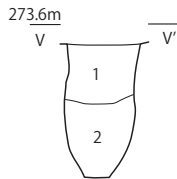
Pit342

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 5% 径 1 mm 焼土粒 1%



Pit331

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘強 締まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 5% 径 1 mm 焼土粒 1%



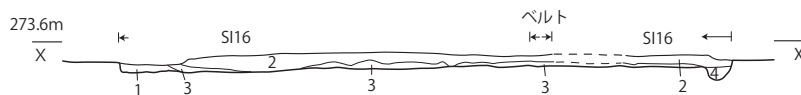
Pit326

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2 mm 白色粒 5%  
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 粘強 締まり強 径 5 mm 黄色土粒 1%



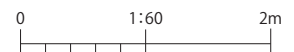
SI16・15・SD14

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2 mm 白色粒 5% 径 2 mm 黄色土粒・炭化粒 1% [SI15]  
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1 mm 白色粒 3% [SI16]  
3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1 mm 白色粒 5% 径 5 mm 黄色土粒・焼土粒 1% [SI16]  
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 5 mm 褐鉄鉱粒 1% [SI16]  
5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 径 2 mm 黄色土粒・白色粒 1% [SD14]

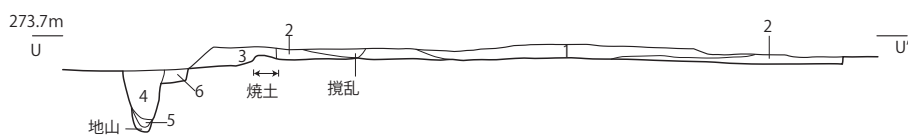
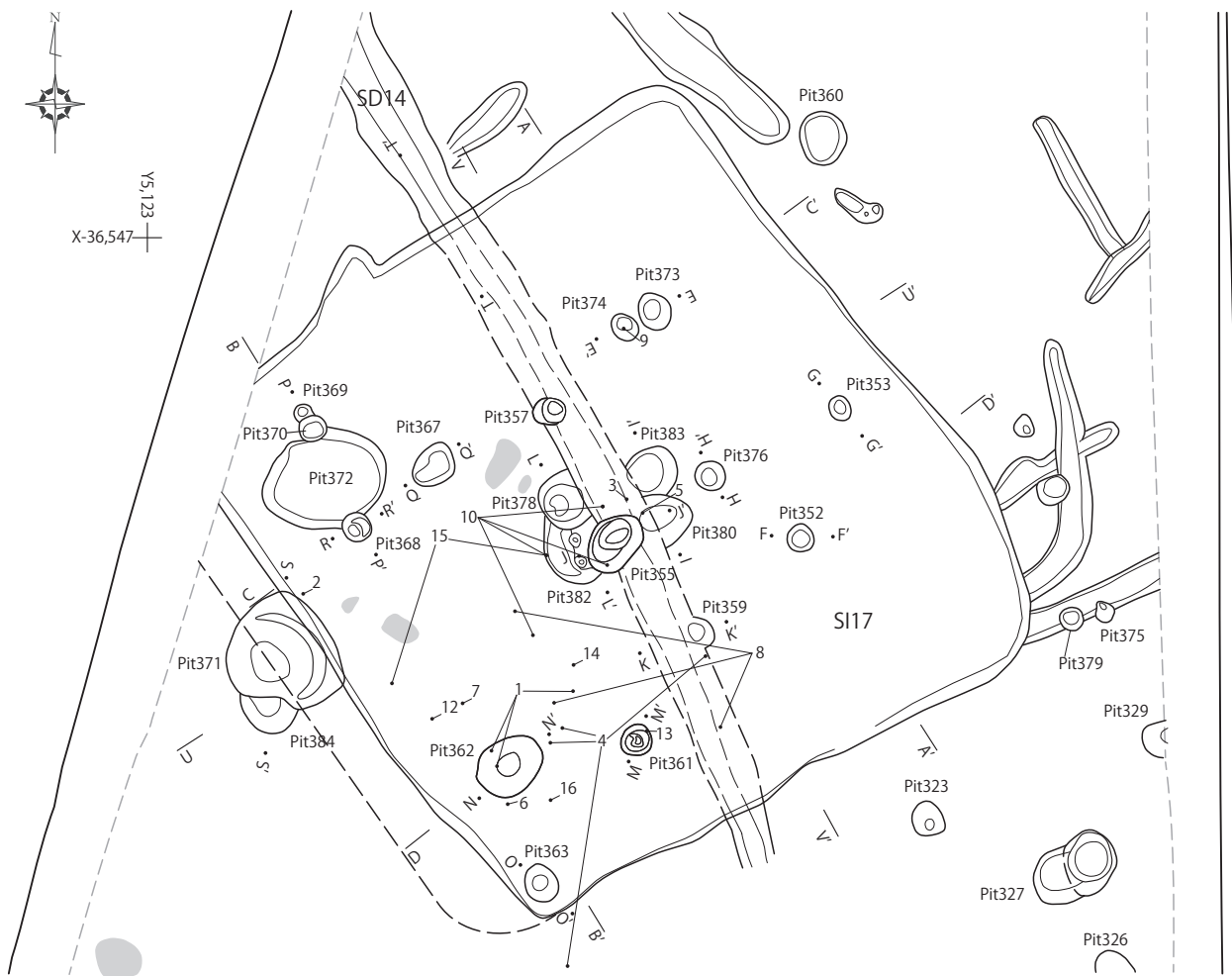


SI16

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 2 mm 黄色土粒 5% 径 1 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 5% [SI16]  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1 mm 白色粒 5% 径 5 mm 黄色土粒・焼土粒 1% [SI16]  
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 5 mm 褐鉄鉱粒 1% [SI16]  
4 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径 1 mm 白色粒 3% 径 5 mm 黄色土粒・焼土粒 1% 径 5 mm 褐鉄鉱粒 1% [SI16]



第48図 S I 15・16(3)



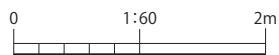
SI-17 東西セクション

- |   |                     |     |        |                |               |              |
|---|---------------------|-----|--------|----------------|---------------|--------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強   | 径 1mm 白色粒 5%   | 径 2mm 黄色土粒 3% | 径 1mm 炭化粒 1% |
| 2 | 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強   | 径 2mm 白色粒 1%   |               |              |
| 3 | 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強   | 径 1mm 白色粒 10%  | 径 2mm 黄色土粒 3% |              |
| 4 | 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強   | 径 2mm 炭化粒 3%   | 径 2mm 黄色土粒 2% | [Pit371]     |
| 5 | 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト | 粘性強 | 締まりやや弱 | 径 10mm 黄色土粒 5% |               |              |
| 6 | 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強   | 径 2mm 黄色土粒 10% |               |              |



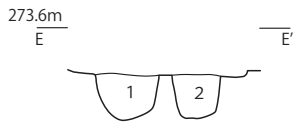
SI-17 南北セクション

- |   |                     |     |      |              |               |              |
|---|---------------------|-----|------|--------------|---------------|--------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト | 粘性強 | 締まり強 | 径 1mm 白色粒 5% | 径 2mm 黄色土粒 3% | 径 1mm 炭化粒 1% |
|---|---------------------|-----|------|--------------|---------------|--------------|



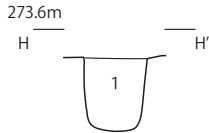
第49図 SI17(1)





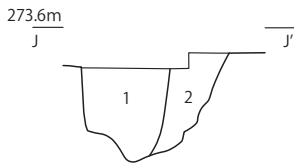
Pit373・374

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm黄色土粒 2% 径 10 mm炭化粒 1%  
径 1 mm白色粒 1% [Pit373]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 2% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm炭化粒 1% [Pit374]



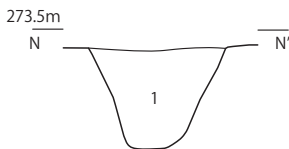
Pit376

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm黄色土粒 2% 径 1 mm白色粒 2%



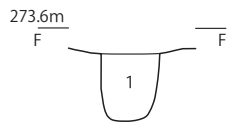
Pit355

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm黄色土粒 5% 径 5 mm焼土粒 1% [Pit355]
- 2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱  
径 2 mm黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



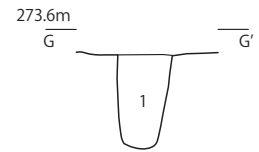
Pit362

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強



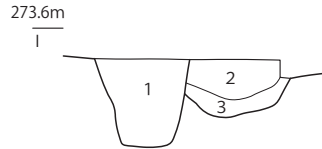
Pit352

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 1 mm白色粒 5% 径 2 mm黄色土粒 2%  
径 1 mm焼土粒 1%



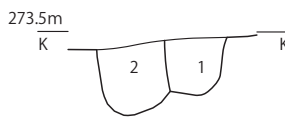
Pit353

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質  
粘性強 縮まりやや弱  
径 2 mm黄色土粒 2% 径 1 mm白色粒 1%



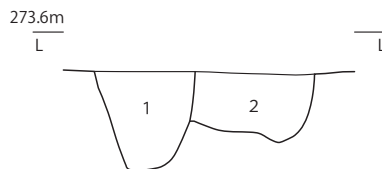
Pit380・383

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 5 mm焼土粒 1% 径 2 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3% [Pit380]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 5% 径 2 mm白色粒 3% [Pit383]
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 2 mm黄色土粒 3% [Pit383]



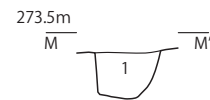
Pit359

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 2 mm焼土粒 1% 径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 1% [Pit359]
- 2 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱  
径 2 mm黄色土粒・白色粒 1% [SD14]



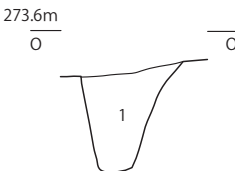
Pit378・382

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 3% 径 2 mm白色粒 2% [Pit378]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm白色粒 5% 径 2 mm黄色土粒・焼土粒 1% [Pit382]



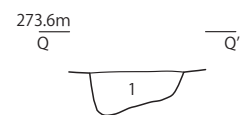
Pit361

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 2% 径 5 mm炭化粒 2%  
径 1 mm白色粒 1%



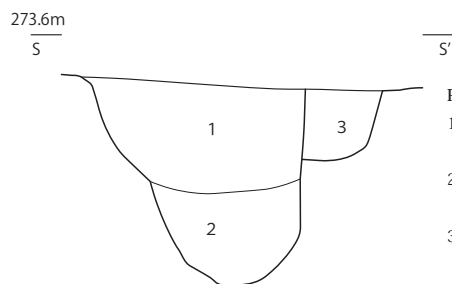
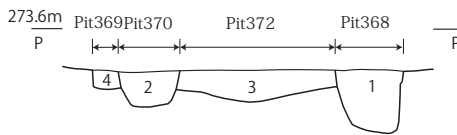
Pit363

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 2 mm黄色土粒 3%



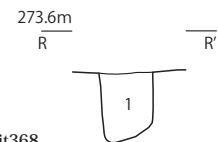
Pit367

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 3 mm黄色土粒 3%  
径 2 mm焼土粒 1%



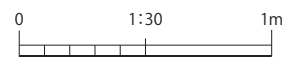
Pit371・384

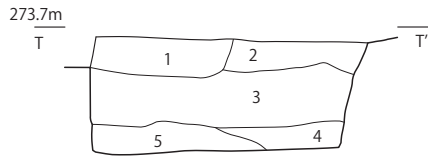
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm炭化粒 3% 径 2 mm黄色土粒 2% [Pit371]
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 10 mm黄色土粒 5% [Pit30日 71]
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 10% [Pit384]



Pit368

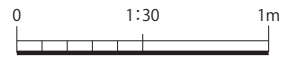
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 1 mm焼土粒 1% 径 1 mm白色粒 1%



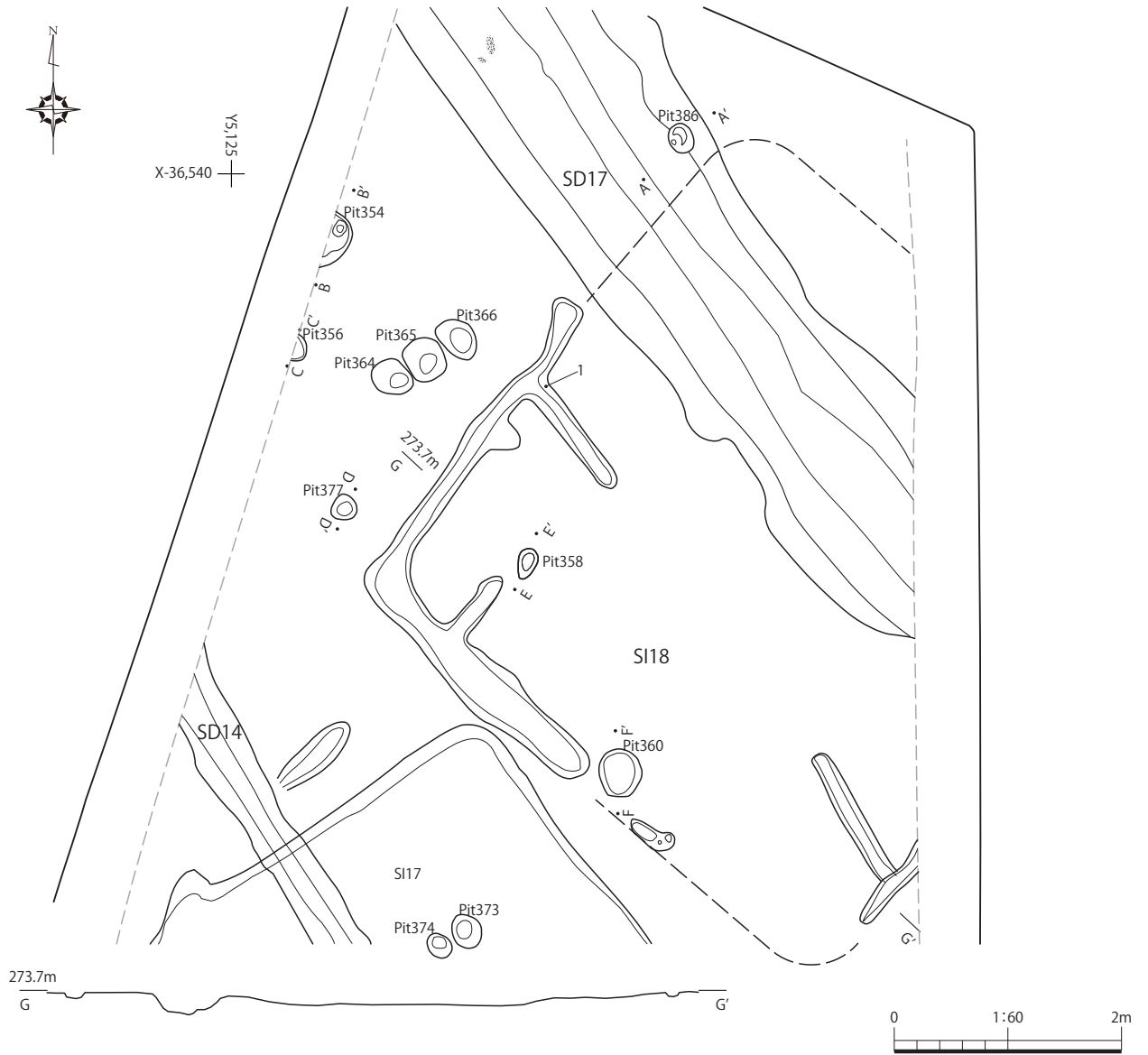


SI17・SD14

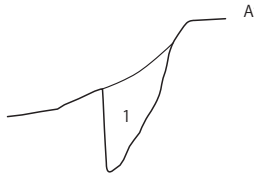
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径2mm白色粒5% 径5mm黄色土粒5% 径2mm焼土粒1% [SI17]
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径2mm白色粒5% 径1mm黄色土粒・小礫1% [SD14]
- 3 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径1mm白色粒・黄色土粒1% [SD14]
- 4 黒褐色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径2mm黄色土粒1% [SD14]
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径2mm黄色土1% [SD14]



第51図 SI17(3)



273.7m  
A



Pit386

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm黄色土粒 2% 径 2 mm炭化粒 1%

273.8m  
B



Pit354

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm白色粒・黄色土粒 5%

273.8m  
C



Pit356

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強

273.8m  
E



Pit358

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm白色 2% 径 1 mm焼土粒・炭化粒 1%

273.8m  
F



Pit360

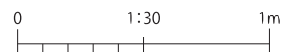
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm白色粒 5% 径 2 mm黄色土粒

273.8m  
D

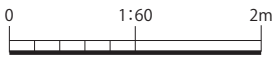
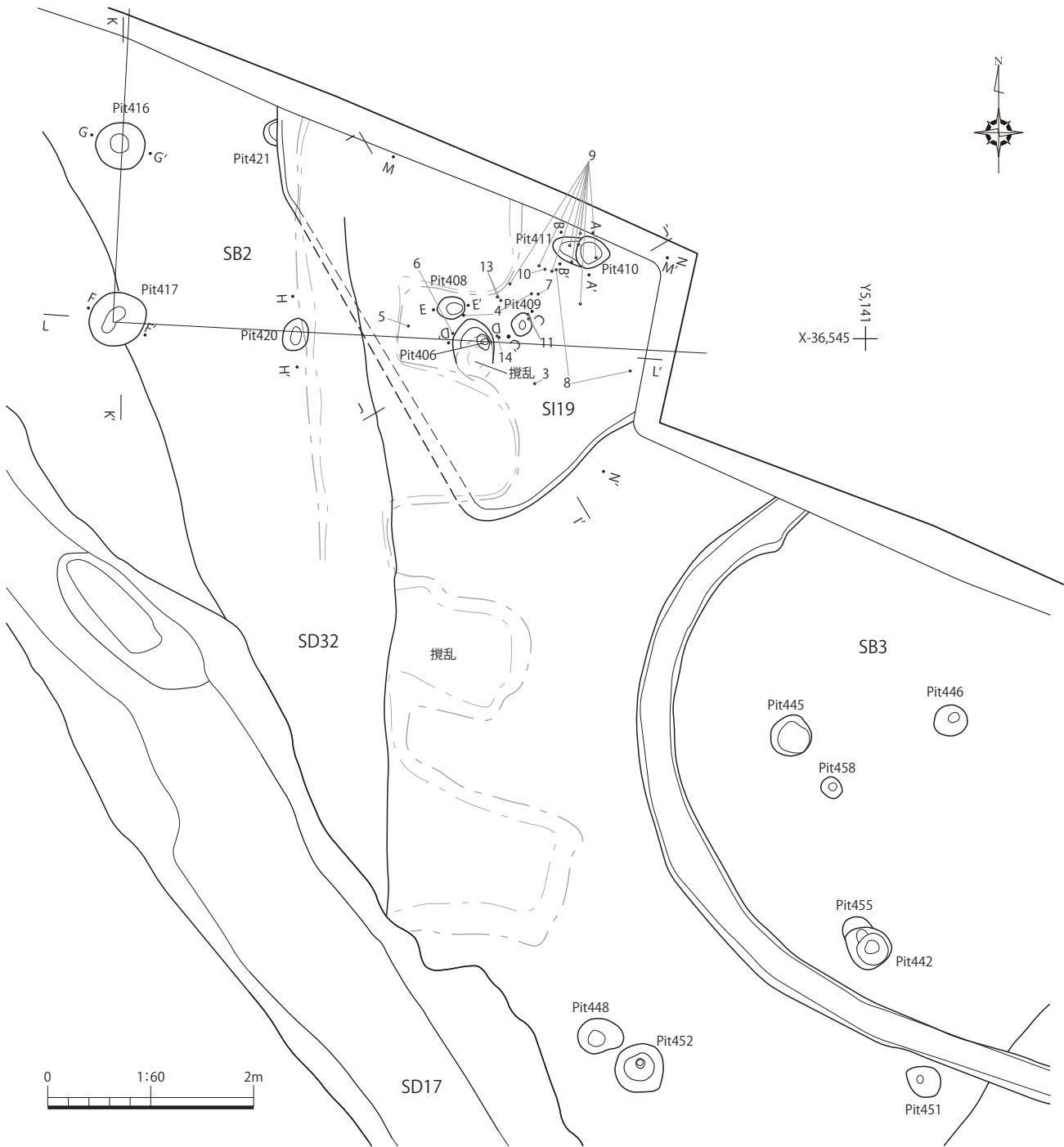


Pit377

1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm黄色土粒・焼土粒 2%



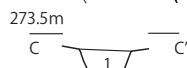
第52図 S118



**Pit410**  
 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
 径 2 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2%



**Pit411**  
 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
 径 2 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2%



**Pit409**  
 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
 径 2 mm 黄色土粒 1%  
 径 1 mm 焼土粒 1%



**Pit406**  
 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%  
 径 5 mm 炭化粒 1%



**Pit408**  
 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 2%  
 径 2 mm 焼土粒 1%  
 径 2 mm 炭化粒 1%



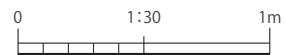
**Pit417**  
 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 2%  
 径 1 mm 白色粒 3%  
 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 径 2 mm 黄色土粒 1% 径 5 mm 炭化粒 1%



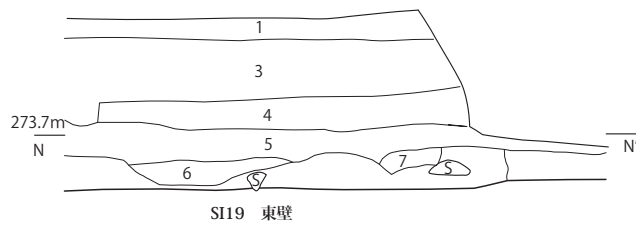
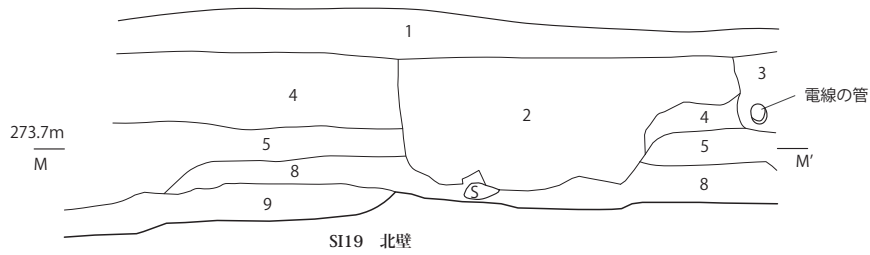
**Pit416**  
 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト  
 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 1% 径 1 mm 白色粒 2%



**Pit420**  
 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 黄色土粒 2%

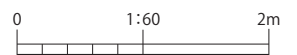
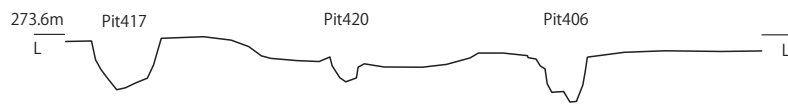
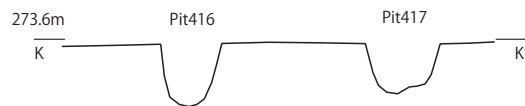
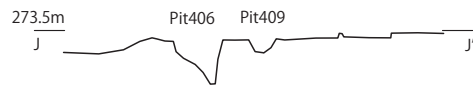
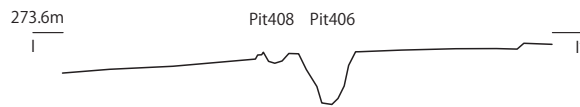


第53図 S I 19・SB2(1)

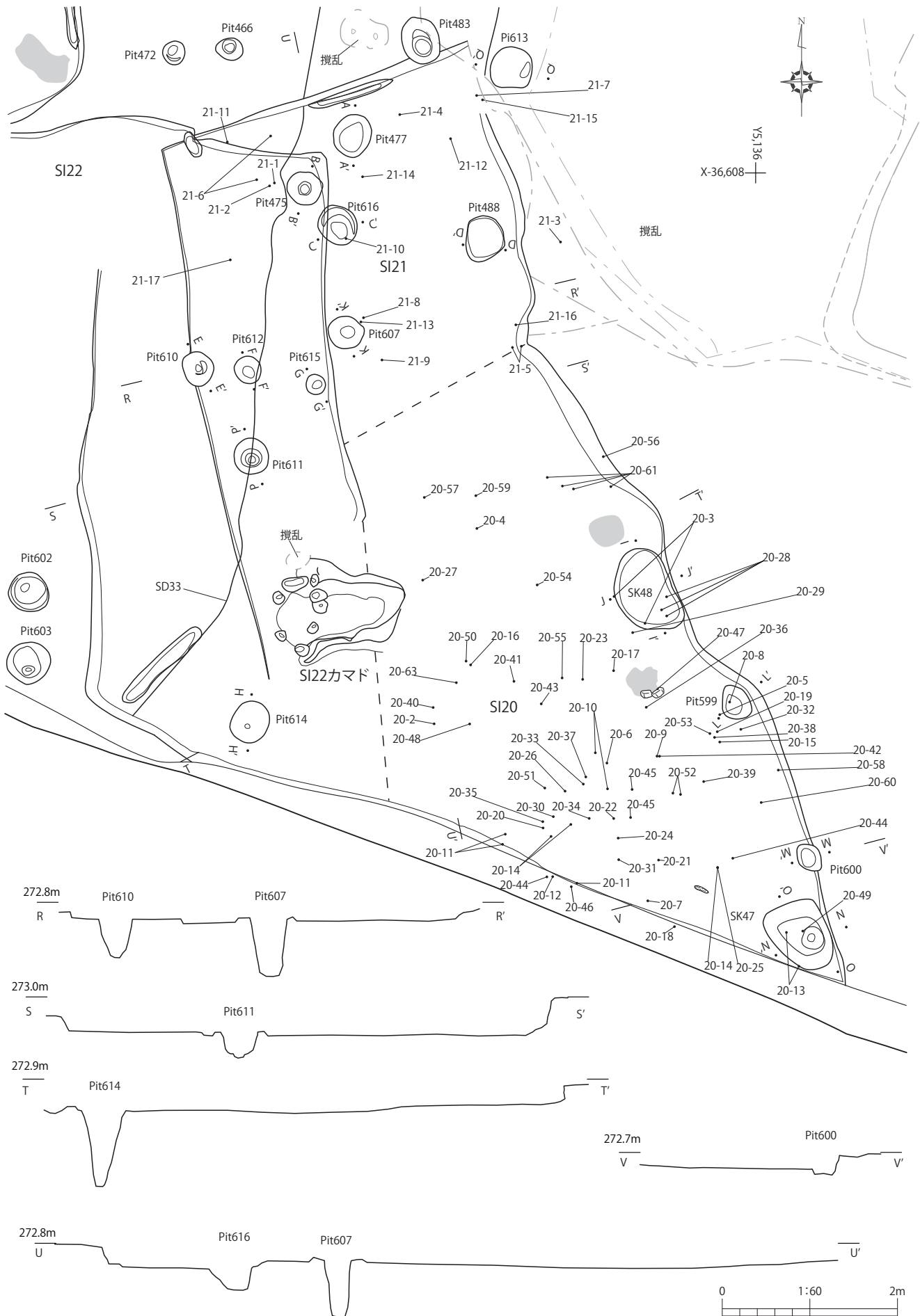


SI19・北壁・東壁

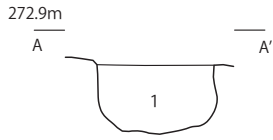
- 1 碎石層（人口芝（テニスコート）の下のアスファルトの下の碎石）
- 2 灰色 (7.5Y4/1) 砂質シルト [攪乱]
- 3 黒褐色 (10YR) 砂質シルト [攪乱]
- 4 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト [攪乱・造成土]
- 5 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質シルト [攪乱・造成土]
- 6 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト [攪乱]
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト [攪乱]
- 8 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強 径2mm黄色土粒3% 径2mm焼土粒1% 径5mm炭化粒1% 径1mm白色粒2% [SI19覆土]
- 9 黒褐色 (10YR3/2) シルト質粘土 径5mm黄色土粒5% (泥岩粒の地山) [地山]



第54図 SI19・SB2(2)

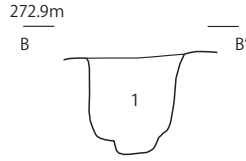


第55図 S | 20・21(1)



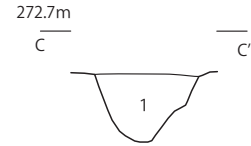
Pit477

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 縮まり強 径 5 mm 焼土粒 1%  
径 3 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 5%



Pit475

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 縮まり強 径 2 mm 焼土粒 2%  
径 3 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 2%



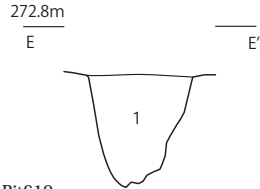
Pit616

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱  
縮まり弱 径 3 mm 炭化粒 2% 径 1 mm 白色粒 2%  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%



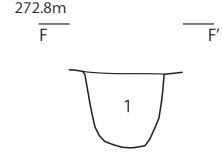
Pit488

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 炭化粒 1%  
径 2 mm 焼土粒 1% 径 1 mm 白色粒 2%



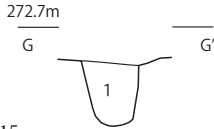
Pit610

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 2 mm 炭化粒 2% 径 1 mm 白色粒 2%  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%



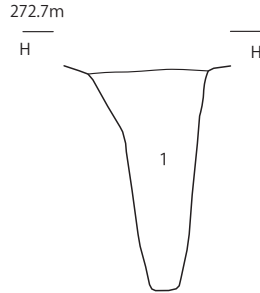
Pit612

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱  
縮まり強 径 1 mm 白色粒 2% 径 1 mm 黄色土粒 2%  
径 2 mm 焼土粒 2%



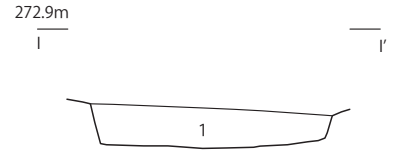
Pit615

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱  
縮まり弱 径 3 mm 炭化粒 2% 径 1 mm 白色粒 2%  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%

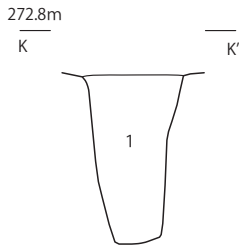


Pit614

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2%  
径 2 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 焼土粒 2%

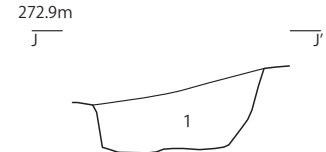


SK48 南北

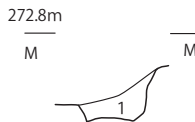


Pit607

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2%

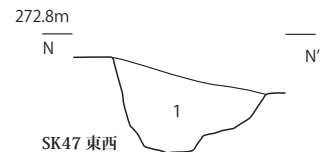


SK48 東西

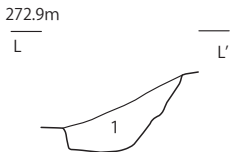


Pit600

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱  
縮まりやや弱 径 2 mm 焼土粒 2% 径 1 mm 炭化粒 2%  
径 1 mm 白色粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 1%

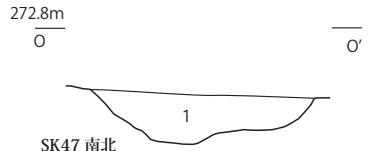


SK47 東西

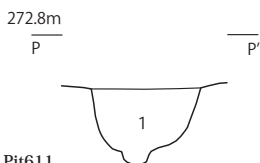


Pit599

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱  
縮まり強 径 1 mm 炭化粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 1%  
径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%

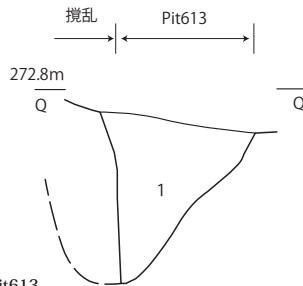


SK47 南北



Pit611

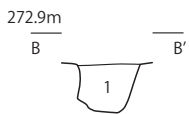
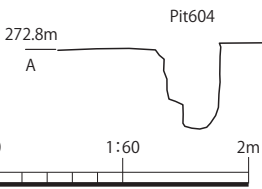
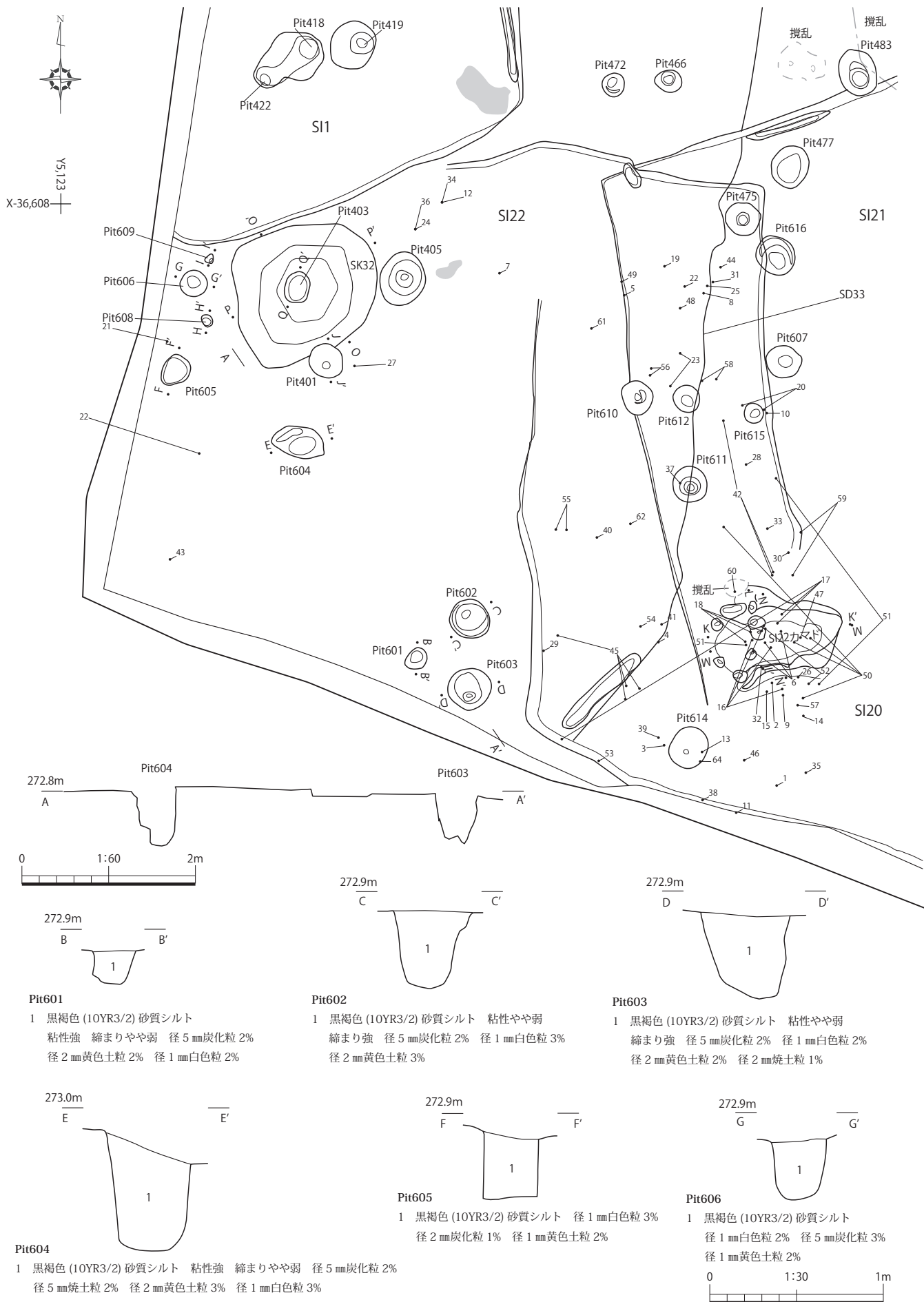
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径 5 mm 炭化粒 2% 径 1 mm 白色粒 2%  
径 2 mm 焼土粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 2%



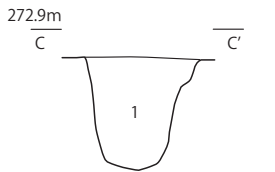
Pit613

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2%

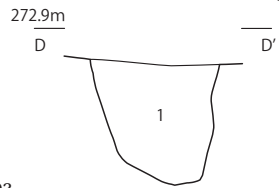




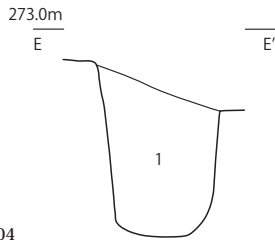
**Pit601**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まりやや弱 径5mm炭化粒 2%  
径2mm黄色土粒 2% 径1mm白色粒 2%



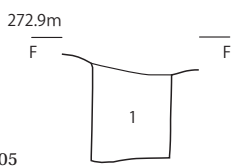
**Pit602**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱  
締まり強 径5mm炭化粒 2% 径1mm白色粒 3%  
径2mm黄色土粒 3%



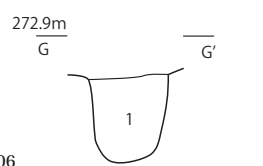
**Pit603**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱  
締まり強 径5mm炭化粒 2% 径1mm白色粒 2%  
径2mm黄色土粒 2% 径2mm焼土粒 1%



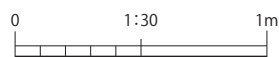
**Pit604**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径5mm炭化粒 2%  
径5mm焼土粒 2% 径2mm黄色土粒 3% 径1mm白色粒 3%



**Pit605**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径1mm白色粒 3%  
径2mm炭化粒 1% 径1mm黄色土粒 2%

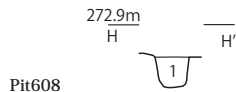


**Pit606**  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径1mm白色粒 2% 径5mm炭化粒 3%  
径1mm黄色土粒 2%



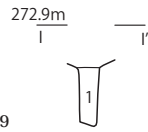
第57図 S I 22 (1)





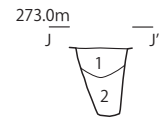
Pit608

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径1mm白色粒 2%  
径5mm炭化粒 3% 径1mm黄色土粒 2%



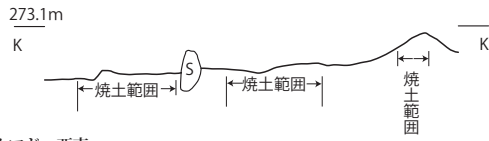
Pit609

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径1mm白色粒 2%  
径5mm炭化粒 3% 径1mm黄色土粒 2%

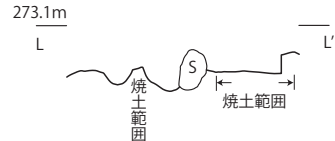


Pit401

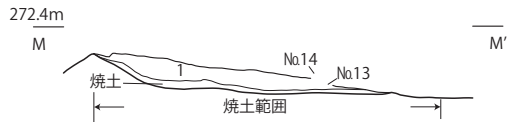
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強  
締まり強 径5mm炭化粒 2% 径3mm焼土粒 1%  
径2mm黄色土粒 2% 径1mm白色粒 2%  
2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
締まりやや弱 径1mm焼土粒 1%



SI22 カマド 西東

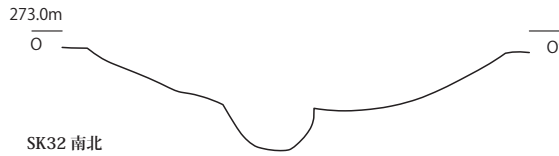
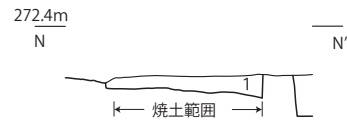


SI22 カマド 北南

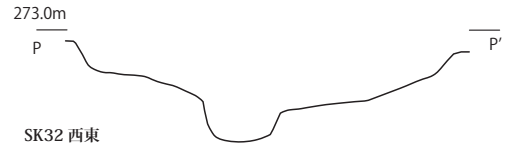


SI22 カマド 東西・北南セクション

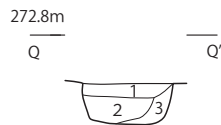
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径10mm焼土ブロック 3%  
径2mm黄色土粒 1%



SK32 南北



SK32 西東

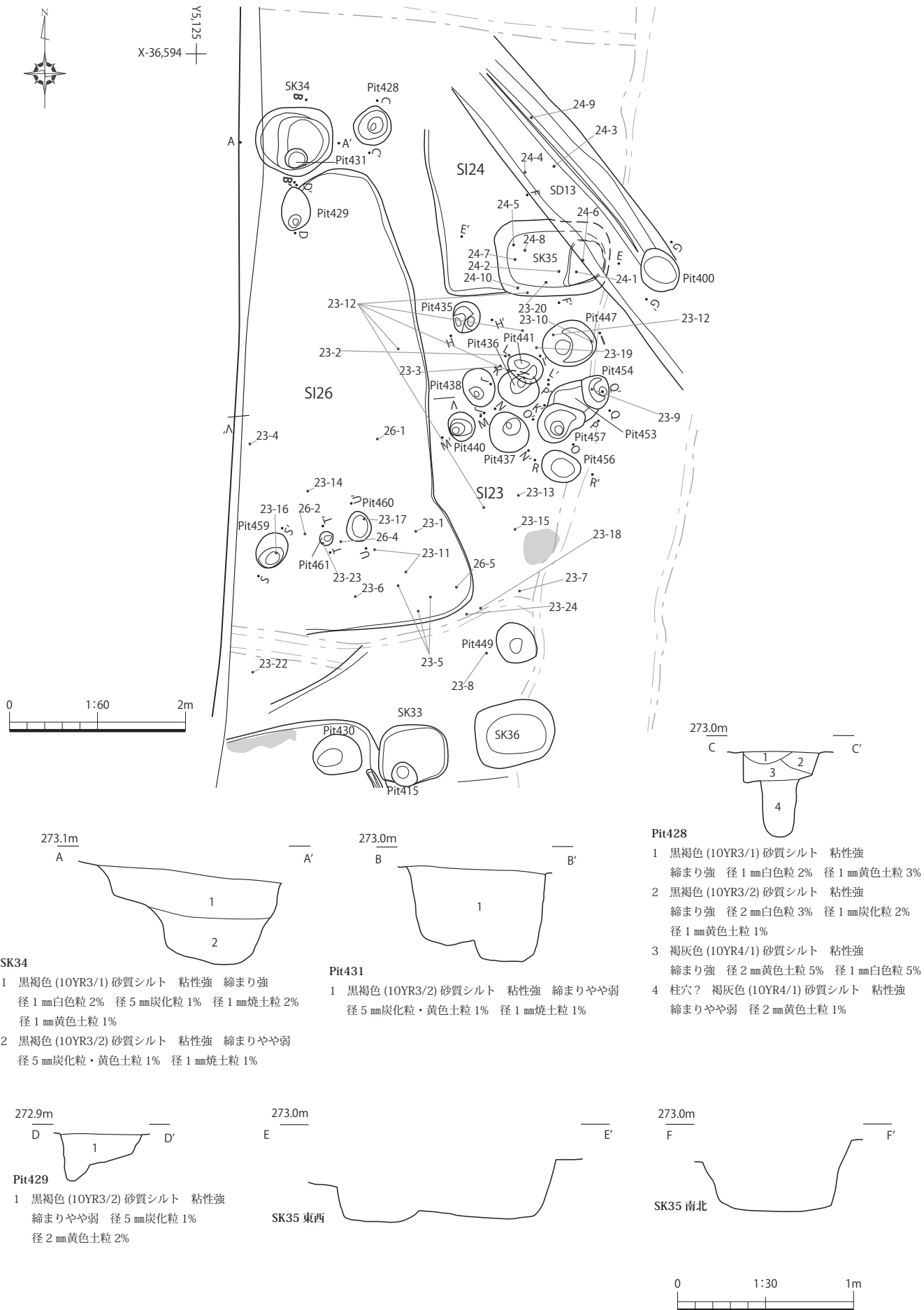


Pit403

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強  
径5mm炭化粒 1% 径1mm白色粒 5% 径2mm黄色土粒 2%  
2 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径2mm黄色土粒 1%



第58図 S I 22(2)



273.1m  
A — A' — B — B'

**SK34**

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 1 mm 白色粒 2% 径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 焼土粒 2%  
径 1 mm 黄色土粒 1%

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 5 mm 炭化粒・黄色土粒 1% 径 1 mm 焼土粒 1%

273.0m

**Pit431**

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まりやや弱  
径 5 mm 炭化粒・黄色土粒 1% 径 1 mm 焼土粒 1%

273.0m  
C — C'

**Pit428**

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 1 mm 白色粒 2% 径 1 mm 黄色土粒 3%

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 2 mm 白色粒 3% 径 1 mm 炭化粒 2%  
径 1 mm 黄色土粒 1%

3 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 2 mm 黄色土粒 5% 径 1 mm 白色粒 5%

4 柱穴? 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径 2 mm 黄色土粒 1%

272.9m  
D — D'

**Pit429**

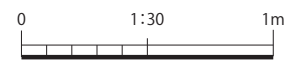
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径 5 mm 炭化粒 1%  
径 2 mm 黄色土粒 2%

273.0m  
E — E'

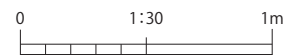
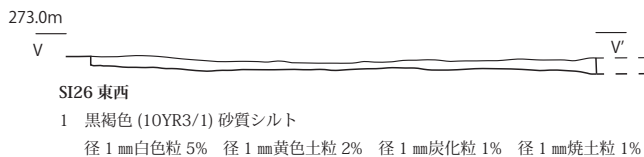
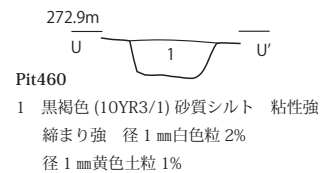
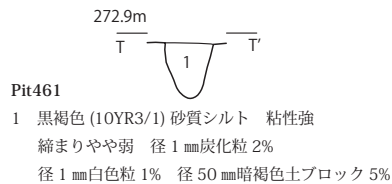
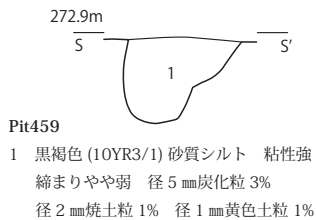
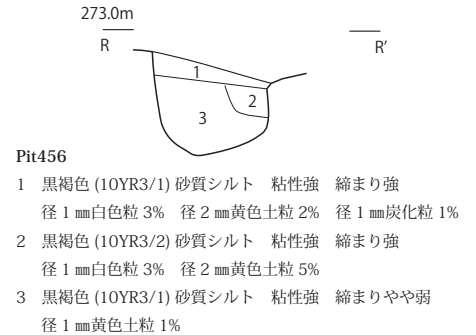
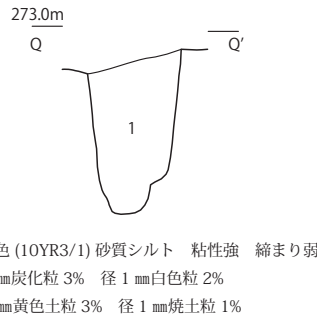
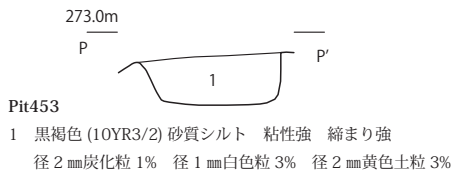
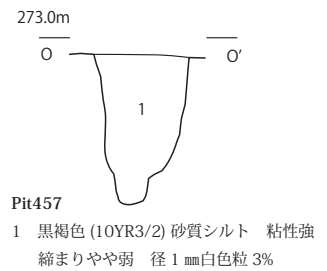
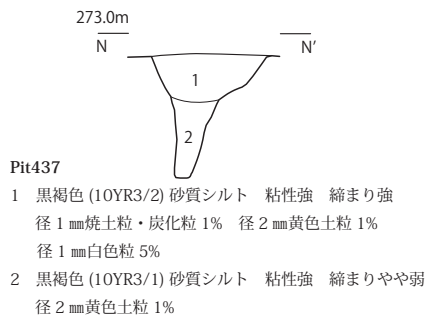
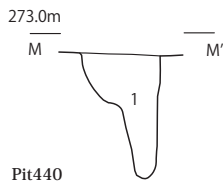
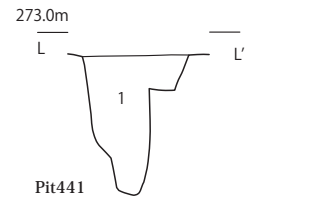
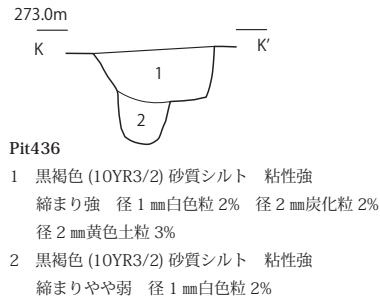
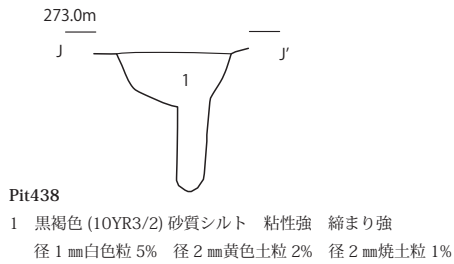
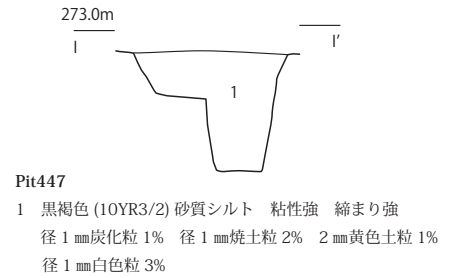
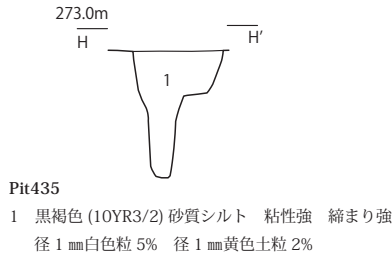
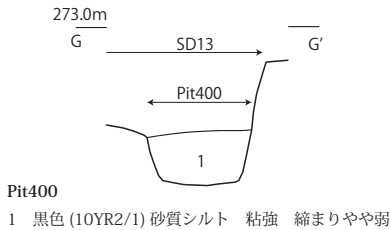
**SK35 東西**

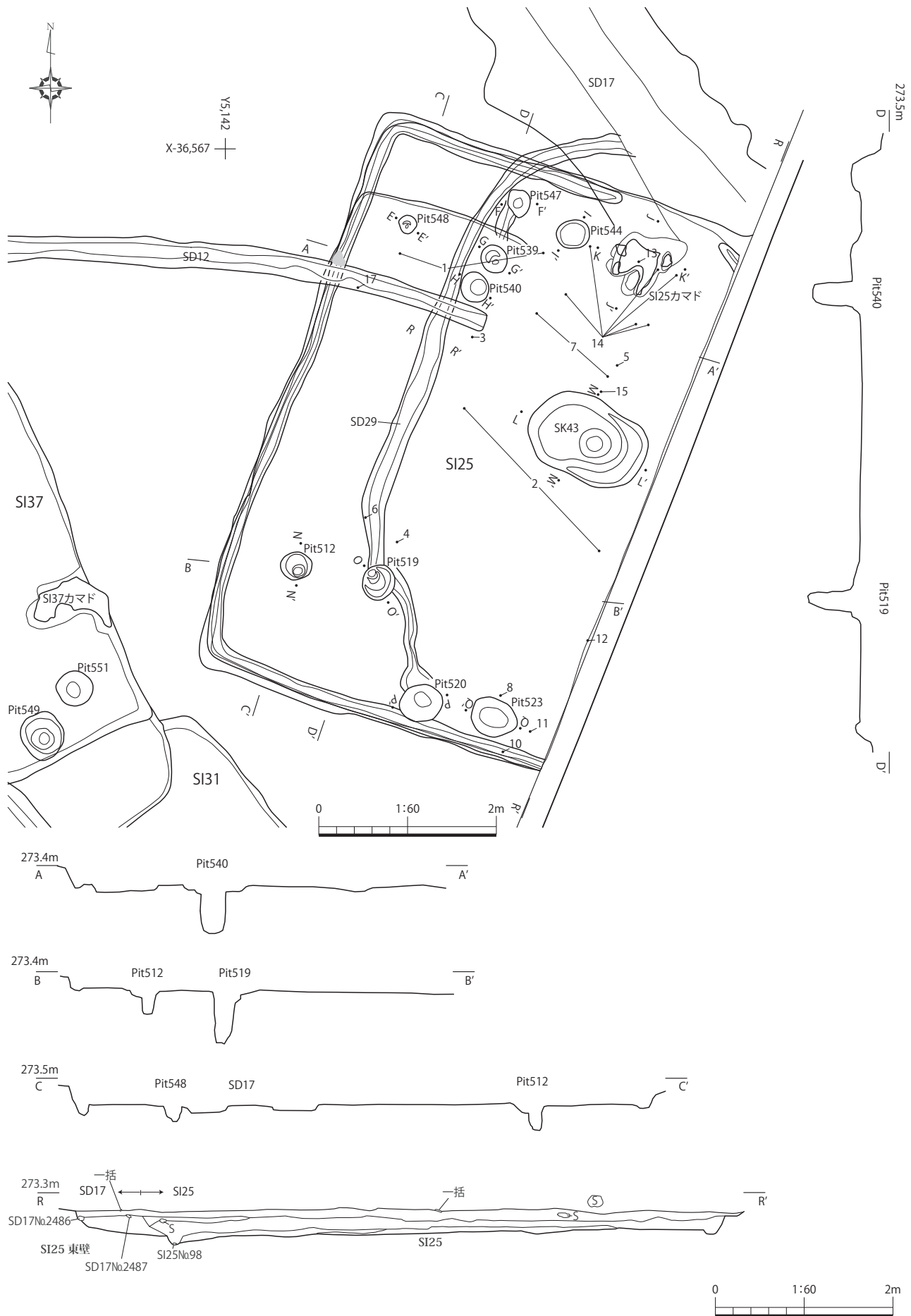
273.0m  
F — F'

**SK35 南北**

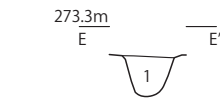


第59図 S | 23・24・26(1)



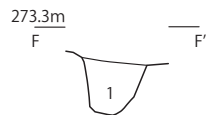


第61図 SI25(1)



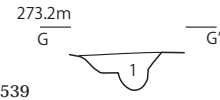
Pit 548

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 1 mm 白色粒 3%  
径 2 mm 黄色土粒 2%



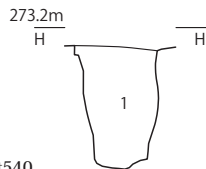
Pit 547

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 3%  
径 5 mm 黄色土粒 3%



Pit 539

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 2 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 2%  
径 2 mm 焼土粒 1% 径 1 mm 白色粒 2%



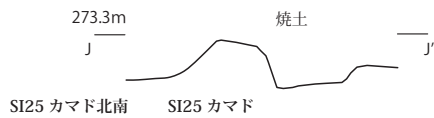
Pit 540

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 5 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 1%  
径 1 mm 白色粒 2% 径 1 mm 炭化粒 1%



Pit 544

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 5 mm 炭化粒 2% 径 5 mm 焼土粒 10%  
径 3 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 3%



SI25 カマド北南

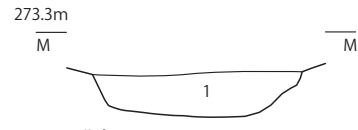


SI25 カマド西東

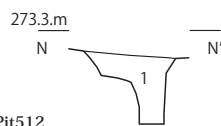


SK43 西東

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm 炭化粒 1% 径 5 mm 黄色土粒 2% 径 3 mm 焼土粒 1% 径 2 mm 白色粒 2%

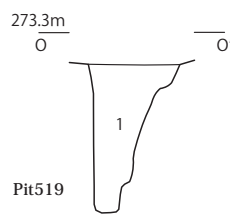


SK43 北南

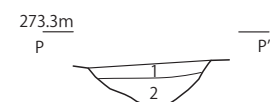


Pit 512

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 10 mm 炭化粒 1% 径 3 mm 焼土粒 1%  
径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 3%

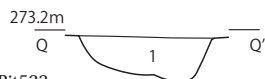


Pit 519



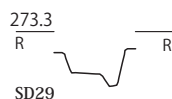
Pit 520

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径 1 mm 白色粒 5% 径 5 mm 炭化粒 2%  
径 2 mm 焼土粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 1%  
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱 縮まり強  
径 2 mm 黄色土粒 2%

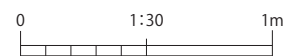


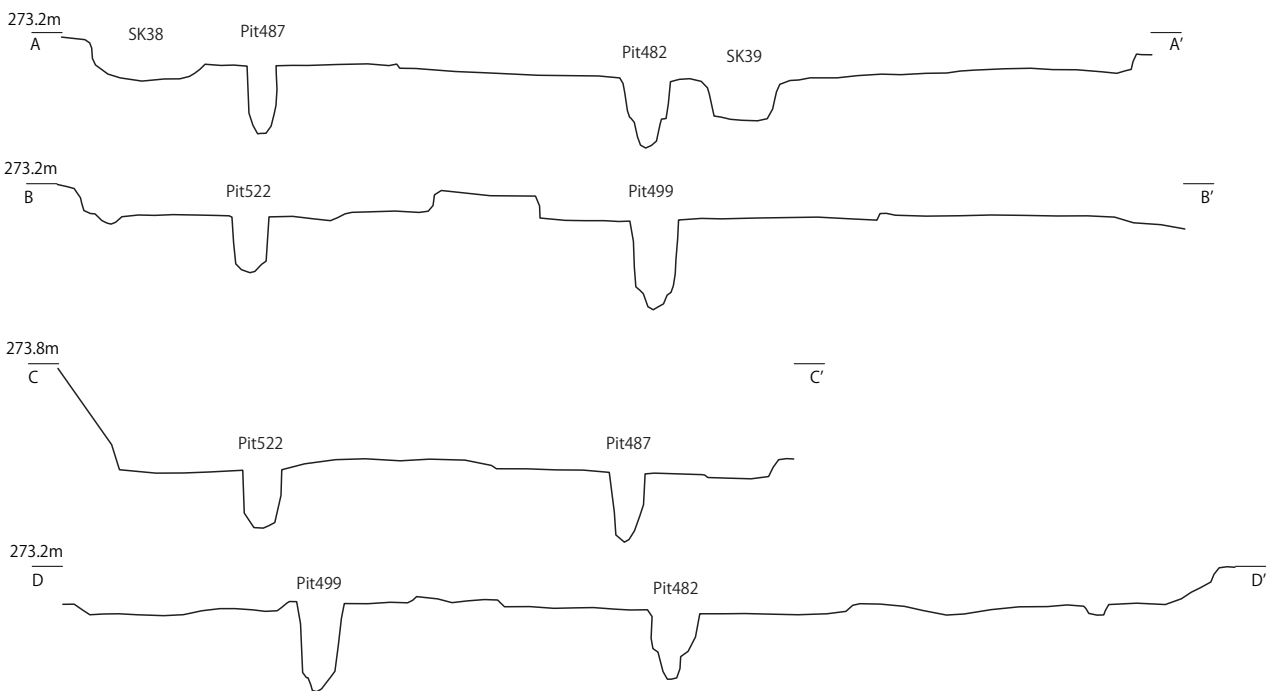
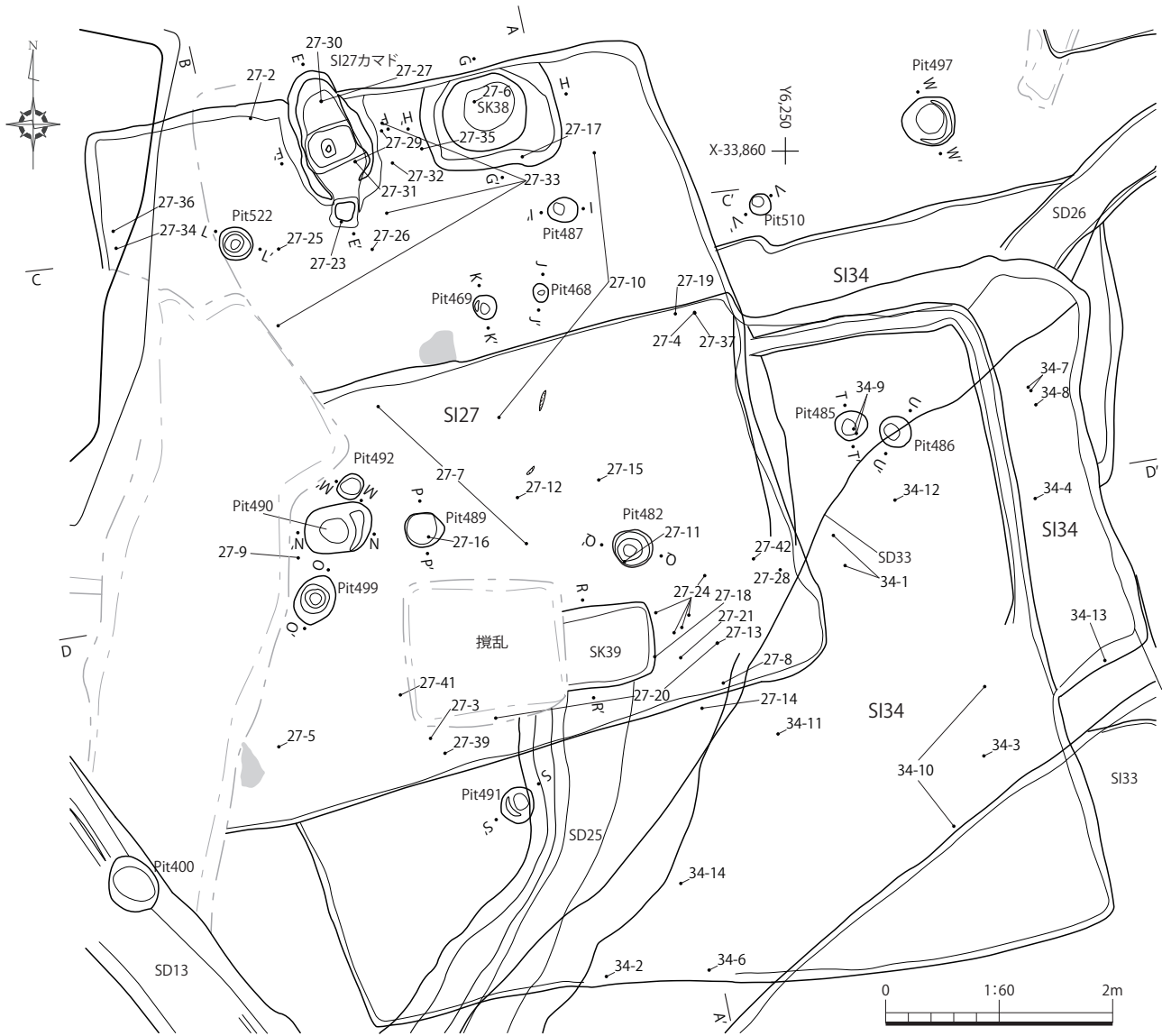
Pit 523

1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径 5-10 mm 焼土粒 10% 径 5-10 mm 炭化粒 5%  
径 5 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 白色粒 2%

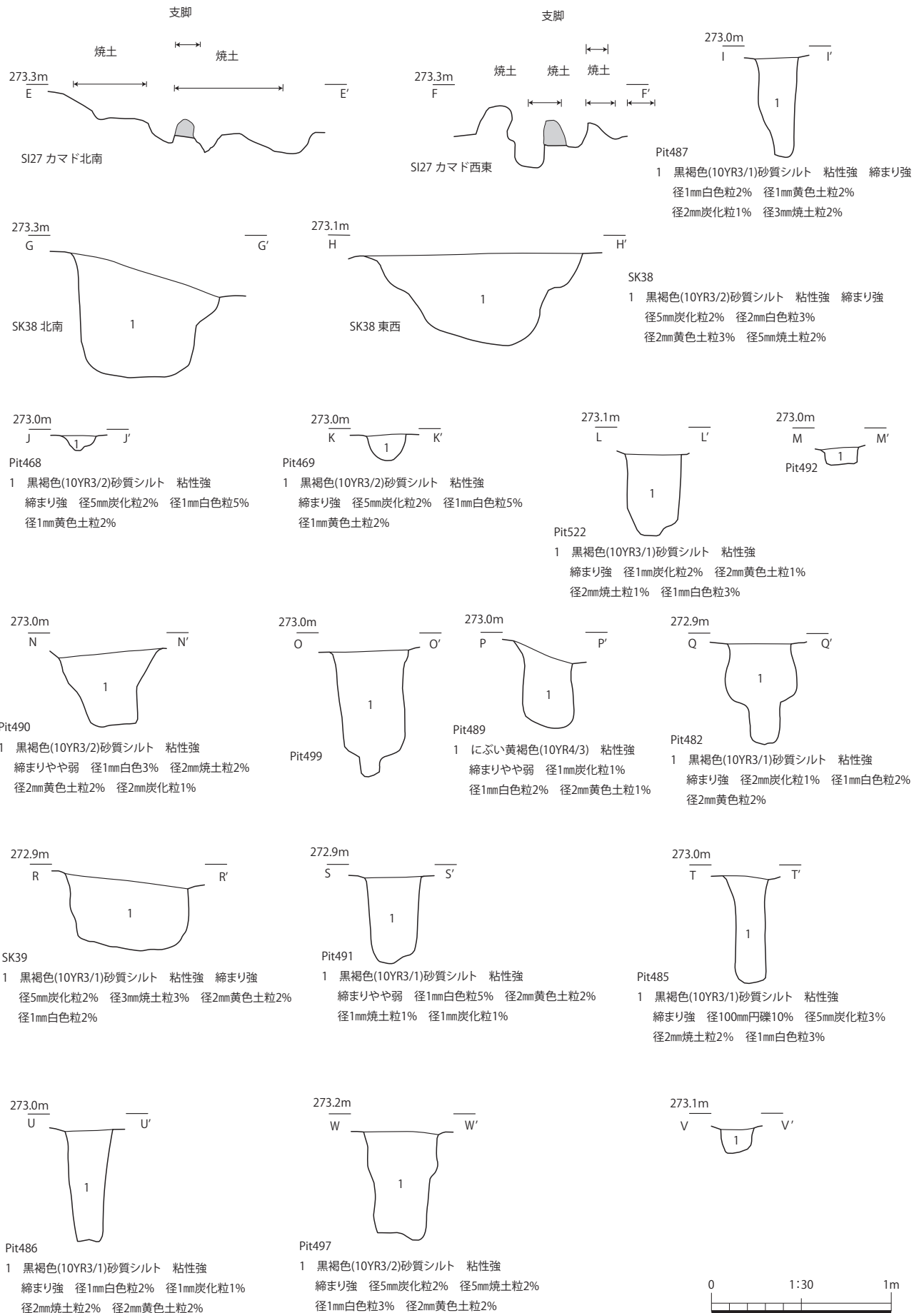


SD29

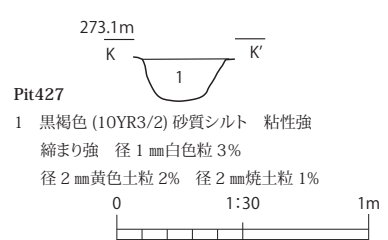
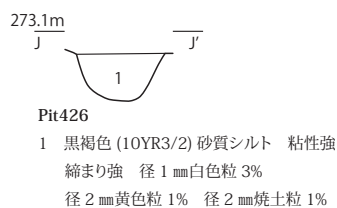
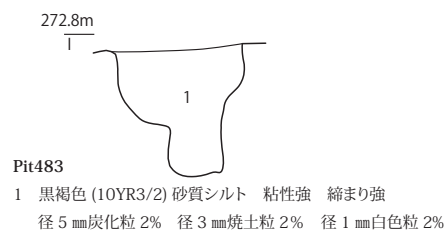
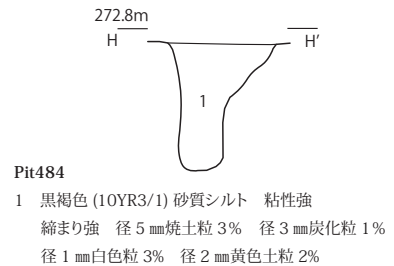
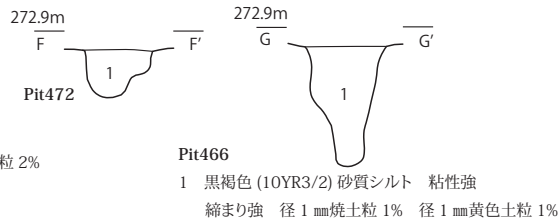
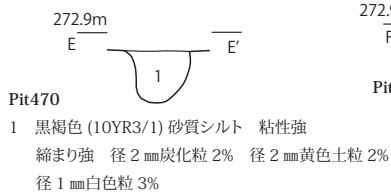
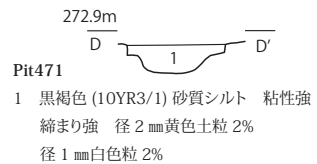
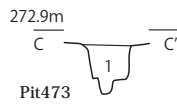
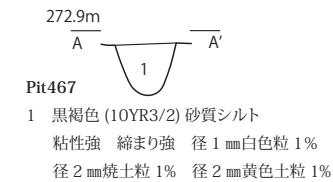
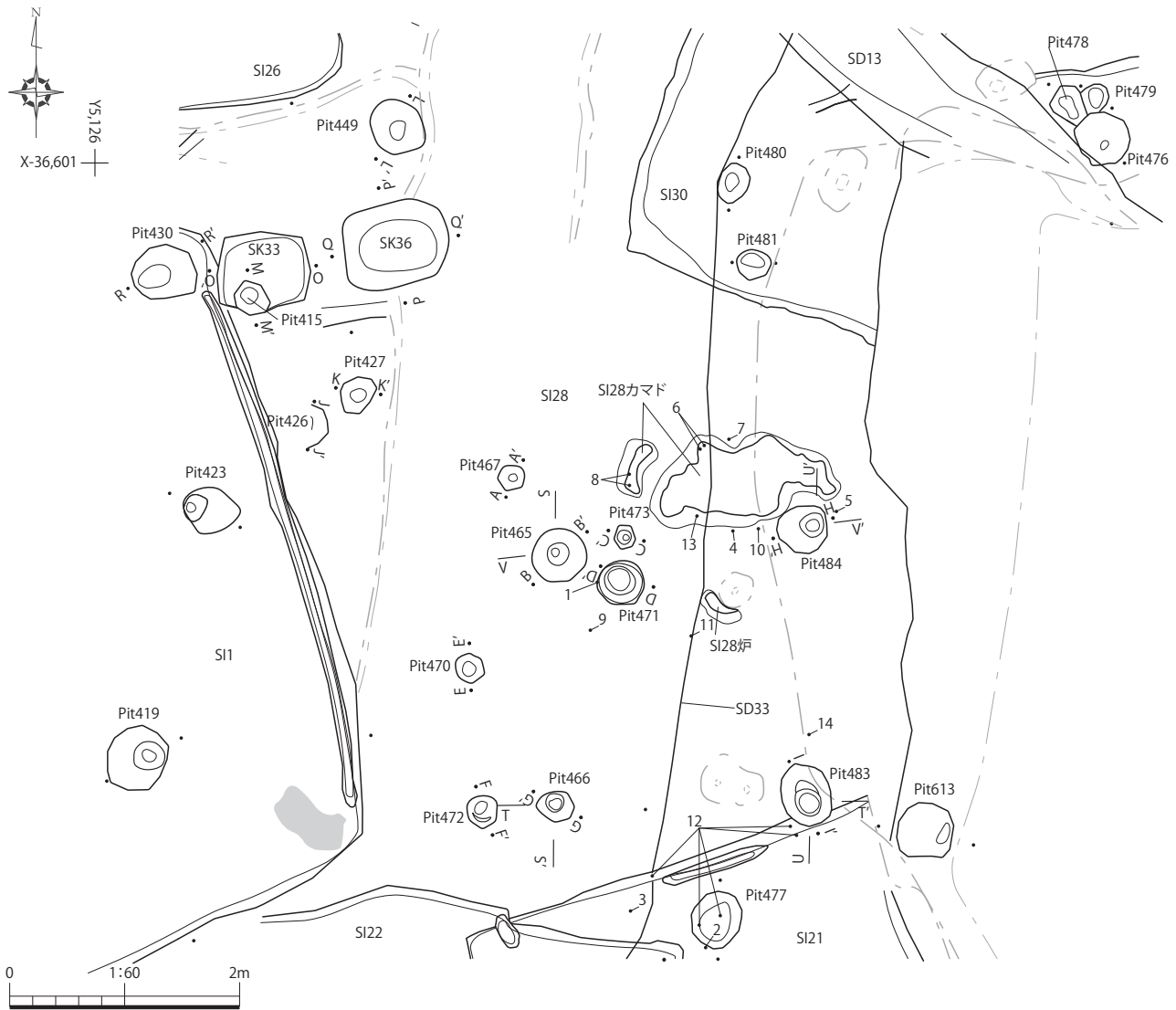




第63図 S I 27・34(1)

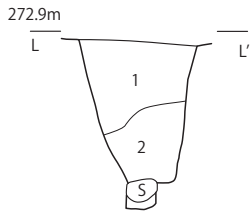


第64図 S I 27・34(2)



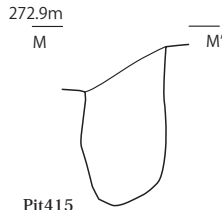
第65図 SI28(1)



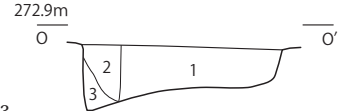


Pit449

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 5 mm炭化粒 2% 径 5 mm黄色土粒 3%  
径 5 mm焼土粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 2%

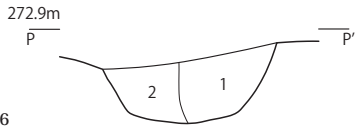


Pit415



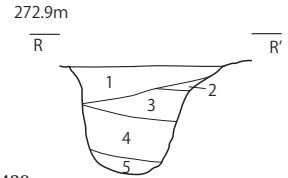
SK33

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 3% 径 1 mm白色粒 2% 径 1 mm焼土粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 2 mm焼土粒 1% 径 2 mm黄色土粒 1%
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質砂層 粘性弱 縮まりやや弱



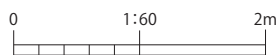
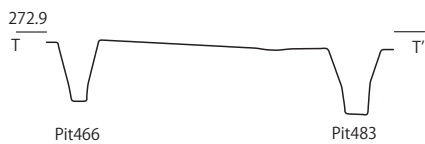
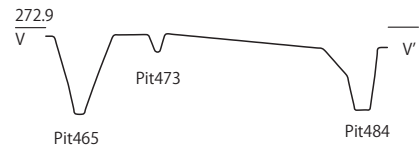
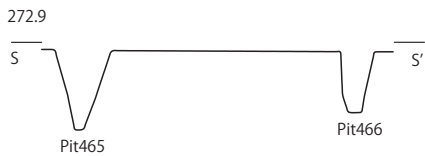
SK36

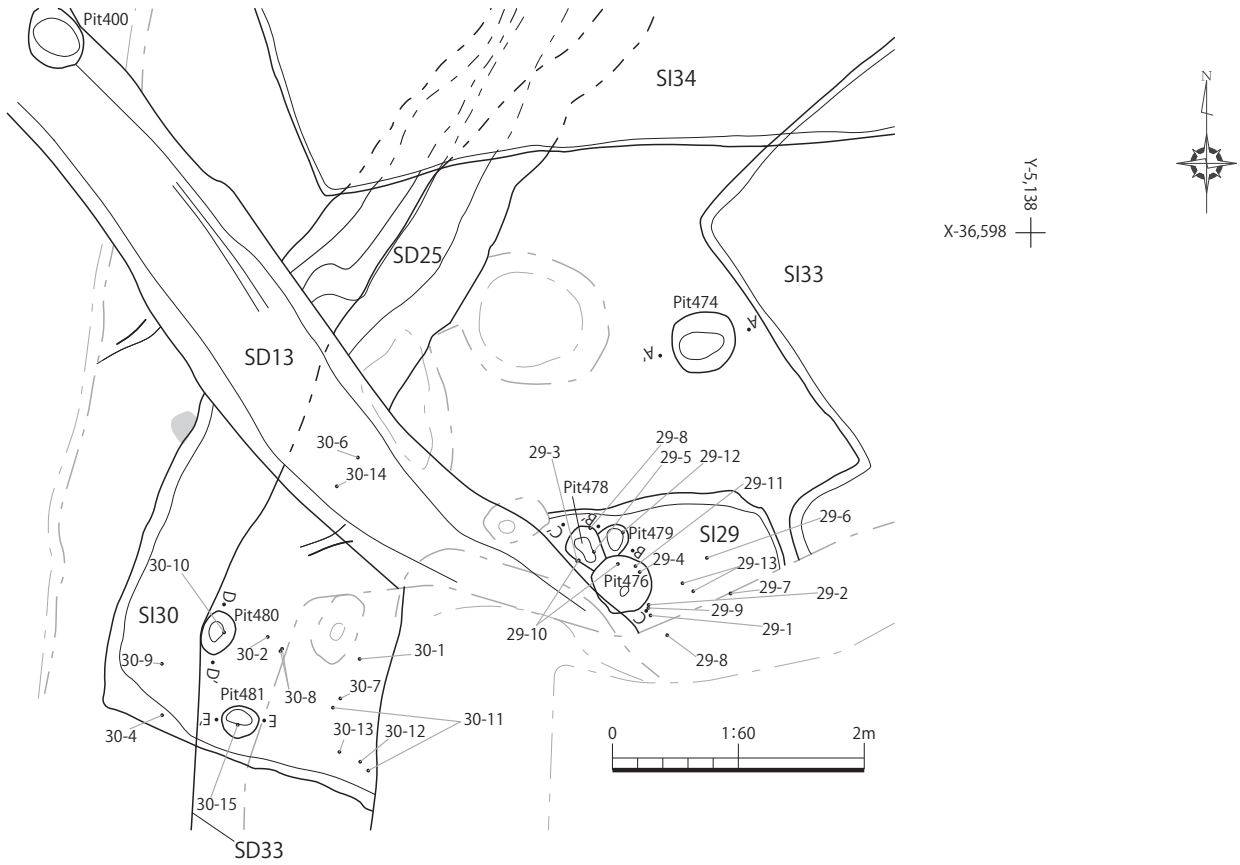
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 10 cm炭化物 1% 径 5 mm黄色土粒 1% 径 5 mm焼土粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 縮まり強  
径 1 mm白色粒 2% 径 1 mm黄色粒 1%



Pit430

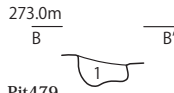
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘性強 縮まり強  
径 3 mm焼土粒 1% 径 1 mm白色粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘性強 縮まりやや弱  
径 10 cm赤色粒・泥岩粒 2%
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 1%
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 粘性強 縮まり強  
径 2 mm黄色土粒 1%
- 5 灰黄褐色 (10YR3/1) 粘性強 縮まりやや弱  
径 5 mm黄色土粒 2% 径 2 mm白色粒 3%





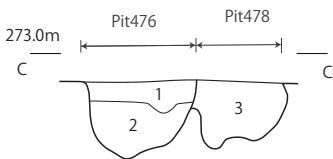
Pit474

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱  
径5mm炭化粒1%



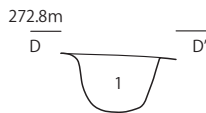
Pit479

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm焼土粒1% 径1mm白色粒3%



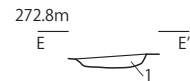
Pit476・478

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm焼土粒1% 径1mm白色粒3% [Pit476]  
2 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト 粘性弱 締まり強  
径2mm黄色土粒1% 径3mm炭化粒1% [Pit476]  
3 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径5mm炭化粒1% 径3mm炭化粒1% 径1mm白色粒2% [Pit478]



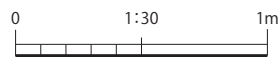
Pit480

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト  
粘性強 締まりやや弱  
径3mm炭化粒1% 径2mm黄色粒2%  
径1mm白色粒1%

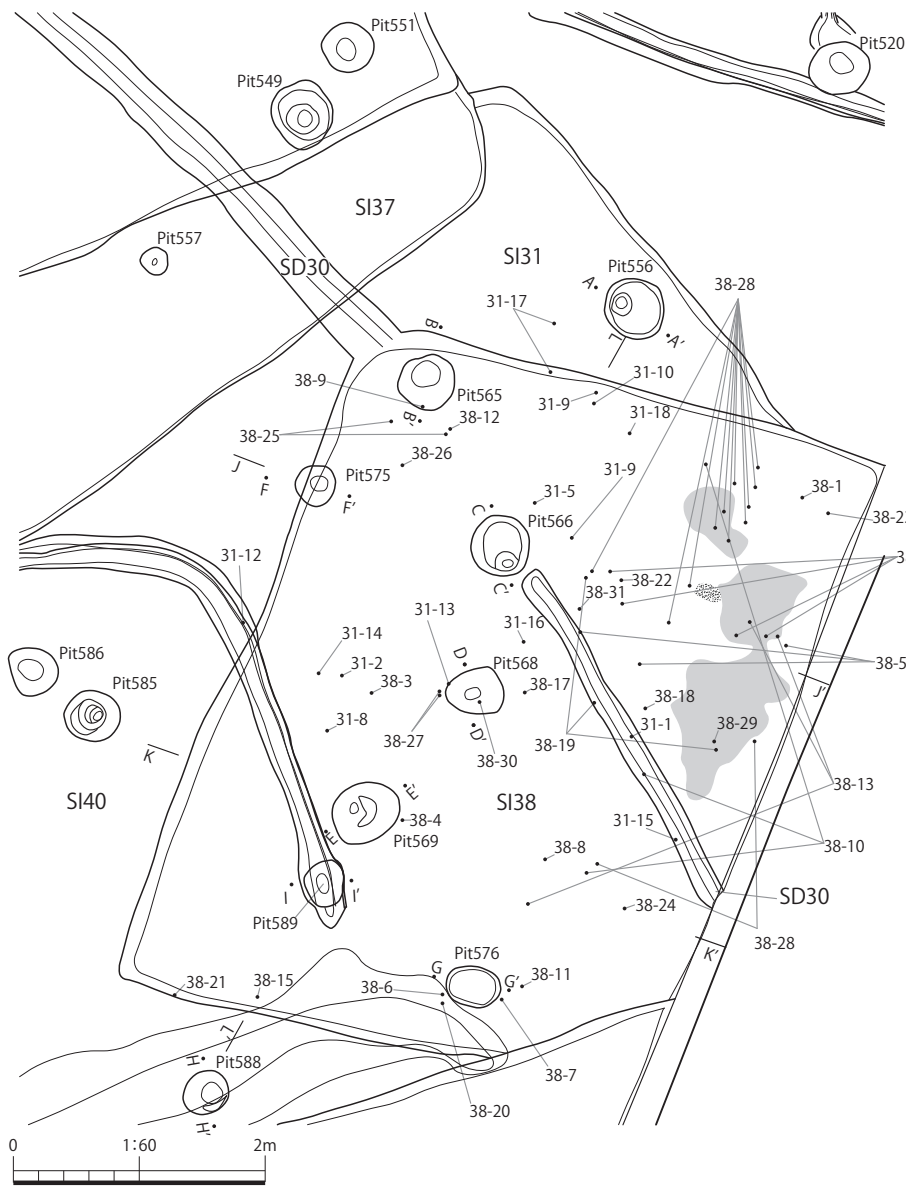


Pit481

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト  
粘性強 締まりやや弱  
径3mm炭化粒1% 径2mm黄色粒2%  
径1mm白色粒1%



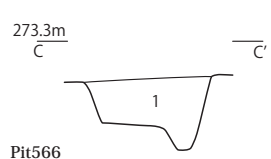
第67図 S | 29・30



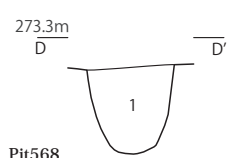
**Pit556**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径2mm黄色土粒3%  
径1mm白色粒3% 径3mm炭化粒1%



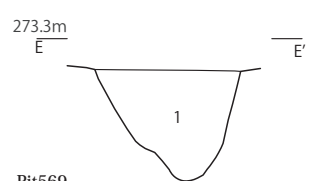
**Pit565**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや強 径2mm炭化粒1% 径2mm白色粒3%  
径2mm黄色土粒3% 径5mm焼土粒1%



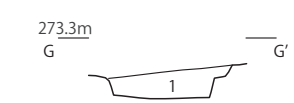
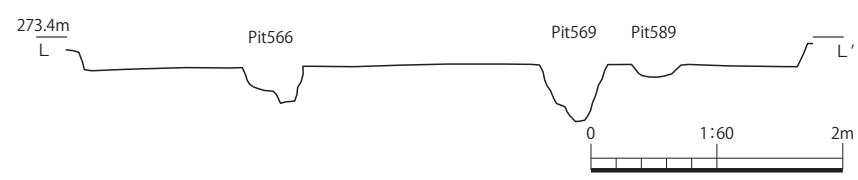
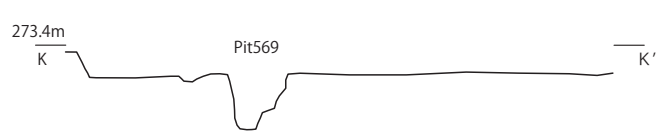
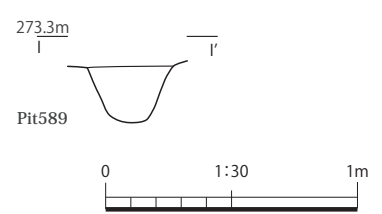
**Pit566**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径2mm焼土粒2% 径1mm白色粒3%  
径2mm炭化粒1% 径2mm黄色土粒3%



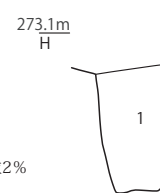
**Pit568**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2%  
径2mm炭化粒1% 径2mm焼土粒1%



**Pit569**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2%  
径2mm炭化粒1%

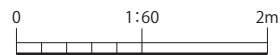
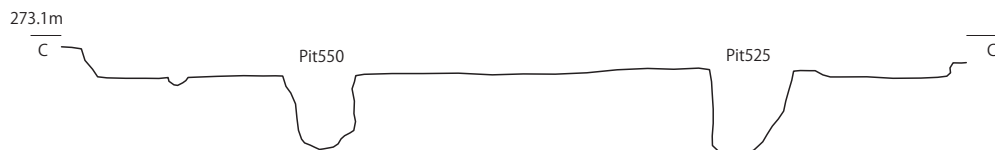
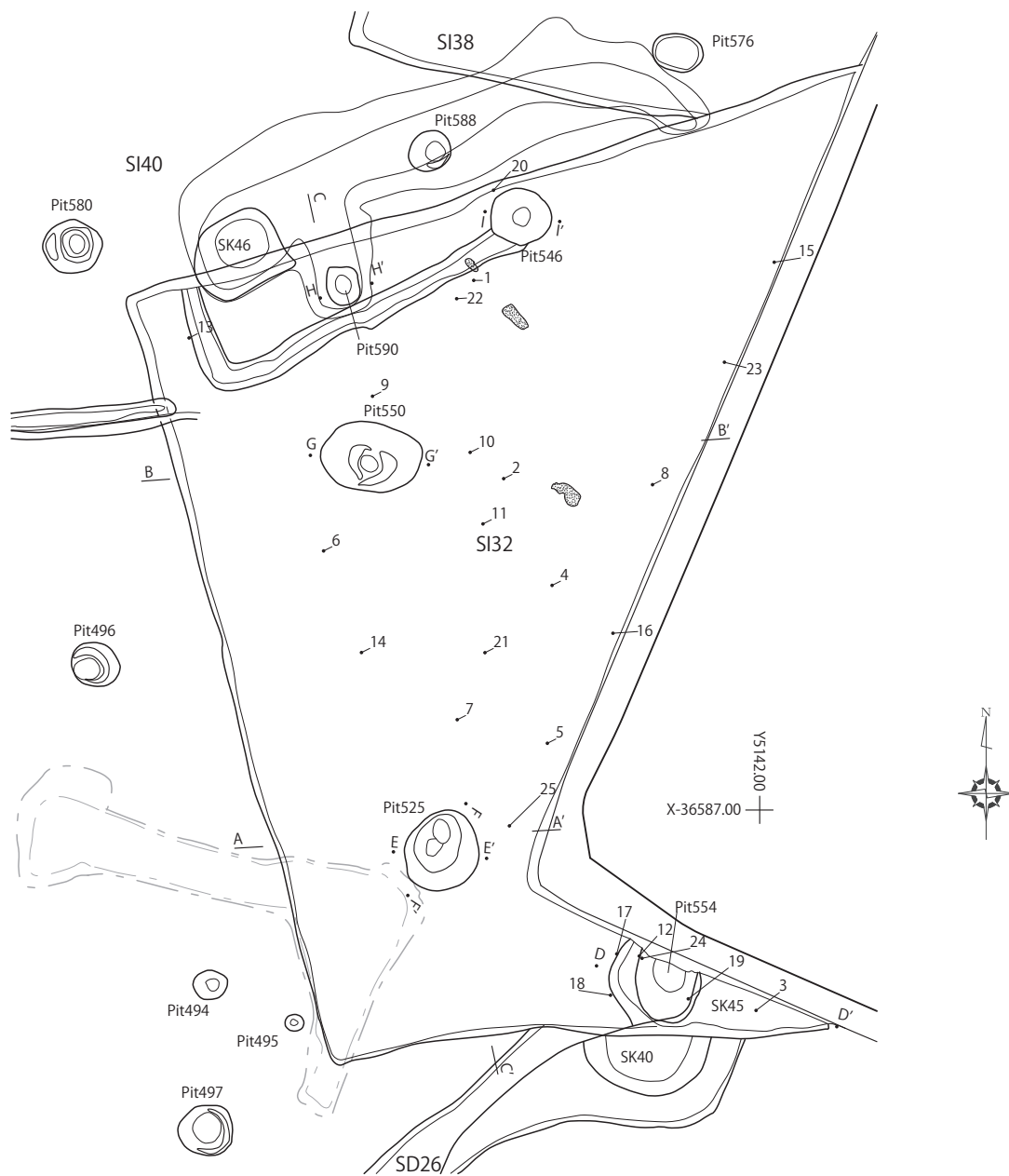


**Pit576**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径3mm黄色土粒2% 径2mm焼土粒2%  
径3mm炭化粒2% 径1mm白色粒3%

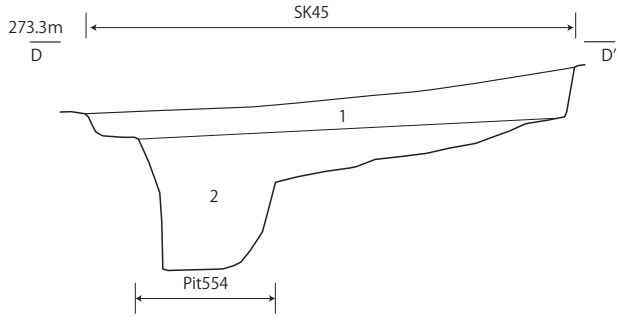


**Pit588**  
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径5mm炭化粒2%  
径1mm白色粒3% 径1mm黄色土粒2%

第68図 S | 31・38

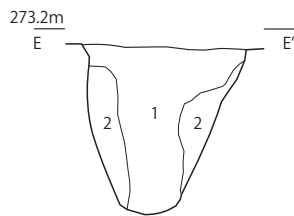


第69图 SI32(1)



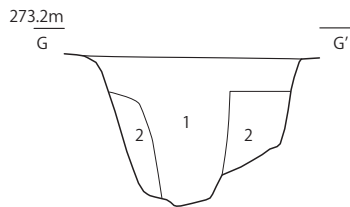
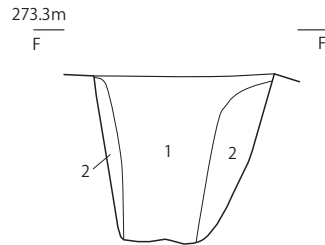
SK45・Pit554

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 1% 径 2 mm黄色土粒 2% 径 2 mm焼土粒 2%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径 2 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 2% 径 2 mm焼土粒 2%



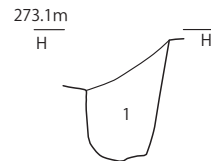
Pit525

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2 mm炭化粒 2% 径 2 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 3%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト質粘土 粘性強 締まり弱  
径 2 mm黄色土粒 1% 径 1 mm焼土粒 1%



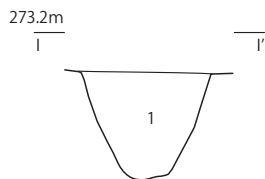
Pit550

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3% 径 3 mm黄色土粒 2% 径 2 mm焼土粒 1%
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト質粘土 粘性強 締まりやや弱  
径 1 mm白色粒 2%



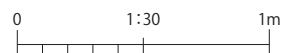
Pit590

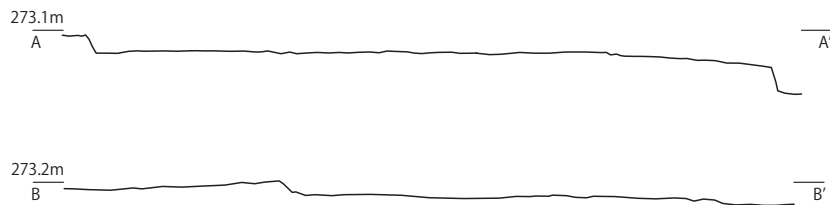
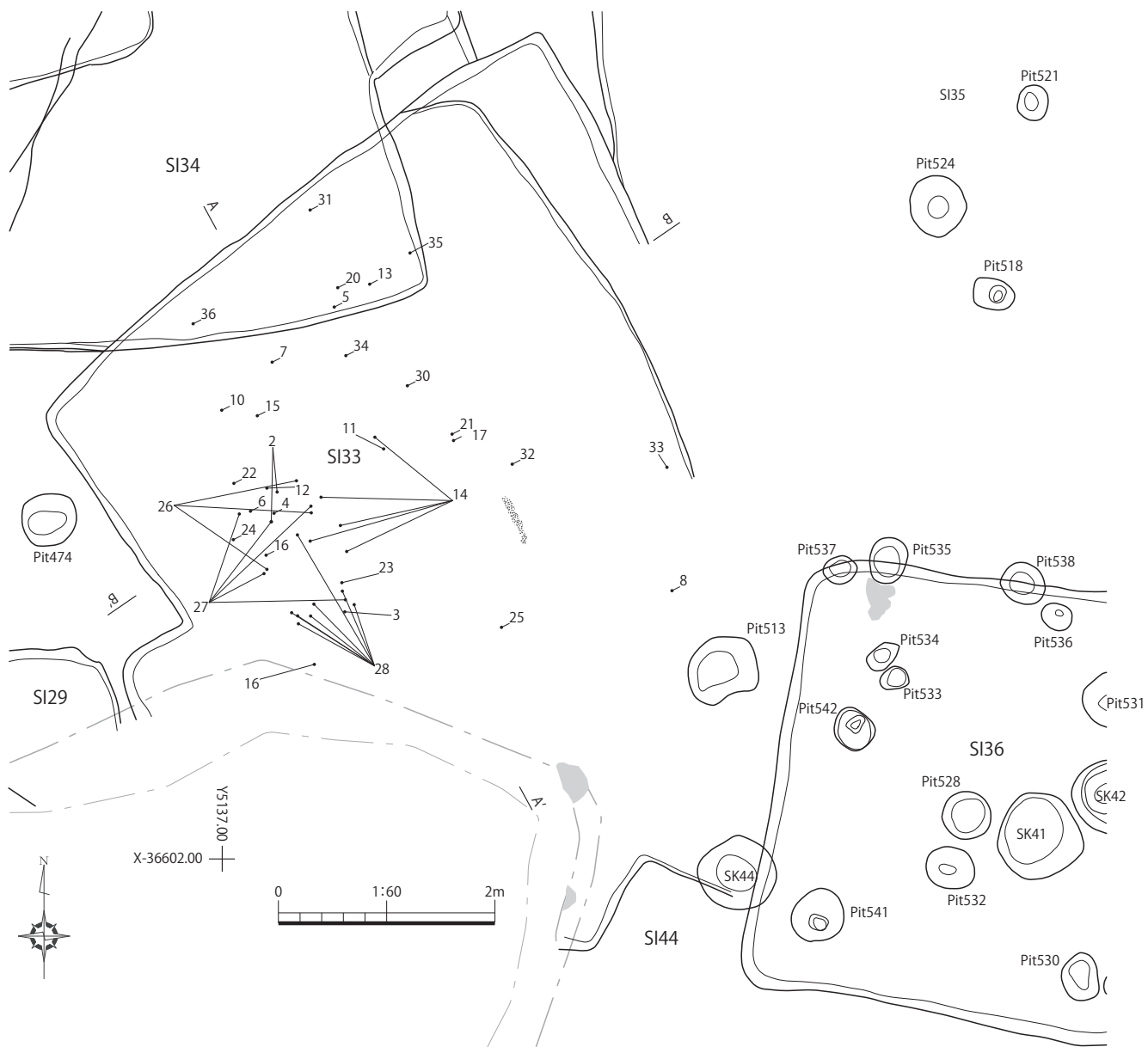
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 5 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 2% 径 5 mm焼土粒 1%



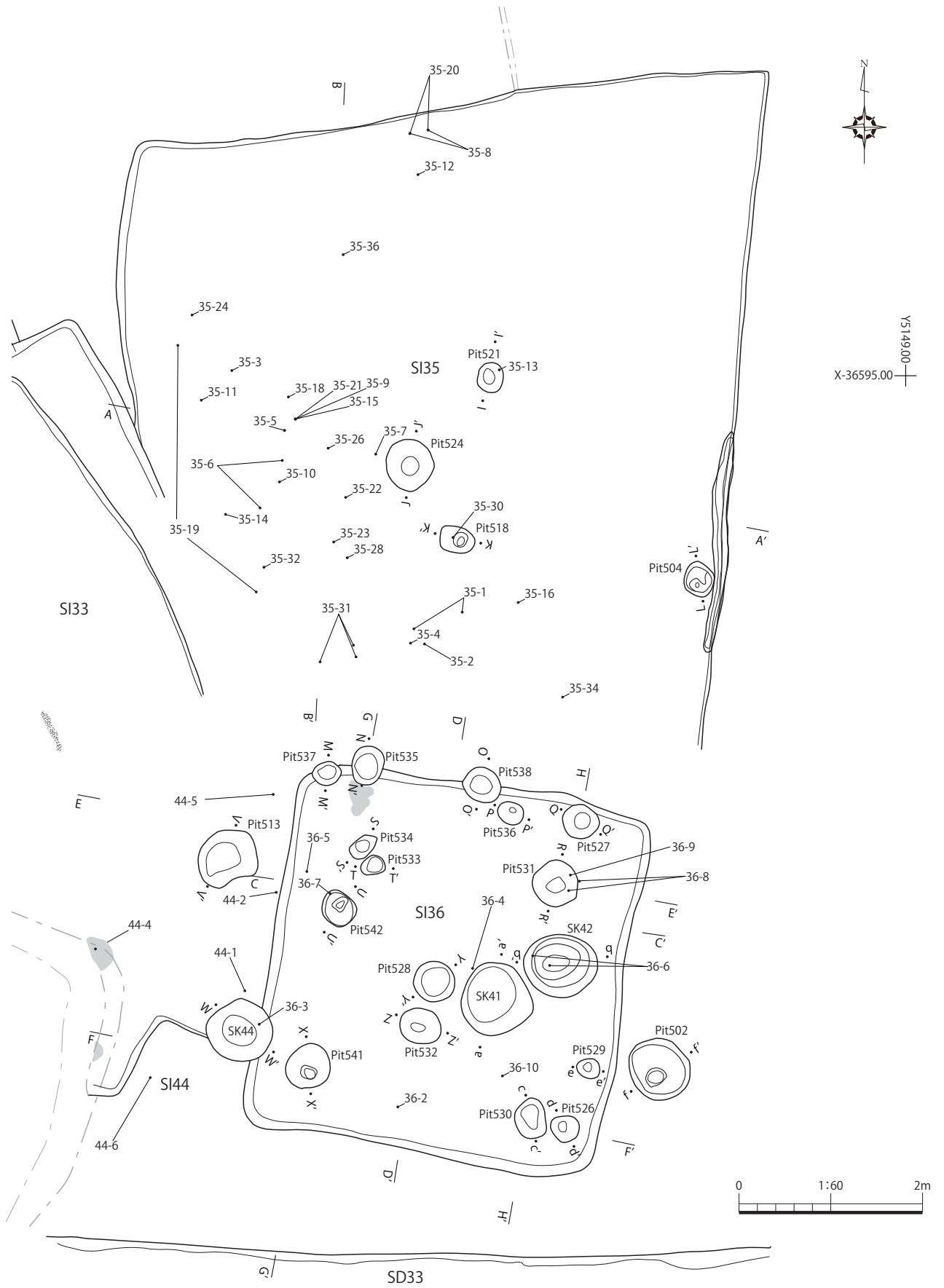
Pit546

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
径 5 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 2% 径 2 mm焼土粒 3%

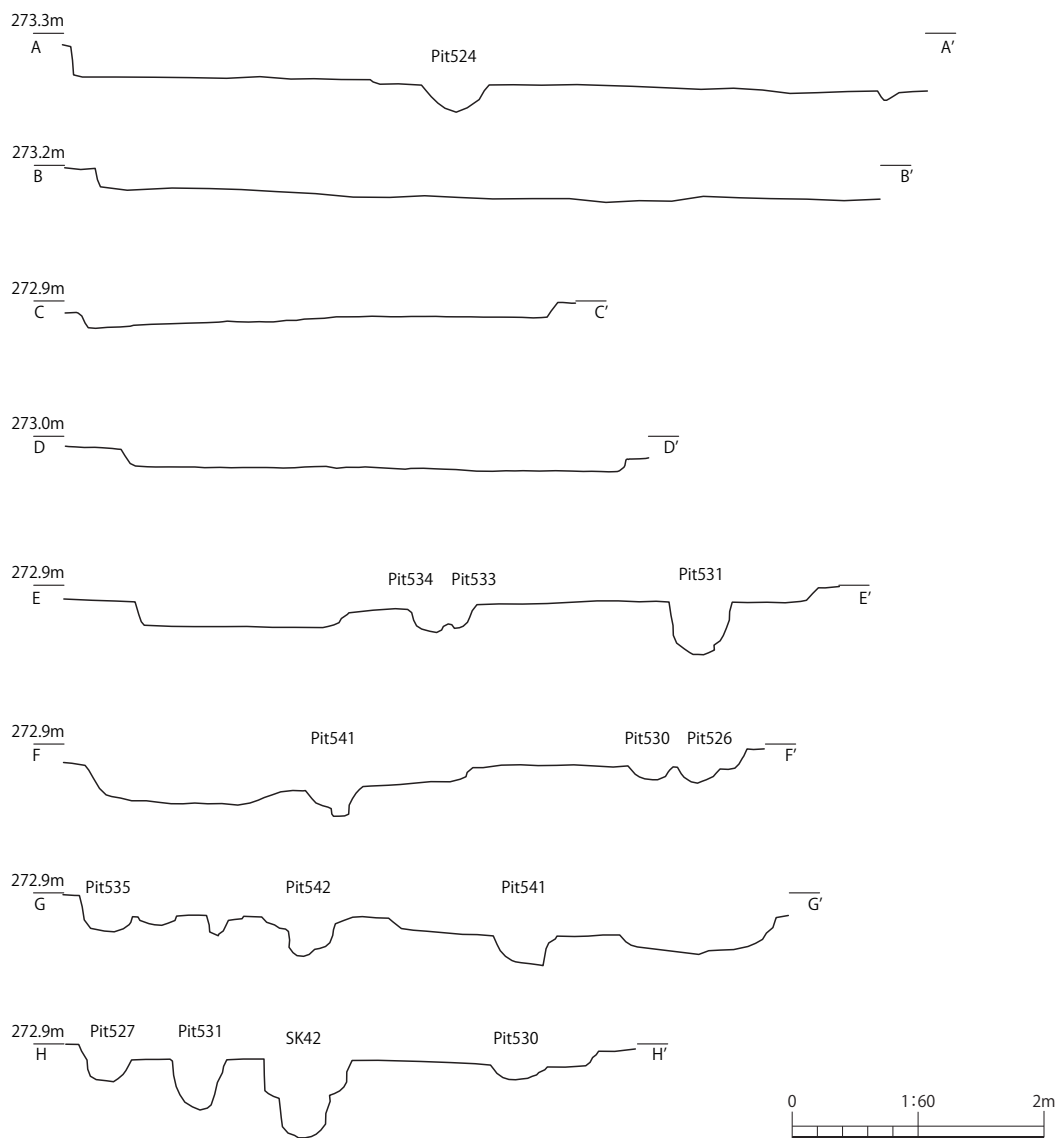




第71図 S I 33



第72图 S | 35·36·44(1)



273.0m  
I I'

Pit521  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱  
締まり強 径 2mm炭化粒 1%

273.0m  
J J'

Pit524  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強  
径 1mm白色粒 2% 径 2mm炭化粒 1% 径 2mm黄色土粒 2%

273.0m  
K K'

Pit518  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性やや弱  
締まり強 径 1mm白色粒 2% 径 2mm炭化粒 3%  
径 1mm黄色土粒 1%

272.9m  
L L'

Pit504  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1mm白色粒 1% 径 5mm炭化粒 2%  
径 3mm焼土粒 2%

272.9m  
M M'

Pit537  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
径 1mm白色粒 1% 径 1mm黄色土粒 1%  
径 1mm焼土粒 1%

272.9m  
N N'

Pit535  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 2mm炭化粒 1% 径 1mm白色粒 3%  
径 2mm黄色土粒 2% 径 1mm焼土粒 1%

0 1:30 1m

第73図 S I 35・36・44(2)





Pit538  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm黄色土粒 2%



Pit536  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2 mm炭化粒 2% 径 2 mm黄色土粒 1%  
径 2 mm焼土粒 1%



Pit527  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
径 1 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3%  
径 1 mm焼土粒 1%



Pit531  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 2%  
径 2 mm黄色土粒 1% 径 1 mm焼土粒 1%



Pit534  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 2 mm黄色土粒 1%



Pit533  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 1%



Pit542  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 2%  
径 2 mm黄色土粒 1%



Pit513  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 1%  
径 2 mm黄色土粒 2% 径 2 mm焼土粒 1%



SK44  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1 mm白色粒 1% 径 2 mm黄色土粒 2%  
径 2 mm焼土粒 2%



Pit541  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 2%  
径 1 mm黄色土粒 1%



Pit528  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性弱 締まり強  
径 1 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm黄色土粒 1%



Pit532  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm焼土粒 1%



SK41  
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
粘性強 締まり強  
径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 1%  
径 2 mm焼土粒 1%



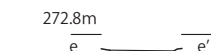
SK42



Pit530  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 3% 径 2 mm黄色土粒 2%



Pit526  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 5 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm黄色土粒 1%



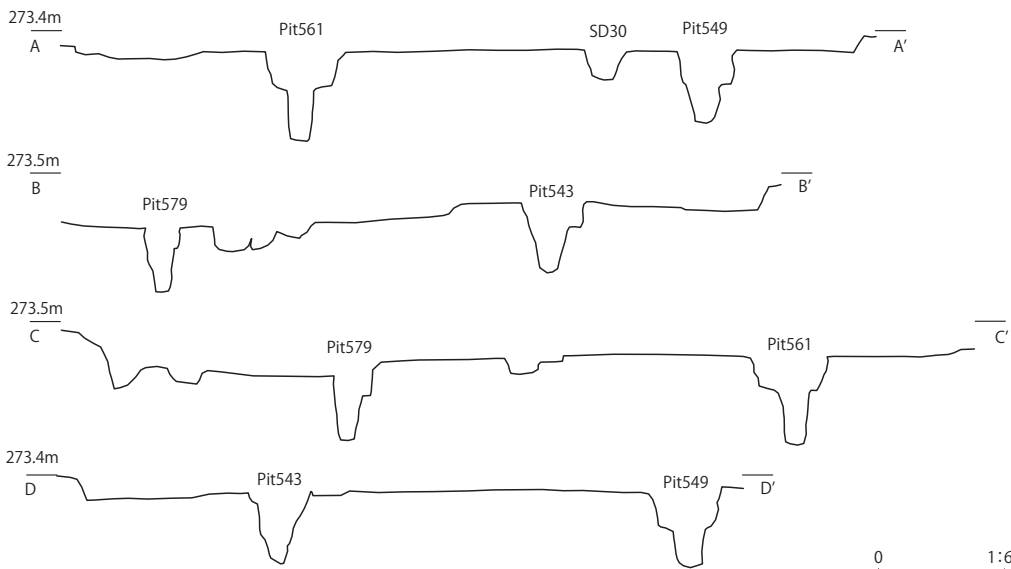
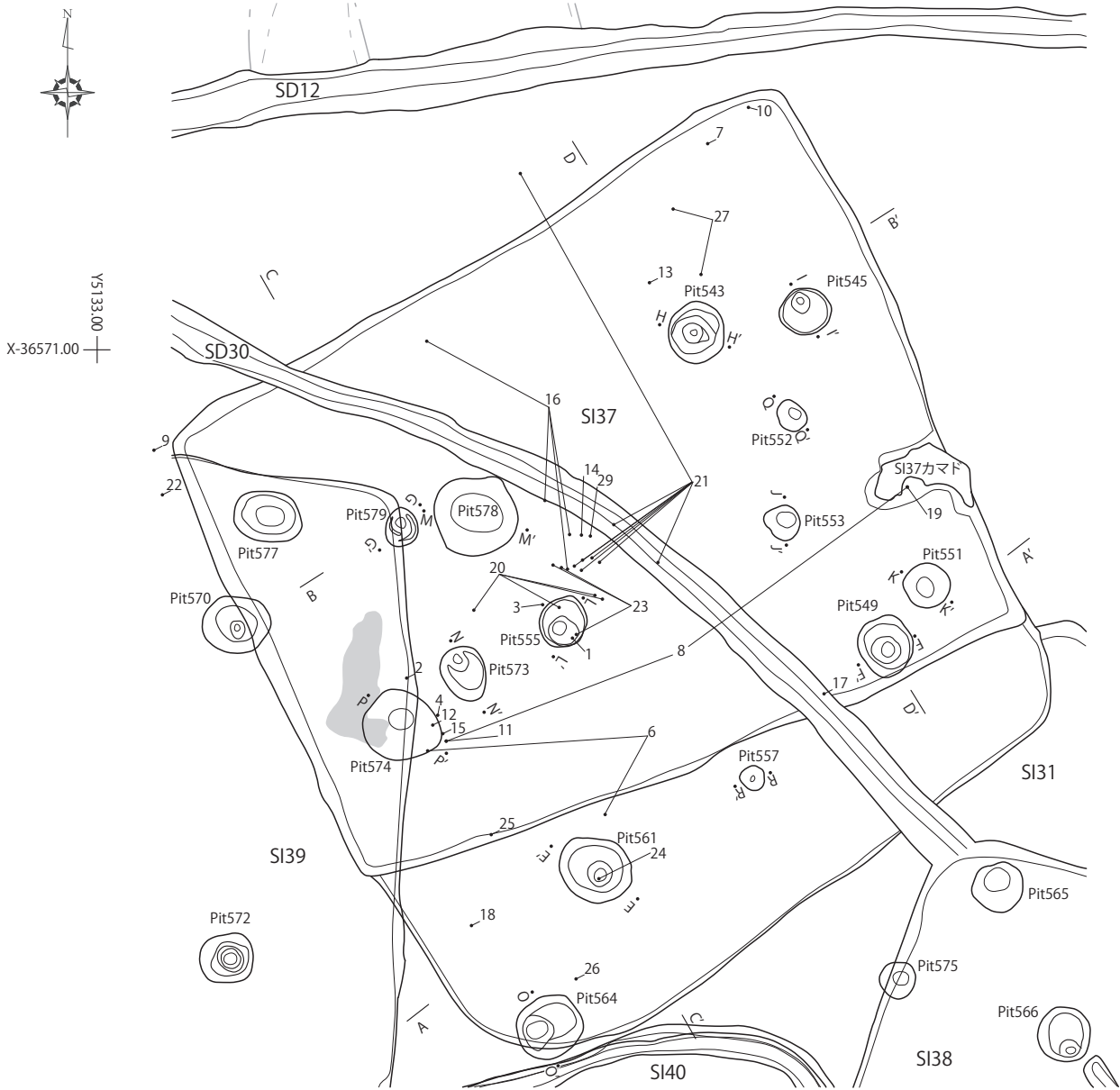
Pit529  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 1 mm炭化粒 1% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm焼土粒 1%



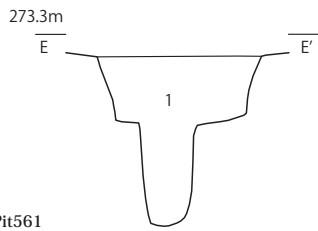
Pit502  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
粘性やや弱 締まり強  
径 2 mm炭化粒 2% 径 1 mm白色粒 3%  
径 2 mm黄色土粒 1% 径 2 mm焼土粒 1%



第74図 S I 35・36・44(3)

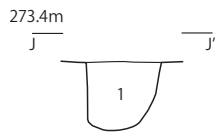


第75図 S137(1)



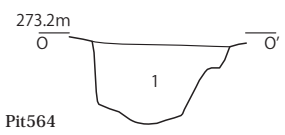
Pit561

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 5 mm 焼土粒 1%



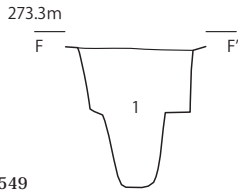
Pit553

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径 2 mm 白色粒 3% 径 2 mm 黄色土粒 2%  
 径 2 mm 焼土粒 1%



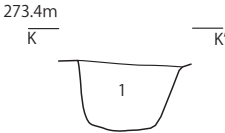
Pit564

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径 2 mm 焼土粒 1% 径 1 mm 白色粒 2%  
 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%



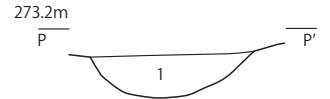
Pit549

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 白色粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 5 mm 焼土粒 1%



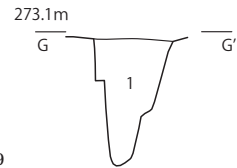
Pit551

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 白色粒 3% 径 3 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1%



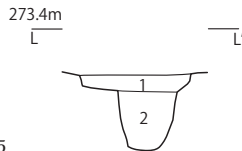
Pit574

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径 1 mm 白色粒 3% 径 3 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 2%



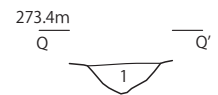
Pit579

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 2% 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 3%



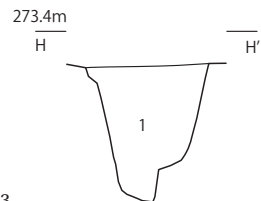
Pit555

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 白色粒 3% 径 2 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 1%  
 径 5 mm 焼土粒 1%  
 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱  
 径 2 mm 白色粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 3%



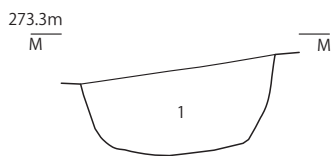
Pit552

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
 締まり強 径 1 mm 白色粒 2%  
 径 1 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 2%



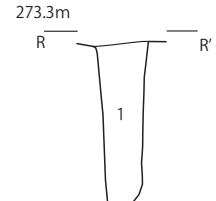
Pit543

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 白色粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1%



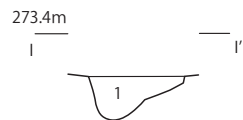
Pit578

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 2% 径 5 mm 炭化粒 3%  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 2%



Pit557

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 白色粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%  
 径 2 mm 黄色土粒 3%



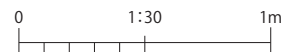
Pit545

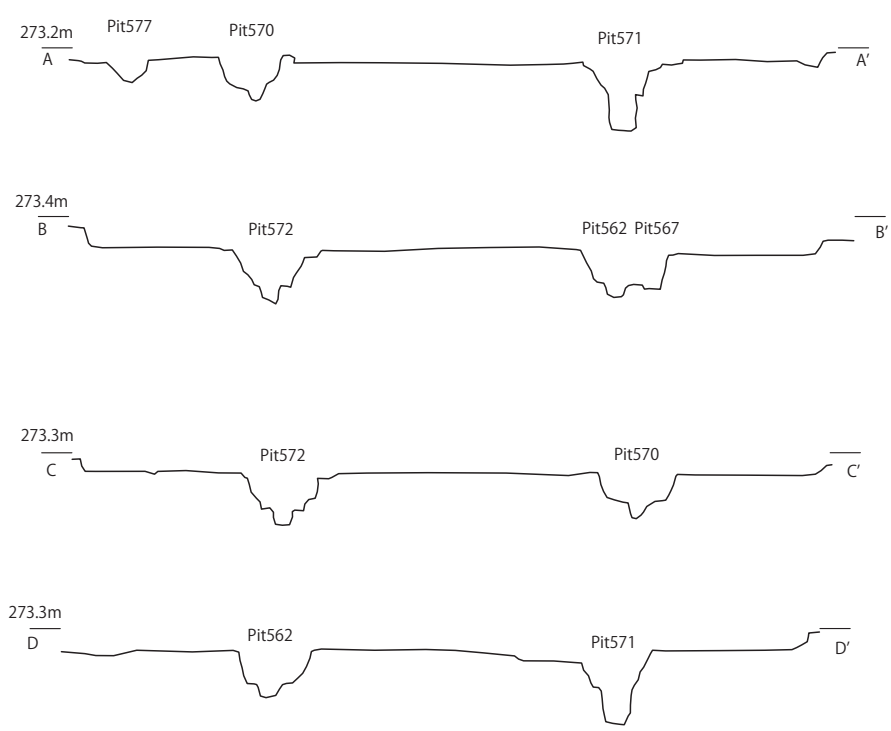
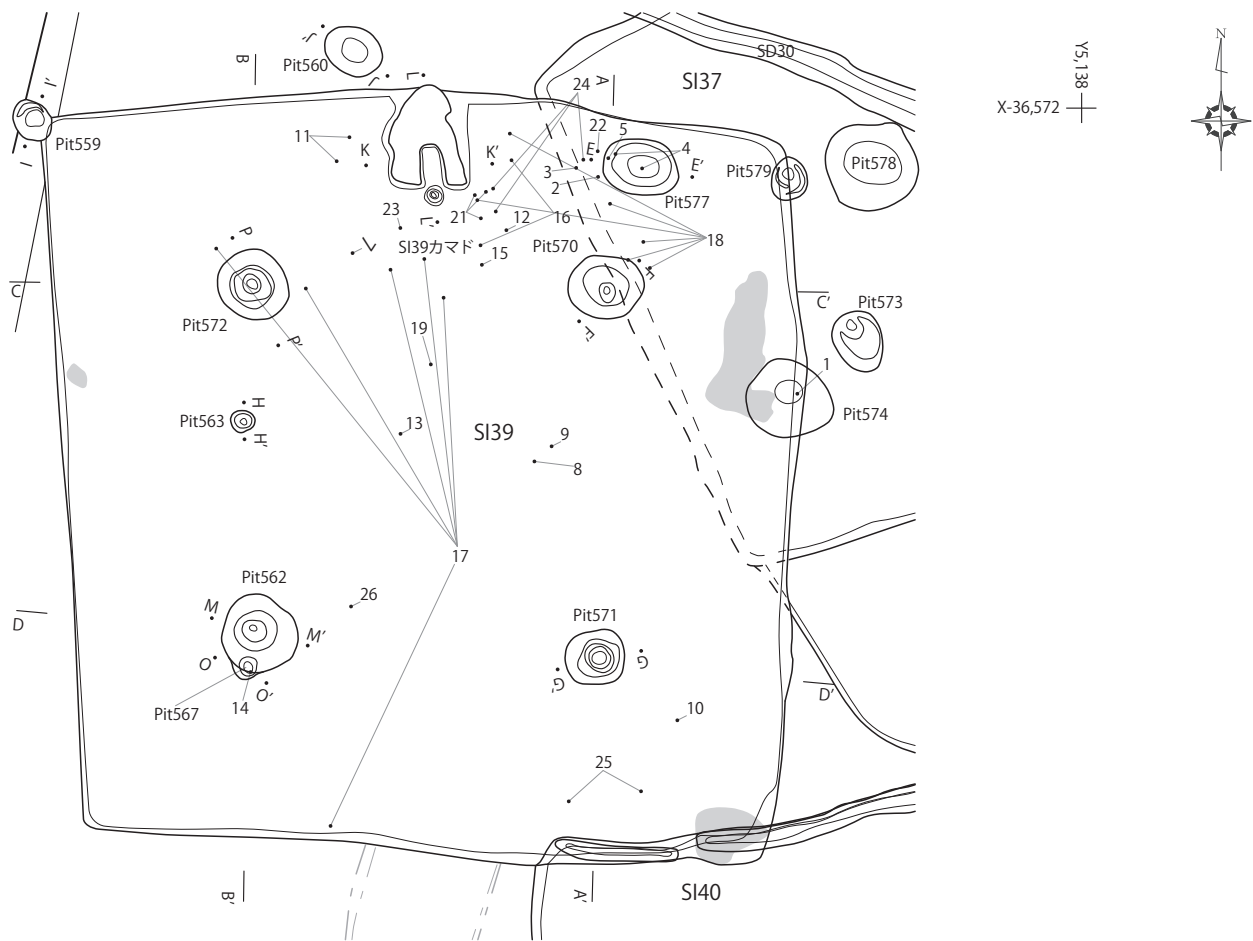
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 炭化粒 2%  
 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1%



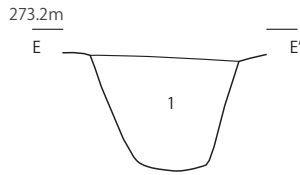
Pit573

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1%



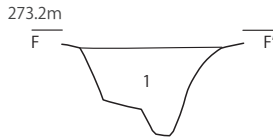


第77図 S I 39(1)



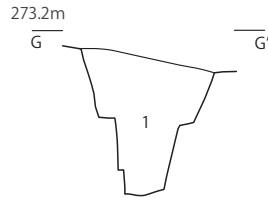
Pit577

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 5 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 焼土粒 2% 径 1 mm 白色粒 1%



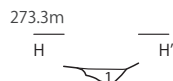
Pit570

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 炭化粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1% 径 1 mm 白色粒 3%



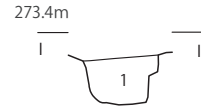
Pit571

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 2% 径 3 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 2 mm 焼土粒 2%



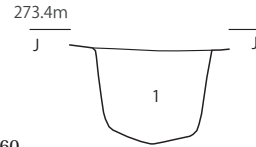
Pit563

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 炭化粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2%



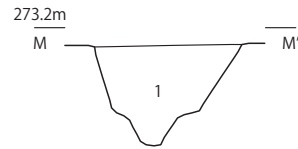
Pit559

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 炭化粒 1%



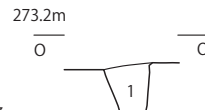
Pit560

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 炭化粒 2%



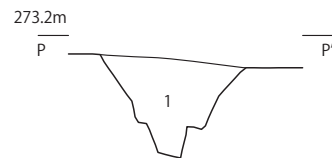
Pit562

1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 粘性強 締まり強  
 径 5 mm 炭化粒 1% 径 1 mm 白色粒 2% 径 2 mm 黄色土粒 2% 径 1 mm 焼土粒 1%



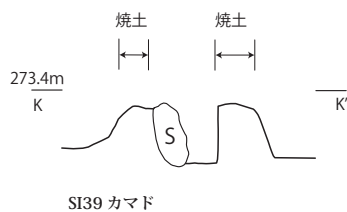
Pit567

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり弱  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 炭化粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 2%

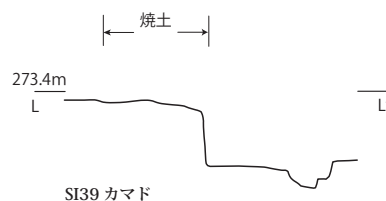


Pit572

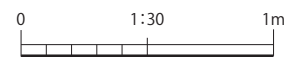
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まり強  
 径 1 mm 白色粒 3% 径 2 mm 焼土粒 1% 径 2 mm 黄色土粒 3% 径 5 mm 炭化粒 1%

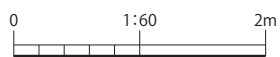
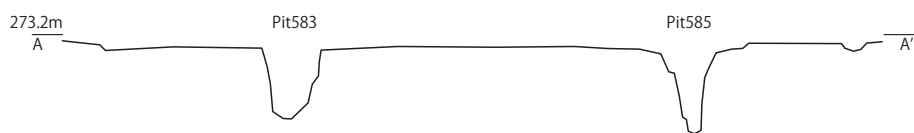
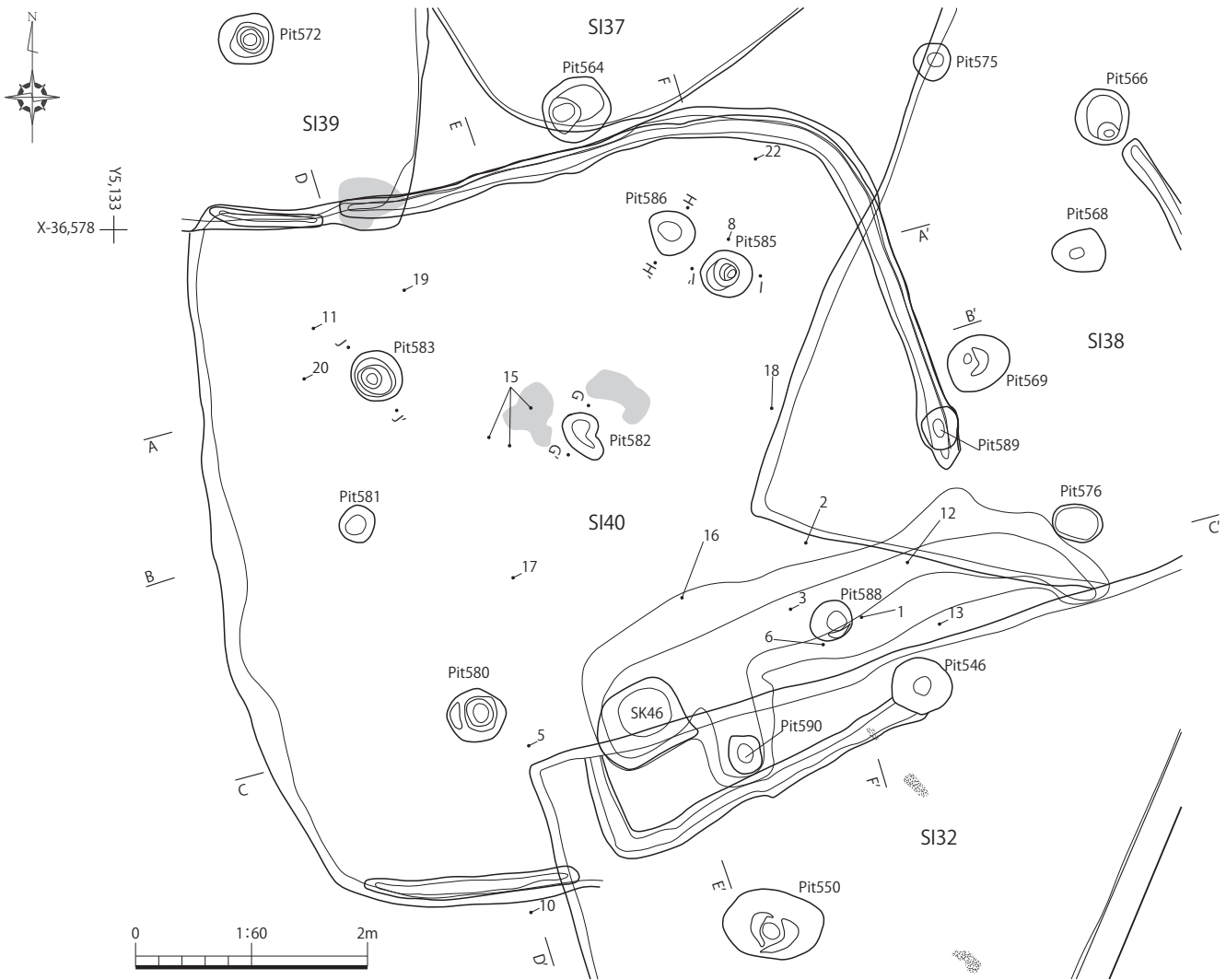


SI39 カマド

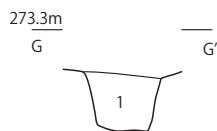
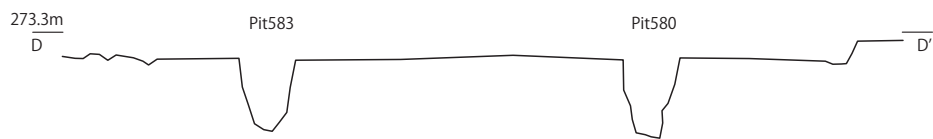


SI39 カマド





第79图 SI40(1)



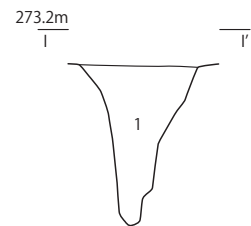
Pit582

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径2mm黄色土粒1% 径2mm焼土粒1%  
径1mm白色粒3%



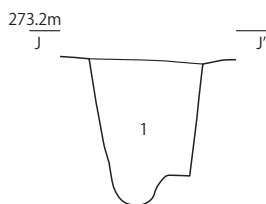
Pit586

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径5mm黄色土粒2% 径3mm炭化粒1%  
径2mm焼土粒1% 径1mm白色粒3%



Pit585

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径10mm炭化粒1% 径5mm焼土粒2%  
径2mm黄色土粒2% 径2mm白色粒2%

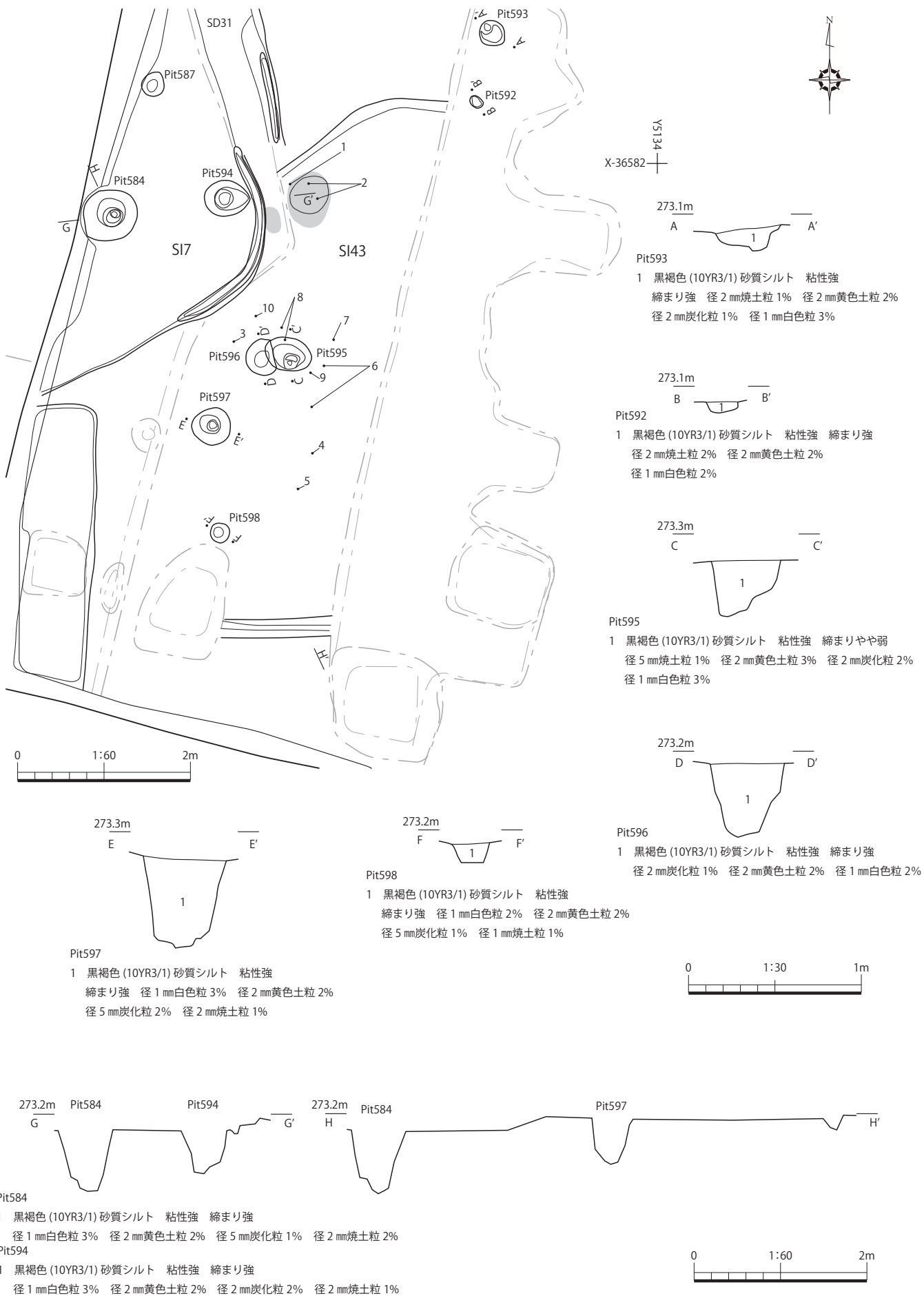


Pit583

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm白色粒3% 径2mm黄色土粒2%  
径2mm焼土粒1%

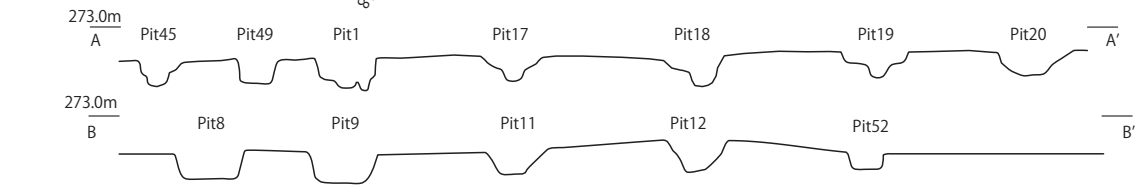
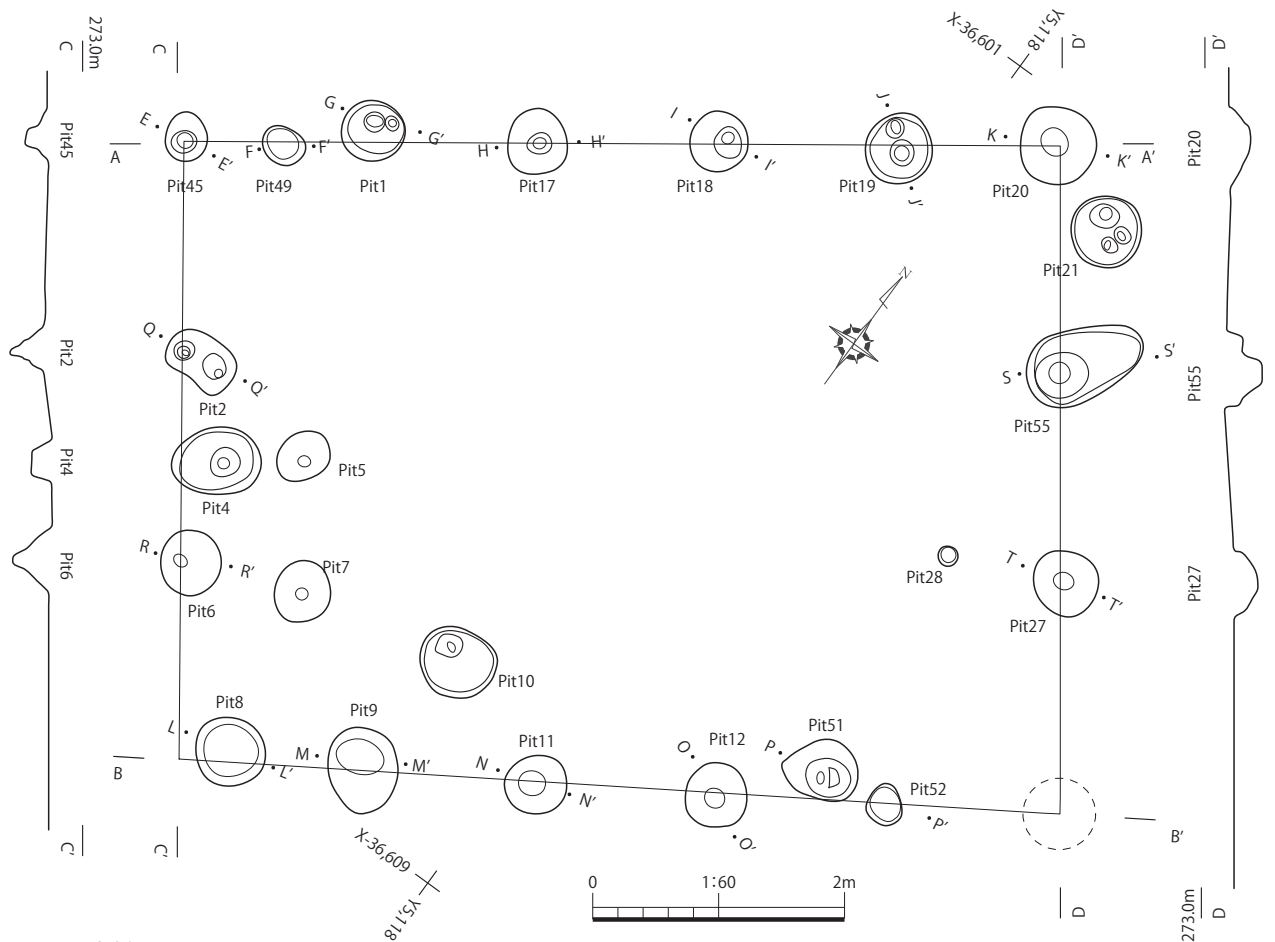


第80図 S I 40(2)



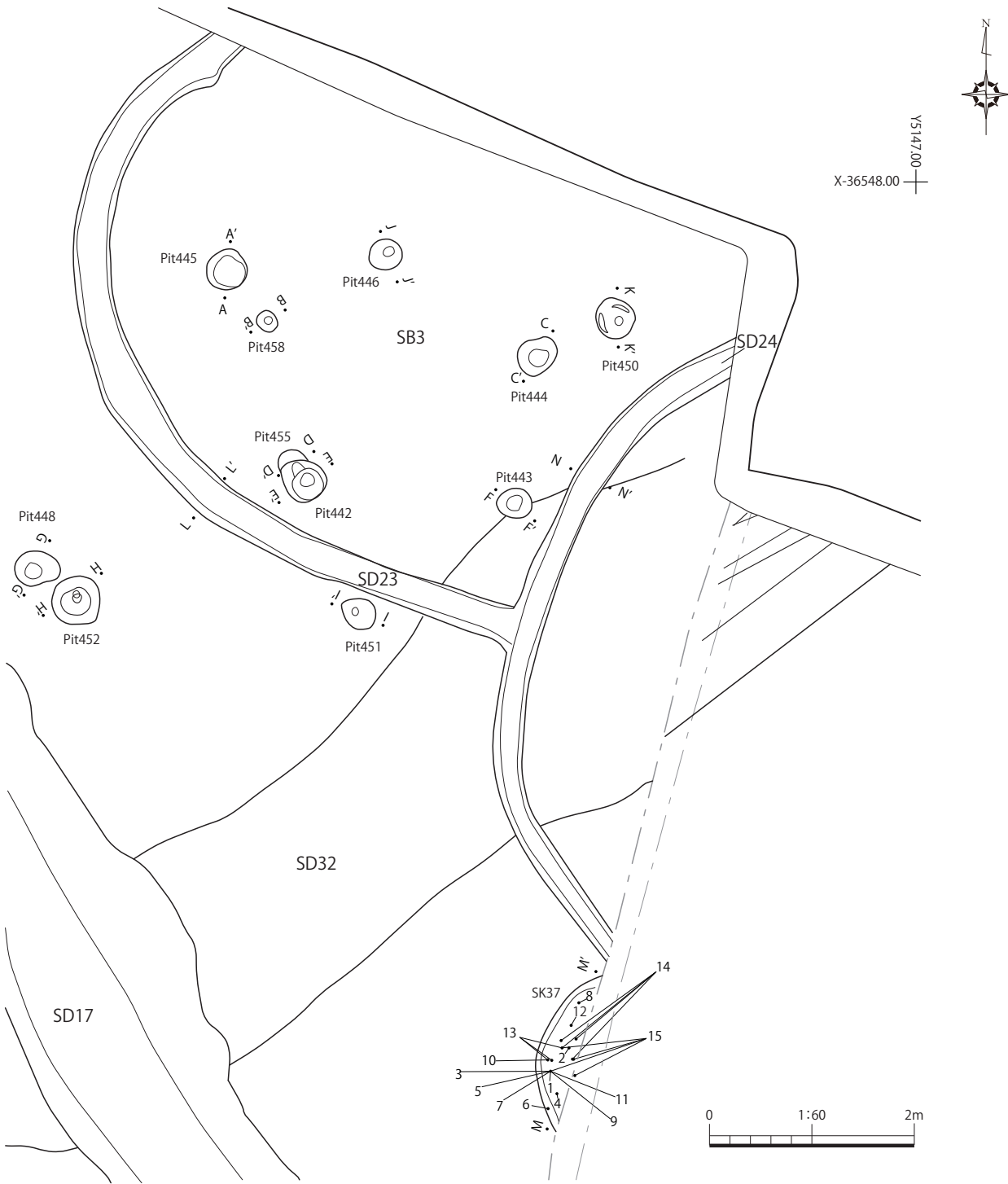
第81図 S I 43



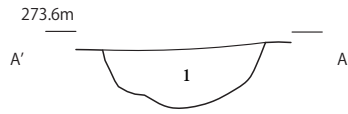


- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| <p>273.0m<br/>E E'</p> <p><b>Pit45</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物・泥岩粒状に少量含む</p>           | <p>273.0m<br/>F F'</p> <p><b>Pit49</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物・泥岩粒状に少量含む</p> | <p>273.0m<br/>G G'</p> <p><b>Pit1</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>              | <p>273.0m<br/>H H'</p> <p><b>Pit17</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>  |
| <p>273.0m<br/>I I'</p> <p><b>Pit18</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む<br/>焼土粒状に 7% 含む</p> | <p>273.0m<br/>J J'</p> <p><b>Pit19</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>       | <p>273.0m<br/>K K'</p> <p><b>Pit20</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物・焼土粒状に少量含む</p>       | <p>273.0m<br/>L L'</p> <p><b>Pit8</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>   |
| <p>273.0m<br/>M M'</p> <p><b>Pit9</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>                  | <p>273.0m<br/>N N'</p> <p><b>Pit11</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>       | <p>273.0m<br/>O O'</p> <p><b>Pit12</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>             | <p>273.0m<br/>P P'</p> <p><b>Pit51・52</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト [Pit52]<br/>2 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物粒状に 5% 含む [Pit51]</p> |
| <p>273.0m<br/>Q Q'</p> <p><b>Pit2</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>                  | <p>273.0m<br/>R R'</p> <p><b>Pit6</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>        | <p>273.0m<br/>S S'</p> <p><b>Pit55</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>焼土粒状に 5% 含む 炭化物少量含む</p> | <p>273.0m<br/>T T'</p> <p><b>Pit27</b><br/>1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br/>炭化物少量含む</p>  |

第82図 S B 1

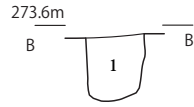


第83図 SB 3・4(1)



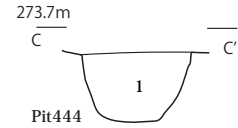
Pit445

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径2mm黄色土粒5%  
径1mm白色粒3%



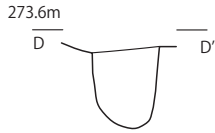
Pit458

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径2mm黄色土粒3%  
径1mm白色粒3% 径3mm炭化粒1%

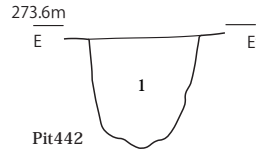


Pit444

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱  
縮まり強 径2mm黄色土粒3%  
径1mm白色粒5%

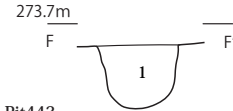


Pit455



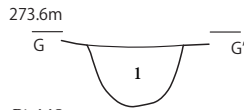
Pit442

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm黄色土粒3%  
径1mm白色粒5% 径5mm焼土粒2%



Pit443

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性やや弱  
縮まり強 径2mm黄色土粒3%  
径1mm白色粒5%



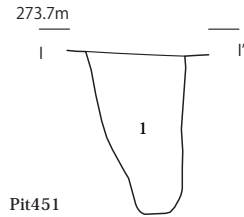
Pit448

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径2mm黄色土粒2%  
径1mm白色粒3% 径1mm焼土粒1%



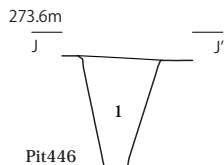
Pit452

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径2mm黄色土粒2%  
径1mm白色粒5% 径2mm焼土粒1%  
径2mm炭化粒1%



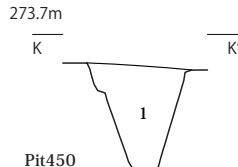
Pit451

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径50mm大の暗褐色土ブロック5%  
径2mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
径1mm白色粒3%



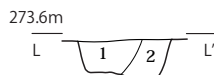
Pit446

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径5mm黄色土粒2%  
径1mm白色粒2% 径2mm焼土粒1%



Pit450

1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まりやや弱 径50mm大の暗褐色土ブロック5%  
径2mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
径1mm白色粒3%



SB3

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm白色粒3%  
径1mm黄色土粒2% 径1mm焼土粒1%  
2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径50mm黄色土ブロック10%  
径2mm黄色土粒3% 径1mm焼土粒1%



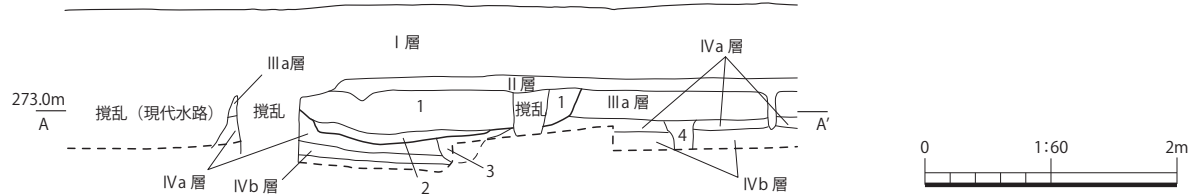
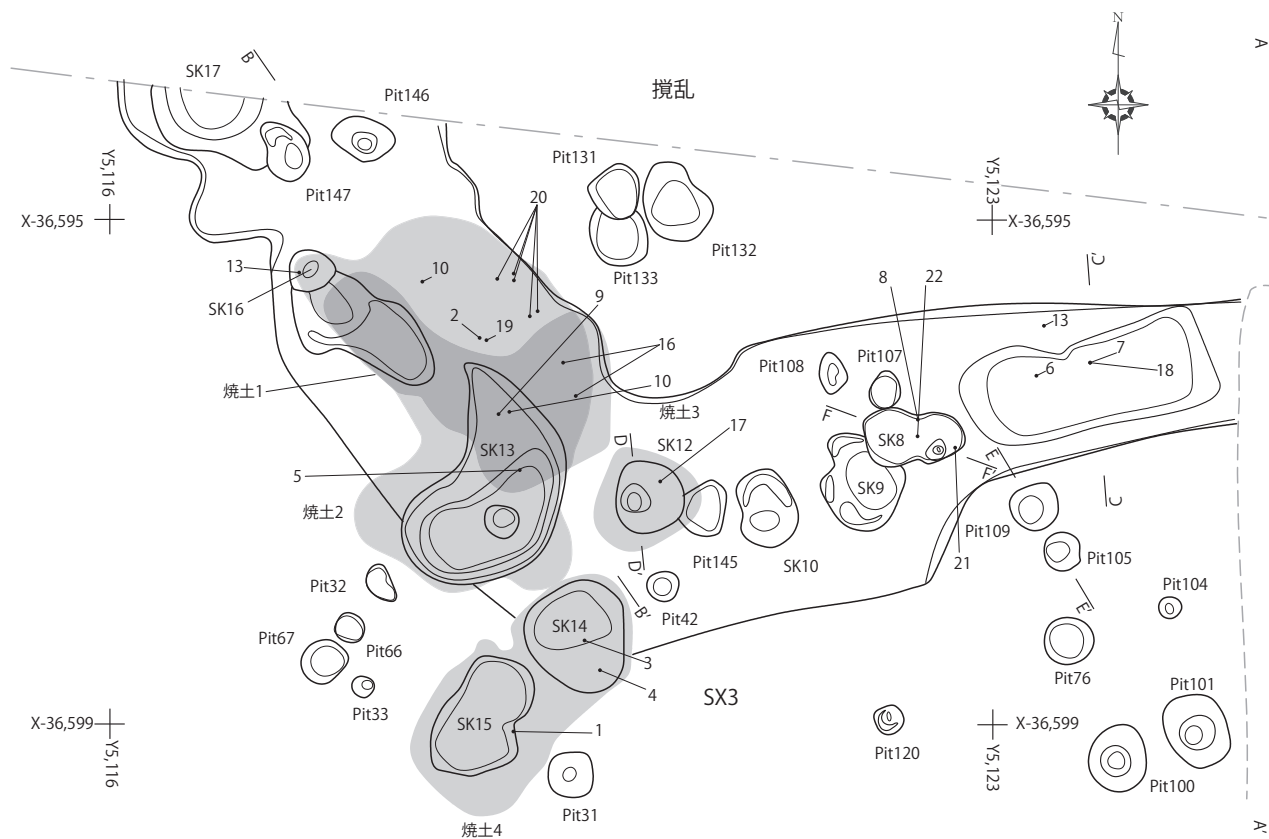
SB4

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強  
縮まり強 径1mm白色粒5%  
径2mm黄色土粒5% 径1mm炭化粒2%

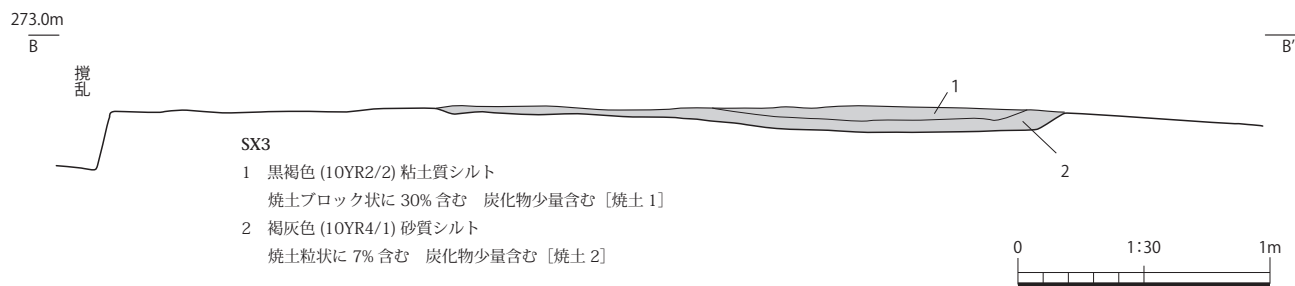


SK37

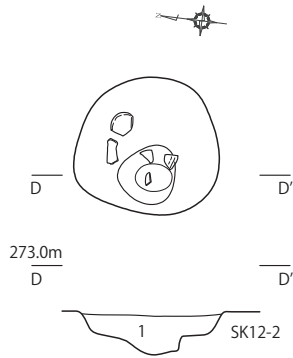
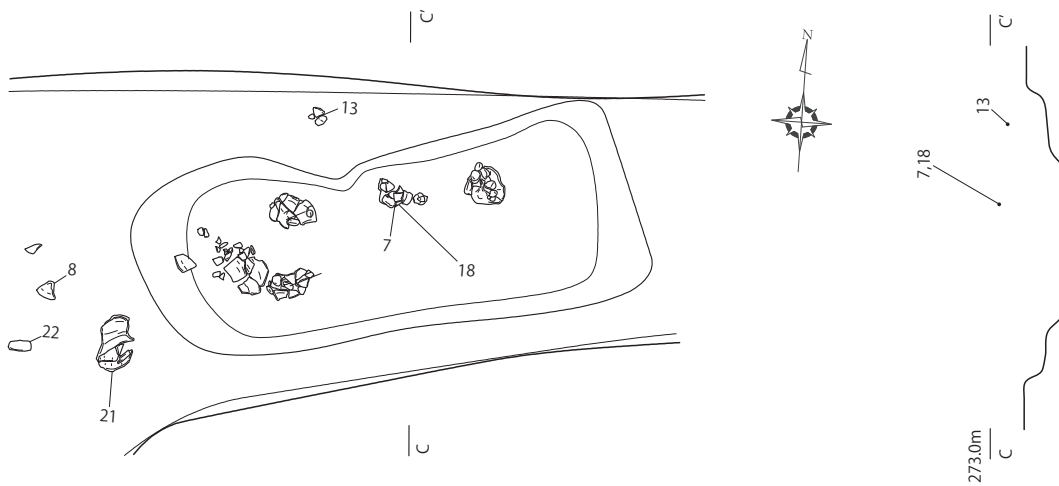




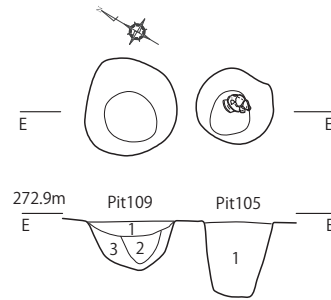
- |   |   |
|---|---|
| I層：造成土 碎石・瓦礫ゴミ混入  | 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト<br>土器片含む 焼土粒状に3%含む [SX3]                           |
| II層：近現代 灰色 (7.5Y4/1) 粘土 水田床土                            | 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト<br>明黄褐色 (10YR6/6) 粗砂30%含む<br>土器片含む 焼土粒状に3%含む [SX3] |
| IIIa層：包含層 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト<br>炭化物少量含む 径1~2mmの砂礫5%含む | 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  |
| IVa層：地山 黄灰色 (2.5Y4/1) 砂質シルト                             | 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト<br>炭化物・土器細片含む                                      |
| IVb層：地山 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土                                |   |



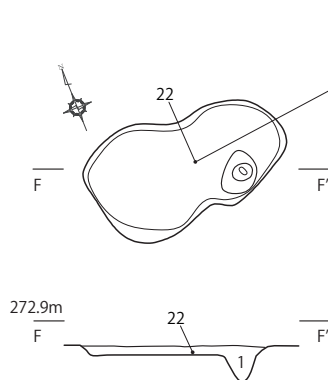
第85図 SX3(1)



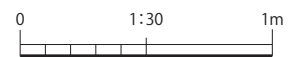
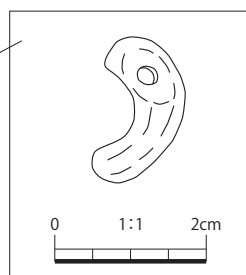
SK12  
1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト



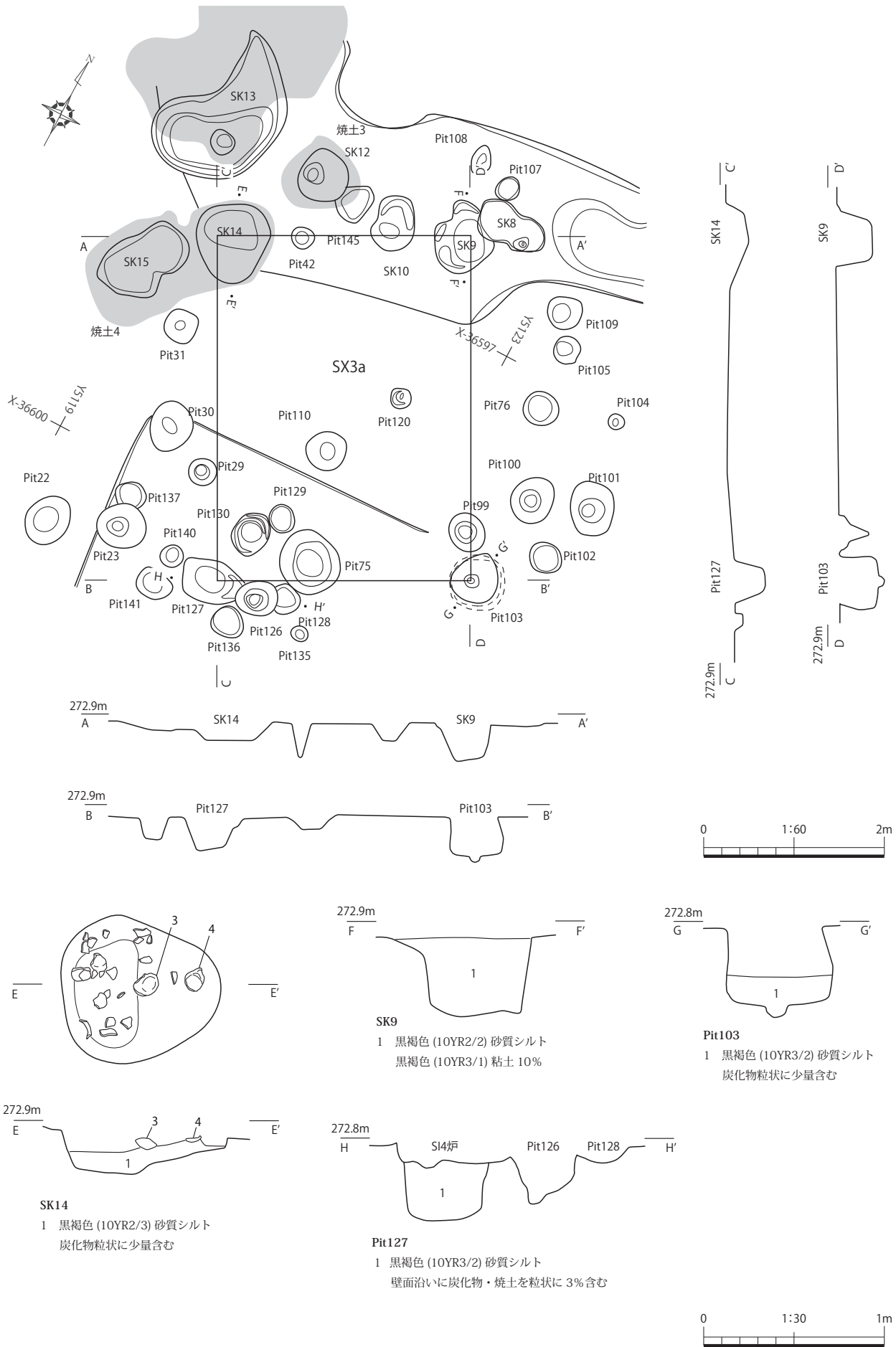
Pit105・109  
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
炭化物粒状に少量含む  
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
炭化物粒 5% 締まり弱  
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト



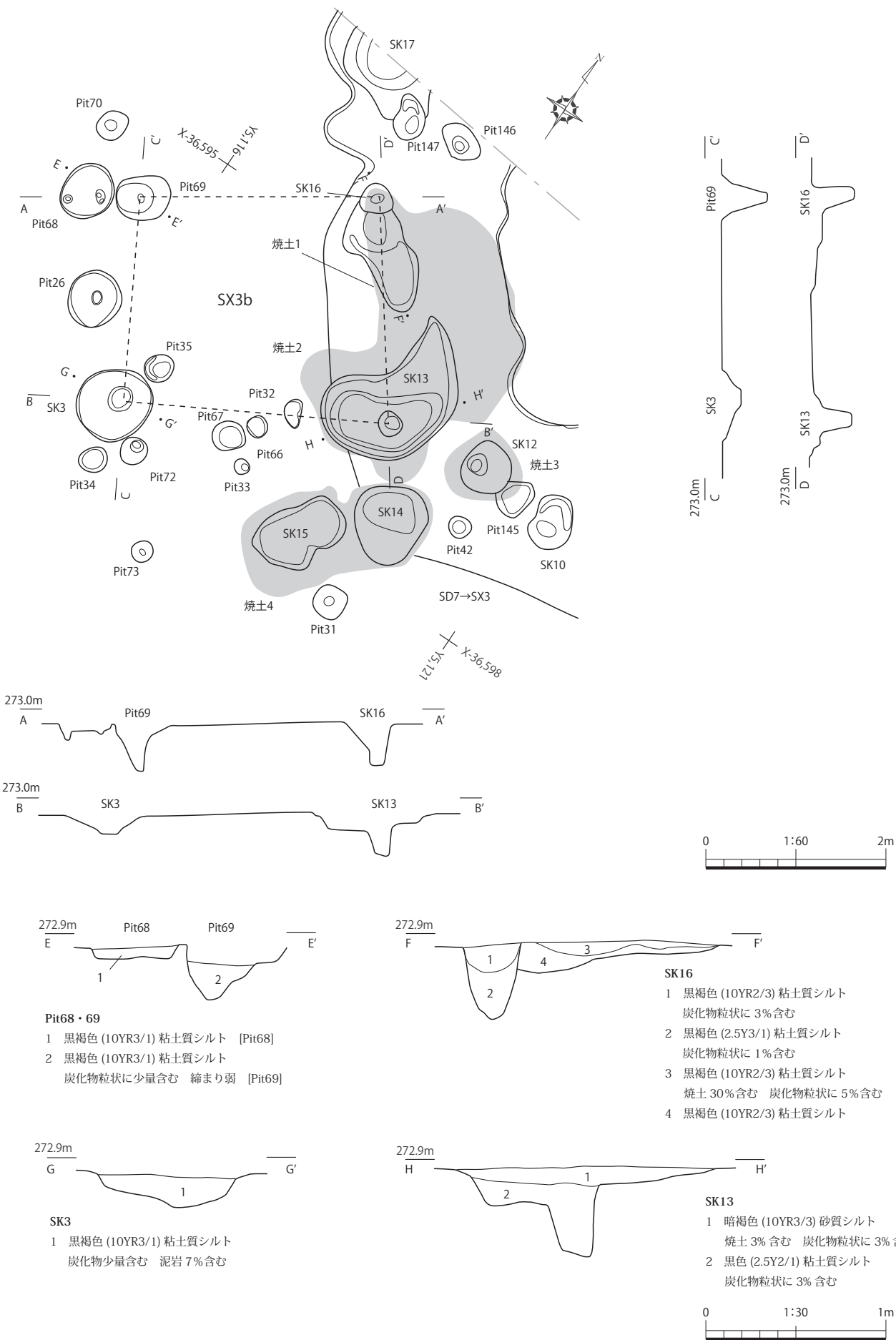
SK8  
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト  
黒褐色 (10YR3/1) 粘土 10%  
酸化鉄分粒 3%  
滑石製勾玉出土



第86図 SX3(2)



第87図 SX3a



**Pit68・69**

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト [Pit68]
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
炭化物粒状に少量含む 締まり弱 [Pit69]

**SK16**

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
炭化物粒状に 3% 含む
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土質シルト  
炭化物粒状に 1% 含む
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト  
焼土 30% 含む 炭化物粒状に 5% 含む
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 粘土質シルト

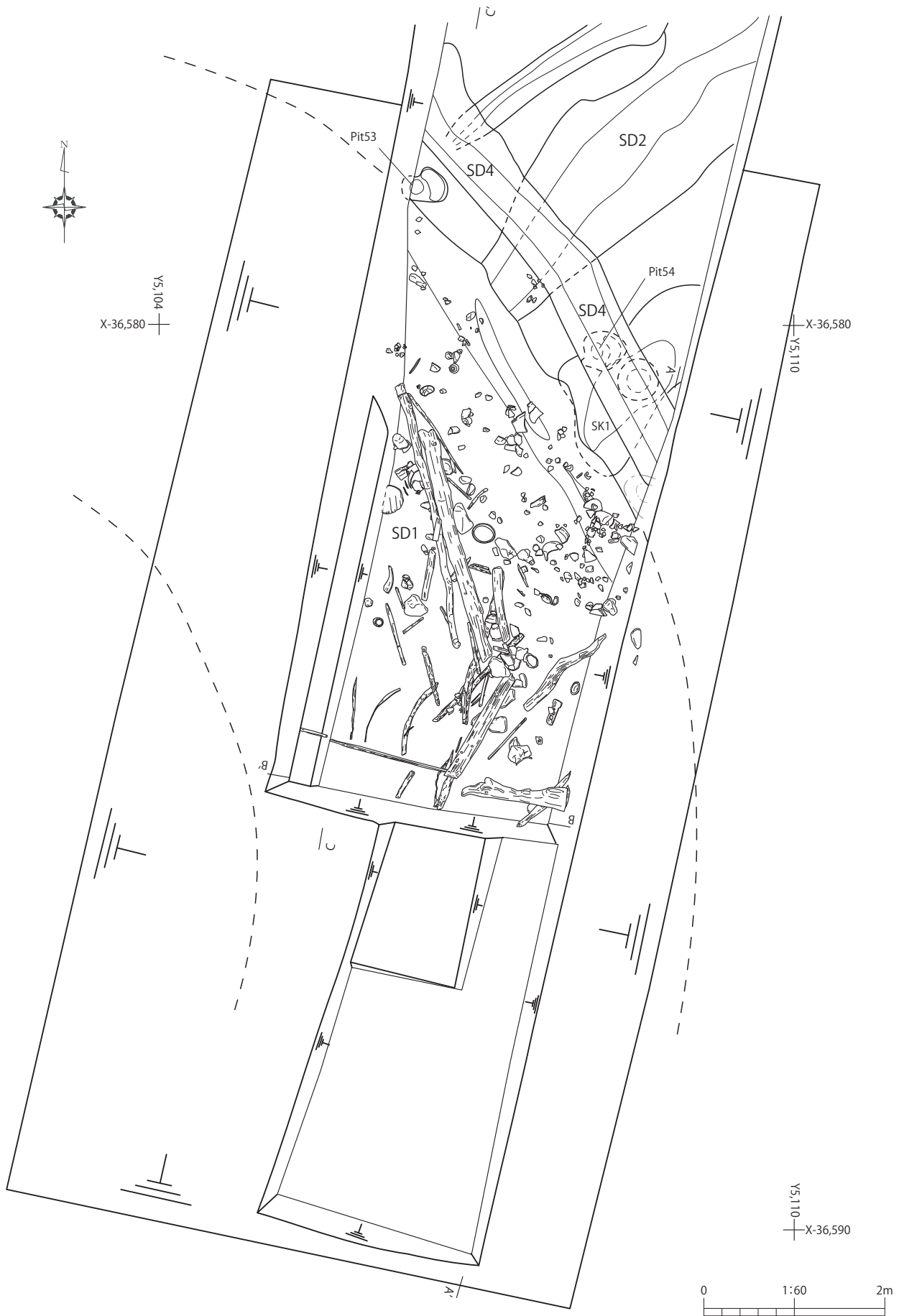
**SK3**

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト  
炭化物少量含む 泥岩 7% 含む

**SK13**

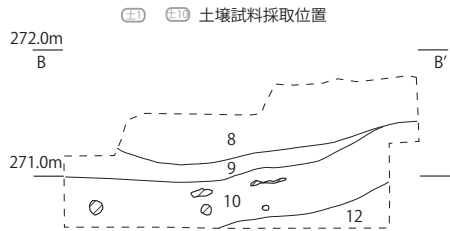
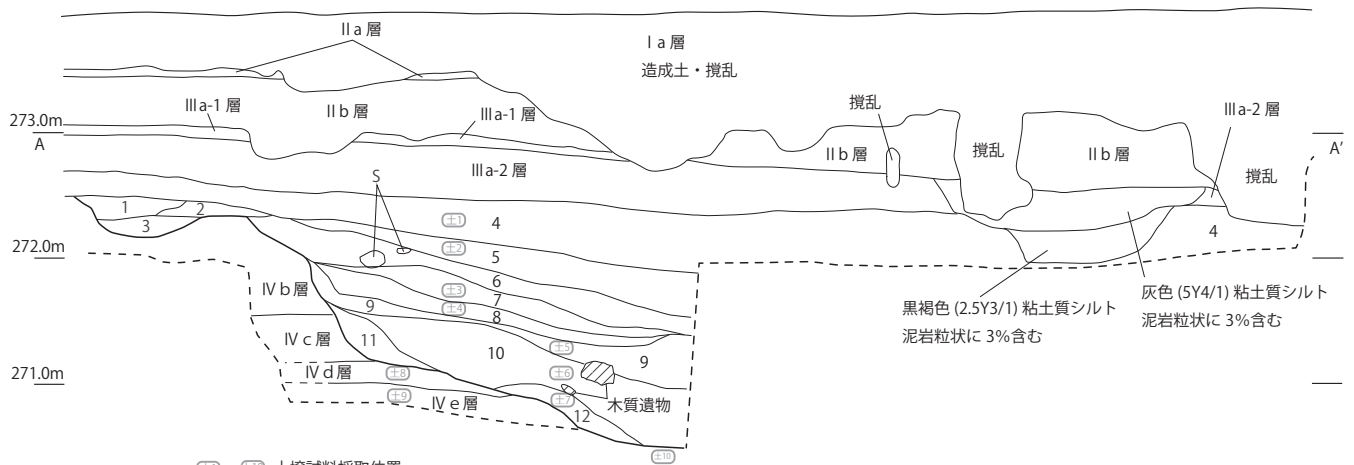
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
焼土 3% 含む 炭化物粒状に 3% 含む
- 2 黒色 (2.5Y2/1) 粘土質シルト  
炭化物粒状に 3% 含む

第88図 SX3b



第89図 SD1(1)





- I層 造成土・攪乱
- IIa層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土
- IIb層 灰色(7.5Y4/1)粘土
- 古墳包含層**
- IIIa-1層 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト  
酸化鉄分粒状に5%含む 炭化物粒状に少量含む
- IIIa-2層 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト  
酸化鉄分粒状に7%含む
- IIIb層 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト  
酸化鉄分粒状に7%含む 泥岩粒状に7%含む
- 地山・自然堆積層
- IVb層 黄灰色(2.5Y4/1)砂  
酸化鉄分多量に含む 径1~2mm砂礫5%  
径5~10mm黄褐色(10YR5/8)シルト粒10%
- IVc層 灰色(7.5Y7/1)砂質シルト
- IVd層 灰色(N7/)シルト
- IVe層 黒色(7.5Y2/1)粘土

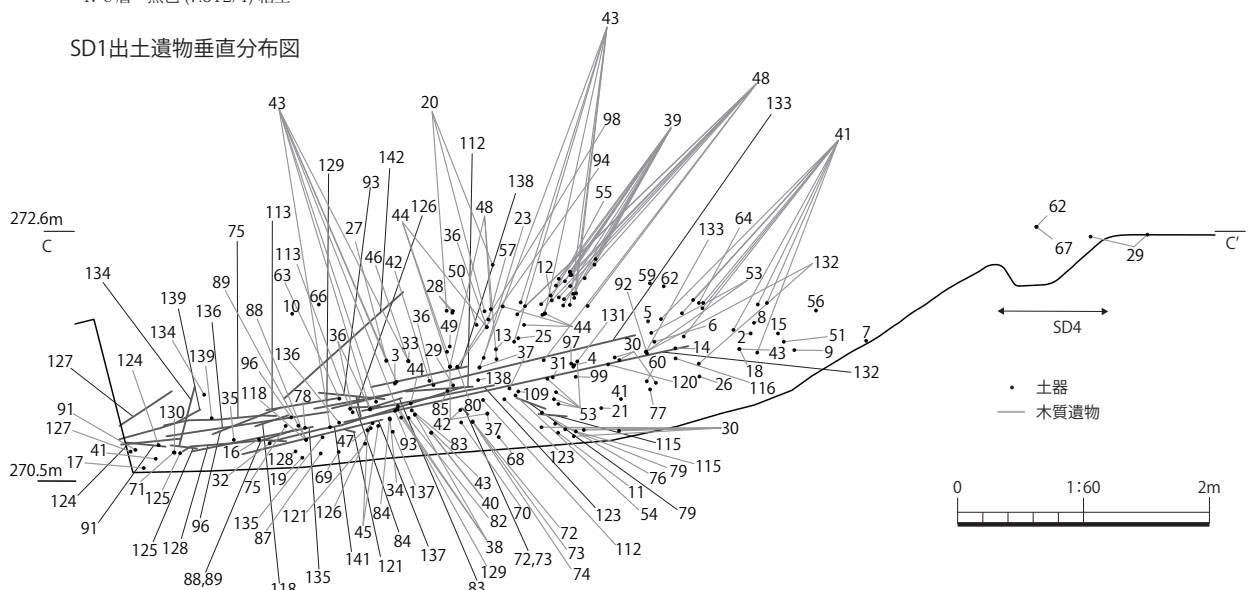
**SD4**

- 1 灰黄褐色(10YR5/2)砂 泥岩粒状に5%含む
- 2 黒褐色(10YR2/3)粘土質シルト 泥岩粒状に3%含む
- 3 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト 泥岩粒状に1%含む

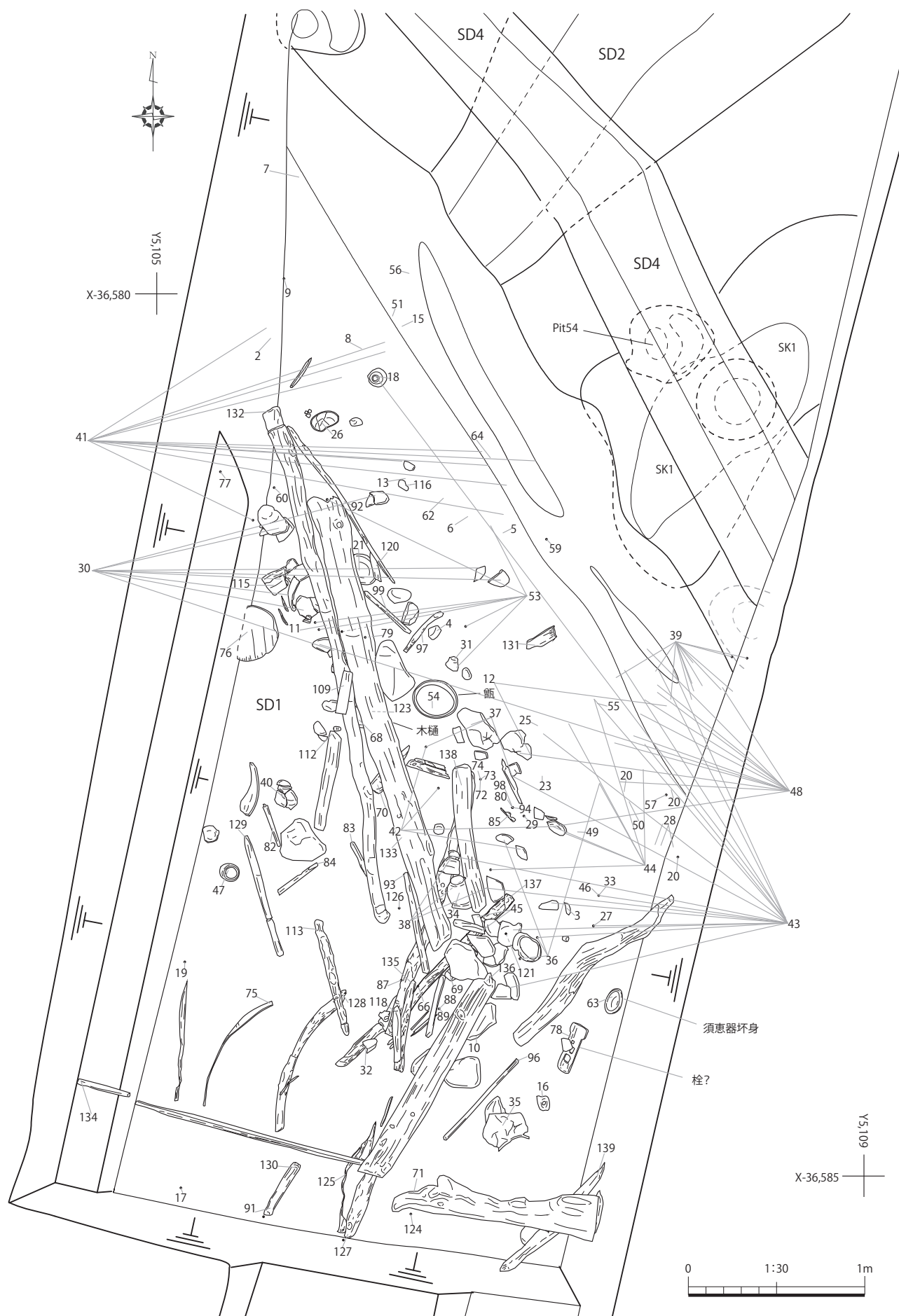
**SD1**

- 4 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト  
泥岩粒状に3%含む
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
径1~2mmの砂礫5%含む 泥岩粒状に5%含む
- 6 黒褐色(2.5Y3/1)砂
- 7 黒褐色(2.5Y3/2)粗砂 泥岩粒状に10%含む
- 8 黒色(5Y2/1)粘土 灰色(5Y4/1)砂30%混
- 9 灰色(5Y4/1)砂 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土10%
- 10 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 灰色(5Y4/1)砂10%含む  
木質遺物・腐食した植物遺体含む
- 11 灰色(5Y4/1)砂  
オリーブ黒色(5Y3/1)粘土7%含む 腐食した植物遺体含む
- 12 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土 灰色(5Y4/1)砂10%含む  
腐食した植物遺体多く含む

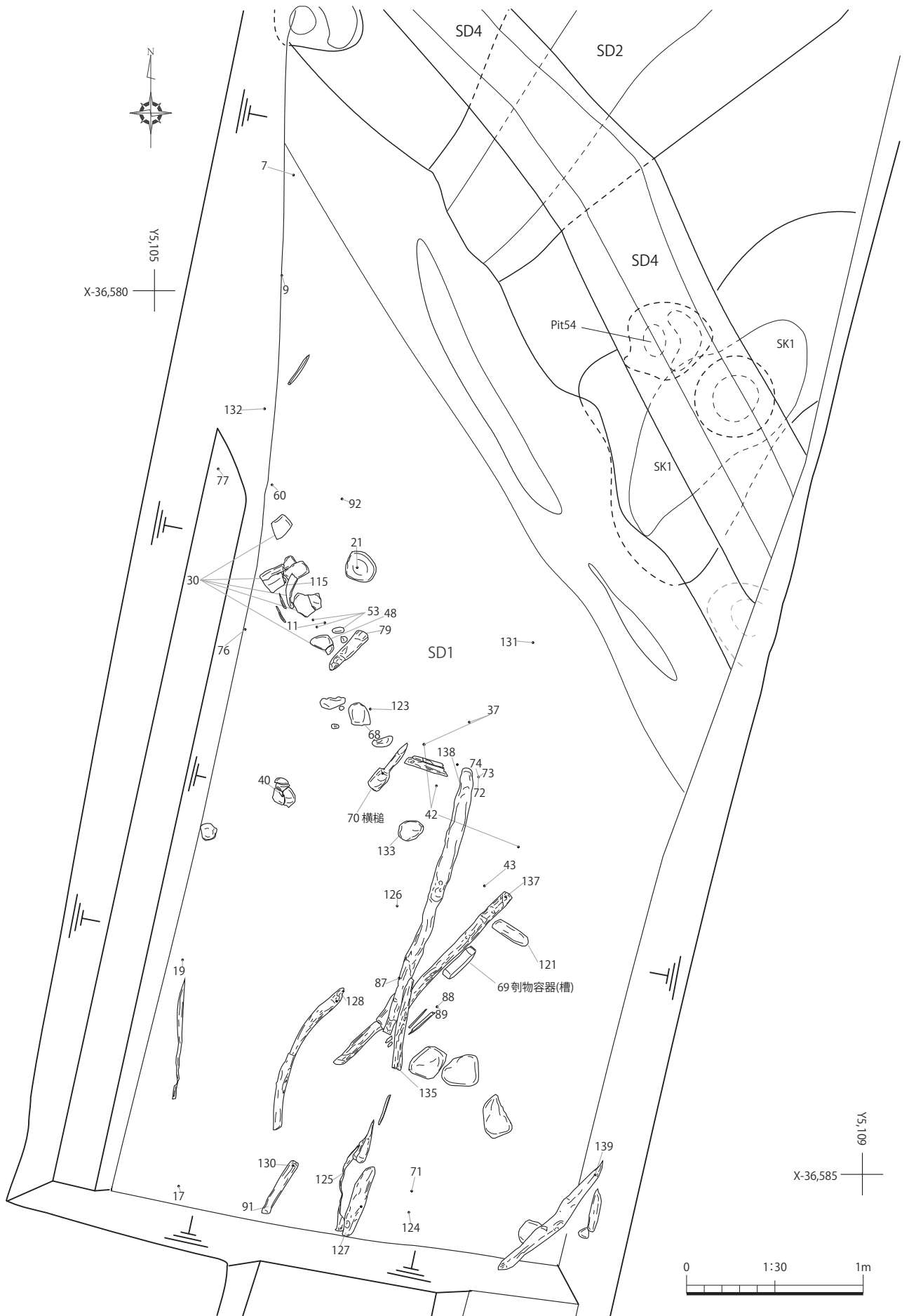
SD1出土遺物垂直分布図



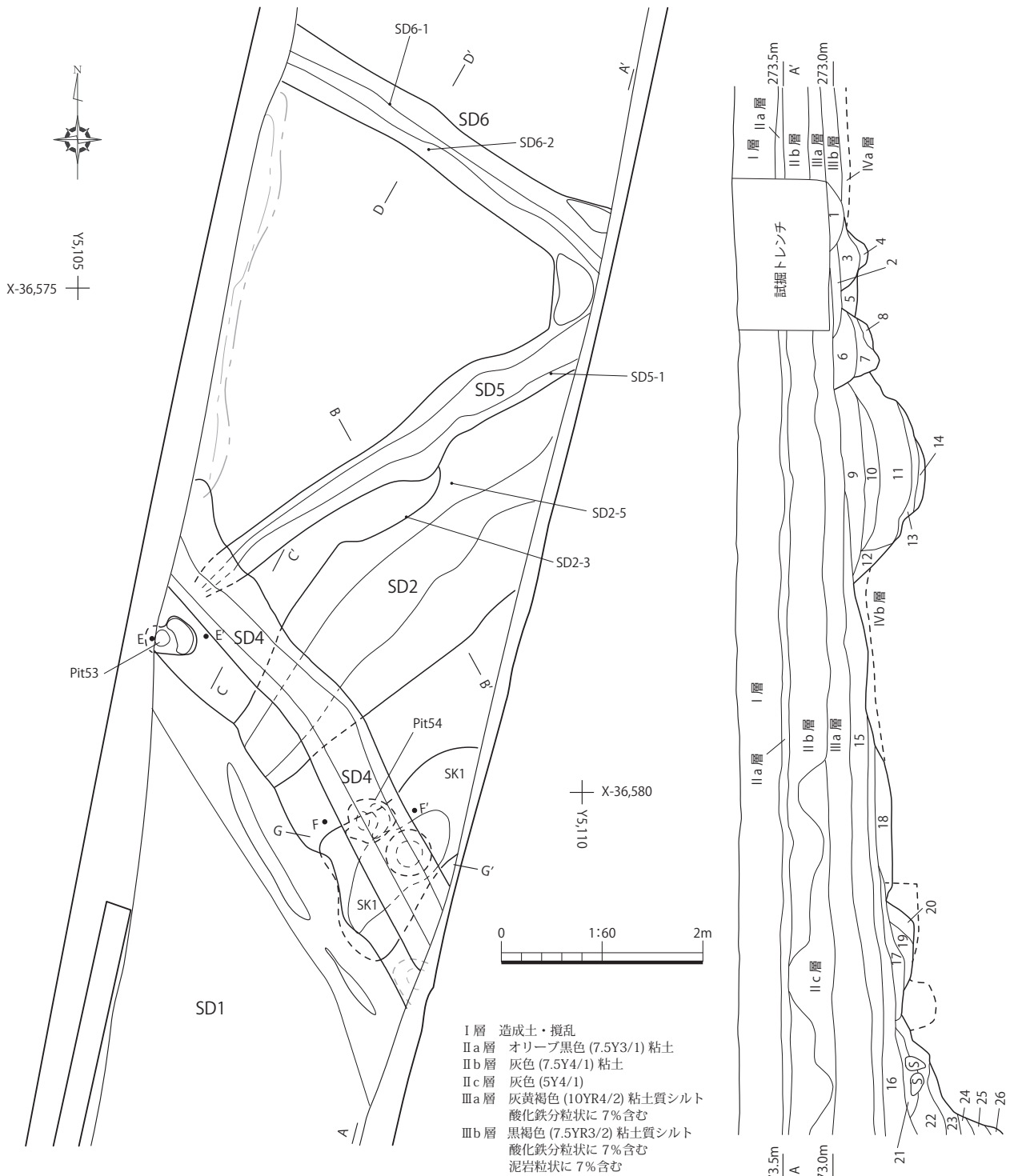
第90図 SD1(2)



第91図 SD1(3)



第92図 SD1(4)



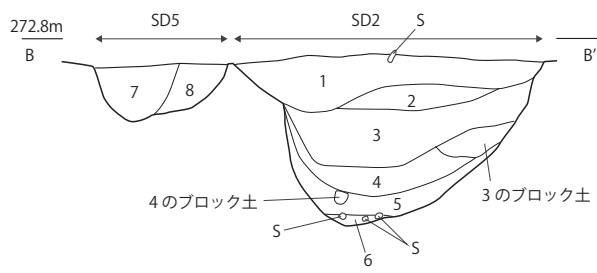
I層 造成土・攪乱  
 IIa層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土  
 IIb層 灰色(7.5Y4/1)粘土  
 IIc層 灰色(5Y4/1)  
 IIIa層 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト  
 酸化鉄分粒状に7%含む  
 IIIb層 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト  
 酸化鉄分粒状に7%含む  
 泥岩粒状に7%含む

- IVa層 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト  
径2~10mmの砂礫10%含む  
黄褐色(10YR5/8)シルト粒の泥岩5%含む  
硬く締まる
- IVb層 黄灰色(2.5Y4/1)砂  
径1~2mmの砂礫5%含む 酸化鉄分多量に含む  
黄褐色(10YR5/8)シルト粒の泥岩10%含む
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂  
径5mmの泥岩粒状に少量含む
- 2 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト  
黒褐色(10YR2/3)砂30%含む
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂  
灰黄褐色粘土質シルト30%含む [SD6]
- 4 黒褐色(2.5Y3/2)粘土 [SD6]
- 5 褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂  
土器小片・泥岩粒状に少量含む [SD5]

- 7 褐灰色(10YR4/1)粗砂  
泥岩粒状に少量含む [SD5]
- 8 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 粘性あり [SD5]
- 9 黒褐色(10YR3/1)砂 径1~2mmの砂礫多く含む  
泥岩粒状に3%含む [SD2]
- 10 灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト  
IVb層30%含む [SD2]
- 11 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂  
径5~10mmの礫5%含む [SD2]
- 12 灰黄褐色(10YR5/2)砂 [SD2]
- 13 褐灰色(10YR4/1)粘土 [SD2]
- 14 灰黄褐色(10YR5/2)粗砂 [SD2]  
径2~5cmの礫30%含む [SD2]
- 15 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト  
泥岩粒状に3%含む

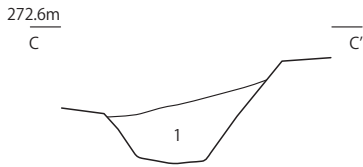
- 16 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
径1~2mmの砂礫5%含む  
泥岩粒状に5%含む
- 17 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト  
にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂30%含む
- 18 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト  
泥岩粒状に7%含む [SK1覆土上層]
- 19 黒色(2.5Y2/1)粘土 [SD4]
- 20 IIIb層に18を30%含む [SD4]
- 21 黒褐色(2.5Y3/1)砂 [SD1]
- 22 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 粘性あり [SD1]
- 23 黒褐色(2.5Y3/2)粗砂  
泥岩粒状に10%含む [SD1]
- 24 黒色(5Y2/1)粘土  
灰色(5Y4/1)砂30%含む [SD1]
- 25 灰色(5Y4/1)砂  
オリーブ黒色(5Y3/1)粘土10%含む [SD1]
- 26 黒色(5Y3/1)粘土 [SD1]

第93図 SD 2・4・5・6(1)



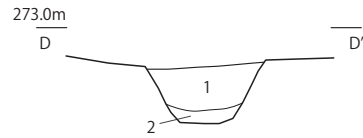
SD2

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 7% 含む  
径 2 ~ 5 mm の砂礫多く含む 土器片含む
  - 2 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト  
土器片含む 炭化物少量含む
  - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂
  - 4 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂
  - 5 褐灰色 (10YR5/1) 粘土
  - 6 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂 径 2 ~ 3 cm の礫含む
- SD5
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 3% 含む [SD5]
  - 8 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) シルト粒状に 10% 含む [SD5]



SD4

- 1 黒色 (10YR2/1) 粘土



SD6

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂  
灰黄褐色粘土質シルト 30% 含む [SD6]
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土 [SD6]



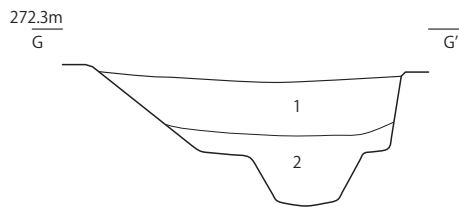
Pit53

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂  
黄褐色 (10YR5/6) の泥岩粒状に 10% 含む



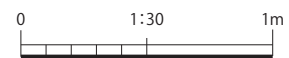
Pit54

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 10% 含む

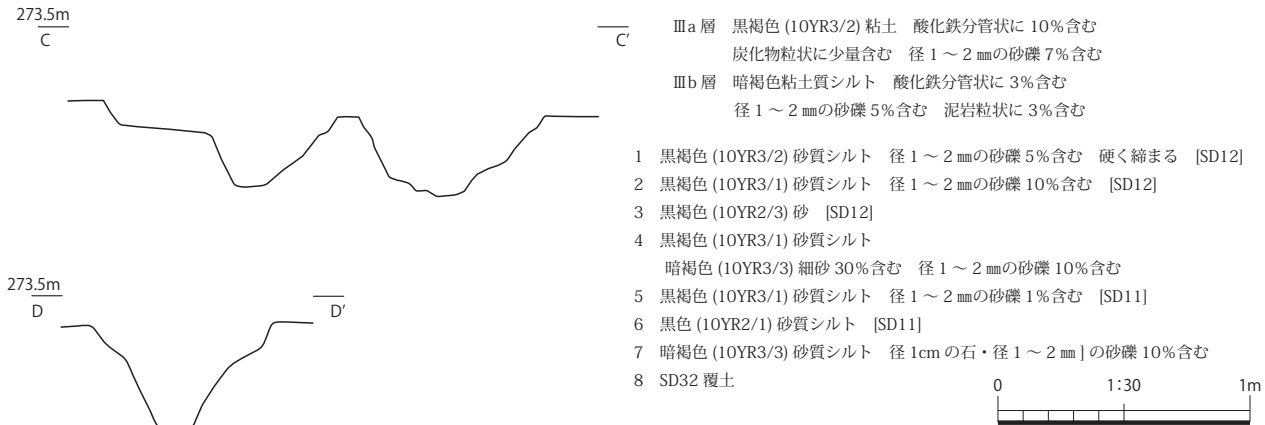
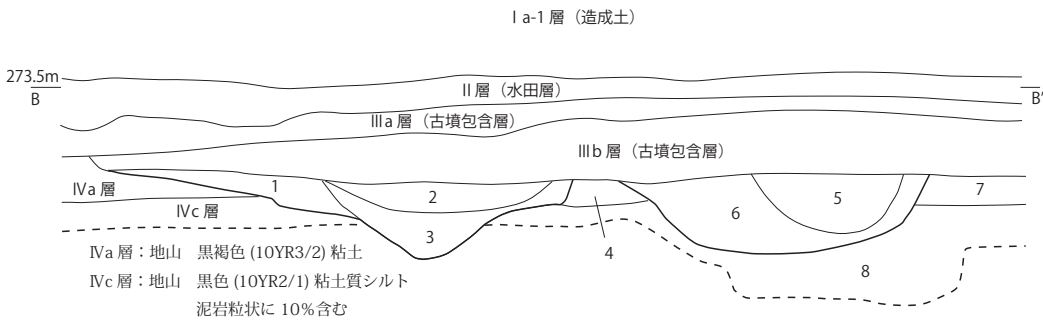
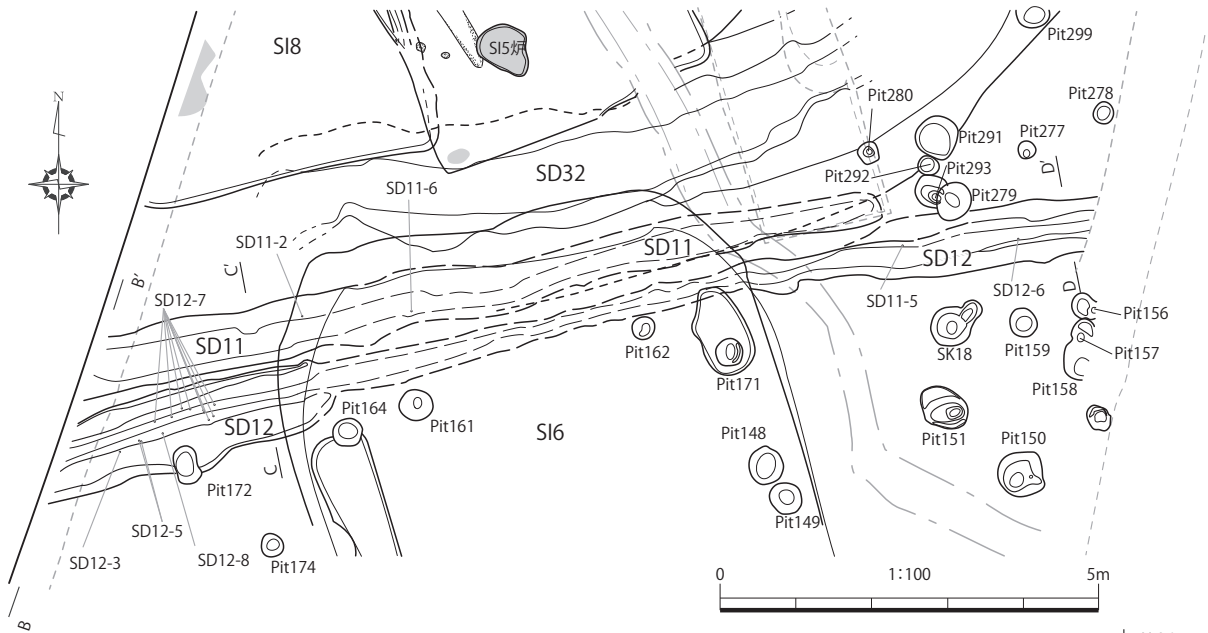
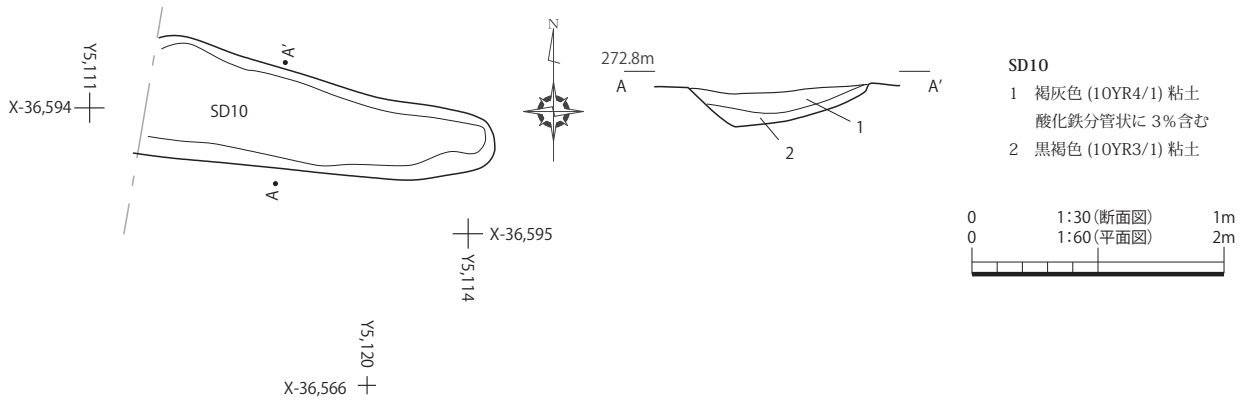


SK1

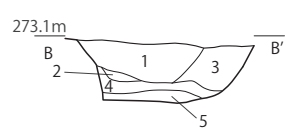
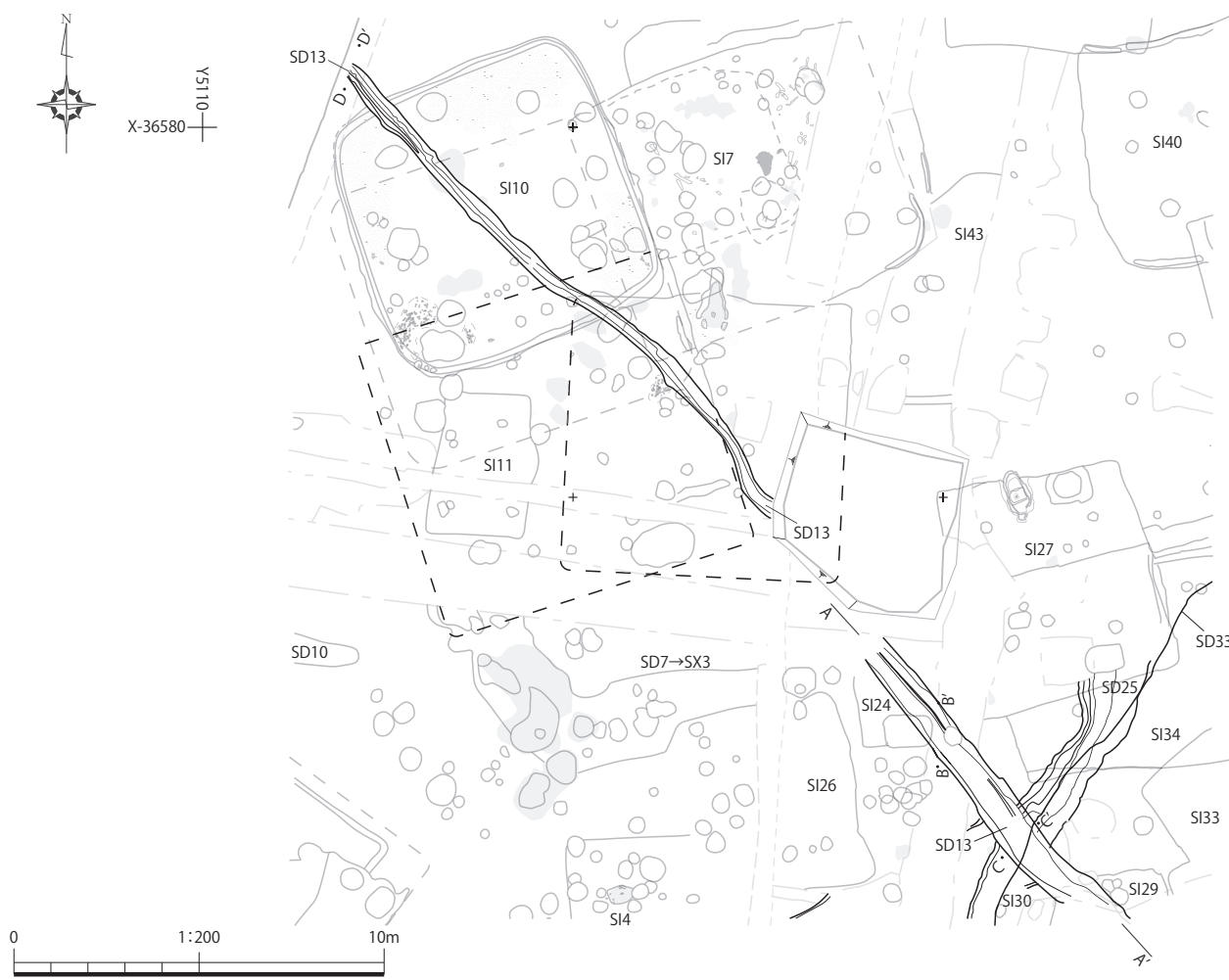
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 7% 含む
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト  
泥岩粒状に 3% 含む



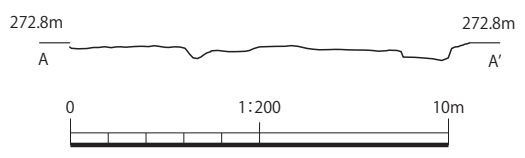
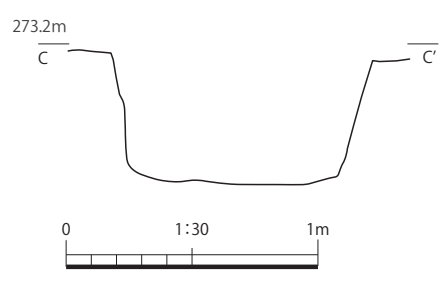
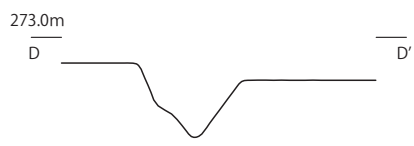
第94図 SD2・4・5・6 (2)



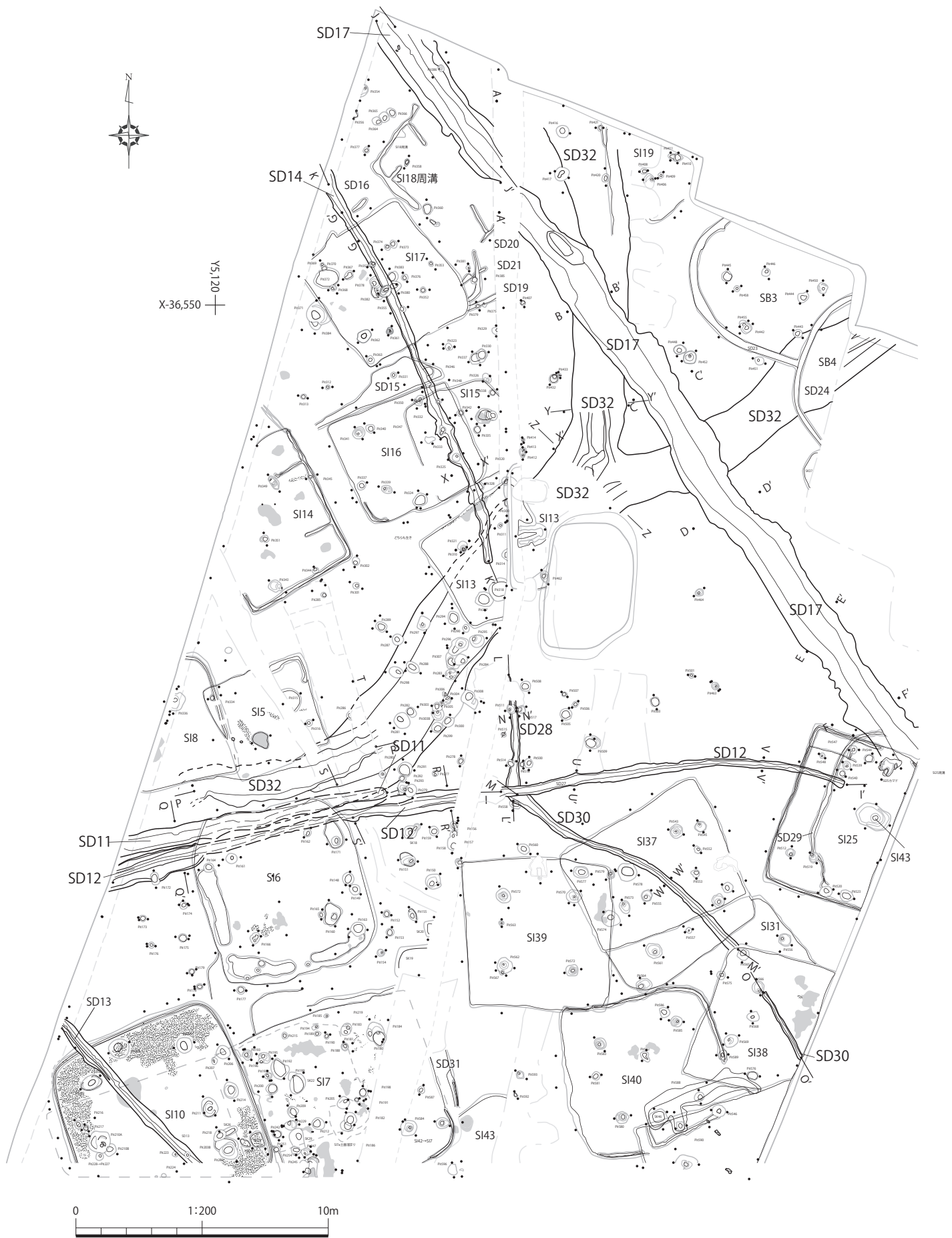
第95図 SD10・11・12



- SD13**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘やや弱 締まり強 径2mm白色粒5% 径2mm黄色粒・焼土粒1%
  - 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘やや弱 締まり強 径1mm黄色土粒1%
  - 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘やや弱 締まり強 径2mm焼土粒・黄色土粒1%
  - 4 (地山) 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘やや弱 締まり強 径5mm黄色土粒5%
  - 5 (地山) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘強 締まり強 径5mm黄色土粒2% 径5mm褐鉄鉱粒3%

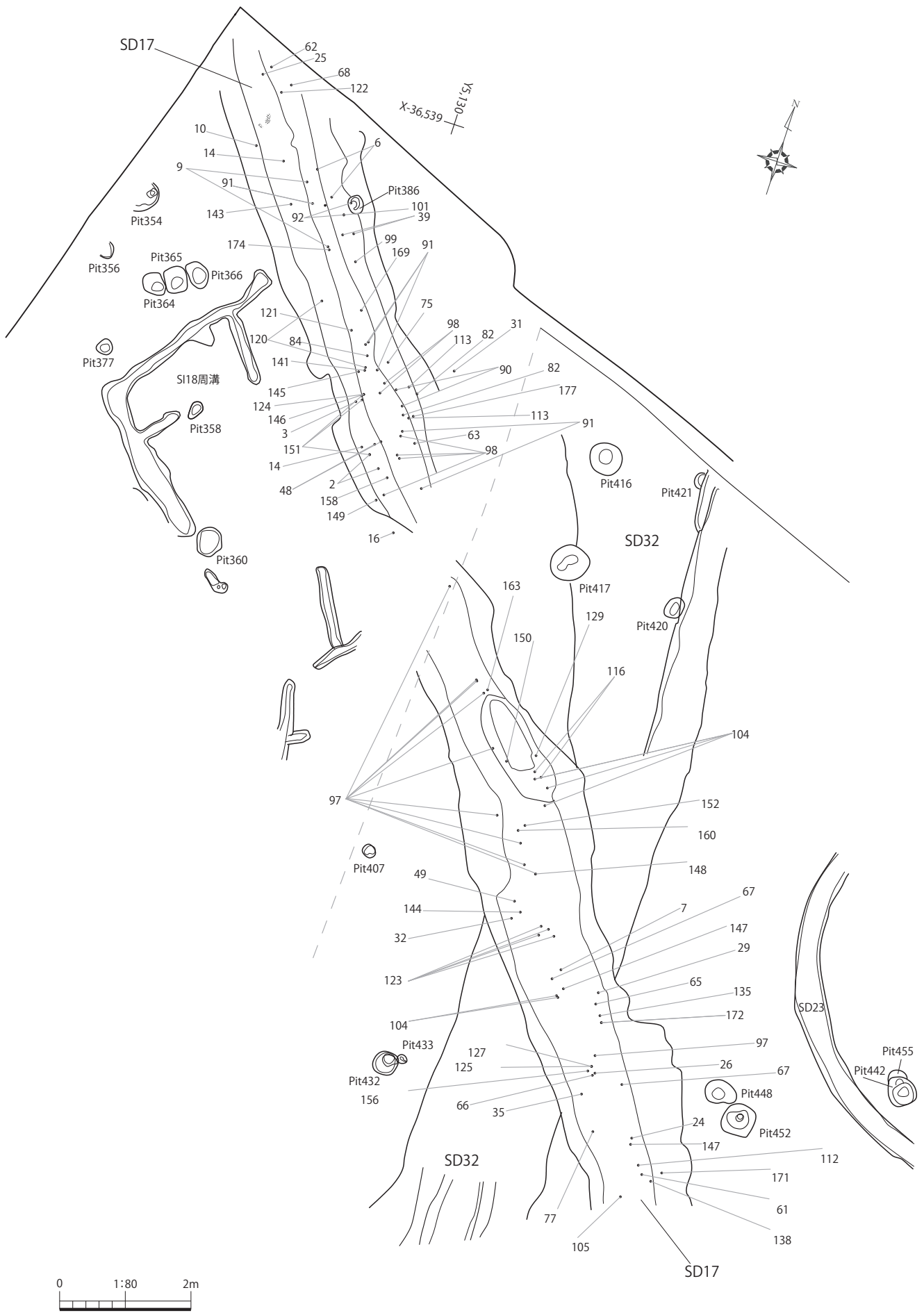


第96図 SD13

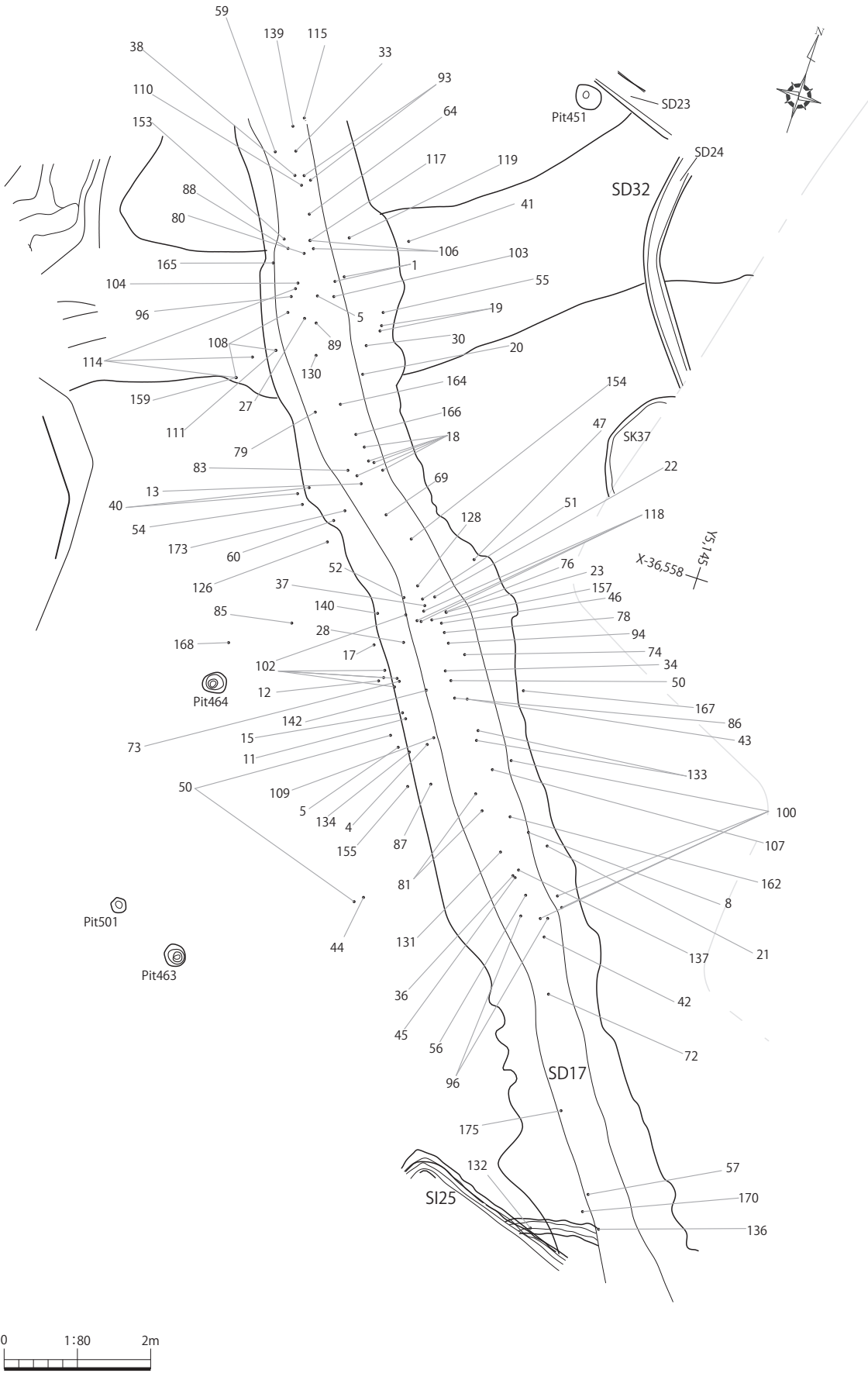


第97図 SD11・12・14・17・27・28・30・32(1)

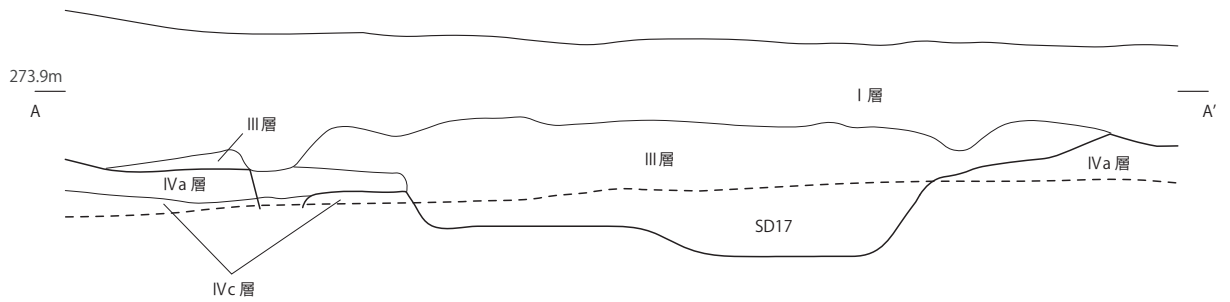




第98图 SD11·12·14·17·27·28·30·32(2)



第99図 SD11・12・14・17・27・28・30・32(3)



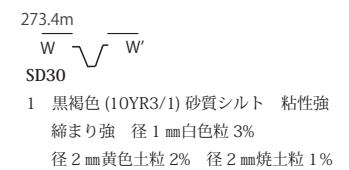
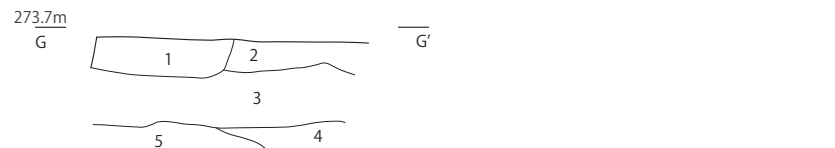
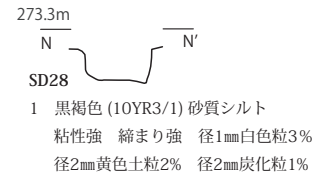
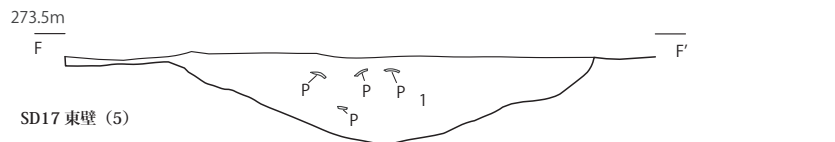
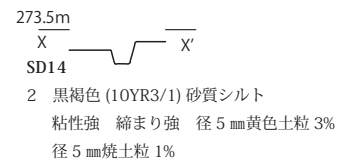
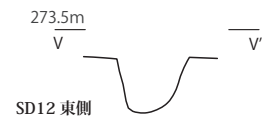
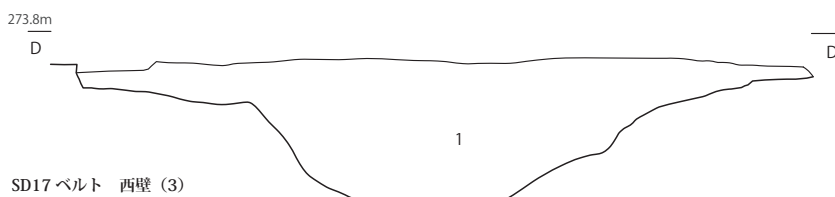
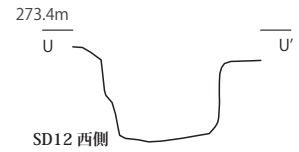
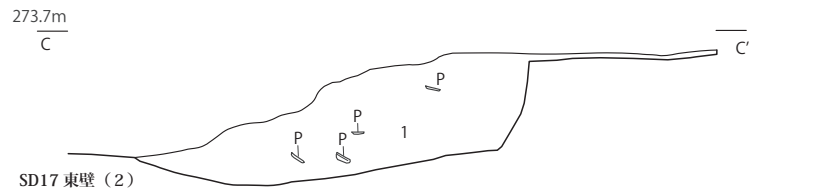
**SD17 東壁**

- I層 造成土(攪乱・碎石)
- III層 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径1~2mm砂礫7%
- IVa層 黒褐色(10YR3/2)粘土
- IVc層 褐灰色(10YR4/1)粘土  
にぶい黄色シルト(2.5Y6/4)の泥岩を粒状に10%含む



**SD17**

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強  
径1mm白色粒2% 径1mm黄色土粒2% 径5mm炭化粒1%

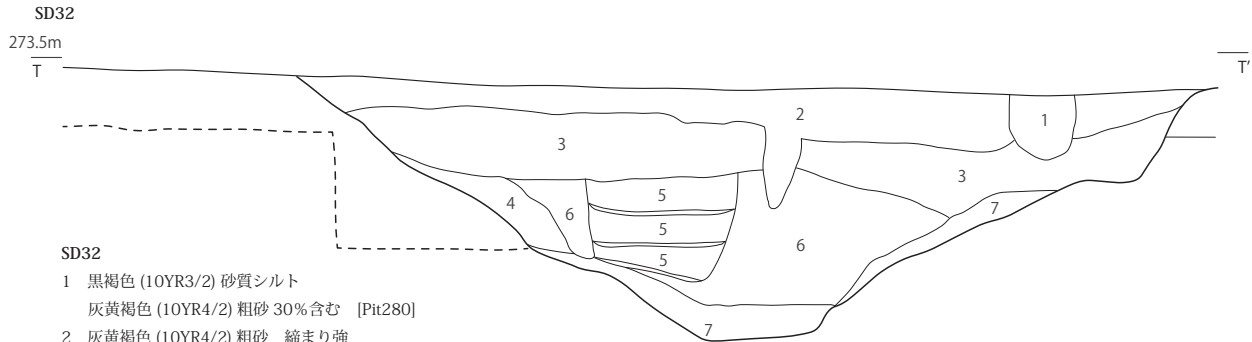


**SI17・SD14**

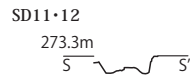
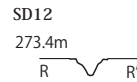
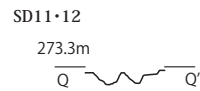
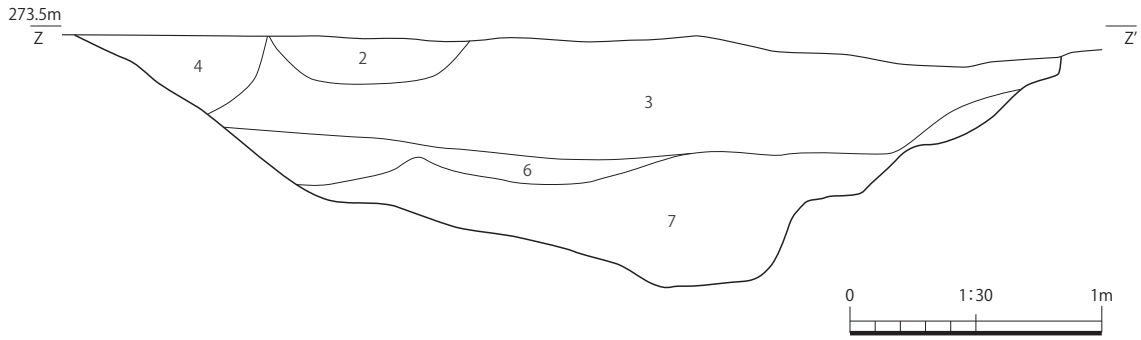
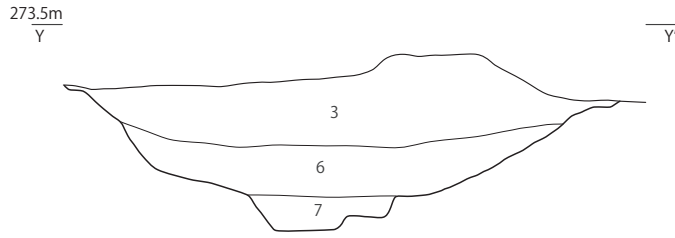
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径5mm黄色土粒5% 径2mm焼土粒1%
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒5% 径1mm黄色土粒・小礫1%
- 3 黒褐色(10YR2/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径1mm白色粒・黄色土粒1%
- 4 黒褐色(10YR1.7/1)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒1%
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒1%



第100図 SD11・12・14・17・27・28・30・32(4)



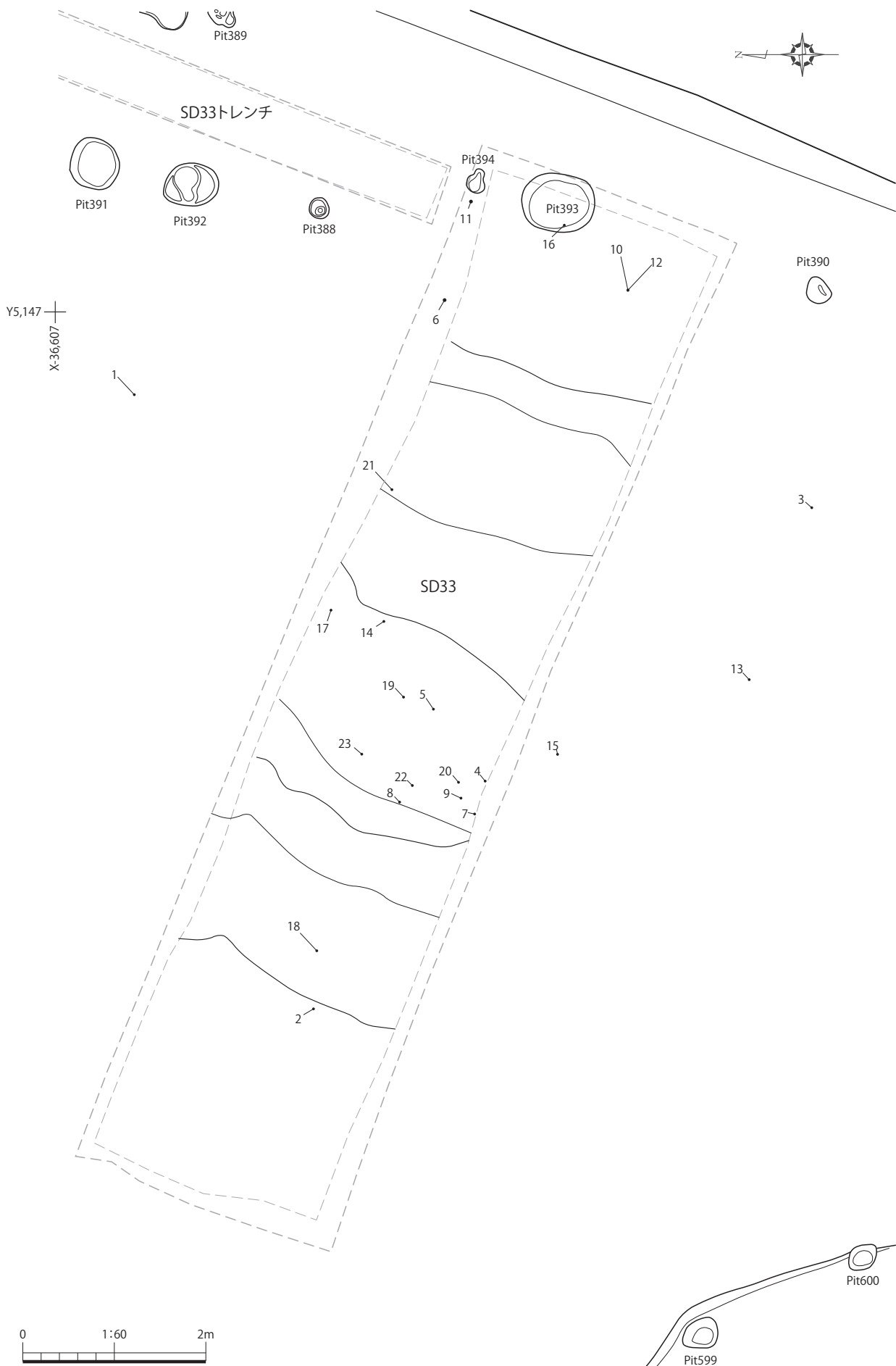
- SD32
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト  
灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂 30%含む [Pit280]
  - 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂 締めり強  
径 5mm石 1%
  - 3 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂 締めり強  
径 1~2cmの石 5%含む
  - 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂
  - 5 暗褐色 (10YR3/3) 粗砂 締めり弱  
黒色 (10YR2/1) 粘土が薄く層状に混じる
  - 6 黒褐色 (10YR3/2) 細砂  
径 1~2cm石 2%含む
  - 7 褐色 (10YR4/4) 細砂 締めり弱  
※水による錆で変色



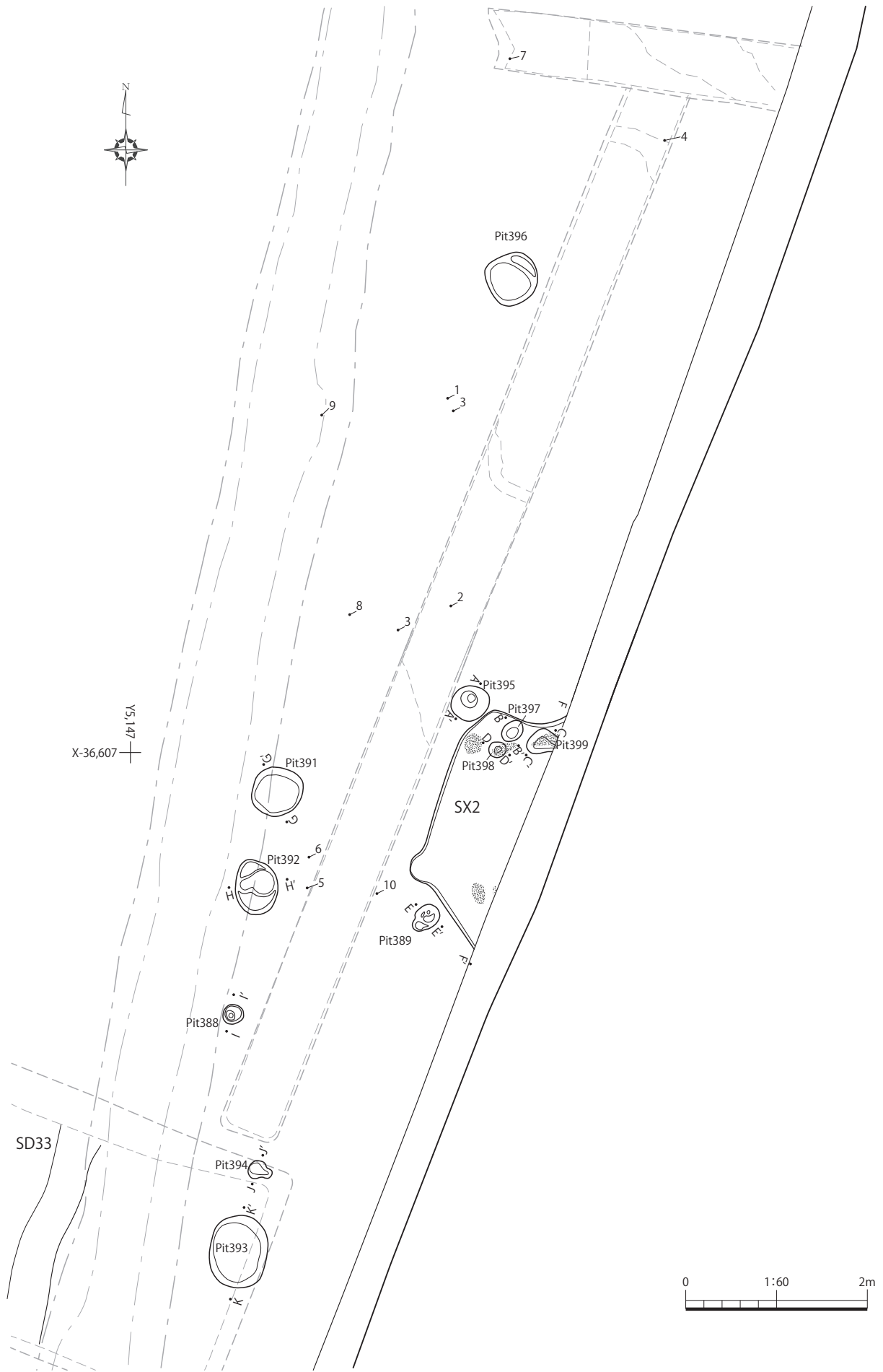
第101図 S D11・12・14・17・27・28・30・32(5)



第102図 SD33・SX2(1)

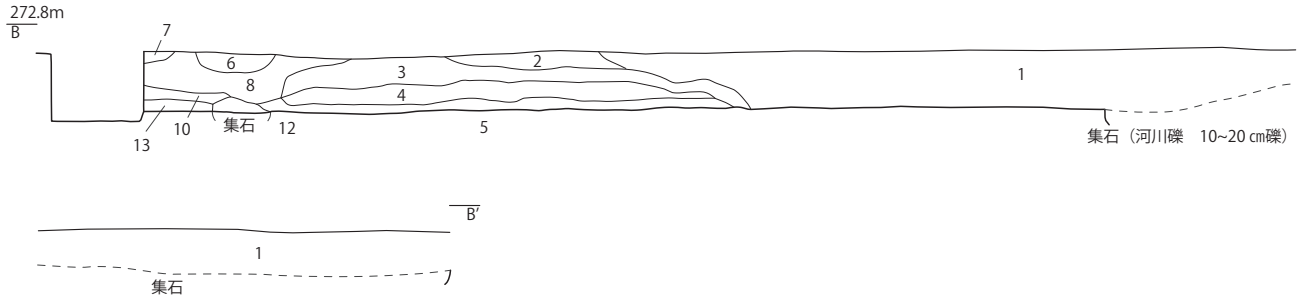


第103図 SD33・SX 2 (2)

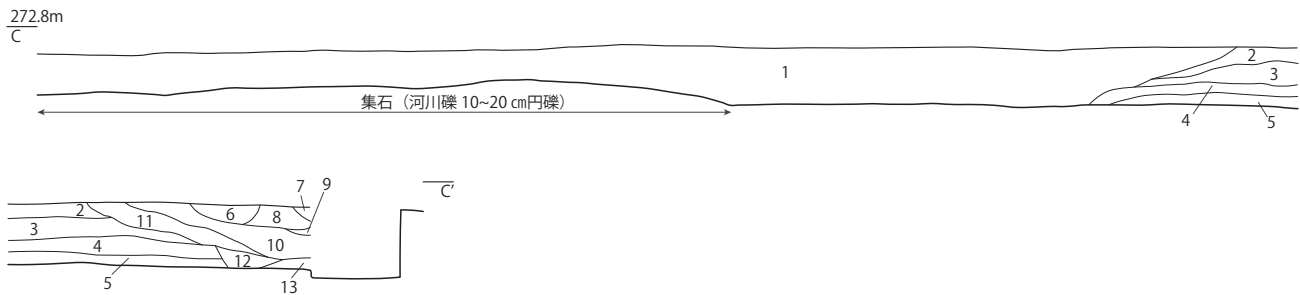


第104図 SD33・SX 2 (3)

SD33 東壁



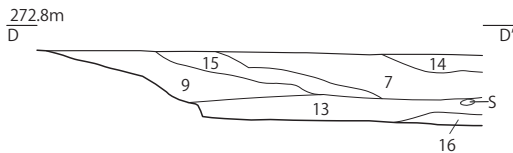
SD33 西壁



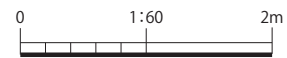
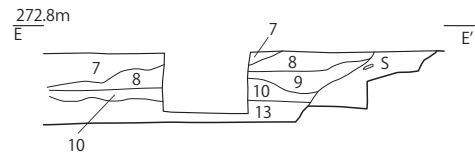
SD33 西壁

- 1 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性弱 締まり強 河川の礫の上に堆積した土層 流れ込みの遺物を含む
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強 径1mm白色粒 10%
- 3 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルト 粘性弱 締まり強
- 4 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト 粘性弱 締まり強
- 5 灰色 (7.5Y5/1) 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm白色粒 10% 径2mm黄色土粒 5% 径2mm炭化粒 1%
- 7 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径1mm白色粒 20% 径2mm黄色土粒 5%
- 9 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径2mm黄色土粒・炭化粒 1%
- 10 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径1mm白色粒 10% 径2mm黄色土粒 5% 径5mm炭化粒 1%
- 11 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 粘性強 締まり強 径5mm炭化粒 2% 径2mm黄色土粒・白色粒 2%
- 12 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 粘性強 締まりやや弱 径2~10cm円礫 20%
- 13 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 14 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性やや弱 締まり強 径1mm白色粒・黄色粒 20% 径1mm炭化粒 2%
- 15 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂層 粘性無し 締まりやや弱
- 16 褐色 (10YR4/4) 砂粒 径1mm大の砂粒 粘性無し 締まり強 (10YR5/1 褐灰砂が錆びて褐色になっている)

SD33 北壁

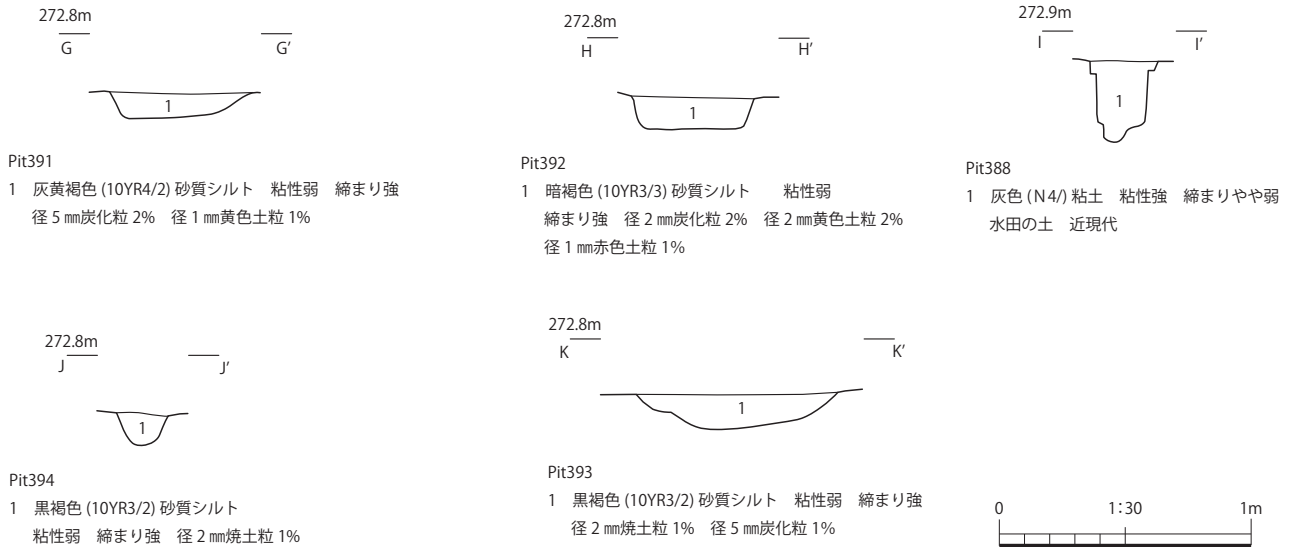
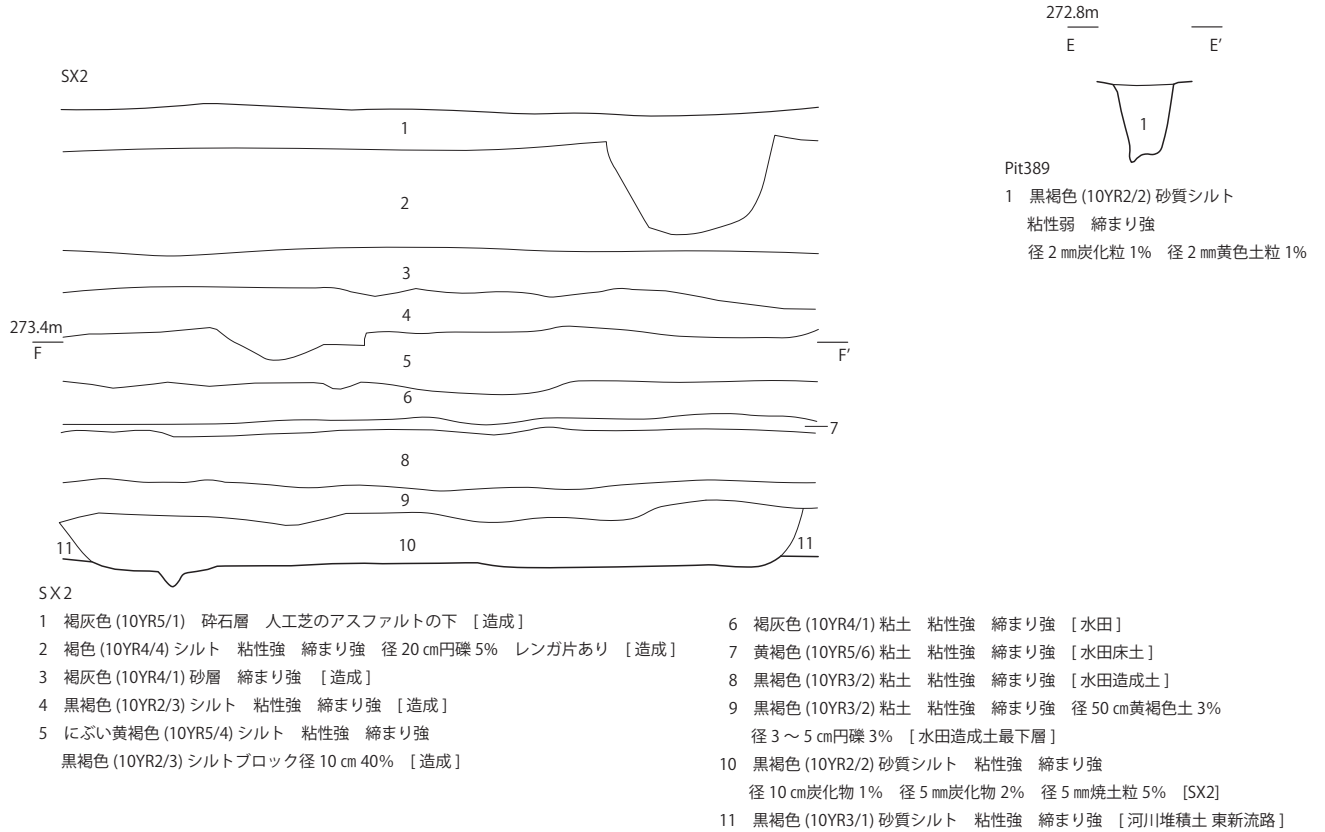
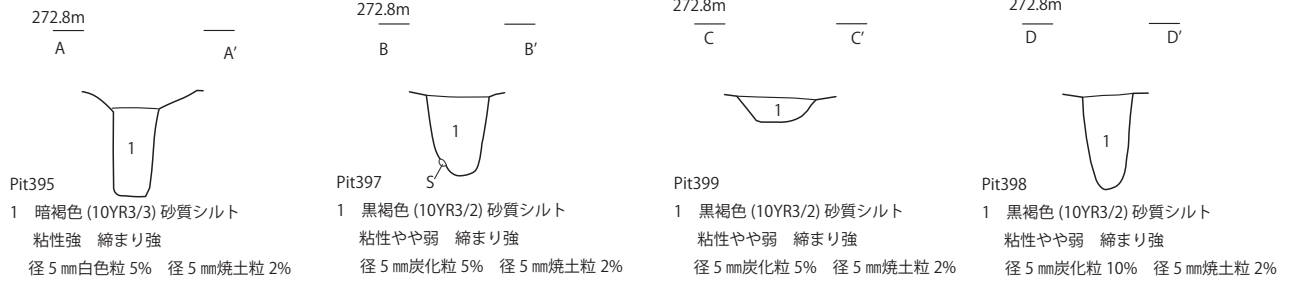


SD33 南壁



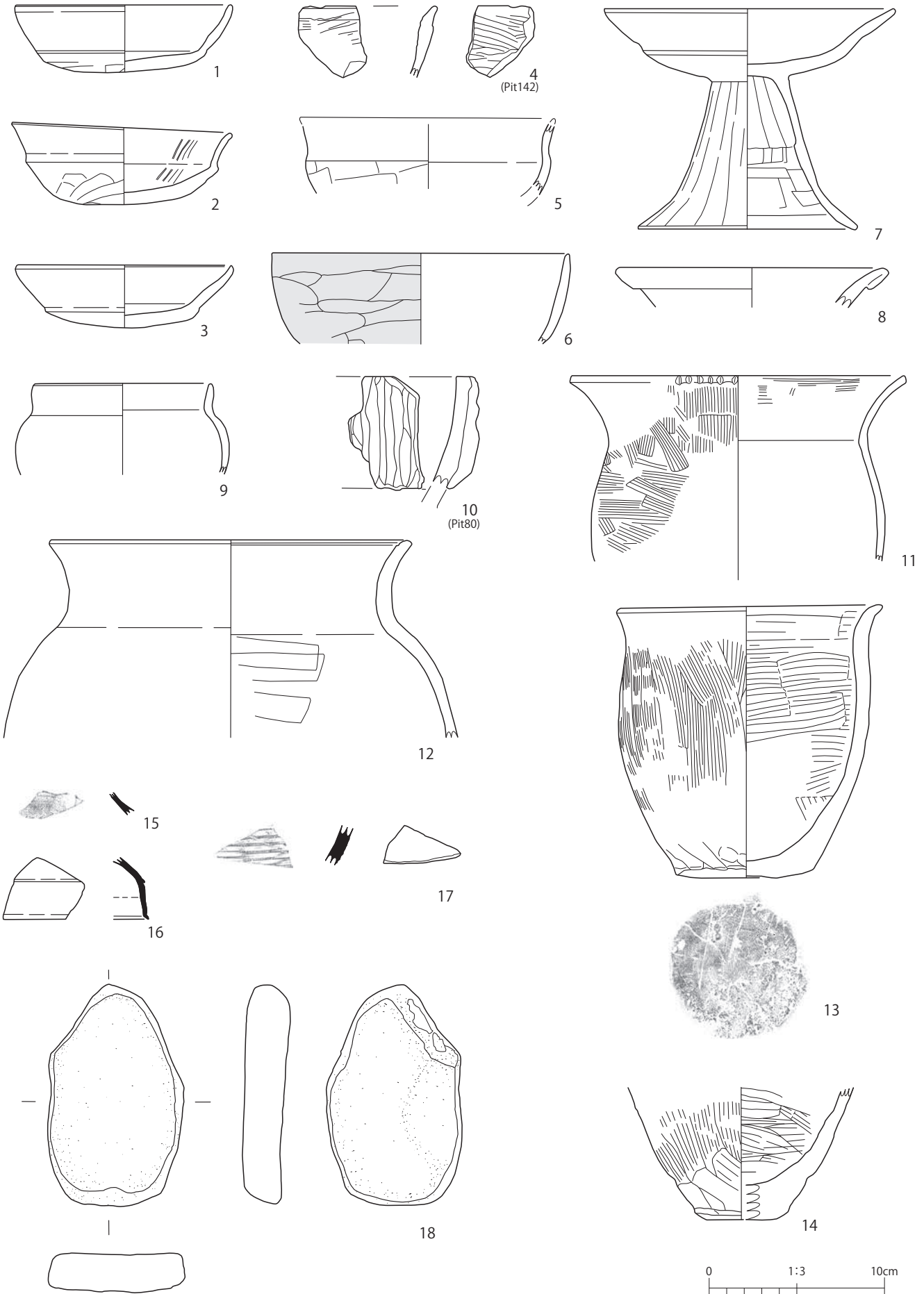
第105図 SD33・S X 2 (4)





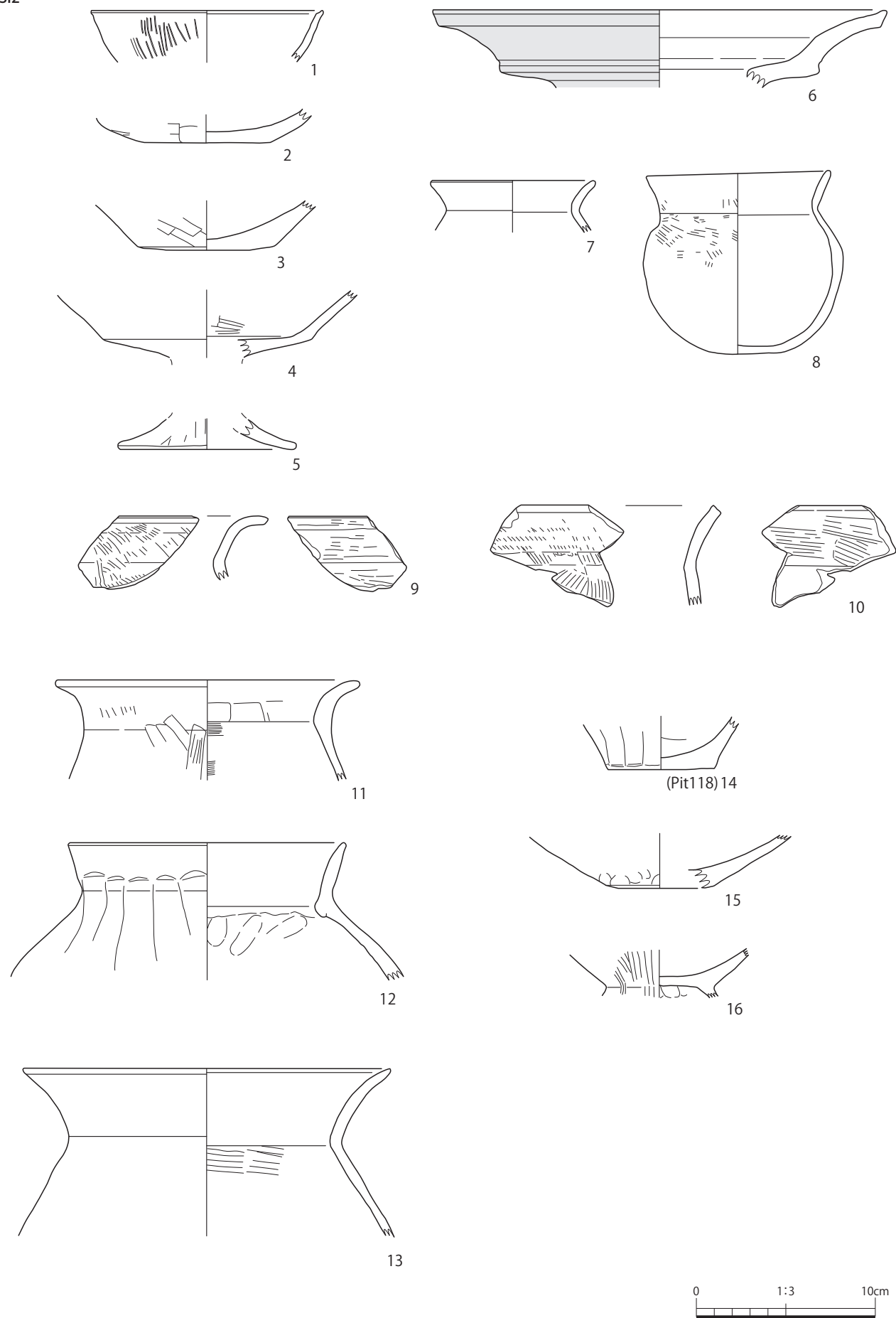
第106図 S D33・S X 2 (5)

S11

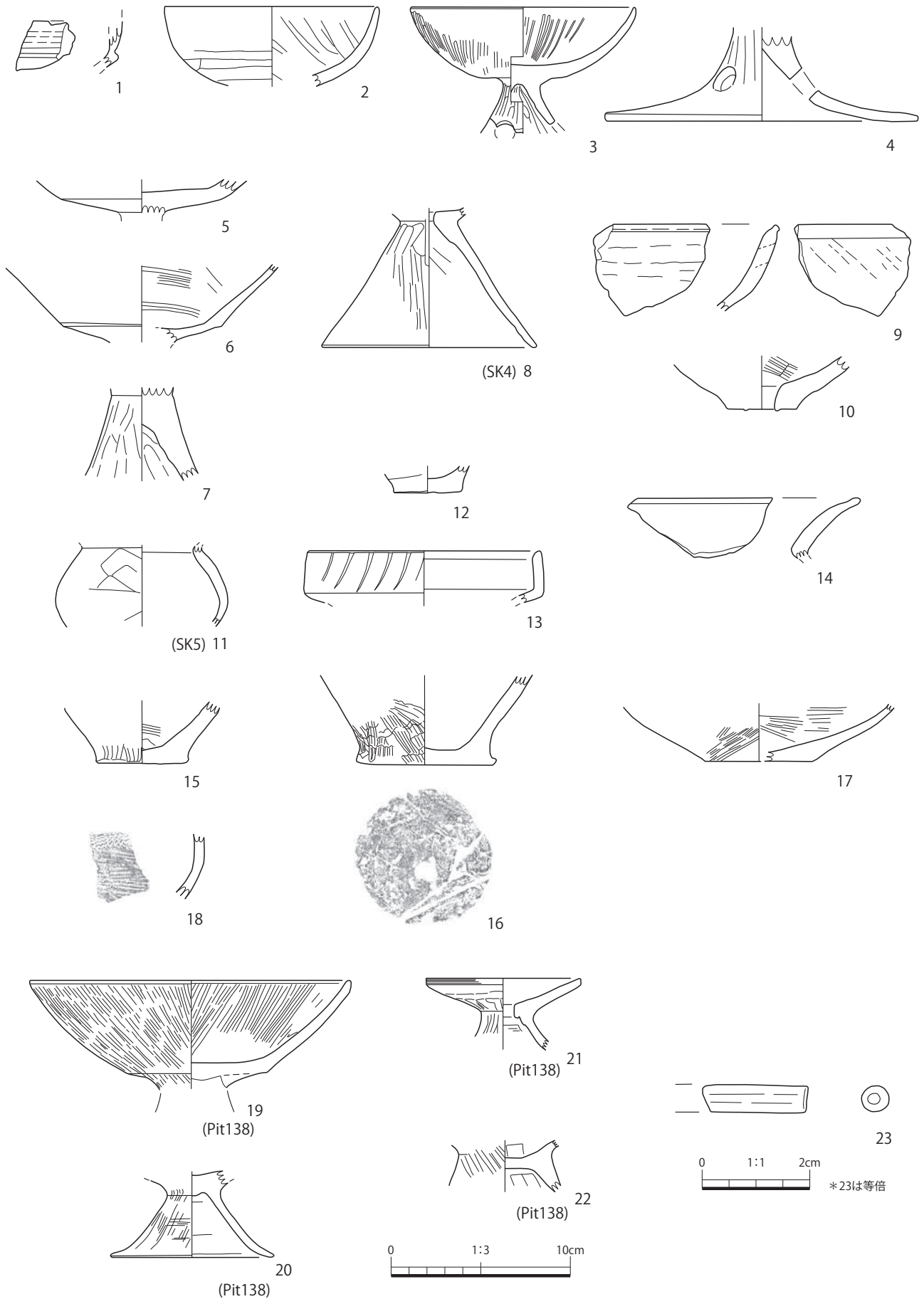


第 107 图 S I 1 出土遺物

S12

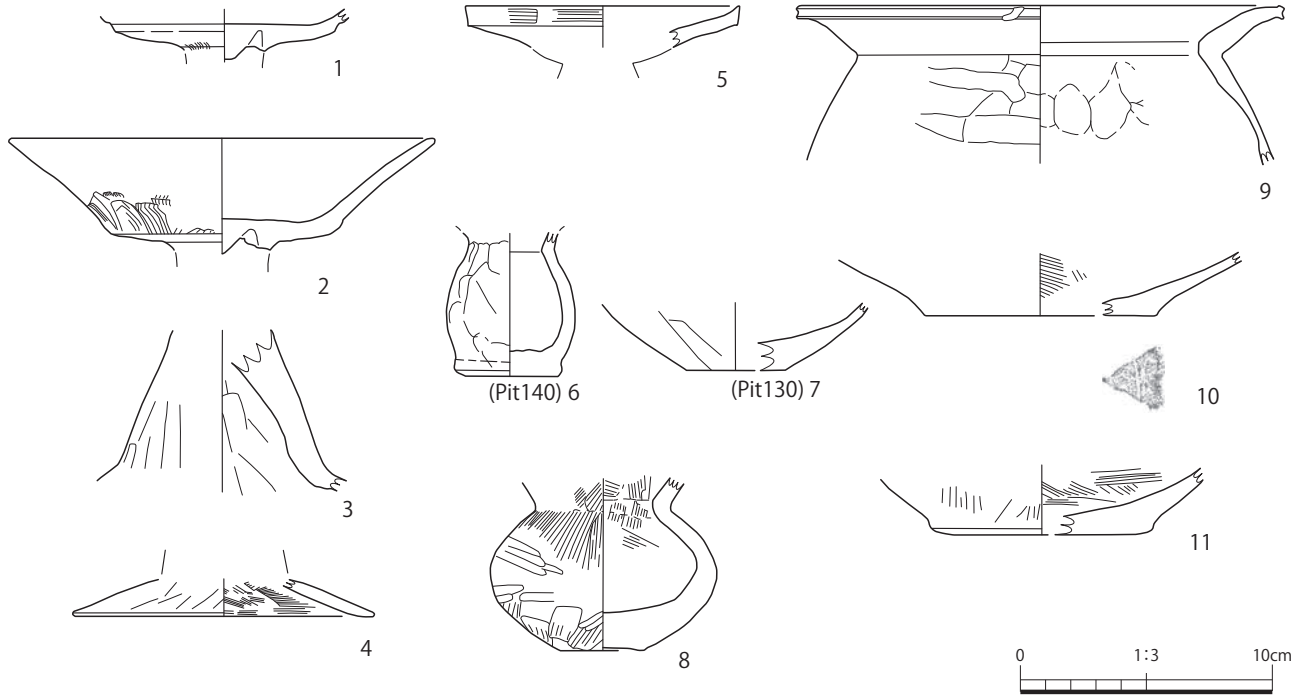


第 108 図 S I 2 出土遺物

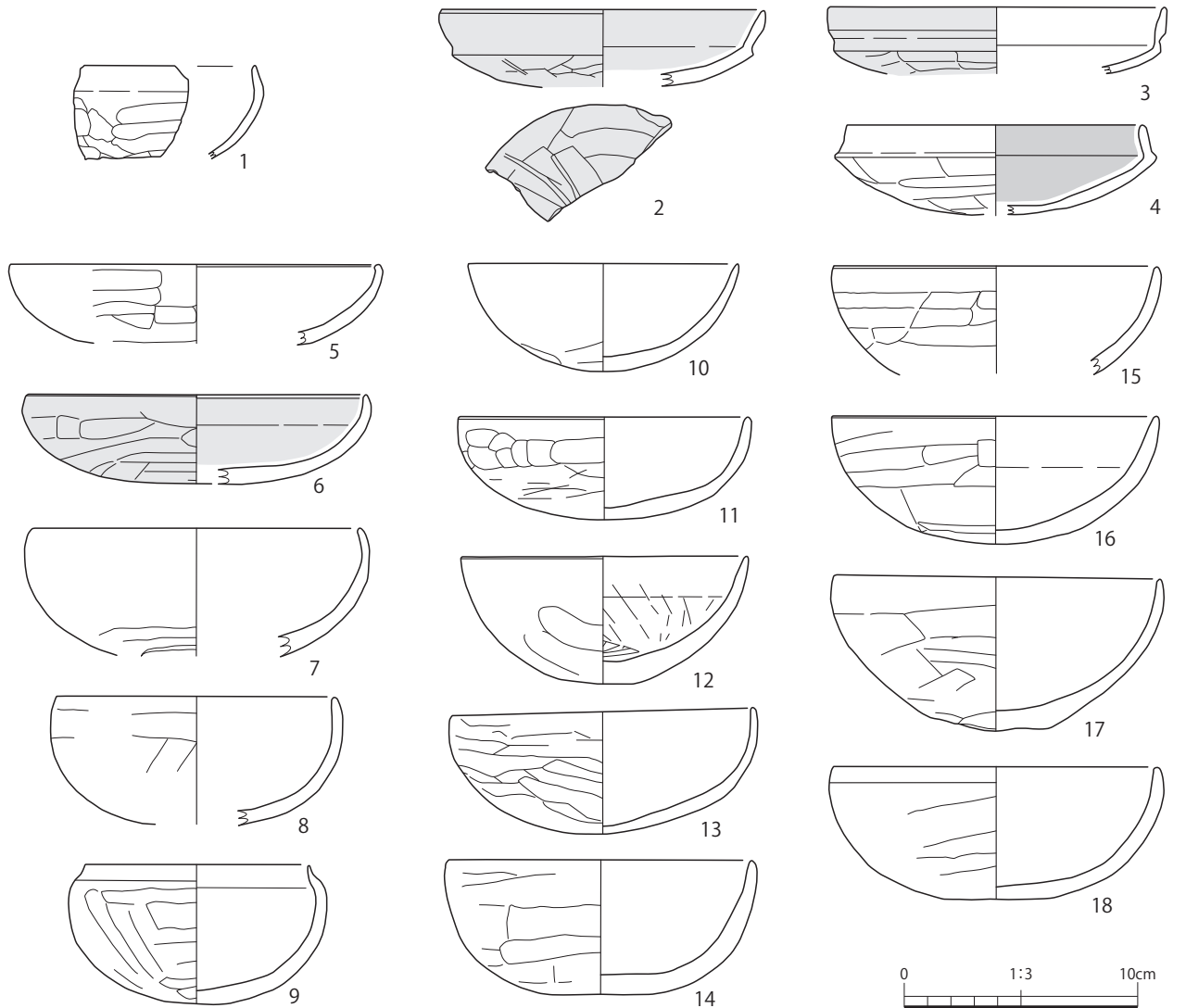


第109図 S13出土遺物

S14

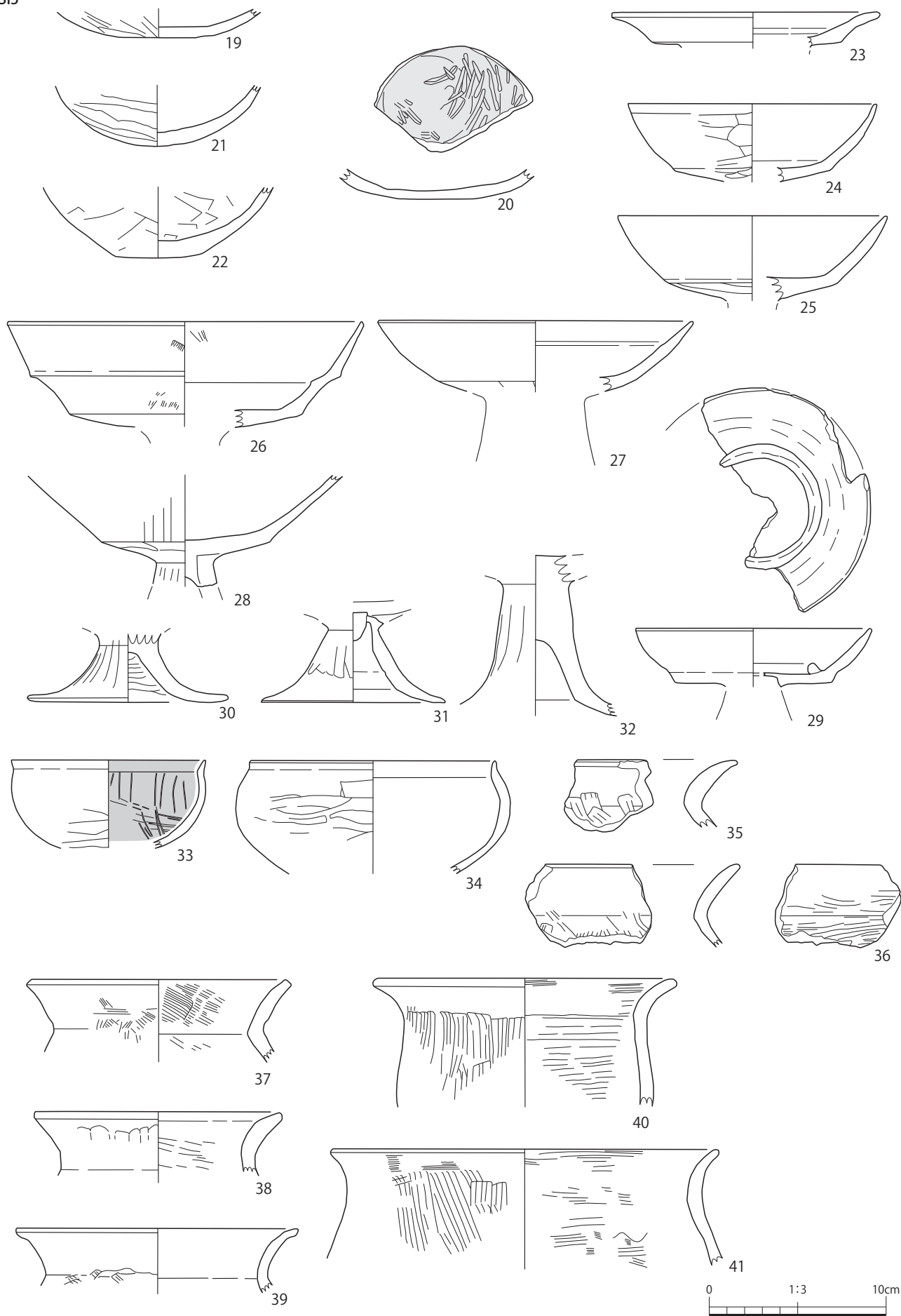


S15



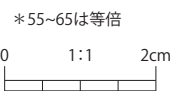
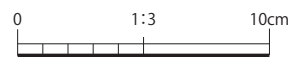
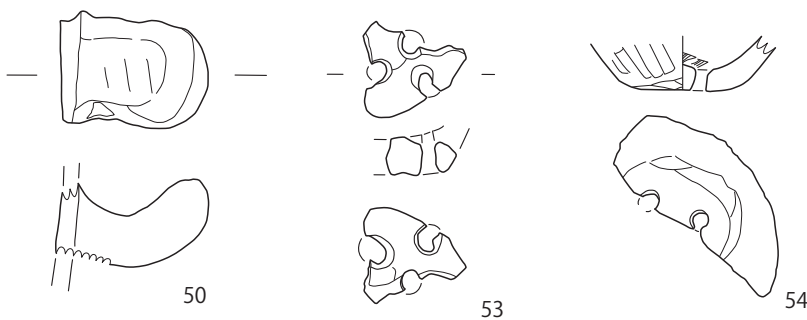
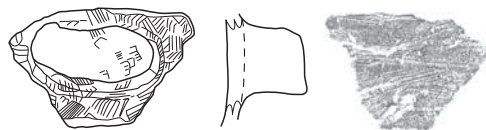
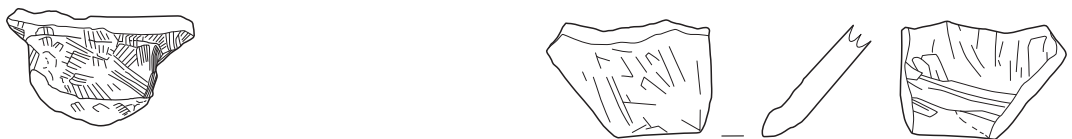
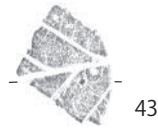
第110図 S14・S15 (1) 出土遺物

S15



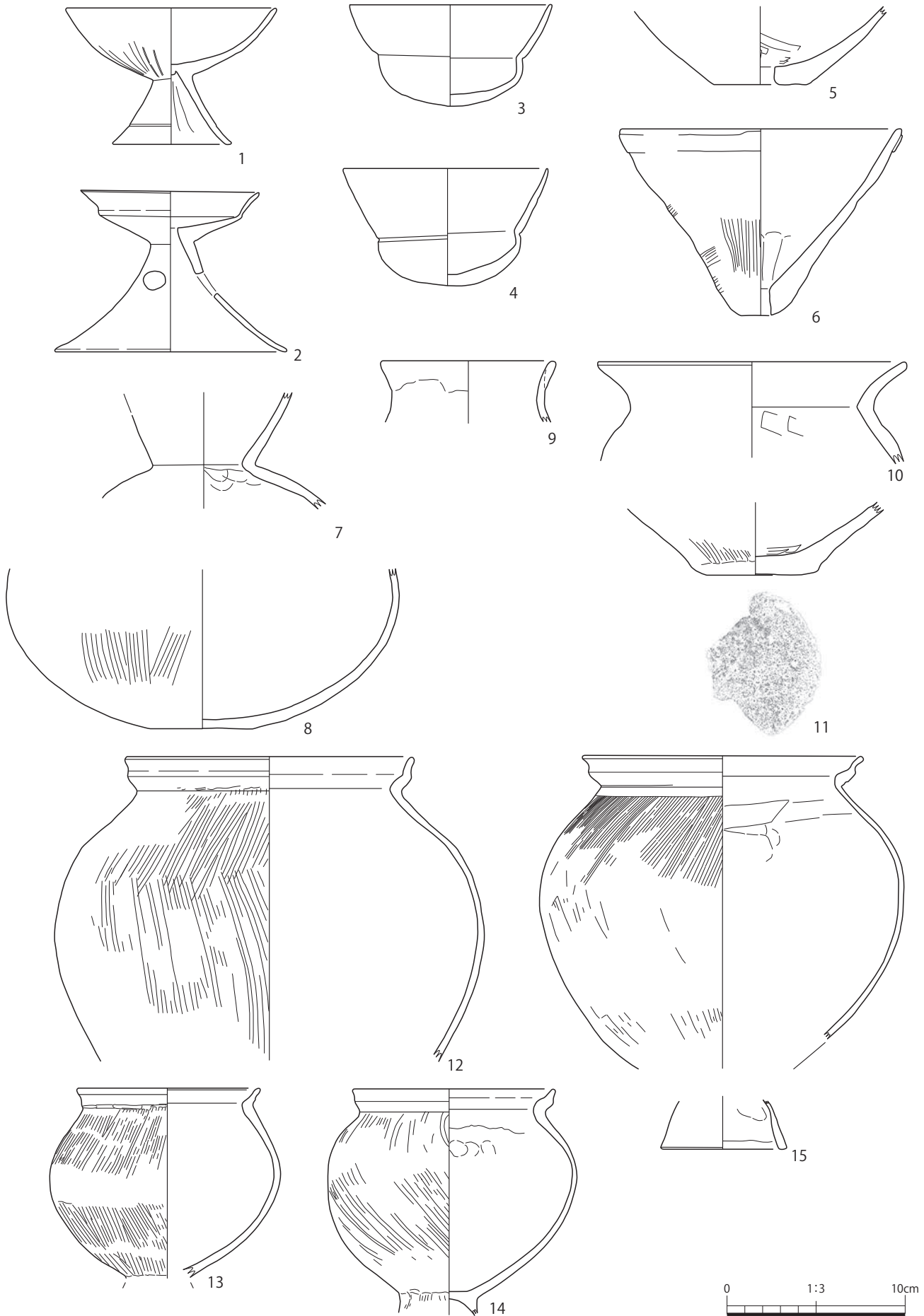
第 111 図 S I 5 ( 2 ) 出土遺物

SI5



第112図 SI5 (3) 出土遺物

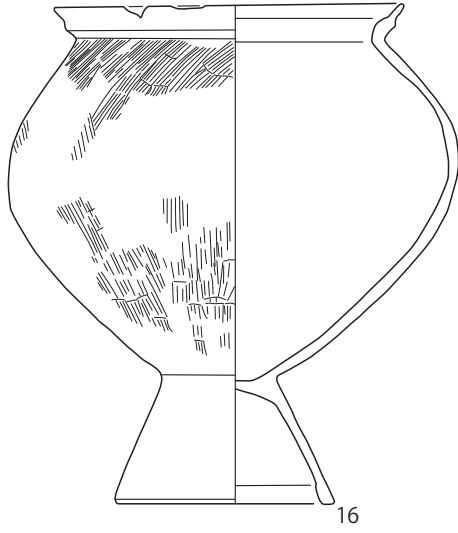
SI6



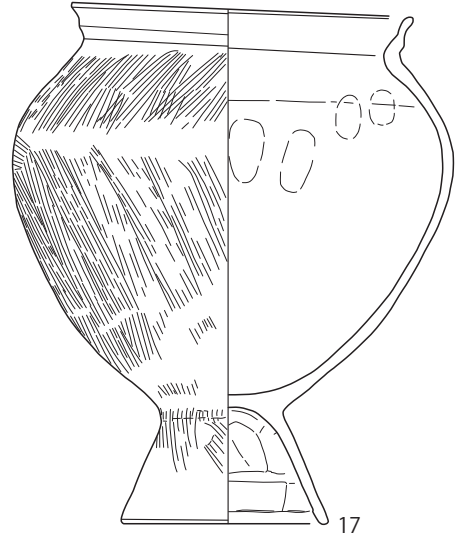
第113図 SI6(1)出土遺物



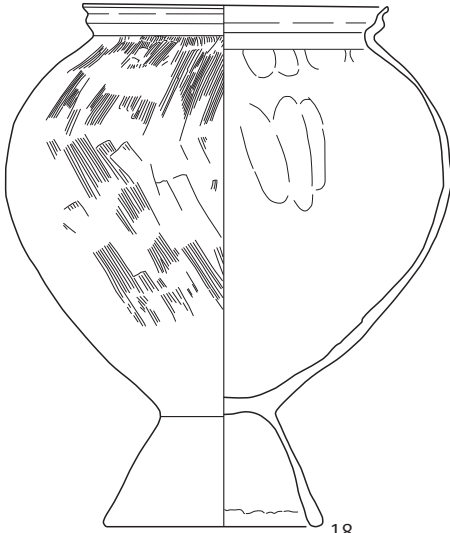
S16



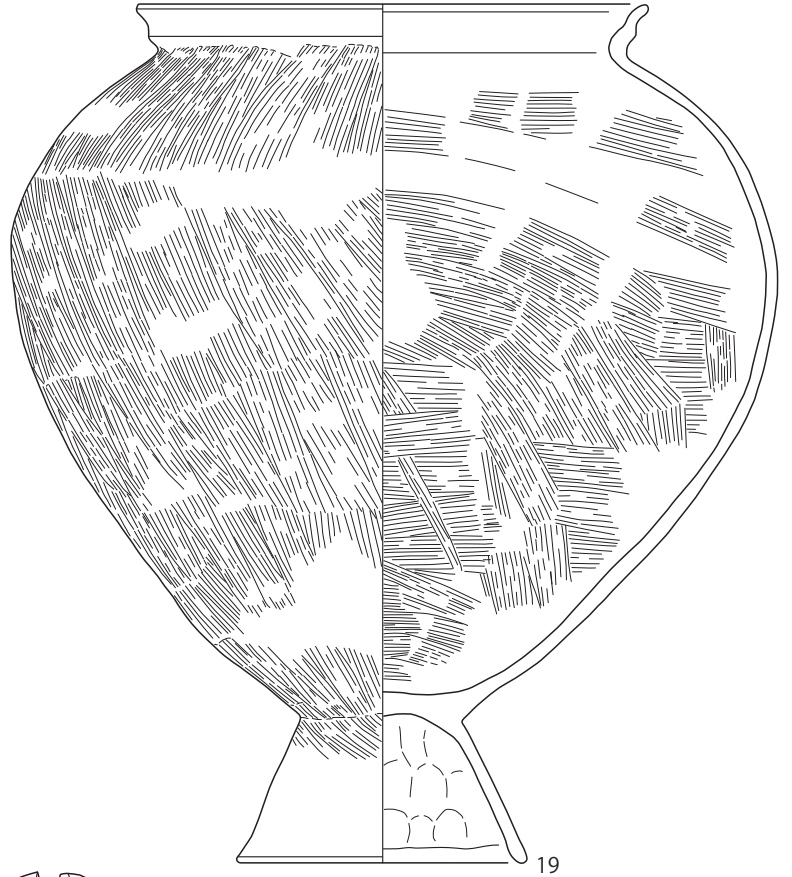
16



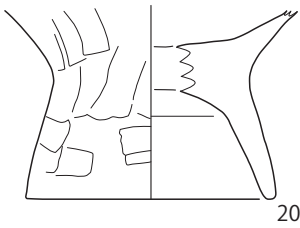
17



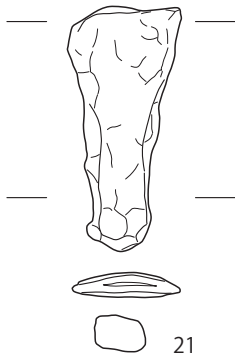
18



19

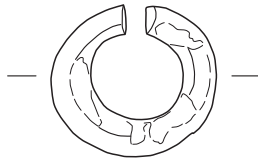


20

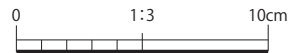
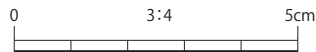


21

\*21・22は3/4縮尺

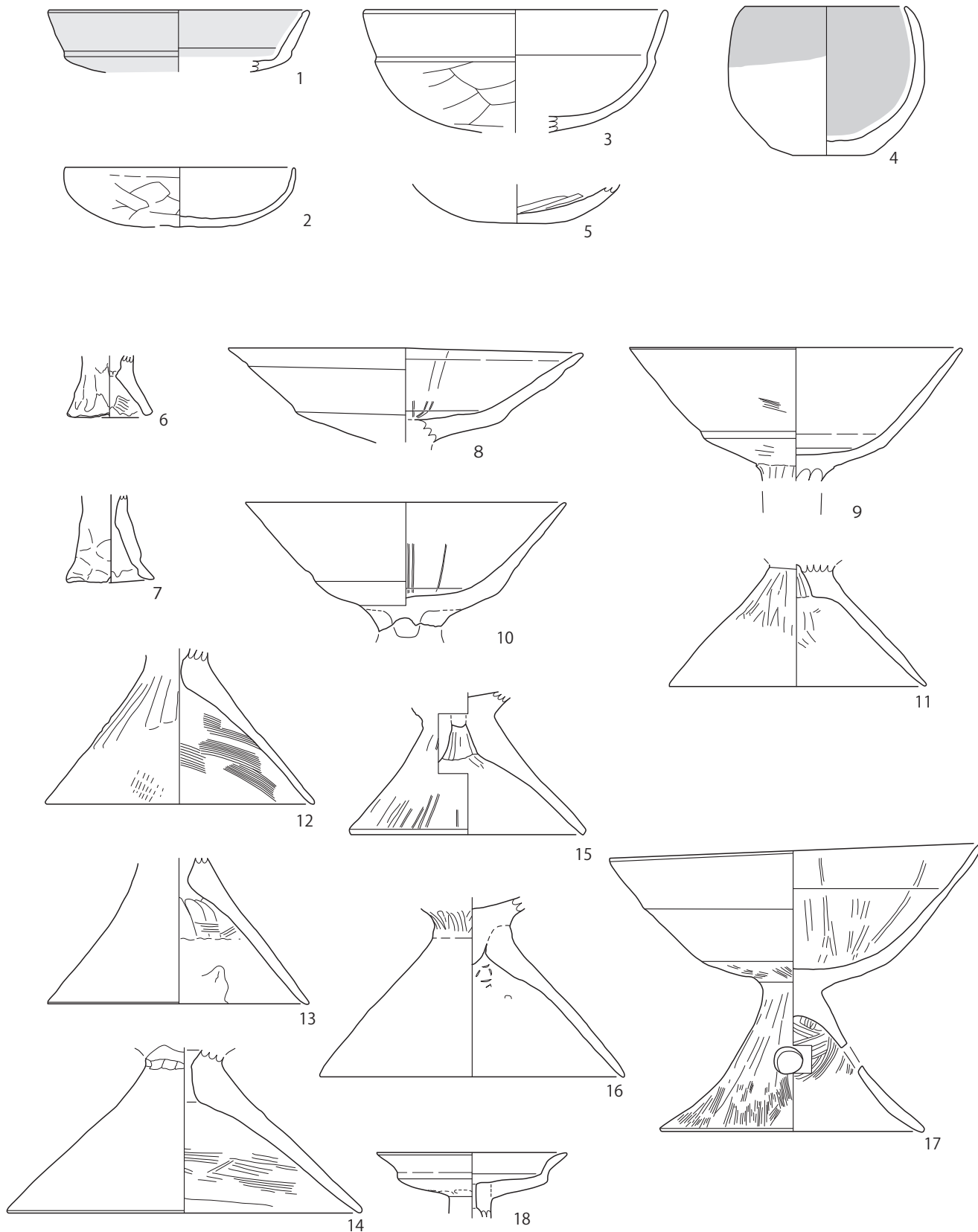


22



第114図 S16(2) 出土遺物

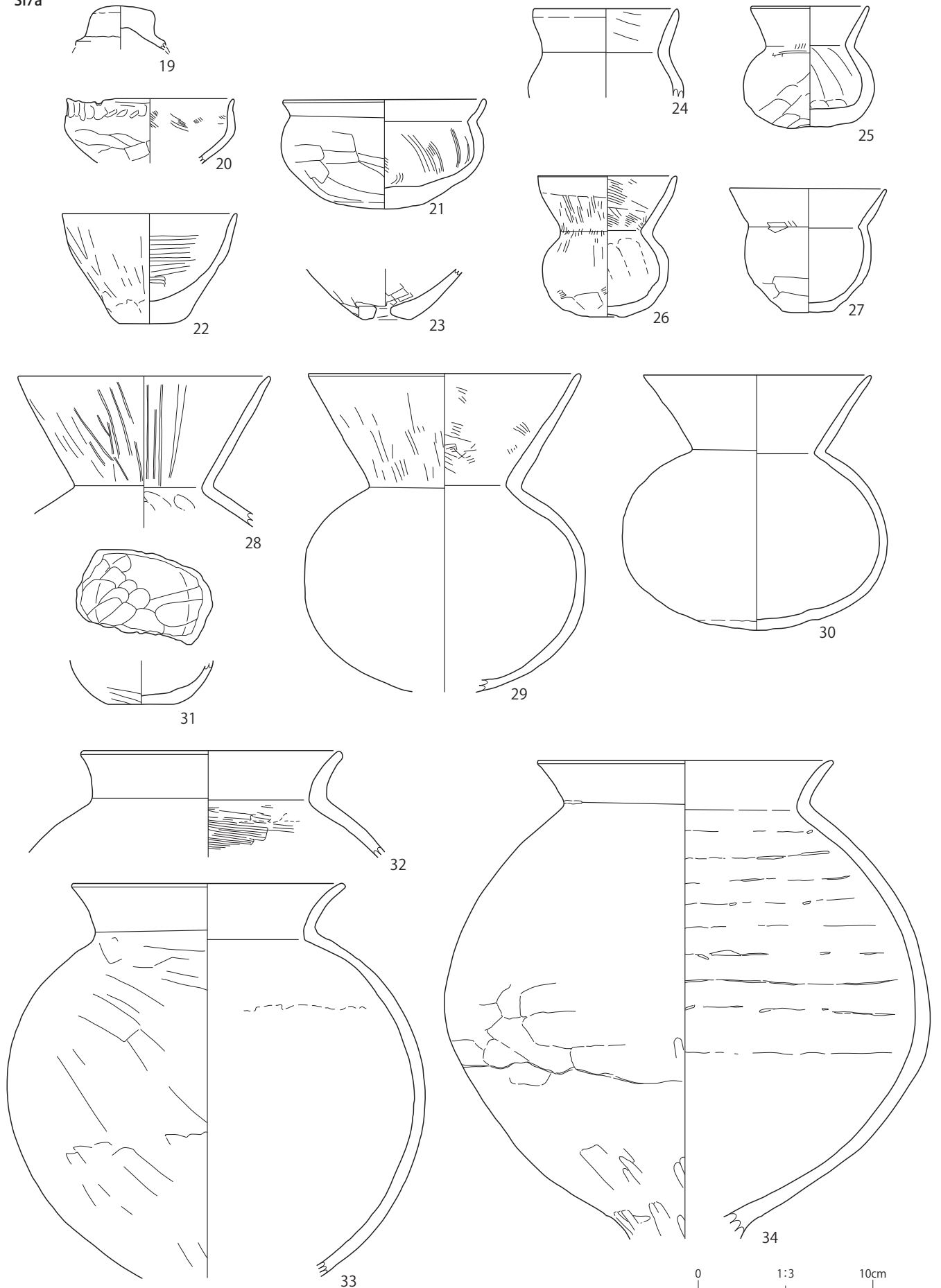
SI7a



0 1:3 10cm

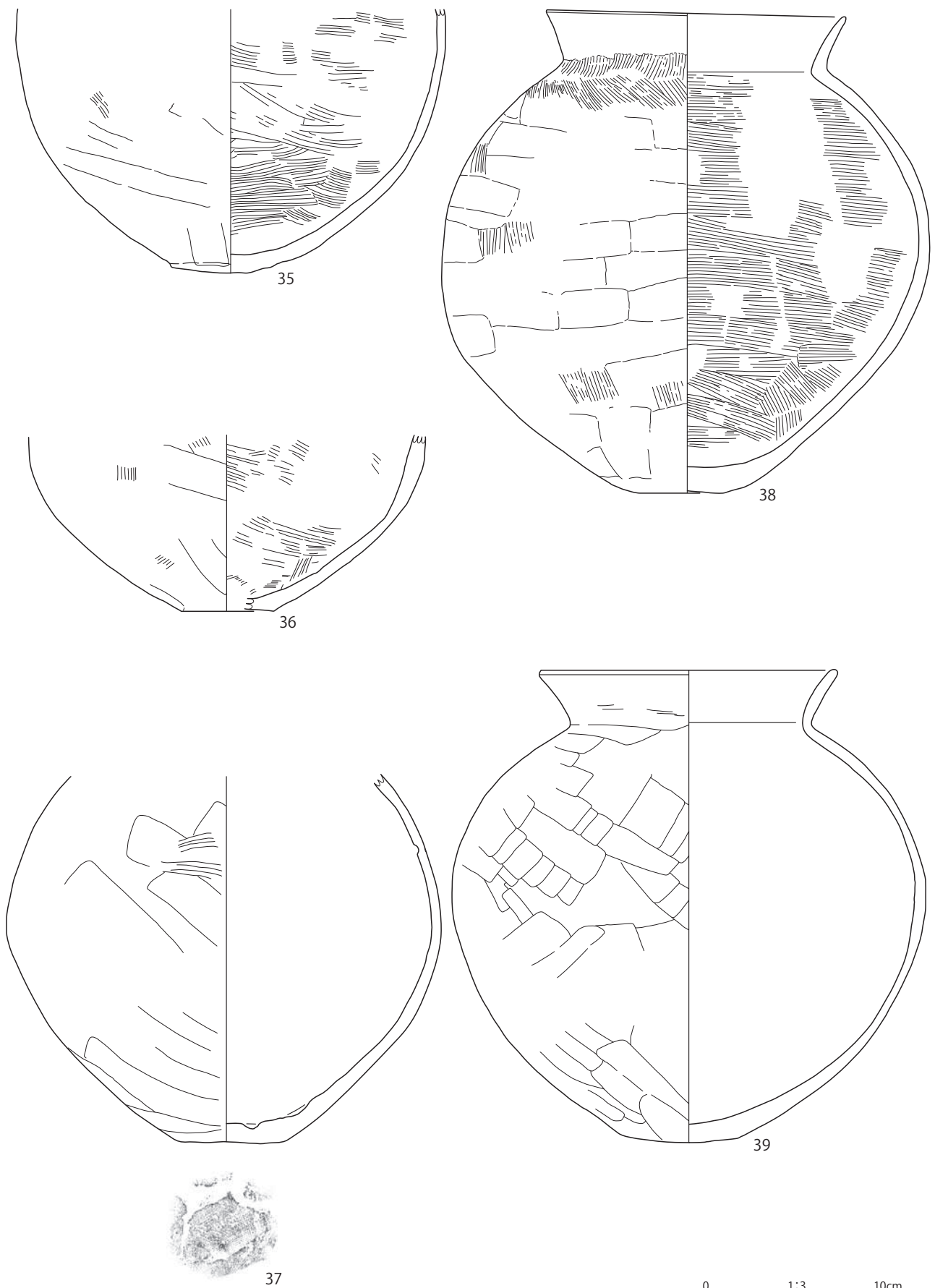
第115図 SI7a(1) 出土遺物

SI7a



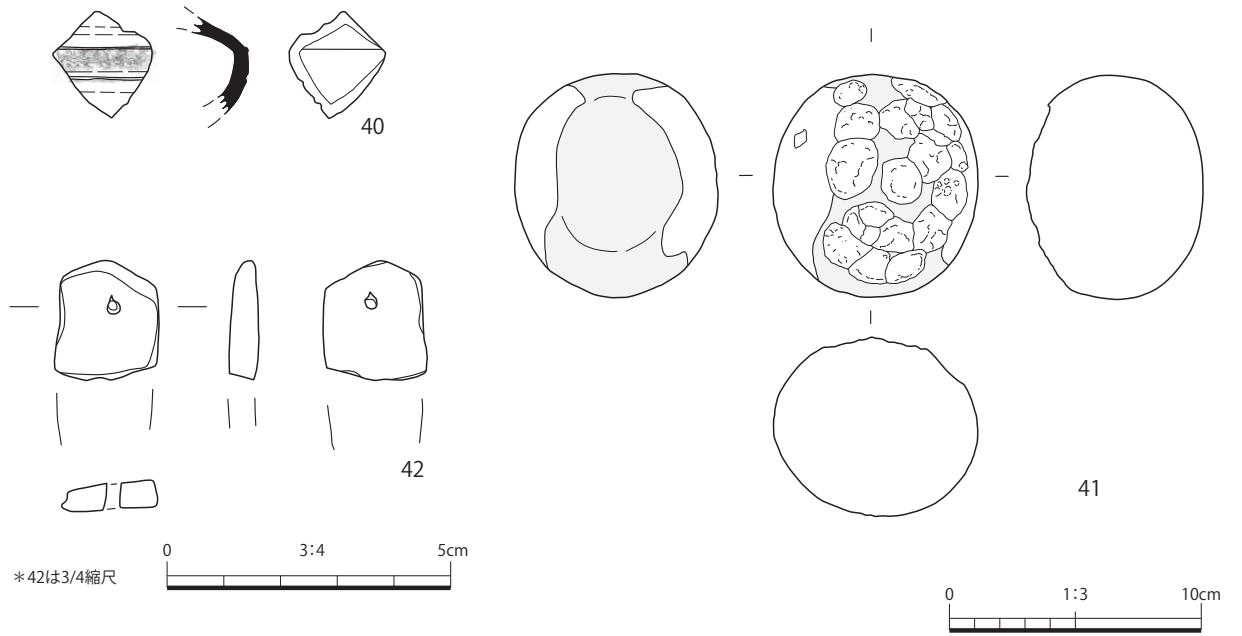
第116図 SI7a(2) 出土遺物

S17a

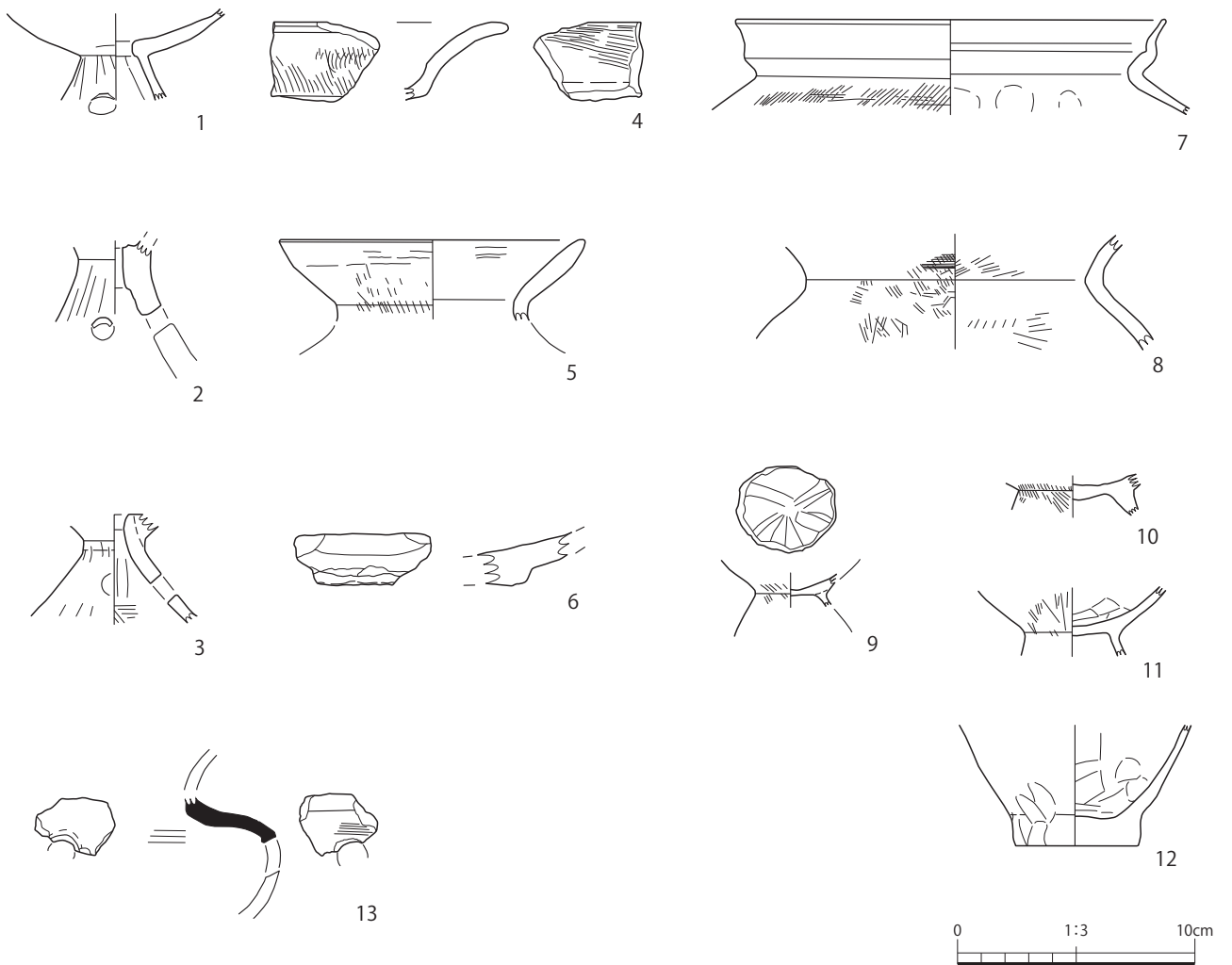


第117図 S17a(3) 出土遺物

SI7a

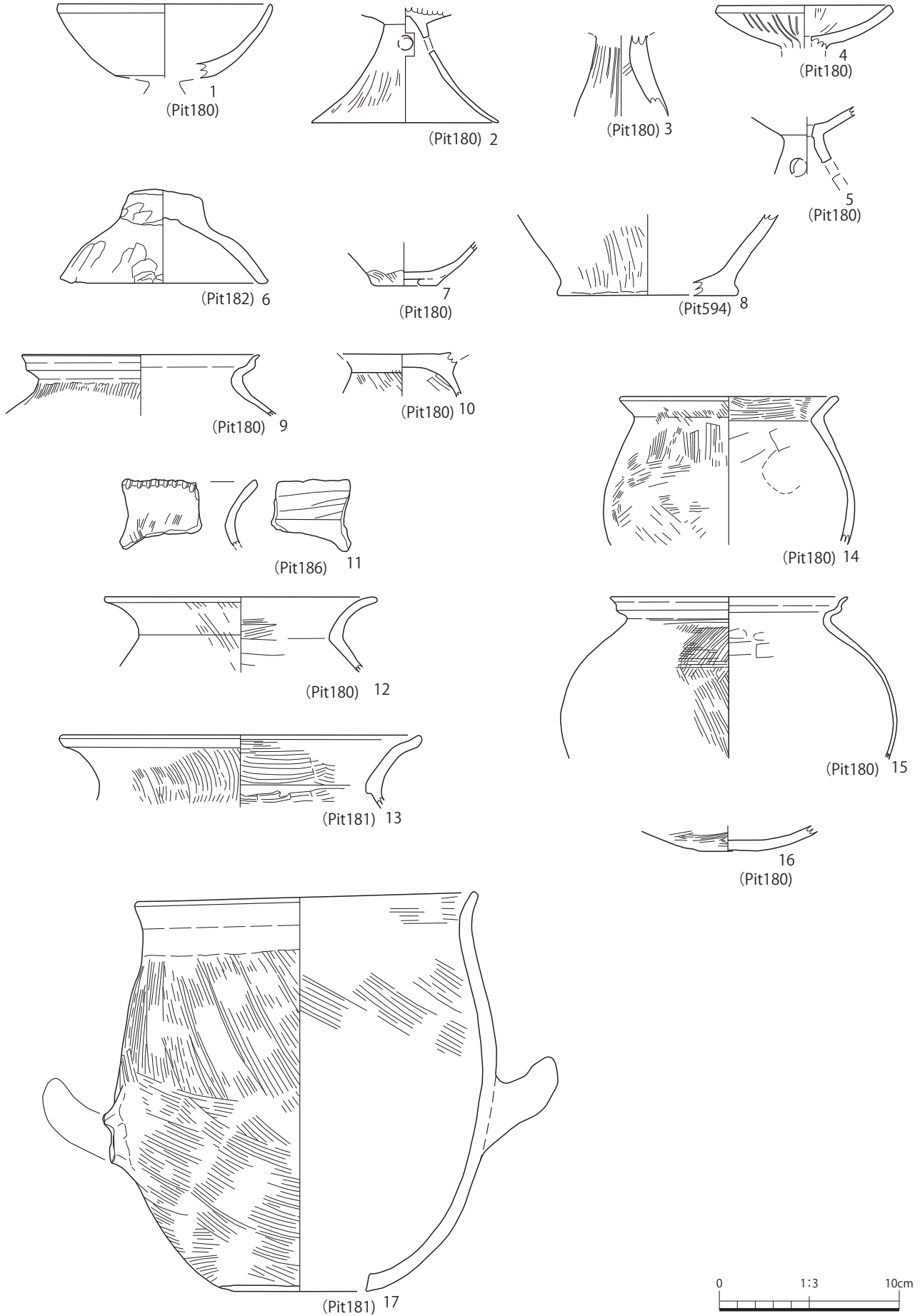


SI7b



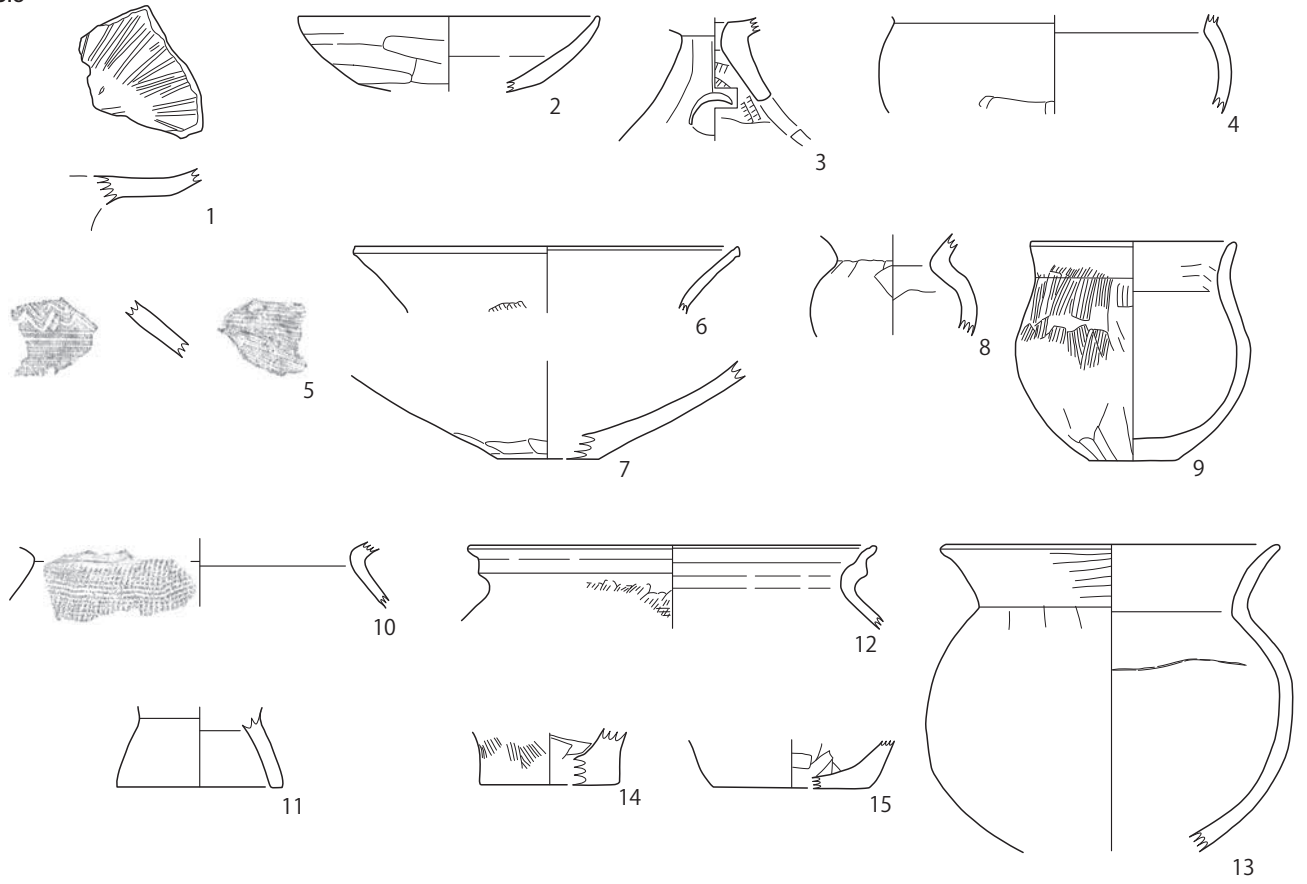
第118図 SI7a(4)・SI7b出土遺物

SI7Pit

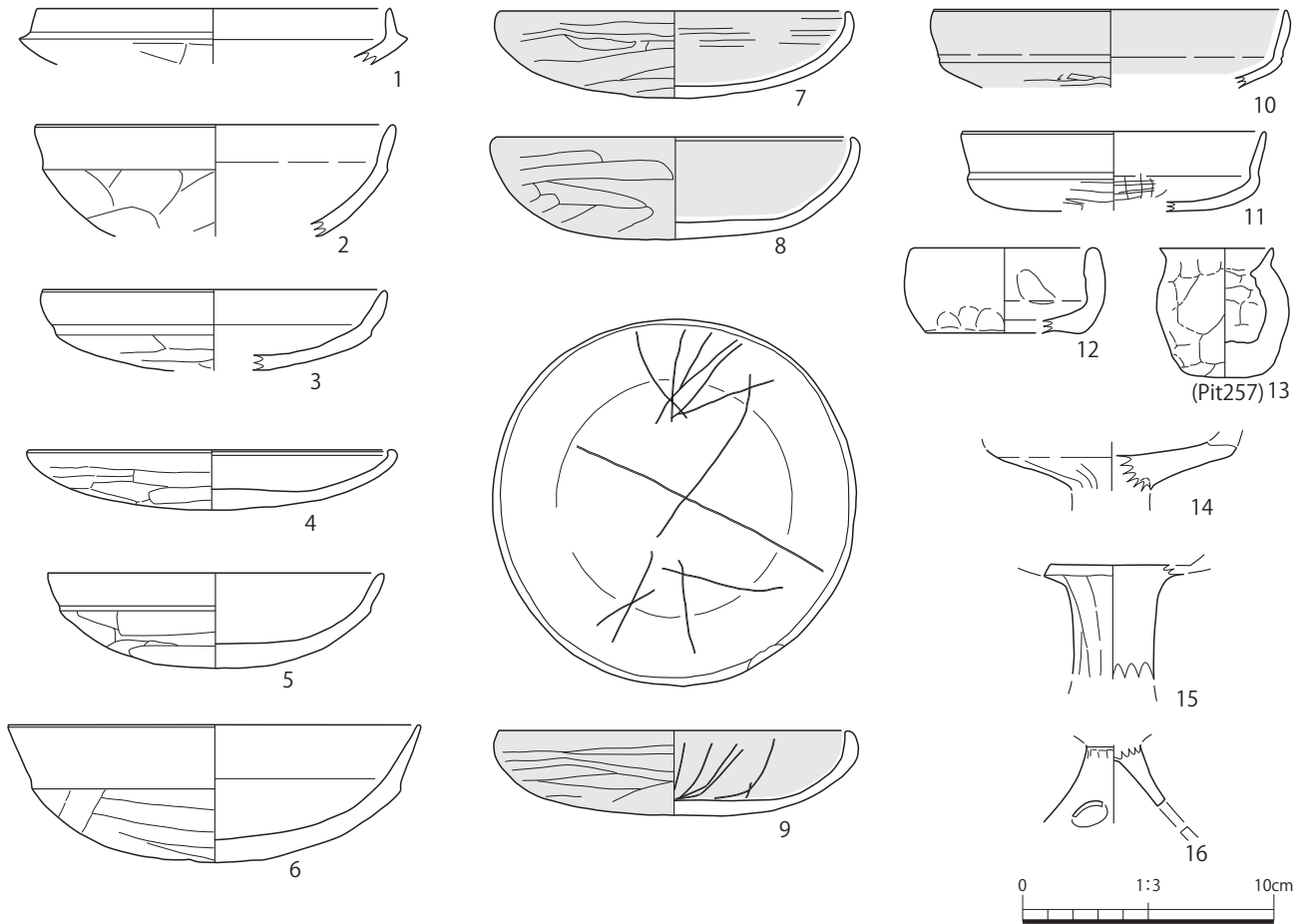


第119図 SI7Pit 出土遺物

S18

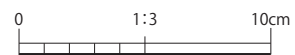
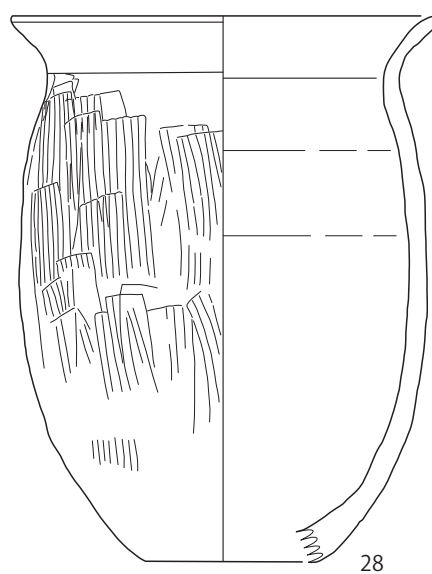
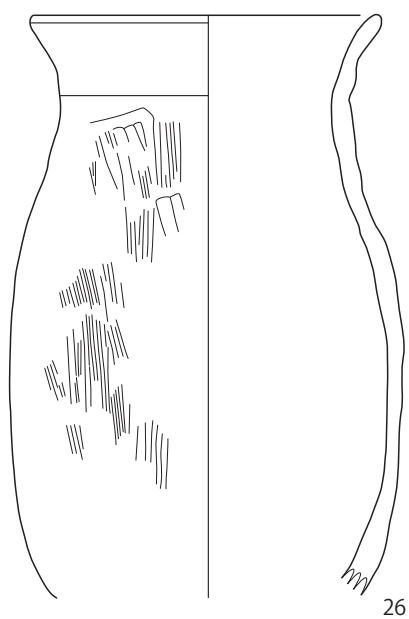
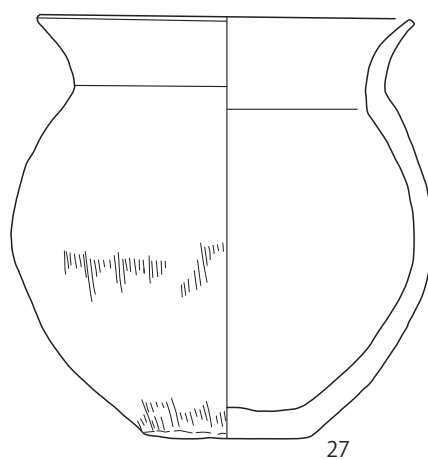
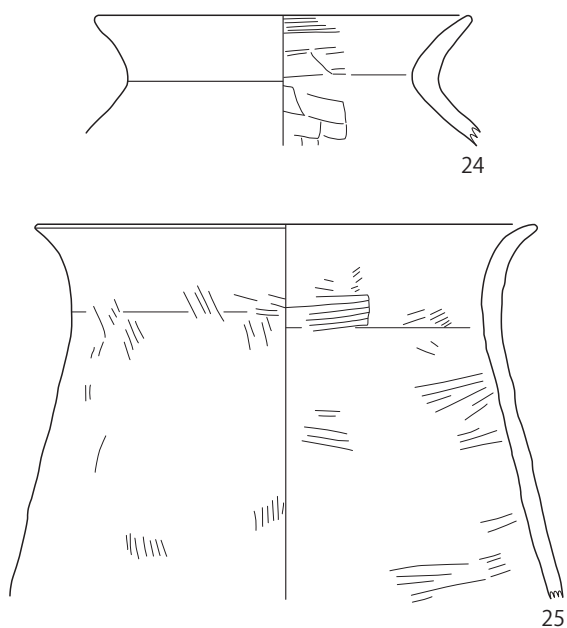
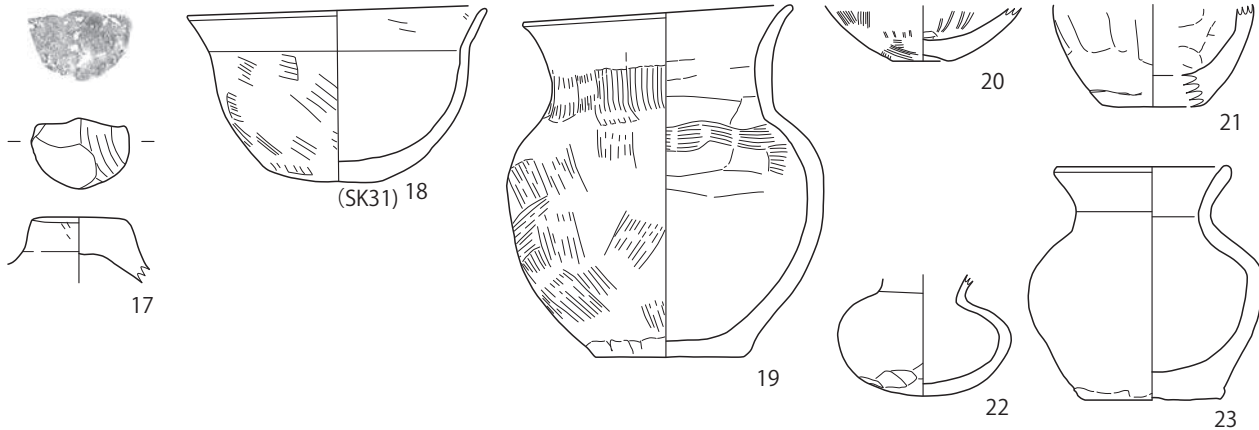


S19



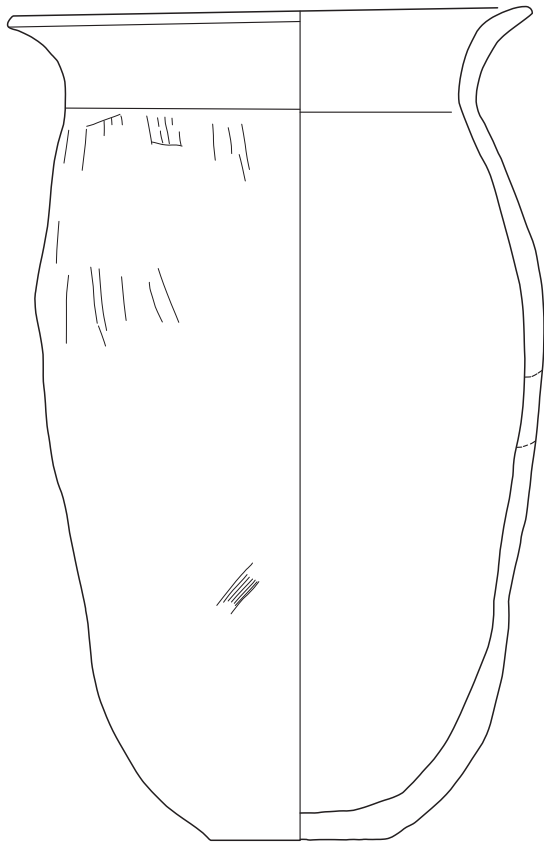
第120図 S18・S19 (1) 出土遺物

S19



第121図 S19出土遺物(2)

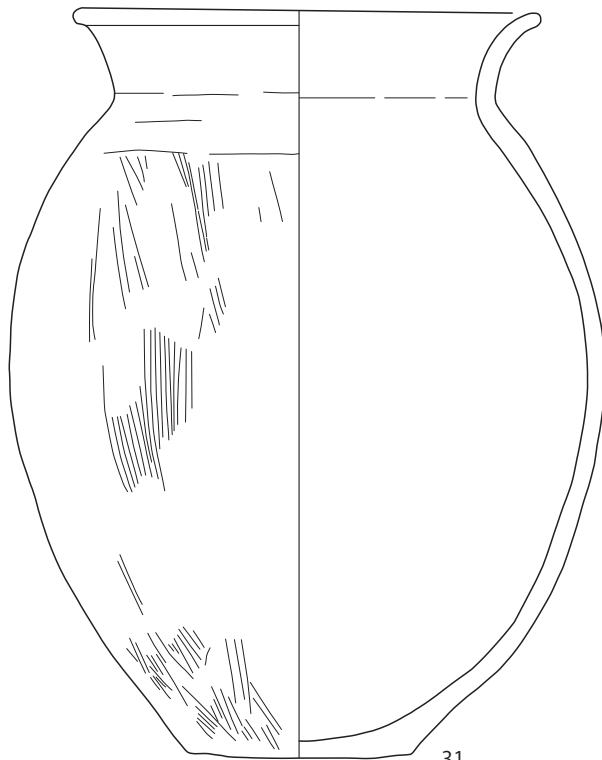




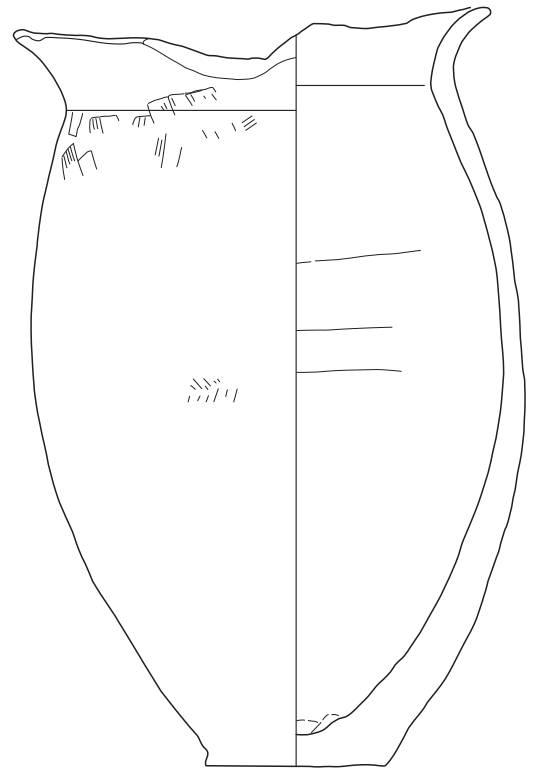
29



30



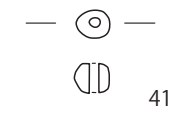
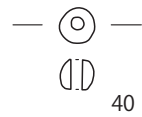
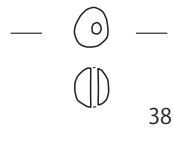
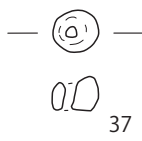
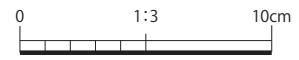
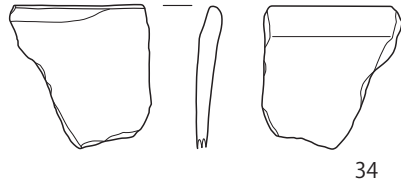
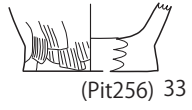
31



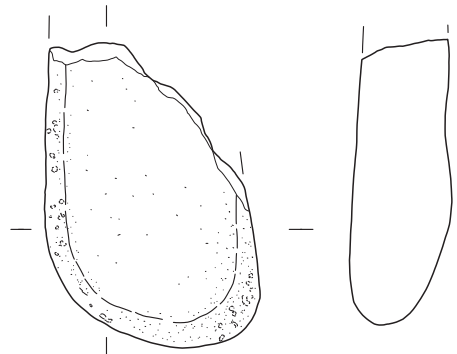
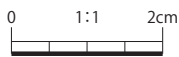
32

第122図 S19(3)出土遺物

SI9



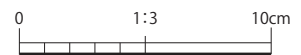
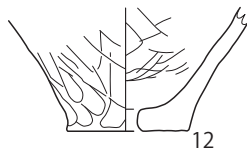
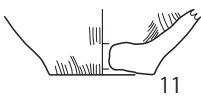
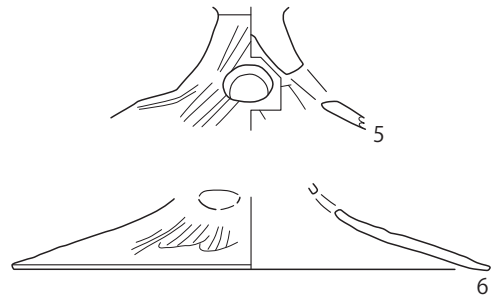
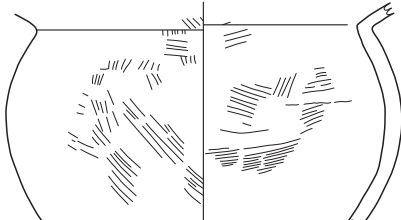
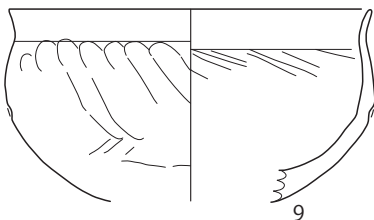
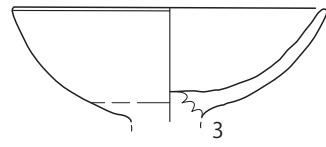
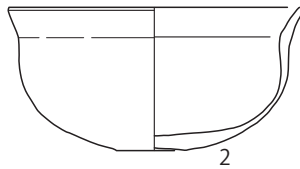
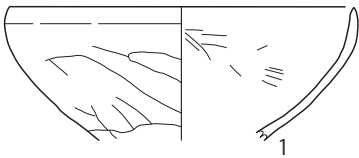
\*36~40は等倍



\*42は1/6縮尺

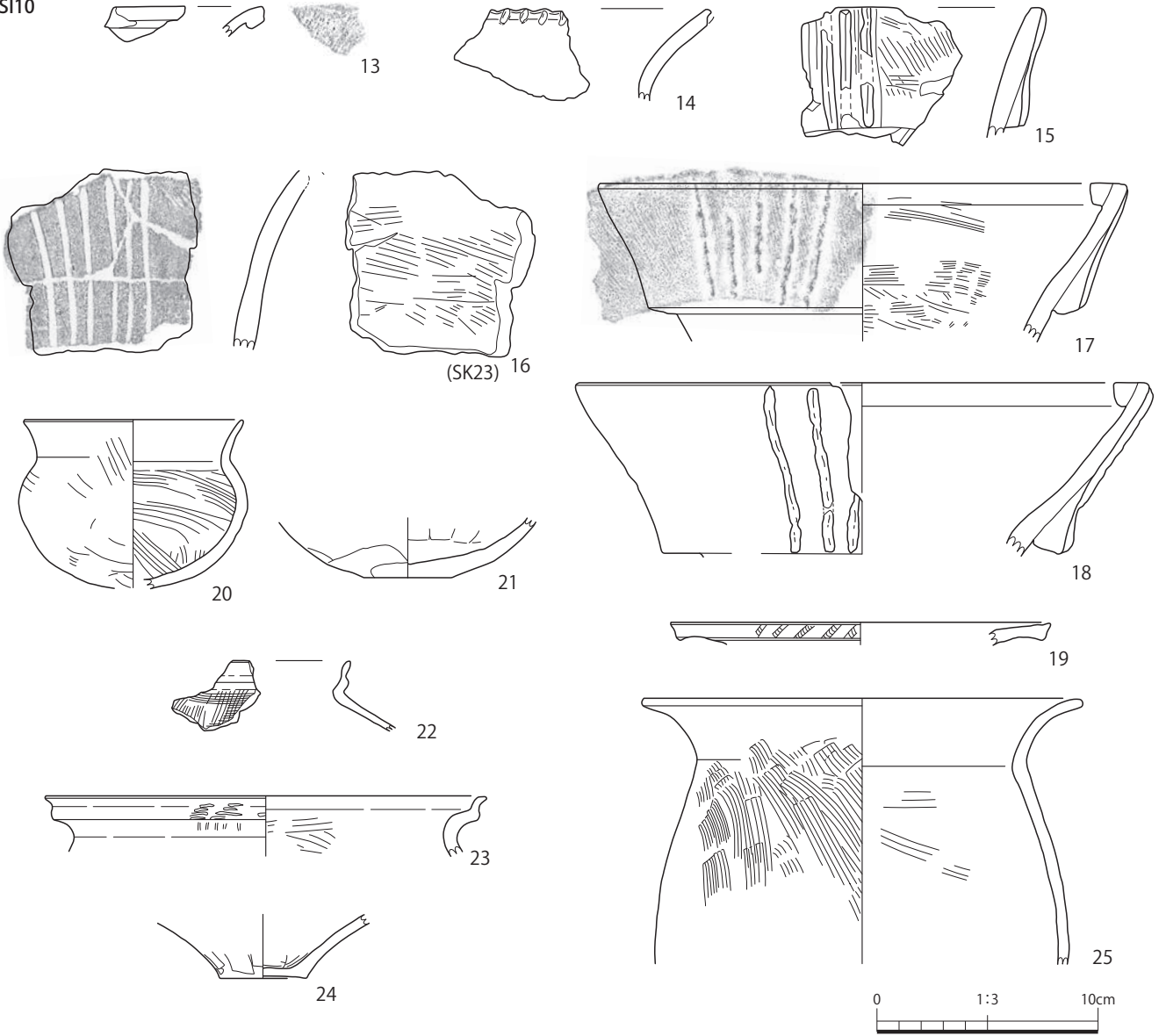


SI10

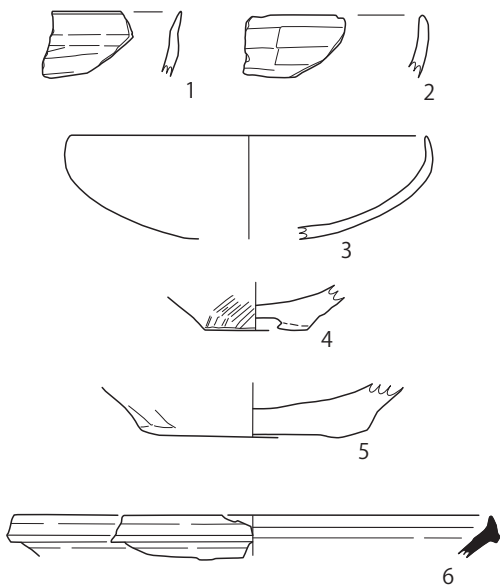


第123図 SI9(4)・SI10(1)出土遺物

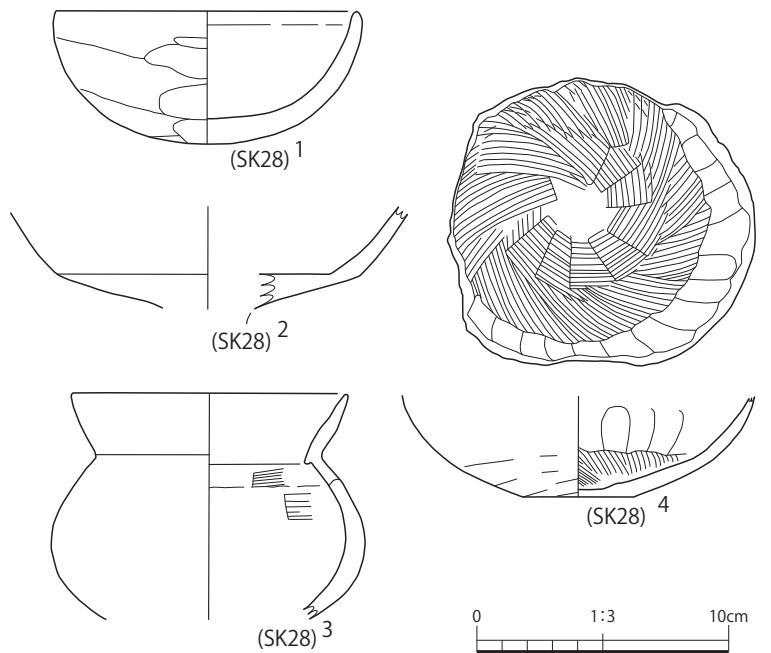
SI10



SI11

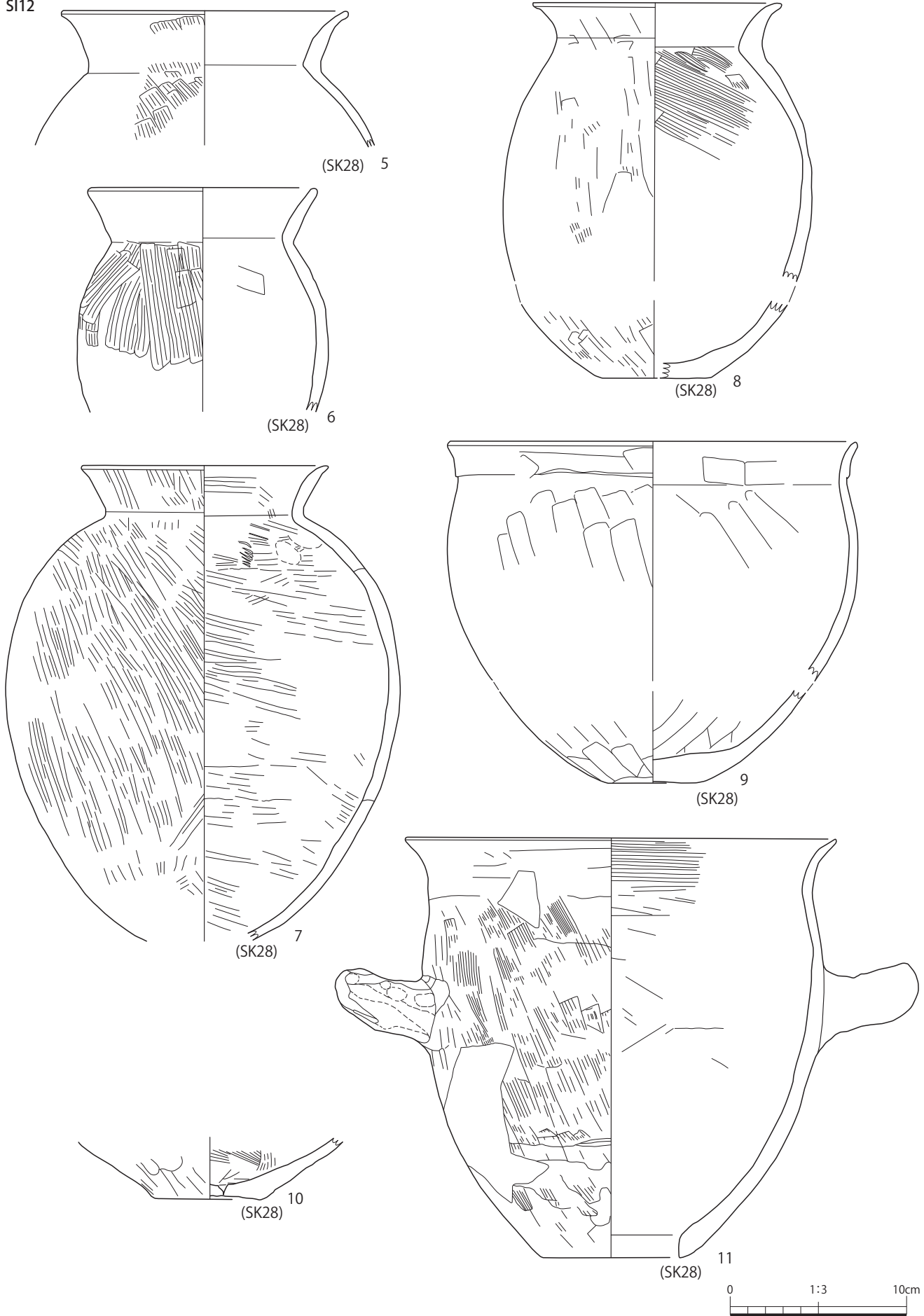


SI12



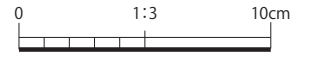
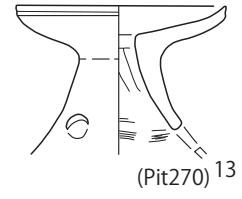
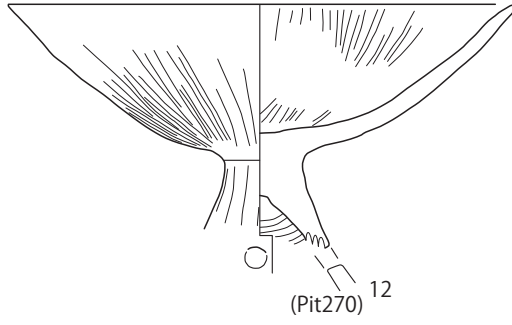
第124図 SI10(2)・SI11・SI12(1) 出土遺物

S112

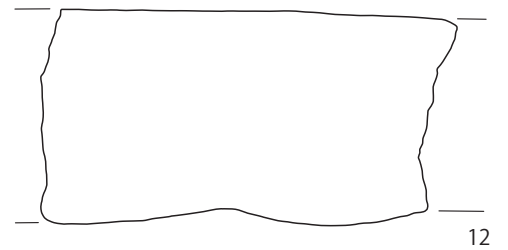
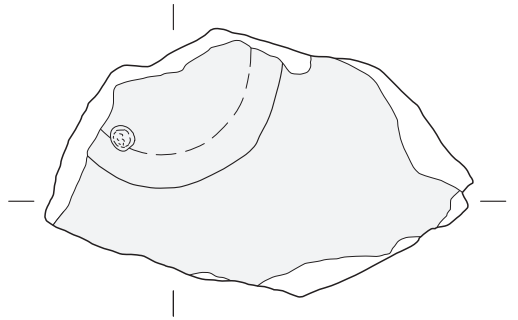
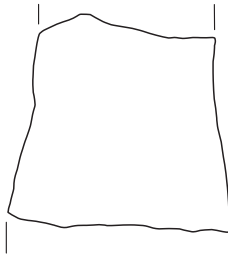
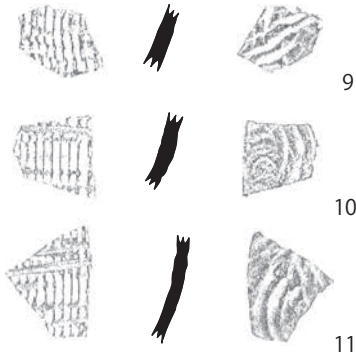
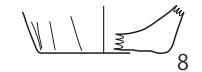
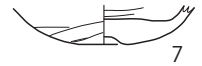
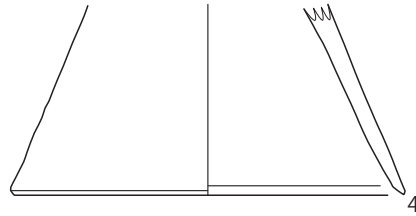
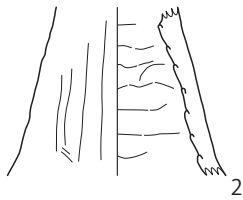
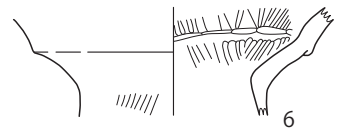
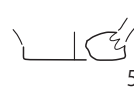
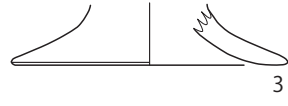
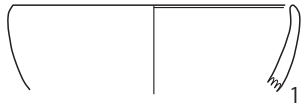


第 125 図 S I 12 ( 2 ) 出土遺物

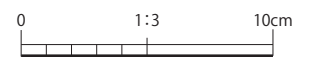
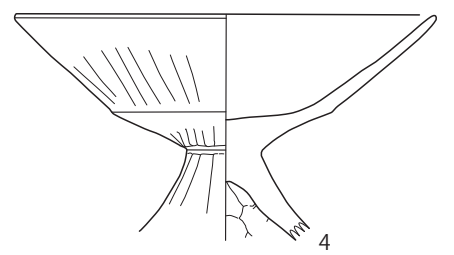
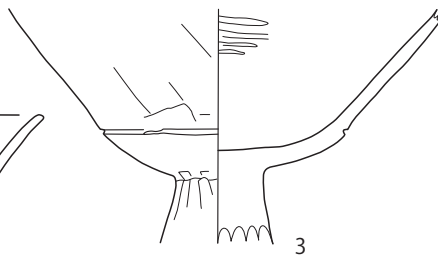
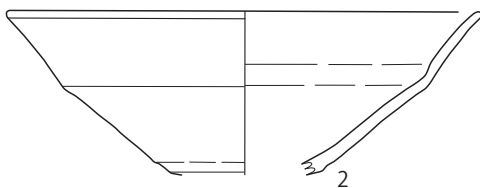
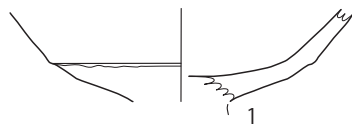
S112



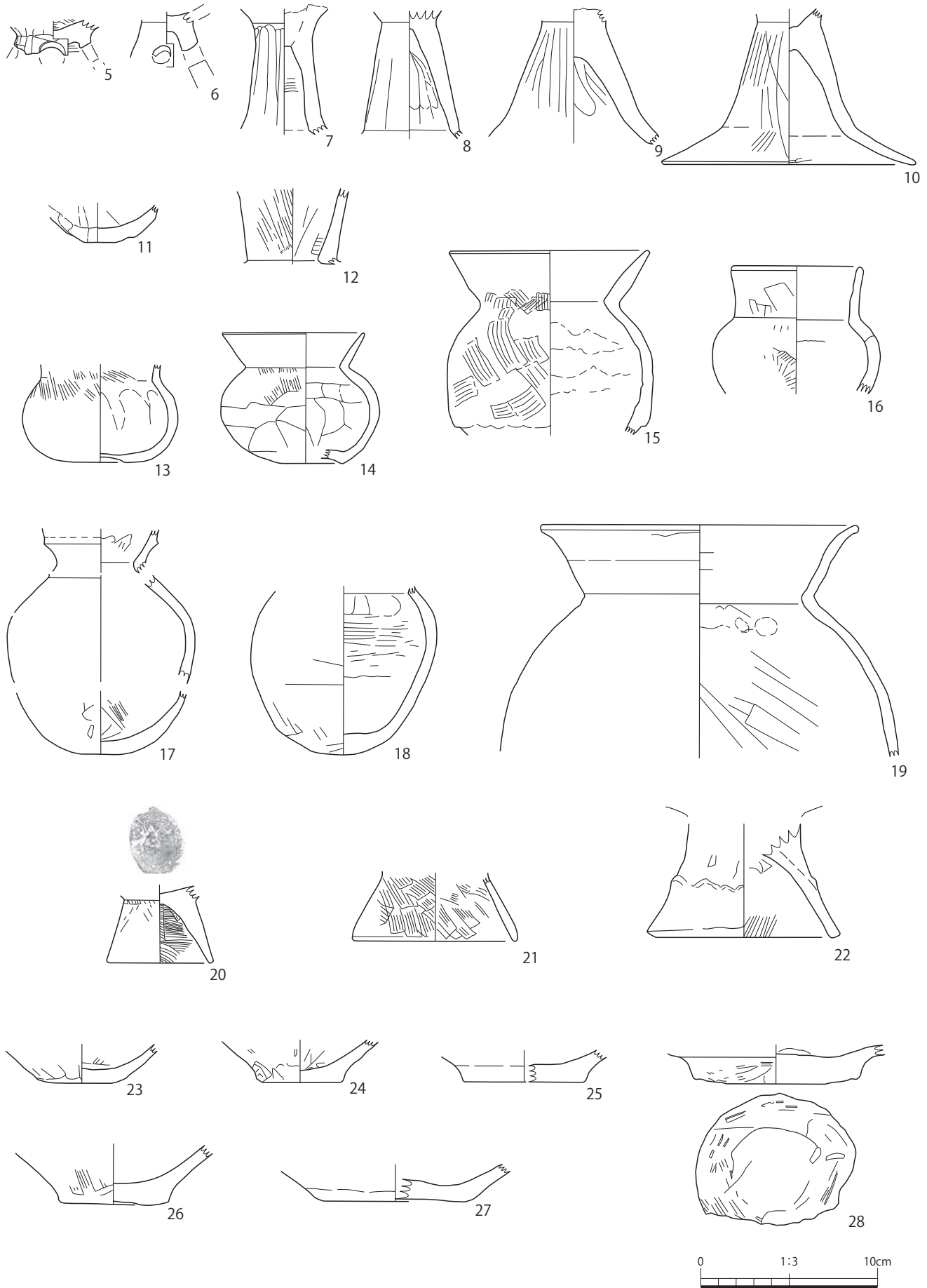
S113



S114

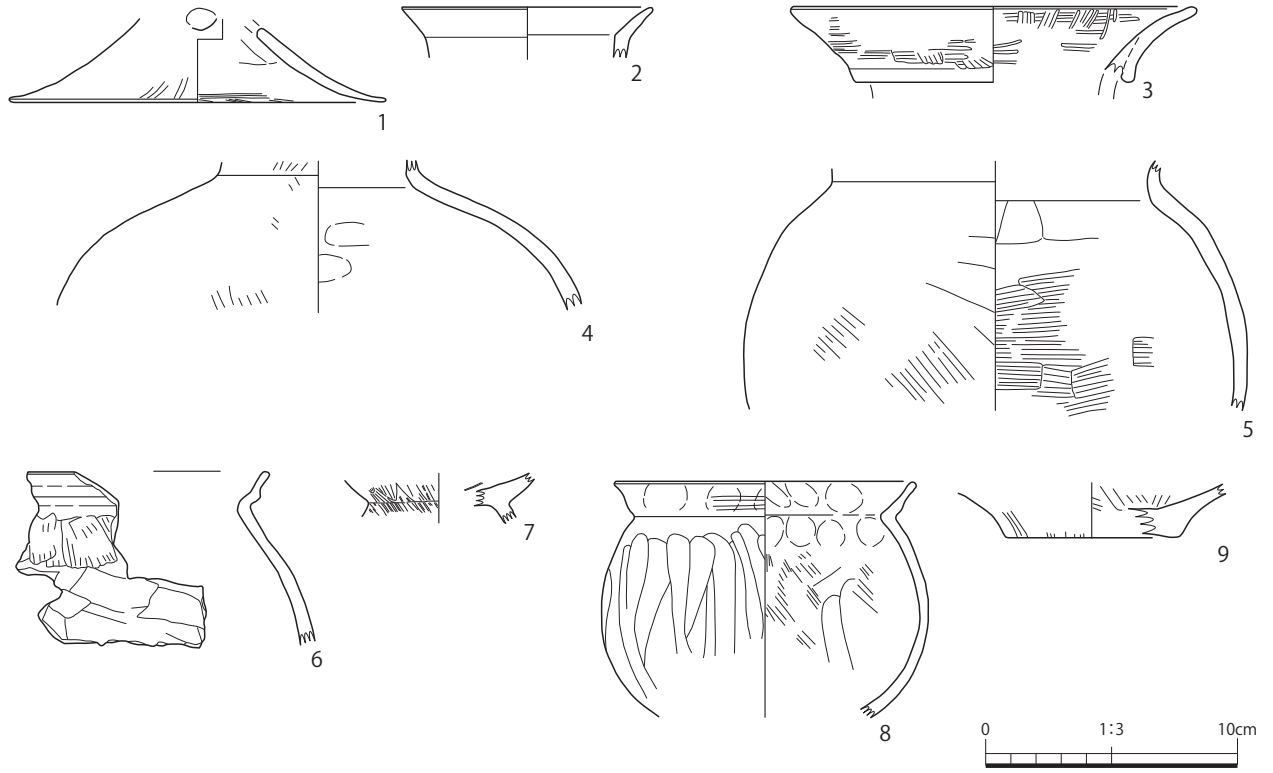


第126図 S112(3)・S113・S114(1) 出土遺物

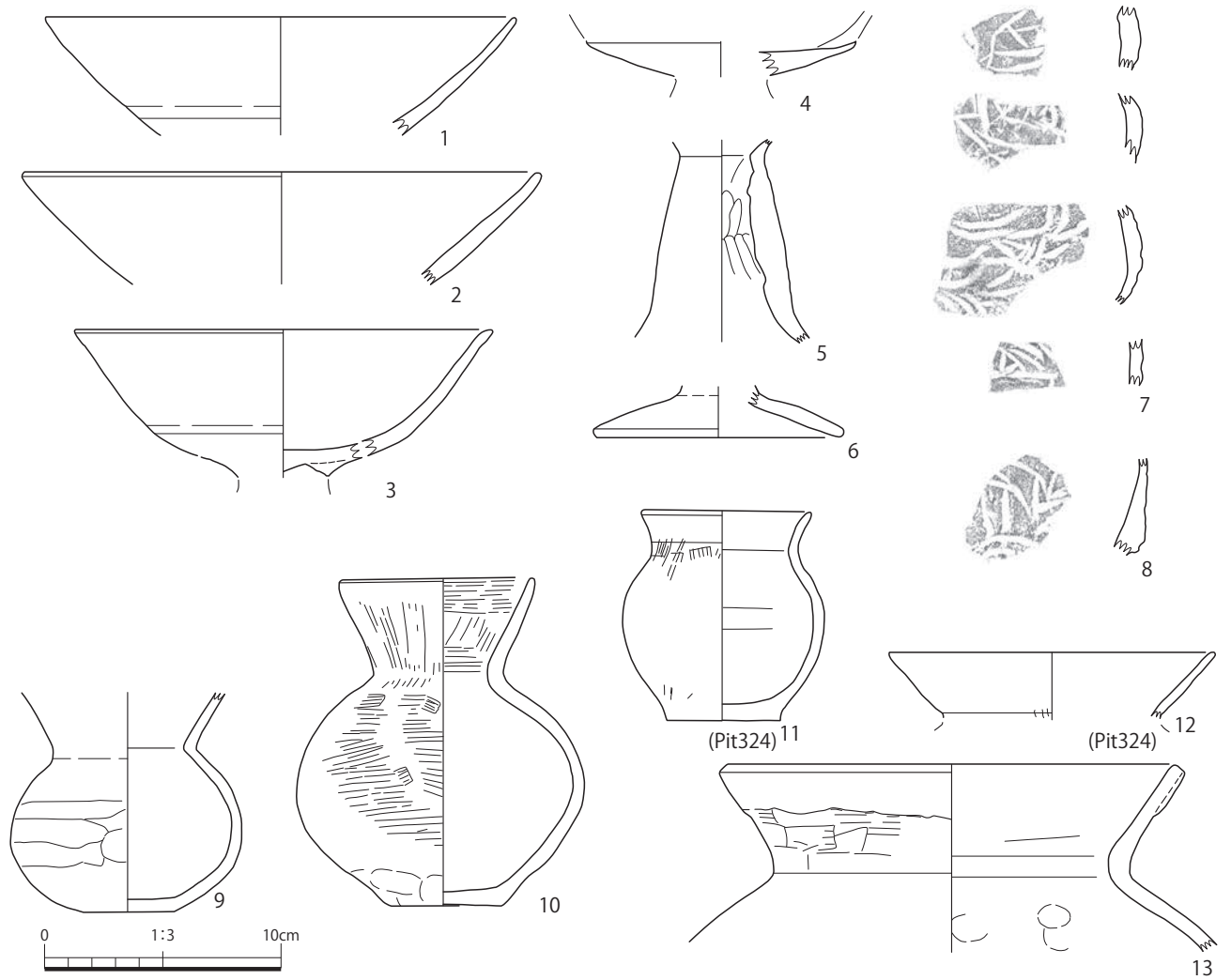


第 127 图 S I 14 (2) 出土遺物

SI15

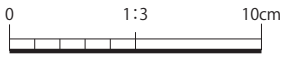
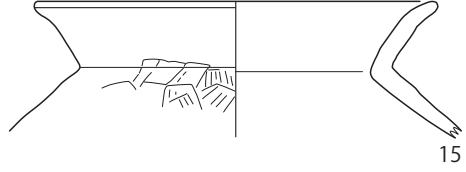
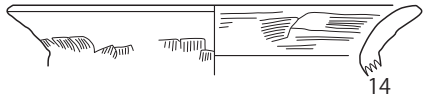


SI16

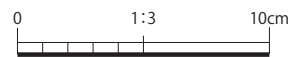
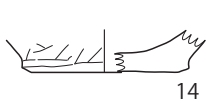
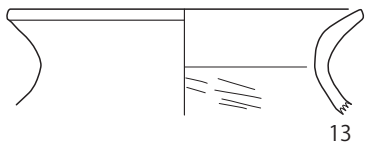
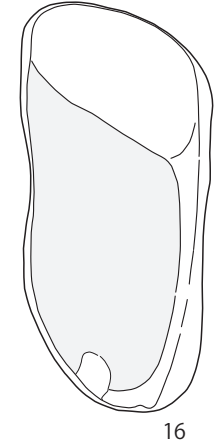
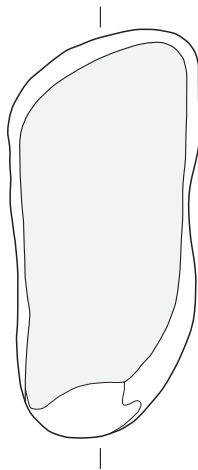
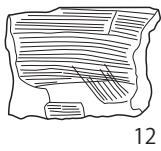
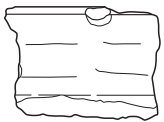
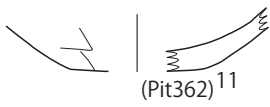
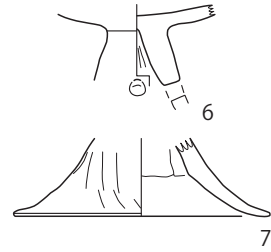
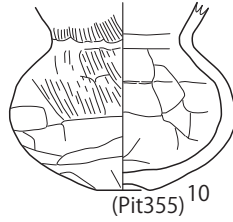
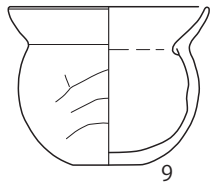
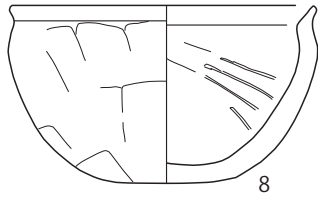
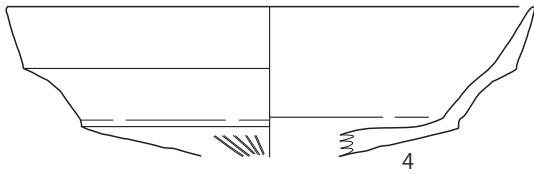
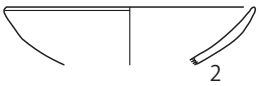
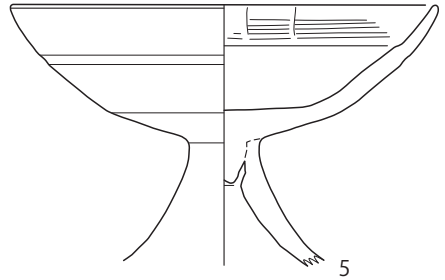
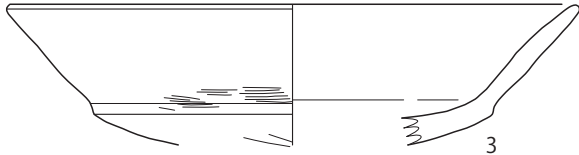
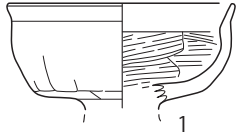


第 128 図 S I 15・S I 16 ( 1 ) 出土遺物

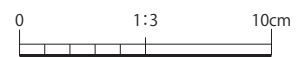
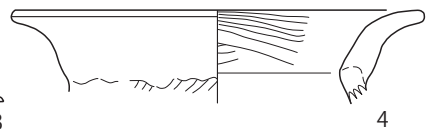
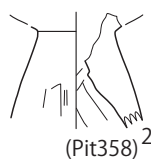
SI16



SI17



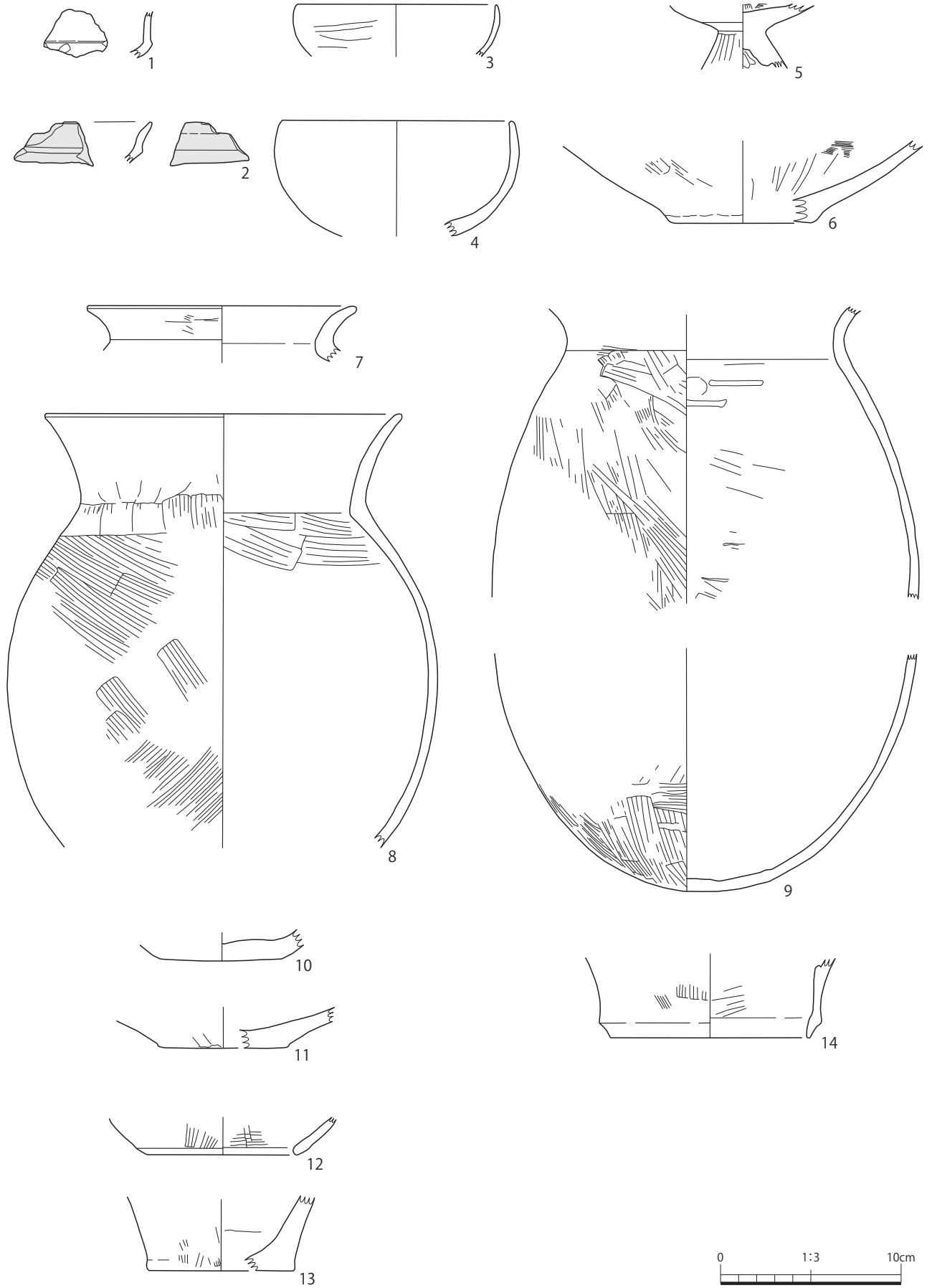
SI18



第 129 図 S I 16 ( 2 ) ・ S I 17 ・ S I 18 出土遺物

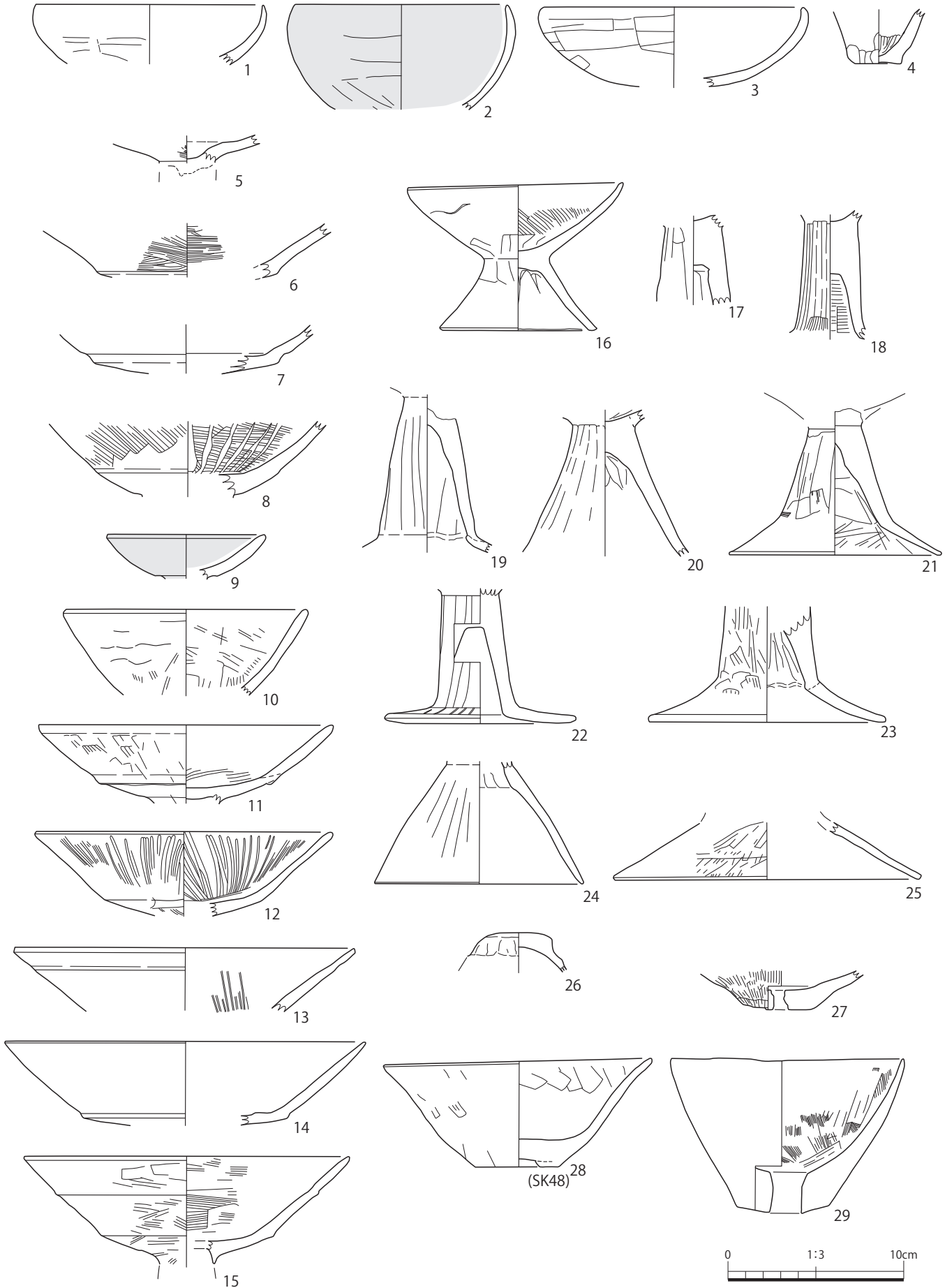


S119



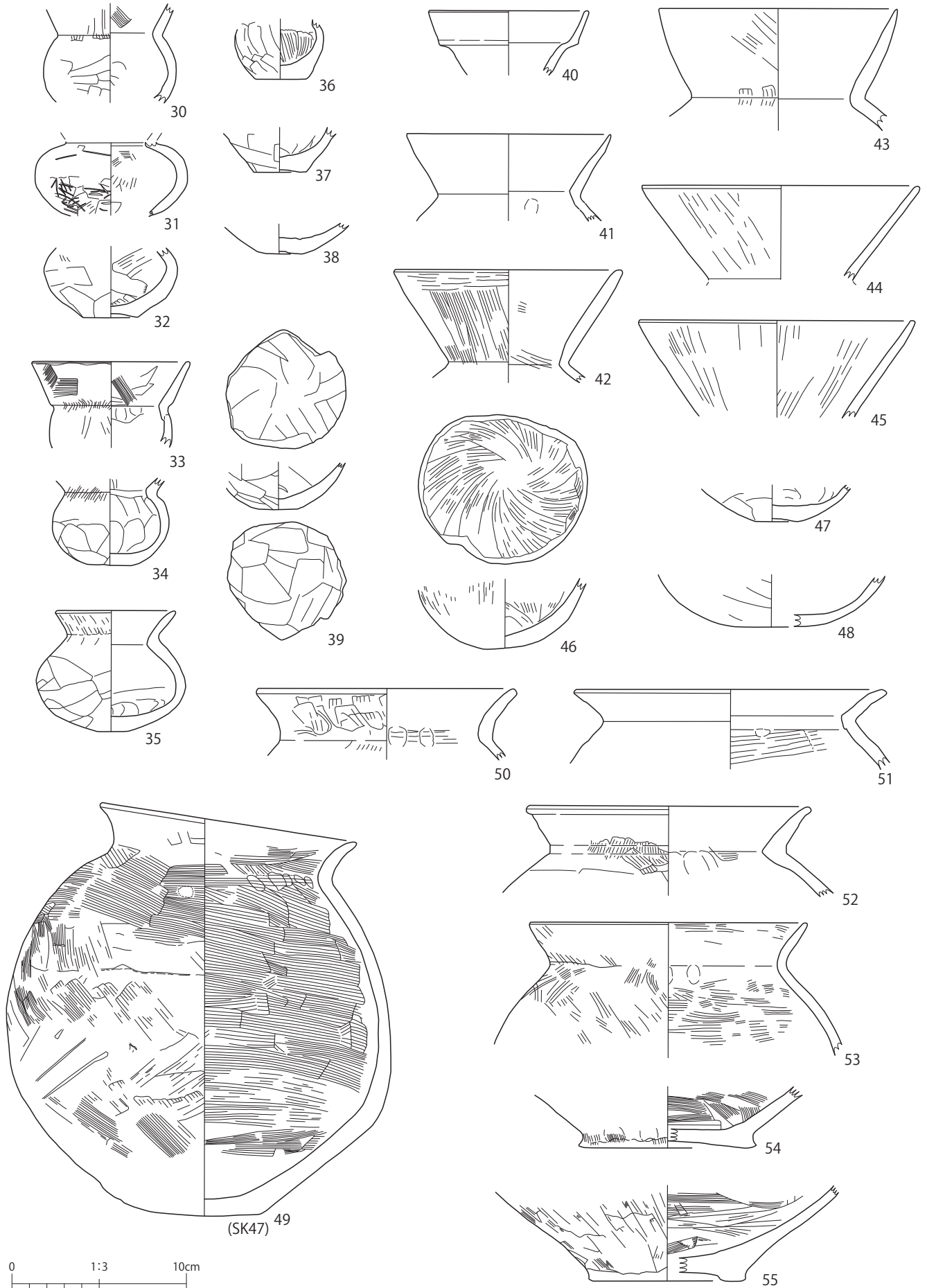
第 130 图 S I 19 出土遺物

S120



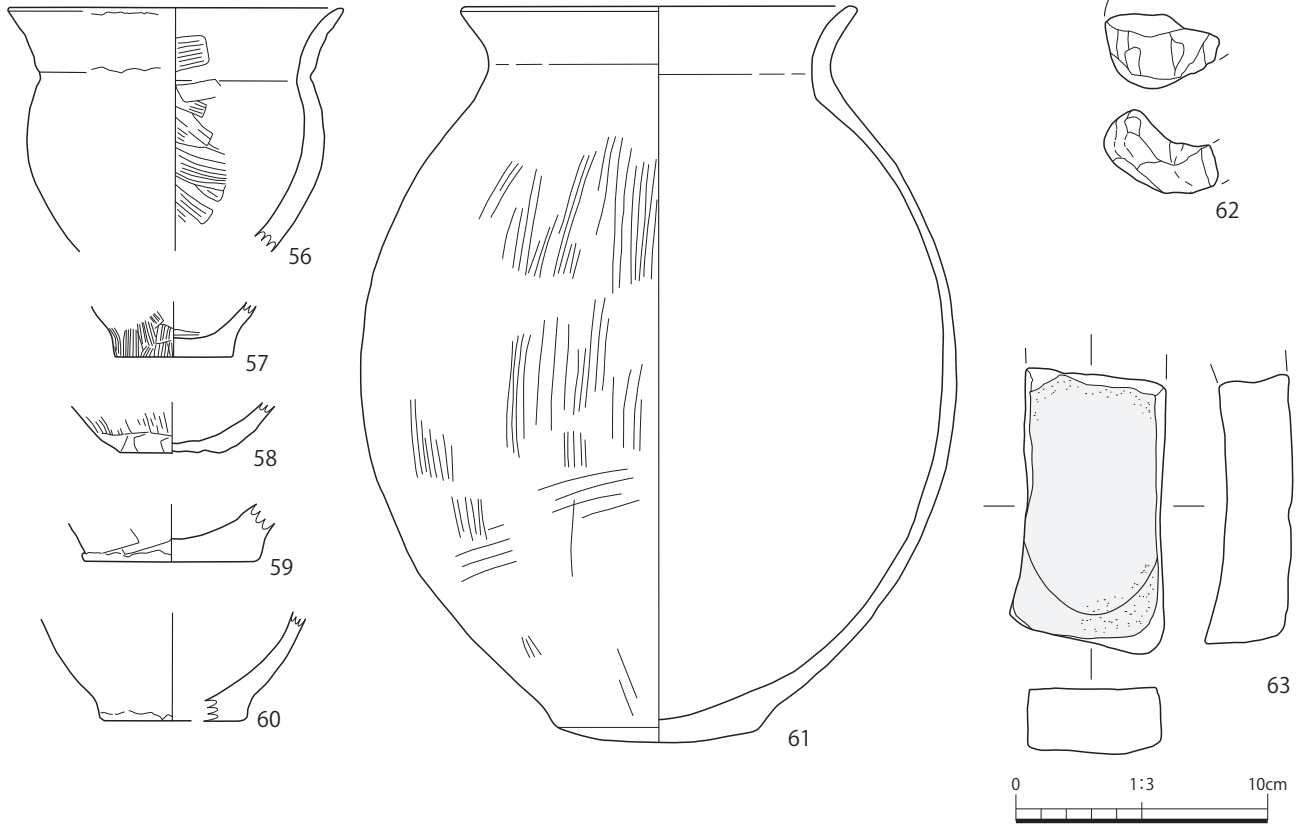
第131図 S120(1)出土遺物

S120

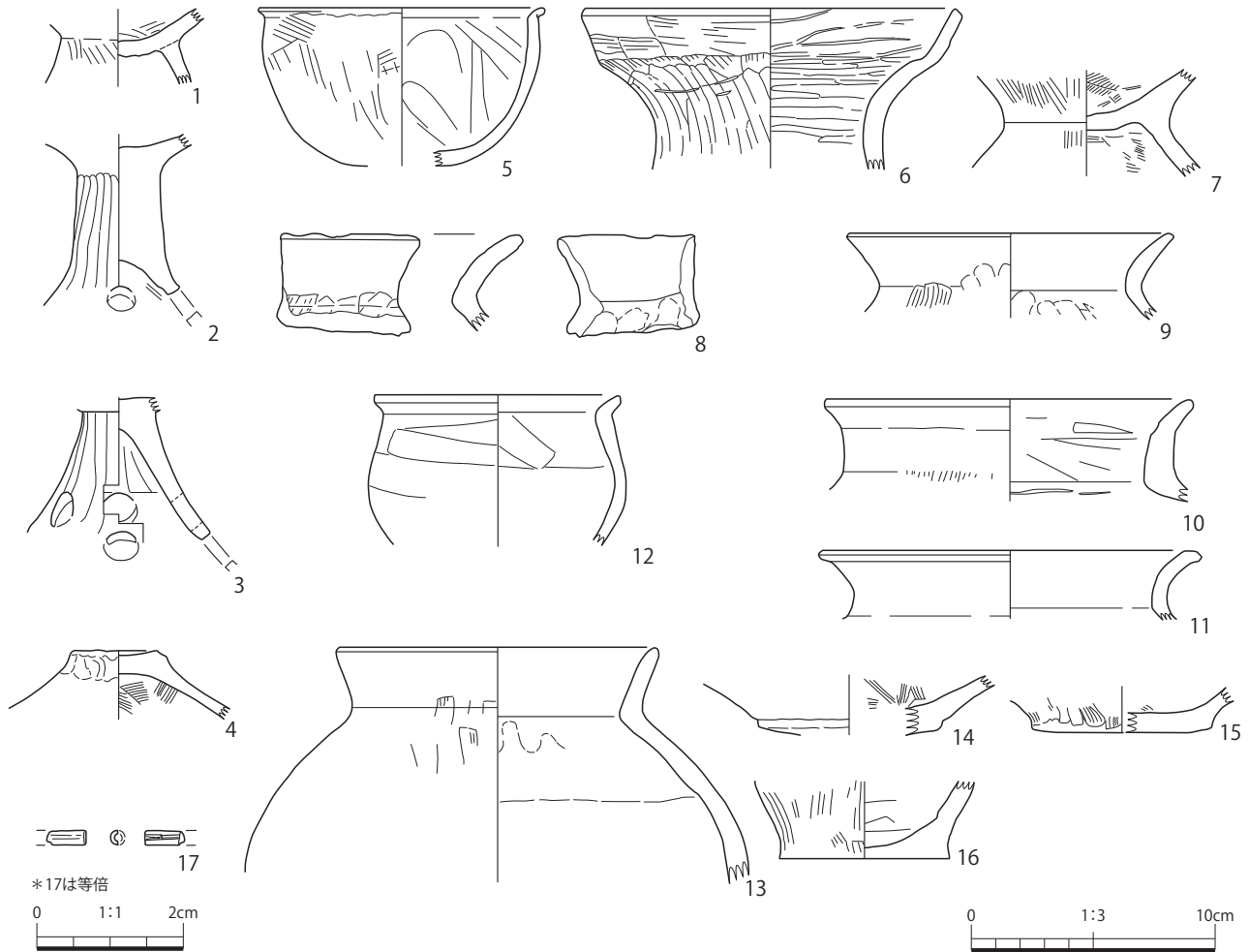


第 132 图 S I 20 (2) 出土遺物

SI20

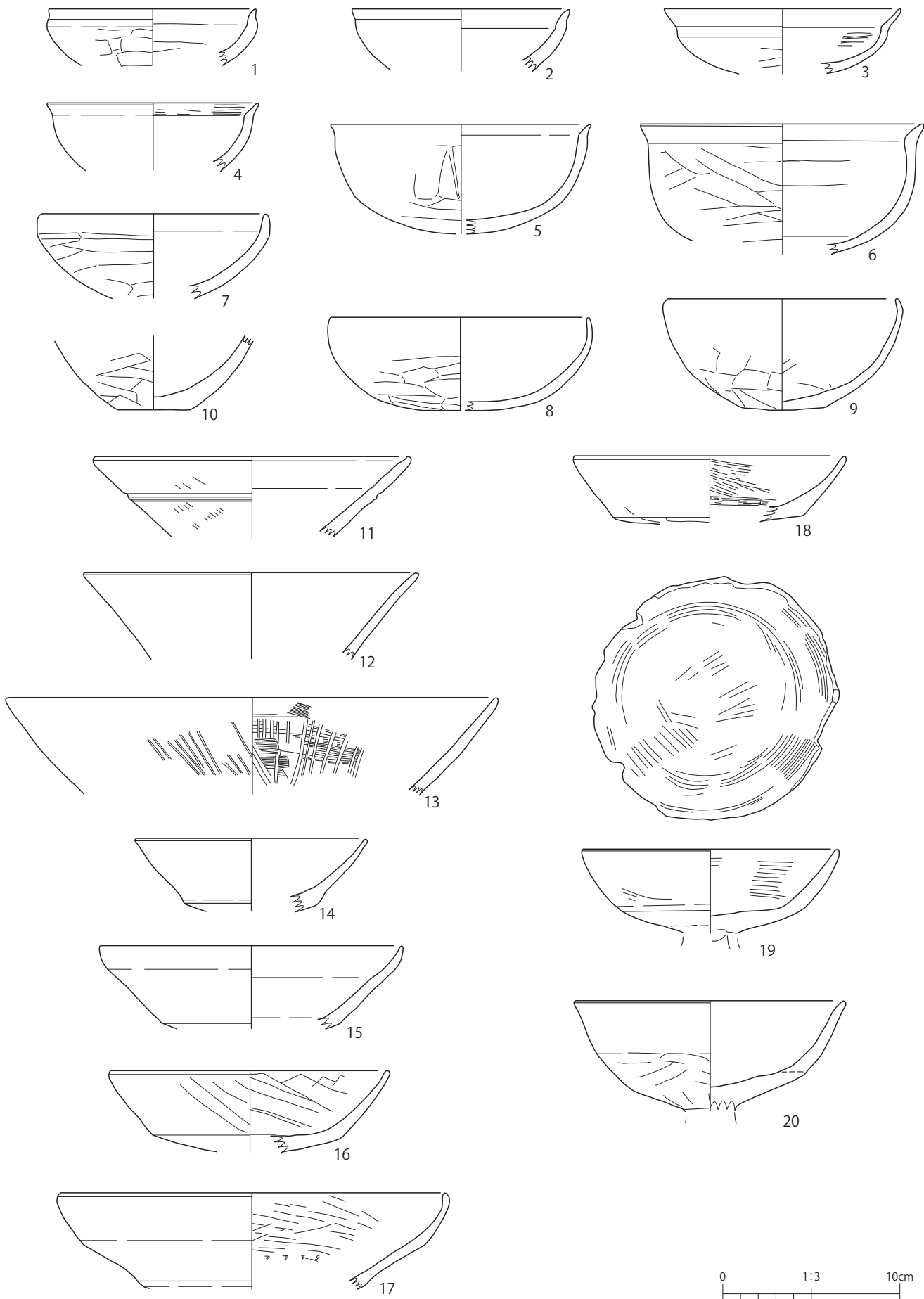


SI21

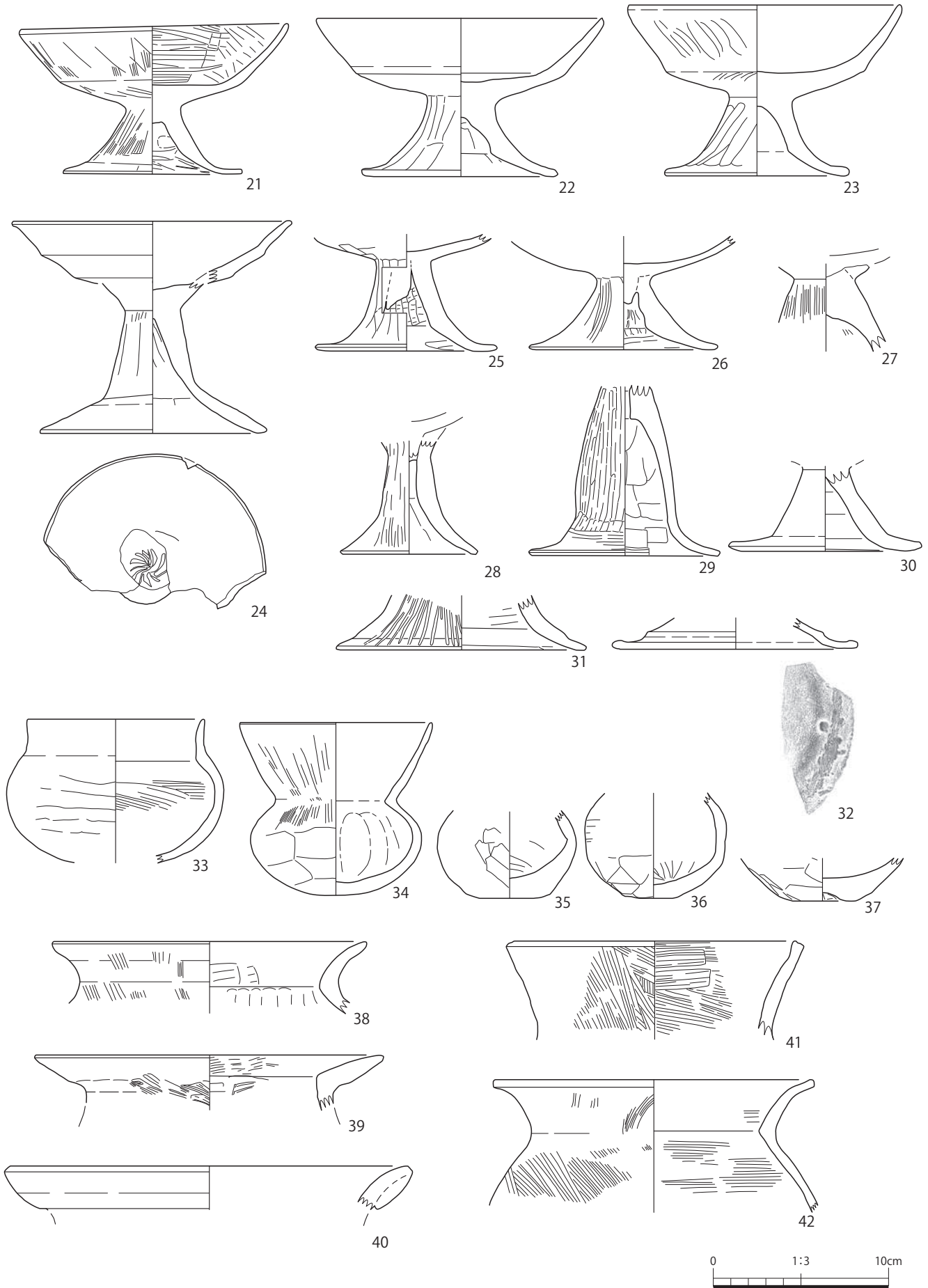


第 133 図 S I 20 ( 3 ) ・ S I 21 出土遺物

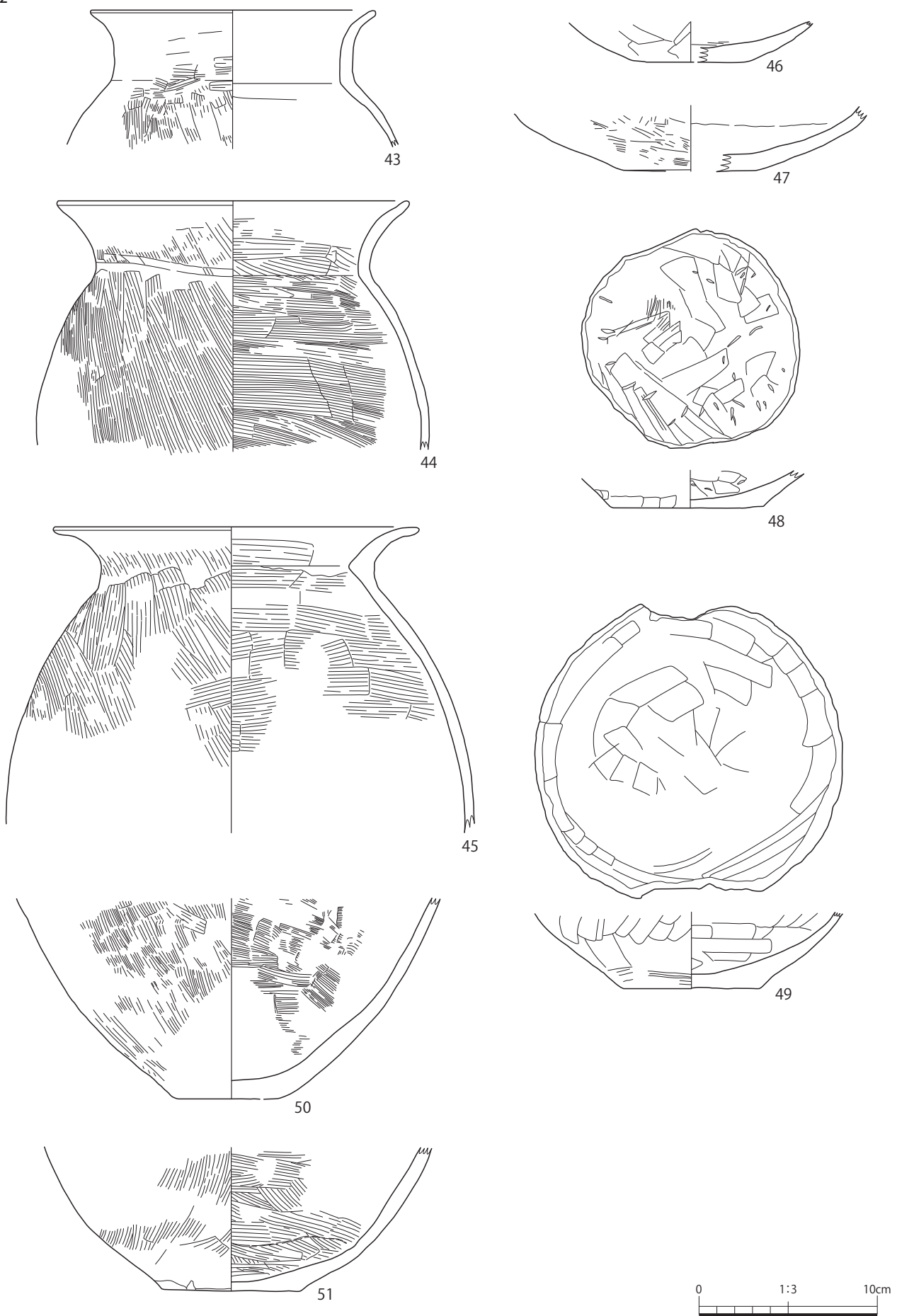
S122



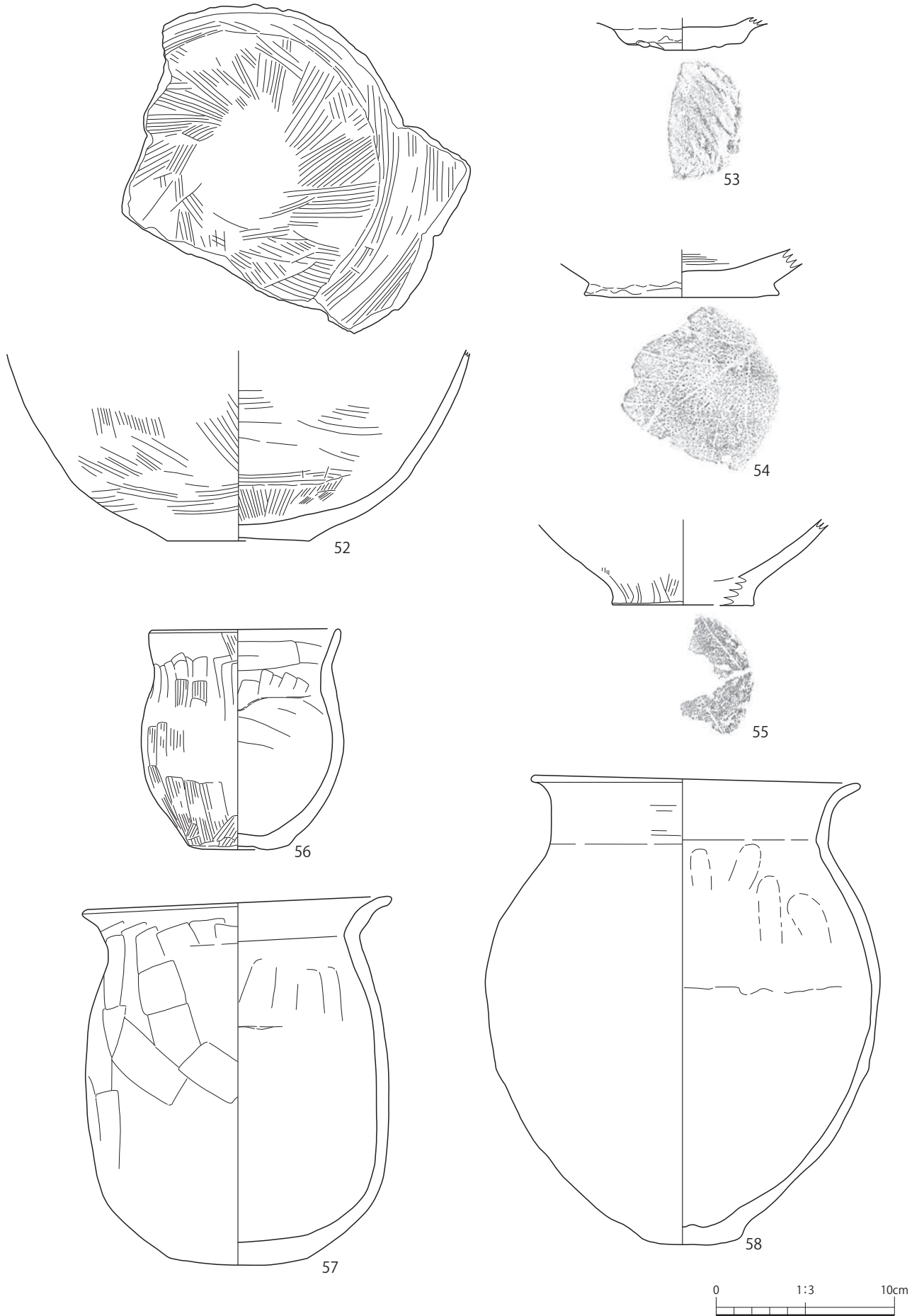
第 134 図 S I 22 ( 1 ) 出土遺物



第 135 图 S I 22 (2) 出土遺物



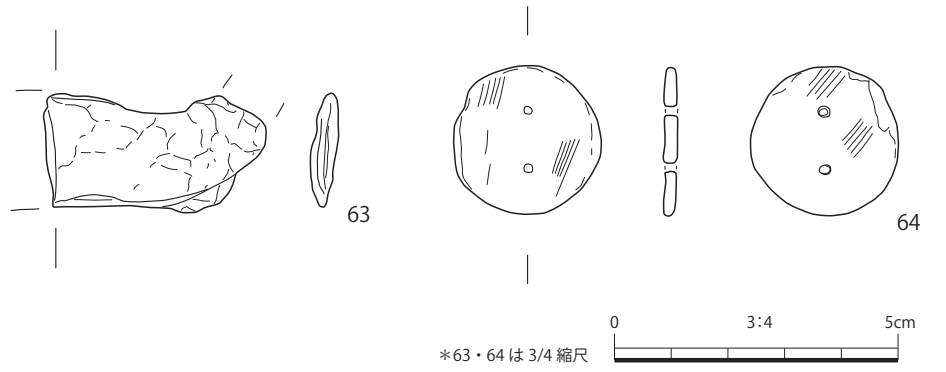
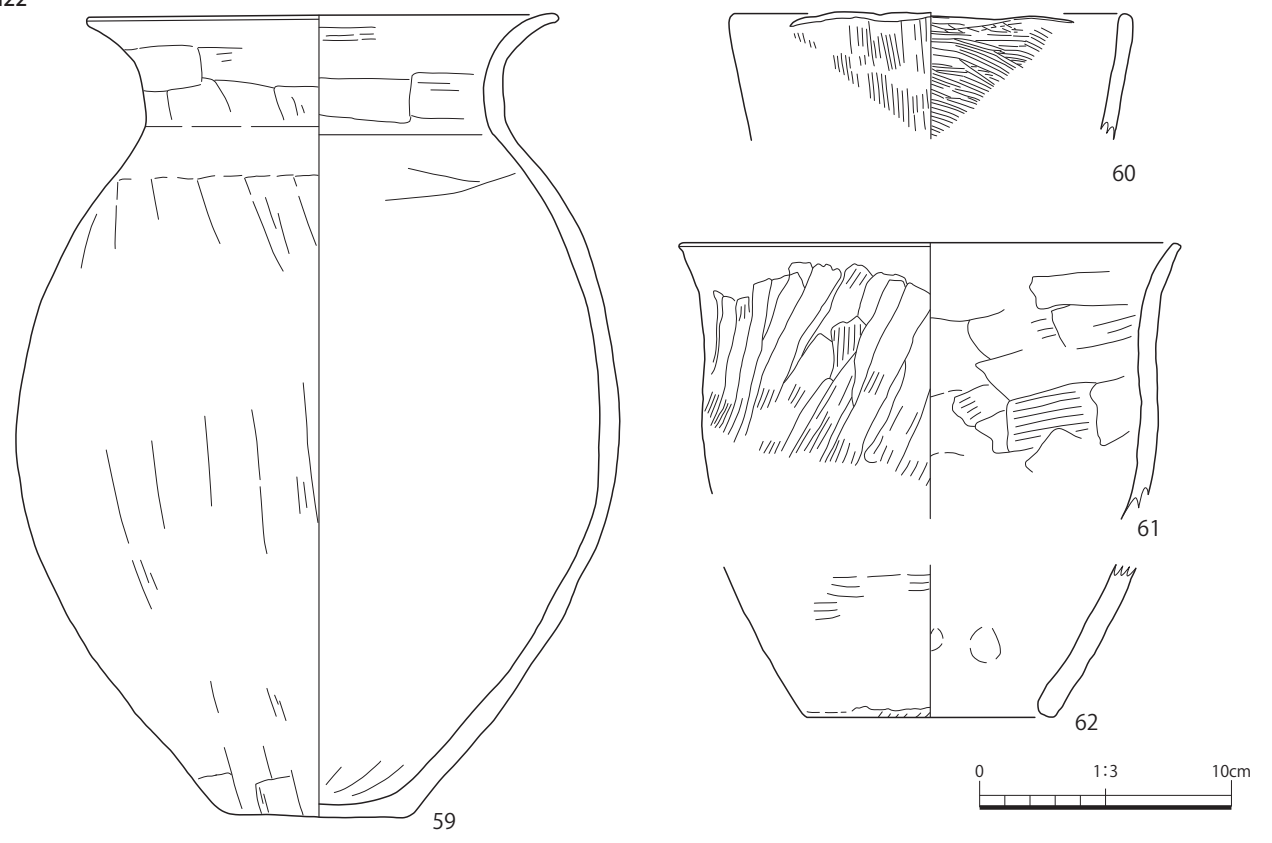
第 136 图 S I 22 (3) 出土遺物



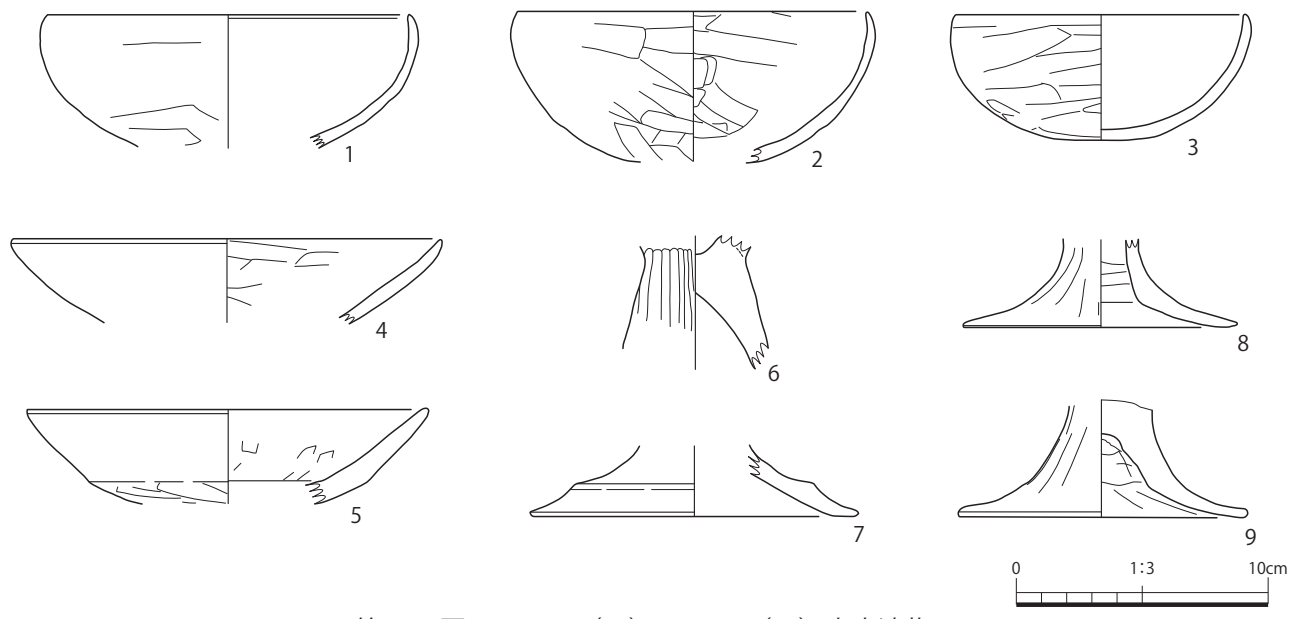
第 137 図 S I 22 ( 4 ) 出土遺物



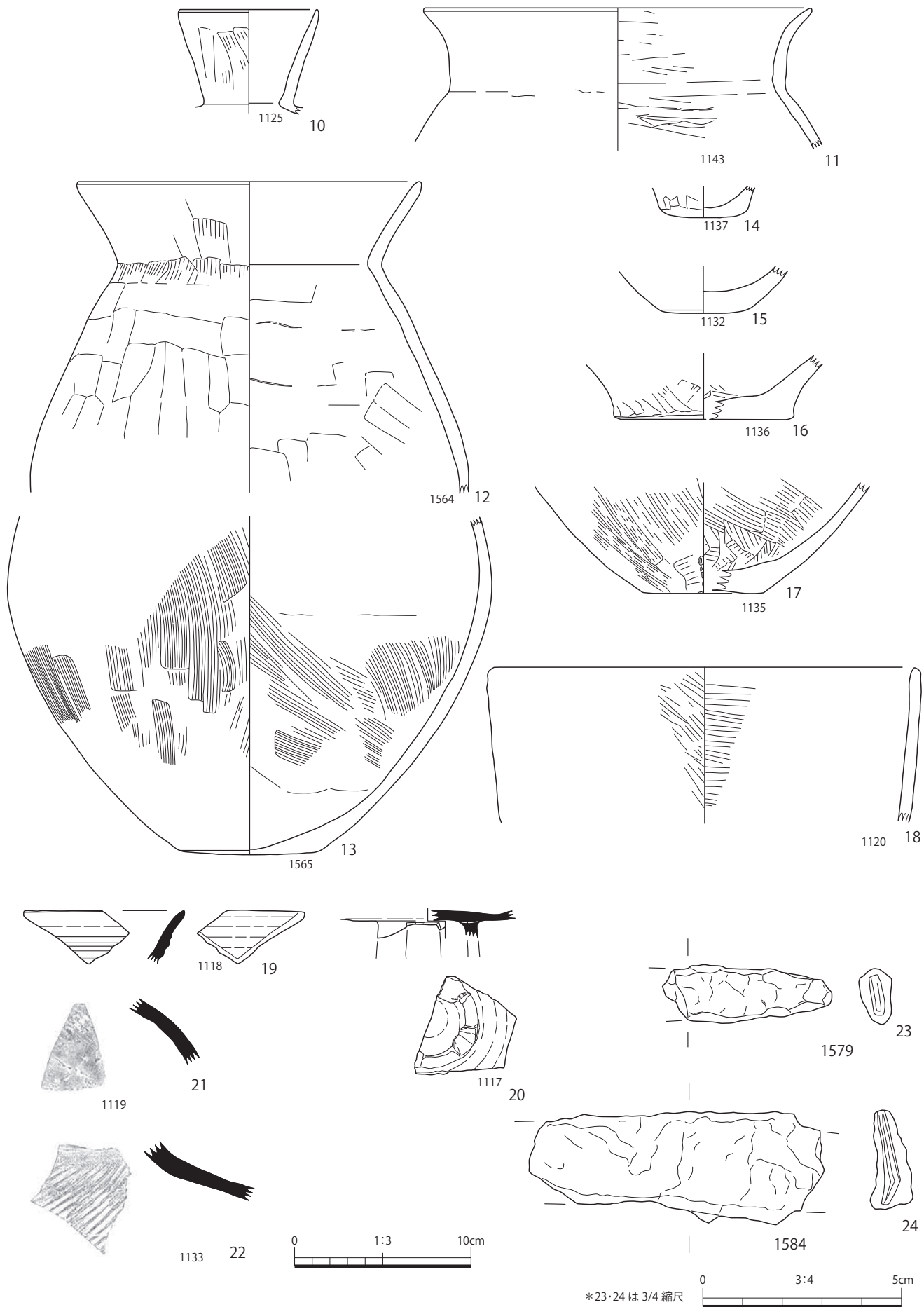
SI22



SI23

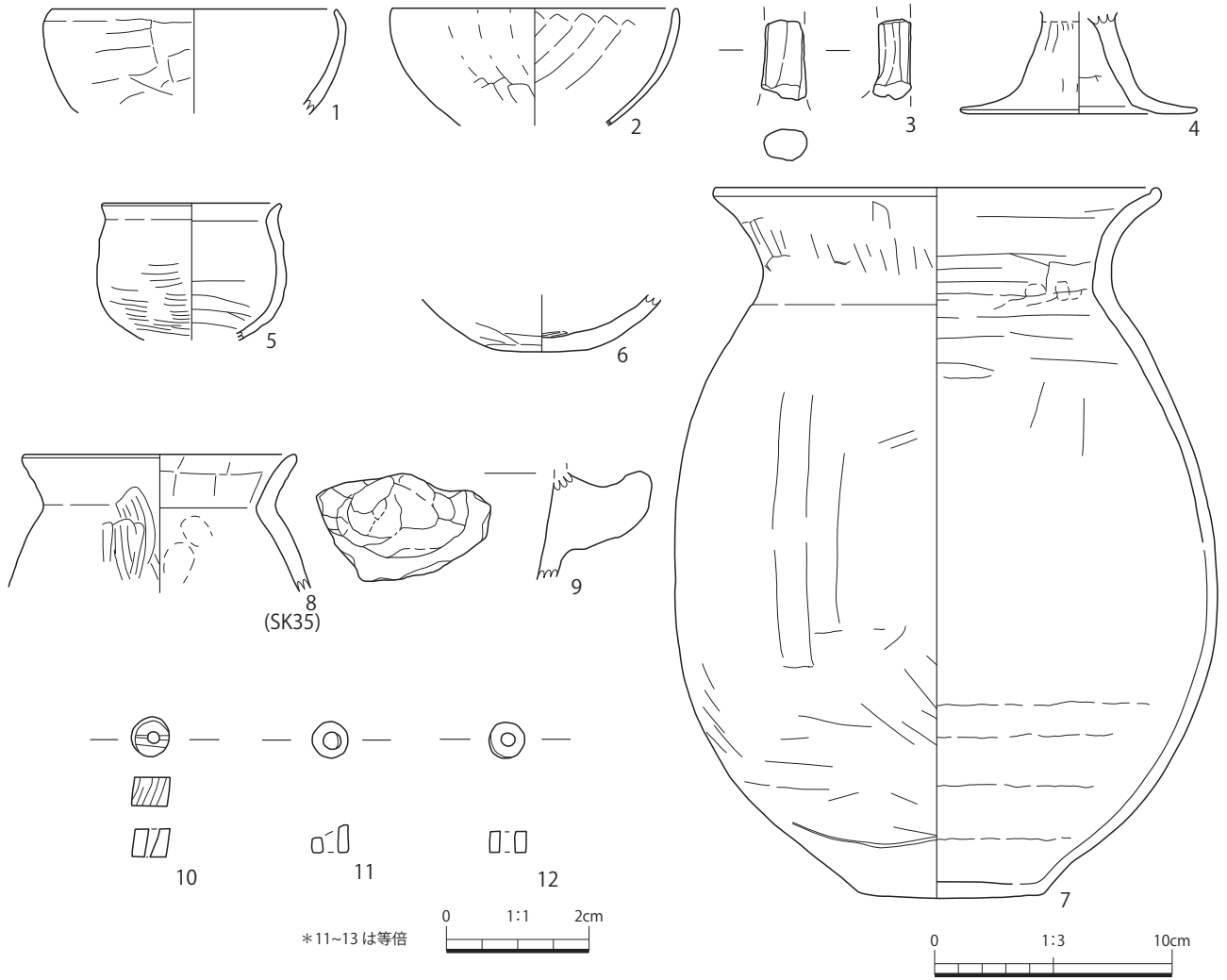


第138図 SI22(5)・SI23(1)出土遺物

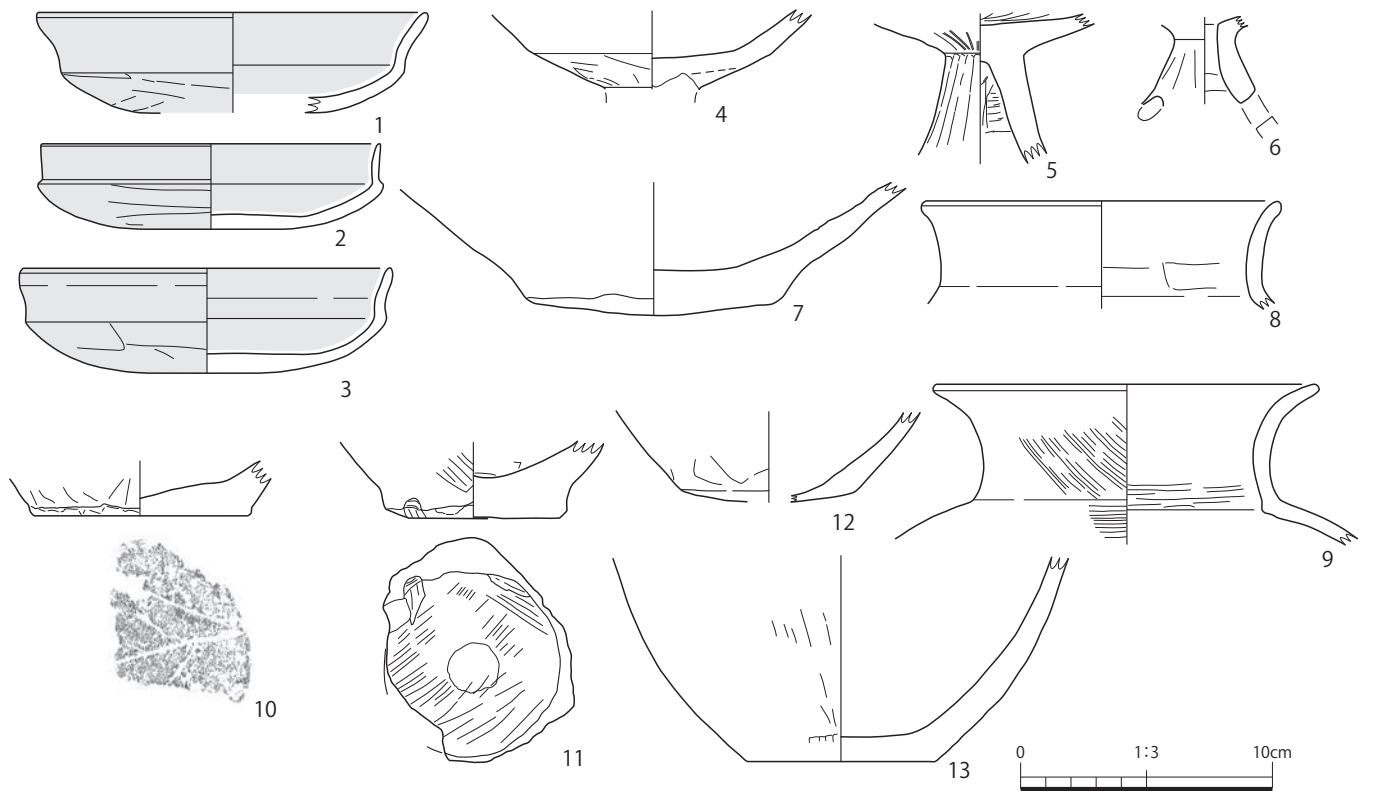


第 139 図 S I 23 (2) 出土遺物

SI24

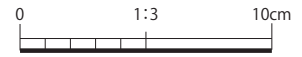
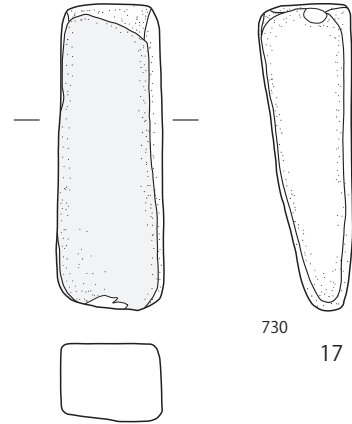
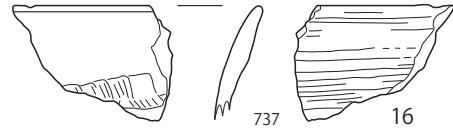
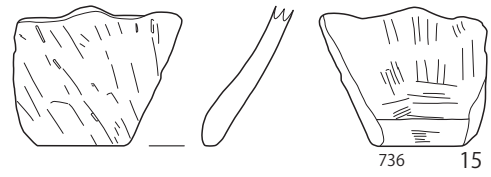


SI25

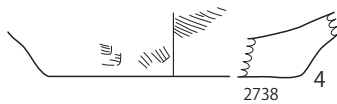
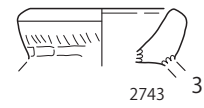
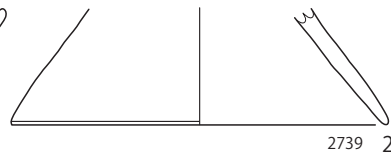
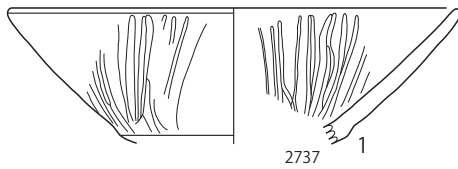


第 140 図 S I 24・S I 25 (1) 出土遺物

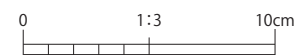
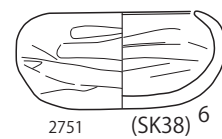
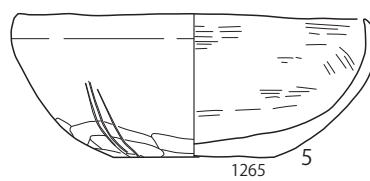
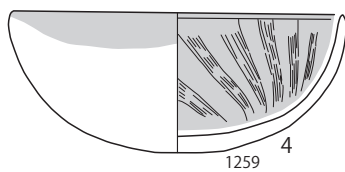
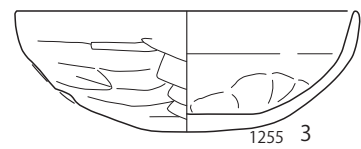
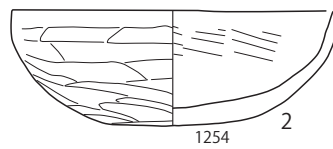
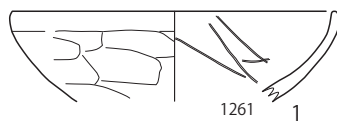
SI25



SI26

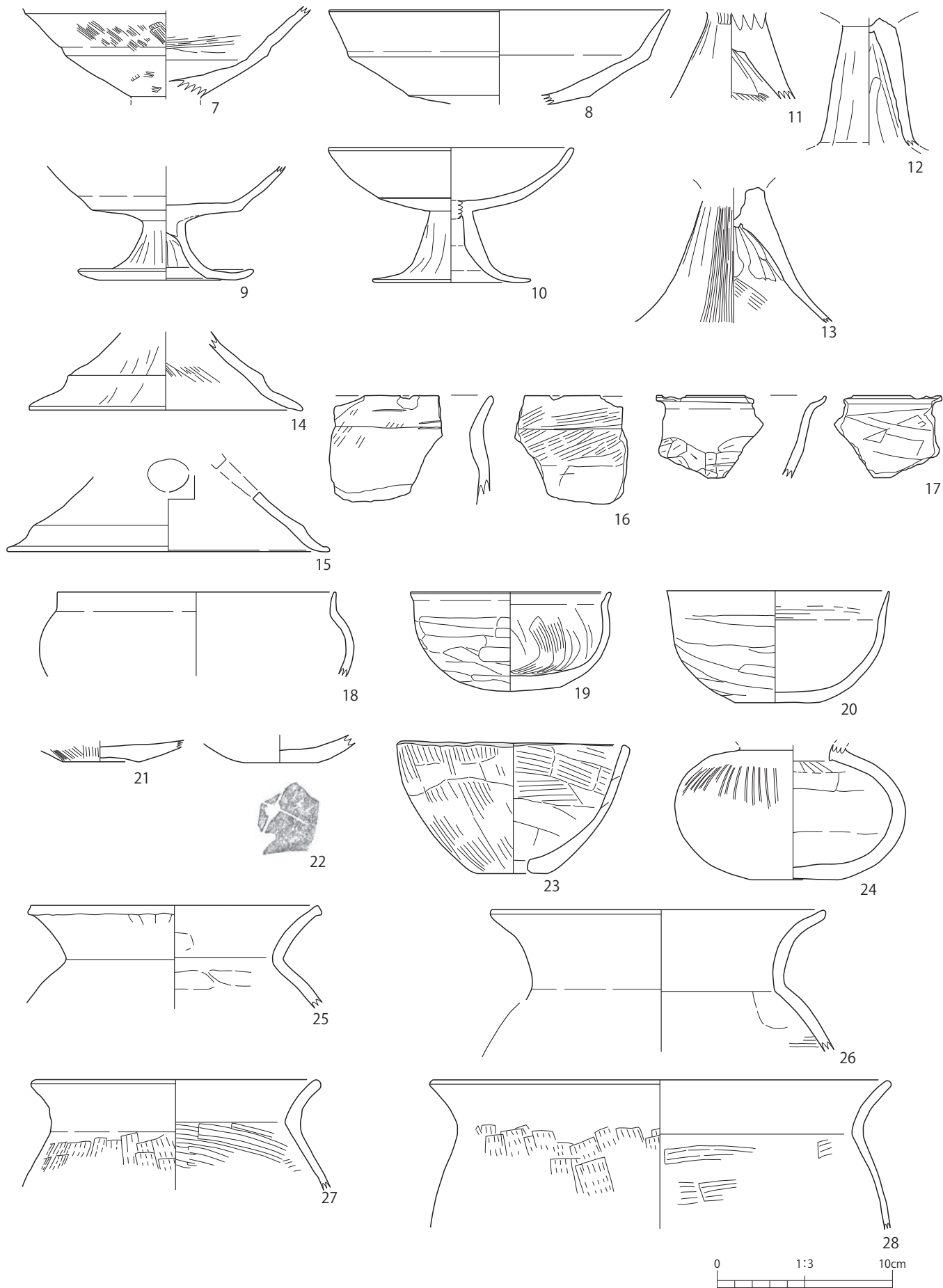


SI27



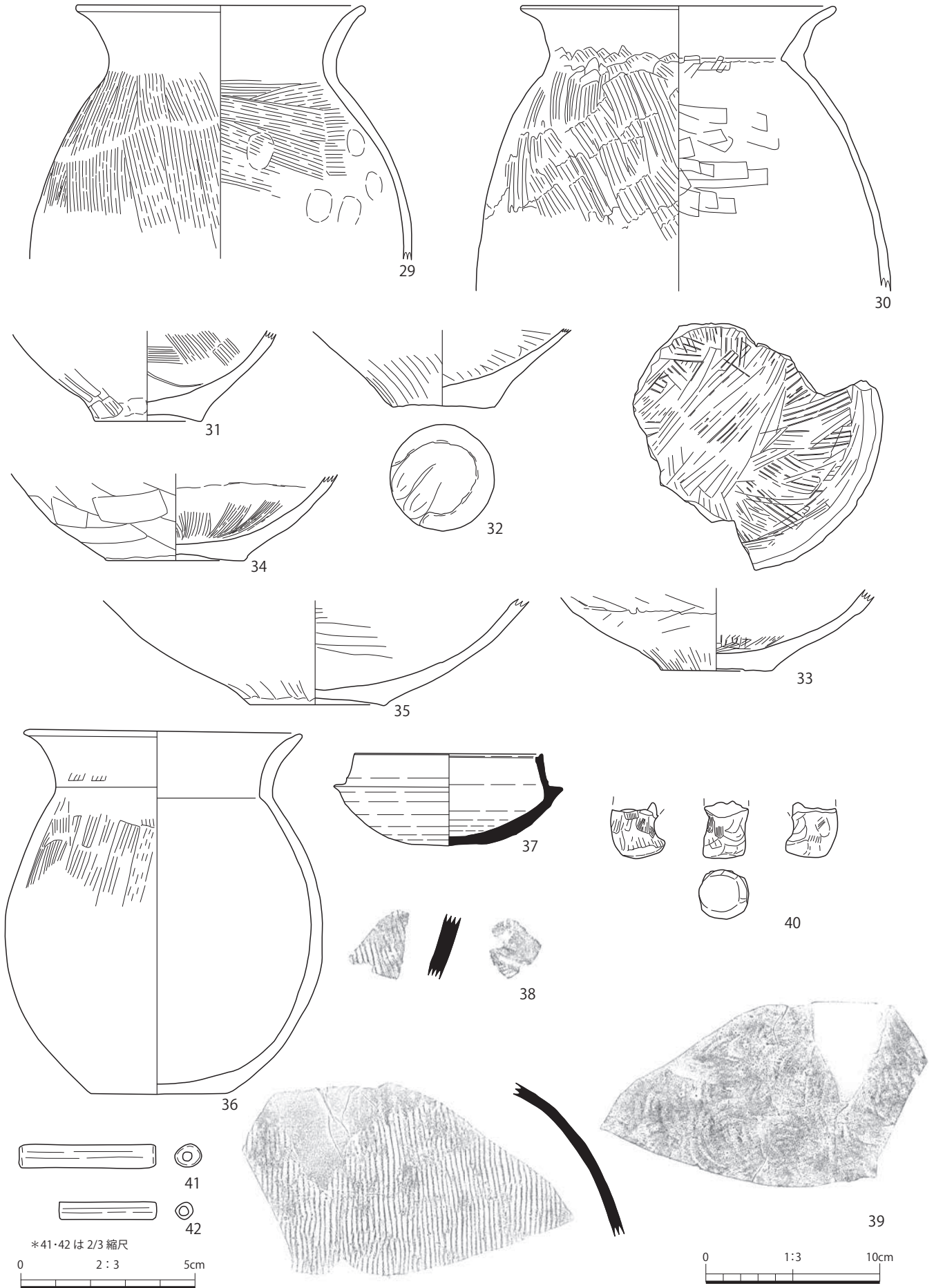
第 141 図 S I 25 ( 2 ) ・ S I 26 ・ S I 27 ( 1 ) 出土遺物

SI27



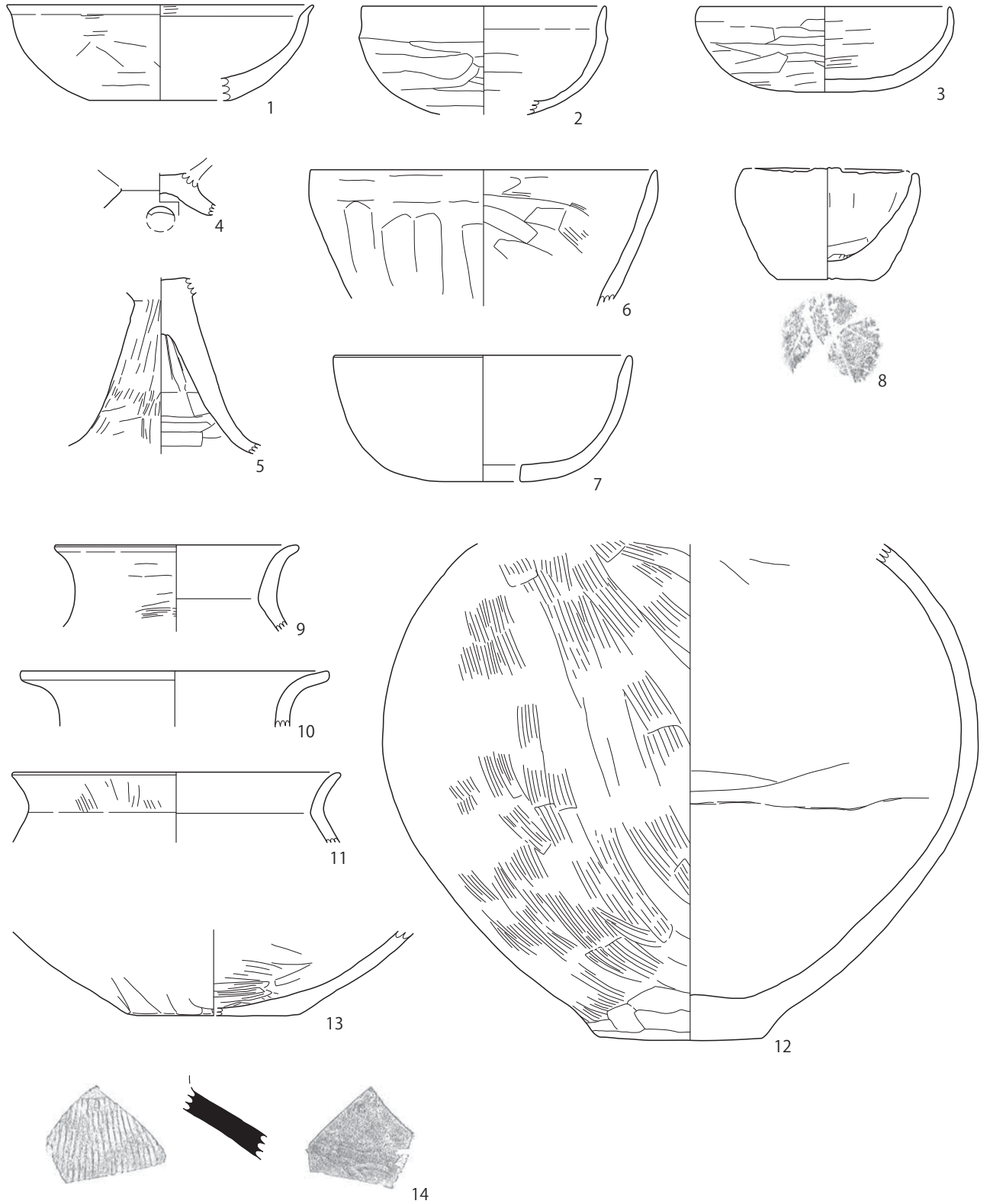
第142图 SI27(2) 出土遺物

SI27



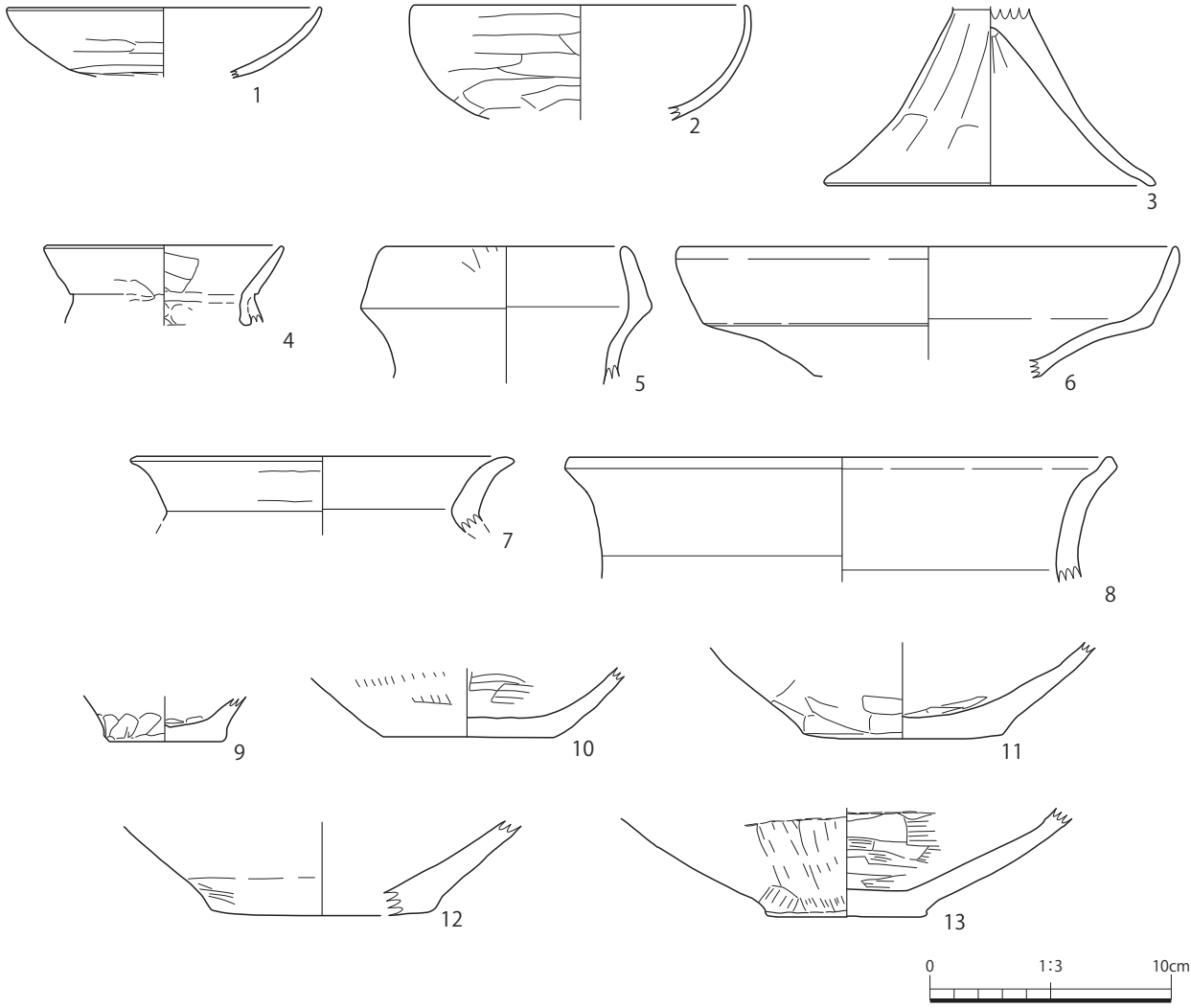
第 143 図 S I 27 ( 3 ) 出土遺物

SI28

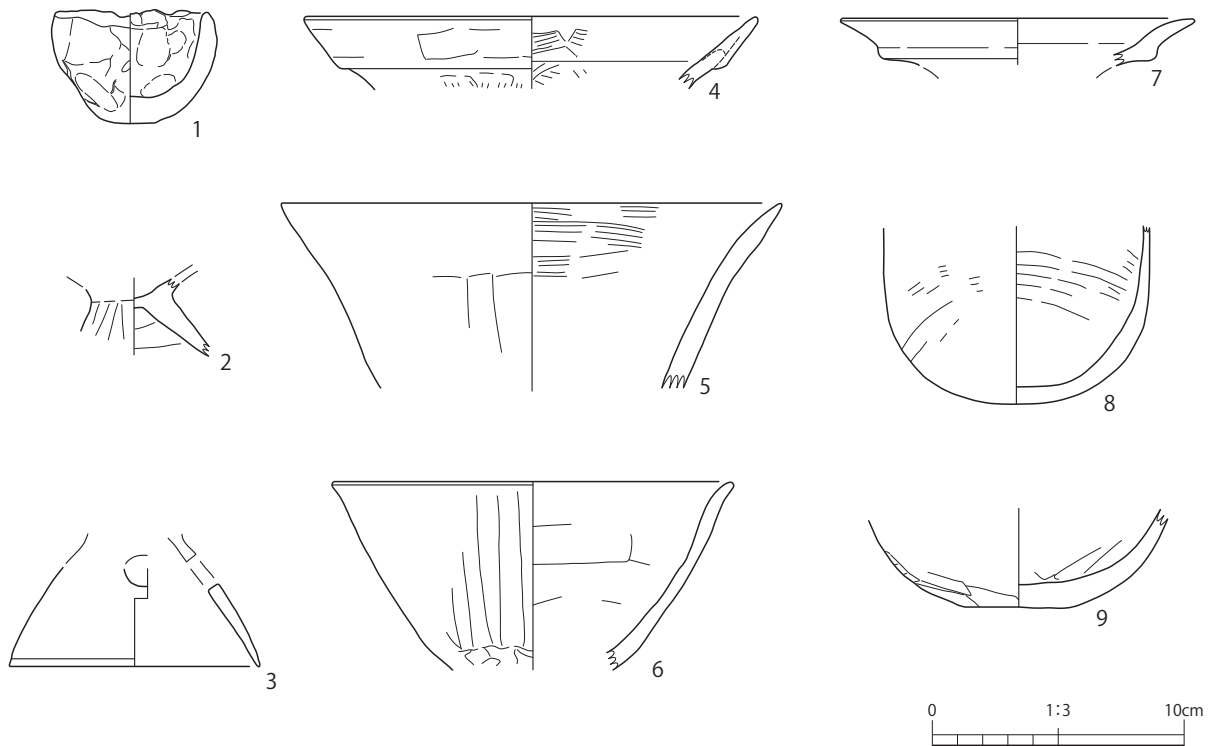


第 144 図 S I 28 出土遺物

SI29



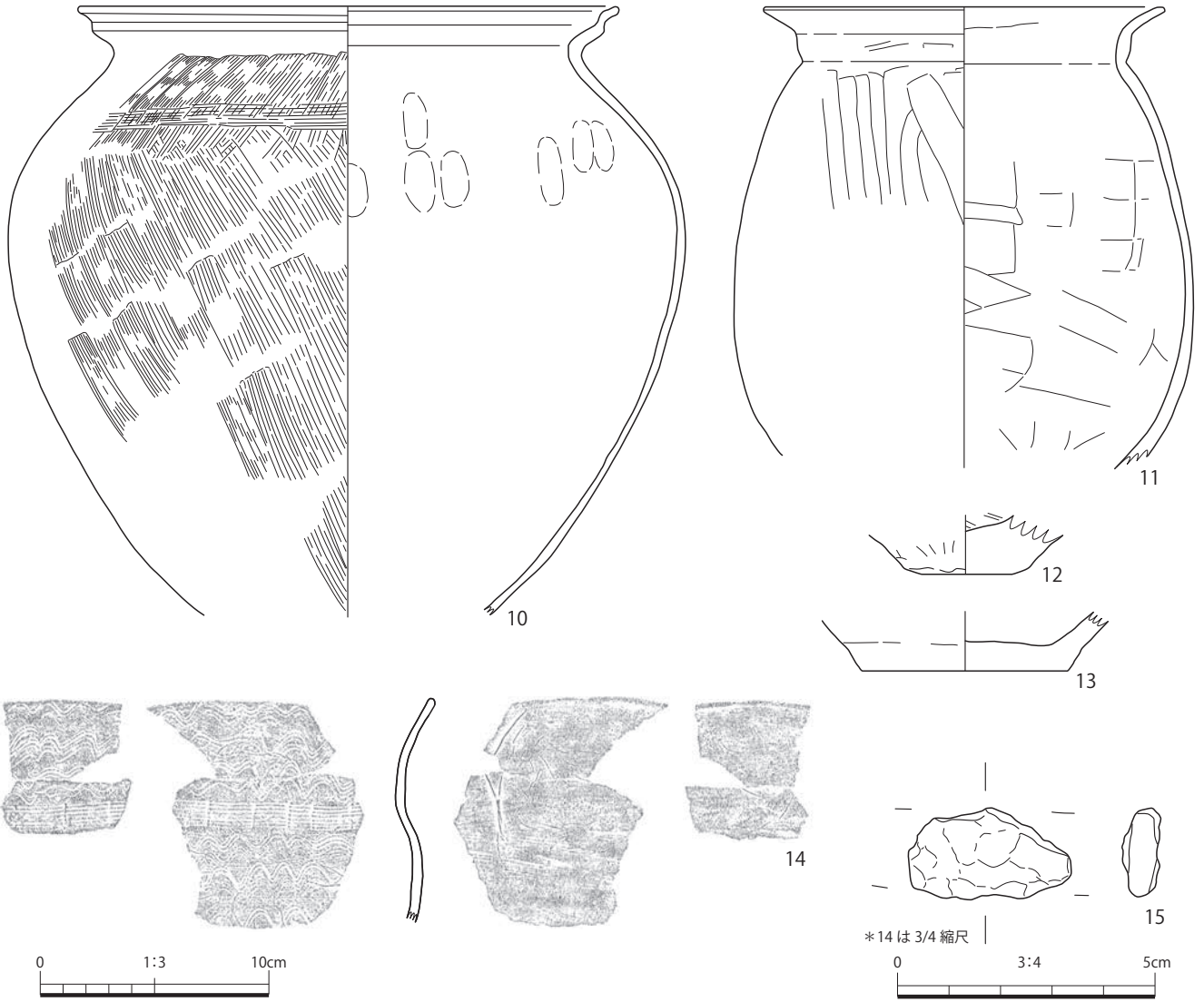
SI30



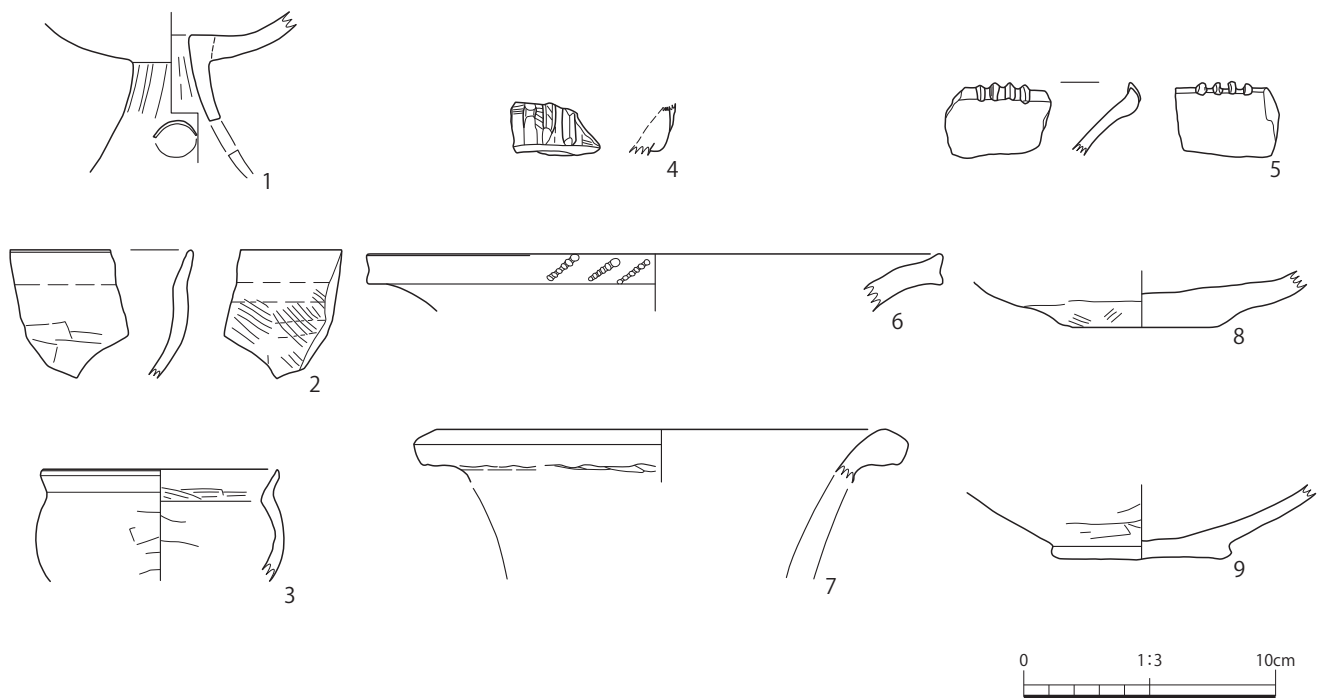
第145図 SI29・SI30(1)出土遺物



S130

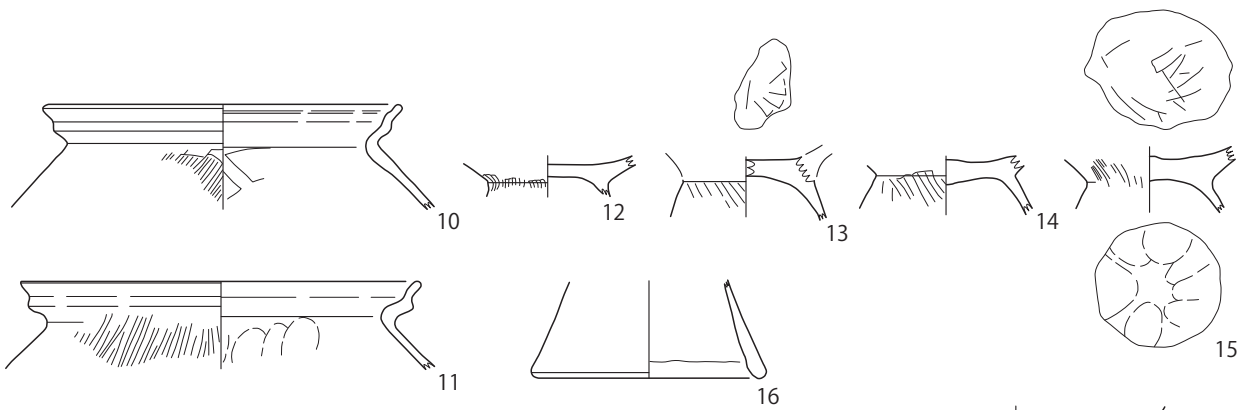


S131

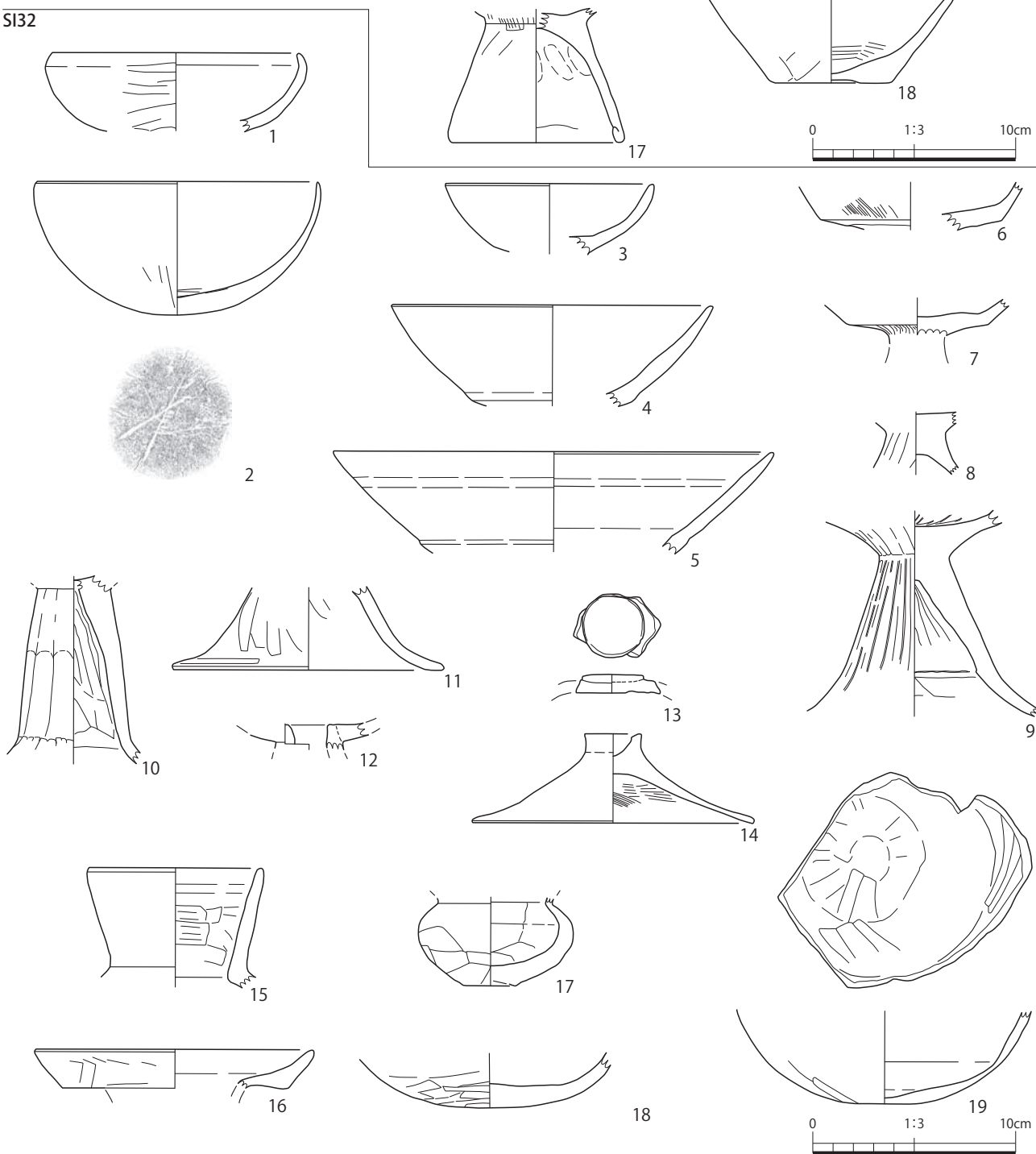


第 146 図 S I 30 ( 2 ) ・ S I 31 ( 1 ) 出土遺物

S131

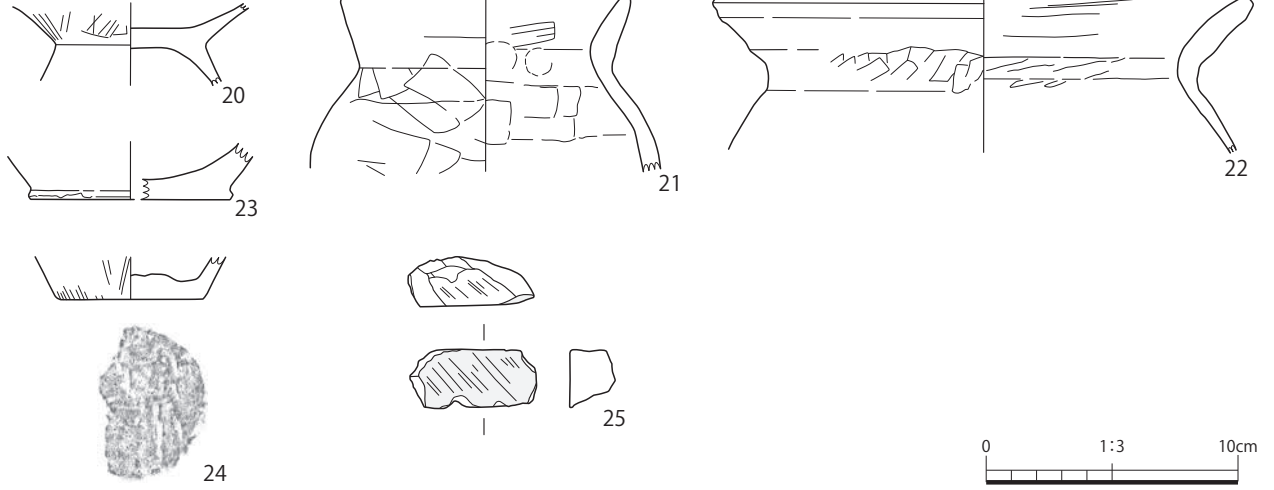


S132

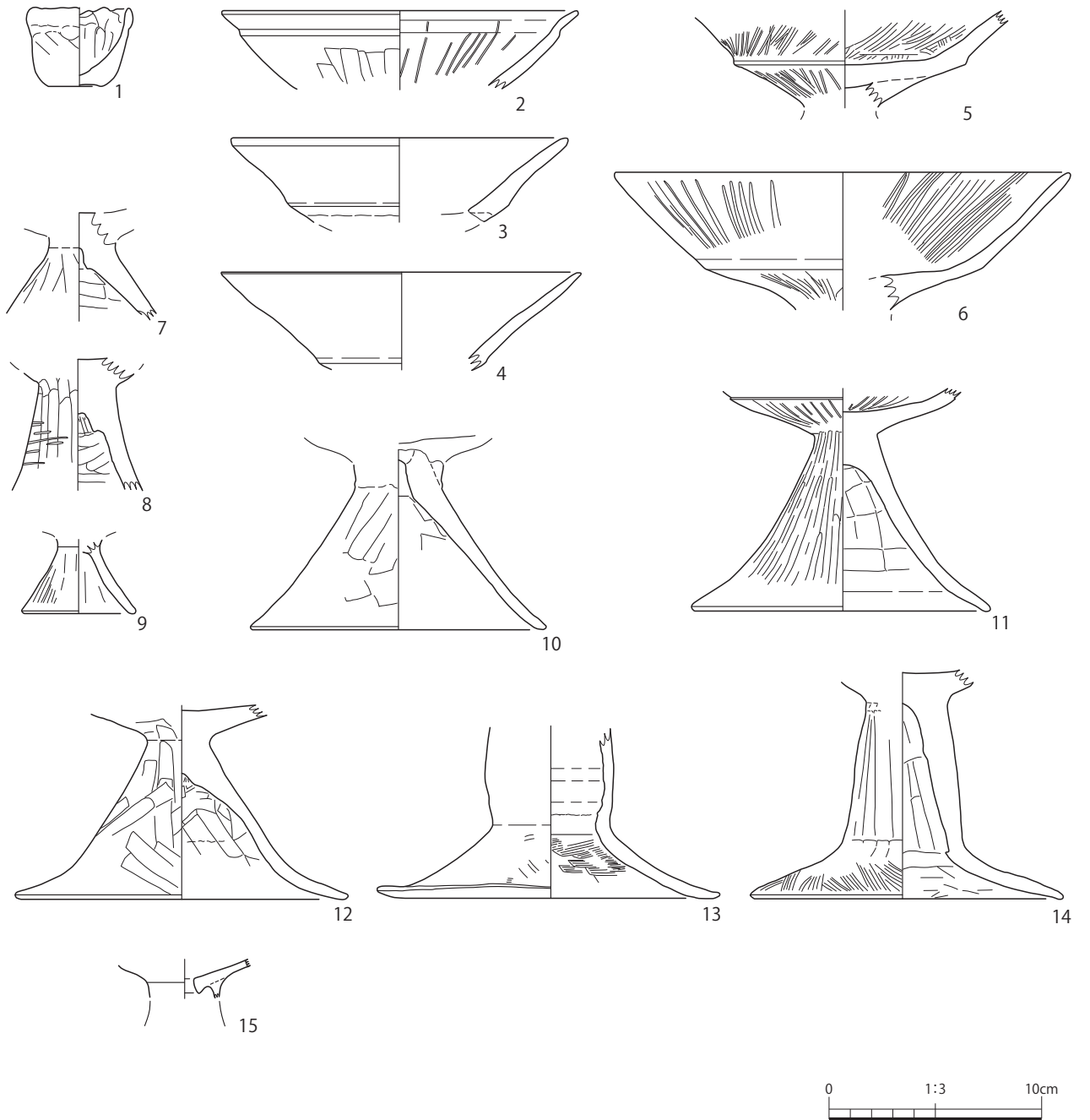


第147图 S131(2)·S132(1) 出土遺物

S132

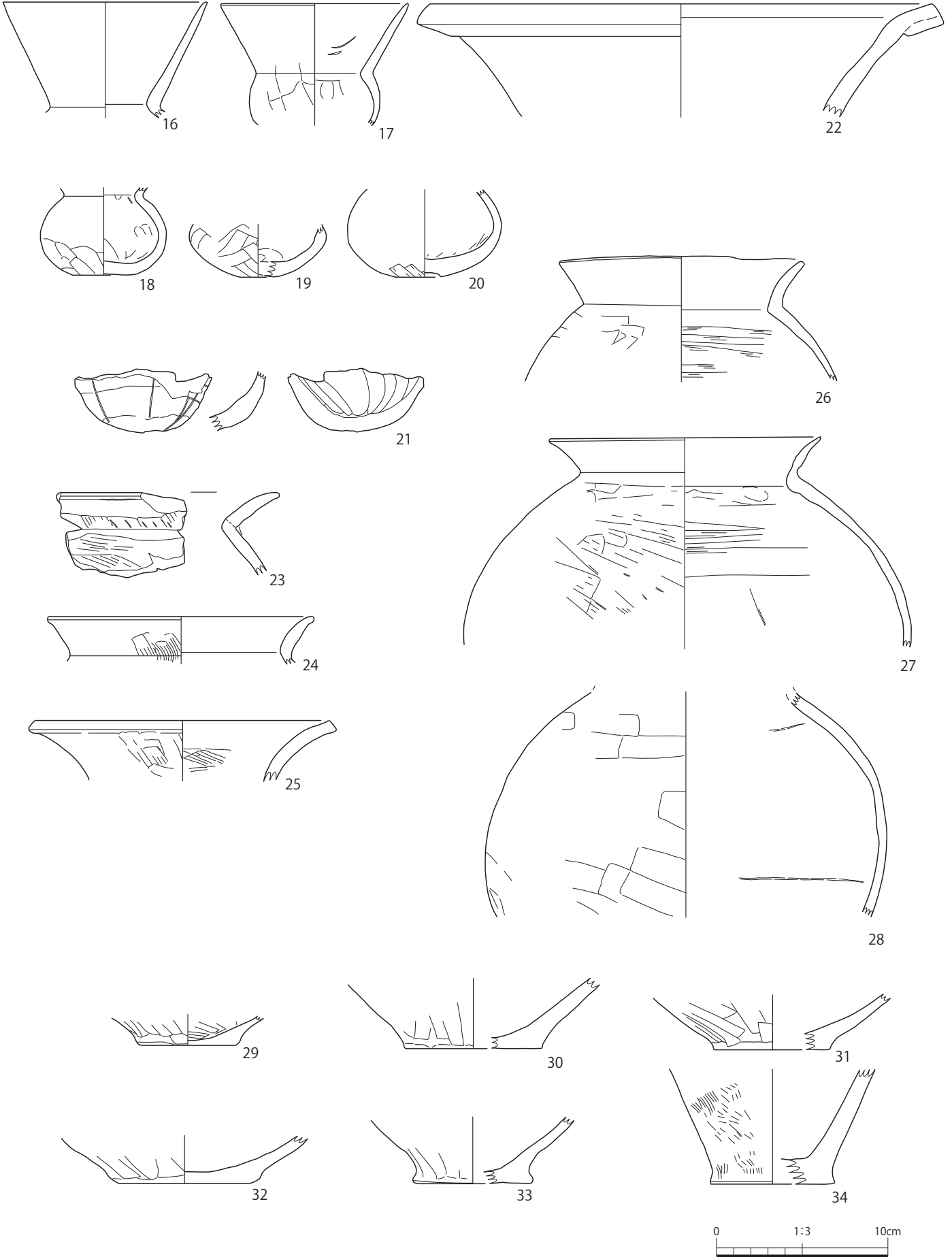


S133



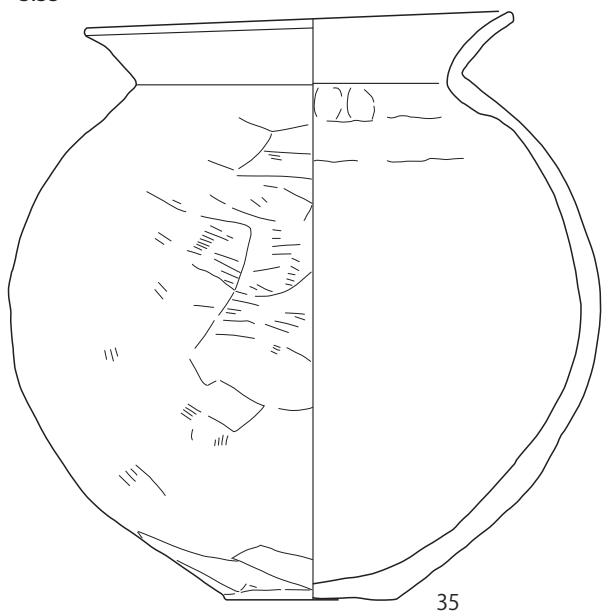
第 148 図 S I 32 ( 2 ) ・ S I 33 ( 1 ) 出土遺物

SI33

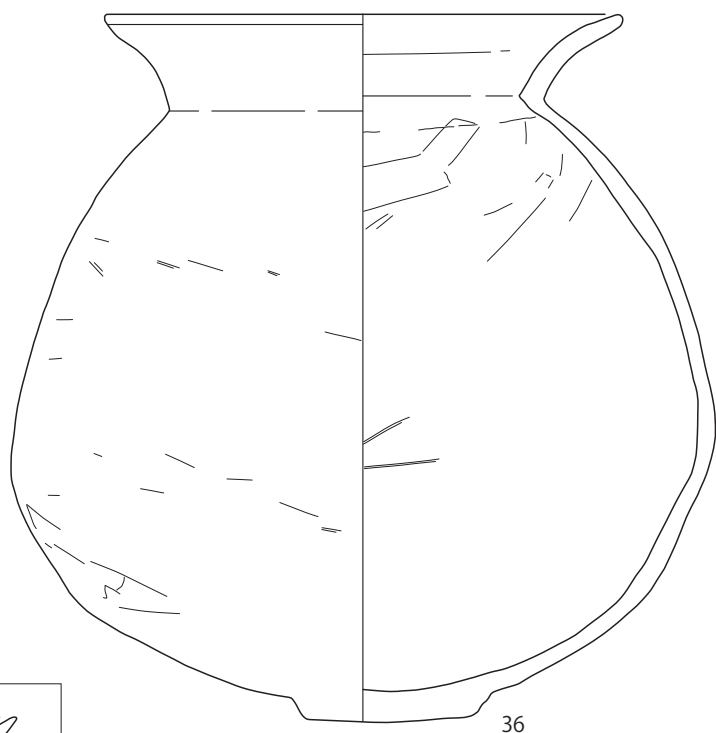


第 149 図 S I 33 ( 2 ) 出土遺物

SI33

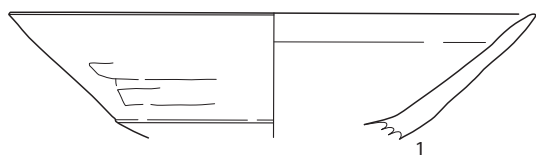


35

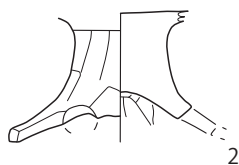


36

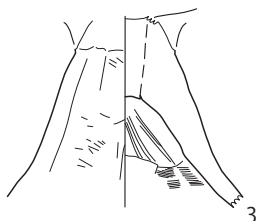
SI34



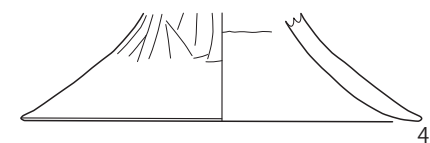
1



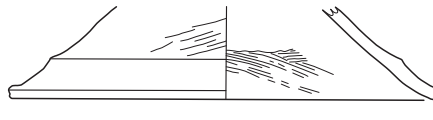
2



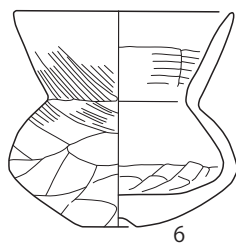
3



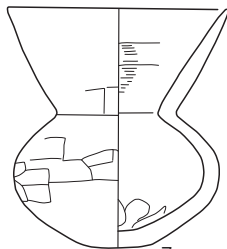
4



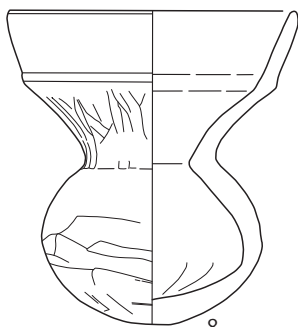
5



6



7



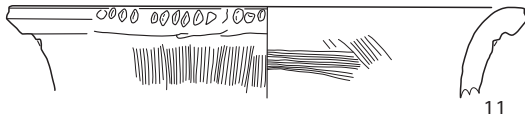
8



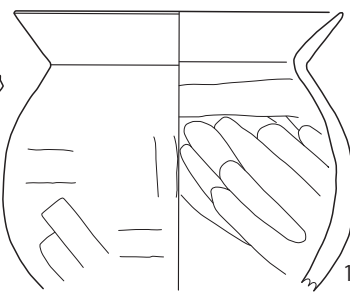
9



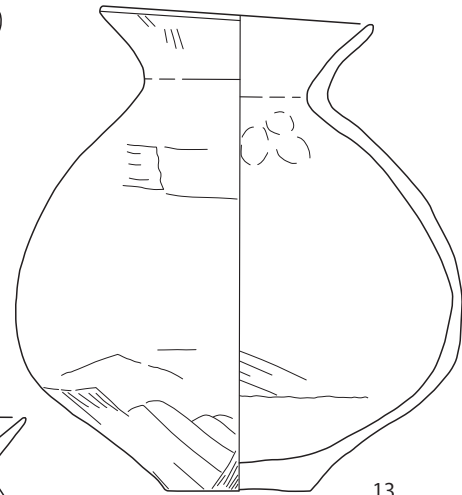
10



11



12



13

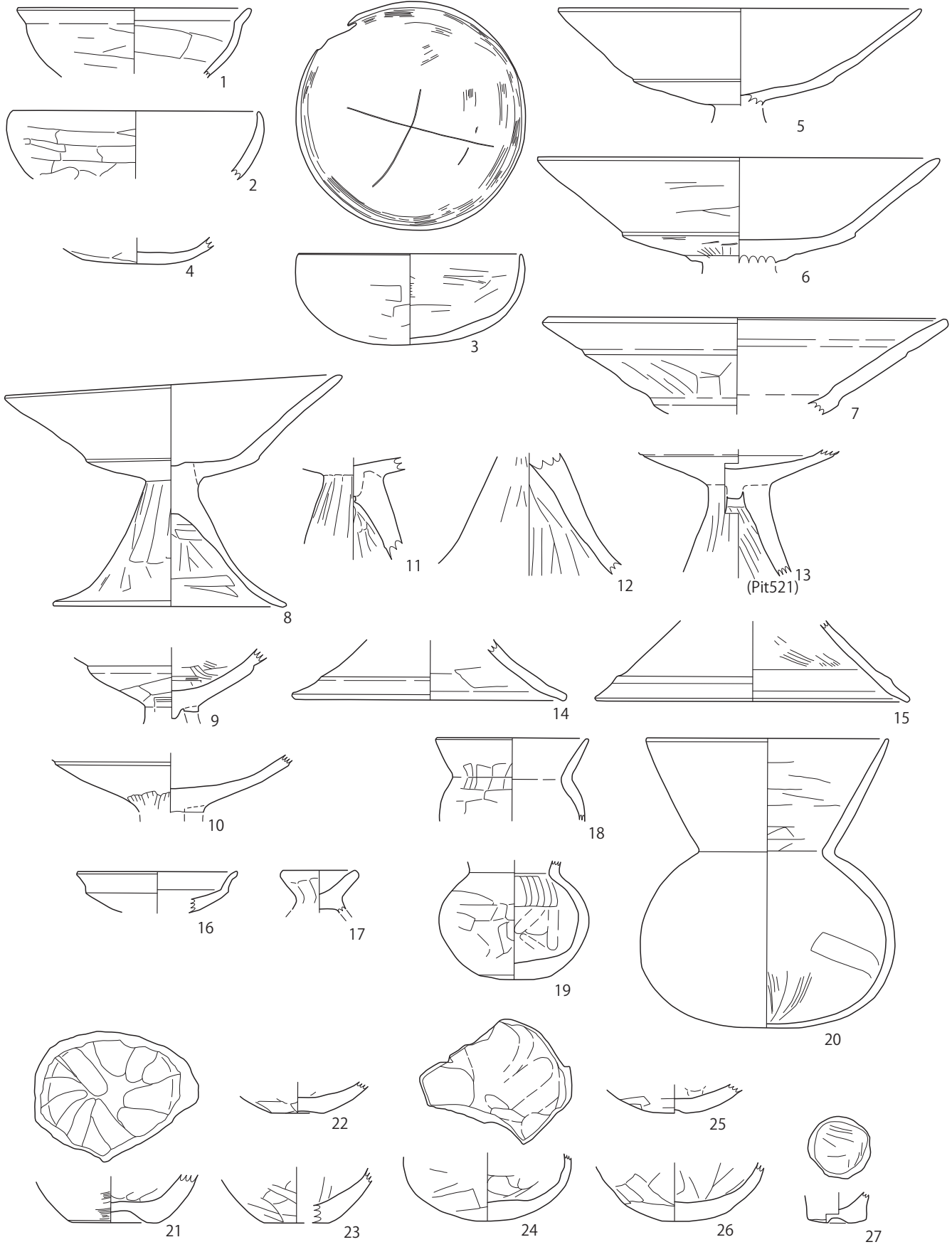


14



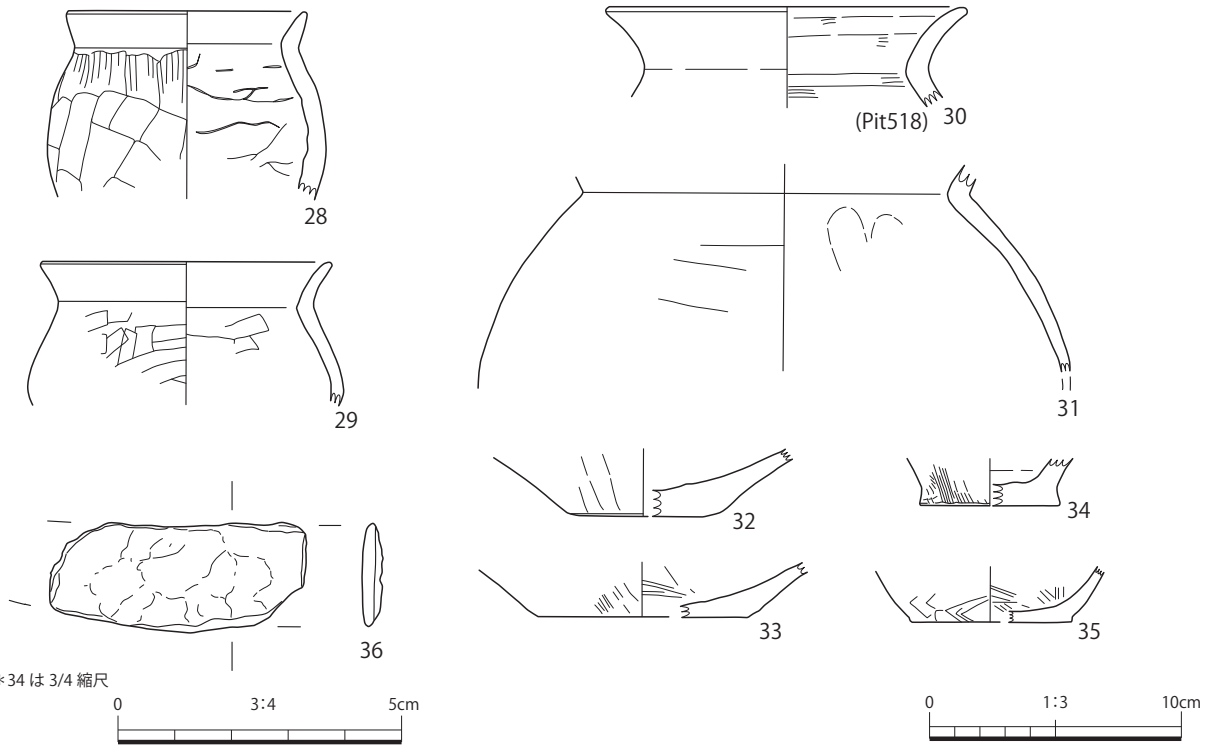
第150図 SI33(3)・SI34出土遺物

SI35

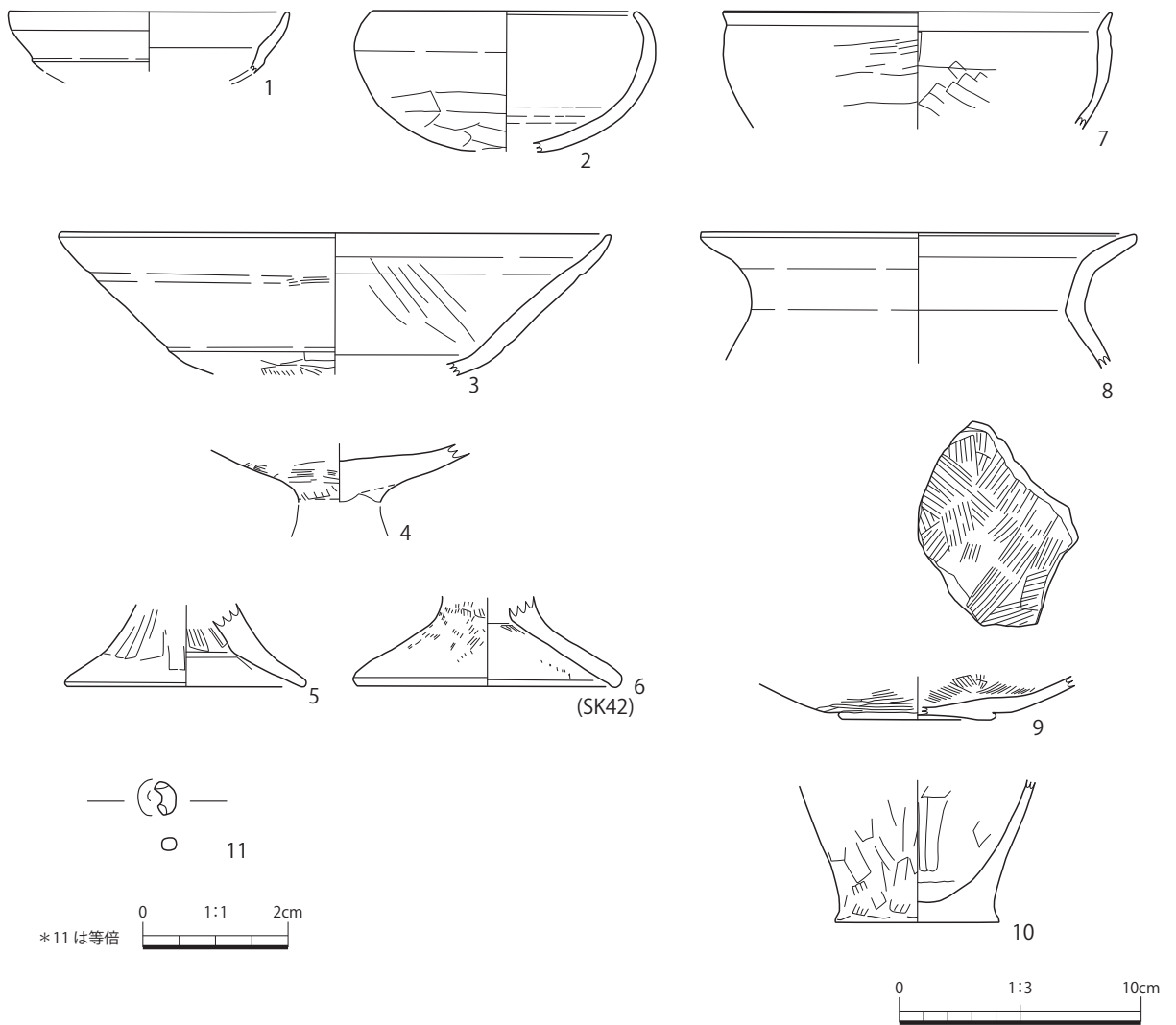


第 151 图 S I 35 (1) 出土遺物

SI35

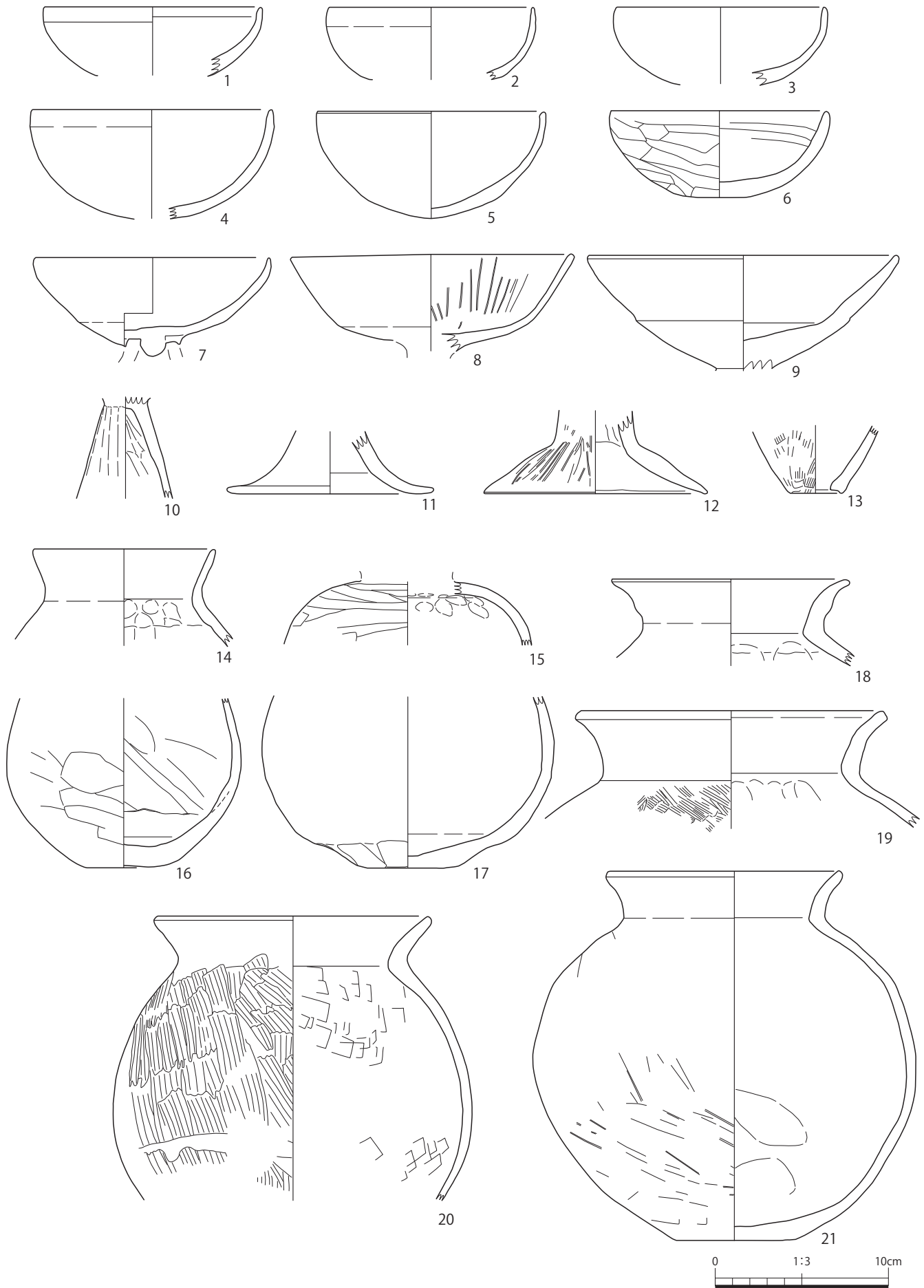


SI36



第152図 SI35(2)・SI36出土遺物

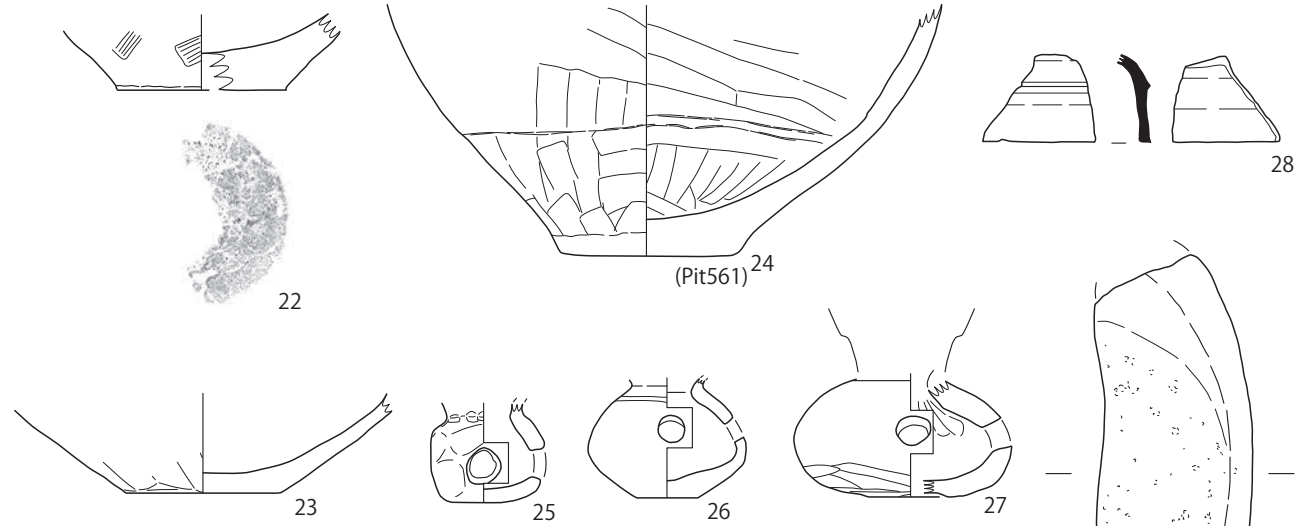
S137



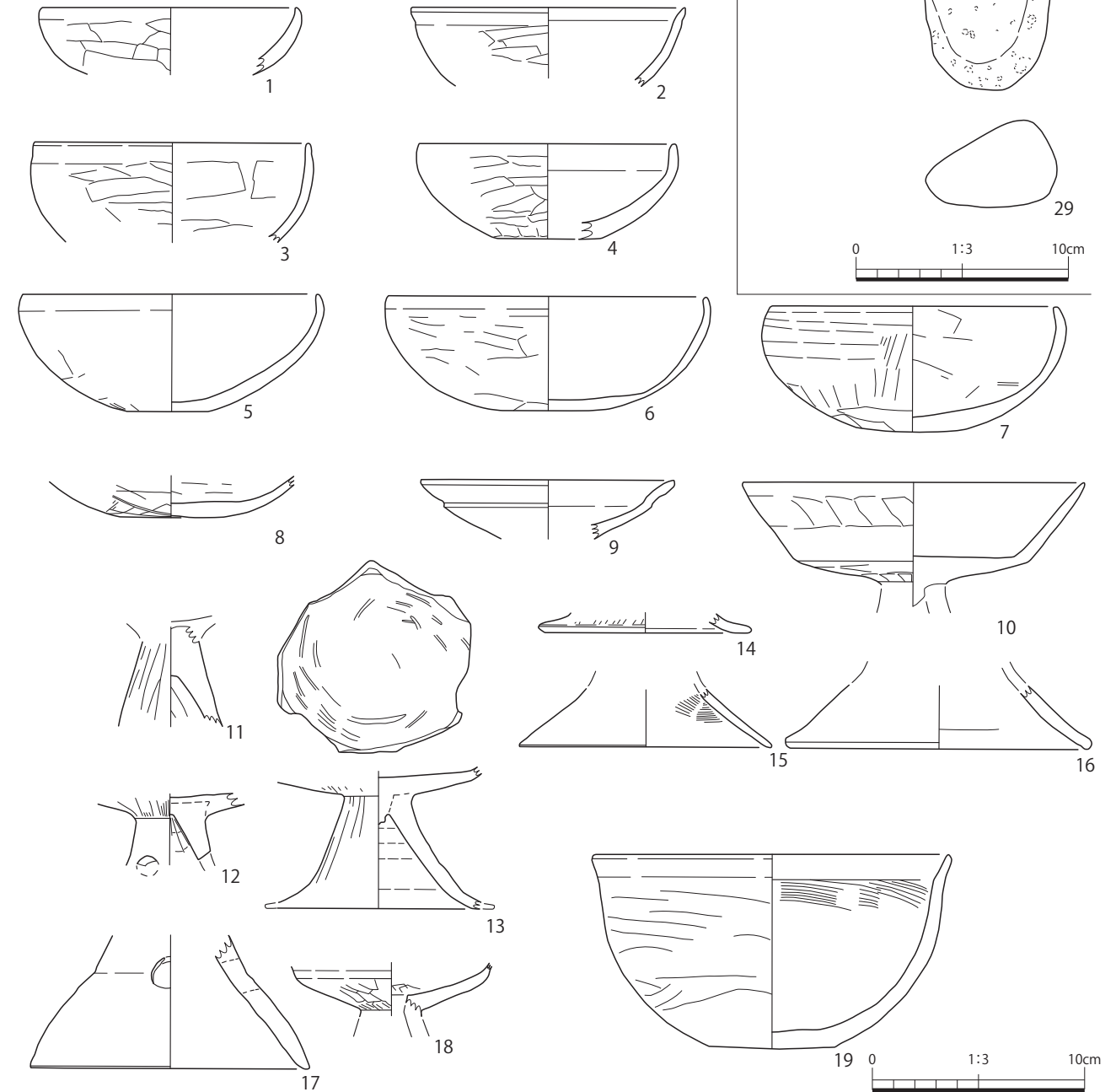
第 153 图 S I 37 (1) 出土遺物



S137

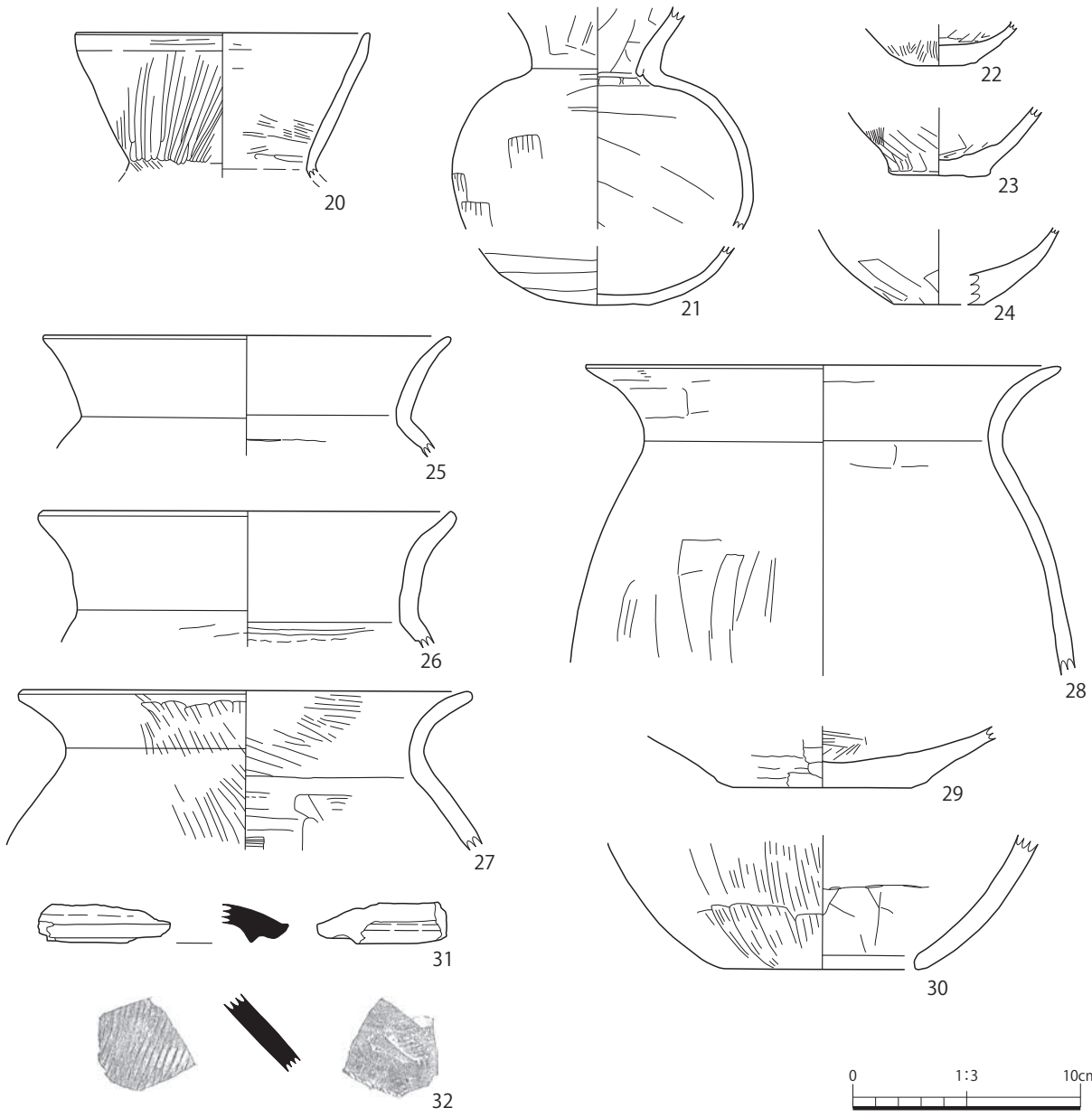


S138

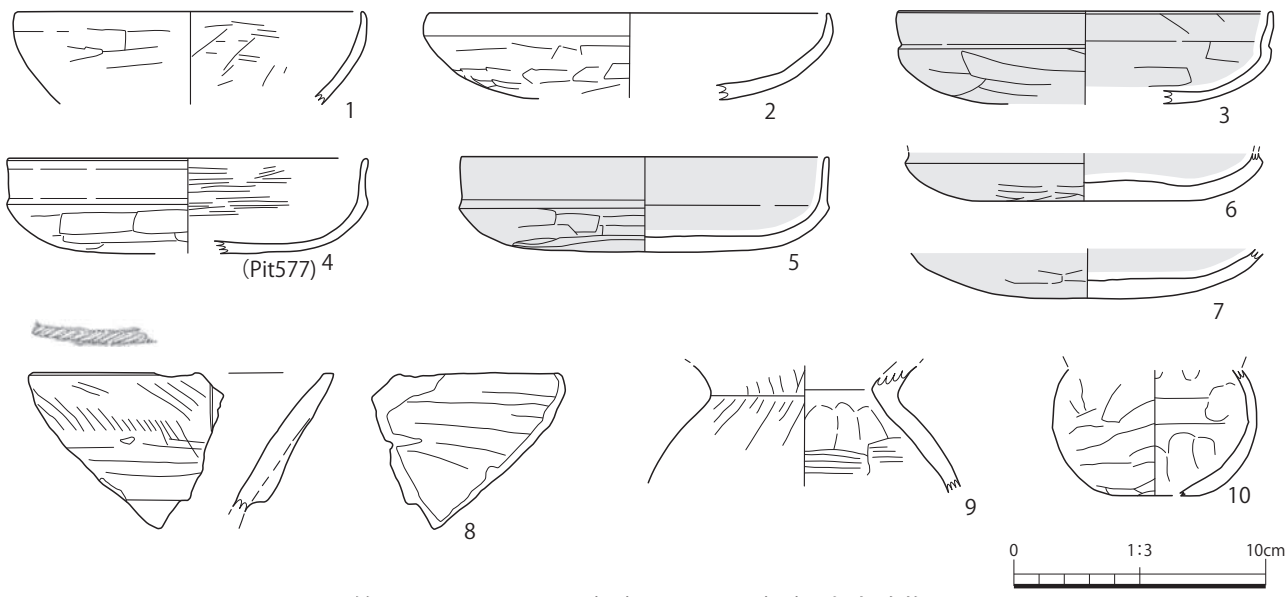


第154図 S137(2)・S138(1) 出土遺物

S138

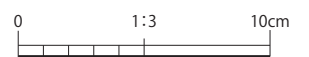
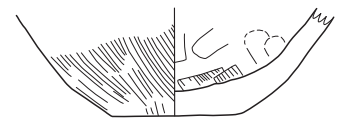
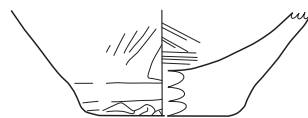
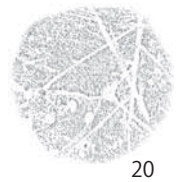
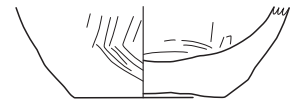
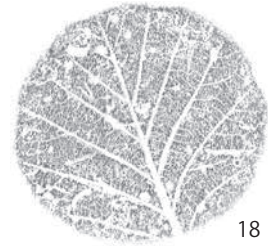
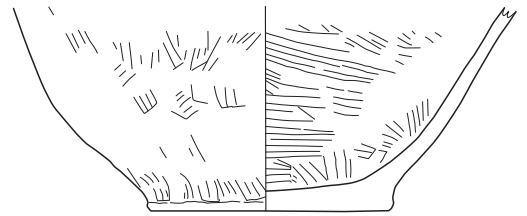
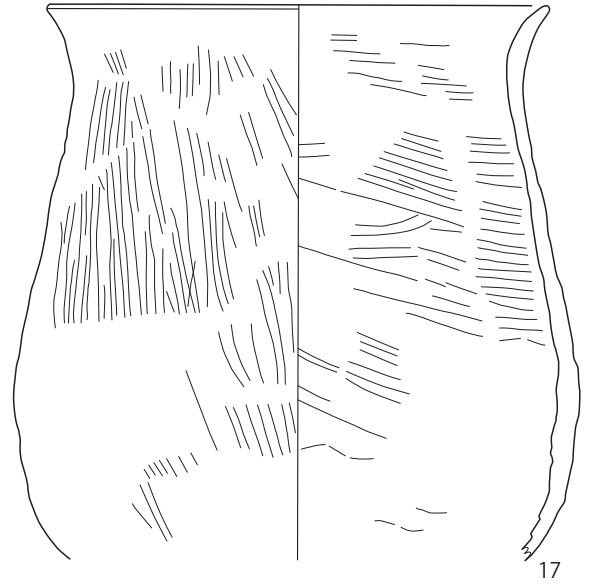
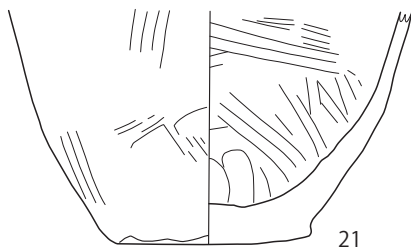
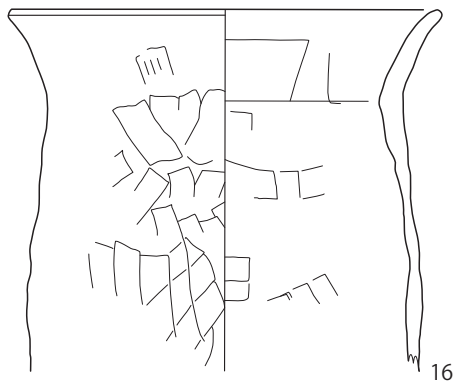
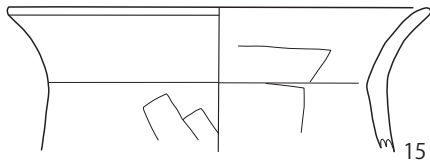
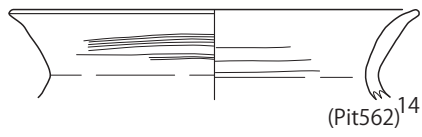
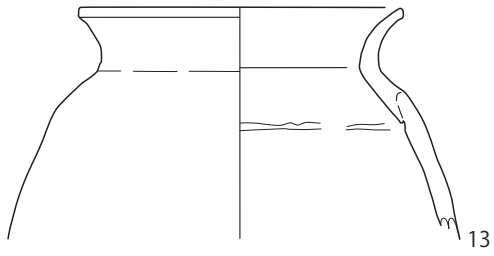
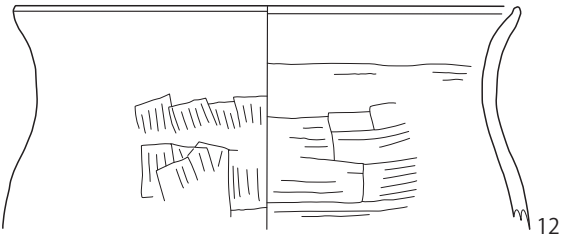
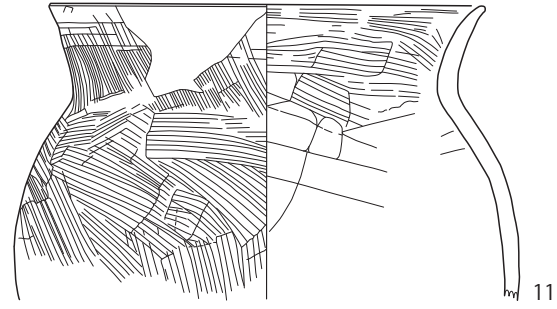


S139



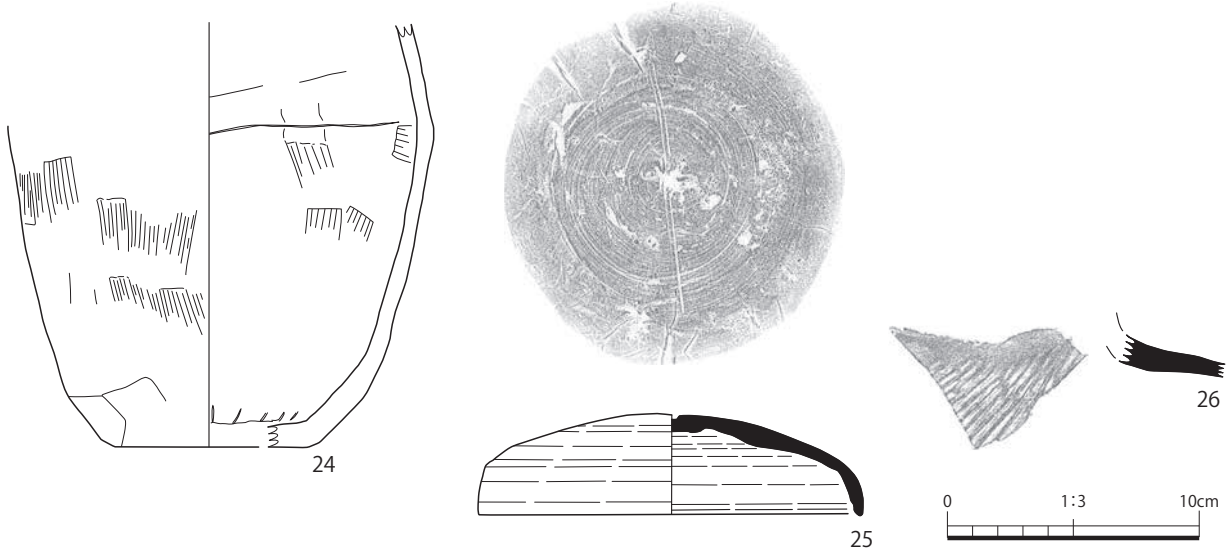
第155図 S138(2)・S139(1) 出土遺物

SI39

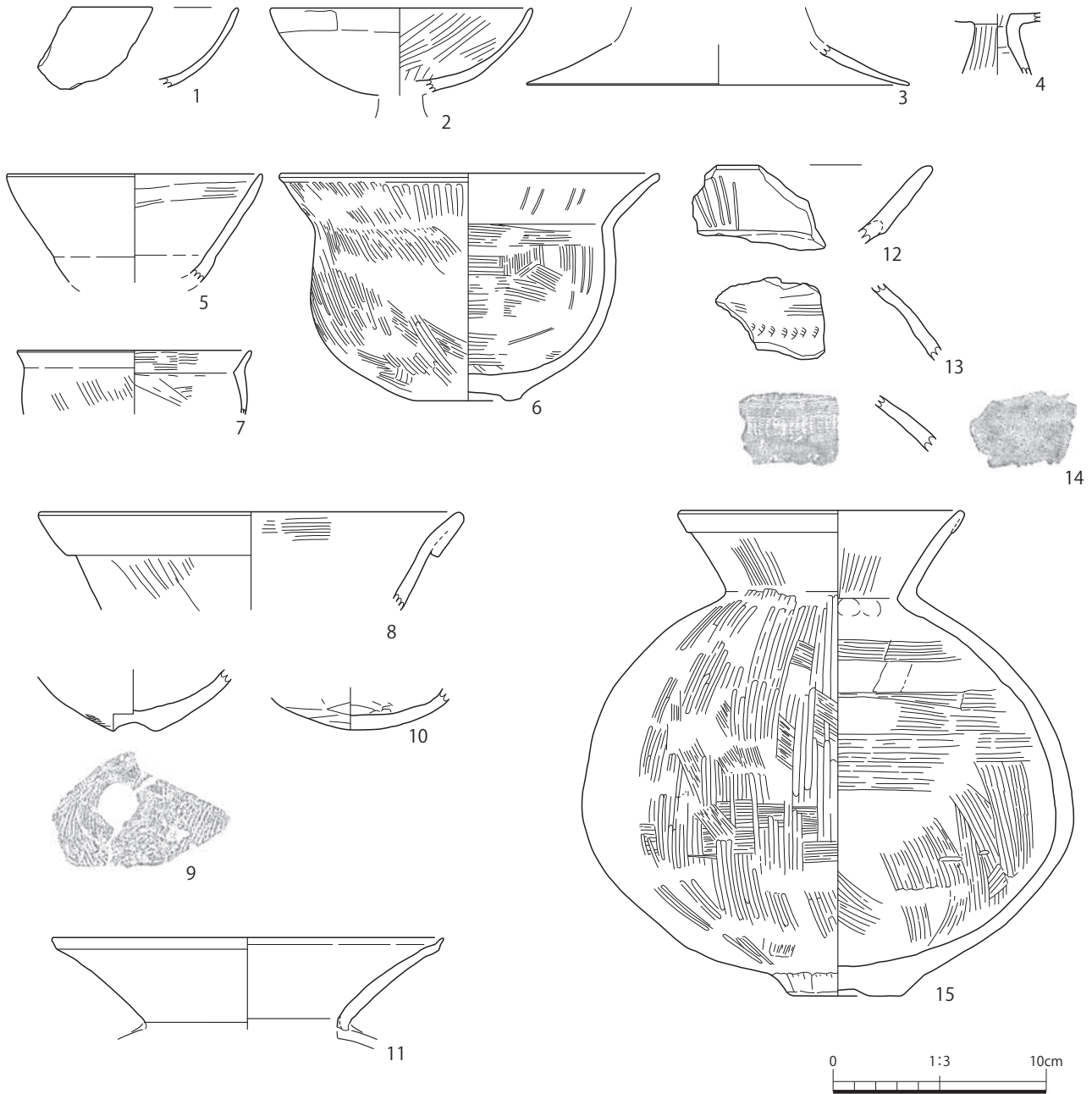


第 156 图 S I 39 (2) 出土遺物

S139

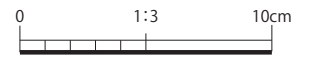
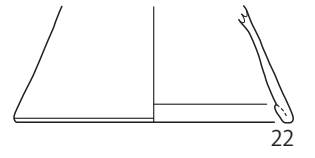
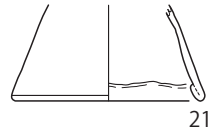
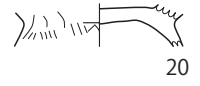
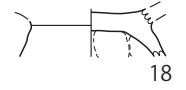
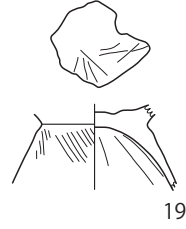
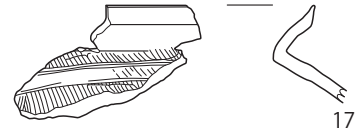
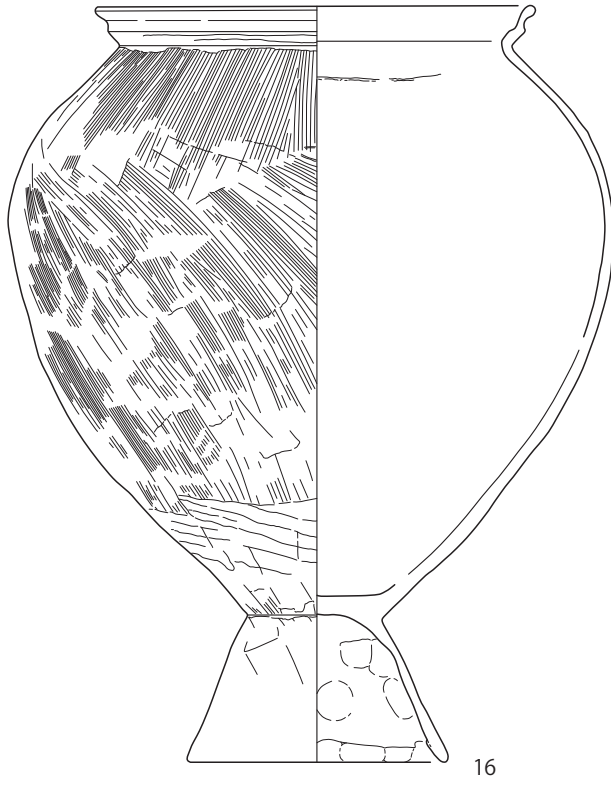


S140

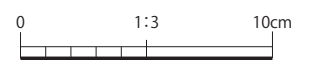
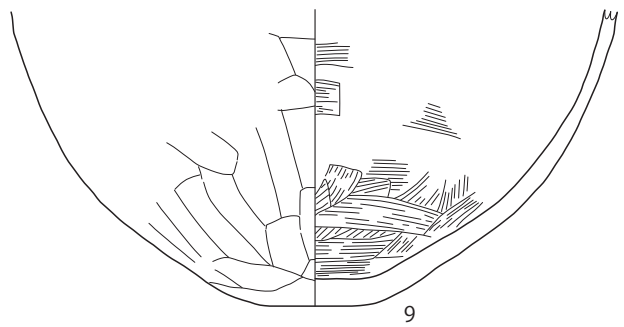
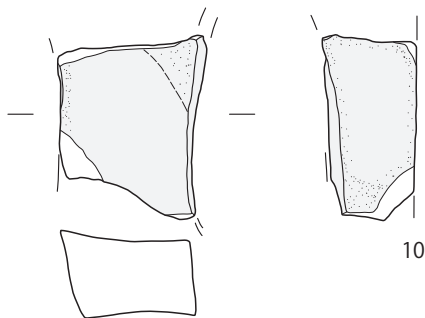
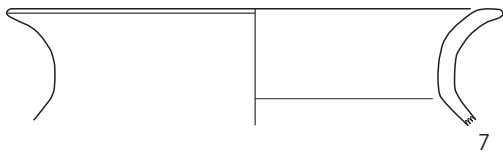
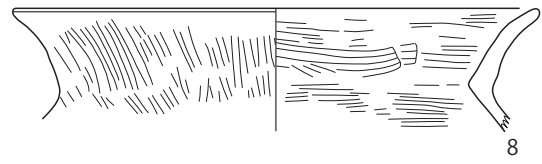
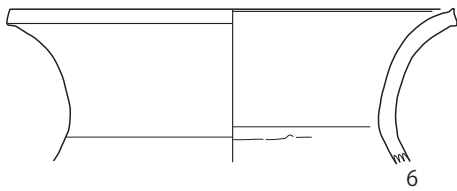
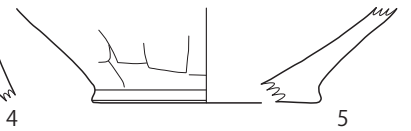
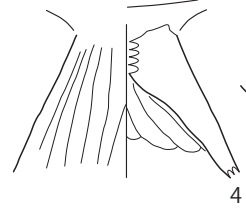
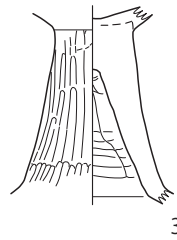
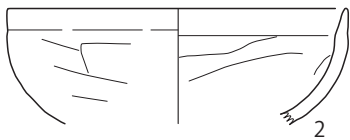
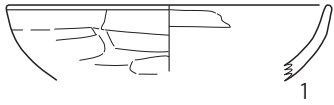


第157図 S139(3)・S140(1) 出土遺物

SI40

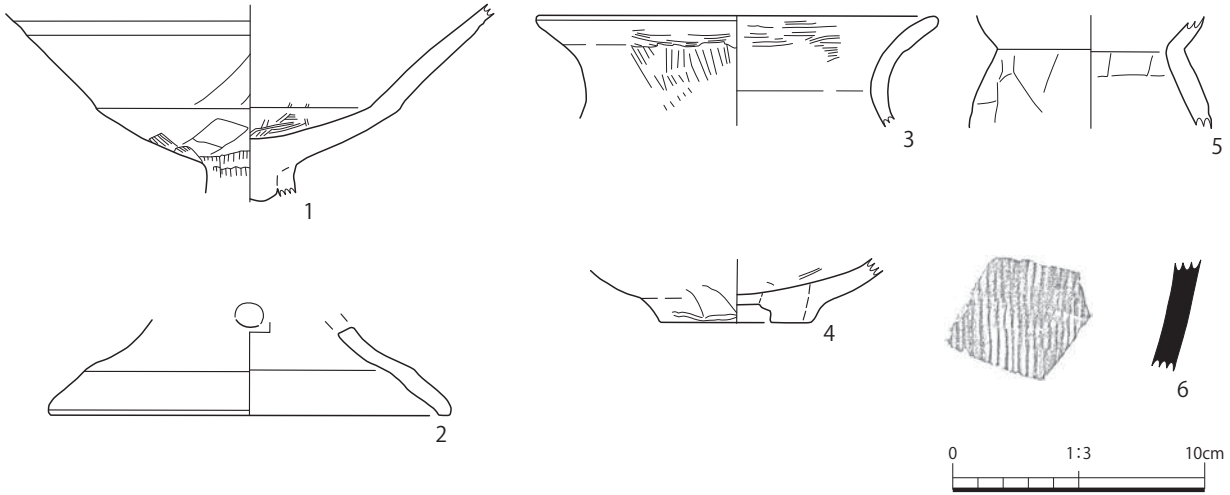


SI43

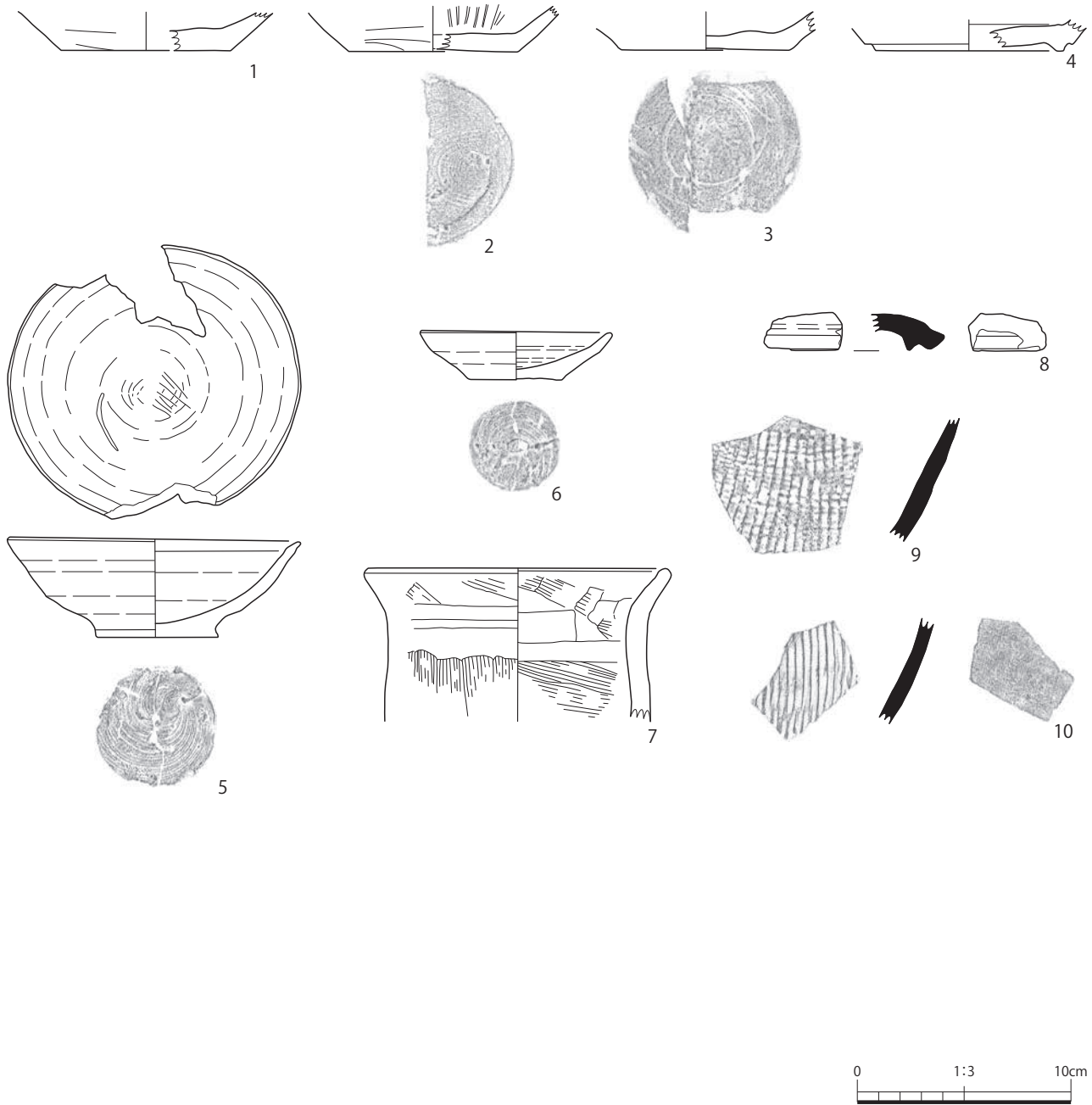


第158图 SI40(2)·SI43 出土遺物

SI44

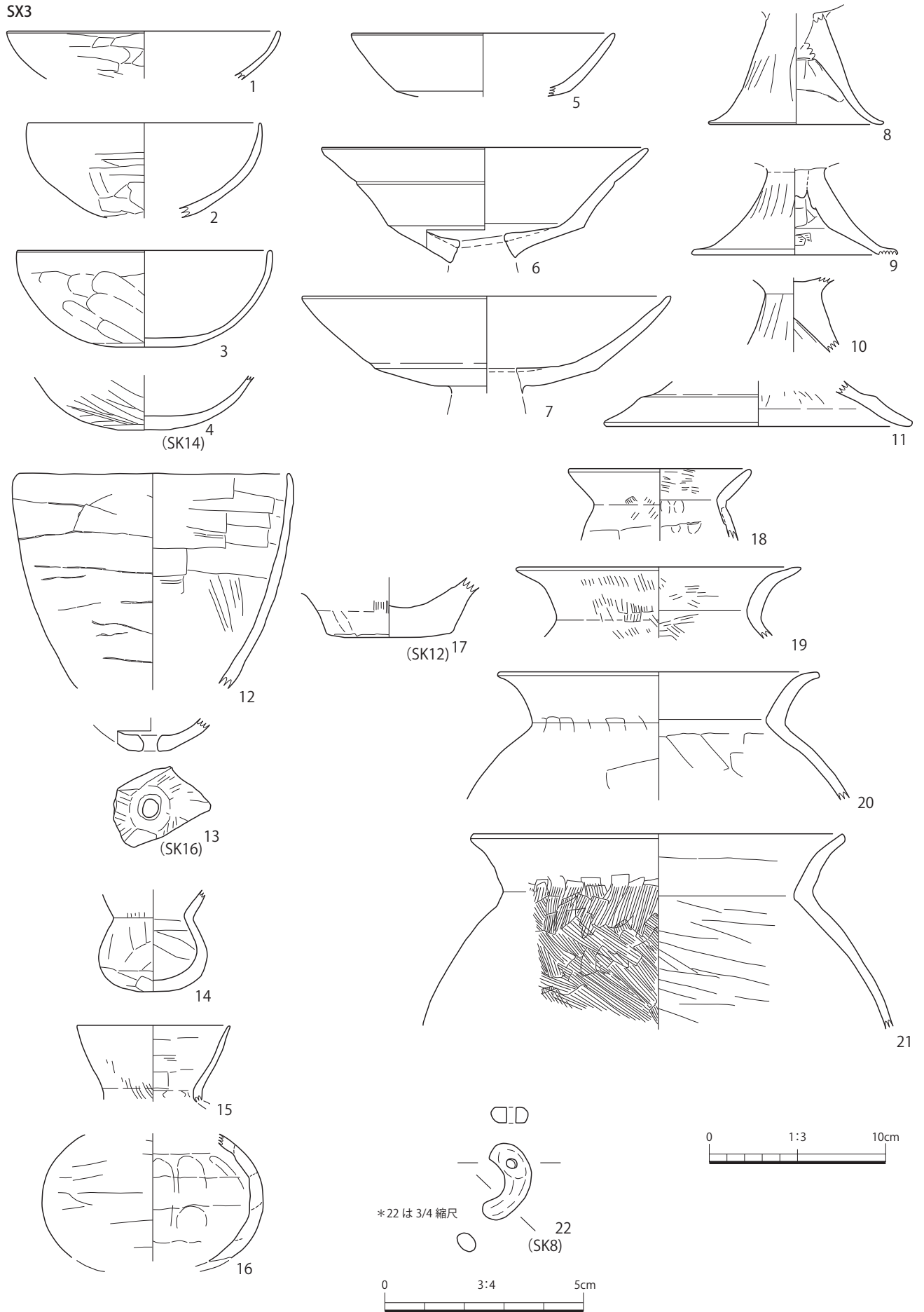


SX2



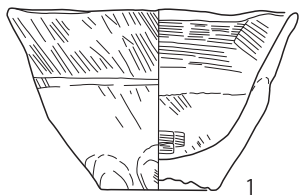
第 159 图 S I 44 · S X 2 出土遺物

SX3

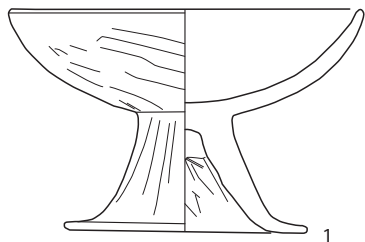


第160図 SX3出土遺物

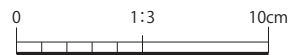
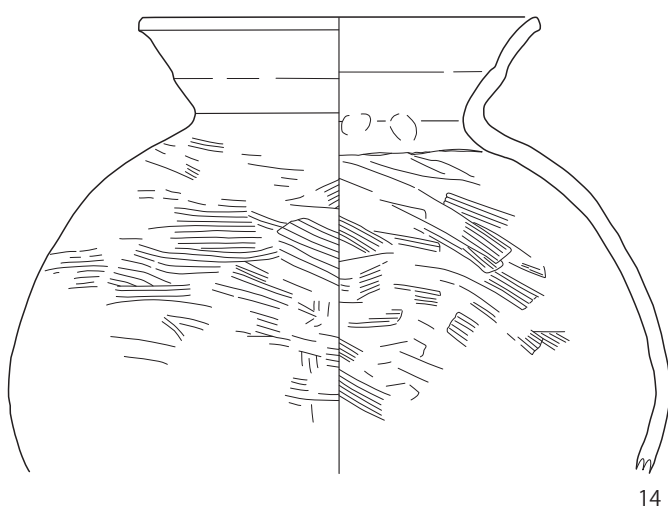
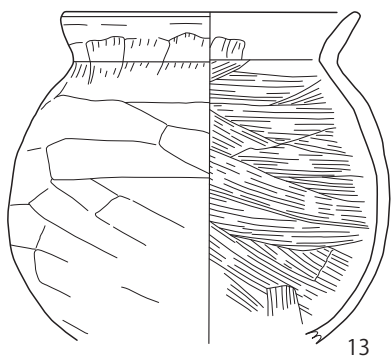
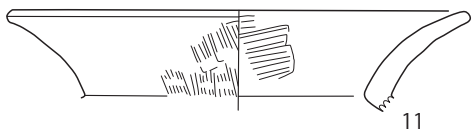
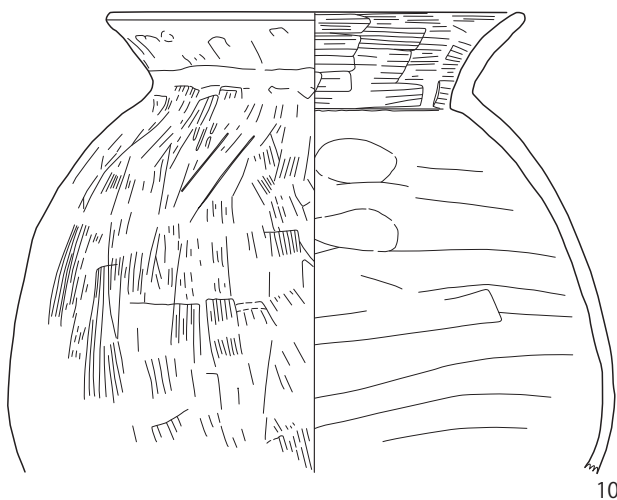
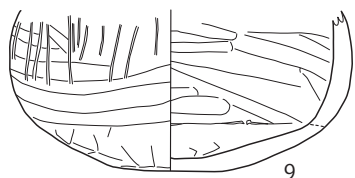
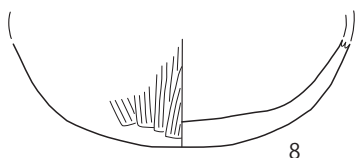
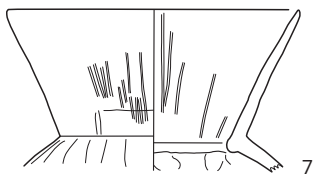
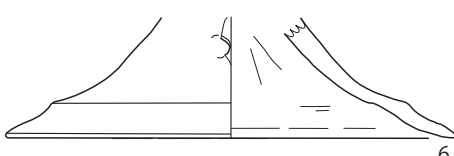
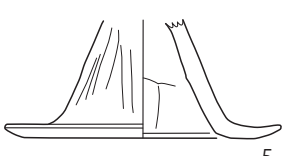
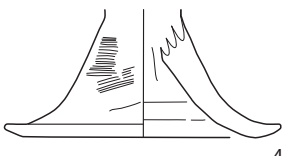
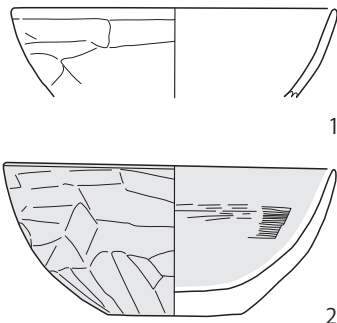
SK34



SK36



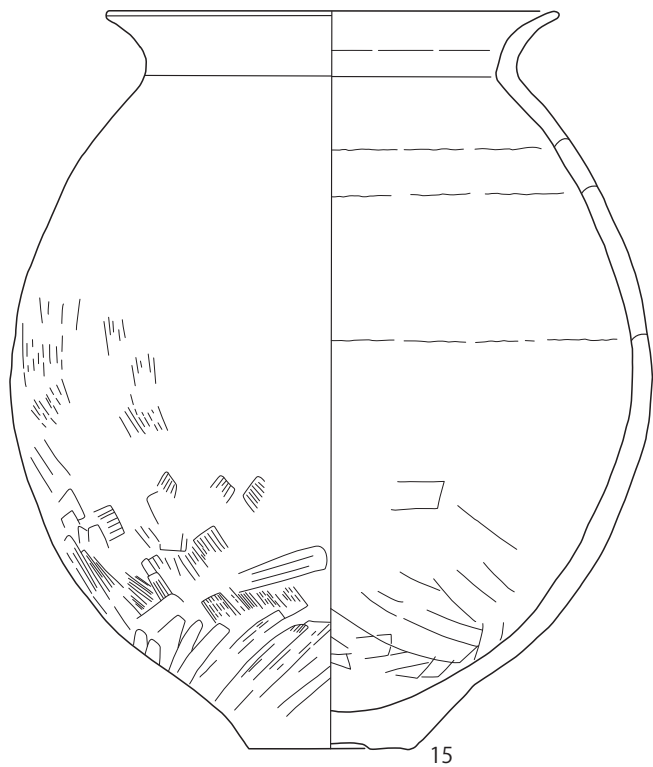
SK37



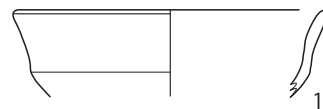
第161图 SK34・SK36・SK37 (1) 出土遺物



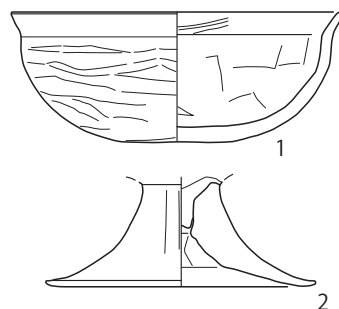
SK37



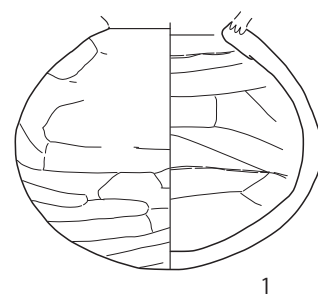
Pit12



Pit61



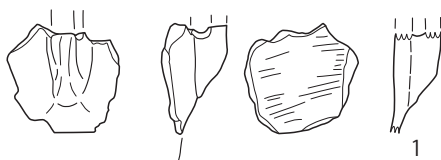
Pit105



Pit284



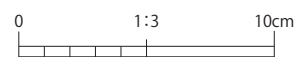
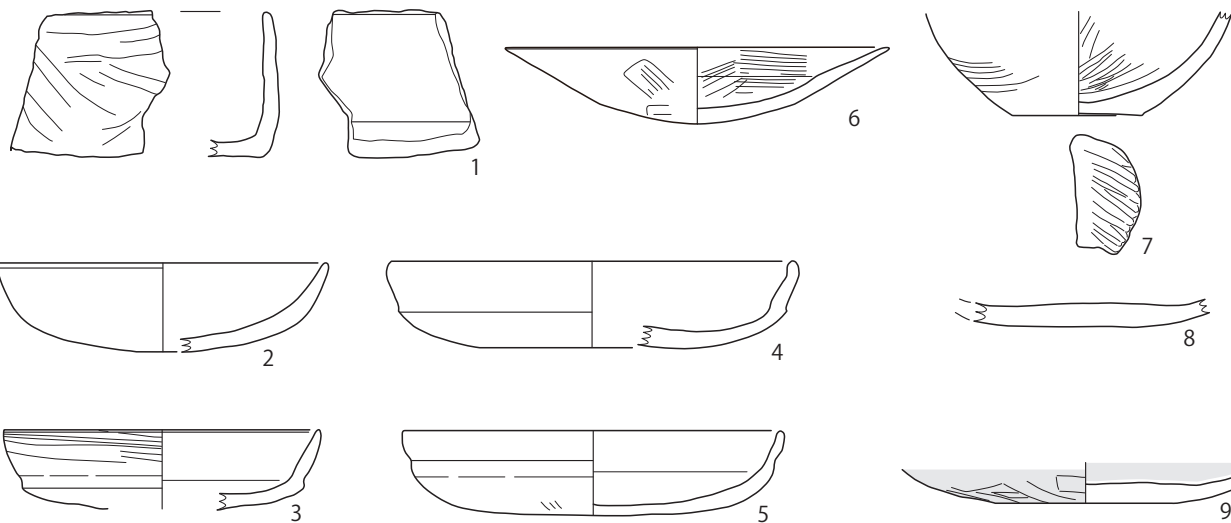
Pit291



Pit292

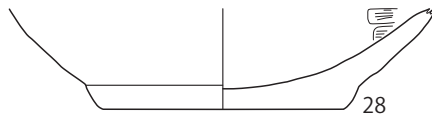
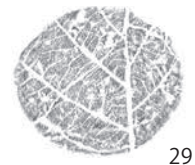
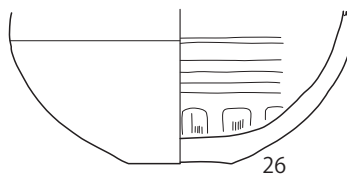
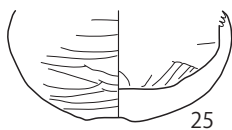
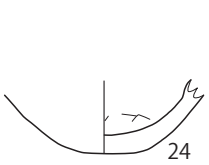
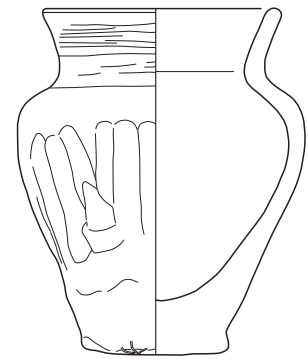
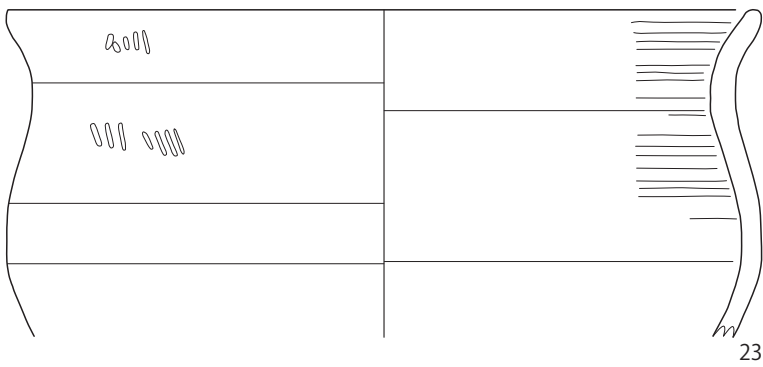
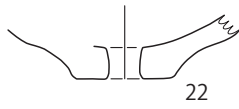
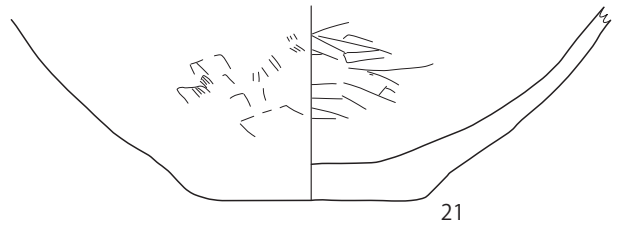
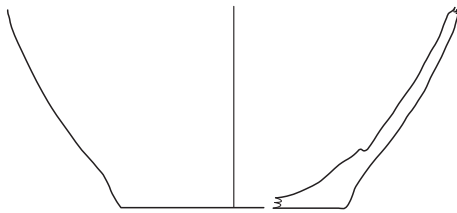
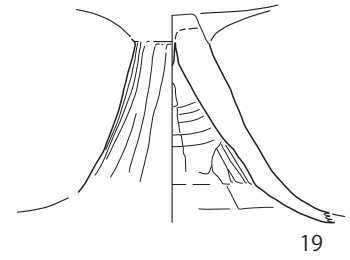
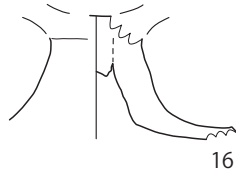
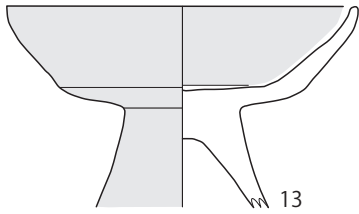
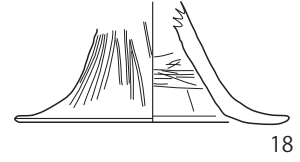
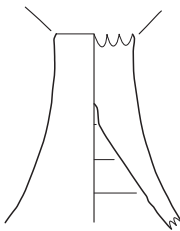
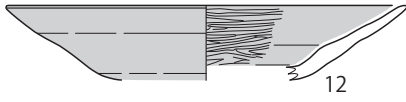
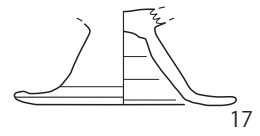
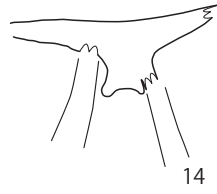
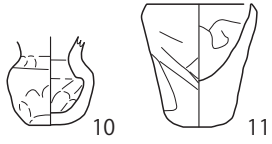


SD1



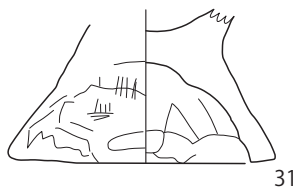
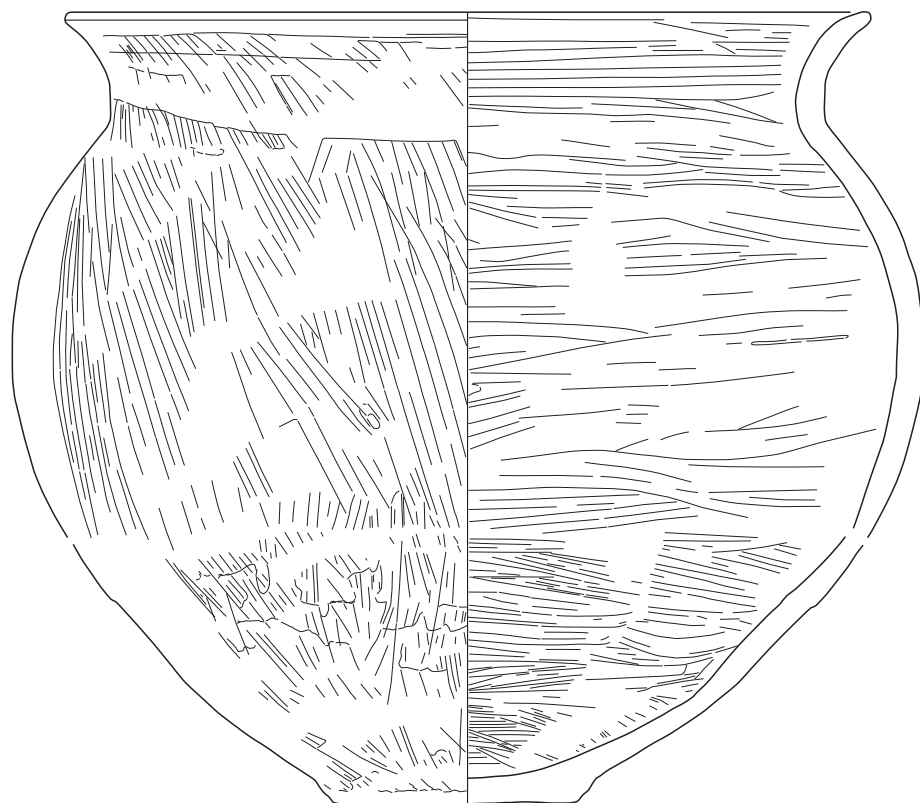
第162図 SK37 (2)・Pit・SD1 (1) 出土遺物

SD1

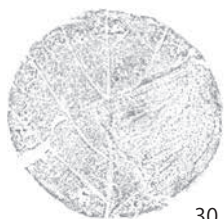


第 163 图 SD 1 (2) 出土遺物

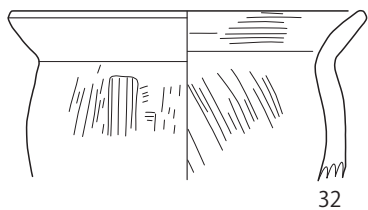
SD1



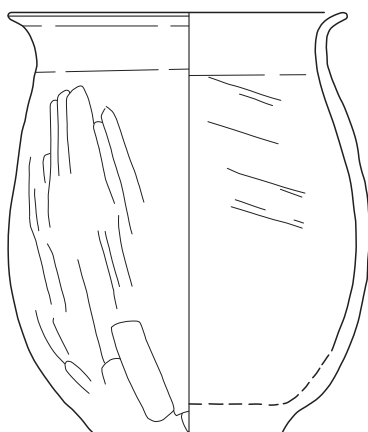
31



30



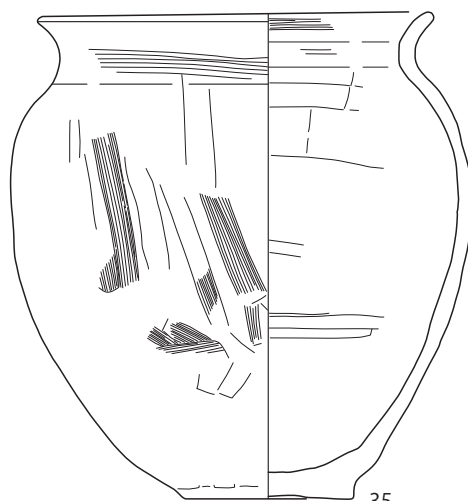
32



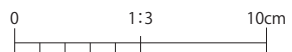
34



33

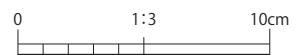
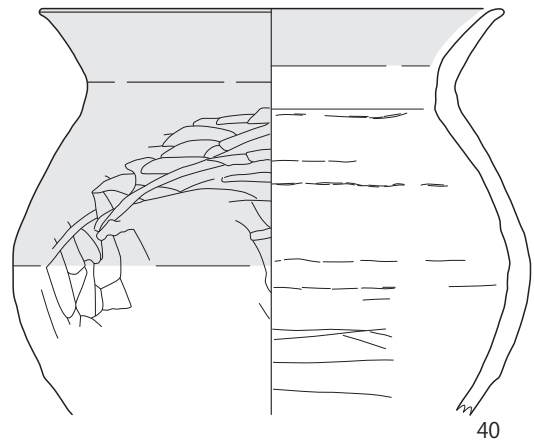
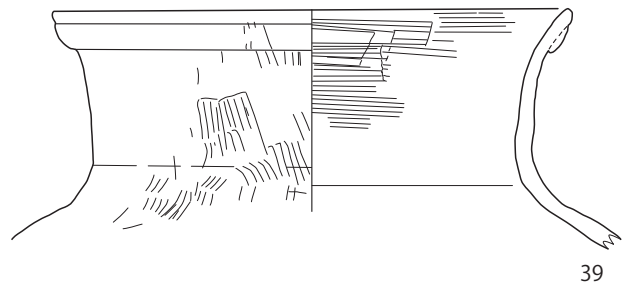
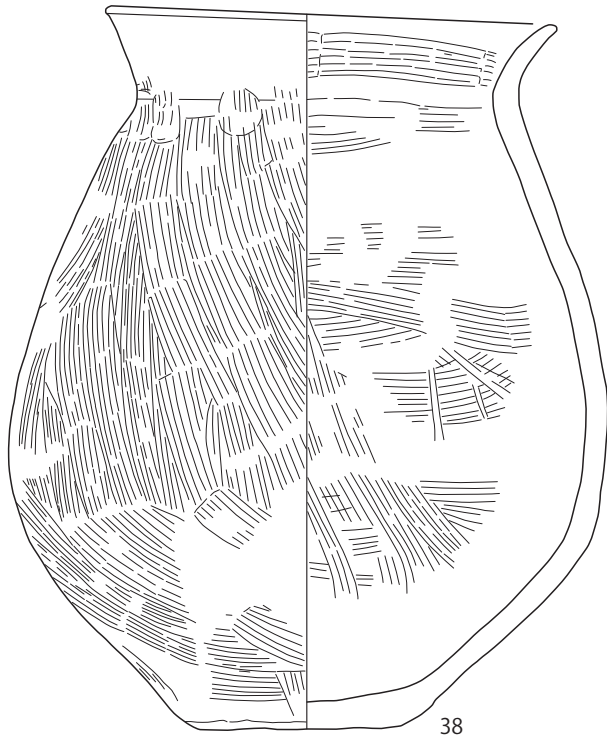
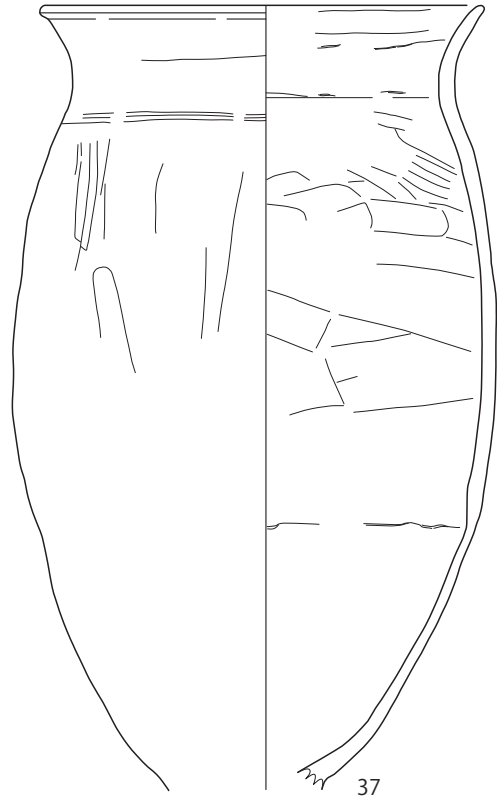
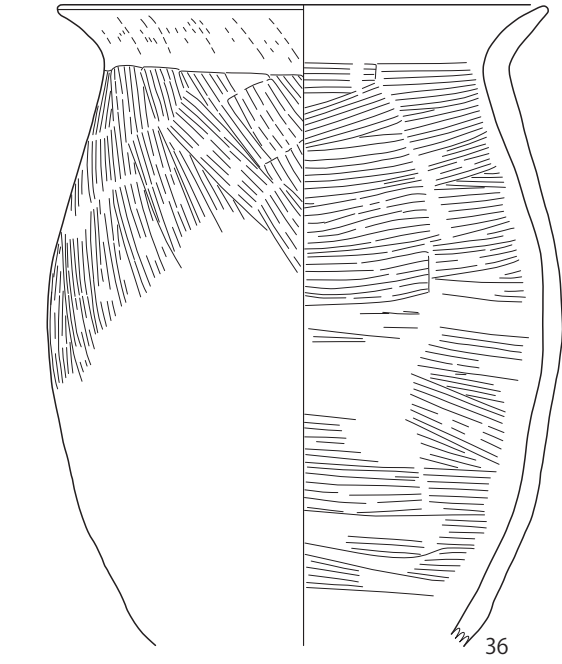


35



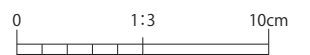
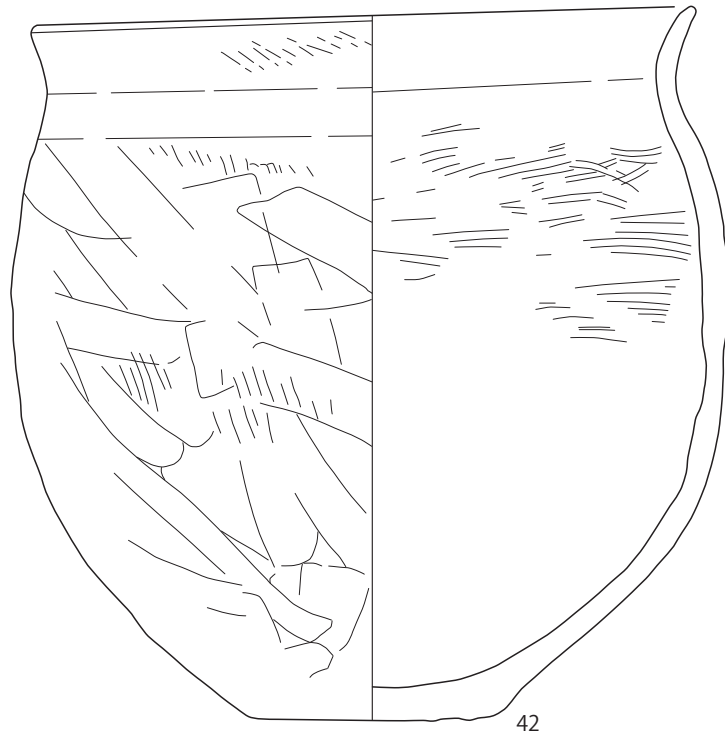
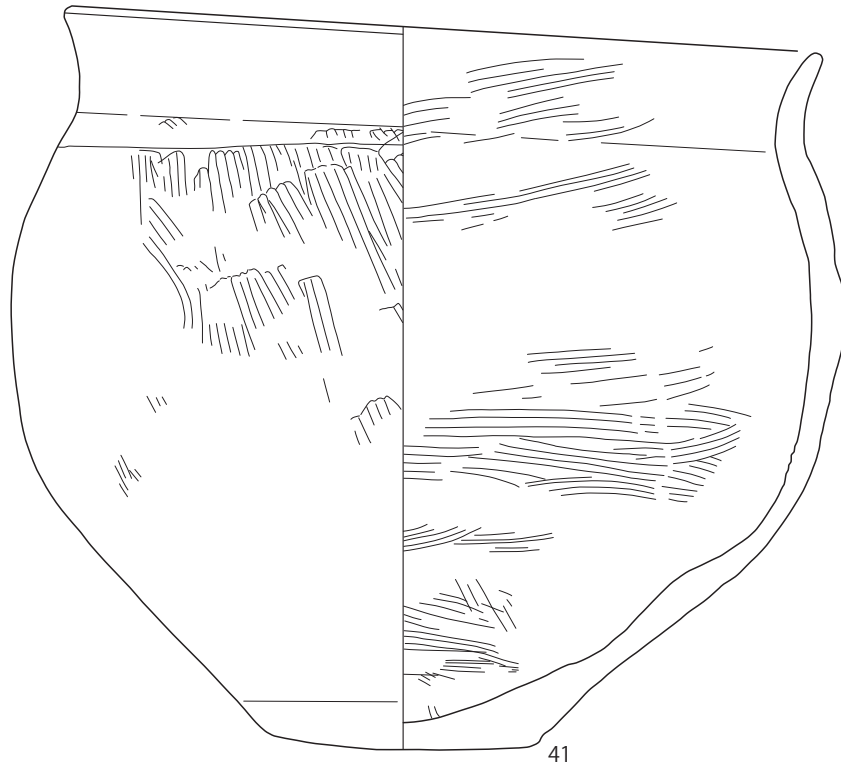
第 164 図 SD 1 (3) 出土遺物

SD1



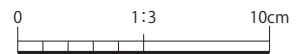
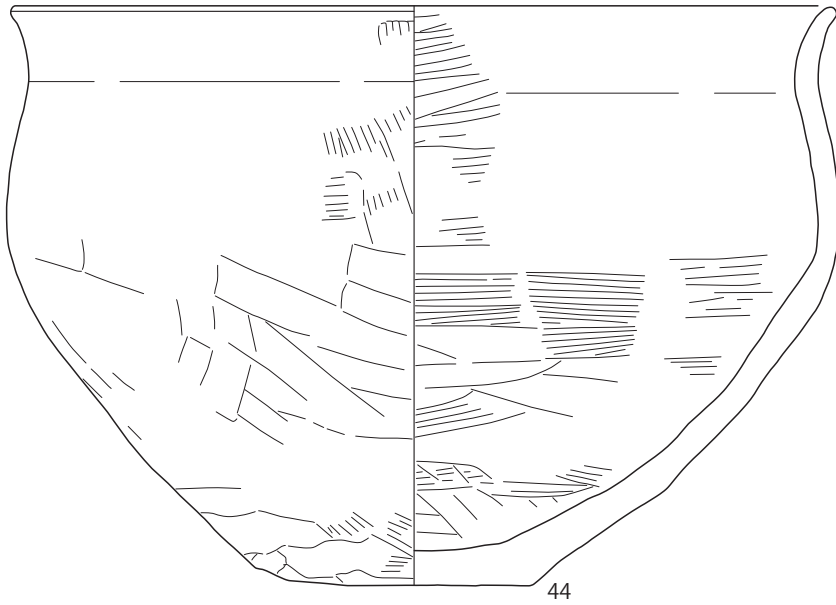
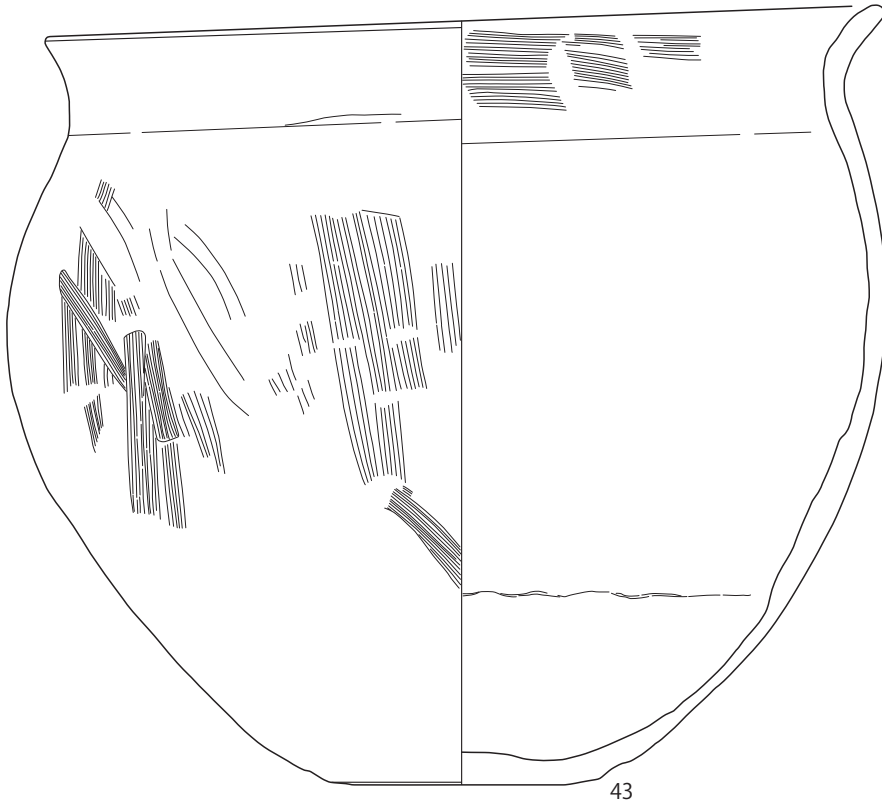
第 165 図 SD 1 (4) 出土遺物

SD1



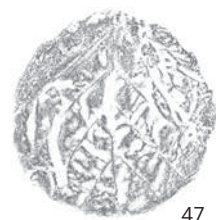
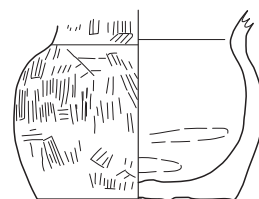
第 166 図 SD 1 (5) 出土遺物

SD1



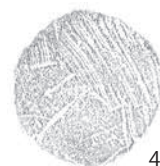
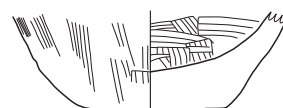
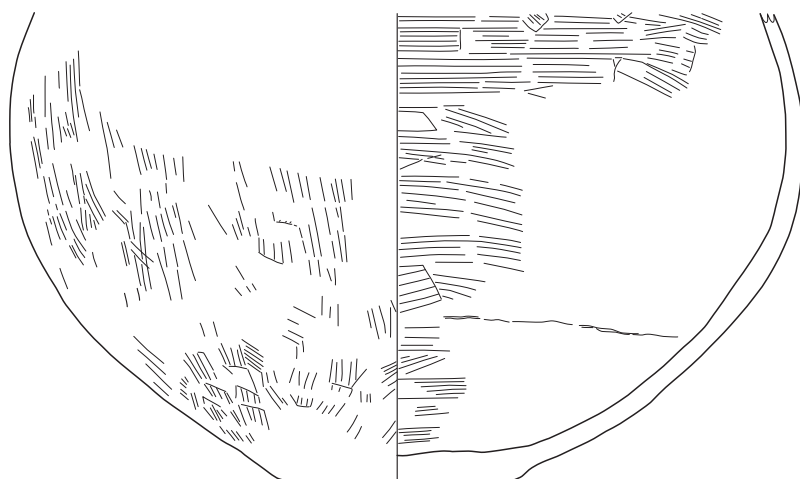
第 167 図 SD 1 (6) 出土遺物

SD1

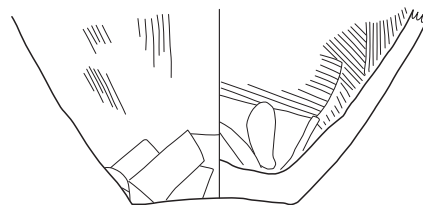


45

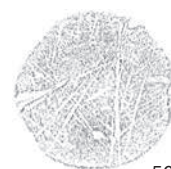
47



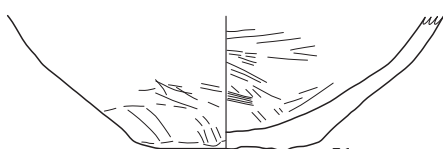
49



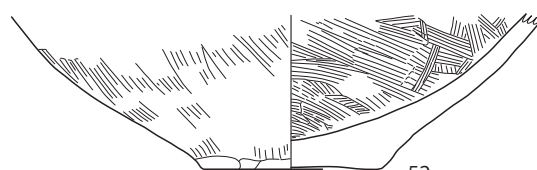
48



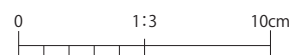
50



51



52



第 168 図 SD 1 (7) 出土遺物

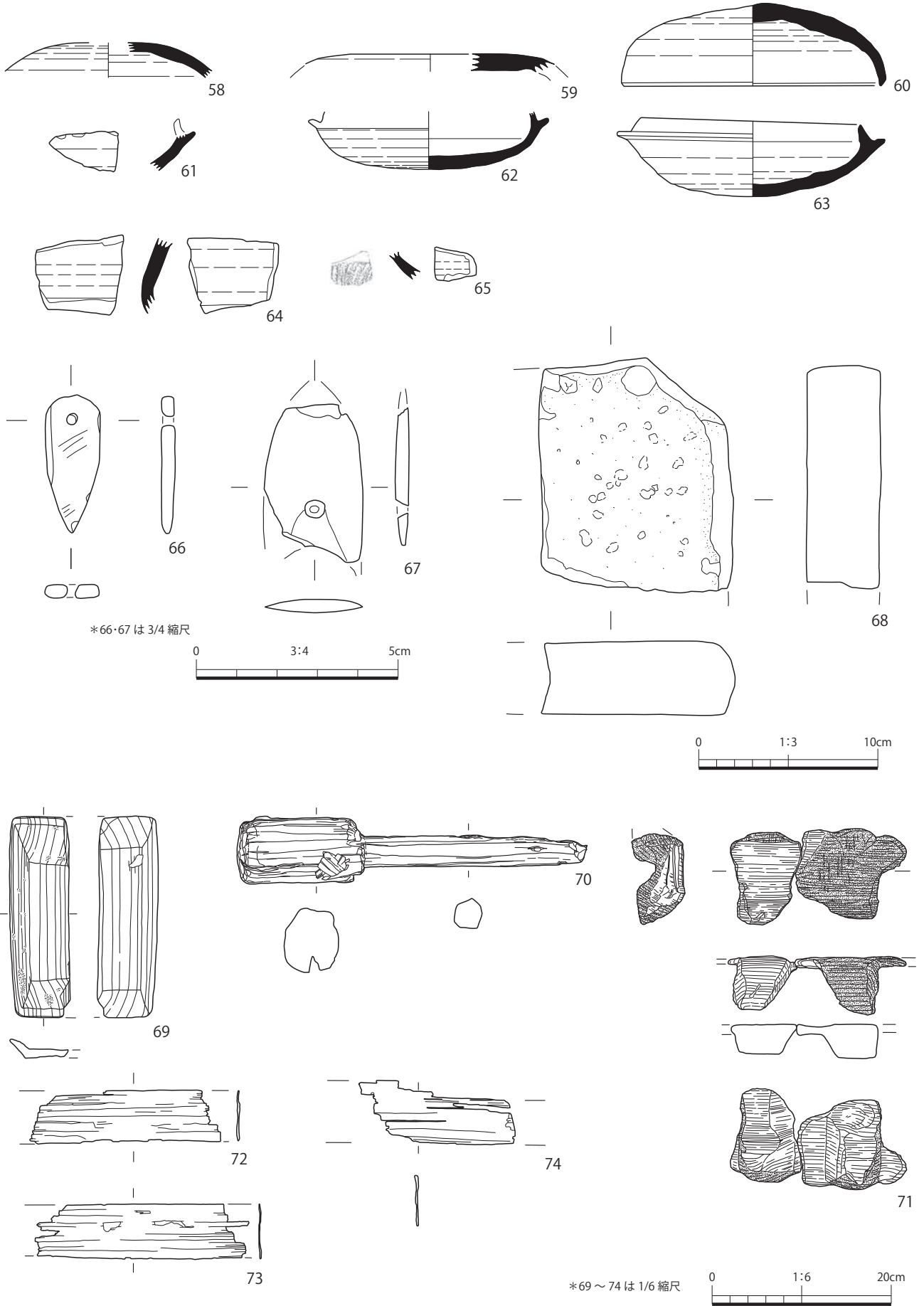
SD1



第 169 図 SD 1 ( 8 ) 出土遺物

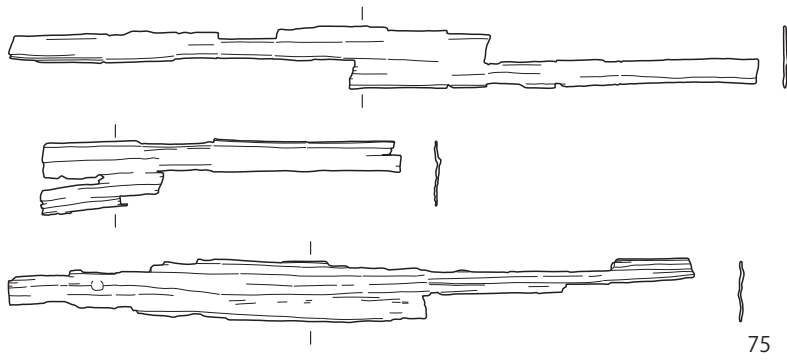


SD1

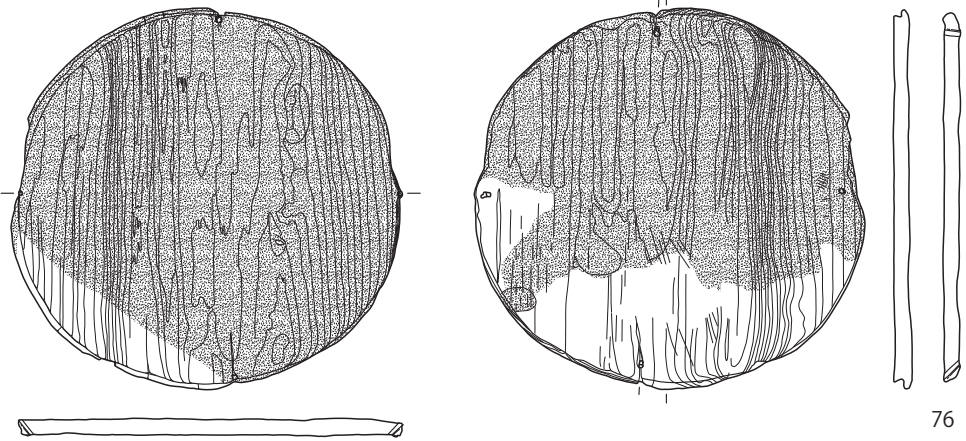


第170図 SD1 (9) 出土遺物

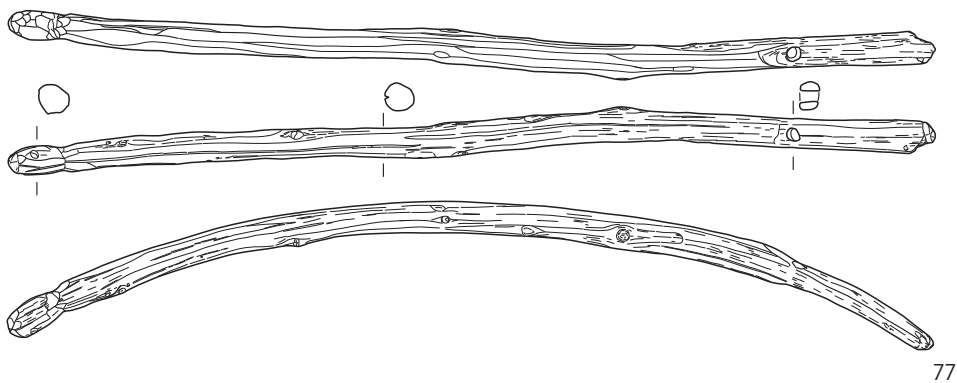
SD1



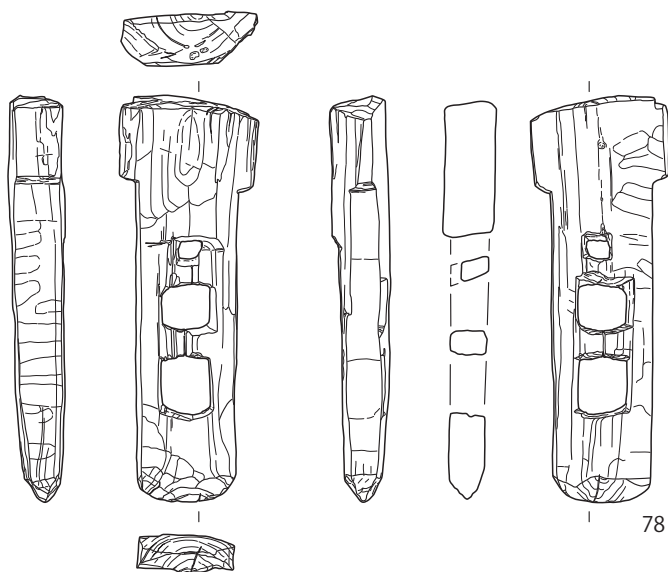
75



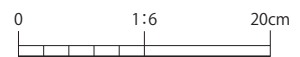
76



77

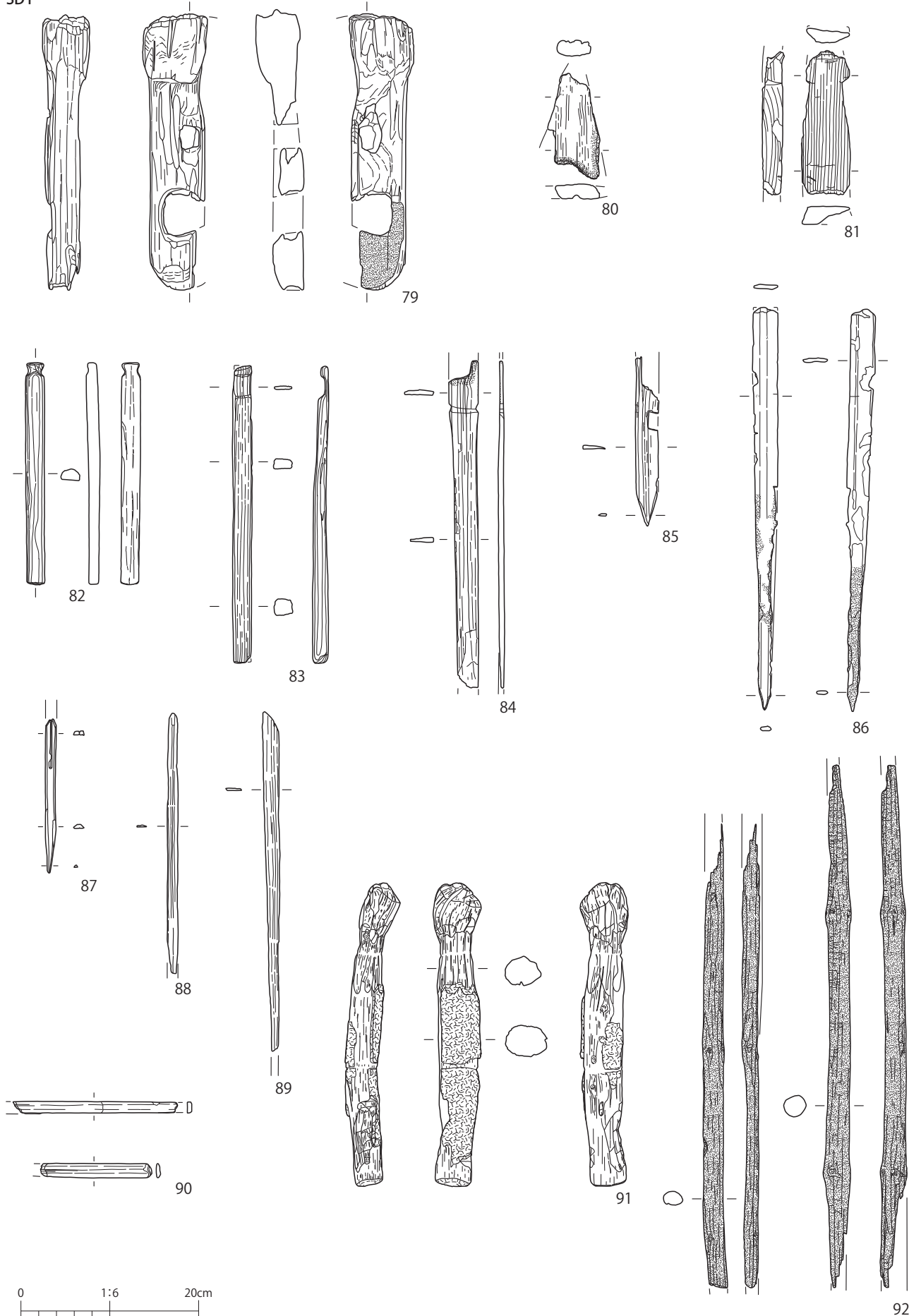


78



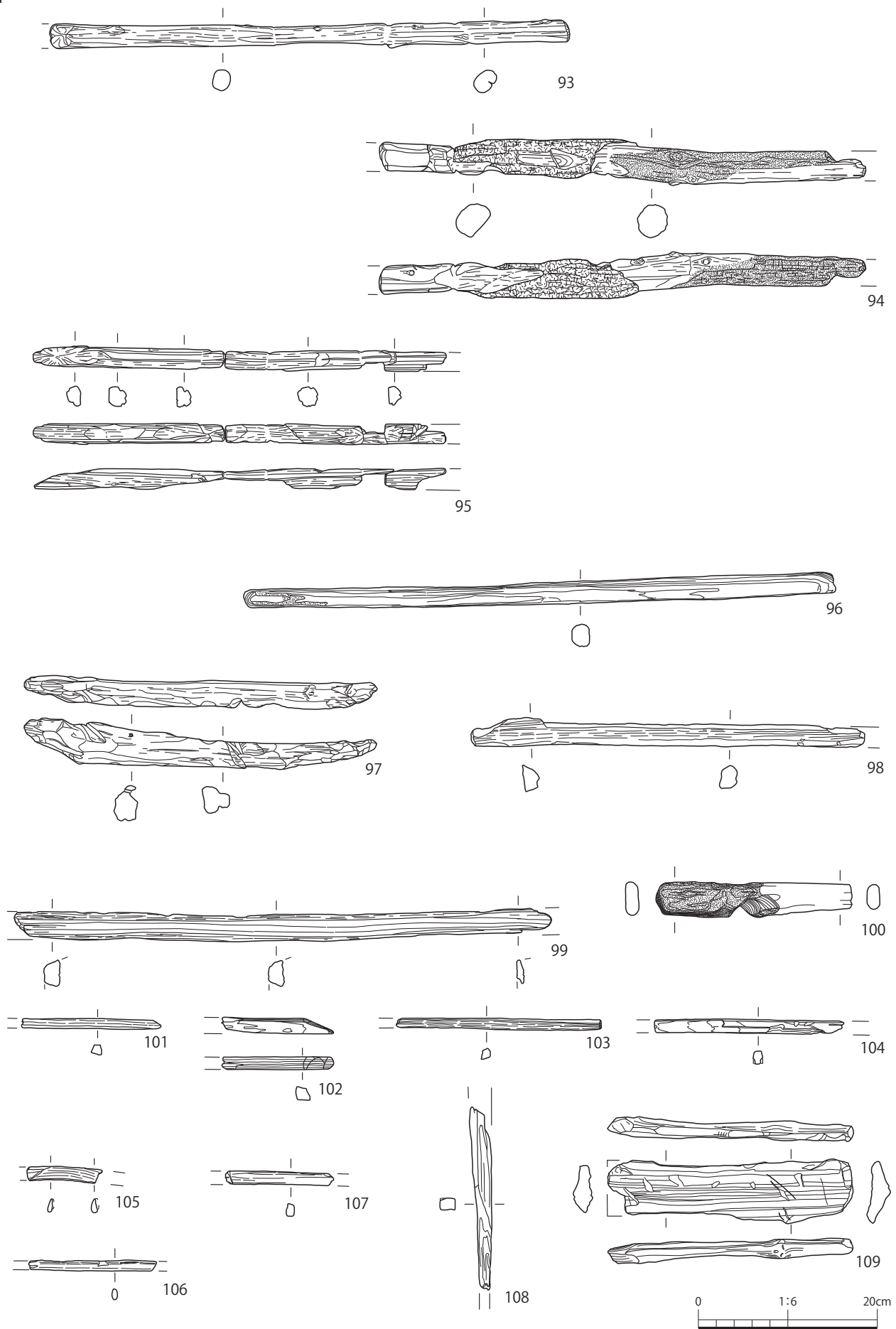
第171図 SD1 (10) 出土遺物

SD1



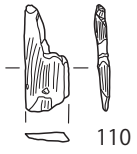
第 172 図 SD 1 (11) 出土遺物

SD1

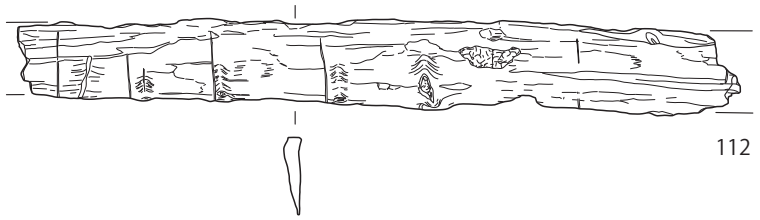


第 173 図 SD 1 (12) 出土遺物

SD1



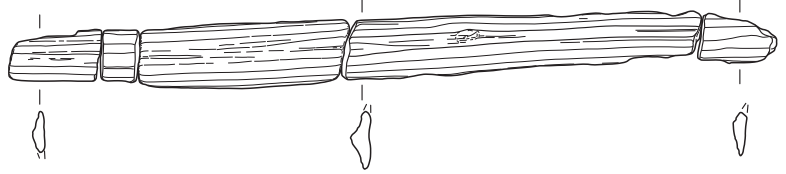
110



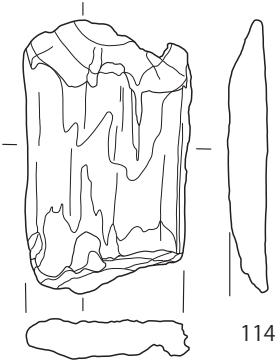
112



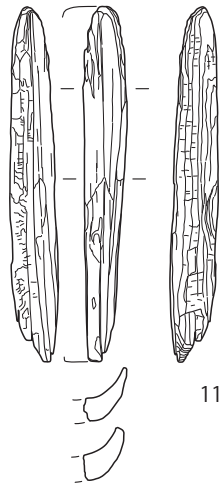
111



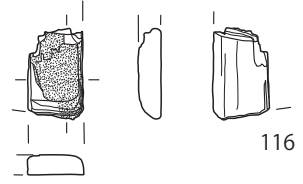
113



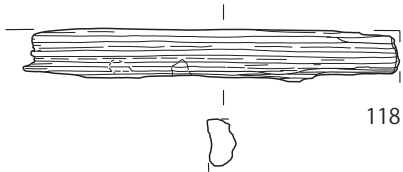
114



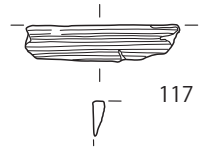
115



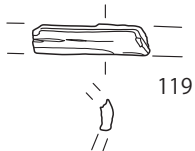
116



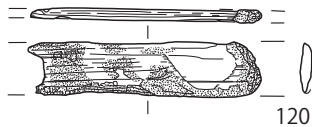
118



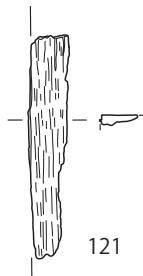
117



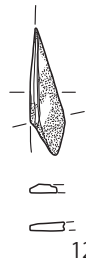
119



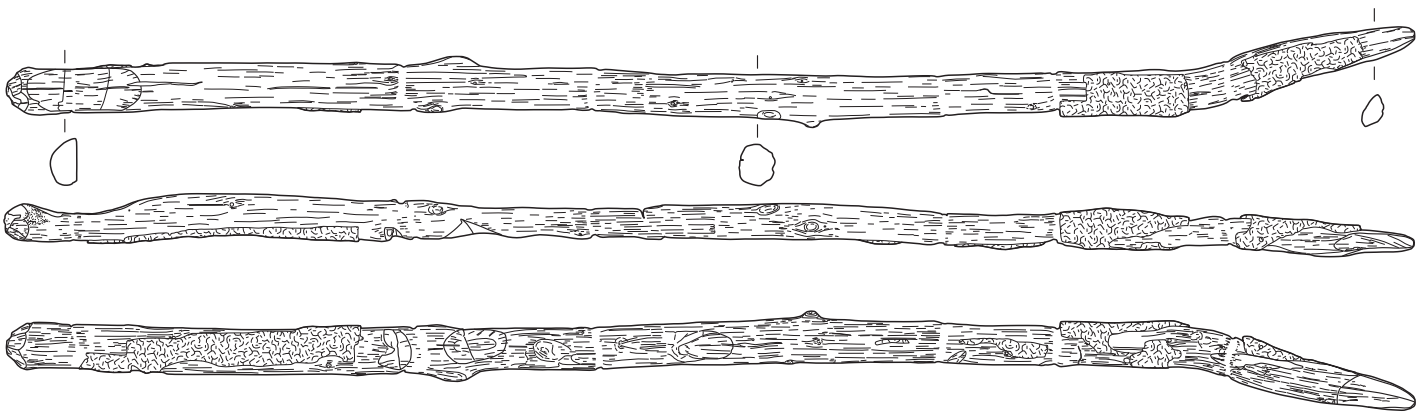
120



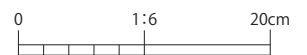
121



122

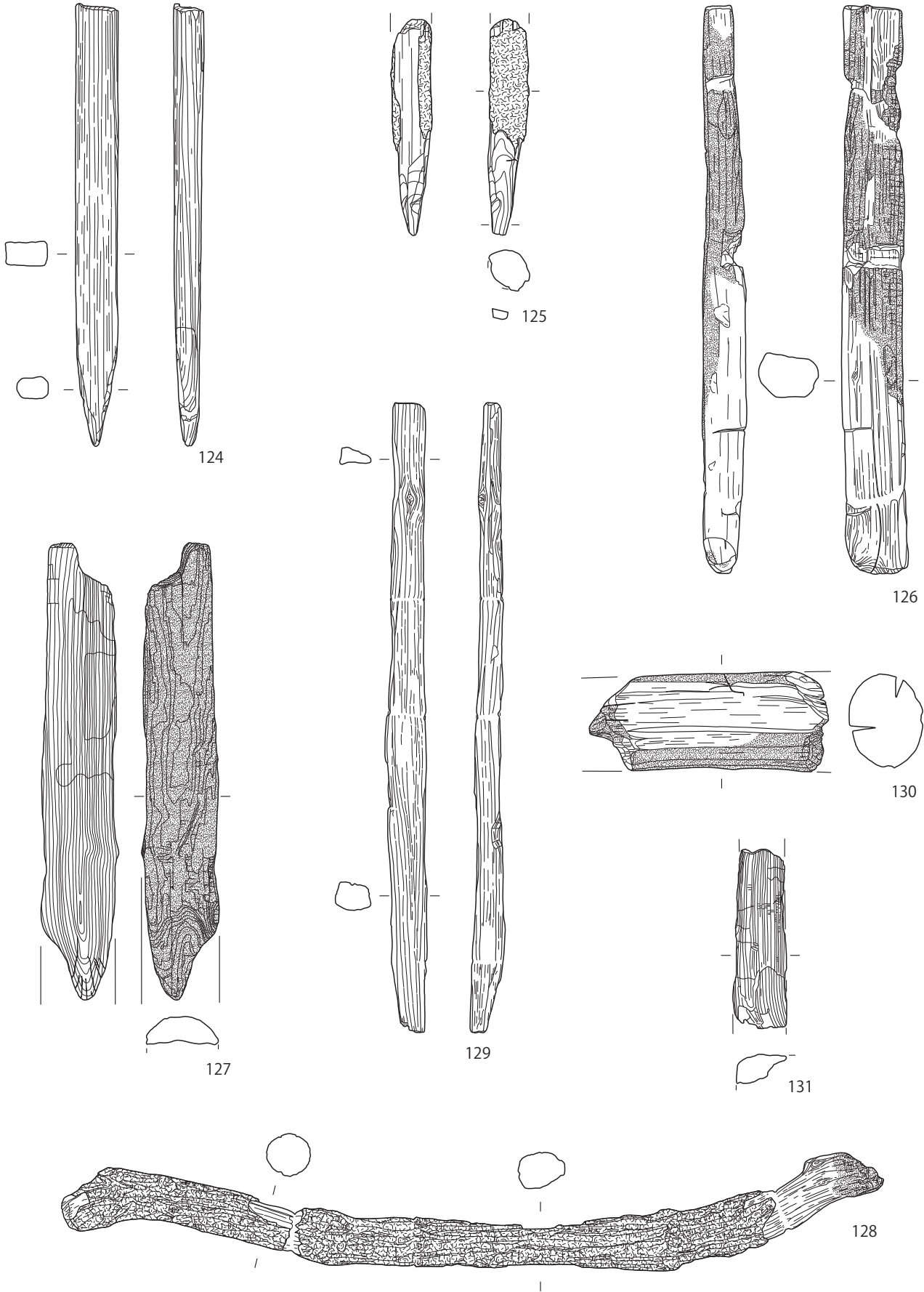


123



第 174 图 SD 1 (13) 出土遺物

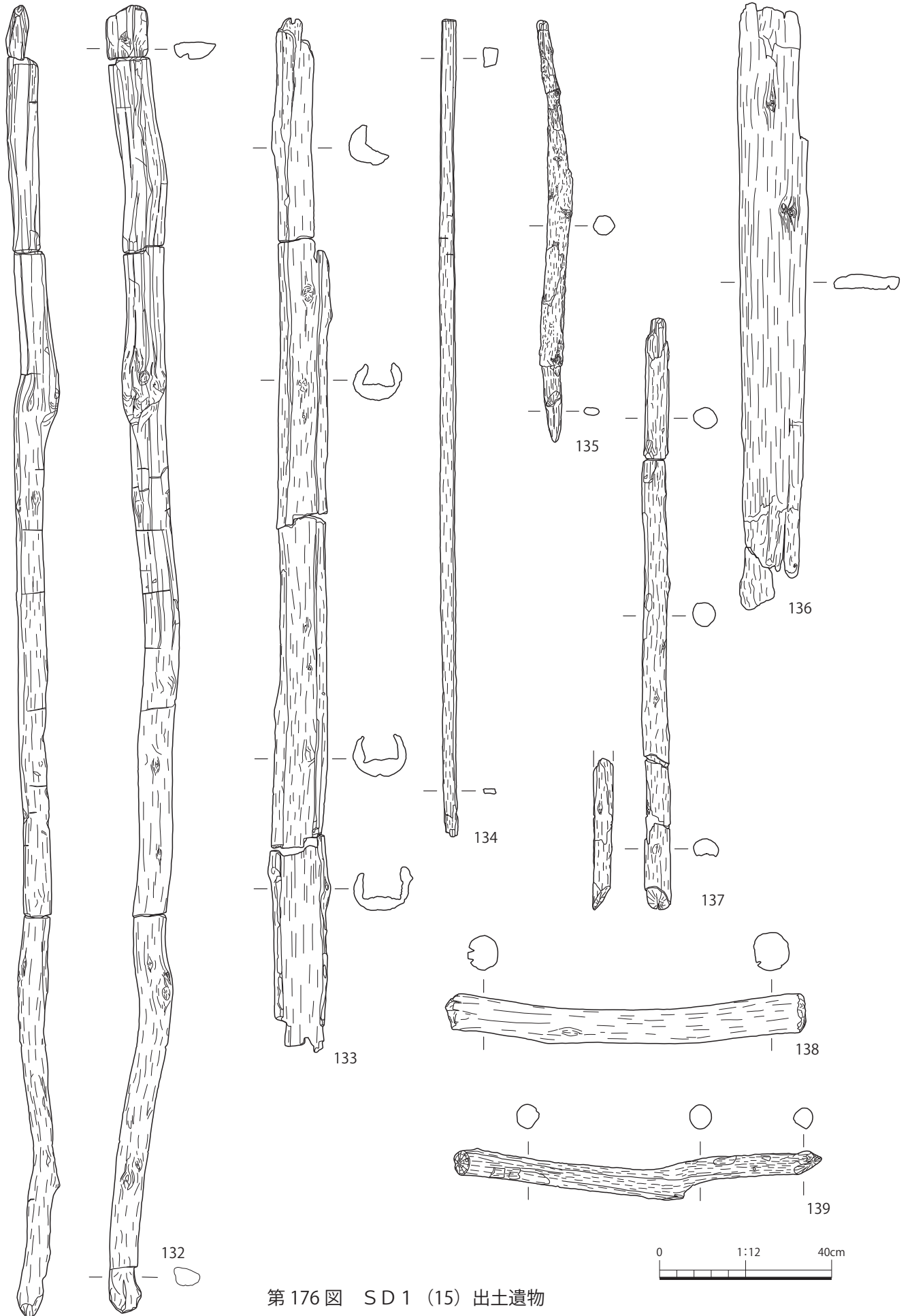
SD1



第 175 図 SD 1 (14) 出土遺物

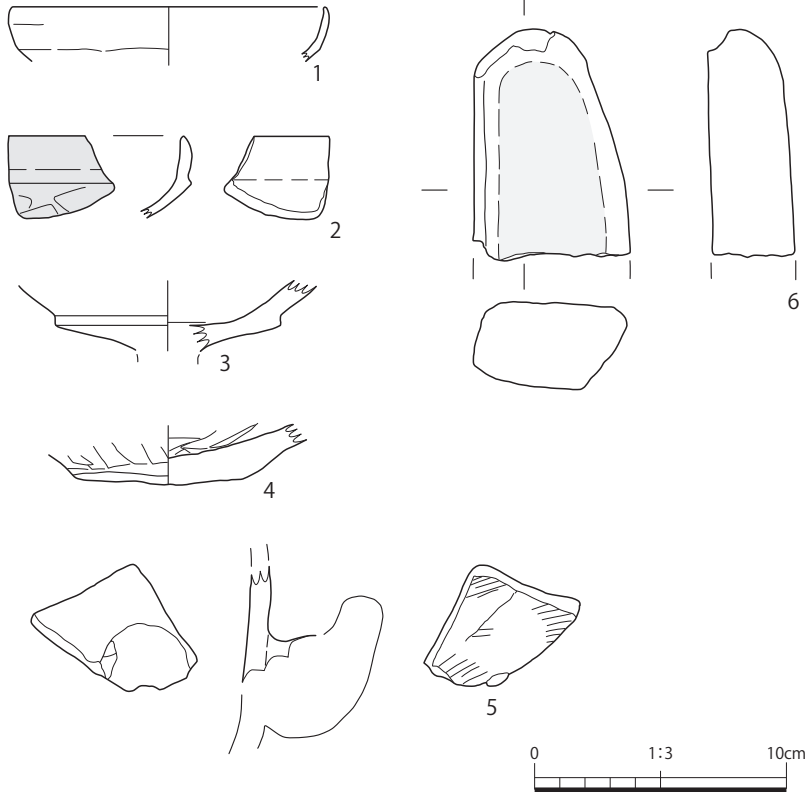
0 1:6 20cm

SD1

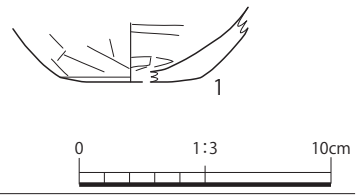


第 176 図 SD 1 (15) 出土遺物

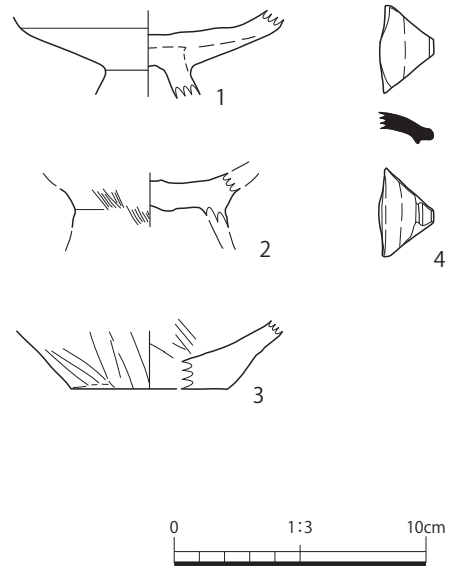
SD2



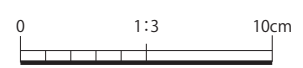
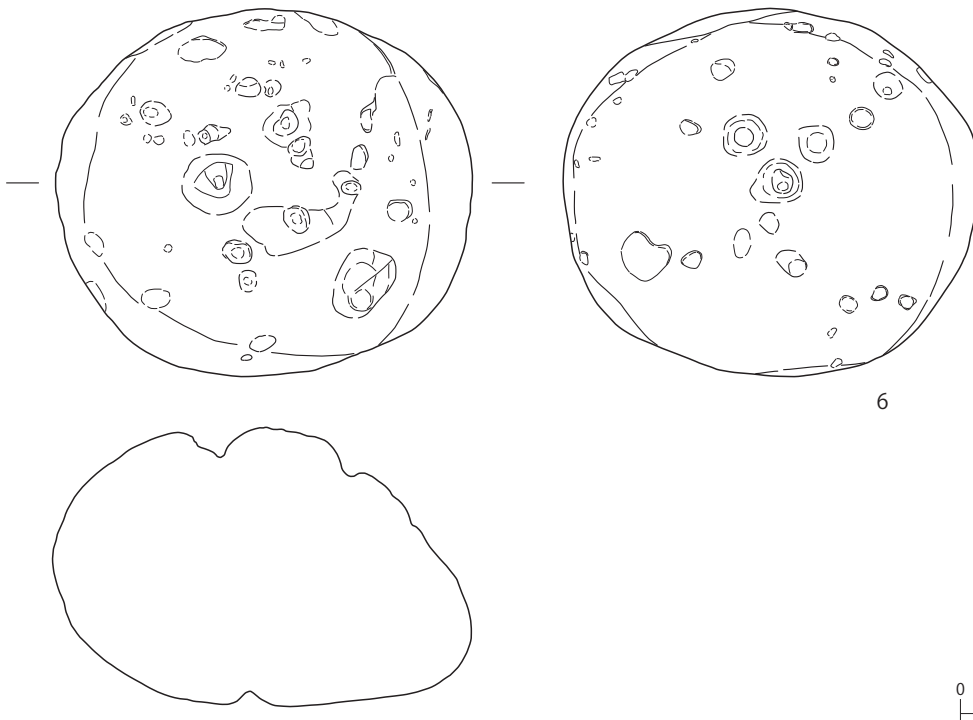
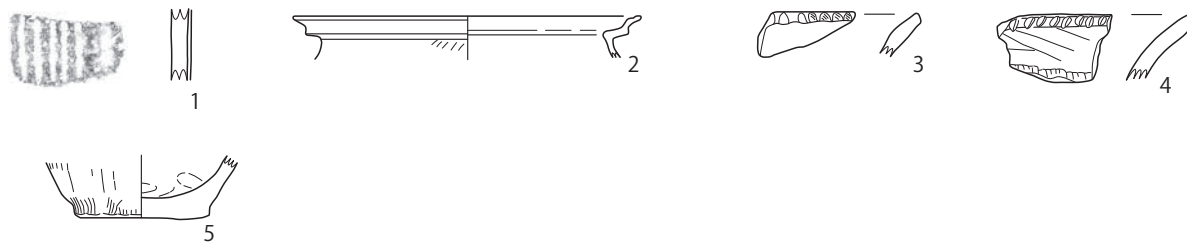
SD5



SD6



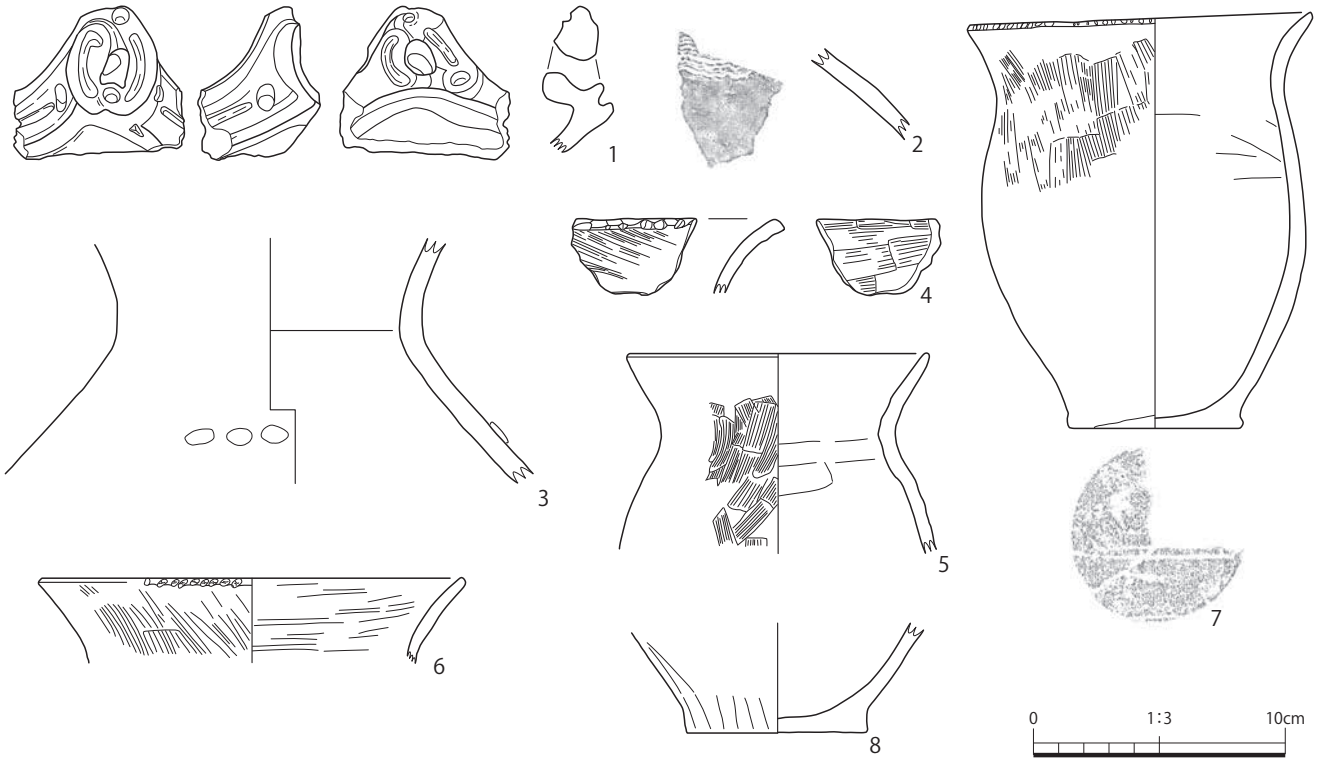
SD11



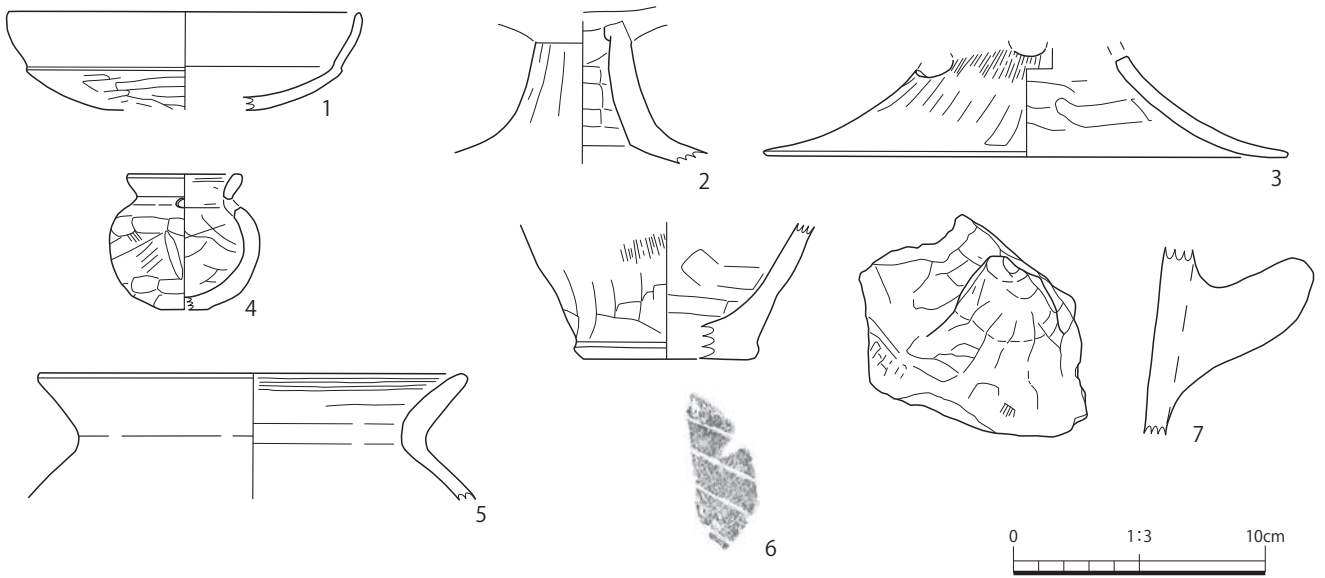
第 177 図 SD2・SD5・SD6・SD11 出土遺物



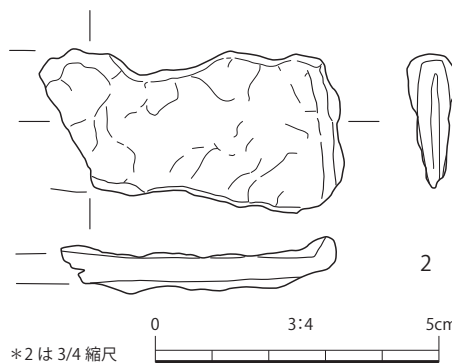
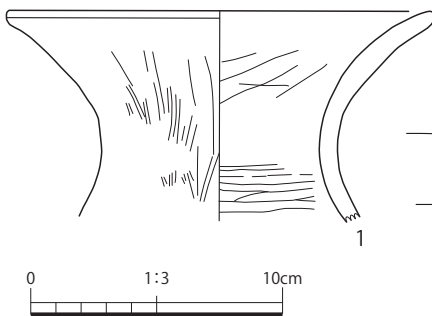
SD12



SD13

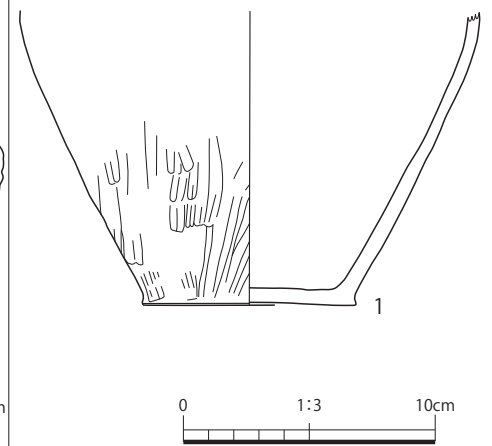


SD14



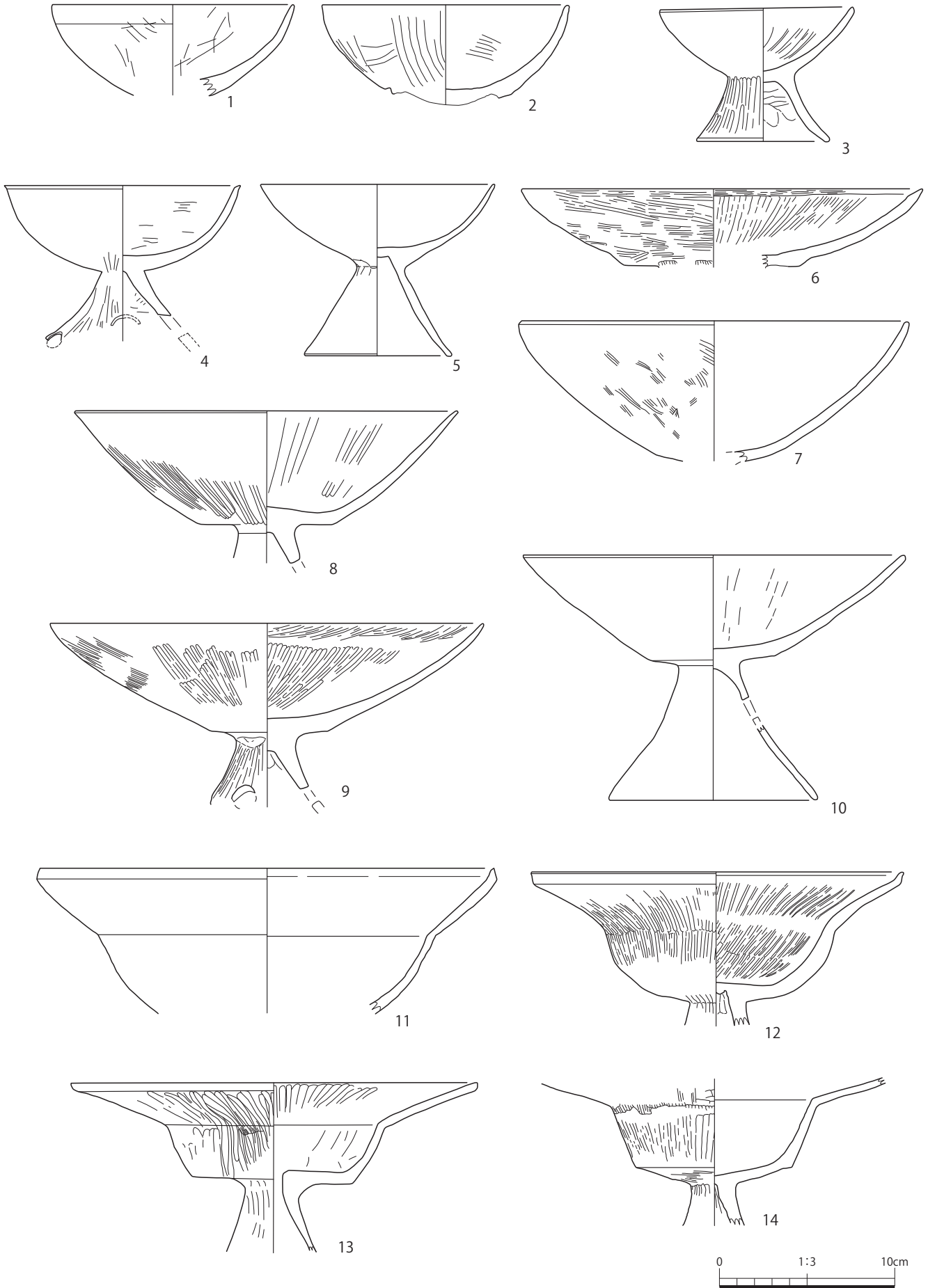
\*2は3/4縮尺

SD28

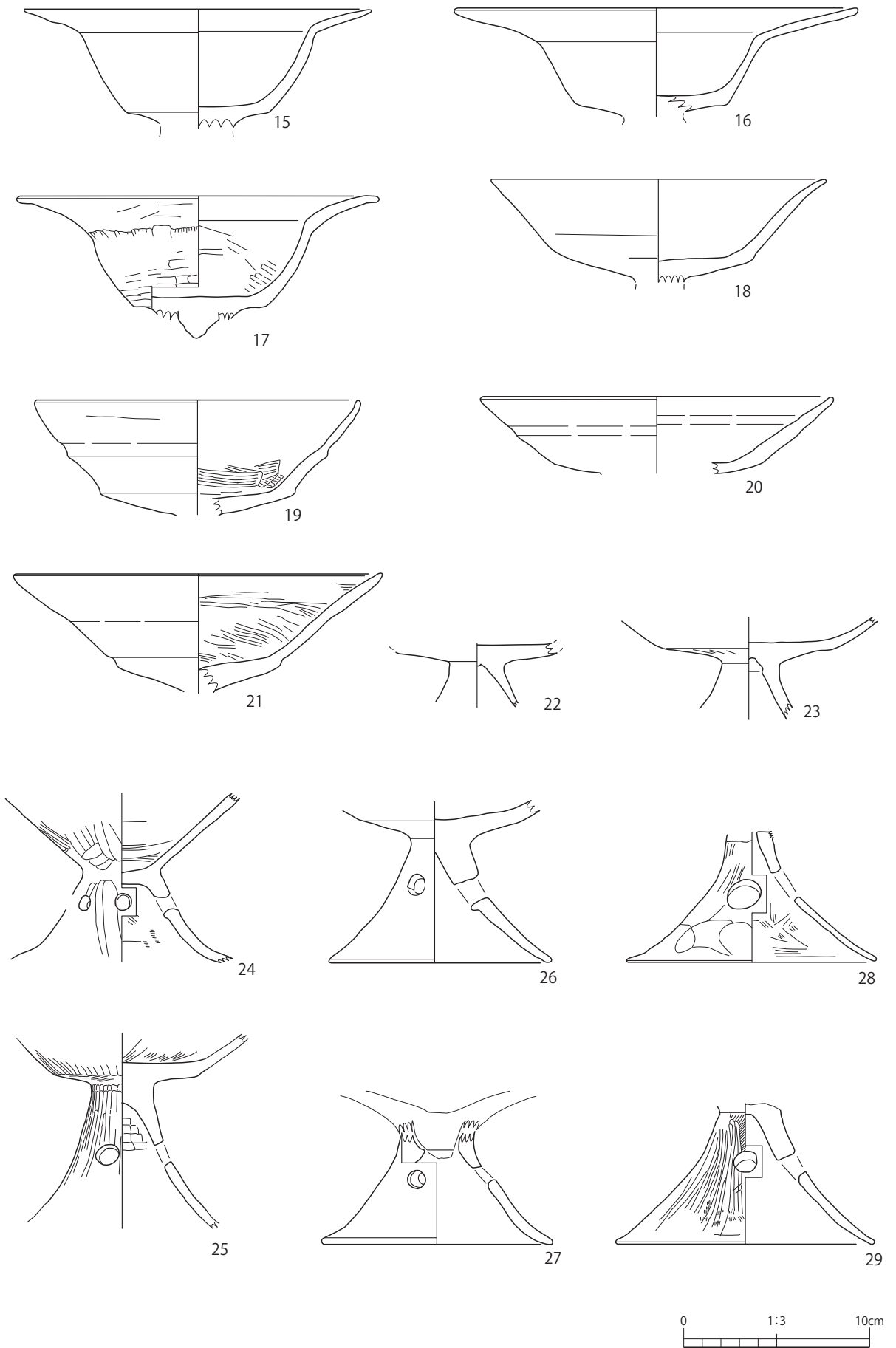


第178図 SD12・SD13・SD14・SD28 出土遺物

SD17

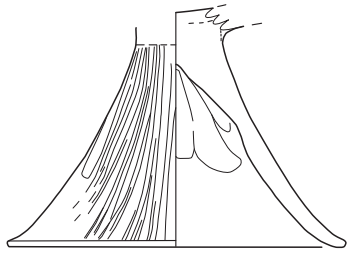


第179図 SD17 (1) 出土遺物

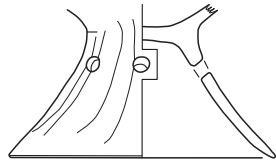


第 180 図 SD17 (2) 出土遺物

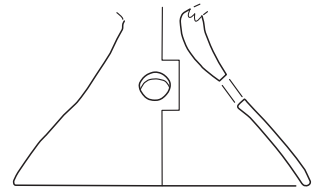
SD17



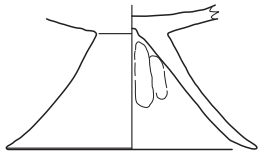
30



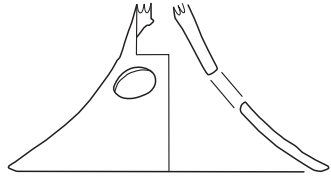
31



32



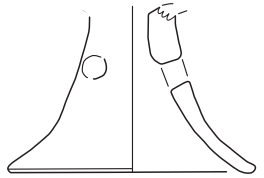
33



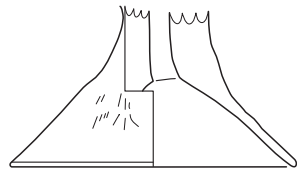
34



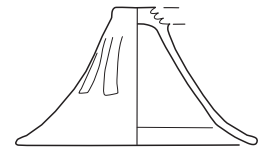
35



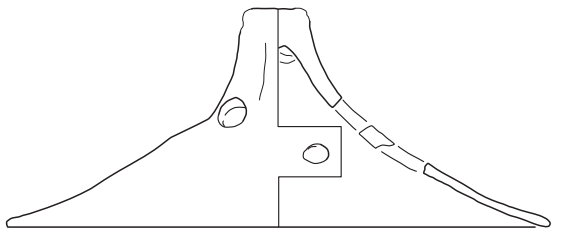
36



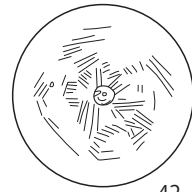
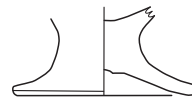
37



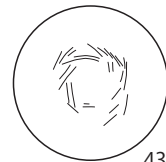
38



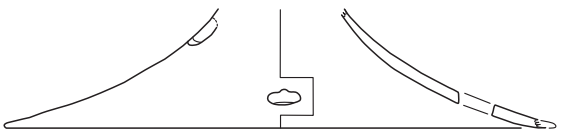
39



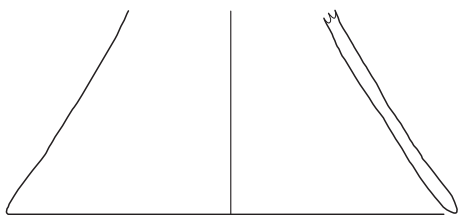
42



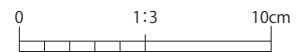
43



40

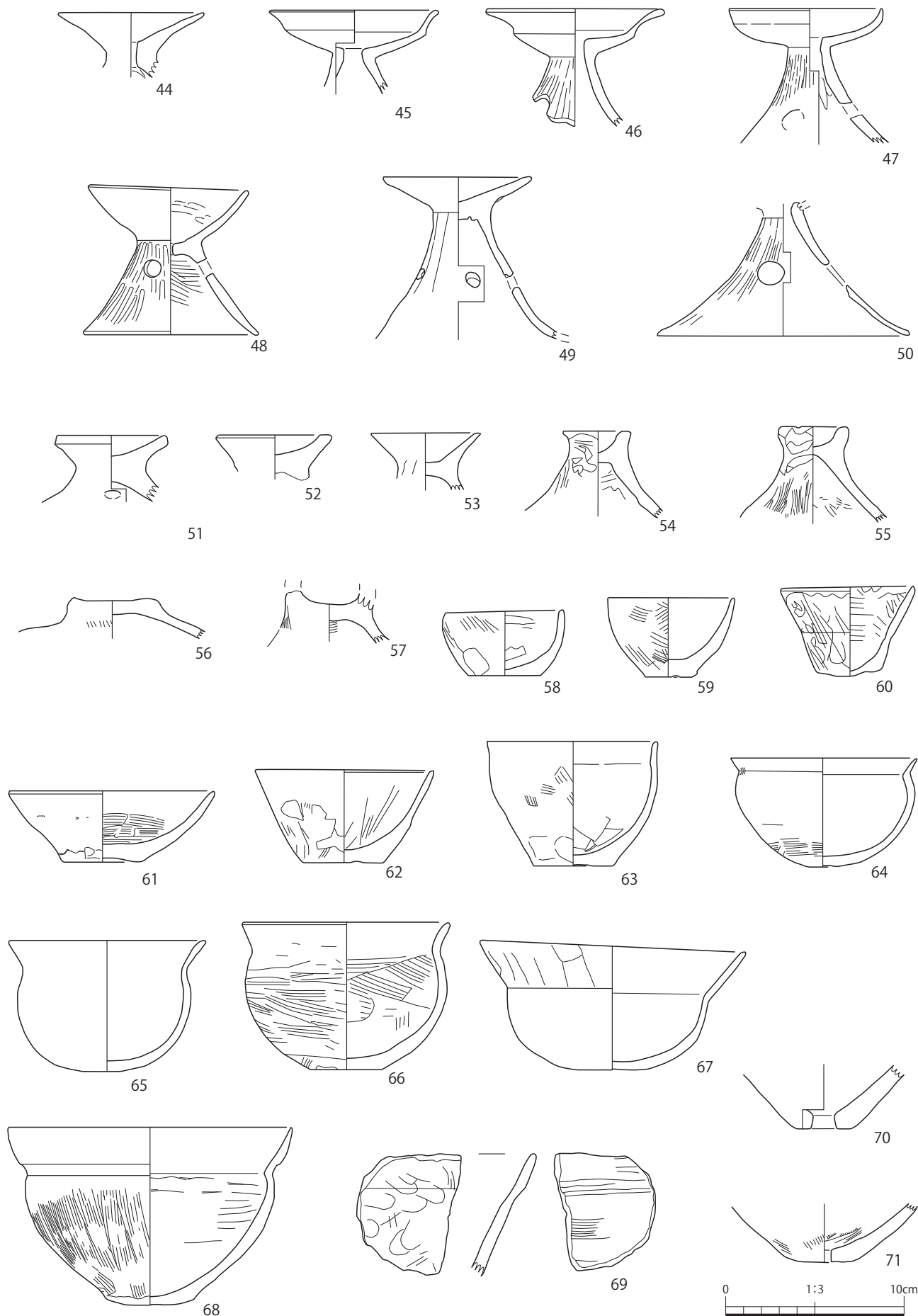


41

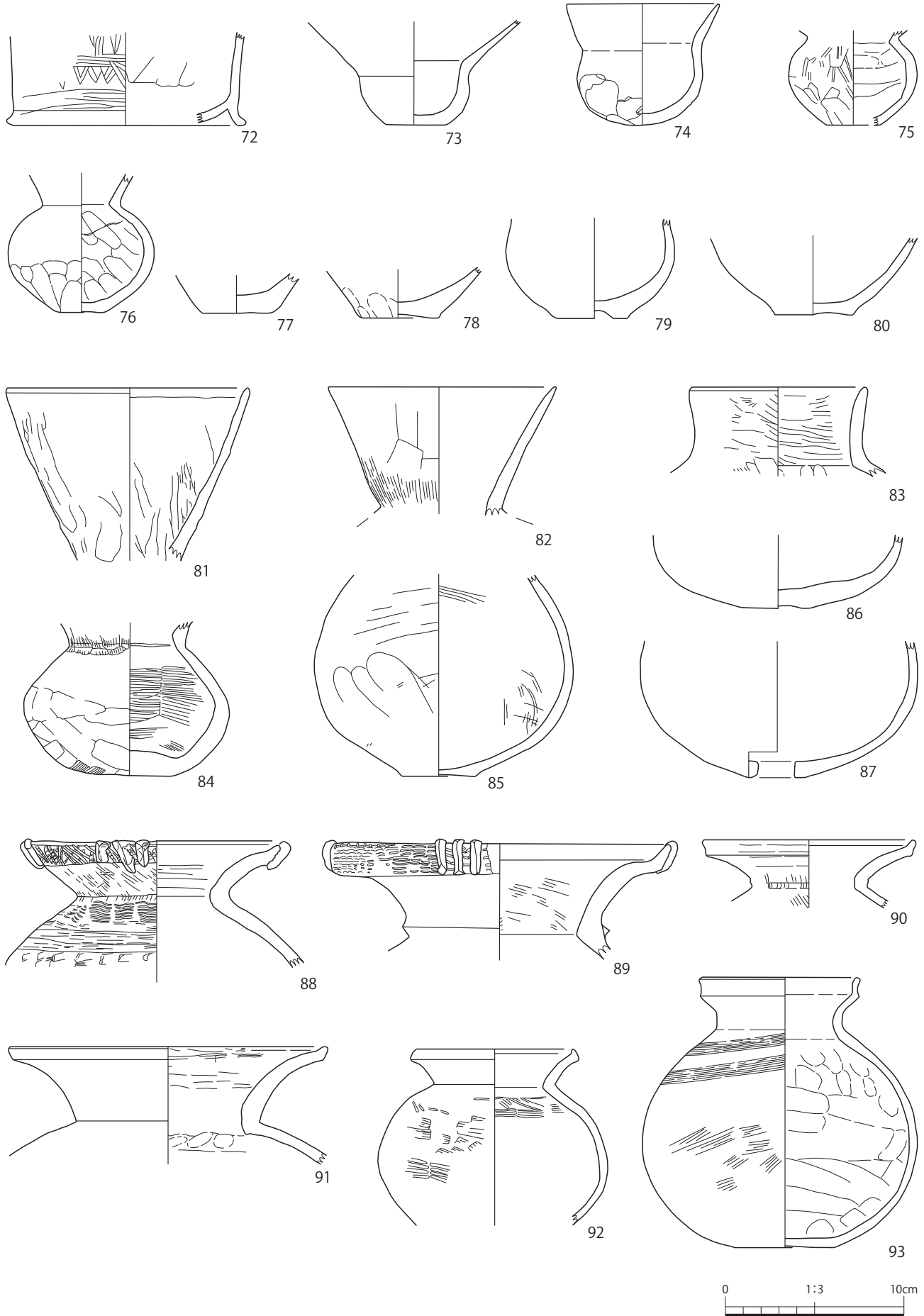


第 181 图 SD17 (3) 出土遺物

SD17

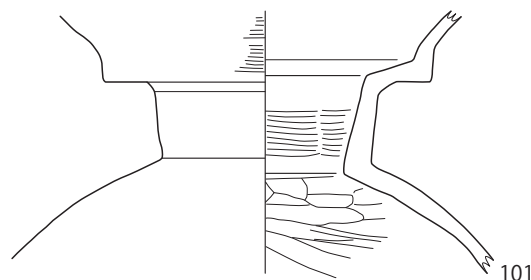
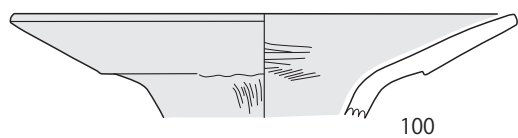
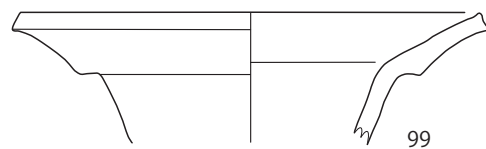
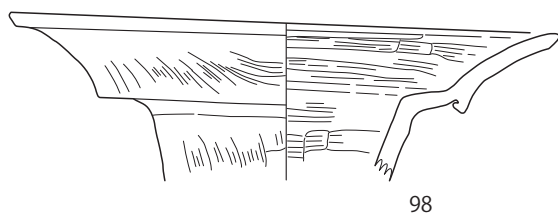
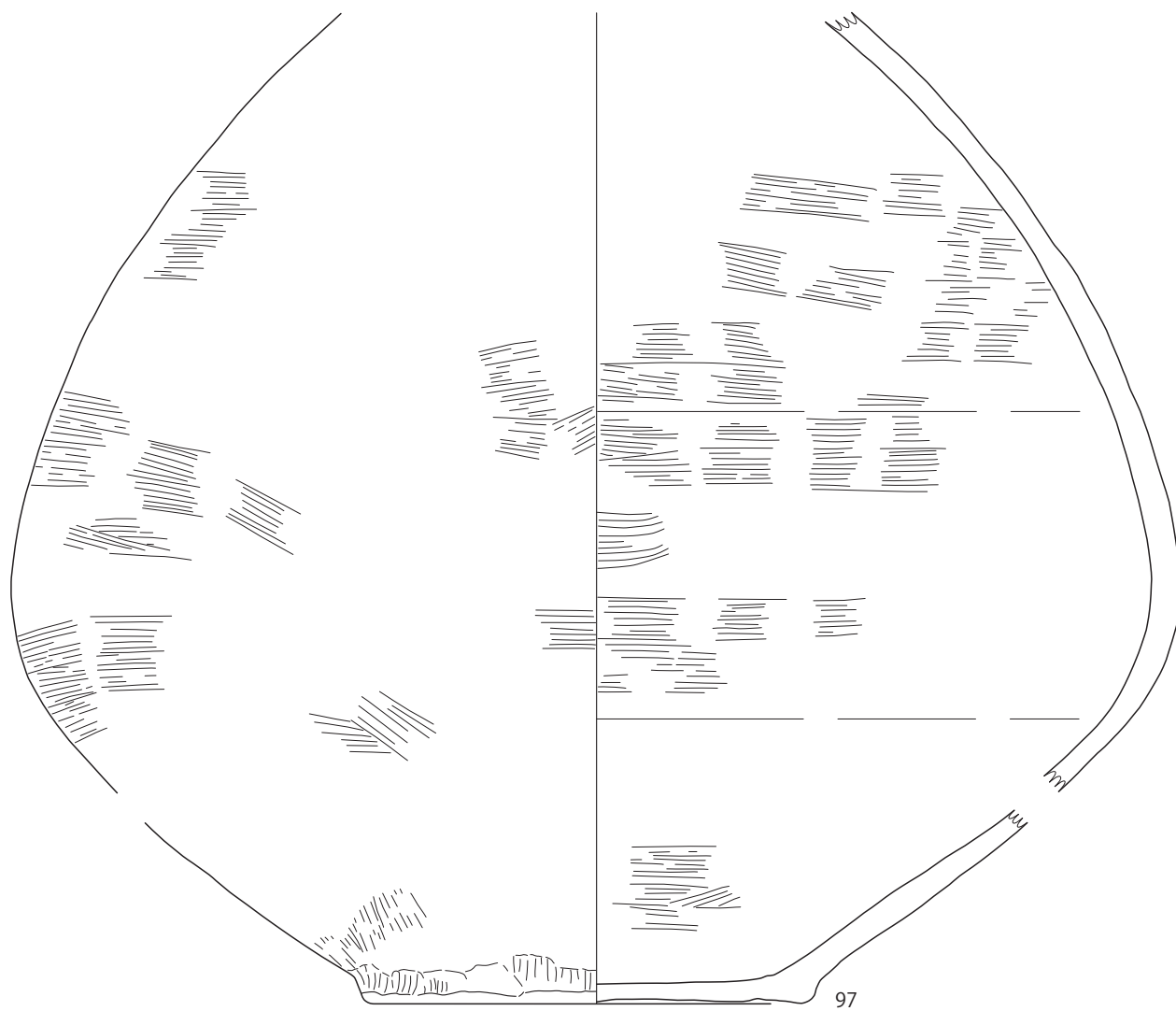
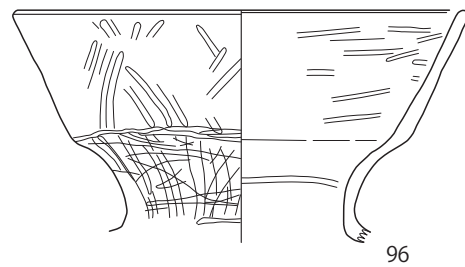
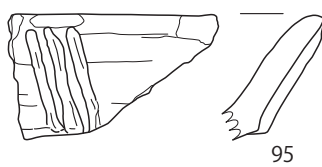
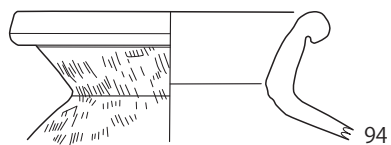


第 182 图 SD17 (4) 出土遺物



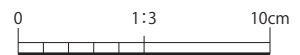
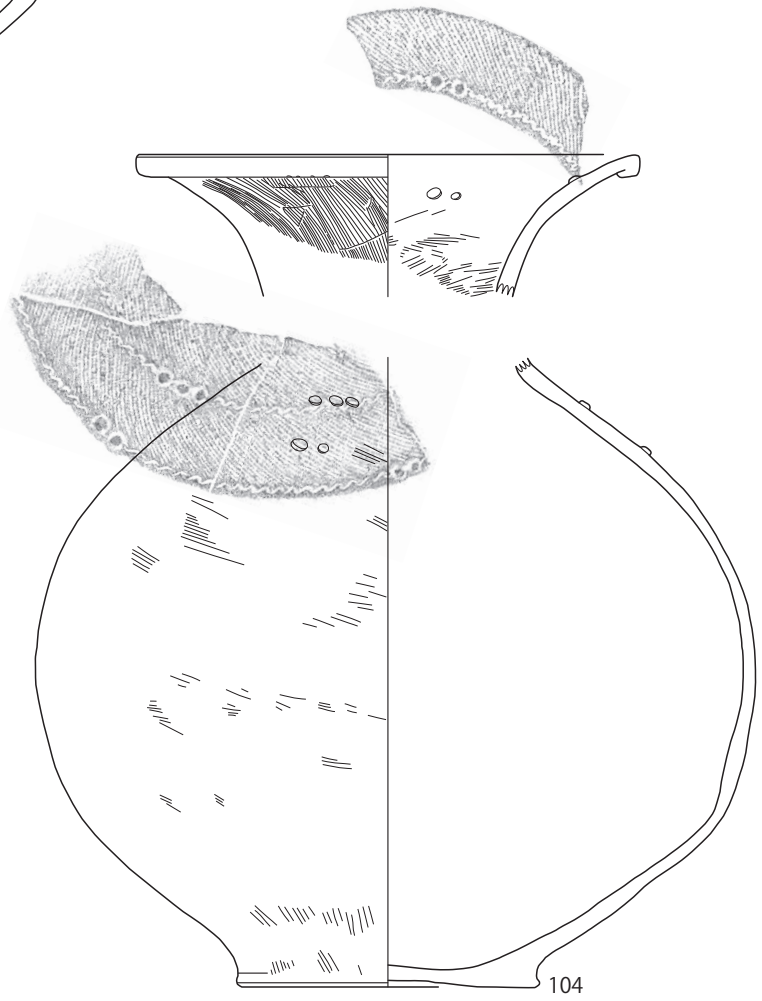
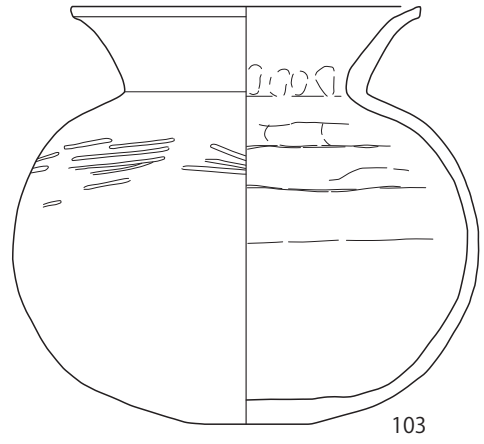
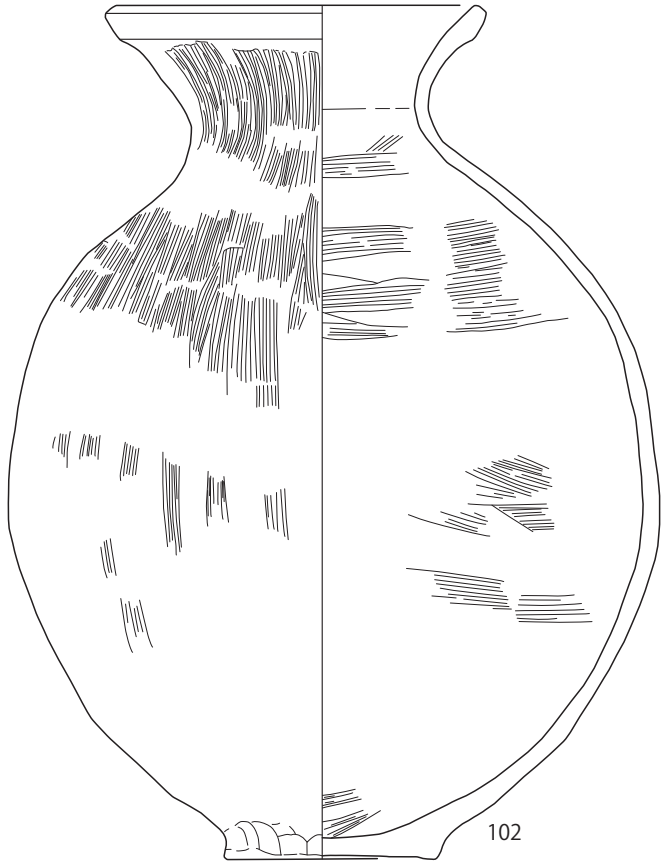
第 183 图 SD17 (5) 出土遺物

SD17



第 184 图 SD17 (6) 出土遺物

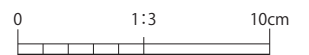
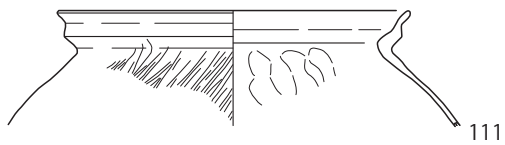
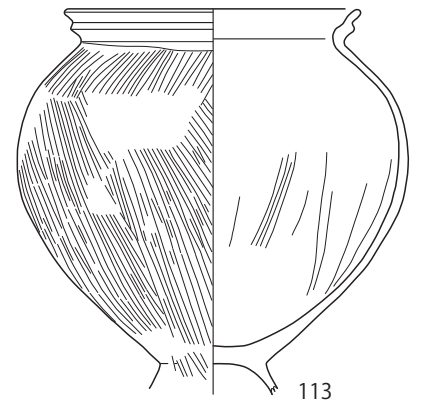
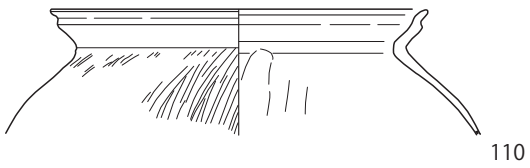
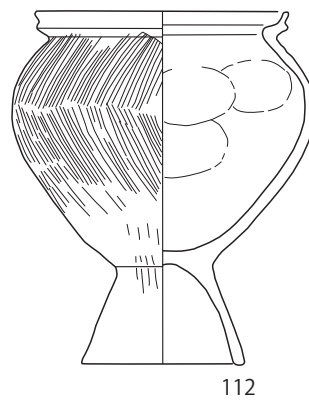
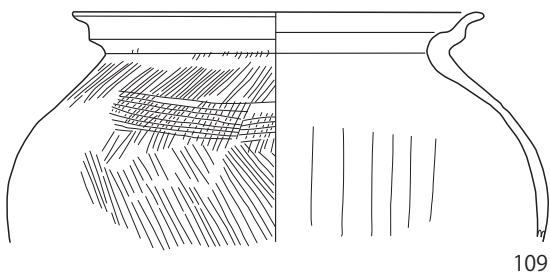
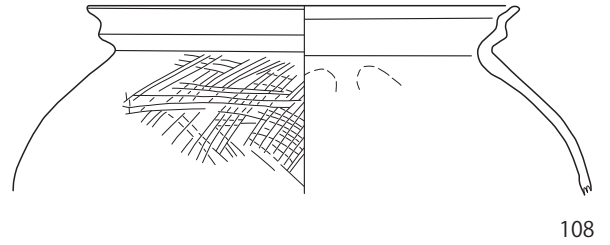
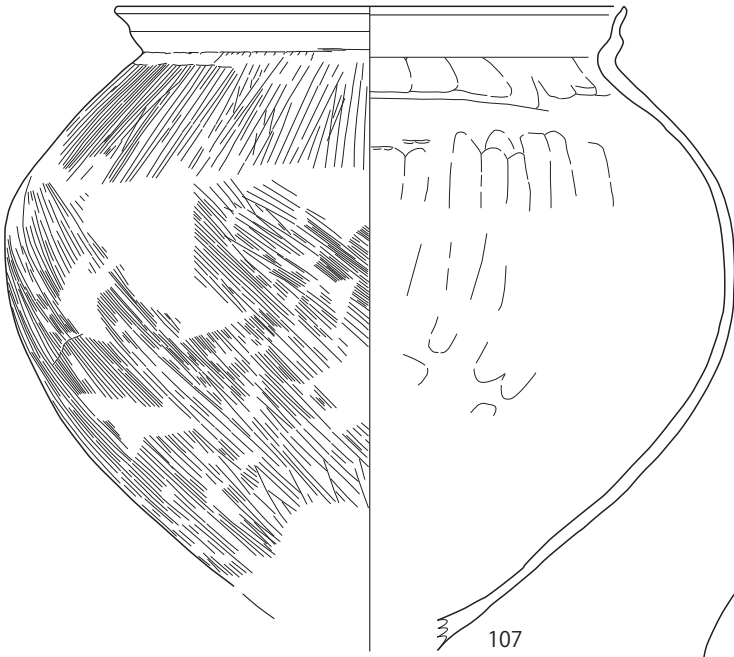
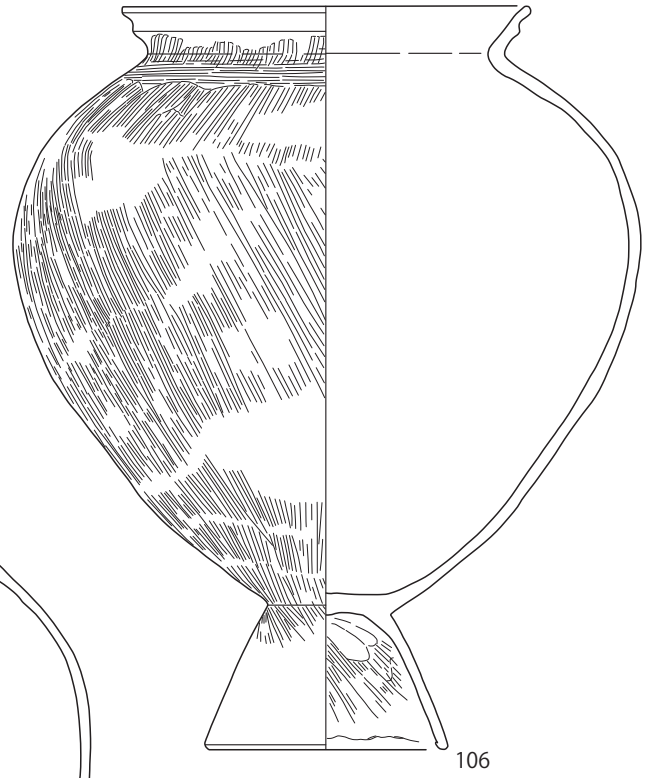
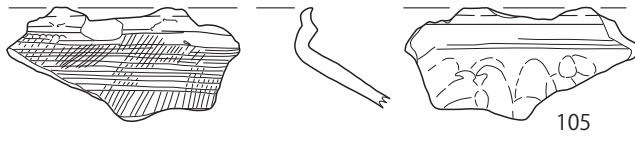
SD17



第 185 図 SD17 (7) 出土遺物

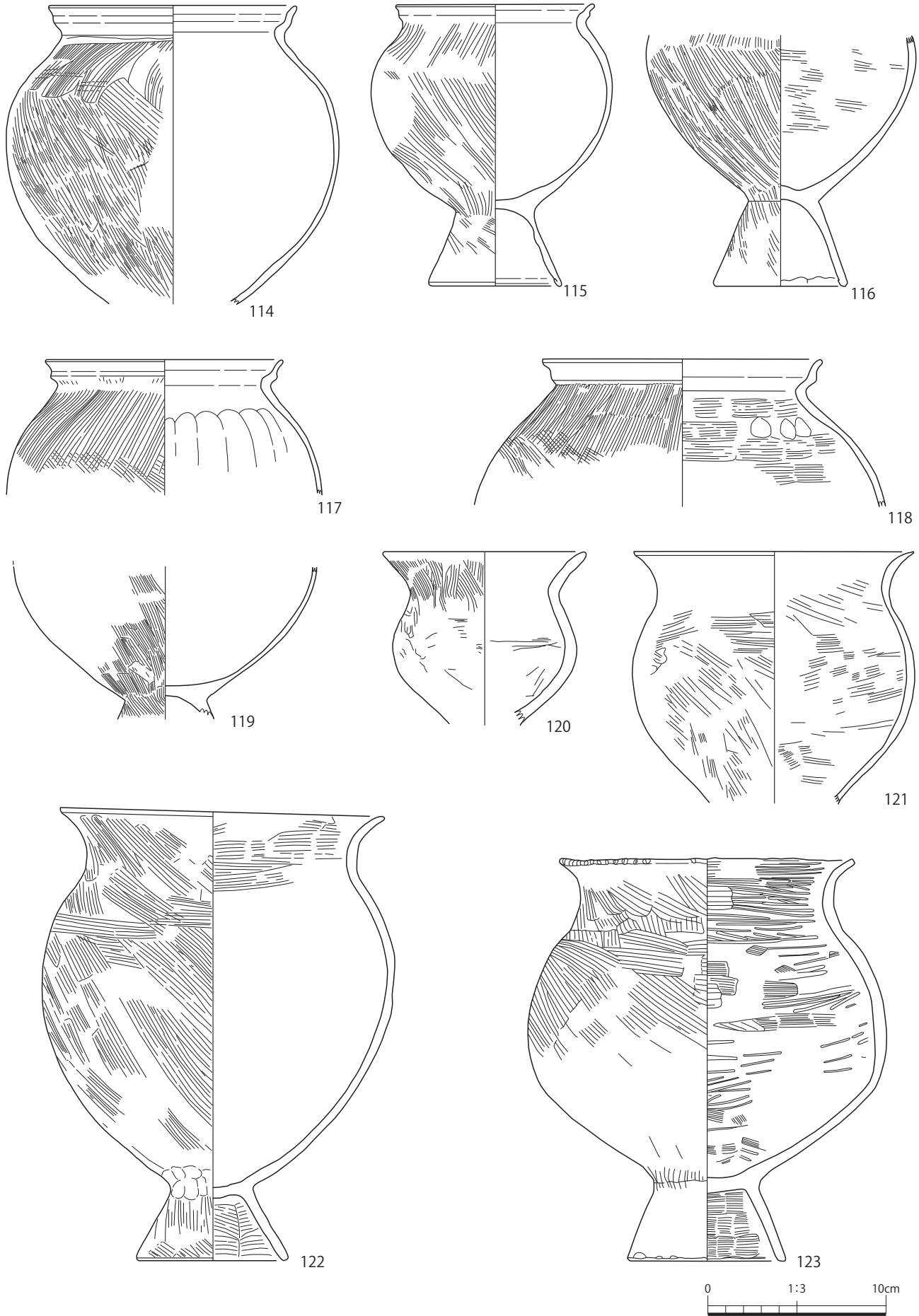


SD17



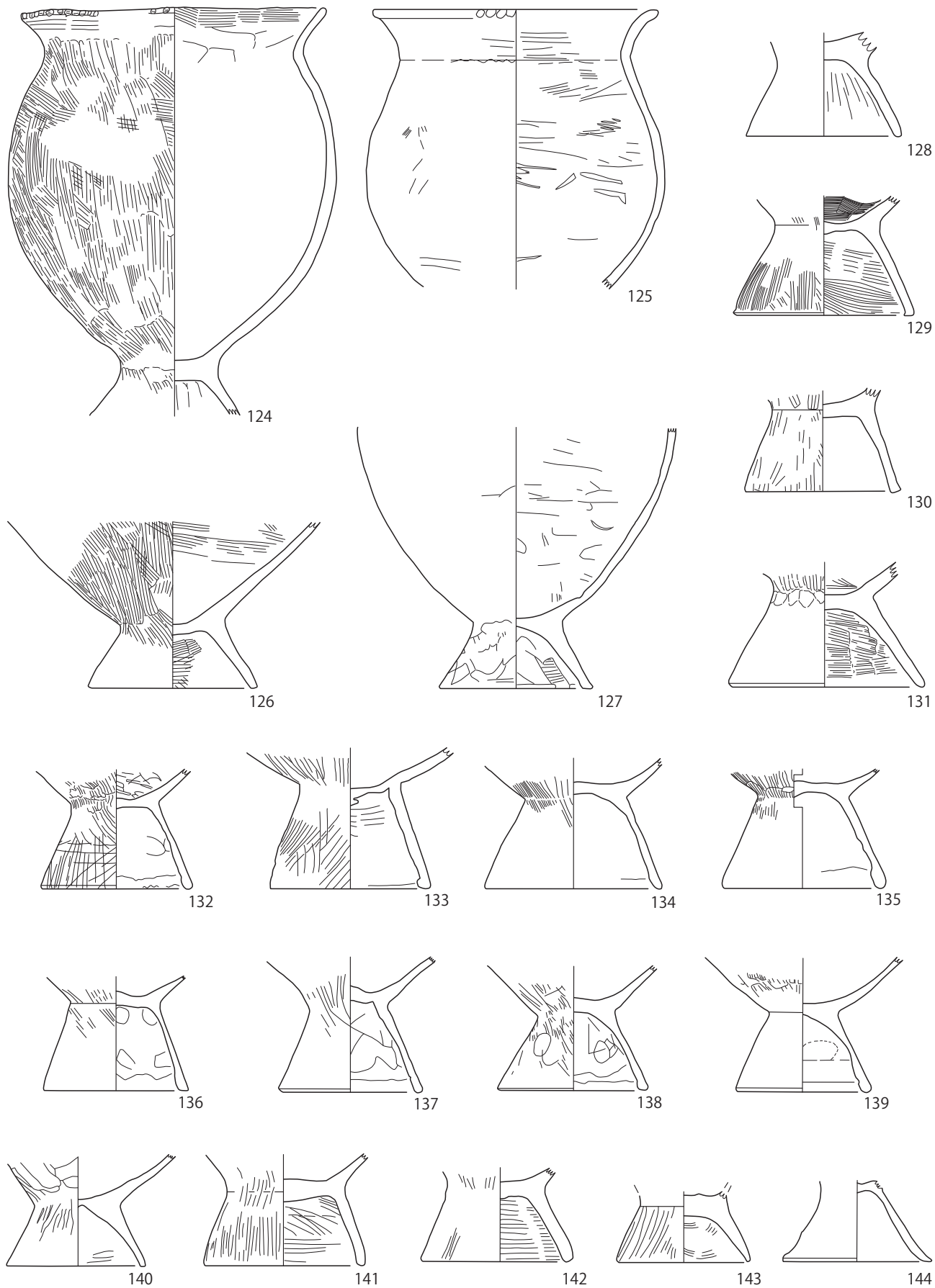
第 186 图 SD17 (8) 出土遺物

SD17



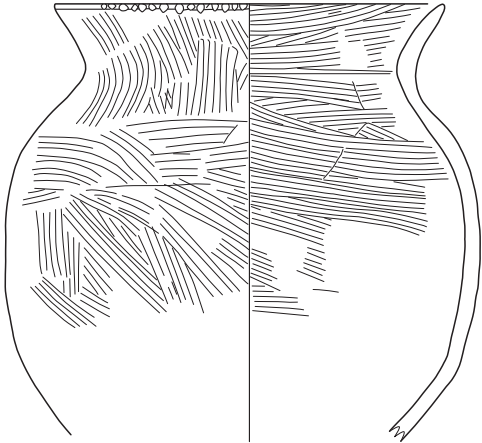
第 187 图 SD17 (9) 出土遺物

SD17

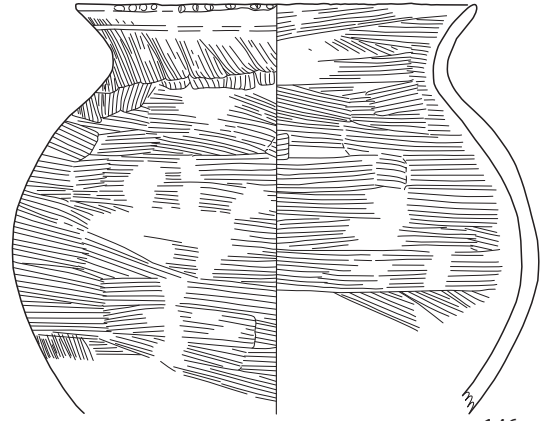


第 188 图 SD17 (10) 出土遺物

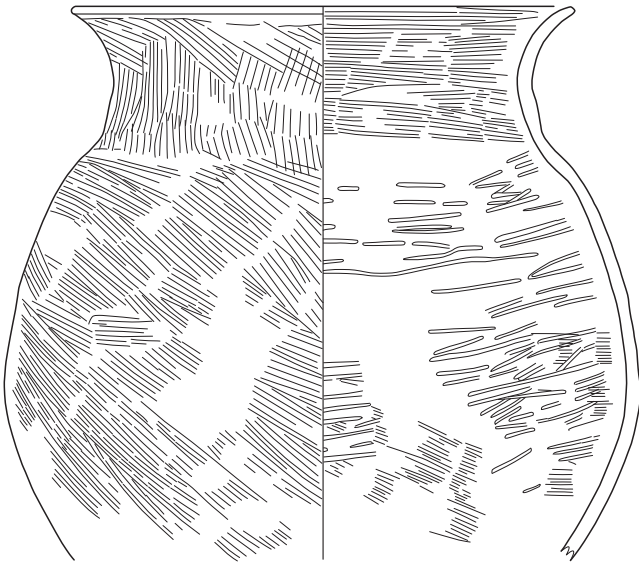
SD17



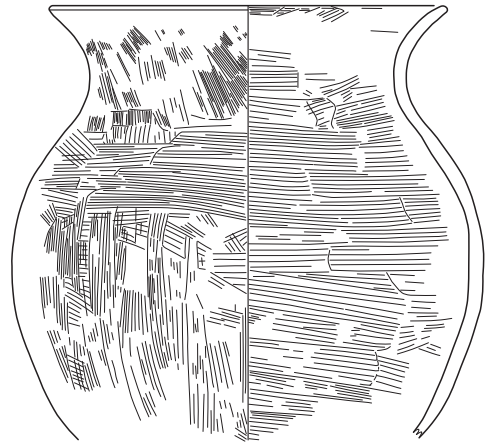
145



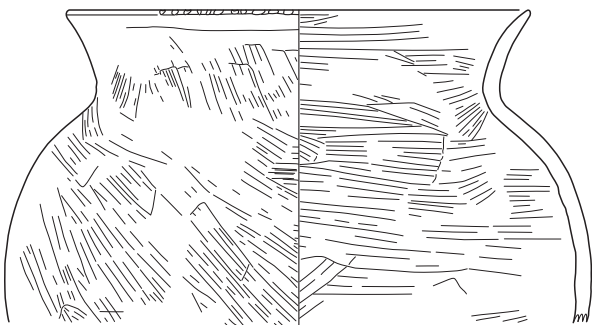
146



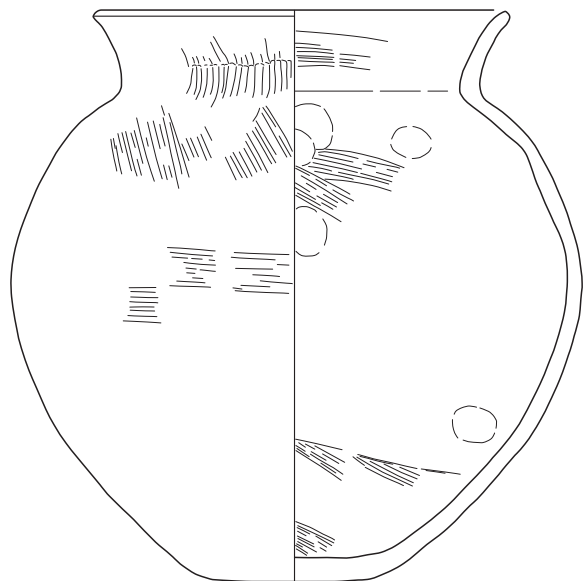
147



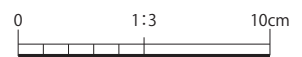
148



149

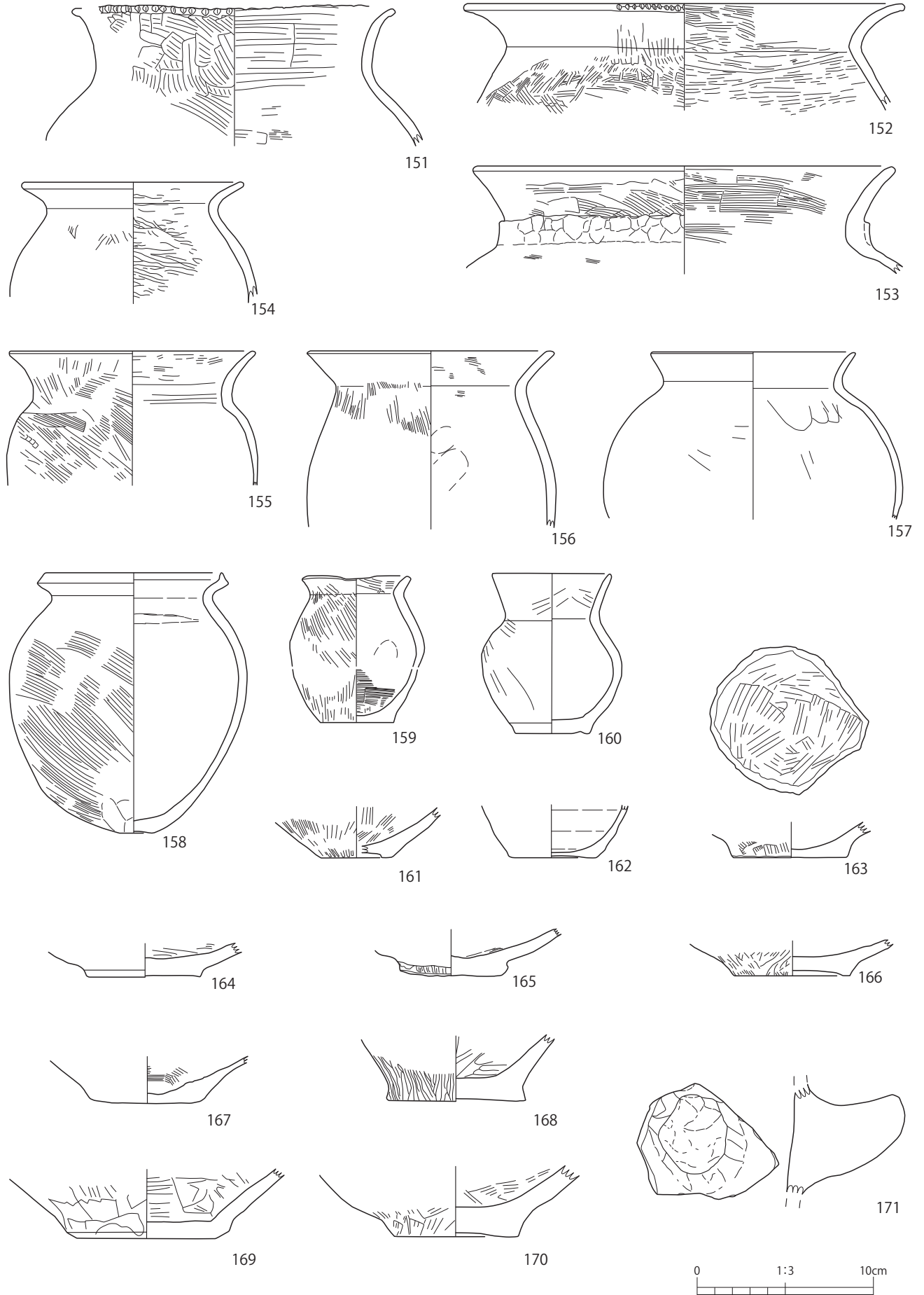


150



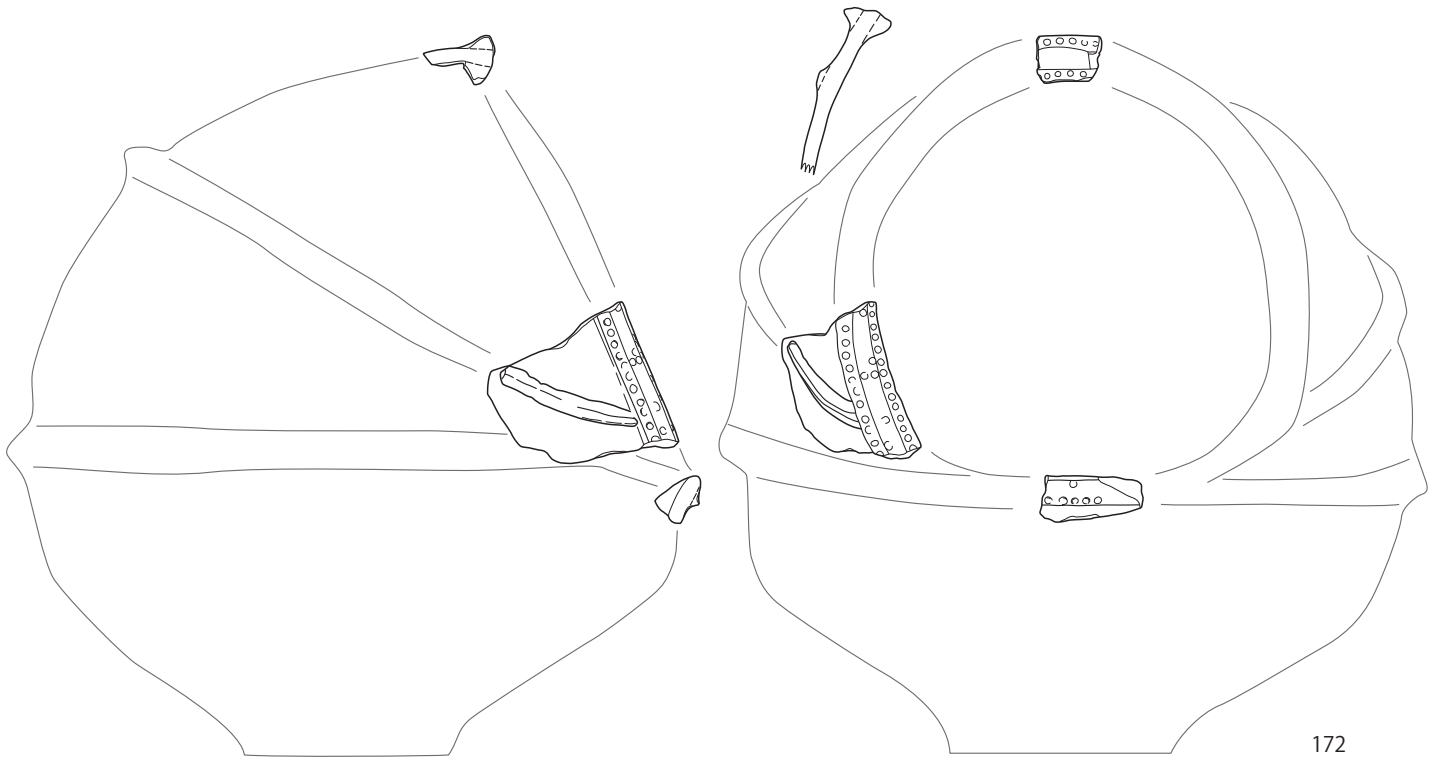
第 189 図 SD17 (11) 出土遺物

SD17

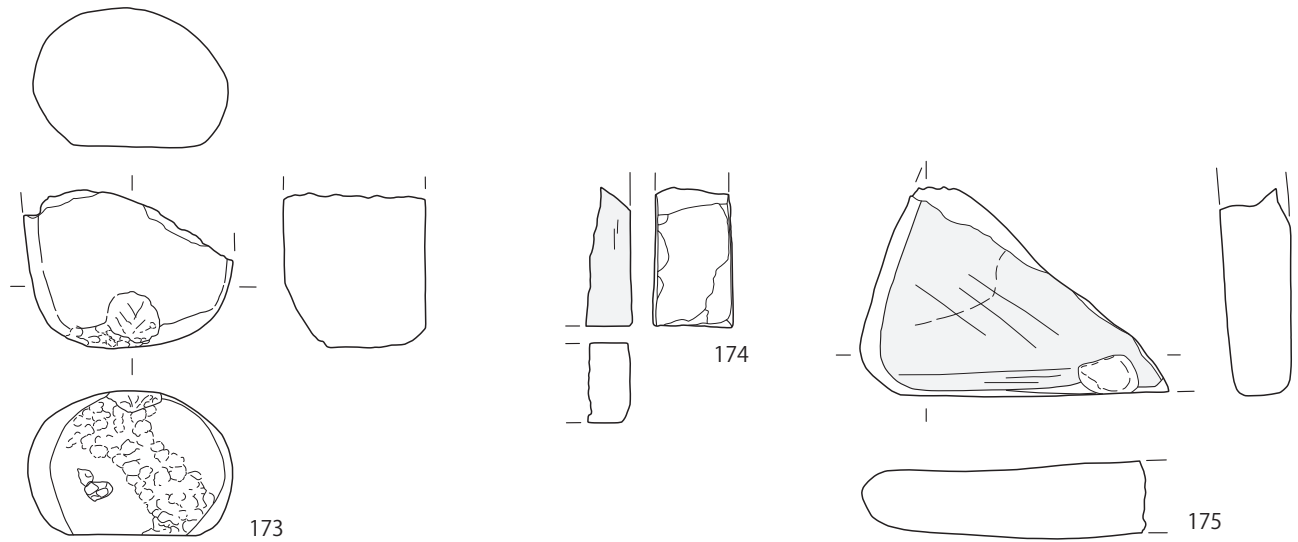


第 190 图 SD17 (12) 出土遺物

SD17



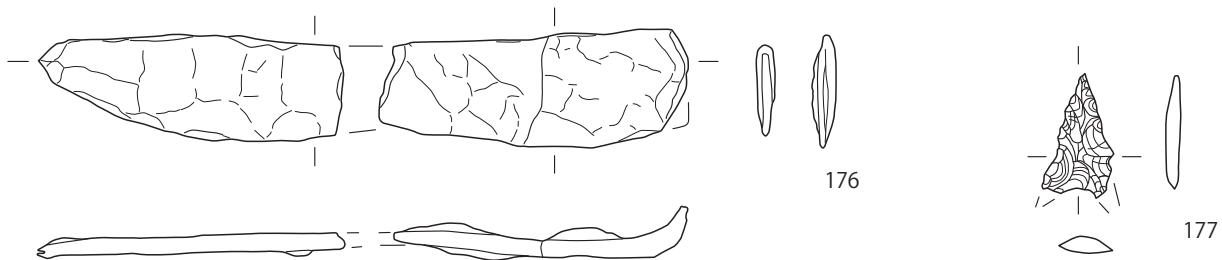
172



173

174

175



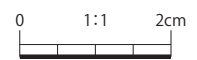
176

177

\*176は3/4縮尺

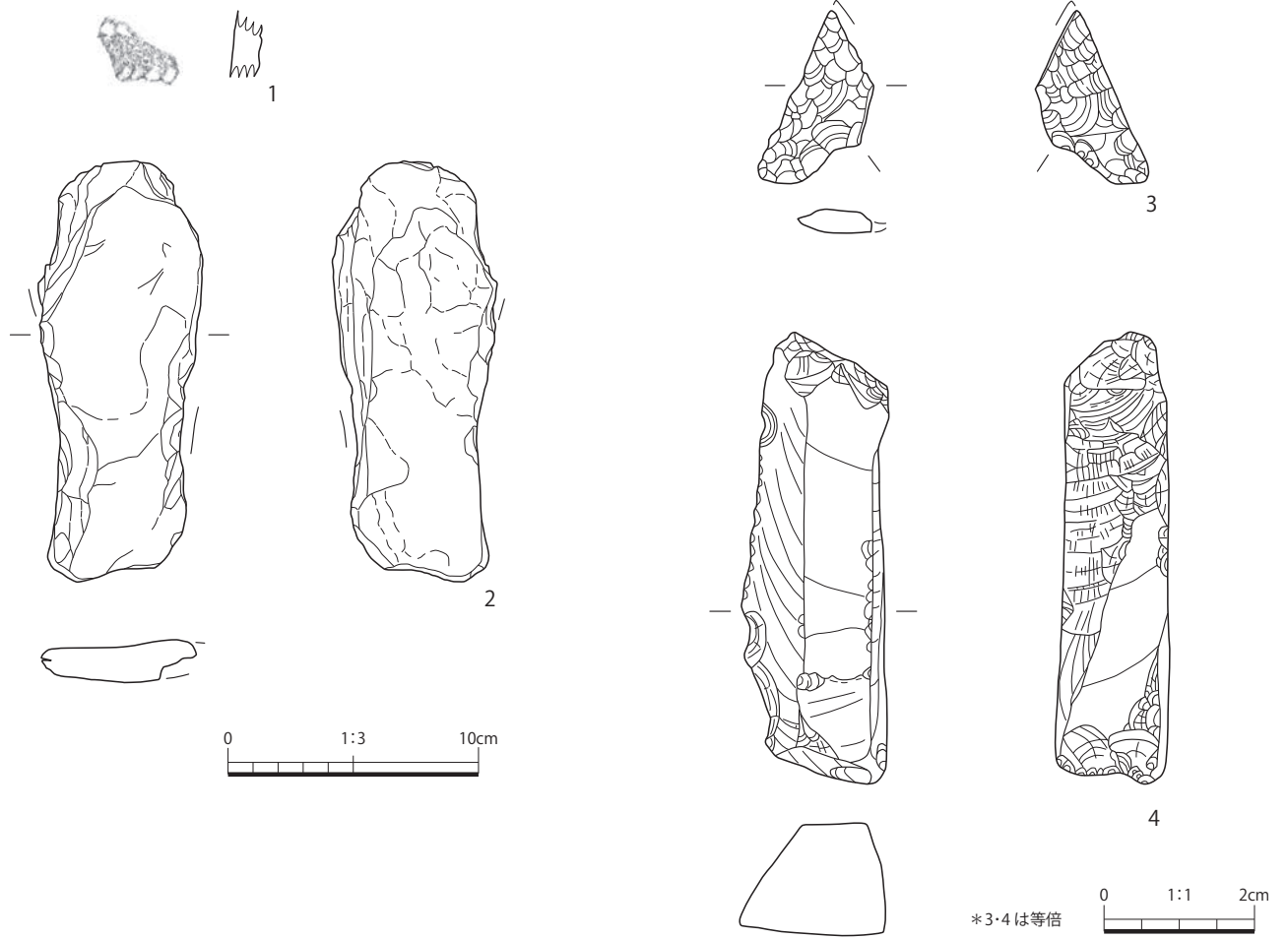


\*177は等倍

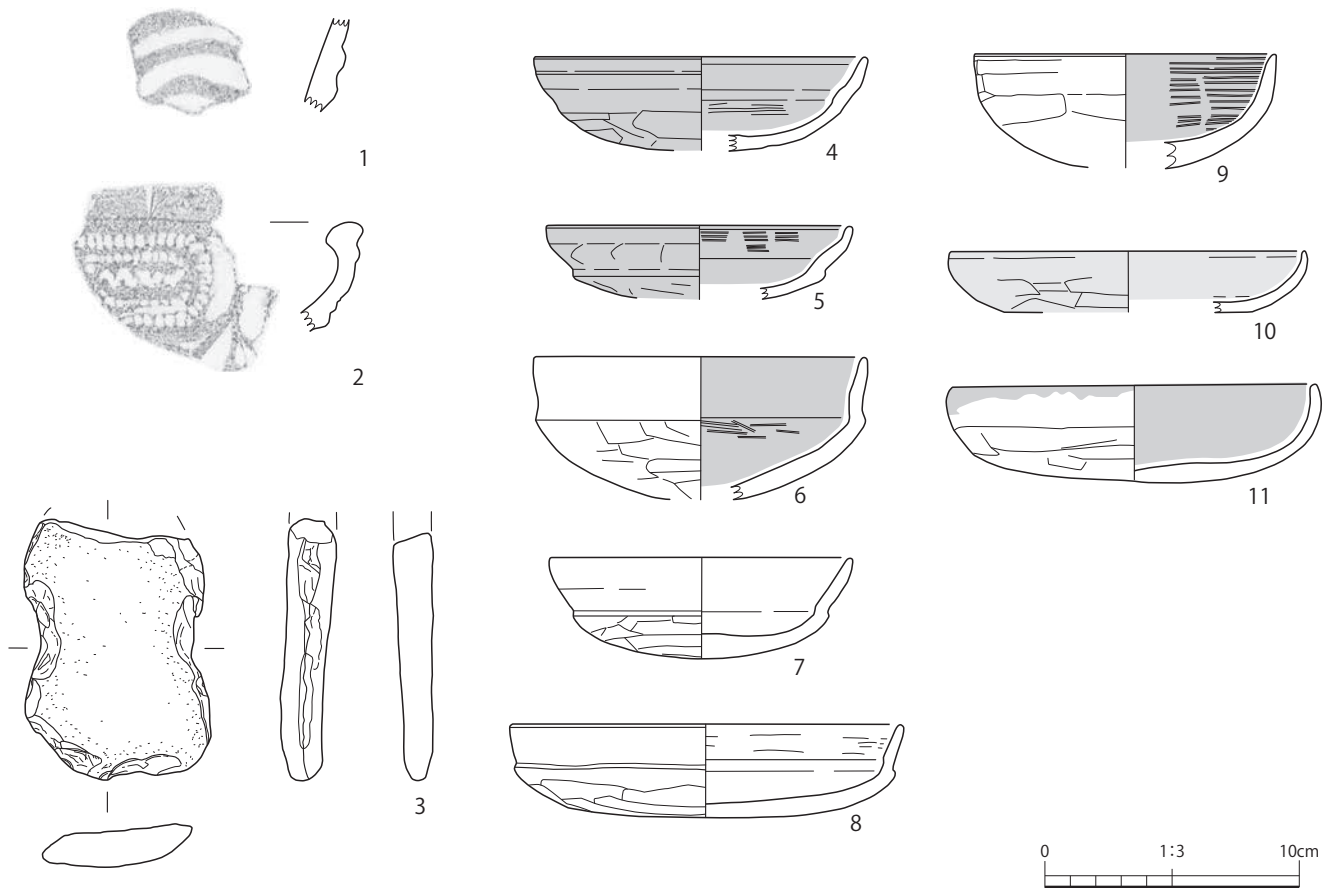


第191図 SD17 (13) 出土遺物

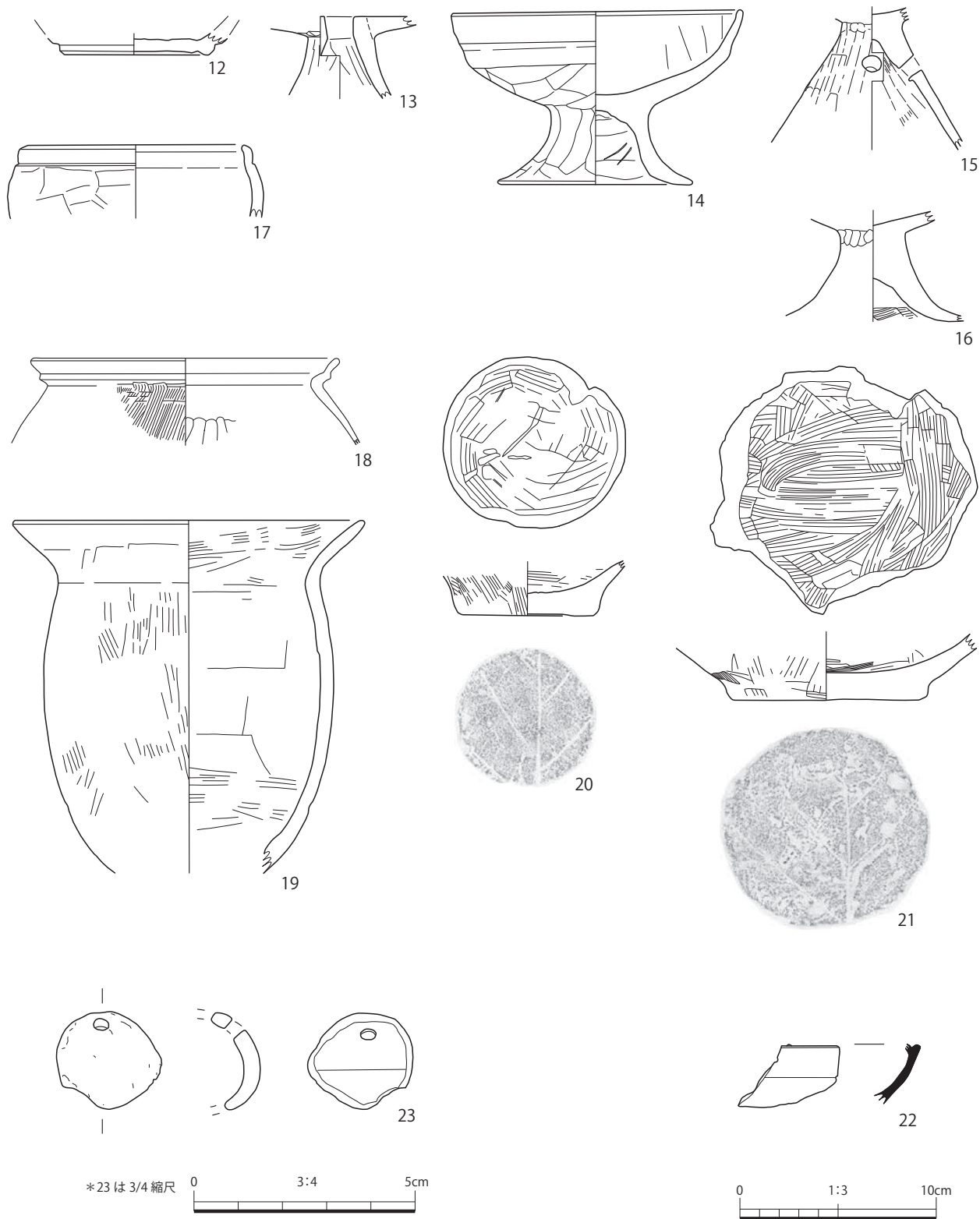
SD32



SD33



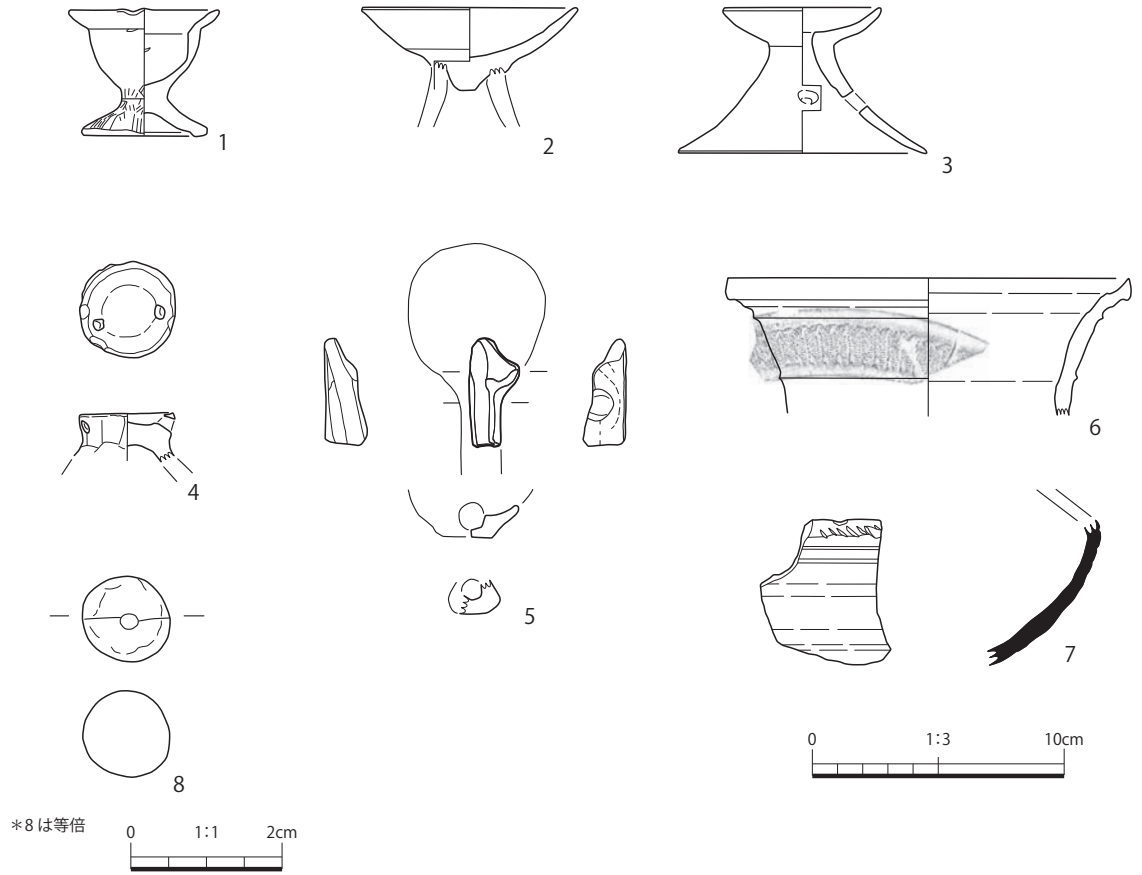
第192図 SD32・SD33 (1) 出土遺物



第193図 SD33(2) 出土遺物



遺構外



第 194 図 遺構外出土遺物

表1 遺物観察表

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
107	S11	1	土師器	坏	12.5	9.7	4.9	ほぼ完形	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む、赤色粒・赤褐色粒	外面:底部:ヘラズリ 内面:ナデ
107	S11	2	土師器	坏	12.4	丸底	4.7	口縁1/2~底部	にぶい、橙7.5YR6/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ ヘラズリ 内面:ナデ、シガキ
107	S11	3	土師器	坏	12.4	2.0	3.6	口縁1/2~底部	橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む、赤褐色粒・長石	外、内面:ナデ
107	S11	4	土師器	鉢	—	—	<4.1>	口縁小~体部小	外面:にぶい、黄橙10YR7/2 内面:黒褐10YR3/1	良好	粗砂粒含む、赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ、ハケ 内面:ナデ、ハケ 輪襷痕
107	S11	5	土師器	鉢	—	—	<4.0>	口縁部小	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ヘラズリ 内面:ナデ
107	S11	6	土師器	鉢	(17.0)	—	<5.2>	口縁部1/4	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む、赤色粒・金色雲母	外面:ナデ ヘラズリ 全面赤彩 内面:ナデ
107	S11	7	土師器	高坏	16.6	12.4	12.7	口縁3/4~底部1/2	にぶい、橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:脚部<ラズリ>、坏ナデ 内面:脚部<ラズリ> ナデ、坏ナデ
107	S11	8	土師器	有孔鉢?	(15.0)	—	<2.3>	口縁部1/3	橙7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む、赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外、内面:ナデ
107	S11	9	土師器	鉢	(10.0)	—	<5.2>	口縁3/5~体部小	にぶい、黄橙10YR7/4	良好	粗砂粒含む、赤色粒・白色粒・長石・石英	外、内面:ナデ
107	S11	10	土師器	壺	—	—	<6.5>	口縁部小	明褐7.5YR5/6	良好	密	外面:粘土紐貼り付け
107	S11	11	土師器	甕	(19.0)	—	<10.6>	口縁部1/8	明褐7.5YR5/6	良好	密 長石	外面:ハケ 口唇部刻目 内面:ハケ ナデ
107	S11	12	土師器	甕	(20.6)	—	<9.3>	口縁2/3~体部	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ、内面:ナデ、ヘラナデ 外面:摩擦強い、調整不鮮明
107	S11	13	土師器	甕	14.8	7.9	15.6	口縁3/4~底部	にぶい、赤褐5YR5/4	良好	粗砂粒含む、白色粒	外面:ハケ ナデ、ヘラナデ 指頭痕 内面:ハケ ナデ 底部:ヘラズリ 木葉痕
107	S11	14	土師器	甕	—	(4.2)	<7.6>	体部~底部1/4	にぶい、黄橙10YR7/4	良好	粗砂粒含む、赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ
107	S11	15	須恵器	高坏?	—	—	<1.3>	体部小	灰白N7/	良好	密	外面:櫛描波状文
107	S11	16	須恵器	蓋	—	—	<2.9>	体部小	灰N6/	良好	微密 赤色粒・白色粒	外、内面:ナデ
107	S11	17	須恵器	甕	—	—	<2.1>	体部小	灰白N7/	良好	密	
107	S11	18	石製品	砥石?	12.6	7.8	2.5	—	灰白7.5Y7/1	良好	密	
108	S12	1	土師器	坏	(12.0)	—	<2.9>	口縁部小	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:シガキ 内面:ナデ
108	S12	2	土師器	坏	—	(7.0)	<1.6>	底部1/4	橙2.5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラズリ 内面:ナデ
108	S12	3	土師器	坏	—	(4.8)	<2.8>	体部小~底部小	にぶい、橙5YR6/4	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ヘラズリ 内面:ナデ
108	S12	4	土師器	高坏	—	—	<3.8>	体部1/6	橙5YR6/6~にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 褐色粒子多	外、内面:ナデ 内面の中心部にココハケ
108	S12	5	土師器	高坏	—	—	<1.7>	脚部	橙5YR6/6	良好	密 石英	外面:シガキ? 内面:ナデ
108	S12	6	土師器	壺	(25.0)	—	4.3	口縁部1/6	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む、赤色粒・白色粒・赤褐色粒	外面:ナデ 全面赤彩 内面:ナデ
108	S12	7	土師器	甕	(9.0)	—	<2.9>	口縁部1/5	にぶい、黄橙10YR6/3	良好	粗砂粒含む、赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外、内面:ナデ
108	S12	8	土師器	甕	10.3	3.5	11.3	口縁3/4~底部	橙2.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ 上部不鮮明
108	S12	9	土師器	甕	—	—	<3.6>	口縁部小	にぶい、黄橙10YR7/3	良好	密 白色砂礫含む	外面:タテハケ ナデ 摩擦 内面:ココハケナデ
108	S12	10	土師器	甕	—	—	<5.7>	口縁部小	にぶい、黄橙10YR7/4	良好	細砂粒含む、白色粒	外、内面:ナデ、ハケ

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
108	SI2	11	土師器	甕	(17.0)	—	<5.6>	口縁1/4～底部小	浅黄褐色7.5YR8/4	良好	長石	外面:ナテ' 内面:ナテ' ヘラナテ' ハケ 口縁部ス付着
108	SI2	12	土師器	甕	(15.2)	—	<7.7>	口縁部小	褐色7.5YR6/6	良好	長石・金色雲母	外面:ヘラケスリ 内面:指頭痕 輪襷痕
108	SI2	13	土師器	甕	20.6	—	<9.4>	口縁～底部	にぶい褐色5YR6/4	良好	長石・金色雲母	外面:ナテ' 内面:ナテ' ハケ
108	SI2	14	土師器	甕	—	(6.0)	<3.0>	底部1/2	にぶい黄褐色10YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ヘラナテ'
108	SI2	15	土師器	甕	—	(6.0)	<3.0>	底部小～底部小	明赤褐色5YR5/8	良好	砂礫含む 白色粒	外面:底部:ナテ' 指頭痕 内面:ナテ' 見込部:ヘラナテ'
108	SI2	16	土師器	台付甕	—	—	<2.7>	底部小～脚部小	褐色5YR7/6	良好	細砂粒含む 白色粒・透明粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:脚部ナテ' 体部ス
109	SI3	1	土師器	坏	—	—	<2.6>	体部小	浅黄2.5Y7/3	良好	密	外・内面:ナテ' 粉塵状の物が胎土内にあり
109	SI3	2	土師器	坏	(12.0)	—	<4.5>	口縁部1/4	にぶい褐色7.5YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナテ' ヘラケスリ 内面:ナテ' ヘラナテ'
109	SI3	3	土師器	高坏	12.3	—	<7.0>	口縁1/2～脚部	明赤褐色5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナテ' ミカキ 内面:ナテ' ミカキ 穴3ヶ所
109	SI3	4	土師器	高坏	—	(17.5)	<5.2>	脚部	褐色5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナテ' ヘラミカキ 内面:ナテ' ズ3ヶ所
109	SI3	5	土師器	高坏	—	—	<1.8>	体部小	褐色7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ'
109	SI3	6	土師器	高坏	—	—	<4.3>	体部小	明赤褐色2.5YR5/8	良好	密 金色雲母	外面:ナテ' ヘラケスリ 内面:ハケ
109	SI3	7	土師器	高坏	—	—	<5.2>	脚部小	明赤褐色2.5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラミカキ 内面:ナテ' 胎土にグレーの土が入る
109	SI3	8	土師器	高坏	—	(11.7)	<7.8>	脚部	褐色5YR6/8	良好	密 長石	外面:ミカキ ヘラミカキ 内面:ナテ' ヘラナテ'
109	SI3	9	土師器	鉢	—	—	<4.8>	口縁部小	褐色5YR6/6～灰褐色5YR4/2	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:輪襷痕 内面:斜めにヘラ ナテ' 前にコナテ'
109	SI3	10	土師器	有孔鉢	—	(4.0)	<3.0>	底部	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナテ' 内面:ナテ' ハケ
109	SI3	11	土師器	壺	—	—	<4.5>	体部1/4	にぶい褐色7.5YR7/4	良好	密 赤色粒	外面:ヘラケスリ 内面:ナテ'
109	SI3	12	土師器	小壺?	—	3.8	<1.5>	底部	外面:黒褐色10YR2/2 内面:にぶい褐色7.5YR5/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外・内面:ナテ'
109	SI3	13	土師器	壺	(12.8)	—	<3.1>	口縁1/6～体部	にぶい褐色7.5YR6/3	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナテ' 線刻 内面:ナテ'
109	SI3	14	土師器	甕	—	—	<3.4>	口縁部小	浅黄褐色7.5YR8/4～褐色5YR6/6	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外・内面:ナテ'
109	SI3	15	土師器	甕	—	(7.0)	<3.5>	体部小～底部1/4	褐色5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・赤褐色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナテ' ハケ 底部:ヘラケスリ
109	SI3	16	土師器	甕	—	7.6	<5.0>	体部小～底部	褐色5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナテ' ハケ 内面:ナテ' 底部:木葉痕
109	SI3	17	土師器	甕	—	(6.0)	<3.2>	底部	褐色7.5YR6/6	良好	密	外・内面:ハケ
109	SI3	18	土師器	甕	—	—	<3.7>	体部小	褐色10YR10YR5/1	良好	密 長石	外面:ハケ 輪襷波状文 内面:ナテ'
109	SI3	19	土師器	高坏	18.0	—	<6.2>	口縁～体部	褐色5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ミカキ 脚が凸
109	SI3	20	土師器	高坏	—	9.0	<4.8>	脚部3/4	褐色5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナテ' ハケ後ミカキ 内面:ヘラナテ' ミカキ 底面:歪み 凸凹不明
109	SI3	21	土師器	器台	8.7	—	<4.0>	口縁～脚部小	にぶい黄褐色10YR7/3	良好	密 赤色粒	外・内面:ヘラナテ'
109	SI3	22	土師器	台付甕	—	(5.7)	<2.9>	脚部	褐色5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ヘラナテ'

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
109	S13	23	石製品	管玉	1.95	0.5	0.5		オリーブ灰色2.5YR6/1			重さ<1.04g> 石材 滑石
110	S14	1	土師器	高坏	—	—	<1.7>	体部1/2	にぶい縹7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ナデ' ハケ 内面:ハナナデ'
110	S14	2	土師器	高坏	(14.6)	—	<4.5>	口縁1/4~体部4/5	にぶい縹7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヨコナデ' 曲折部上部にハケ 内面:ヨコナデ'
110	S14	3	土師器	高坏	—	—	<6.4>	脚部	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S14	4	土師器	高坏	—	(11.8)	<1.45>	脚部	縹7.5YR7/6	良好	密	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ハケ
110	S14	5	土師器	器台?	(11.0)	—	<1.6>	口縁1/8~体部	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
110	S14	6	土師器	壺	—	4.0	<5.7>	体部~底部	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:上部ハナナデ' 下部指ナデ' 内面:ナデ'
110	S14	7	土師器	壺	—	<4.0>	<2.7>	底部1/4	縹5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S14	8	土師器	壺	—	3.4	<6.9>	体部~底部	灰縹7.5YR5/2	良好	密	外面:ハケ ナデ' ハナナデ' 内面:ハケ ナデ'
110	S14	9	土師器	甕	(19.0)	—	<6.3>	口縁1/8~体部小	灰黄2.5Y7/2	良好	粗砂粒含む 黒色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ' ハナナデ' 指頭痕
110	S14	10	土師器	甕	—	(9.0)	<2.5>	体部~底部1/8	明縹7.5YR5/6	良好	密	外面:ナデ' 内面:ハケ 底面:ナデ'?
110	S14	11	土師器	甕	—	(8.8)	<2.7>	底部1/5	にぶい黄縹10YR6/4	良好	密 長石	外・内面:ハケ 底面:ハケ
110	S15	1	土師器	坏	—	—	<4.0>	口縁小~体部小	にぶい黄縹10YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	2	土師器	坏	(13.8)	—	<3.3>	口縁部1/4	にぶい縹7.5YR6/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ' 外内全面赤彩
110	S15	3	土師器	坏	(15.4)	—	<2.9>	口縁1/8~体部小	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 全面赤彩 内面:ナデ'
110	S15	4	土師器	坏	(12.5)	—	<3.9>	口縁1/3~体部1/3	にぶい縹7.5YR5/3~灰縹7.5YR6/2	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ' 内面全面黒彩
110	S15	5	土師器	坏	(16.0)	—	<3.4>	口縁部1/4	縹2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	6	土師器	碗	(14.6)	—	3.8	口縁~底部1/2	にぶい縹5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ' (ハケ?) 外内全面赤彩
110	S15	7	土師器	坏	(14.0)	—	<5.5>	口縁部1/4	暗縹7.5YR3/3	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	8	土師器	坏	(12.0)	—	<5.5>	口縁1/2~体部1/2	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	9	土師器	坏	(9.6)	(3.0)	6.0	口縁1/3~底部	にぶい黄縹10YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	10	土師器	坏	(11.6)	3.0	4.7	口縁1/2~底部	にぶい縹7.5YR5/4	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	11	土師器	坏	12.4	—	4.4	ほぼ完形	にぶい縹7.5YR6/4	良好	密 金色雲母	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	12	土師器	坏	12.2	4.2	5.5	完形	にぶい縹7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハナナデ'
110	S15	13	土師器	坏	12.9	丸底	5.4	完形	縹7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	14	土師器	坏	(13.0)	<4.0>	<5.7>	口縁1/2~底部1/2	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	15	土師器	坏	(14.0)	—	<4.6>	口縁部1/4	にぶい縹7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ'
110	S15	16	土師器	坏	(14.0)	6.7	5.5	口縁1/3~底部	縹7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
110	S15	17	土師器	坏	14.0	5.0	6.7	口縁1/3～底部	明赤褐5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:口縁部ナデ・ヘラスリ 内面:ナデ 底部変形
110	S15	18	土師器	坏	(14.0)	<4.8>	<5.7>	口縁1/4～底部1/2	明赤褐5YR5/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ・ヘラスリ 内面:ナデ
111	S15	19	土師器	坏	—	4.3	<1.6>	体部小～底部1/2	明赤褐5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラスリ 内面:ナデ
111	S15	20	土師器	坏	—	4.2	<1.7>	底部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ・シキ? 内面:シキ 全面赤彩
111	S15	21	土師器	坏	—	丸底	<3.5>	体部～底部	にぶい・橙7.5YR4/6	良好	密 赤色粒・褐色粒・白色粒	外面:ヘラスリ 内面:ナデ・ヘナナデ
111	S15	22	土師器	坏	—	5.0	<4.0>	体部小～底部	外面:にぶい・橙7.5YR7/3 内面:褐灰10YR4/1	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヘラスリ 内面:ヘナナデ 底部:ヘラスリ摩耗
111	S15	23	土師器	高坏? 蓋?	(15.4)	—	<2.0>	口縁1/4～体部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ
111	S15	24	土師器	高坏	(14.0)	—	<4.4>	口縁小～体部小	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラスリ 内面:ナデ
111	S15	25	土師器	高坏	(15.0)	—	<4.8>	口縁1/6～体部1/4	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・石英	外面:ナデ・ヘラスリ 内面:ナデ(シキ?表面摩耗で不明瞭)
111	S15	26	土師器	高坏	20.0	—	<6.0>	口縁小～体部小	明褐7.5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ ナデ
111	S15	27	土師器	高坏	(17.8)	—	<5.0>	口縁1/5～体部	外面:浅黄橙7.5YR8/3 内面:橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラスリ 内面:ヘナナデ ナデ
111	S15	28	土師器	高坏	—	—	<6.2>	体部1/3	浅黄橙7.5YR8/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラスリ 内面:ナデ
111	S15	29	土師器	高坏?	(13.4)	—	<3.3>	口縁1/2～体部1/2	にぶい・黄橙10YR7/2	良好	密 黒色粒・長石	外・内面:ナデ 脚部はめこみ型
111	S15	30	土師器	高坏	—	(11.2)	<3.8>	脚部	にぶい・黄橙10YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ヘラスリ ナデ 内面:ナデ・ヘナナデ
111	S15	31	土師器	高坏	—	(10.4)	<5.1>	脚部	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ・ヘナナデ
111	S15	32	土師器	高坏	—	—	<9.1>	脚部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ・ヘラスリ 内面:ナデ
111	S15	33	土師器	鉢	(10.8)	—	<5.0>	口縁1/4～体部1/4	外面:橙5YR6/6 内面:黒褐5YR2/1	良好	密 赤色粒	外面:ヘラスリ ナデ 内面:ナデ 全面黒彩で磨文あり
111	S15	34	土師器	鉢	(13.7)	—	<6.4>	口縁1/4～体部1/4	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:上半分ヘラスリ 下半分ナデ 内面:ナデ スズ付着
111	S15	35	土師器	甃	—	—	<3.8>	口縁部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ
111	S15	36	土師器	甃	—	—	<4.7>	口縁部小	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ナデ・ハケ
111	S15	37	土師器	甃	(14.6)	—	<4.65>	口縁部1/8	橙7.5YR6/6	良好	密 長石	外・内面:ハケ ナデ
111	S15	38	土師器	甃	(13.4)	—	<3.6>	口縁部小	にぶい・赤褐5YR5/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ・ヘナナデ 内面:ナデ・ハケ
111	S15	39	土師器	甃	(15.8)	—	<3.7>	口縁部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ
111	S15	40	土師器	甃	(17.0)	—	<7.2>	口縁1/5～体部	橙5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ヨコナデ・ハケ
111	S15	41	土師器	甃	(21.6)	—	<6.55>	口縁部1/5	明赤褐5YR5/6	良好	密 金色雲母	外・内面:ハケ
112	S15	42	土師器	甃	—	4.4	<2.7>	体部～底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ 外内全面赤彩
112	S15	43	土師器	甃	—	(6.0)	<3.1>	体部～底部1/4	褐色7.5YR4/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
112	S15	44	土師器	甃	—	3.0	<3.2>	体部小～底部	赤褐2.5YR4/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ・ヘラスリ 内面:ナデ

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
112	S15	45	土師器	甕	—	4.6	<2.2>	体部小～底部1/4	褐7.5YR4/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' ハケ 内面:ハケ
112	S15	46	土師器	甕	—	6.0	<3.1>	体部小～底部1/2	明赤褐2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハケナデ' ハケ 内面:ナデ' ハケ 底部:ハケナデ'
112	S15	47	土師器	甕	—	10.0	<4.0>	口縁～体部	外面:にぶい 橙5YR6/4 内面:橙5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
112	S15	48	土師器	甕	—	2.5	<3.6>	体部小～底部3/4	赤褐5YR4/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ'
112	S15	49	土師器	甕	—	—	<3.5>	把手	黄灰2.5Y4/1	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
112	S15	50	土師器	甕	—	—	<3.5>	把手	にぶい 黄橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・長石	
112	S15	51	土師器	甕	—	—	<4.4>	底部小	外面:にぶい 橙7.5YR7/4 内面:橙5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケナデ' 内面:ハケナデ' 指ナデ'
112	S15	52	土師器	甕	—	—	<6.7>	底部小	にぶい 黄橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ハケナデ' 内面:ハケナデ'
112	S15	53	土師器	有孔鉢	—	—	—	底部1/4	にぶい 黄橙10YR5/4	良好	密	多孔の有孔鉢
112	S15	54	土師器	有孔鉢	—	(5.0)	<2.4>	体部～底部	にぶい 橙7.5YR7/4	良好	密 金色雲母	外面:ハケナデ' 内面:ナデ' ハケ 多孔の有孔鉢
112	S15	55	ガラス製品	ガラス玉	0.35	0.3	0.2		緑灰色10G5/1			重さ<0.03g>
112	S15	56	石製模造品	白玉	0.6		4.5		明オリーブ灰色2.5GY7/1			重さ<0.18g> 石材 滑石
112	S15	57	石製模造品	白玉	0.6	0.7	0.4		暗オリーブ灰色2.5GY3/1			重さ<0.24g> 石材 滑石 S15b堆積土上面のII層から出土
112	S15	58	石製模造品	白玉	0.55	0.6	0.4		黒2.5GY2/1			重さ<0.13g> 石材 滑石
112	S15	59	石製模造品	白玉	0.5	0.5	0.35		暗オリーブ灰色2.5GY3/1			重さ<0.15g> 石材 滑石
112	S15	60	石製模造品	白玉	0.5	0.5	0.3		暗オリーブ灰色2.5GY3/1			重さ<0.10g> 石材 滑石
112	S15	61	石製模造品	白玉	0.45	0.45	2.5		暗オリーブ灰色2.5GY4/1			重さ<0.09g> 石材 滑石
112	S15	62	石製模造品	白玉	0.4	0.4	0.2		黒褐2.5Y3/1			重さ<0.06g> 石材 滑石
112	S15	63	石製模造品	白玉	0.5	0.5	0.2		黒褐2.5Y3/1			重さ<0.06g> 石材 滑石
112	S15	64	石製模造品	白玉	0.4	0.35	0.25		黒2.5GY2/1			重さ<0.05g> 石材 滑石
112	S15	65	石製模造品	白玉	0.25	0.25	0.25		黒2.5GY2/1			重さ<0.04g> 石材 滑石
113	S16	1	土師器	高坏	11.8	6.8	7.7	口縁～底部1/2	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・黒色粒	外面:シタキ ナデ' 内面:ナデ'
113	S16	2	土師器	器台?	10.0	12.8	9.1	口縁2/3～脚部	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ' 穴3ヶ所
113	S16	3	土師器	鉢	11.2	7.8	5.7	ほぼ完形	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ'
113	S16	4	土師器	鉢	11.4	8.0	6.6	完形	橙5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外・内面:ナデ'
113	S16	5	土師器	有孔鉢	—	(5.4)	<4.3>	体部小～底部1/4	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' ハケナデ' 底部に小孔
113	S16	6	土師器	有孔鉢	(16.0)	2.4	10.5	口縁1/4～底部	にぶい 橙7.5YR7/3	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' 口縁部粘土貼り付け
113	S16	7	土師器	蓋	—	—	<6.5>	体部1/2	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ'? 内面:ナデ'? 指頭痕 表面摩耗で調整不確 外面口縁は刃キがあつたかも?

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
113	Sf6	8	土師器	壺	—	6.0	<9.0>	体部1/4~底部4/5	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・赤色粒	外面:ハケ 摩耗 内面:ナデ
113	Sf6	9	土師器	甕	(9.8)	—	<3.5>	口縁部1/4	明赤褐2.5YR5/8	良好	細砂粒含む 長石・金色雲母	外・内面:ナデ
113	Sf6	10	土師器	甕	(17.0)	—	<6.2>	口縁小~体部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ 内面:ナデ・ヘラナデ
113	Sf6	11	土師器	甕	—	5.4	<4.1>	体部小~底部2/3	灰黄褐10YR5/2	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ・ヘラナデ 底部:木葉歯摩耗
113	Sf6	12	土師器	台付甕	(16.0)	—	<17.1>	口縁1/4~体部1/4	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
113	Sf6	13	土師器	台付甕	11.1	—	<10.7>	口縁~体部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
113	Sf6	14	土師器	台付甕	(11.1)	—	<12.7>	口縁1/3~脚部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ 輪脚痕 指頭痕
113	Sf6	15	土師器	台付甕	15.6	7.1	<17.6>	口縁~体部3/4	外面:褐灰10YR4/1 内面:橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ(体部下は摩耗) 内面:ハケナデ 輪脚痕 指頭痕
114	Sf6	16	土師器	台付甕	13.7	8.7	19.7	口縁~底部	橙7.5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
114	Sf6	17	土師器	台付甕	13.5	(8.1)	20.7	口縁3/4~脚部1/2	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ 指頭痕 ヘラナデ
114	Sf6	18	土師器	台付甕	(12.0)	(8.5)	20.6	口縁1/3~台部1/4	にぶい・橙2.5YR6/4~にぶい・褐7.5YR5/3~浅黄褐7.5YR8/3	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・石英・金色雲母	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ 指ナデ痕 台部:ナデ
114	Sf6	19	土師器	台付甕	20.2	11.2	34.1	口縁~脚部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ ナデ 指頭痕
114	Sf6	20	土師器	台付甕	—	10.0	<7.7>	体部小~底部1/4	にぶい・橙7.5YR7/3	良好	砂礫含む 赤色粒	外面:ナデ・ヘラナデ 内面:ナデ
114	Sf6	21	鉄製品	鏃?	<4.3>	2.0	0.7					重さ<6.62g 鍛造?
114	Sf6	22	金属製品	金環	2.7	3.0	0.85		青灰5B6/1			重さ<15.54g>
115	Sf7a	1	土師器	坏	(13.8)	—	3.3	口縁1/4~体部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 赤彩が落ちている 内面:ナデ 赤彩が落ちている 底面:ハケナズリ
115	Sf7a	2	土師器	坏	(12.2)	(6.4)	3.2	口縁小~底部1/4	にぶい・橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハケナズリ ナデ 内面:ナデ
115	Sf7a	3	土師器	坏	(16.0)	(7.4)	<6.6>	口縁1/3~底部小	浅黄褐7.5YR8/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ・ヘラナズリ 内面:ナデ
115	Sf7a	4	土師器	坏?	(8.6)	3.6	8.0	口縁1/3~底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケナズリ ナデ 上部黒彩 内面:ナデ 全面黒彩 底面:ハケ 歪みあり 外面下半表面が荒れている
115	Sf7a	5	土師器	坏	—	(5.4)	<2.0>	体部小~底部1/2	橙2.5YR6/8	良好	密 赤色粒	内面:ハケナデ
115	Sf7a	6	土師器	手捏土器(高坏)	—	4.4	<3.3>	脚部2/3	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ 手捏ね痕 内面:ハケ 手捏ね痕
115	Sf7a	7	土師器	手捏土器(高坏)	—	4.8	<4.7>	脚部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ナデ 手捏ね
115	Sf7a	8	土師器	高坏	(19.0)	—	<5.0>	口縁1/2~体部	橙7.5YR6/6	良好	砂礫含む 長石・石英・金色雲母	外面:ヨコナデ・ヘラナズリ(の後は不明 摩耗激しい) 内面:シカキ
115	Sf7a	9	土師器	高坏	17.8	—	<7.1>	口縁~体部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ・ヘラナズリ ハケ 内面:ナデ 外・内面ともに摩耗激しい
115	Sf7a	10	土師器	高坏	(17.2)	—	<6.6>	脚部1/2	にぶい・橙5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:シカキ 摩耗激しい
115	Sf7a	11	土師器	高坏	—	13.4	<6.5>	脚部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ 外面にシカキ少し残る 内面に工具痕
115	Sf7a	12	土師器	高坏	—	(14.4)	<8.5>	脚部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ハケナズリ 内面:ハケ 底部:ハケの後にシカキ
115	Sf7a	13	土師器	高坏	—	14.0	<7.8>	脚部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ 内面:ナデ ハケ 輪脚痕

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <8.7>	部位	色調	焼成	胎土	備考
115	SI7a	14	土師器	高坏	—	18.8	<8.7>	脚部3/4	糖7.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ナテ 内面:ハケ後ナテ
115	SI7a	15	土師器	高坏	—	12.4	<7.6>	脚部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・ 長石・石英・金色雲母	外面:ミガキ 内面:ナテ ハテナテ
115	SI7a	16	土師器	高坏	—	(16.0)	<9.6>	脚部3/4	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:上部接合部にミガキ 内面:ナテ 脚上部に工具痕
115	SI7a	17	土師器	高坏	20.0	14.0	15.4	口縁～底部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	坏部 外・内面 ナテの後にミガキ 脚部 外面:ハケの後ミガキ 内面:ハケ 裾をヨコナテ 脚穴3カ所
115	SI7a	18	土師器	器台	10.2	—	<3.5>	口縁1/4～体部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナテ 指頭痕 内面:ナテ
116	SI7a	19	土師器	蓋	3.5	—	2.5	つまみ部	褐灰7.5YR4/1	良好	密 赤色粒・長石	外面:未調整? 内面:ナテ
116	SI7a	20	土師器	鉢	(9.6)	—	3.7	口縁1/4～体部	糖7.5YR4/3	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケズリ 刺突痕 内面:ハケ ナテ
116	SI7a	21	土師器	鉢	15.4	5.6	6.3	口縁1/3～底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ハケズリ ナテ 内面:ハケ ナテ
116	SI7a	22	土師器	鉢	10.0	4.0	6.3	体部1/2～底部	糖5YR7/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ハテナテ 指頭痕 内面:ハケ
116	SI7a	23	土師器	有孔鉢	—	2.8	<2.9>	底部	明赤褐2.5YR5/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケズリ 一部分スス付着 内面:ハテナテ 底部に小孔(穴は中 心からずれている)
116	SI7a	24	土師器	甕	(8.2)	—	<5.1>	口縁1/4～体部	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ナテ (ハテナテも?)
116	SI7a	25	土師器	壺	6.6	1.6	7.0	ほぼ完形	明黄褐10YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケズリ 内面:ナテ 指頭痕
116	SI7a	26	土師器	壺	(8.0)	2.0	<8.1>	口縁1/4～底部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハケ 指ナテ調整
116	SI7a	27	土師器	鉢	9.0	(3.0)	7.2	口縁～底部	にぶい糖5YR7/4～灰褐5YR1/4	良好	密	外面:ナテ ハケズリ ハテナテ 内面:ナテ
116	SI7a	28	土師器	壺	(14.3)	—	<8.7>	口縁2/3～体部	にぶい赤褐2.5YR4/3	良好	密 長石	外面:ナテ ミガキ 内面:ナテ 指頭痕 ミガキ
116	SI7a	29	土師器	壺	15.4	丸底	<18.3>	口縁～底部小	糖5YR7/6～にぶい糖7.5YR7/4	良好	密	外面:頸部までミガキハケ 体部上部はナテ 下部はケズリ 内面:体部はココハケ 口縁～頸部までハケあり 摩耗
116	SI7a	30	土師器	壺	13.0	丸底	14.6	口縁～底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ 内面:見込みハテナテ 底面:ハケズリ?
116	SI7a	31	土師器	壺	—	3.8	<2.5>	底部3/4	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハケズリ 内面:ナテ
116	SI7a	32	土師器	甕	14.6	—	<6.1>	口縁～体部小	糖7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・ 石英・金色雲母	外面:ナテ 内面:ナテ ハケ 輪積痕
116	SI7a	33	土師器	甕	15.4	—	<22.6>	口縁～体部	にぶい糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・ 石英・金色雲母	外面:ナテ ハケズリ 内面:ナテ 輪積痕
116	SI7a	34	土師器	甕	16.8	—	<27.4>	口縁～底部小	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・ 金色雲母	外面:ハテナテ ナテ 輪積痕 内面:ナテ 輪積痕
117	SI7a	35	土師器	甕	—	5.7	<14.5>	体部1/4～底部	灰褐7.5YR5/2～にぶい糖 7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英・ 金色雲母	外面:ハケズリ ナテ ハケ 内面:ココハケ
117	SI7a	36	土師器	甕	—	(5.0)	<9.7>	体部～底部1/4	外面:浅黄褐7.5YR8/4 内面:褐灰7.5YR6/1	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケズリ ハケ 内面:ハケ 底面:ハケズリ
117	SI7a	37	土師器	甕	—	6.1	<20.1>	体部1/2～底部	黄灰2.5Y4/1	良好	砂礫含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケズリ 内面:ナテ 底面:ハケズリ 見込み部:指目痕
117	SI7a	38	土師器	甕	16.4	4.6	26.2	口縁～底部	にぶい糖7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ ハケズリ 内面:ハケ 底面:粘土を輪状に貼り付け後ハケズリ
117	SI7a	39	土師器	甕	16.1	6.8	26.0	ほぼ完形	糖5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケズリ 内面:ナテ 底面:ハケズリ
118	SI7a	40	須恵器	甕	—	—	<4.2>	体部小	灰白N7/	良好	密	
118	SI7a	41	石器	磨石	8.8	8.2	7.0		灰白N8/		密 赤色粒・長石	剝離面あり 被熱の可能性高い



※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	口径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
118	SI7a	42	石製模造品	剣形	<2.1>	1.8	0.5		灰白色10YR8/1			重さ<3.46g> 石材 滑石
118	SI7b	1	土師器	器台	—	—	<3.9>	体部小~脚部小	縹5YR6/6	良好	赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラズリ 内面:ナデ' ヘラナデ' 脚部穴2カ所(全部で4カ所か?)
118	SI7b	2	土師器	高坏	—	—	<3.5>	脚部	にぶい縹7.5YR7/4	良好	長石	外面:ヘラズリ 内面:ナデ' 穴3カ所
118	SI7b	3	土師器	器台	—	—	<4.5>	脚部	縹5YR6/8	良好	長石	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ' 穴3カ所配置の穴2カ所残存
118	SI7b	4	土師器	壺	—	—	<3.3>	口縁部小	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外・内面:ハケ
118	SI7b	5	土師器	壺	(13.0)	—	<3.4>	口縁1/4~体部1/4	外面:淺黄縹7.5YR8/6 内面:にぶい赤褐5YR5/3	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ハケ ヨコナデ'
118	SI7b	6	土師器	壺	—	—	<2.2>	底部小	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ'
118	SI7b	7	土師器	台付甕	(18.2)	—	<4.0>	口縁部1/4	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ハケ(クチ・ヨコ) 内面:ナデ' 指頭痕
118	SI7b	8	土師器	台付甕	—	—	<3.3>	口縁~体部	縹5YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ハケ
118	SI7b	9	土師器	台付甕	—	—	<1.4>	口縁~体部	明赤褐5YR5/6	良好	密	外面:ハケ 内面:ヘラナデ' 指頭痕
118	SI7b	10	土師器	台付甕	—	—	<1.8>	体部小~脚部小	明赤褐2.5YR5/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 脚部内面:ナデ' 体部内面:ヘラナデ'
118	SI7b	11	土師器	台付甕	—	—	<3.0>	体部小~脚部小	にぶい縹7.5YR5/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ'
118	SI7b	12	土師器	甕	—	5.2	<5.1>	体部小~底部	にぶい縹7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' 指頭痕あり 内面:ナデ' ヘラナデ' 指頭痕
118	SI7b	13	須恵器	甕	—	—	<1.8>	体部小	灰N6/	良好	密	ヨウ壁下 穴あり
119	SI7Pt	1	土師器	高坏	12.0	—	<4.1>	口縁1/2~底部1/4	にぶい縹7.5YR6/4	良好	密 長石・石英・金色雲母	外・内面:シキ
119	SI7Pt	2	土師器	高坏	—	(10.0)	<6.4>	脚部1/3	にぶい縹5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:シキ(不鮮明) 内面:ヨコナデ' 穴3カ所
119	SI7Pt	3	土師器	高坏	—	—	<4.5>	脚部小	明赤褐5YR5/8	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面:シキ 内面:ナデ' 凹脚
119	SI7Pt	4	土師器	器台	(9.4)	—	<2.4>	口縁1/4~皿部1/4	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:シキ (内面は不鮮明)
119	SI7Pt	5	土師器	器台	—	—	<3.2>	体部~脚部	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	調整不明 ナデかシキ? 脚部穴3カ所
119	SI7Pt	6	土師器	蓋	11.7	4.1	5.2	ほぼ完形	にぶい縹7.5YR7/3	良好	密 白色粒	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ'
119	SI7Pt	7	土師器	甕	—	3.5	<2.4>	体部小~底部	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ' 底部に輪状に粘土貼り付け
119	SI7Pt	8	土師器	甕	—	(10.0)	<4.5>	体部小~底部1/4	縹5YR6/6	良好	粗砂粒含む 長石	外面:ハケ
119	SI7Pt	9	土師器	台付甕	13.1	—	<3.4>	口縁2/3	縹7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ
119	SI7Pt	10	土師器	台付甕	—	—	<2.5>	脚部	にぶい赤褐5YR5/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ヘラナデ'
119	SI7Pt	11	土師器	甕	—	—	<3.5>	口縁部小	にぶい縹5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ' 内面:ヘラナデ' 口唇部刻み目
119	SI7Pt	12	土師器	甕	(17.2)	—	<4.2>	口縁1/4~体部	明褐7.5YR5/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ヘラズリ
119	SI7Pt	13	土師器	甕	(19.8)	—	<4.0>	口縁部1/8	淺黄縹10YR8/3	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ヨコナデ' 内面:ハケ 輪種痕
119	SI7Pt	14	土師器	甕	(11.8)	—	<8.2>	口縁1/2~体部1/2	縹2.5Y7/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ヘラズリ 指頭痕

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
119	S17Pt	15	土師器	台付甕	(13.2)	—	<9.0>	口縁1/2～底部小	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハナナデ ナデ 指頭裏
119	S17Pt	16	土師器	甕	—	3.6	<1.4>	体部～底部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ナデ
119	S17Pt	17	土師器	瓶	18.7	7.4	22.2	口縁～底部	浅黄糖7.5YR8/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ ナデ
120	S18	1	土師器	高坏	—	—	<1.4>	体部小	外面:糖7.5YR7/6 内面:灰褐5/2灰白	良好	密 長石	外面:ナデ 内面:ミガキ
120	S18	2	土師器	高坏	(12.0)	—	<3.0>	口縁部1/4	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハナナスリ ナデ 内面:ナデ
120	S18	3	土師器	器台	—	—	<4.9>	体部	糖7.5YR7/6	良好	密	外面:ハナナスリ 内面:ナデ ハケ 穴4カ所?
120	S18	4	土師器	鉢?	—	—	<3.7>	体部小	糖7.5YR7/6	良好	密 金色雲母	外面:ナデ ハナナスリ 一部黒色部あり 内面:ナデ
120	S18	5	土師器	壺?	—	—	<3.1>	体部小	糖5YR6/6	良好	密 長石・石英	外面:縞波状文 内面:ハケ
120	S18	6	土師器	壺	(15.2)	—	<2.4>	口縁部小	にふい糖7.5YR5/4	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ナデ ハケ 内面:ナデ
120	S18	7	土師器	壺	—	(4.0)	<3.9>	底部1/4	糖5YR6/6	良好	細砂粒含む 長石・石英	外面:ナデ 外面:ナデ ハナナデ
120	S18	8	土師器	壺	—	—	<4.0>	体部小	明赤糖2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハナナデ ナデ 内面:ナデ
120	S18	9	土師器	甕	(8.2)	3.4	8.7	口縁1/2～体部	糖5YR7/6	良好	密	外面:ハケ ナデ ハナナスリ 内面:ナデ ハケ
120	S18	10	土師器	台付甕	—	—	<2.6>	体部小	にふい糖5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ
120	S18	11	土師器	台付甕	—	(6.6)	<3.2>	脚部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
120	S18	12	土師器	台付甕	(16.0)	—	<3.3>	口縁部1/7	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
120	S18	13	土師器	甕	13.2	—	<12.2>	口縁～体部	糖7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ハナナデ ナデ 内面:ナデ
120	S18	14	土師器	甕	—	(5.6)	<2.1>	体部小～底部1/3	にふい糖5YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ハケ 内面:ハナナデ
120	S18	15	土師器	甕	—	(6.2)	<1.9>	体部小～底部1/4	灰糖7.5YR5/2	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ハナナデ
120	S19	1	土師器	坏	(12.4)	—	<2.0>	口縁1/8～体部	にふい糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ
120	S19	2	土師器	坏	(14.2)	—	<4.4>	口縁部1/4	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハナナスリ ナデ 内面:ナデ
120	S19	3	土師器	坏	(13.6)	—	<3.2>	口縁1/4～体部	にふい糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ
120	S19	4	土師器	坏	(14.6)	<2.0>	2.4	口縁1/2～底部	糖2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ
120	S19	5	土師器	坏	(13.2)	丸底	3.8	口縁1/4～底部1/2	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:上部ナデ 下部ハナナスリ 内面:ナデ
120	S19	6	土師器	坏	16.4	1.0	5.5	口縁3/4～底部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハケ ヨコナデ 内面:ヨコナデ 底面:ハナナスリ
120	S19	7	土師器	坏	<14.0>	<2.0>	3.5	口縁1/4～体部	糖5YR7/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ハケ ナデ 外内全面赤彩
120	S19	8	土師器	坏	14.2	2.2	4.1	口縁3/4～底部	糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ 外内全面赤彩
120	S19	9	土師器	坏	14.0	3.4	3.4	完形(口縁一部欠損)	糖2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ 縦列 外内全面赤彩
120	S19	10	土師器	坏	(14.0)	—	<3.1>	口縁1/7～体部1/7	にふい糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ ハナナスリ 内面:ナデ 外内全面赤彩

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
120	S19	11	土師器	坏	(12.0)	—	<3.1>	口縁1/8～底部小	橙2.5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラクスリ' 内面:ナデ' 暗文?
120	S19	12	土師器	手捏土器	—	(6.4)	3.4	底部～底部1/4	にぶい' 橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・石英	外・内面:ナデ' 指頭痕
120	S19	13	土師器	手捏土器	4.4	2.9	5.1	口縁1/2～底部	明黄褐10YR7/6	良好	細砂粒含む 白色粒	外・内面:指ナデ'
120	S19	14	土師器	高坏	—	—	<1.9>	体部1/2	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ナデ' 内面:ナデ' 脚部はほみこみ式
120	S19	15	土師器	高坏	—	—	<4.5>	脚部	浅黄橙7.10YR8/3	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラクスリ' 内面:ナデ'
120	S19	16	土師器	高坏	—	—	<3.1>	脚部小	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ'
121	S19	17	土師器	蓋	3.0	—	<2.6>	口縁1/2～体部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
121	S19	18	土師器	鉢	11.9	2.0	6.9	ほぼ完形	橙5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ' ナデ' 内面:ヨコナデ'
121	S19	19	土師器	壺	10.6	5.8	<14.0>	口縁1/2～底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ' ナデ'
121	S19	20	土師器	壺	—	2.4	<2.2>	体部小～底部	橙5YR5/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・石英	外面:ハケ' ミサキ' 内面:ヘラナデ' ミサキ
121	S19	21	土師器	壺	—	4.0	4.1	体部小～底部1/4	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:指ナデ'
121	S19	22	土師器	壺	—	4.6	<4.8>	体部	橙7.5YR7/6	良好	密	外面:ナデ' ヘラクスリ' 内面:ナデ'
121	S19	23	土師器	壺	6.8	5.4	9.3	口縁1/2～底部	明赤褐2.5YR5/8	良好	粗砂粒含む 黒色粒・長石・石英	外・内面:ナデ'
121	S19	24	土師器	甗	(15.0)	—	<5.2>	口縁1/4～体部	にぶい' 橙5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ハケ' ヘラナデ'
121	S19	25	土師器	甗	(21.8)	—	<14.9>	口縁小～体部1/8	明赤褐5YR5/8	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ' ナデ' 内面:ナデ' ハケ
121	S19	26	土師器	甗	(13.6)	—	<23.2>	口縁小～体部	明赤褐5YR5/8	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ' ナデ'
121	S19	27	土師器	甗	14.7	6.7	16.8	口縁～底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ハケ' ナデ' 内面:ナデ' 表面損耗激しい 調整不鮮明
121	S19	28	土師器	甗	16.4	<6.8>	21.7	口縁～底部小	橙2.5YR6/8～にぶい' 橙5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ' 内面:ナデ' 輪脚痕
122	S19	29	土師器	甗	20.5	7.2	33.0	口縁5/8～底部	橙5YR7/8～赤橙10R6/8	良好	密 長石・金色雲母	外面:ナデ' ハケ' 内面:ナデ'
122	S19	30	土師器	甗	18.6	9.5	34.0	口縁1/2～底部	橙5YR7/6～灰褐5YR2/4	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ' 内面:ヘラ痕多数 ヨコハケ
122	S19	31	土師器	甗	18.6	9.0	29.9	口縁～底部	明赤褐5YR5/8	良好	密	外・内面:ハケ' ナデ'
122	S19	32	土師器	甗	19.0	7.2	31.2	口縁3/4～底部	橙5YR7/8	良好	密 長石	外面:ハケ' ナデ' 内面:ヘラナデ' ヨコナデ'
123	S19	33	土師器	甗	—	(5.4)	<2.7>	体部小～底部小	にぶい' 橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ' 内面:ナデ'
123	S19	34	土師器	甗	—	—	<5.7>	口縁部小	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ'
123	S19	35	須恵器	甗	—	—	<2.9>	体部小	明吹白5PB7/1	良好	密 長石	外面:格子叩き目 内面:叩き痕あり 同心円当具痕
123	S19	36	須恵器	甗	—	—	<3.8>	体部小	灰白N7/	良好	密	外面:平行叩き目 内面:叩き痕あり 同心円当具痕
123	S19	37	土製品	土玉	0.6	0.55	0.45		黒褐色7.5YR3/1	不良		重さ<0.14g> 実測番号164の礫の中から出土
123	S19	38	土製品	土玉	0.6	0.45	0.5		黒褐色7.5YR3/1	不良		重さ<0.08g>

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
123	S19	39	土製品	土玉	1.4	1.1	1.0		黒褐色7.5YR3/1	不良		重さ<1.15g>
123	S19	40	土製品	土玉	0.5	0.45	0.4		黒7.5YR2/1	不良		重さ<0.08g>
123	S19	41	土製品	土玉	0.45	0.4	0.4		灰褐7.5YR4/2	不良		重さ<0.06g>
123	S19	42	石器	台石	(24.3)	(17.1)	8.6		灰10Y6/1	良好	長石	
123	SI10	1	土師器	坏	(13.6)	—	<5.3>	口縁1/2～体部小	にぶい糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラカズリ 内面:ナデ' ハケ
123	SI10	2	土師器	坏	11.6	2.8	5.8	口縁3/4～底部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ' 表面摩耗激しい
123	SI10	3	土師器	高坏	12.4	—	4.5	口縁3/4～体部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ' 表面摩耗激しい
123	SI10	4	土師器	高坏	—	—	<4.3>	体部小	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:シガキ 全面赤彩 坏部内面:全面赤彩
123	SI10	5	土師器	高坏	—	—	<4.85>	脚部1/3	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカズリ 内面:ヘラナデ' 穴3カ所
123	SI10	6	土師器	高坏	—	(18.8)	2.8	脚部1/2	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ' 穴(全体配置不明)
123	SI10	7	土師器	蓋?	—	<3.8>	1.4	体部2/3	にぶい糖7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒・石英	外・内面:ナデ'
123	SI10	8	土師器	蓋	(4.4)	—	<2.5>	口縁部1/4	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラカズリ 内面:ナデ'
123	SI10	9	土師器	鉢	14.4	—	7.6	口縁1/4～体部	糖2.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' 内面:ハケ ナデ'
123	SI10	10	土師器	鉢	—	—	<9.0>	頸部～体部1/4	黒褐7.5YR3/1	良好	密	外・内面:ハケ
123	SI10	11	土師器	有孔鉢	—	(4.2)	2.6	体部～底部1/4	外面:褐灰5YR4/2 内面:糖5YR6/6	良好	密	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ' 底面:穴1カ所
123	SI10	12	土師器	有孔鉢	—	4.8	<4.9>	体部小～底部	にぶい糖7.5YR6/4	良好	密 白色粒・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ' ハナナデ' 底面:指頭痕
124	SI10	13	土師器	壺	—	—	<1.4>	口縁部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	細かい縄目模様が口縁内側に付いている
124	SI10	14	土師器	壺	—	—	<4.8>	口縁部小	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ' 口唇部のみ
124	SI10	15	土師器	壺	—	—	<5.9>	口縁部小	浅黄糖10YR8/3	良好	密 白色粒・黒色粒	外面:ハケ 隆帯貼り付け
124	SI10	16	土師器	壺	—	—	<8.2>	口縁部小	糖7.5YR7/6	良好	やや密	外面:縦沈線 内面:ヨコハケ
124	SI10	17	土師器	壺	(23.8)	—	<7.2>	口縁1/5～体部	浅黄糖7.5YR8/6	良好	密 黒色粒・長石	外面:ハケ 隆帯 内面:ハケ
124	SI10	18	土師器	壺	(22.8)	—	<7.9>	口縁部小	にぶい糖7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ' 外面に紐状の貼り付け
124	SI10	19	土師器	壺	(17.2)	—	1.0	口縁1/8～体部	にぶい糖7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	
124	SI10	20	土師器	壺?	(10.0)	—	7.6	口縁1/4～体部	灰褐5YR5/2	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
124	SI10	21	土師器	壺?	—	(4.0)	2.7	体部～底部1/2	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラカズリ 内面:ヘラナデ' ナデ'
124	SI10	22	土師器	台付甕	—	—	<3.1>	口縁部小	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ハケ(ヨコハケあり) 内面:ナデ'
124	SI10	23	土師器	台付甕	(19.9)	—	<2.7>	口縁部小	黒褐10YR3/2	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:半截竹管の押し引き ナデ' 内面:ハケ ナデ'
124	SI10	24	土師器	甕	—	4.0	2.9	体部～底部	にぶい糖5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ' ヘラナデ'

※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
124	SI10	25	土師器	甕	(19.0)	—	<12.0>	口縁1/5～体部小	灰黄褐10YR5/2	良好	密 白色粒・石英	外面:タテハケ ナデ 内面:ヨコハケ摩耗 ナデ
124	SI11	1	土師器	坏	—	—	<2.4>	口縁部小	褐灰10YR5/1	良好	密	外面:ハラナデ ナデ 内面:ナデ
124	SI11	2	土師器	坏	—	—	<1.2>	口縁部小	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	密	外面:ハラケスリ 内面:ナデ
124	SI11	3	土師器	坏	(14.1)	—	<4.1>	口縁部小	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ
124	SI11	4	土師器	甕	—	—	<1.8>	底部小	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ 底面:輪状に土を付け足し
124	SI11	5	土師器	甕	—	(9.0)	<2.2>	体部小～底部1/4	明赤褐5YR5/8	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ ハラナデ 内面:ナデ
124	SI11	6	須恵器	甕	—	(19.0)	<1.3>	口縁部1/8	赤灰5R6/1	良好	密	内面:自然袖付着
124	SI12	1	土師器	坏	(12.0)	<1.6>	<5.3>	口縁1/2～底部1/2	橙5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ナデ
124	SI12	2	土師器	高坏	—	—	<4.1>	体部小	橙5YR7/6	良好	密	外面:ヨコナデ スス付着 内面:ハケ少々 ヨコナデ
124	SI12	3	土師器	壺	(11.0)	—	<9.0>	口縁1/4～体部	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ハケ ナデ 指頭痕
124	SI12	4	土師器	壺	—	4.4	<4.0>	底部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ハケ ナデ 指頭痕
125	SI12	5	土師器	甕	(16.0)	—	<7.6>	口縁1/4～体部少	灰白10YR8/2	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母・黒色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
125	SI12	6	土師器	甕	(12.6)	—	<12.7>	口縁1/8～体部1/6	にぶい、黄橙10YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハラナデ ナデ
125	SI12	7	土師器	甕	(14.0)	—	<27.0>	口縁5/8～体部	外面:にぶい、黄橙10YR 内面:灰褐7.5YR5/2～橙5YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ
125	SI12	8	土師器	甕	13.6	(6.2)	<15.8> <4.4>	口縁1/2～底部1/4	明赤褐2.5YR5/6	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ 摩耗 ナデ 内面:上部ハケ 下部ナデ
125	SI12	9	土師器	甕	(23.0)	(5.0)	13.6 4.2	口縁1/6～底部1/2	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ハラナデ
125	SI12	10	土師器	甕	—	6.4	<3.6>	体部小～底部	明赤褐2.5YR5/8	良好	砂礫含む 白色粒・金色粒	外面:ナデ ハラナデ 内面:ハケ ハラナデ スス付着
125	SI12	11	土師器	甕	(24.3)	7.8	23.8	ほぼ完形	にぶい、黄橙10YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ ナデ
126	SI12	12	土師器	高坏	20.2	—	<9.7>	口縁～脚部小	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ミサキ ハラケスリ 内面:ミサキ 脚部内面:ハケ
126	SI12	13	土師器	器台	8.3	—	<5.9>	口縁～脚部	浅黄褐7.5YR8/6	良好	密 長石	外面:ミサキ 内面:ハケ ハラナデ 穴3ヶ所
126	SI13	1	土師器	坏	(11.2)	—	<3.4>	口縁～体部1/4	橙5YR6/6	良好	密	外・内面:ナデ
126	SI13	2	土師器	高坏	—	—	<6.7>	体部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハラケスリ ハケ 内面:輪状痕
126	SI13	3	土師器	高坏	—	(11.0)	<2.4>	脚部小	黄橙7.5YR7/8	良好	密 長石	外・内面:ナデ
126	SI13	4	土師器	高坏	—	(17.6)	<7.6>	脚部1/8	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
126	SI13	5	土師器	有孔鉢	—	(4.0)	<1.1>	底部1/2	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
126	SI13	6	土師器	壺	—	—	<4.3>	口縁部小	橙5YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナデ 内面:ハラミサキ
126	SI13	7	土師器	壺	—	(2.0)	<1.6>	体部～底部	赤褐2.5YR4/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハラケスリ 内面:ナデ
126	SI13	8	土師器	甕	—	(5.2)	<1.9>	体部小～底部1/3	浅黄2.5Y7/3	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・黒褐色粒	外面:ハラケスリ 内面:ナデ 底面:高台状に段あり

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
126	SI13	9	須恵器	甕	(2.2)	—	—	体部小	灰白N7/1	良好	密	
126	SI13	10	須恵器	甕	(3.0)	—	—	体部小	灰白N7/1	良好	密	
126	SI13	11	須恵器	甕	(4.3)	—	—	体部小	灰白N7/1	良好	密	
126	SI13	12	石器	台石	(16.9)	(10.6)	<8.8>		灰白N7/	良好	密	
126	SI14	1	土師器	高坏	—	—	<3.7>	体部1/4	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・黒色粒	外・内面:ナデ(ヘラナデ?)
126	SI14	2	土師器	高坏	(19.0)	—	<6.5>	口縁部1/6	橙5YR6/6	良好	密 黒色粒	外・内面:ナデ
126	SI14	3	土師器	高坏	—	—	<9.3>	体部~脚部	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外・内面:跡キ ヘラナデ
126	SI14	4	土師器	高坏	(16.7)	—	<9.0>	口縁~脚部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:跡キ ヘラカスリ 内面:ナデ
127	SI14	5	土師器	高坏	—	—	<1.9>	脚部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ ヘラカスリ 内面:ナデ ハケ 穴4分所
127	SI14	6	土師器	高坏	—	—	<2.7>	脚部	浅黄橙7.5YR8/4	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ 穴3カ所
127	SI14	7	土師器	高坏	—	—	<7.1>	体部	—	良好	密	外面:ヘラカスリ 内面:ハケ
127	SI14	8	土師器	高坏	—	—	<7.2>	脚部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ
127	SI14	9	土師器	高坏	—	—	<7.6>	体部	橙7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ヘラカスリ
127	SI14	10	土師器	高坏	—	(14.2)	<8.8>	体部~底部小	橙7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ヘラカスリ
127	SI14	11	土師器	壺	—	1.9	<2.1>	体部3/4~底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ
127	SI14	12	土師器	壺	—	3.0	<5.5>	体部小	橙7.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ 指頭痕 ナデ
127	SI14	13	土師器	壺	(8.0)	(3.5)	<7.4>	口縁1/2~底部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む	外面:ヘラカスリ ハケ 内面:ヘラナデ
127	SI14	14	土師器	壺	(11.1)	—	<10.5>	口縁1/4~~体部小	褐7.5YR4/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石	外面:ナデ ハケ 下部に剝離 内面:ナデ 輪種痕
127	SI14	15	土師器	壺	(7.2)	—	<7.2>	口縁1/5~体部	にぶい橙7.5YR7/3	良好	密 黒色粒・長石	外面:ハケ 内面:ナデ
127	SI14	16	土師器	壺	—	—	<2.5>	口縁部小	灰黄褐10YR6/2	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
127	SI14	16	土師器	壺	—	—	<6.1>	体部1/2	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
127	SI14	16	土師器	壺	—	(2.1)	<3.6>	底部	橙5YR6/6~褐灰10YR4/1	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:カスリ 内面:ハケ
127	SI14	17	土師器	壺	—	3.0	<9.6>	体部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ヘラナデ 内面:ハケ 指頭痕
127	SI14	18	土師器	壺	(17.8)	—	<13.2>	口縁1/2~体部1/4	にぶい橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ 内面:ヘラナデ 指頭痕
127	SI14	19	土師器	甕	—	—	<4.3>	脚部1/4~体部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 黒色粒・長石	外面:ハケ 内面:ナデ ハケ
127	SI14	20	土師器	台付甕	—	(6.0)	<4.3>	脚部	にぶい橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハケ
127	SI14	21	土師器	台付甕	—	(9.0)	<3.9>	脚部1/3	にぶい黄褐10YR7/2	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ハケ
127	SI14	22	土師器	台付甕	—	(10.0)	<6.0>	脚部	にぶい橙7.5YR6/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ 輪種痕 内面:ナデ ヘラナデ ハケ (厚い台付甕)粗雑

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	口径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
127	SI14	23	土師器	甕	—	(3.4)	<2.2>	底部3/4	にぶい・糖7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ヘラナデ'
127	SI14	24	土師器	甕	—	4.4	<2.4>	底部	黒10Y2/1~にぶい・黄糖10YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:カスリ ナデ'
127	SI14	25	土師器	甕	—	(6.8)	<1.8>	底部1/2	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ' 内面:ヘラナデ' 底面:ヘラナケスリ
127	SI14	26	土師器	甕	—	6.1	<3.4>	底部1/2	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ハケ ヘラナデ' 内面:ナデ'
127	SI14	27	土師器	甕	—	(8.2)	<2.1>	体部小~底部1/4	にぶい・黄糖10YR6/3	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外・内面:ヘラナデ' ナデ'
127	SI14	28	土師器	甕	—	(5.5)	<2.2>	底部1/3	にぶい・糖7.5YR6/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:カスリ ハケ
128	SI15	1	土師器	高坏	—	(15.0)	<3.3>	脚部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ミガキ 内面:ヘラケスリ ハケ
128	SI15	2	土師器	鉢	(10.0)	—	<2.1>	口縁部1/8	糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ナデ'
128	SI15	3	土師器	壺	5.9	—	<3.0>	口縁部小	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	密	外面:ハケ ナデ' 内面:ハケ
128	SI15	4	土師器	壺	—	—	<6.0>	体部1/8	糖7.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ナデ' 指頭痕
128	SI15	5	土師器	甕	—	—	<9.9>	体部	にぶい・黄糖10YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒	外・内面:ハケ
128	SI15	6	土師器	台付甕	—	—	<6.9>	口縁小~体部小	黒糖7.5YR3/2	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ ヘラケスリ 内面:ナデ' 厚い台付甕 粗雑
128	SI15	7	土師器	台付甕	—	—	<2.0>	脚部小	外面:糖7.5YR6/6 内面:褐灰10YR4/1	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ'
128	SI15	8	土師器	甕	(11.8)	—	<9.4>	口縁~体部	にぶい・黄糖10YR7/4	良好	密	外・内面:指頭痕 ヘラケスリ ハケ
128	SI15	9	土師器	甕	—	(7.0)	<2.2>	体部~底部1/4	外面:にぶい・糖7.5YR6/4 内面:褐灰7.5YR4/1	良好	密 黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ後ナデ' 内面:ハケ
128	SI16	1	土師器	高坏	(20.0)	—	<5.0>	口縁1/8~体部	明赤糖5YR5/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ'
128	SI16	2	土師器	高坏	(21.8)	—	<4.7>	口縁部小	明赤糖5YR5/8	良好	密	外・内面:ナデ'
128	SI16	3	土師器	高坏	(17.4)	—	<6.2>	口縁~体部小	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ' 差し込み式脚が凸
128	SI16	4	土師器	高坏	—	—	<2.0>	体部小	明赤糖2.5YR5/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ'
128	SI16	5	土師器	高坏	—	—	<8.6>	体部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
128	SI16	6	土師器	高坏	—	(10.8)	<2.2>	脚部1/4	にぶい・糖7.5YR5/4	良好	密 長石	外・内面:ナデ'
128	SI16	7	土師器	壺	—	—	$\frac{4.2 \times 2.3}{6.4 \times 2.6}$	体部小	糖7.5YR7/6	良好	密	
128	SI16	8	土師器	壺	—	—	<3.8>	体部小	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	
128	SI16	9	土師器	壺	—	4.0	<9.3>	口縁小~底部	赤10YR5/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラケスリ ナデ' 内面:ナデ'
128	SI16	10	土師器	壺	8.0	4.7	13.9	口縁~底部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ハケ後ミガキ ナデ'
128	SI16	11	土師器	甕	7.2	4.8	8.9	完形	黄糖7.5YR7/8	良好	密 長石	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ'
128	SI16	12	土師器	甕	(13.8)	—	<2.8>	口縁1/4~体部	にぶい・糖7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ後ナデ' 内面:ナデ'
128	SI16	13	土師器	甕	(19.0)	—	<8.0>	口縁~体部1/4	にぶい・黄糖10YR7/3	良好	粗砂粒含む	外面:上部ヘラナデ' 内面:ナデ' 指頭痕

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
129	SI16	14	土師器	甕	(16.0)	—	<2.8>	口縁部1/4	にぶい黄緑10YR6/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ ハケ 内面:ハケ
129	SI16	15	土師器	甕	(15.6)	—	<5.4>	口縁部1/4	にぶい緑7.5YR6/4~緑5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ不鮮明 内面:ナデ
129	SI17	1	土師器	高坏	(8.9)	—	<4.2>	口縁~体部	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ ハラカスリ 内面:ハケ ナデ
129	SI17	2	土師器	高坏	—	(9.8)	<2.3>	体部1/5	—	良好	密 長石	外:内面:ナデ
129	SI17	3	土師器	高坏	(22.6)	—	<5.6>	口縁小~体部1/5	緑5YR6/6	良好	砂礫含む 赤色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ナデ ハケ ハラカスリ 内面:ナデ
129	SI17	4	土師器	高坏	(21.0)	—	<6.0>	口縁小~体部1/2	緑5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ シガキ 内面:ナデ
129	SI17	5	土師器	高坏	(16.8)	—	<10.4>	口縁小~体部	緑2.5YR6/8	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケ ナデ 身が凸
129	SI17	6	土師器	高坏	—	—	<3.2>	体部	—	良好	密 赤色粒	外:内面:ナデ 脚穴3カ所
129	SI17	7	土師器	高坏	—	(10.0)	<3.1>	脚部	にぶい緑7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハラナデ 内面:ナデ
129	SI17	8	土師器	坏?鉢?	12.0	5.6	7.1	口縁~底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハラカスリ 内面:ハラナデ ナデ
129	SI17	9	土師器	小壺	(7.8)	—	6.3	口縁小~底部	—	良好	密	外面:ナデ ハラカスリ 内面:ナデ
129	SI17	10	土師器	壺	—	2.2	<7.5>	体部~底部	緑5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤褐色粒	外面:ハケ ハラカスリ 内面:ナデ 輪稜痕
129	SI17	11	土師器	壺?	—	(5.2)	<2.3>	体部小~底部小	褐灰5YR4/1	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハラカスリ 内面:ハラナデ
129	SI17	12	土師器	甕	—	—	<4.5>	口縁部小	にぶい赤褐5YR5/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母	外面:ナデ 内面:ハケ
129	SI17	13	土師器	甕	(14.0)	—	4.2	口縁部小	にぶい赤褐2.5YR5/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ ハケ
129	SI17	14	土師器	甕	—	(5.8)	<1.7>	底部1/3	黒N1.5/0~灰白10YR7/1	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ハラナデ ハラカスリ 内面:ナデ
129	SI17	15	土師器	甕	—	(6.0)	<2.7>	体部小~底部小	明赤褐2.5YR5/6	良好	砂礫含む 白色粒・金色雲母	外面:ハラナデ 内面:ナデ 底面:ハラカスリ
129	SI17	16	石器	砥石	15.9	7.5	3.8	ほぼ完形	—	—	—	安山岩
129	SI18	1	土師器	高坏	—	—	<3.3>	脚部	緑2.5YR6/6	良好	密 黒色粒・長石	外面:ハラカスリ 内面:ナデ 孔3ヶ所 脚が凸
129	SI18	2	土師器	高坏	—	—	<4.7>	脚部1/4	緑7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外:内面:ハラナデ 身が凸
129	SI18	3	土師器	高坏	—	(13.6)	<2.3>	脚部	にぶい緑7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外:内面:ナデ
129	SI18	4	土師器	甕	(16.4)	—	<3.7>	口縁部小	にぶい黄緑10YR7/3	良好	砂礫含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ その上から粘土状積み上げてナデ 内面:ハケ ナデ
130	SI19	1	土師器	坏	—	—	<2.6>	体部小	明黄褐10YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外:内面:ナデ
130	SI19	2	土師器	坏	—	—	<2.2>	口縁部小	緑5YR7/6	良好	密	外:内面:ナデ 外内全面赤彩
130	SI19	3	土師器	坏	(11.1)	—	<2.9>	口縁部小	緑5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラカスリ 内面:ナデ
130	SI19	4	土師器	坏	(13.0)	—	<6.4>	口縁1/4~体部	にぶい緑7.5YR7/3	良好	密 長石	外:内面:ナデ
130	SI19	5	土師器	高坏	—	—	<3.6>	脚部	緑5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ミガキ 内面:ハケ ナデ
130	SI19	6	土師器	甕	—	(8.2)	<4.6>	底部1/4	灰白10YR8/2	良好	粗砂粒含む	外面:ハラナデ ハラカスリ 内面:ハラナデ



※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
130	SI19	7	土師器	甕	(14.8)	—	<3.1>	口縁部1/8	縹7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ナテ'
130	SI19	8	土師器	甕	(19.8)	—	<24.1>	口縁~体部	にぶい黄縹10YR6/3~縹7.5YR4/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ ナテ'
130	SI19	9	土師器	甕	—	—	1<15.6> 2<13.2>	1・口縁~体部1/4 2・体部~底部	浅黄縹7.5YR8/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英・ 金色雲母	外・内面:ハケ ナテ'
130	SI19	10	土師器	甕	—	(6.6)	<1.5>	体部小~底部1/3	明赤縹2.5YR5/8	良好	粗砂粒含む 白色粒・石英	外・内面:見込み部にハケ 底面:ハケ
130	SI19	11	土師器	甕	—	(6.4)	<2.3>	底部1/4	縹5YR6/6	良好	密 白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナテ' ハナテ' 内面:ナテ'
130	SI19	12	土師器	甕	—	(8.2)	<2.1>	底部小	縹5YR6/8	良好	密	外・内面:ハケ ナテ'
130	SI19	13	土師器	甕	—	(8.0)	<4.2>	底部	縹5YR6/8	良好	密	外・内面:ハケ ナテ' 内面:ナテ'
130	SI19	14	土師器	甕	—	(10.9)	<4.7>	底部小	にぶい縹7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ ナテ' 内面:ハケ
131	SI20	1	土師器	坏	(13.0)	—	<3.4>	口縁部小	にぶい黄縹10YR7/3	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ' ハラケスリ 内面:ナテ'
131	SI20	2	土師器	坏	(12.0)	—	<6.0>	口縁1/4~体部1/4	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:上部ナテ' 下部ハラケスリ 内面:ナテ' 外内全面赤彩
131	SI20	3	土師器	坏	(14.8)	—	<4.6>	口縁~体部	縹7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ハラケスリ 内面:ナテ'
131	SI20	4	土師器	手捏土器	—	2.7	<3.1>	体部~底部	赤縹5YR4/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ' 指頭痕 内面:ナテ' ハラケ
131	SI20	5	土師器	高坏	—	—	<1.6>	脚部	赤10R5/6	良好	密 金色雲母	外・内面:ハケ 内面:ナテ'
131	SI20	6	土師器	高坏	—	—	<3.1>	体部1/6	にぶい縹7.5YR7/3	良好	密 長石 金色雲母	外・内面:ハケ
131	SI20	7	土師器	高坏	—	—	<2.8>	体部小	赤10YR5/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ'
131	SI20	8	土師器	高坏	—	—	<4.3>	体部	にぶい縹7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	内面:ハケ ミガキ 内面:ハケ
131	SI20	9	土師器	高坏	(9.0)	—	<2.6>	口縁部小	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナテ' 全面赤彩
131	SI20	10	土師器	高坏	(13.7)	—	<4.9>	口縁1/5~体部	黄縹10YR8/6	良好	密	外・内面:ハケ ナテ' 輪槽痕 調整途中のような外面 内面:ハケ
131	SI20	11	土師器	高坏	(16.6)	—	<4.5>	口縁部1/3	にぶい縹7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナテ' ハケ ナテ' 内面:ナテ' 見込みにヨコハケ 脚が凸
131	SI20	12	土師器	高坏	(16.8)	—	<4.8>	口縁部1/5	縹5YR6/6	良好	密	外・内面:ハラケスリ 暗文 内面:暗文
131	SI20	13	土師器	高坏	(20.0)	—	<3.6>	口縁部1/4	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナテ' 内面:ミガキ 暗文
131	SI20	14	土師器	高坏	(20.6)	—	<4.8>	口縁~体部	縹5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外・内面:ナテ'? ハラケスリ? 内面:ナテ'? 表面摩耗激しい
131	SI20	15	土師器	高坏	(18.6)	—	<6.1>	口縁小~体部小	明赤縹5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ ナテ' ハラケスリ ナテ' 内面:ハケ 脚が凸
131	SI20	16	土師器	高坏	12.2	8.3	8.5	口縁~脚部	にぶい縹7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外・内面:ハラケスリ ナテ' 内面:ハケ ナテ' ハラケ
131	SI20	17	土師器	高坏	—	—	<5.1>	体部	明赤縹2.5YR5/6	良好	密	外・内面:ハラケスリ ナテ' 内面:ハラケスリ 脚が凸
131	SI20	18	土師器	高坏	—	—	<6.8>	脚部	赤縹2.5YR4/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ミガキ 内面:ハラケスリ ナテ' 脚が凸 脚土柱削り出し
131	SI20	19	土師器	高坏	—	—	<9.0>	体部	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハラケスリ 内面:ナテ'
131	SI20	20	土師器	高坏	—	—	<8.3>	脚部	縹7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハラケスリ 内面:ナテ' 脚が凸

※(数値)は復元値、<数値>は残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
131	SI20	21	土師器	高坏	—	12.1	<8.4>	脚部	外面:橙5YR6/6 内面:橙7.5YR7/6	良好	粗砂粒含む・長石・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ヘラナデ' ヘラケスリ' 脚が凸
131	SI20	22	土師器	高坏	—	(11.0)	<9.0>	脚部1/3	赤10R5/6	良好	長石・金色雲母	外面:ヘラケスリ' ミガキ' 内面:ヘラケスリ' ヘラナデ' 脚が凸 脚土柱
131	SI20	23	土師器	高坏	—	(13.4)	<6.6>	脚部1/4	にぶい・橙7.5YR6/4~橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・褐色粒・金色雲母	外面:上部がヘケ' 下部ナデ' 内面:下部ヘナナデ'
131	SI20	24	土師器	高坏	—	(12.0)	<7.0>	脚部	黄橙7.5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ' ヘラケスリ' 内面:ナデ'
131	SI20	25	土師器	高坏	(17.3)	—	<3.2>	脚部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘケ' ナデ' 内面:ナデ'
131	SI20	26	土師器	蓋	—	1.7	<2.3>	底部	橙5YR6/6~にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ'
131	SI20	27	土師器	有孔鉢	—	4.0	2.2	体部~底部	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ヘケ' 内面:ナデ' 底部の穴は中から外へ穿孔
131	SI20	28	土師器	鉢	15.4	5.0	6.2	ほぼ完形	橙7.5YR7/6	良好	密 長石 金色雲母	外面:ヘケ' ナデ' 内面:ヘラナデ' ナデ'
131	SI20	29	土師器	有孔鉢	(14.0)	5.4	<8.9>	口縁3/4~底部	橙5YR7/6	良好	密 長石	外面:ナデ' 内面:ヘケ' ナデ' 底部の穴は中から外へ穿孔
132	SI20	30	土師器	壺	—	—	<5.7>	体部1/5	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ヘケ' ヘラケスリ' ナデ' 内面:ヘケ' ナデ'
132	SI20	31	土師器	壺	—	—	<4.2>	体部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' ヘラケスリ' 内面:ナデ'
132	SI20	32	土師器	壺	—	(3.0)	<4.0>	体部~底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラケスリ' ヘケ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
132	SI20	33	土師器	壺	(9.0)	—	<5.0>	口縁1/4~体部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ヘケ' ナデ' ヘラナデ' 内面:ヘケ' ナデ' ヘラナデ' 指頭痕
132	SI20	34	土師器	壺	—	2.6	5.0	体部~底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ヘラケスリ' ヘケ' ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
132	SI20	35	土師器	壺	6.8	2.1	7.0	口縁1/2~底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ヘラケスリ' ヘケ' ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
132	SI20	36	土師器	壺	—	2.7	<3.5>	体部~底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:下から上へヘケ' ナデ' 底部:ヘラケスリ'?
132	SI20	37	土師器	壺	—	(3.0)	<2.6>	体部小~底部1/2	灰褐7.5YR5/2	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヘラケスリ' 内面:指ナデ'
132	SI20	38	土師器	壺	—	2.5	<1.8>	体部小~底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・石英	外・内面:ナデ'
132	SI20	39	土師器	壺	—	2.4	2.7	体部~底部	外面:褐灰7.5YR5/1 内面:明褐灰7.5YR7/2	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラケスリ' 内面:ナデ'
132	SI20	40	土師器	壺	(9.0)	—	<3.7>	口縁部1/4	にぶい・橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・金色雲母	外・内面:ナデ'
132	SI20	41	土師器	壺	(11.7)	—	<5.0>	口縁部小	橙7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' 指頭痕
132	SI20	42	土師器	壺	(13.0)	—	<6.5>	口縁1/6~体部小	橙7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:上部横ヘラナデ' 下部ヘケ' 内面:ナデ' ヘケ' ヘラナデ'
132	SI20	43	土師器	壺	(13.6)	—	<7.0>	口縁部小	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘケ' ナデ' 内面:ナデ'
132	SI20	44	土師器	壺	(15.6)	—	<5.4>	口縁部1/4	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ミガキ' 内面:ナデ'
132	SI20	45	土師器	壺	(16.0)	—	<5.6>	口縁1/3~体部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外・内面:ミガキ
132	SI20	46	土師器	壺	—	—	<4.0>	体部~底部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ミガキ' 内面:指ナデ' ヘケ'
132	SI20	47	土師器	壺	—	2.6	<2.1>	体部小~底部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラケスリ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 底部:ヘラケスリ'
132	SI20	48	土師器	壺	—	<4.0>	<3.0>	底部	外面:浅黄橙10YR8/3 内面:橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
132	SI20	49	土師器	甕	14.8	6.9	22.8	ほぼ完形	外面:黒褐10YR3/2 内面:にぶい黄褐10YR6/4	良好	粗砂粒含む・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ 上部に指頭痕
132	SI20	50	土師器	甕	(14.6)	—	<4.1>	口縁部1/5	褐5YR6/6~にぶい赤褐5YR5/4	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ後指押さえ 内面:ナデ' ハケ 指頭痕
132	SI20	51	土師器	甕	(13.0)	—	<4.6>	口縁部小	にぶい褐7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' ハケ 指頭痕
132	SI20	52	土師器	甕	(16.0)	—	<5.2>	口縁部1/5	にぶい黄褐10YR7/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ ハラナデ' 内面:ナデ' ハケ 指頭痕
132	SI20	53	土師器	甕	(15.8)	—	<7.6>	口縁~体部	にぶい黄褐10YR6/4	良好	密	外面:ハケ ナデ' 内面:ハケ 指頭痕
132	SI20	54	土師器	甕	—	(11.2)	<3.5>	体部小~底部1/4	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハケ ハラナデ' 内面:ハケ 底面:ハラナデ'
132	SI20	55	土師器	甕	—	—	<5.5>	体部~底部	外面:褐5YR6/6 内面:褐7.5YR7/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・長石・石英	外面:ハラナデ' ハケ 内面:ハケ 高台は貼り付け
133	SI20	56	土師器	甕	(13.2)	—	<9.7>	口縁小~体部1/8	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・長石・石英	外面:ナデ' 内面:ナデ' ハケ
133	SI20	57	土師器	甕	—	4.7	<2.2>	底部1/2	灰黄褐10YR4/2	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ'
133	SI20	58	土師器	甕	—	4.0	<2.0>	底部1/2	にぶい黄褐10YR5/3~黒1.7/1	良好	密	外面:ハケ ハラナデ' 内面:ナデ'
133	SI20	59	土師器	甕	—	6.8	<2.3>	底部	にぶい褐7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外:内面:ナデ' ハラナデ'
133	SI20	60	土師器	甕	—	(5.4)	<4.3>	底部小	にぶい褐7.5YR5/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外:内面:ナデ'
133	SI20	61	土師器	甕	(15.4)	8.0	<29.4>	口縁~底部	にぶい黄褐10YR7/4	良好	密	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
133	SI20	62	土師器	甕	4.5	3.0	3.3	把手	褐7.5YR6/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒	
133	SI20	63	石製品	砥石	<11.3>	<6.2>	3.0		灰10Y6/1	良好	密	上面が主な磨面だが他の三面も少し使っている 砂岩
133	SI21	1	土師器	高坏	—	—	<3.2>	体部小~脚部小	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 摩耗 内面:見込み部ナデ'
133	SI21	2	土師器	高坏	—	—	<6.6>	体部	褐7.5YR7/6	良好	密	外面:ハラナデ' 内面:ナデ' ハケ 穴あり 脚土柱
133	SI21	3	土師器	高坏	—	—	<5.8>	体部	黄褐7.5YR7/8	良好	密	外面:ハラナデ' 内面:ハラナデ' ナデ' 穴あり 2段3方向 2×3=6個
133	SI21	4	土師器	蓋	—	(3.4)	<2.8>	つまみ部~体部	外面:にぶい褐7.5YR7/3 内面:褐7.5YR7/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' 指押さえ 内面:ハケ
133	SI21	5	土師器	鉢	(11.6)	—	<6.5>	口縁1/4~体部	にぶい黄褐10YR7/4	良好	密	外面:ハケの後ナデ' 内面:ハラナデ' ナデ'
133	SI21	6	土師器	壺	15.2	—	<6.6>	口縁~体部	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒	外面:ハラナデ' ハケ 内面:ハケ ハラナデ'
133	SI21	7	土師器	台付甕	—	—	<4.4>	体部	褐5YR6/8	良好	密 長石	外:内面:ハケ
133	SI21	8	土師器	甕	—	—	<4.0>	口縁部小	にぶい赤褐5YR5/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・長石・石英	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' 指頭痕
133	SI21	9	土師器	甕	(13.5)	—	<3.5>	口縁部1/8	褐7.5YR4/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 指頭痕 内面:ナデ' 指頭痕
133	SI21	10	土師器	甕	(15.0)	—	<4.1>	口縁部	にぶい赤褐5YR4/3~黒褐7.5YR3/2	良好	粗砂粒含む・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
133	SI21	11	土師器	甕	(15.4)	—	<2.8>	口縁部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外:内面:ナデ' ナデ' 口縁部上面のみ光沢なし ナデ'に光沢ありナデ'状態 甕だが煮炊きしてない
133	SI21	12	土師器	甕	(9.8)	—	<6.2>	口縁~体部	褐5YR6/8	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒	外:内面:ハラナデ'
133	SI21	13	土師器	甕	(13.0)	—	<9.7>	口縁小~体部小	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・黒色粒	外面:ハケ ナデ' 頸部にタテハケの痕跡あり 内面:ナデ' 指押さえ

※(数値)は復元値、<数値>は残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
133	SI21	14	土師器	甕	—	(7.6)	<2.5>	底部小	黒7.5YR1.7/1	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ハケ
133	SI21	15	土師器	甕	—	(5.4)	<1.9>	底部1/2	明褐7.5YR5/8	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ・ハケ
133	SI21	16	土師器	甕	—	7.0	<3.2>	底部1/2	糖5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ 底面:ハケカスリ
133	SI21	17	石製品	管玉	<1.6>	0.6	—		暗青灰色5BG3/1			重さ<0.46g> 石材 滑石
134	SI22	1	土師器	坏	(11.8)	—	<3.2>	口縁小～体部小	にぶい赤褐5YR4/4	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ 内面:ナデ・ハケナデ
134	SI22	2	土師器	坏	(12.4)	—	<3.5>	口縁小～体部小	にぶい赤褐5YR4/4	良好	粗砂粒含む 白色粒・黒色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
134	SI22	3	土師器	坏	(13.4)	—	<3.7>	口縁小～体部小	黒褐7.5YR3/1	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ 内面:ナデ・ハケナデ
134	SI22	4	土師器	坏	(12.0)	—	<3.8>	口縁小～体部小	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ (ハケカスリの後にシカキか? 剥がれて名残りしかない) 内面:ハケ ナデ
134	SI22	5	土師器	坏	(14.6)	—	<6.2>	口縁小～底部	糖2.5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ 内面:ナデ
134	SI22	6	土師器	坏	16.0	—	<7.4>	口縁～体部	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ スズ付着 内面:ナデ・ハケナデ
134	SI22	7	土師器	坏	(12.8)	—	<4.8>	口縁部1/4	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ 外面:口唇部光沢あり 元はシカキか?
134	SI22	8	土師器	坏	(14.8)	<4.0>	<5.3>	口縁小～体部1/4	赤糖10R6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ
134	SI22	9	土師器	坏	(13.0)	0.8	<6.3>	口縁小～底部	糖5YR6/8～にぶい糖7.5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ・ハケカスリ 内面:ナデ・ハケナデ
134	SI22	10	土師器	坏	—	(4.2)	<4.2>	体部小～底部1/2	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハケカスリ 内面:ナデ
134	SI22	11	土師器	高坏	(17.8)	—	<4.6>	口縁1/8～体部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ 口縁部スズ付着
134	SI22	12	土師器	高坏	(19.0)	—	<4.9>	口縁部1/2	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ
134	SI22	13	土師器	高坏	(27.8)	—	<5.5>	口縁小～体部小	糖5YR7/6	良好	密	外面:シカキ 内面:ハケの後シカキ 暗文あり
134	SI22	14	土師器	高坏	(13.0)	—	<4.1>	口縁部小	糖7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
134	SI22	15	土師器	高坏	(19.6)	<10.0>	<3.0>	口縁小～底部小	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ 内面:ナデ
134	SI22	16	土師器	高坏	15.8	—	<4.7>	口縁部2/3	にぶい糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ 内面:ハケナデ
134	SI22	17	土師器	高坏	(22.0)	—	<5.5>	口縁1/4～体部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ハケ
134	SI22	18	土師器	高坏	(15.4)	—	<3.8>	口縁～体部	糖7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケナデ ナデ 内面:ハケ
134	SI22	19	土師器	高坏	(14.4)	—	<4.75>	口縁～体部	糖7.5YR6/8	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケ 脚が凸
134	SI22	20	土師器	高坏	(15.4)	—	<6.2>	口縁1/6～体部小	にぶい黄糖10YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ハケナデ 脚が凸
135	SI22	21	土師器	高坏	15.2	10.2	8.6	完形	糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:坏部ハケナデ ハケ 脚部ハケ ナデ 内面:ハケ ナデ
135	SI22	22	土師器	高坏	(16.4)	(11.2)	<9.1>	口縁1/8～底部1/2	にぶい糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒	外面:ハケカスリ ナデ 外面:ハケナデ ナデ
135	SI22	23	土師器	高坏	15.4	10.2	9.8	口縁1/2～底部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ
135	SI22	24	土師器	高坏	—	(13.0)	<8.7>	脚部1/2	にぶい糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ハケカスリ ナデ 内面:ナデ ハケナデ

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
135	SI22	24	土師器	高坏	(16.0)	—	<3.6>	口縁～体部	にぶい、糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ'
135	SI22	25	土師器	高坏	—	(9.0)	<6.7>	体部～脚部	糖2.5YR6/6	良好	密	外面:ハラクズリ ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
135	SI22	26	土師器	高坏	—	10.8	<6.5>	体部～底部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ハラクズリ ナデ' ハケ 内面:ナデ'
135	SI22	27	土師器	高坏	—	—	<5.0>	脚部	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ' ハケ
135	SI22	28	土師器	高坏	—	(7.6)	<6.6>	脚部1/2	にぶい、糖7.5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ' シキ 内面:ヘラナデ' 身が凸
135	SI22	29	土師器	高坏	—	(10.6)	<9.7>	脚部	糖5YR6/6	良好	密	外面:シキ ヘラナデ' ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 脚が凸
135	SI22	30	土師器	高坏	—	(13.0)	<4.8>	脚部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 脚が凸
135	SI22	31	土師器	高坏	—	(14.4)	<3.1>	脚部1/6	赤10R5/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:シキ 内面:ナデ' ヘラナデ'
135	SI22	32	土師器	高坏	(14.0)	—	<1.8>	脚部	糖7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ナデ' 内面にスス付着
135	SI22	33	土師器	鉢?	(10.0)	—	<8.2>	口縁小～体部1/4	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ' ハラクズリ 内面:ナデ' ハケ
135	SI22	34	土師器	壺	(10.8)	—	<9.9>	口縁1/2～底部	糖7.5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケ ハラクズリ 内面:ナデ' 指頭痕
135	SI22	35	土師器	壺	—	3.1	<5.0>	体部1/2～底部	にぶい、糖5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハラクズリ 内面:ナデ'
135	SI22	36	土師器	壺	—	1.8	<6.0>	体部3/4～底部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ナデ' ハケ ハラクズリ 内面:ナデ' ヘラナデ'
135	SI22	37	土師器	壺	—	<4.0>	<2.4>	底部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハラクズリ 内面:ナデ' ヘラナデ'
135	SI22	38	土師器	甕	(18.0)	—	<4.1>	口縁部1/4	外面:にぶい、糖7.5YR7/4 内面:褐灰7.5YR4/1	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ' ハケ 指頭痕
135	SI22	39	土師器	甕	(20.0)	—	<3.1>	口縁～頸部2/8	にぶい、糖5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ハケ
135	SI22	40	土師器	甕	(22.8)	—	<2.6>	口縁部小	糖5YR6/8	良好	密 赤褐色粒・白色粒・石英	外・内面:ナデ' 口縁折り返し
135	SI22	41	土師器	甕	(16.0)	—	<5.6>	口縁部小	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハケ
135	SI22	42	土師器	甕	(18.2)	—	<7.6>	口縁部1/4	糖5YR6/8	良好	密 長石	外・内面:ハケ 外面口縁はハケの後ナデ'
136	SI22	43	土師器	甕	(16.0)	—	<7.7>	口縁1/8～体部1/4	にぶい、黄糖10YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
136	SI22	44	土師器	甕	(19.6)	—	<14.0>	口縁～体部1/4	外面:浅黄糖10YR8/4 内面:にぶい、黄糖10YR5/4	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外・内面:ハケ 口縁はハケの後ナデ'
136	SI22	45	土師器	甕	20.4	—	<17.2>	口縁1/2～体部	—	良好	粗砂粒含む 白色粒	外・内面:ハケ ナデ'
136	SI22	46	土師器	甕	—	(5.8)	<2.3>	体部小～底部小	糖5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハラクズリ 内面:ナデ' ヘラナデ'
136	SI22	47	土師器	甕	—	(7.6)	<3.7>	体部小～底部小	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ'
136	SI22	48	土師器	甕	—	8.4	<2.1>	体部～底部	外面:糖2.5YR6/6 内面:にぶい、黄糖10YR7/2	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハラクズリ 内面:ヘラナデ'
136	SI22	49	土師器	甕	—	7.6	<4.3>	底部	浅黄糖7.5YR8/6	良好	密	外面:ハラクズリ ヘラナデ' 内面:ヘラナデ'
136	SI22	50	土師器	甕	—	6.6	<11.3>	体部～底部	外面:糖5YR7/6 内面:にぶい、糖7.5YR7/4	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ'
136	SI22	51	土師器	甕	—	3.8	<8.1>	体部～底部	糖5YR6/8	良好	粗砂粒含む 白色粒	外・内面:ハケ 底面:ヘラクズリ

※(数値)は復元値、<数値>は>数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
137	SI22	52	土師器	甕	—	8.0	<10.7>	底部	縹5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケ ナテ' ヘラケスリ 内面:ハケ 輪積痕
137	SI22	53	土師器	甕	—	(1.6)	<11.8>	底部1/2	にぶい、縹7.5YR5/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナテ' 底面:指ナテ'
137	SI22	54	土師器	甕	—	(8.0)	<2.7>	底部3/4	にぶい、縹7.5YR7/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナテ' 内面:ハケ 底面:本葉痕
137	SI22	55	土師器	甕	—	(8.0)	<4.8>	体部～底部小	外面:灰白色10YR8/2 内面:橙色5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ヘラナテ' ナテ' 内面:ナテ' 底面:本葉痕
137	SI22	56	土師器	甕	10.5	5.7	12.4	口縁～底部	にぶい、縹7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘラナテ' ハケ ナテ' 内面:ヘラナテ' ナテ'
137	SI22	57	土師器	甕	16.9	8.0	20.7	口縁～底部	にぶい、縹7.5YR5/3～縹5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘラケスリ ナテ' 内面:ナテ' 輪積痕
137	SI22	58	土師器	甕	(18.2)	5.4	<26.5>	口縁1/2～底部	縹5YR6/8	良好	密 長石	外面:ナテ' ハケ 外面剥離 使用時被熱由来か? 内面:ナテ' 指頭痕 輪積痕
138	SI22	59	土師器	甕	18.8	7.1	32.1	口縁～底部	明赤縹2.5YR5/6～にぶい、縹5YR7/3	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ハケ 内面:ヘラナテ' ナテ' ハケ 表面麻耗して調整不鮮明
138	SI22	60	土師器	甕?	(16.0)	—	<5.1>	口縁部1/5	にぶい、黄縹10YR7/3	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハケ
138	SI22	61	土師器	甕?	(19.5)	—	<11.0>	口縁1/3～体部1/6	縹7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ ナテ' 内面:ハケ ナテ' 輪積痕
138	SI22	62	土師器	甕	—	(10.0)	<6.1>	体部小～底部1/6	にぶい、縹7.5YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:ハケの後ナテ' スス 内面:指押さえ ナテ'
138	SI22	63	鉄製品	鎌	<3.9>	2.1	0.5					重さ<8.01g> 鍛造?
138	SI22	64	石製模造品	有孔円板	2.6	2.6	0.2		黒N21			重さ<3.28g> 石材 滑石
138	SI23	1	土師器	坏	(14.5)	—	<5.3>	口縁1/6～体部小	明赤縹5YR5/8	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ナテ' ヘラケスリ? ヘラナテ' 内面:ナテ'
138	SI23	2	土師器	坏	(14.0)	—	<6.0>	口縁1/3～体部1/3	にぶい、縹7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ヘラケスリ ナテ' 内面:ヘラナテ'
138	SI23	3	土師器	坏	11.6	<2.0>	5.0	口縁3/4～底部	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ヘラケスリ ナテ' 内面:ナテ'
138	SI23	4	土師器	高坏	(17.2)	—	<3.3>	口縁部小	縹7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナテ' 内面:ヘラナテ'
138	SI23	5	土師器	高坏	(16.0)	—	<3.7>	口縁1/4～体部1/4	にぶい、縹7.5YR7/4	良好	密	外面:ナテ' ヘラケスリ 内面:ヘラナテ' ナテ'
138	SI23	6	土師器	高坏	—	—	<5.3>	体部	にぶい、黄縹10YR7/4	良好	密 長石	外面:ヘラケスリ 内面:ナテ' 脚が凸
138	SI23	7	土師器	高坏	—	(12.8)	<2.8>	脚部	縹5YR6/6	良好	密	外面:ナテ' 内面:ナテ' ヘラナテ'
138	SI23	8	土師器	高坏	—	(11.0)	<3.5>	脚部1/2	縹7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ヘラナテ' 脚身凸不明
138	SI23	9	土師器	高坏	—	11.5	<4.7>	脚部	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ヘラナテ' 脚?身?凸不明
139	SI23	10	土師器	壺	(7.8)	—	<5.9>	口縁部1/4	浅黄縹7.5YR8/3	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ナテ' ハケ 内面:ナテ'
139	SI23	11	土師器	甕	(22.0)	—	<8.0>	口縁～体部1/4	にぶい、黄縹10YR7/3	良好	粗砂粒含む 長石・石英	外面:ナテ' 内面:ヘラナテ'
139	SI23	12	土師器	甕	(19.6)	—	<17.7>	口縁～体部	にぶい、黄縹10YR7/2	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘラケスリ ハケ 内面:ヘラナテ'
139	SI23	13	土師器	甕	—	8.0	<19.2>	体部～底部	にぶい、黄縹10YR7/4	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ハケ ナテ'
139	SI23	14	土師器	甕	—	1.8	<1.8>	底部	黒10YR1.7/1	良好	密 赤褐色粒・白色粒・石英	外面:ヘラナテ' 内面:ナテ'
139	SI23	15	土師器	甕	—	5.1	<2.7>	底部1/3	縹灰10YR4/1～にぶい、黄縹10YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ヘラケスリ 内面:ナテ'

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	口径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
139	SI23	16	土師器	甕	—	(7.3)	<3.7>	底部1/4	縹7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ' ヘラナデ'
139	SI23	17	土師器	甕	—	(7.0)	<6.3>	体部～底部	にぶい縹7.5YR5/3～灰黄褐10YR6/2	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ
139	SI23	18	土師器	甕	(24.0)	—	<8.8>	口縁部小	縹7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外・内面:ハケ
139	SI23	19	須恵器	坏	—	—	<3.0>	口縁部小	灰N6/	良好	密	外・内面:クロナデ'
139	SI23	20	須恵器	高坏	—	(5.8)	<1.7>	体部～底部小	外面:灰N5/ 内面:灰白N7/	良好	密	外面:自然釉付着 脚切り欠き4方向
139	SI23	21	須恵器	甕	—	—	<3.7>	体部小	灰7.5Y5/1	良好	密	外面:叩き(平行叩き目) 内面:ナデ'
139	SI23	22	須恵器	甕	—	—	<3.4>	体部小	灰白色2.5Y7/1	良好	密	外面:平行叩き目
139	SI23	23	鉄製品	刀子?	<4.2>	1.5	0.8					重さ<6.38g> 鍛造?
139	SI23	24	鉄製品	鎌?	<7.4>	2.9	1.0	刃部の中間部				重さ<23.10g> 折り重なる 鍛造か?
140	SI24	1	土師器	坏	(12.0)	—	<4.4>	口縁部小	にぶい縹7.5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
140	SI24	2	土師器	坏	(12.0)	—	<5.0>	口縁1/7～体部小	にぶい縹7.5YR7/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ヘラナデ'の後ナデ' 内面:ヘラナデ'の後ナデ'
140	SI24	3	土師器	把手付碗?	<3.4>	<1.9>	<1.6>	把手	にぶい縹7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・金色雲母	
140	SI24	4	土師器	高坏	—	(10.0)	<4.3>	脚部	にぶい黄褐10YR6/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ' ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 脚が凸
140	SI24	5	土師器	鉢?	(7.4)	—	<5.8>	口縁小～体部小	にぶい縹7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ヘラナデ' ナデ'
140	SI24	6	土師器	壺	—	(4.0)	<2.4>	底部1/4	縹2.5YR6/8	良好	密 赤褐色粒・長石・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
140	SI24	7	土師器	甕	18.6	7.8	29.9	ほぼ完形	にぶい黄褐10YR7/3	良好	粗砂粒含む 長石・石英	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ヘラナデ' ハケ 頸部に指頭痕
140	SI24	8	土師器	甕	11.4	—	5.8	口縁1/4～体部小	明赤褐5YR5/8	良好	密 白色粒・長石・石英	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ' 指頭痕
140	SI24	9	土師器	甕	—	—	<4.5>	把手	にぶい黄褐10YR6/3	良好	粗砂粒含む 白色粒	内面:ハケ
140	SI24	10	石製品	管玉	0.5	0.5	0.4		灰白2.5Y7/1			重さ<0.20g> 石材 滑石 断面・側面に線あり
140	SI24	11	石製品	管玉	0.5	0.5	0.4		灰白N8/			重さ<0.15g> 石材 滑石
140	SI24	12	石製品	管玉	0.5	0.5	0.3		灰白N8/			重さ<0.12g> 石材 滑石
140	SI25	1	土師器	坏	(15.6)	—	<4.0>	口縁部1/4	縹2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' 外内全面赤彩
140	SI25	2	土師器	坏	(14.0)	<6.6>	<3.4>	口縁1/4～底部1/4	縹2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' 外内全面赤彩
140	SI25	3	土師器	坏	14.8	5.0	4.2	口縁1/2～底部	縹2.5YR6/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' 外内全面赤彩
140	SI25	4	土師器	高坏	—	—	<3.1>	体部	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' 脚が凸
140	SI25	5	土師器	高坏	—	—	<6.0>	体部～脚部	にぶい縹5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ハケ ヘラナデ'
140	SI25	6	土師器	器台	—	—	<3.4>	体部	縹7.5YR6/6	良好	密	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 穴3カ所
140	SI25	7	土師器	甕	—	<10.0>	<5.3>	底部3/4	外面:明赤褐5YR5/8 内面:明褐5YR7/2	良好	砂礫含む 赤色粒・長石・黒色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' 剝離

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
140	SI25	8	土師器	甕	(14.0)	—	<4.3>	口縁部1/5	にぶい赤褐5YR5/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ナデ・ハケ 内面:ナデ・ハラナデ
140	SI25	9	土師器	甕	(15.0)	—	<6.4>	口縁1/6~体部小	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・ 石英・金色雲母	外・内面:ハケ ナデ
140	SI25	10	土師器	甕	—	(8.4)	<2.2>	体部~底部1/4	灰褐5YR4/2	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハラナデ 底面:木葉痕
140	SI25	11	土師器	甕	—	7.2	<3.1>	体部小~底部3/4	褐5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハラナデ 底面:ハケ ハラケスリ
140	SI25	12	土師器	甕	—	(7.0)	<3.6>	底部1/3	外面:明赤褐5YR5/8 内面:灰褐5YR4/2	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・黒色雲母	外面:ハラナデ 内面:ナデ・ハラナデ
140	SI25	13	土師器	甕	—	7.5	<8.2>	体部小~底部	灰褐5YR2/4~褐2.5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:タテハケ摩擦 内面:ナデ・ハラナデ
141	SI25	14	土師器	甕	(20.0)	(8.4)	34.4	口縁1/4~底部1/2	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ ハラナデ
141	SI25	15	土師器	甕	—	—	<5.6>	体部小	—	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ハラナデが摩擦 内面:上部荒目のガテハケ 下部コホク
141	SI25	16	土師器	甕	—	—	<4.6>	口縁部小	にぶい褐5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・ 石英・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ
141	SI25	17	石製石	砥石	12.6	3.8	3.0	—	灰	良好	密 黒色粒	安山岩
141	SI26	1	土師器	高坏	(17.7)	—	<5.1>	口縁~体部	にぶい黄褐10YR6/3	良好	密	外・内面:ミカキ 暗文
141	SI26	2	土師器	高坏	—	<15.0>	<4.7>	脚部1/4	褐5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
141	SI26	3	土師器	蓋	—	(5.7)	<2.1>	つまみ部	褐7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ハラナデ 内面:ナデ
141	SI26	4	土師器	甕	—	(10.0)	<2.5>	底部1/4	褐5YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ハケ
141	SI26	5	土師器	甕	—	(5.8)	<3.2>	体部~底部	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ
141	SI27	1	土師器	坏	(13.0)	—	<3.6>	口縁1/4~体部小	褐5YR6/6	良好	密	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ナデ 線刻?あり
141	SI27	2	土師器	坏	12.8	6.0	4.6	ほぼ完形	褐7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ハケ ナデ
141	SI27	3	土師器	坏	13.6	3.0	4.8	口縁1/2~体部3/4	赤褐10YR6/8	良好	密	外面:ナデ ハラケスリ 内面:ナデ 指頭痕
141	SI27	4	土師器	坏	(13.1)	2.0	5.6	口縁~底部	外面:褐7.5YR6/6 内面:黒10YR2/1	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:口縁 黒彩 ナデ(下部はハラケスリか? 摩擦している) 内面:ハケ 黒彩
141	SI27	5	土師器	坏	13.7	6.5	5.4	完形	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラケスリ 線刻あり? 内面:ミカキ 底面:ハラケスリ
141	SI27	6	土師器	坏	5.9	5.0	3.9	完形	褐5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ハラナデ ハラケスリ 内面:ハラナデ 指頭痕
142	SI27	7	土師器	高坏	—	—	<5.1>	体部	にぶい褐7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ 脚が凸か?
142	SI27	8	土師器	高坏	(19.4)	—	<5.4>	口縁小~体部小	褐7.5YR7/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外・内面:ナデ 見込み部ハケ
142	SI27	9	土師器	高坏	—	10.0	<6.5>	体部~脚部	褐7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	坏部:内外面ナデ 脚部:外面上部ケスリ 内面ケスリ 接地部先端は ナデ、身が凸
142	SI27	10	土師器	高坏	(13.9)	(9.0)	7.7	口縁1/4~底部1/4	褐5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ ハラナデ 内面:ナデ
142	SI27	11	土師器	高坏	—	—	<4.9>	脚部	オリーブ黒5Y3/1	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ ハラケスリ 内面:ナデ ハケ
142	SI27	12	土師器	高坏	—	—	<7.0>	脚部	褐5YR7/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ハラナデ 内面:ナデ 脚が凸
142	SI27	13	土師器	高坏	—	—	<7.7>	脚部	褐5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ミカキ 内面:ナデ ハケ 脚が凸



※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
142	SI27	14	土師器	高坏	— (15.6)	<4.5>	体部～底部1/8	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナテ 内面:ナテ ハケ	
142	SI27	15	土師器	高坏	— (18.4)	<4.3>	脚部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ	
142	SI27	16	土師器	鉢	—	<6.2>	口縁部小	橙7.5YR7/6	良好	密 黒色粒	外・内面:ハケ ナテ	
142	SI27	17	土師器	鉢	—	<4.7>	口縁小～体部小	にぶい橙7.5YR5/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ハケナテ ナテ 内面:ハケナテ ナテ	
142	SI27	18	土師器	鉢	— (15.8)	<4.8>	口縁～体部	橙7.5YR7/6～にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ	
142	SI27	19	土師器	鉢	11.4	5.8	ほぼ完形	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナテ ハケナテ 内面:ナテ ハケナテ	
142	SI27	20	土師器	鉢	12.6	5.0	口縁1/2～底部3/4	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハケナテ 内面:上縁にハケ?あり 他はナテ	
142	SI27	21	土師器	鉢	—	4.3	体部小～底部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ハケ 内面:ナテ 底面:ハケナテ	
142	SI27	22	土師器	鉢	—	(4.0)	体部～底部1/2	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナテ 底面:織列	
142	SI27	23	土師器	有孔鉢	12.7	4.0	口縁～底部	にぶい黄橙10YR7/3	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ハケ 輪稜痕 内面:ハケナテ ハケ 輪稜痕	
142	SI27	24	土師器	壺	—	4.6	体部～底部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:上部シキ 下部横にカスリ)の後にシカ 内面:ナテ	
142	SI27	25	土師器	甕	(14.0)	—	口縁部1/5	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ 口縁外面:ハケ 内面に指ナテ痕	
142	SI27	26	土師器	甕	(19.0)	—	口縁7/8～体部2/8	浅黄橙10YR8/4	良好	密 長石	外面:ナテ 内面:ナテ 指頭痕	
142	SI27	27	土師器	甕	(16.0)	—	口縁部1/2	にぶい黄橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外・内面:ナテ ハケ	
142	SI27	28	土師器	甕	(26.0)	—	口縁1/5～体部小	浅黄橙7.5YR8/4	良好	砂塵含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外・内面:ハケ ナテ	
143	SI27	29	土師器	甕	16.4	—	口縁～体部7/6	橙5YR	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ハケ 指頭痕	
143	SI27	30	土師器	甕	17.9	—	口縁～体部	灰白10YR8/2	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ハケ ナテ 内面:ハケナテ ナテ	
143	SI27	31	土師器	甕	—	6.1	体部小～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ハケナテ 指頭痕 内面:ハケ 底面:ハケナテ	
143	SI27	32	土師器	甕	—	5.9	体部小～底部	にぶい黄橙10YR7/3	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ナテ 底面:外側粘土貼り付け ナテ	
143	SI27	33	土師器	甕	—	6.4	体部1/4～底部	外面:明赤褐2.5YR5/8 内面:橙5YR7/6	良好	粗砂粒含む 長石・石英	外面:ハケナテ ハケ 内面:ハケ 底面:ハケナテ	
143	SI27	34	土師器	甕	—	7.8	体部～底部	外面:黒褐10YR3/1 内面:にぶい黄橙10YR7/3	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ハケナテ ナテ 内面:ハケ	
143	SI27	35	土師器	甕	—	8.0	体部～底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 長石・石英	外面:最下部ハケ その他は表面が荒れていて不明 内面:ハケナテ	
143	SI27	36	土師器	甕	15.6	8.0	ほぼ完形	口縁:浅黄橙7.5YR8/3 体部:褐灰 10YR5/1 底部:橙2.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナテ 内面:コナテ 底面:ハケナテ	
143	SI27	37	須恵器	坏	17.7	4.0	完形	灰白N7/	良好	密 長石	外面:ナテ 口縁:ハケナテ 内面:コナテ	
143	SI27	38	須恵器	甕	—	—	体部小	黄灰2.5YR6/1	良好	密	外面:平行叩き目 内面:同心円当具痕	
143	SI27	39	須恵器	甕	—	—	体部小	灰7.5YR6/1	良好	密	外面:平行叩き目 内面:同心円当具痕	
143	SI27	40	土製品	足?	<3.3>	<2.5>	片足	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石		
143	SI27	41	石製品	管玉	3.5	0.7	0.6	暗緑灰色10C3/1			重さ<2.56g> 石材 滑石	

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
143	SI27	42	石製品	管玉	2.5	0.45	0.45		黒色2.5Y2/1		重さ<1.00g> 石材 滑石	
144	SI28	1	土師器	坏	<16.0>	<7.6>	<5.0>	口縁小～底部小	にぶい、橙7.5YR5/4	良好	密 赤褐色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' ヘラケスリ 内面:ナデ' ヘラナデ'
144	SI28	2	土師器	坏	(12.8)	—	<5.7>	口縁1/4～体部小	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	密 白色粒	外面:ヘラケスリ ナデ' 内面:ヘラナデ' ナデ'
144	SI28	3	土師器	坏	13.0	3.0	4.5	口縁1/2～底部3/4	にぶい、橙7.5YR7/4～にぶい、橙5YR6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラケスリ 内面:ナデ' ヘラナデ'
144	SI28	4	土師器	高坏	—	—	<2.2>	体部小～脚部小	橙5YR7/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	外・内面:ナデ' 穴3ヶ所
144	SI28	5	土師器	高坏	—	—	<9.2>	脚部1/2	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 長石	外面:ハケの後にシキ 内面:ヘラナデ' ナデ'
144	SI28	6	土師器	鉢	(18.0)	—	<7.1>	口縁部小	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ヘラナデ'
144	SI28	7	土師器	有孔鉢	(14.4)	—	6.6	口縁～底部	黄橙7.5YR7/8	良好	密	外・内面:ナデ' 底部欠あり
144	SI28	8	土師器	鉢?	—	5.3	<5.6>	体部小～底部	灰黄褐10YR5/2	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' 内面:ハケ ヘラナデ' 底面:木葉痕
144	SI28	9	土師器	甕	(12.6)	—	<4.5>	口縁部	灰黄褐10YR4/2	良好	密 長石・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ'
144	SI28	10	土師器	甕	(16.0)	—	<2.9>	口縁部1/6	にぶい、黄橙10YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母	外・内面:ナデ'
144	SI28	11	土師器	甕	(16.8)	—	<3.7>	口縁部小片	橙5YR6/6	良好	密 長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
144	SI28	12	土師器	甕	—	8.4	<25.9>	体部～底部	灰褐5YR4/2～にぶい、橙7.5YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 輪種痕
144	SI28	13	土師器	甕	—	<9.0>	<4.5>	底部1/4	外面:橙5YR6/8 内面:黄橙7.5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ハケ
144	SI28	14	須恵器	甕	—	—	<3.7>	体部小	にぶい、黄橙10YR7/2	良好	密	外面:平行吹き目 内面:叩き痕あり 同心円当具痕
145	SI29	1	土師器	坏	13.0	—	<2.9>	口縁部1/4	橙5YR6/8	良好	密 赤褐色粒・長石	外面:ナデ' ヘラケスリ 内面:ナデ'
145	SI29	2	土師器	坏	(14.0)	—	<4.8>	口縁部1/4	橙5YR6/8	良好	密 赤褐色粒・長石	外・内面:ナデ'
145	SI29	3	土師器	高坏	—	13.6	<7.4>	脚部	にぶい、橙	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ヘラケスリ ナデ' 内面:ナデ' 脚が凸
145	SI29	4	土師器	壺	(9.8)	—	<3.3>	口縁部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' 輪種痕 内面:ナデ' ヘラナデ' 輪種痕 指頭痕
145	SI29	5	土師器	壺	(10.0)	—	<5.7>	口縁1/8～体部1/8	灰白10YR8/2	良好	密 長石	外・内面:ナデ'
145	SI29	6	土師器	壺	(20.6)	—	<4.7>	口縁部1/5	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
145	SI29	7	土師器	甕	(16.0)	—	<3.4>	口縁1/8～体部小	橙5YR6/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
145	SI29	8	土師器	甕	(23.0)	—	<5.2>	口縁1/4～体部	灰黄褐10YR6/2	良好	密 長石	外・内面:ナデ'
145	SI29	9	土師器	甕	—	4.6	<1.9>	底部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
145	SI29	10	土師器	甕	—	(7.4)	<2.9>	体部小～底部1/2	褐灰7.5YR4/1	良好	粗砂粒含む 赤色粒・石英	外・内面:ハケ ナデ' 底面:ヘラケスリ
145	SI29	11	土師器	甕	—	(5.0)	<4.0>	底部1/3	橙5YR6/6～明赤褐5/8	良好	密 赤褐色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ' ヘラナデ' 底面:ヘラケスリ
145	SI29	12	土師器	甕	—	(4.0)	<3.9>	底部小	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
145	SI29	13	土師器	甕	—	6.6	<4.6>	体部～底部	にぶい、橙7.5YR7/4～褐灰10YR4/1	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ハケ ヘラナデ' 輪種痕 内面:ヘラナデ' 輪種痕

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
145	SI30	1	土師器	手捏土器	6.1	2.1	4.4	完形	灰黄褐10YR5/2	良好	粗砂粒含む・赤色粒・長石・石英	外・内面:ナデ 指頭痕
145	SI30	2	土師器	高坏	—	—	<3.1>	体部小～脚部小	明黄褐10YR6/6	良好	細砂粒含む・白色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ' (ハケ痕?) 内面:ナデ' ヘラナデ'
145	SI30	3	土師器	高坏	—	(10.0)	<3.9>	脚部	褐5YR7/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ' 穴1カ所 配置数は不明
145	SI30	4	土師器	鉢	(18.0)	—	<2.9>	口縁部小	明赤褐2.5YR5/6～にぶい赤褐5YR4/3	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' ハケ 内面:ハケ
145	SI30	5	土師器	鉢	(20.0)	—	<7.4>	口縁部1/4	外面:褐5YR6/6 内面:褐5YR7/8	良好	密 赤褐色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ハケ ヘラナデ' ナデ'
145	SI30	6	土師器	鉢	(15.8)	—	<7.5>	口縁～体部	灰黄褐10YR4/2	良好	密	外面:ヘラケズリ' ヘラナデ' 指頭痕 内面:ナデ' ヘラナデ'
145	SI30	7	土師器	壺	(14.0)	—	<1.9>	口縁部小	にぶい褐7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外・内面:ナデ' ヘラナデ'
145	SI30	8	土師器	壺	—	—	<7.1>	体部～底部	浅黄褐10YR8/4	良好	密	外面:ハケ ヘラナデ' 内面:ハケ ナデ'
145	SI30	9	土師器	壺	—	4.0	<3.9>	体部～底部	外面:黒7.5YR2/1 内面:にぶい褐7.5YR6/3	良好	密 長石	外面:ヘラナデ' ヘラケズリ' ハケ? 内面:ナデ'
146	SI30	10	土師器	台付甕	(23.6)	—	<26.7>	口縁～体部	にぶい褐7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ' 指頭痕
146	SI30	11	土師器	甕	(17.4)	—	<20.3>	口縁1/4～体部1/4	にぶい黄褐10YR6/4	良好	密	外面:ハケ ヘラケズリ' ナデ' 内面:輪種痕 細いハケ ナデ'
146	SI30	12	土師器	甕	—	4.0	<2.6>	底部	にぶい褐7.5YR5/4	不良	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヘラナデ'? 内面:ナデ' ハケ
146	SI30	13	土師器	甕	—	(9.0)	<2.6>	底部1/3	褐5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ' 底面内面:指ナデ'痕あり
146	SI30	14	弥生土器	弥生甕	—	—	—	口縁～体部小	外面:褐7.5YR4/3 内面:黒褐7.5YR3/1	良好	細砂粒含む・白色粒・金色雲母	外面:縞縞波状文 内面:ハケ ナデ'
146	SI30	15	鉄製品	鎌?	<3.2>	1.8	0.7	—	—	—	重さ<6.43g>	—
146	SI31	1	土師器	高坏	—	—	<6.0>	体部～脚部	褐5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ヘラケズリ' 内面:ナデ' 脚部穴3ヶ所
146	SI31	2	土師器	鉢	—	—	<5.1>	口縁～体部小	にぶい褐7.5YR7/4	良好	密	外面:ナデ' 内面:上部ナデ' 下部ニガキ? ハケ?
146	SI31	3	土師器	鉢	(9.3)	—	<4.5>	口縁1/8～体部小	外面:にぶい褐7.5YR7/4 内面:浅黄褐7.5YR8/3	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ヘラケズリ' ナデ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
146	SI31	4	土師器	壺	—	—	<2.1>	体部小	明黄褐10YR7/6	良好	密	粘土紐貼り付け 複合口縁 大脚式
146	SI31	5	土師器	壺	—	—	<2.9>	口縁部小	褐5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ' 口唇部 粘土紐貼り付け
146	SI31	6	土師器	壺	(22.8)	—	<2.4>	口縁部小	浅黄褐7.5YR8/6	良好	密 長石	外・内面:ナデ'
146	SI31	7	土師器	壺	(18.0)	—	<2.1>	口縁部小	褐5YR7/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ' ヘラ押え 内面:ヘラナデ'
146	SI31	8	土師器	壺	—	5.8	<2.3>	口縁3/4～体部小	黒褐10YR3/1	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラケズリ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
146	SI31	9	土師器	壺	—	6.6	<3.0>	体部～底部1/2	黒灰7.5YR3/1	良好	密 長石・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ'
147	SI31	10	土師器	台付甕	(14.0)	—	<4.2>	口縁1/6～体部小	外面:褐5YR6/6 内面:にぶい黄褐10YR7/2	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ'
147	SI31	11	土師器	台付甕	(16.0)	—	<3.5>	口縁1/8～体部小	褐7.5YR6/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' 指頭痕
147	SI31	12	土師器	台付甕	—	—	<1.6>	体部	にぶい褐7.5YR7/4	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ 内面:ナデ'
147	SI31	13	土師器	台付甕	—	—	<2.4>	体部	褐5YR7/6	良好	細砂粒含む・長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ' ヘラナデ'

※(数値)は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
147	SI31	14	土師器	台付甕	—	—	<2.3>	体部	糖5YR6/6～灰褐5YR4/2	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:タテハケ 内面:ナデ
147	SI31	15	土師器	台付甕	—	—	<2.6>	体部	糖5YR6/8	良好	密	外面:ハケ 内面:ヘラナデ 指頭痕
147	SI31	16	土師器	台付甕	—	6.0	<4.7>	脚部～底部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ 内面:ヨコハケ 全体摩耗
147	SI31	17	土師器	台付甕	—	(9.0)	<3.9>	脚部1/3	にぶい・糖7.5YR7/4～糖5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
147	SI31	18	土師器	甕	—	—	<6.6>	底部	糖5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ 指頭痕
147	SI32	1	土師器	坏	(12.4)	—	<3.9>	口縁1/5～体部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ へラカスリ 内面:ナデ
147	SI32	2	土師器	坏	(13.8)	—	5.6	口縁1/2～底部	外面:糖5YR7/6 内面:糖2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ヘラナデ 底面:木葉痕?
147	SI32	3	土師器	高坏	10.4	—	<3.5>	口縁部3/4	外面:浅黄糖7.5YR8/4 内面:黄糖7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ 脚が凸
147	SI32	4	土師器	高坏	(15.8)	—	<5.0>	口縁部1/4	糖2.5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
147	SI32	5	土師器	高坏	(21.8)	—	<5.0>	口縁1/5～体部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ
147	SI32	6	土師器	高坏	—	—	<2.4>	体部小	にぶい・糖7.5YR6/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・ 金色雲母	外面:ハケの後跡キ ヘラナデ 内面:ナデ
147	SI32	7	土師器	高坏	—	—	<1.8>	体部小	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ 脚が凸
147	SI32	8	土師器	高坏	—	—	<3.1>	体部	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ 脚が凸
147	SI32	9	土師器	高坏	—	—	<10.2>	体部～脚部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:シガキ ヘラカスリ 内面:シガキ ヘラナデ
147	SI32	10	土師器	高坏	—	—	<9.3>	脚部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ 脚が凸
147	SI32	11	土師器	高坏	—	(13.4)	<4.1>	脚部～底部1/3	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ヘラカスリ ヘラナデ 内面:ナデ
147	SI32	12	土師器	器台	—	—	<1.3>	体部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・石英	外・内面:ナデ
147	SI32	13	土師器	蓋	3.0	—	<0.9>	つまみ部	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	
147	SI32	14	土師器	蓋	2.8	13.8	4.4	口縁～底部1/3	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ 内面:ハケ ナデ
147	SI32	15	土師器	蓋	8.6	—	<5.9>	口縁部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ ヘラナデ
147	SI32	16	土師器	壺	(13.8)	—	<2.0>	口縁部小	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ 内面:ナデ
147	SI32	17	土師器	壺	—	(2.6)	<5.4>	体部～底部	糖5YR7/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ナデ ヘラカスリ 甕の横做か? 内面:ナデ
147	SI32	18	土師器	壺	—	—	<2.7>	底部	黄糖7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ
147	SI32	19	土師器	壺	—	2.5	<4.7>	底部	浅黄糖7.5YR8/4	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ヘラナデ
148	SI32	20	土師器	台付甕	—	—	<3.1>	体部	糖2.5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケ カスリ ナデ 内面:ナデ
148	SI32	21	土師器	甕	(11.4)	—	<6.9>	口縁1/4～体部1/2	外面:明赤褐2.5YR5/8 内面:糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ ヘラナデ ヘラカスリ 内面:ヘラナデ 輪痕 指頭痕
148	SI32	22	土師器	甕	(21.0)	—	<6.3>	口縁1/4～体部小	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・ 長石・石英・金色雲母・黒色雲母	外面:ヘラナデ ナデ 内面:ハケ後ナデ
148	SI32	23	土師器	甕	—	(8.0)	<2.3>	体部～底部1/3	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
148	SI32	24	土師器	甕	—	5.8	<1.7>	体部～底部1/2	明褐色7.5YR5/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハク 内面:ハク ナデ' 底面:ハクナデ'
148	SI32	25	石製品	砥石	5.0	2.4	1.8		灰白2.5Y8/2			凝灰岩
148	SI33	1	土師器	手捏土器	(4.6)	2.5	3.7	口縁小～底部	褐色5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:指ナデ' 指頭痕 内面:ナデ' 口縁不定型
148	SI33	2	土師器	高坏	(16.8)	—	<3.7>	口縁1/3～体部小	にぶい褐色7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハクナデ' 内面:シカキ
148	SI33	3	土師器	高坏	(15.6)	—	<4.0>	口縁1/5～体部1/5	褐色5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
148	SI33	4	土師器	高坏	(17.0)	—	<4.6>	口縁部1/4	褐色5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ' 全体に摩耗
148	SI33	5	土師器	高坏	—	—	<4.6>	体部～脚部	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:シカキ 見込みシカキ
148	SI33	6	土師器	高坏	(21.6)	—	<6.5>	口縁1/3～体部	にぶい褐色7.5YR6/4	良好	密 赤色粒	外・内面:シカキ
148	SI33	7	土師器	高坏	—	—	<5.1>	脚部	褐色2.5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
148	SI33	8	土師器	高坏	—	—	<6.3>	脚部	褐色5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:シカキ(縦方向の暗文) ハクナデ' 内面:ナデ' ハクナデ'
148	SI33	9	土師器	高坏	—	<5.0>	<3.5>	脚部1/2	明赤褐色2.5YR5/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:シカキ 内面:ナデ' ハクナデ' 脚が凸
148	SI33	10	土師器	高坏	—	(13.6)	<8.5>	脚部1/4	にぶい褐色7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:ハクナデ' 脚が凸
148	SI33	11	土師器	高坏	—	13.8	<10.5>	脚部2/3～体部小	褐色7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:シカキ(暗文) ナデ' ハクナデ' 外面:シカキ(暗文) ハクナデ'
148	SI33	12	土師器	高坏	—	15.2	<9.2>	脚部2/3	褐色5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外面:ハクナデ' ハクナデ' 内面:ハクナデ' 輪種痕 ナデ'
148	SI33	13	土師器	高坏	—	16.7	<8.1>	脚部～底部	褐色5YR6/8	良好	密	外面:ハクナデ'の内面:ハク ナデ' 内面:ハク ナデ' 指頭痕 輪種痕
148	SI33	14	土師器	高坏	—	14.5	<10.7>	脚部～底部	褐色7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハクナデ' ハク 内面:ナデ' ハクナデ'
148	SI33	15	土師器	器台	—	—	<1.9>	体部	褐色7.5YR6/6	良好	密 長石	外・内面:ナデ' 脚が筒 台付脚に似ている
149	SI33	16	土師器	壺	12.0	—	<6.8>	口縁部	褐色5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ'(ハクナデ'? ) 指頭痕 内面:ナデ'(ハクナデ'? )
149	SI33	17	土師器	壺	(11.0)	—	<7.1>	口縁～体部	にぶい褐色7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハクナデ' 内面:ナデ' ハクナデ' 指頭痕
149	SI33	18	土師器	壺	—	(3.6)	<5.1>	体部1/2～底部1/2	褐色7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハクナデ' ナデ' 内面:ナデ'
149	SI33	19	土師器	壺	—	(2.0)	<3.1>	体部小～底部2/3	にぶい黄褐色10YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・金色雲母	外面:ハクナデ' 内面:ナデ' 指頭痕 底面:ハクナデ'
149	SI33	20	土師器	壺	—	2.2	<5.1>	体部小～底部	褐色5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ハクナデ' ハクナデ' シカキ? 表面摩耗が激しく不明 内面:ナデ'
149	SI33	21	土師器	壺	—	—	<3.8>	体部1/3	褐色7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハクナデ' 線刻 内面:ナデ'
149	SI33	22	土師器	鉢	(29.2)	—	<6.6>	口縁1/8～体部	にぶい褐色7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ'
149	SI33	23	土師器	甕	—	—	<4.8>	口縁部小	にぶい黄褐色10YR6/3	良好	細砂粒含む 長石・金色雲母	外・内面:ハクナデ' ナデ'
149	SI33	24	土師器	甕	(15.0)	—	<2.8>	口縁部1/3	褐色5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ' 頸部一部分にカケあり
149	SI33	25	土師器	甕	(17.0)	—	<3.6>	口縁部1/6	褐色5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:カケナク 摩耗 内面:上部ナデ' 下部コハク
149	SI33	26	土師器	甕	14.0	—	<7.3>	口縁2/4～体部小	にぶい褐色7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母・黒色雲母	外面:ナデ' ハクナデ' 内面:ナデ' ハクナデ' ハク

※(数値)は復元値、<数値>は>数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
149	SI33	27	土師器	甕	(15.8)	—	<12.3>	口縁1/4～底部1/4	外面:糖5YR6/6 内面:灰白7.5YR8/2	良好	粗砂粒含む・長石・石英・金色雲母	外面:ヘナナデ' ナデ' ヘラカスリ' 内面:ヘナナデ' 指頭痕
149	SI33	28	土師器	甕	—	—	<13.2>	体部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラカスリ' ヘラナデ' 内面:ナデ' 輪積痕
149	SI33	29	土師器	甕	—	(5.4)	<1.8>	体部～底部1/2	糖5YR6/6	良好	密 黒色粒・長石	外面:ヘナナデ' 内面:ハケ
149	SI33	30	土師器	甕	—	(8.0)	<4.1>	底部1/4	糖5YR6/8	良好	細砂粒含む・赤色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ'
149	SI33	31	土師器	甕	—	(6.8)	<3.2>	体部1/4～底部	外面:糖5YR6/8 内面:黒褐10YR3/2	良好	細砂粒含む・赤色粒・長石・石英	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ'
149	SI33	32	土師器	甕	—	(7.8)	<2.8>	体部小～底部1/3	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ'
149	SI33	33	土師器	甕	—	(6.8)	<3.9>	体部小～底部1/4	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
149	SI33	34	土師器	甕	—	(7.2)	<6.7>	体部小～底部1/4	にぶい・糖5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タハケ 摩耗 内面:ナデ'
150	SI33	35	土師器	甕	16.8	7.0	23.4	口縁2/3～底部	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラカスリ'? コホケ 不明瞭 内面:ナデ' 指頭痕
150	SI33	36	土師器	甕	20.4	6.8	28.2	口縁1/2～底部	にぶい・黄褐10YR7/4	良好	粗砂粒含む・長石・金色雲母	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ' ナデ' 内面:ヘナナデ' 胸部下半部付着 底部赤化 研で使いか?
150	SI34	1	土師器	高坏	(21.0)	—	<5.0>	口縁部1/4	糖2.5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ'(ヘラナデ'?)
150	SI34	2	土師器	高坏	—	—	<5.2>	脚部	糖7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ヘラカスリ' 内面:ナデ' ヘラナデ' 穴3ヶ所 脚が凸
150	SI34	3	土師器	高坏	—	—	<7.6>	脚部	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカスリ' ヘラナデ' 内面:ハケ 身が凸
150	SI34	4	土師器	高坏	—	(15.8)	<4.3>	脚部	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
150	SI34	5	土師器	高坏	—	(17.0)	<3.7>	脚部小	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ' ハケ 輪積痕
150	SI34	6	土師器	壺	8.7	2.3	8.6	口縁～底部	糖7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒	外面:ハケ ヘラカスリ' 内面:ヘナナデ'
150	SI34	7	土師器	壺	(8.8)	2.8	<9.6>	口縁1/2～底部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラカスリ' ヘラナデ' 内面:ヘナナデ' ナデ'
150	SI34	8	土師器	壺	11.2	1.8	12.5	口縁1/2～底部	糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:上部ナデ' 下部ヘラナデ' 内面:ナデ'
150	SI34	9	土師器	壺	—	3.0	<4.9>	体部1/2～底部	にぶい・糖7.5YR5/4～暗灰N3/0	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラカスリ' 内面:ナデ'
150	SI34	10	土師器	壺	—	(3.2)	<2.9>	底部小～体部小	糖7.5YR7/6～糖5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラカスリ' 内面:ナデ'
150	SI34	11	弥生土器?	壺?	(20.0)	—	<3.6>	口縁小～体部小	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ハケ 口唇部刻み目 内面:ハケ ナデ'
150	SI34	12	土師器	甕	(13.0)	—	<11.1>	口縁1/4～体部1/4	外面:黄褐7.5YR7/8 内面:にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・長石	外面:ナデ'(ヘラナデ'?) ヘラカスリ' 内面:ナデ' ヘラナデ'
150	SI34	13	土師器	壺	10.7	5.6	19.3	口縁～底部	糖7.5YR6/8	良好	密	外面:ナデ' ヘラカスリ' ハケ 内面:ナデ' 指頭痕 ヘラナデ'
150	SI34	14	土師器	甕	—	(6.4)	<2.7>	底部1/3	にぶい・糖7.5YR7/4～にぶい・糖6/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ'
151	SI35	1	土師器	坏	(13.2)	—	<3.9>	口縁1/4～体部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラカスリ' 内面:ヘラナデ'
151	SI35	2	土師器	坏	(13.8)	—	<3.8>	口縁部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' ヘラカスリ' 内面:ナデ'
151	SI35	3	土師器	坏	12.4	—	5.1	ほぼ完形	外面:灰白10YR8/2 内面:糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色粒	外・内面:ヘラナデ' 見込みに×の線刻あり
151	SI35	4	土師器	坏	—	6.0	<1.5>	体部小～底部	糖5YR7/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・金色雲母	外面:ヘラカスリ' 内面:ナデ' 底面:白色マーブル状

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
151	SI35	5	土師器	高坏	(20.4)	—	<5.4>	口縁1/4～脚部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒	外・内面:ナデ' ヘラナデ' 脚が凸
151	SI35	6	土師器	高坏	(22.6)	—	<5.9>	口縁～脚部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ' ヘラナデ'
151	SI35	7	土師器	高坏	(19.4)	—	<5.4>	口縁1/4～体部	にぶい・糖5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' ヘラカスリ 内面:ヘラナデ' ナデ'
151	SI35	8	土師器	高坏	18.8	13.0	13.0	口縁1/2～底部1/2	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・黒色粒	外面:ヘラナデ' 内面:ヘラナデ' ナデ' 脚が凸
151	SI35	9	土師器	高坏	—	—	<3.4>	体部	糖7.5YR7/6	良好	密 黒色粒・長石	外面:ヘラカスリ 摩擦 内面:ヘラナデ' 摩擦 身が凸
151	SI35	10	土師器	高坏	—	—	<3.3>	体部	糖7.5YR6/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ'
151	SI35	11	土師器	高坏	—	—	<5.7>	脚部	外面:糖7.5YR6/8 内面:黒糖7.5YR2/2	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラカスリ 内面:ヘラナデ'
151	SI35	12	土師器	高坏	—	—	<6.7>	脚部	糖7.5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラカスリ 内面:ヘラナデ'
151	SI35	13	土師器	高坏	—	—	<7.5>	体部小～脚部小	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・石英	外面:ヘラカスリ 内面:ヘラナデ' ナデ' 身が凸
151	SI35	14	土師器	高坏	—	(15.0)	<3.4>	脚部～底部1/5	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ナデ' 内面:ヘラナデ'
151	SI35	15	土師器	高坏	—	17.2	<4.5>	脚部1/2～底部	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ハケの後ナデ'
151	SI35	16	土師器	器台?	(9.1)	—	<2.3>	口縁部小	糖5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ'
151	SI35	17	土師器	壺	4.0	—	<2.4>	つまみ部	明赤糖5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ'
151	SI35	18	土師器	壺	(8.4)	—	<4.7>	口縁1/8～体部小	にぶい・黄糖10YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ'
151	SI35	19	土師器	壺	—	4.2	<6.7>	体部～底部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ヘラナデ' ナデ' 指頭痕
151	SI35	20	土師器	壺	13.5	—	16.2	口縁～底部	糖5YR6/8	良好	密	外面:ヘラナデ' ヘラカスリの後ナデ'(スカキ?) 内面:ヘラナデ' ナデ'
151	SI35	21	土師器	壺	—	5.7	<2.7>	体部～底部	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ' 見込み指ナデ'
151	SI35	22	土師器	壺	—	3.0	<1.8>	体部小～底部	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒	外・内面:ヘラナデ'
151	SI35	23	土師器	壺	—	(3.6)	<3.1>	体部小～底部	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ'
151	SI35	24	土師器	壺	—	—	<3.8>	底部	糖7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・石英	外面:ナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ' 指頭痕
151	SI35	25	土師器	壺	—	1.6	<1.7>	底部	にぶい・糖7.5YR5/3	良好	密	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ' 指頭痕
151	SI35	26	土師器	壺	—	1.6	<3.3>	体部小～底部	にぶい・糖7.5YR5/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ヘラカスリ 内面:ナデ'
151	SI35	27	土師器	壺?	—	3.2	<1.7>	底部	糖7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ヘラナデ'
152	SI35	28	土師器	甕	(9.5)	—	<7.5>	口縁1/3～体部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒	外面:ハケ ヘラカスリ ナデ' 内面:ナデ' 輪種痕
152	SI35	29	土師器	甕	(11.4)	—	<5.7>	口縁1/6～体部小	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外・内面:ナデ' ヘラナデ'
152	SI35	30	土師器	甕	(14.2)	—	<4.0>	口縁1/3～体部小	糖5YR6/6	良好	粗砂粒含む・白色粒・黒色粒・石英	外面:ヘラナデ' ナデ' 内面:ヘラナデ' ハケ その上から指ナデ'
152	SI35	31	土師器	甕	—	—	<8.2>	体部	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	砂礫含む・長石	外面:ナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ' 指頭痕
152	SI35	32	土師器	甕	—	(5.2)	<2.7>	体部小～底部1/2	糖7.5YR6/6	良好	密 長石・石英・金色雲母	外面:ヘラナデ' 内面:ナデ'

※(数値)は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
152	SI35	33	土師器	甕	—	(6.2)	<2.2>	体部小～底部小	にぶい赤褐5YR5/4	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:へナナデ' 内面:ハケ
152	SI35	34	土師器	甕	—	(5.6)	<1.9>	体部小～底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
152	SI35	35	土師器	甕	—	(6.4)	<2.2>	体部小～底部1/3	にぶい・褐7.5YR5/4	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:へナナデ' へラカスリ 内面:ハケ
152	SI35	36	鉄製品	刀子?鎌?	<4.5>	2.0	0.4					重さ<6.91g> 1枚もの?
152	SI36	1	土師器	坏	(11.6)	—	<2.5>	口縁1/6～体部	にぶい・褐7.5YR5/3	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	
152	SI36	2	土師器	坏	(11.0)	—	<5.8>	口縁1/4～体部	にぶい・橙7.5YR7/3	良好	密	外面:へナナデ' へラカスリ 内面:ナデ' へラナデ'
152	SI36	3	土師器	高坏	(24.8)	—	<5.9>	口縁部1/4	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ハケ ナデ' へラカスリ 内面:へナナデ' ナデ'
152	SI36	4	土師器	高坏	—	—	<2.4>	体部小～脚部小	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・黒色粒	外面:ハケ 内面:ナデ' 脚が凸
152	SI36	5	土師器	高坏	—	(10.0)	<3.4>	脚部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
152	SI36	6	土師器	高坏	—	(11.0)	<3.7>	脚部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケの後シキ 内面:ハケ 摩耗している
152	SI36	7	土師器	鉢	(16.0)	—	<4.9>	口縁小～体部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ' へラナデ'
152	SI36	8	土師器	甕	(18.2)	—	<5.6>	口縁1/4～体部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' へラナデ' 内面:へラナデ'
152	SI36	9	土師器	甕	—	(6.2)	<1.8>	底部1/3～体部小	外面:にぶい・橙5YR6/4 内面:黒	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ミカキ ナデ' 内面:ハケ 底部:へラナデ'
152	SI36	10	土師器	甕	—	6.8	5.9	体部～底部	外面:橙7.5YR7/6 内面:にぶい・黄橙10YR7/2	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ハケ 内面:へナナデ' ナデ'
152	SI36	11	土製品	土製臼玉?	<0.45>	<0.3>	0.2		黒褐色7.5YR3/2	不良		重さ<0.04g>
153	SI37	1	土師器	坏	(12.6)	—	<4.0>	口縁1/6～体部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ'
153	SI37	2	土師器	坏	(11.8)	—	<4.2>	口縁1/8～体部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ' 摩耗により下部へラカスリ不明瞭 内面:ナデ'
153	SI37	3	土師器	坏	(12.0)	—	<4.5>	口縁1/8～体部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ナデ'
153	SI37	4	土師器	坏	(14.0)	—	<6.3>	口縁1/6～底部小	明赤褐2.5YR5/8	良好	密 白色粒	外・内面:ナデ' 全体に表面摩耗して調整が不明 シキがあつたかもしれない
153	SI37	5	土師器	坏	13.2	—	6.2	体部1/2	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ' へラカスリ? 内面:ナデ'
153	SI37	6	土師器	坏	(12.6)	4.2	5.0	口縁1/2～底部	橙2.5YR6/8	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' へラカスリ 内面:ナデ'
153	SI37	7	土師器	高坏	(13.4)	—	<5.7>	口縁1/8～脚部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ' へラカスリ(摩耗して不鮮明) 内面:ナデ'
153	SI37	8	土師器	高坏	16.2	—	<5.6>	口縁～底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:上部が方向のシキ? 摩耗して消えている 下部は方向のケスリ ナデ' 内面:ミカキ 暗文
153	SI37	9	土師器	高坏	(17.8)	—	<6.7>	口縁1/2～体部1/2	橙5YR7/6	良好	密 黒色粒・長石	外面:ナデ' へラカスリ 内面:ナデ'
153	SI37	10	土師器	高坏	—	—	5.9	脚部	橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:へラカスリ 内面:ナデ'
153	SI37	11	土師器	高坏	—	(12.0)	<3.6>	脚部1/6	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・石英	外・内面:ナデ' 外面ケムケ付着
153	SI37	12	土師器	高坏	—	(12.8)	<4.8>	脚部1/4	外面:橙5YR7/6 内面:橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ミカキ 内面:ナデ'
153	SI37	13	土師器	有孔鉢	—	3.0	<3.9>	体部～底部1/4	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ナデ' 底部:穴あり



※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	口径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
153	SI37	14	土師器	壺	(10.4)	—	5.6	口縁1/4～底部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 赤色粒	外面:ナテ 内面:ナテ 指頭痕
153	SI37	15	土師器	壺	—	—	<3.7>	体部小	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・金色粒	外面:ヘラケスリ 内面:指頭痕
153	SI37	16	土師器	壺	—	5.0	<9.8>	体部1/2～底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒	外面:ナテ ヘラケスリ 内面:ナテ 輪線痕
153	SI37	17	土師器	壺	—	6.0	<9.9>	体部1/3～底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナテ 下部:ヘラナテ 内面:ナテ
153	SI37	18	土師器	甕	13.4	—	<5.0>	口縁1/2～体部1/4	橙7.5YR7/6	良好	密	外面:ヨコナテ 内面:ヨコナテ 輪線痕 指頭痕
153	SI37	19	土師器	甕	(17.4)	—	<6.7>	口縁1/4～体部	にぶい・黄橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:口縁下ナテ・ハケ 内面:ナテ 頸部下指頭痕 体部クマナ
153	SI37	20	土師器	甕	(15.6)	—	<16.4>	口縁1/2～体部1/3	にぶい・黄橙10YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケの後ナテ ヘラケスリ 内面:ヘラナテ ナテ
153	SI37	21	土師器	甕	(13.2)	6.9	21.4	口縁1/4～底部	外面:明赤橙2.5YR5/6 内面:褐灰10YR5/1	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:下半ヘラケスリ 内面:ナテ
154	SI37	22	土師器	甕	—	(6.8)	<3.0>	体部小～底部1/2	橙7.5YR6/6	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・黒色粒	外面:ナテ ハケ 内面:ナテ 底面:木葉痕
154	SI37	23	土師器	甕	—	6.0	<4.0>	体部～底部1/2	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 長石・石英	外面:ヘラケスリ 内面:ナテ
154	SI37	24	土師器	甕	—	6.8	<10.0>	体部～底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ヘラナテ ヘラケスリ 内面:ヘラナテ 輪線痕
154	SI37	25	土師器	甕	—	1.6	<4.0>	体部～底部	浅黄橙7.5YR8/4～橙7.5YR6/6	良好	密	穴あり
154	SI37	26	土師器	甕	—	2.4	<4.8>	口縁小～体部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ 底面:ヘラケスリ
154	SI37	27	土師器	甕	—	(3.0)	<4.6>	体部～底部1/4	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナテ ヘラケスリ 内面:ナテ
154	SI37	28	須恵器	蓋	—	—	<3.4>	体部	灰白N7/	良好	密	
154	SI37	29	石器	磨石	<16.6>	6.3	4.2	オリープ灰10Y6/2～紫灰RP5/1		良好		
154	SI38	1	土師器	坏	(11.8)	—	<3.2>	口縁部1/6	外面:にぶい・橙7.5YR7/3 内面:橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナテ
154	SI38	2	土師器	坏	(13.0)	—	<3.7>	口縁部小	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤褐色粒	外面:ナテ ヘラケスリ 内面:ナテ
154	SI38	3	土師器	坏	(13.0)	—	<4.7>	口縁部1/4	外面:橙5YR7/8 内面:浅黄橙10YR8/4	良好	密 赤色粒	外面:ナテ 内面:ナテ ヘラナテ
154	SI38	4	土師器	坏	(12.0)	<5.0>	<4.5>	口縁1/4～底部1/4	橙5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ナテ ヘラケスリ 内面:ナテ
154	SI38	5	土師器	坏	14.0	3.8	5.6	口縁～体部1/4	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石	外面:ヘラケスリの後ナテ(シガキ?) 内面:ナテ
154	SI38	6	土師器	坏	(15.0)	4.0	5.4	口縁1/2～底部	黄橙7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ヘラケスリ ナテ 内面:ナテ
154	SI38	7	土師器	坏	13.5	5.2	5.9	完形	橙5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナテ ヘラナテ ヘラケスリ 内面:ヘラナテ
154	SI38	8	土師器	坏	—	5.0	<2.0>	体部1/4～底部	外面:橙2.5YR6/8 内面:橙5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ヘラナテ
154	SI38	9	土師器	高坏	(12.0)	—	<2.8>	口縁部小	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ
154	SI38	10	土師器	高坏	(16.0)	—	<5.8>	口縁1/3～体部小	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ナテ ヘラナテ ヘラケスリ 内面:ナテ 差し込み式
154	SI38	11	土師器	高坏	—	—	<4.7>	体部	橙5YR6/8	良好	密	外面:ヘラケスリ 内面:ヘラナテ 脚が凸
154	SI38	12	土師器	高坏	—	—	<3.4>	脚部	橙5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ナテ ヘラナテ ヘラナテ 脚が凸

※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
154	SI38	13	土師器	高坏	—	—	<6.5>	脚部	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハケ ハラカスリ 内面:ハラカスリ ナデ ハラナデ 身が凸
154	SI38	14	土師器	高坏	—	(10.0)	<0.9>	脚部1/5	縹5YR7/6	良好	密	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
154	SI38	15	土師器	高坏	—	(12.0)	<2.7>	脚部~底部1/5	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ? 内面:ハケ
154	SI38	16	土師器	高坏	—	(14.0)	<3.0>	脚部~底部1/8	にぶい縹5YR6/4	良好	密 赤色粒	外面:ナデ? 内面:ハラナデ
154	SI38	17	土師器	高坏	—	—	<6.3>	脚部	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ 表面摩耗激しい 欠3ヶ所?
154	SI38	18	土師器	器台	—	—	<2.6>	体部小	にぶい縹7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ハラナデ ナデ 脚が凸
154	SI38	19	土師器	鉢	(17.0)	6.0	9.1	口縁1/2~底部1/2	縹2.5YR6/8	良好	密	外面:ハラカスリ ナデ 内面:ハケ ナデ
155	SI38	20	土師器	壺	(12.8)	—	<6.4>	口縁部小	明黄褐10YR7/6	良好	密 長石	外面:ミサキ 内面:ハラナデ
155	SI38	21	土師器	壺	—	4.7	13.2	体部~底部	縹7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外・内面:ハケ
155	SI38	22	土師器	壺	—	2.1	<1.9>	体部小~底部	縹7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハラナデ
155	SI38	23	土師器	壺	—	4.6	<3.0>	体部小~底部	にぶい黄褐10YR7/3	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハラナデ ハケ? 内面:ハラナデ
155	SI38	24	土師器	壺	—	(4.0)	<3.3>	底部1/2	縹5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ ハラナデ 内面:ナデ
155	SI38	25	土師器	甕	(17.8)	—	<5.3>	口縁部1/2	にぶい黄褐10YR7/4	良好	密 白色粒・褐色粒	外面:ナデ 内面:ハラナデ
155	SI38	26	土師器	甕	(18.0)	—	<6.0>	口縁1/6~体部小	にぶい黄褐10YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ ハラナデ 内面:ナデ ハケ ハラナデ
155	SI38	27	土師器	甕	(19.8)	—	<7.0>	口縁1/4~体部	にぶい黄褐10YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
155	SI38	28	土師器	甕	—	—	<13.6>	口縁4/5~体部小	にぶい縹7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハラナデ 内面:ナデ ハラナデ
155	SI38	29	土師器	甕	—	(8.0)	<2.7>	底部1/4	黒10YR2/1	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	外面:ハラカスリ ナデ 内面:ハケ
155	SI38	30	土師器	甕	—	(4.2)	<5.9>	体部~底部	にぶい黄褐10YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ナデ ハラナデ 輪襷痕
155	SI38	31	須恵器	蓋	—	—	<1.7>	口縁部小	外面:灰N6/ 内面:明牙リープ灰5GY7/1	良好	密	
155	SI38	32	須恵器	甕	—	—	<3.4>	体部小	外面:緑灰10G6/1 内面:灰N6/	良好	密	外面:平行叩き目 内面:ハラ痕 同心円当具痕
155	SI39	1	土師器	坏	14.0	—	<3.7>	口縁部小	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ ハラカスリ 内面:ハラナデ ナデ
155	SI39	2	土師器	坏	(16.0)	—	<2.4>	口縁1/4~体部	外面:にぶい縹7.5YR7/3 内面:黒褐7.5YR3/1	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナデ ハラカスリ 内面:ナデ
155	SI39	3	土師器	坏	(14.8)	—	<3.7>	口縁1/4~体部	にぶい縹7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ナデ ハラナデ ハラカスリ 内面:ナデ ハラナデ 外内全面赤彩
155	SI39	4	土師器	坏	14.2	—	<3.8>	口縁小~底部	黄褐7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:ハラカスリ ハラナデ 内面:ナデ ハラナデ
155	SI39	5	土師器	坏	(14.6)	11.4	3.8	口縁1/2~底部1/2	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ハラナデ ハラカスリ 内面:ナデ 外内全面赤彩
155	SI39	6	土師器	坏	—	9.0	<1.9>	体部小~底部3/4	にぶい縹5YR6/4	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハラカスリ 内面:ナデ 外内全面赤彩
155	SI39	7	土師器	坏	—	—	<2.0>	体部小~底部3/4	にぶい縹7.5YR7/4~縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハラカスリ 内面:ナデ 外内全面赤彩
155	SI39	8	土師器	蓋	—	—	<5.5>	体部小	にぶい縹7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ ハラナデ 内面:ハラナデ 口唇部ハケ

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
155	SI39	9	土師器	壺	—	—	<4.8>	体部	縹5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ヘラナデ ナデ 内面:ナデ ハケ 指頭痕
155	SI39	10	土師器	壺	—	(1.6)	<4.8>	体部小~底部小	にぶい 黄縹10YR7/3	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ヘラナズリ 内面:ナデ ヘラナデ 指頭痕
156	SI39	11	土師器	甗	17.1	—	<11.8>	口縁~体部	縹5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ ナデ ヘラナデ 指頭痕
156	SI39	12	土師器	甗	(20.0)	—	<8.9>	口縁1/5~体部小	明赤縹5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母	外・内面:ナデ ハケ
156	SI39	13	土師器	甗	(12.8)	—	<9.2>	口縁1/4~体部	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ 内面:ヘラナデ 輪種痕
156	SI39	14	土師器	甗	(16.2)	—	<3.6>	口縁部1/4	にぶい 黄縹10YR7/4	良好	砂礫含む 赤褐色粒・白色粒・黒色粒・石英	外面:ヘラナデ ナデ 内面:ヘラナデ
156	SI39	15	土師器	甗	(16.8)	—	<5.7>	口縁1/4~体部	にぶい 縹7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ ヘラナデ
156	SI39	16	土師器	甗	(17.0)	—	<14.4>	口縁1/4~体部	にぶい 縹7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・黒色雲母	外面:ハケ(摩耗) ナデ 内面:ナデ(摩耗) ヘラナデ
156	SI39	17	土師器	甗	(19.8)	—	<22.0>	口縁2/3~体部1/2	縹7.5YR6/8	良好	密 長石	外面:ナデ ハケ 内面:ハケ 輪種痕
156	SI39	18	土師器	甗	—	9.5	<8.1>	体部~底部	縹5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ 底面:木葉痕
156	SI39	19	土師器	壺	—	(7.4)	<2.6>	体部小	にぶい 縹5YR6/3	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・黒色粒	外面:ヘラナデ ナデ 内面:ハケ 底面:木葉痕
156	SI39	20	土師器	甗	—	6.1	<3.6>	体部小~底部	にぶい 縹5YR6/4	良好	細砂粒含む	外面:ハケ ナデ 内面:ヘラナデ 底面:木葉痕
156	SI39	21	土師器	甗	—	8.0	<9.3>	体部小~底部	明赤縹5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ ヘラナデ 内面:ヨコハケ ナデ
156	SI39	22	土師器	甗	—	(5.0)	<4.2>	底部1/3	縹5YR6/6	良好	密 白色粒・石英	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ 底面:ヘラ痕
156	SI39	23	土師器	甗	—	(5.0)	<4.3>	体部~底部1/4	縹5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ヘラナデ 指頭痕 底面:ハケ
157	SI39	24	土師器	甗	—	(7.7)	<16.9>	体部~底部	明赤縹2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ 下部外面使用による被熱赤化・剥離 内面:ヘラナデ ナデ
157	SI39	25	須恵器	蓋	15.2	—	4.0	完形	青灰色5B6/1	良好	密	外面:回転ヘラナズリ ヘラナデ 内面:ロクロナデ
157	SI39	26	須恵器	甗	—	—	<4.0>	体部小	褐灰7.5YR6/1	良好	密	外面:平行吹き目
157	SI40	1	土師器	高坏	—	—	<3.9>	口縁~体部小	縹5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ
157	SI40	2	土師器	高坏	12.1	—	<4.1>	口縁~体部	縹7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラナデ ヘラナズリ 内面:ハケ
157	SI40	3	土師器	高坏	—	<18.0>	<1.9>	底部1/4	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ
157	SI40	4	土師器	高坏	—	—	<2.9>	体部~脚部	縹7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラナズリ 内面:ナデ ヘラナデ
157	SI40	5	土師器	鉢	—	(12.0)	<5.5>	口縁~体部	縹5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ 内面:ナデ ヘラナデ
157	SI40	6	土師器	鉢	17.7	4.9	10.7	口縁~底部	縹7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ シキ 内面:ハケ ヘラナデ
157	SI40	7	土師器	鉢	(10.8)	—	<3.0>	口縁部小	縹7.5YR7/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ
157	SI40	8	土師器	鉢	(20.0)	—	<4.6>	口縁部1/8	縹7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘラナデ ハケ 内面:ハケ ナデ 折り返し口縁
157	SI40	9	土師器	壺	—	2.0	<2.9>	体部~底部	縹7.5YR4/3	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ナデ 底面:凹みヘラナズリ
157	SI40	10	土師器	壺	—	—	<2.0>	底部	にぶい 縹7.5YR6/4~黒縹5YR2/1	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・赤褐色粒・石英・金色雲母	外面:ヘラナズリ 内面:ナデ

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
157	S140	11	土師器	壺	(18.3)	—	<4.3>	口縁部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒	外・内面:ナデ
157	S140	12	土師器	壺	—	—	<3.7>	口縁部小	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:口縁部縦方向の条線 ナデ' 内面:ナデ'
157	S140	13	土師器	壺	—	—	<3.5>	体部小	橙7.5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:刻み痕 ハケ ナデ' 内面:ナデ' ハナナデ'
157	S140	14	土師器	壺	—	—	<2.6>	体部小	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	密 長石・石英	外面:縞描波状文 内面:ハケ
157	S140	15	土師器	壺	(13.1)	5.3	22.8	口縁～底部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 長石	外面:ハケ ミサキ 内面:ハケ 口縁折り返し
158	S140	16	土師器	台付甕	17.2	10.2	31.0	完形	橙7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ' 脚部内面 指頭痕
158	S140	17	土師器	台付甕	—	—	<4.5>	口縁小～体部小	灰黄褐10YR5/2	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハナナデ' 内面:ナデ' ハケ 厚手 S字やや酸化 ココハクあり
158	S140	18	土師器	台付甕	—	—	<1.9>	脚部	橙2.5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ' 内面:ナデ' 指頭痕
158	S140	19	土師器	台付甕	—	—	<3.4>	体部	橙5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ナデ' ハナナデ'
158	S140	20	土師器	台付甕	—	—	<1.7>	体部	にぶい、橙5YR7/4	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ハナナデ' ナデ' 甕底部にヘラ痕あり
158	S140	21	土師器	台付甕	—	(7.4)	<3.8>	脚部	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ'
158	S140	22	土師器	台付甕	—	(11.0)	<4.7>	脚部	橙2.5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ナデ'
158	S143	1	土師器	坏	(14.0)	—	<2.7>	口縁部1/8	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ヘラケスリ 内面:ナデ' ハナナデ'
158	S143	2	土師器	坏	(13.4)	—	<4.6>	口縁1/4～体部小	橙7.5YR6/6	良好	密	外面:ナデ' ヘラケスリ 内面:ナデ'
158	S143	3	土師器	高坏	—	—	<7.8>	脚部	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ミサキ ヘラケスリ 内面:ハナナデ' ナデ'
158	S143	4	土師器	高坏	—	—	<6.1>	脚部1/2	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英	外面:ヘラケスリ 内面:ナデ' 脚が凸
158	S143	5	土師器	甕	—	<9.0>	<3.8>	体部小～底部1/4	橙5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤褐色粒・長石・石英・黒色雲母	外面:ハナナデ' 内面:ナデ'
158	S143	6	土師器	甕	(17.8)	—	<6.1>	口縁1/4～体部	外面:にぶい、黄橙10YR7/4 内面:にぶい、黄橙10YR7/3	良好	密 長石	外面:ヘナナデ' 内面:ヘナナデ' 輪積痕
158	S143	7	土師器	甕	(19.6)	—	<4.6>	口縁小～体部小	にぶい、黄橙10YR7/4	良好	粗砂粒含む 白色粒・石英	外・内面:ナデ'
158	S143	8	土師器	甕	(20.8)	—	<4.9>	口縁部1/4	にぶい、黄橙10YR7/4	良好	密 長石	外・内面:ハケ
158	S143	9	土師器	甕	—	4.6	11.8	体部～底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ヘラケスリ 内面:ハケ
158	S143	10	石製品	砥石	<7.3>	<5.9>	3.8	体部～脚部	にぶい、黄橙10YR6/3	良好	密 長石	全面使用 砂岩 粗砥
159	S144	1	土師器	高坏	—	—	7.8	脚部小	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ハケ ハナナデ' 内面:ミサキ? 身が凸
159	S144	2	土師器	高坏	—	(15.8)	<3.8>	脚部小	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
159	S144	3	土師器	甕	(15.8)	—	<4.4>	口縁部小	橙7.5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ
159	S144	4	土師器	甕	—	(6.0)	<2.6>	体部1/4～底部1/4	淡黄橙7.5YR8/4	良好	密 長石	外・内面:ヘナナデ'
159	S144	5	土師器	甕	—	—	<4.5>	体部	橙5YR7/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ'
159	S144	6	須恵器	甕	—	—	<4.4>	体部小	灰白N7/	良好	密 長石	外面:平行叩き目

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
159	SX2	1	土師器	坏	—	(8.0)	<1.8>	底部1/4	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:回転<ラケスリ> 内面:ロクロナデ 底面:回転糸切り後<ラケスリ>
159	SX2	2	土師器	坏	—	8.0	<2.2>	体部小~底部1/2	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	3	土師器	坏	—	8.0	<1.8>	底部1/2	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	4	土師器	坏	—	(8.8)	<1.5>	体部小~底部小	にぶい橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	5	土師器	坏	13.2	5.7	4.7	口縁3/4~底部	外面:褐灰7.5YR6/1 内面:褐灰7.5YR5/1	良好	密 長石・金色雲母	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	6	土師器	小皿	8.8	4.3	2.3	口縁~底部	褐10YR4/4	良好	密	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	7	土師器	甕	(14.0)	—	<7.2>	口縁~体部	外面:にぶい橙7.5YR7/3 内面:黒褐10YR3/1	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	8	須恵器	蓋	—	—	<1.7>	口縁部小	外面:灰7.5YR6/1	良好	密 長石	外面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ> 底面:回転糸切り後 外周を回転<ラケスリ>
159	SX2	9	須恵器	甕	—	—	<5.7>	体部小	外面:灰白5Y7/2 内面:灰白N8/	良好	密 長石	外面:格子叩き目
159	SX2	10	須恵器	甕	—	—	<5.0>	体部小	灰白N7/	良好	密 長石	外面:平行叩き目 内面:細い当て具痕かハナ痕か?
160	SX3	1	土師器	坏	(15.4)	—	<2.7>	口縁1/8~体部	橙5YR6/6	良好	密	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	2	土師器	坏	(13.2)	—	<5.4>	口縁小~体部1/6	橙7.5YR7/6~橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	3	土師器	坏	(14.4)	4.4	5.5	口縁1/4~底部	黄橙7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	4	土師器	坏	—	3.0	<3.1>	体部小~底部1/2	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ 底面:<ラケスリ>
160	SX3	5	土師器	高坏	(15.0)	—	<3.6>	口縁1/4~体部1/4	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	6	土師器	高坏	(18.6)	—	<6.5>	口縁1/4~体部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ 脚が凸
160	SX3	7	土師器	高坏	(21.0)	—	<5.5>	口縁1/4~体部1/4	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ 脚が凸
160	SX3	8	土師器	高坏	—	<10.0>	<6.3>	脚部	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ 輪郭痕 脚が凸
160	SX3	9	土師器	高坏	—	(11.6)	<4.9>	脚部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ 身が凸
160	SX3	10	土師器	高坏	—	(17.4)	<2.6>	脚部小	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:<ラケスリ> ナデ
160	SX3	11	土師器	高坏	(14.8)	—	<12.3>	口縁1/3~体部1/4	にぶい橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:輪郭痕 内面:<ラケスリ>
160	SX3	12	土師器	鉢	—	1.0	<1.9>	体部~底部	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	13	土師器	有孔鉢	—	1.9	<5.8>	体部~底部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:ナデ
160	SX3	14	土師器	壺	(8.6)	—	<4.3>	口縁1/4~体部	にぶい橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:<ラケスリ> 指頭痕
160	SX3	15	土師器	壺	—	—	<7.2>	体部1/4	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:<ラケスリ> 内面:ナデ 輪郭痕 指頭痕
160	SX3	16	土師器	壺	—	—	<4.2>	脚部	黄橙7.5YR7/8	良好	密 長石	外、内面:ナデ
160	SX3	17	土師器	甕	—	5.0	<3.4>	体部~底部	橙5YR6/8	良好	密 長石・金色雲母	外面:<ラケスリ> 内面:<ラケスリ>
160	SX3	18	土師器	甕	(10.2)	—	<4.1>	口縁部小	橙7.5YR6/8	良好	密 長石	外面:ナデ<ラケスリ> 内面:<ラケスリ> 指頭痕

※（数値）は復元値、＜数値＞は残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
160	SK3	19	土師器	甕	(16.2)	—	<4.0>	口縁1/4～体部	淡黄2.5YR/3	良好	密 長石	外・内面：ハケ
160	SK3	20	土師器	甕	(18.0)	—	<7.2>	口縁1/3～体部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面：ナデ' ハケ' ナデ' ハケ' ナデ' ハケ' ナデ' ハケ' 内面：ナデ' ハケ' ナデ'
160	SK3	21	土師器	甕	(21.0)	—	<11.1>	口縁1/4～体部小	にぶい・黄橙10YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面：ナデ' ハケ' 内面：ナデ' ハケ' ナデ'
160	SK3	22	石製品	勾玉	1.9	1.2	0.4		黒色 N1.5/		重さ<1.25g> 石材 滑石	
161	SK34	1	土師器	鉢	11.7	4.8	7.3	完形	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面：ハケ' 指頭痕 輪積痕 内面：ハケ' 輪積痕
161	SK36	1	土師器	高坏	13.9	9.5	8.9	ほぼ完形	橙5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面：ハケ' ナデ' 内面：ナデ'
161	SK37	1	土師器	坏	(13.0)	—	<3.5>	口縁1/4～体部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外面：ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ナデ'
161	SK37	2	土師器	坏	13.2	5.0	6.1	完形(口縁一部欠損)	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面：ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 外内全面赤彩
161	SK37	3	土師器	高坏	—	—	<4.5>	脚部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 白色粒・金色雲母	外面：ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ'
161	SK37	4	土師器	高坏	—	<10.8>	<5.1>	脚部1/2	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面：ナデ' 内面：ハケ' ナデ'
161	SK37	5	土師器	高坏	—	(11.0)	<4.8>	脚部	橙7.5YR6/8	良好	密 赤色粒	外面：ナデ' 内面：ナデ' ハケ' ナデ'
161	SK37	6	土師器	高坏	—	(16.0)	<4.8>	脚部1/8	橙5YR7/8	良好	密 赤色粒	外面：ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 穴あり 個数不明
161	SK37	7	土師器	壺	11.6	—	<6.4>	口縁1/3～体部小	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面：ハケ' ナデ' 後サキ 内面：ハケ' ナデ' 後サキ 指頭痕
161	SK37	8	土師器	壺	—	(4.0)	<3.5>	体部小～底部小	橙7.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面：ハケ' 内面：ハケ' ナデ'
161	SK37	9	土師器	壺	—	4.5	<6.4>	体部1/2～底部	にぶい・橙7.5YR7/3 外面：明赤褐5YR5/6 内面：明赤褐2.5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒	外面：ハケ' ナデ' ハケ' ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 輪積痕
161	SK37	10	土師器	甕	16.2	—	<18.3>	口縁～体部	にぶい・橙7.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面：ナデ' ハケ' 内面：口縁部ハケ' 体部ハケ' 指頭痕 輪積痕
161	SK37	11	土師器	甕	(9.0)	—	<4.0>	口縁部小	橙7.5YR6/6	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・長石・石英	外面：ハケ' ナデ' 内面：ハケ'
161	SK37	12	土師器	甕	—	(6.0)	<3.6>	体部～底部1/3	にぶい・橙7.5YR5/4	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面：ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 底面：ハケ' ナデ'
161	SK37	13	土師器	甕	11.6	—	<13.2>	口縁～体部	明赤褐2.5YR5/6	良好	粗砂粒含む	外面：ナデ' ハケ' ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ハケ' ナデ'
161	SK37	14	土師器	甕	(15.4)	—	<18.0>	口縁2/5～体部1/2	橙7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面：ヨコハケ' ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ヨコハケ' 不鮮明' ナデ' ハケ' ナデ' 指頭痕 輪積痕
162	SK37	15	土師器	甕	(17.6)	6.4	<28.9>	口縁1/2～底部	黄橙7.5YR7/8～褐灰7.5YR5/1	良好	密 長石	外面：ハケ' ナデ' ハケ' 内面：ハケ' ナデ'
162	Pt112	1	土師器	坏	(12.0)	—	<3.4>	口縁部1/5	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面：ハケ' ナデ' ハケ' 内面：ハケ' ナデ' ?
162	Pt61	1	土師器	坏	(13.0)	(4.0)	5.1	口縁1/4～体部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	外面：ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ'
162	Pt61	2	土師器	高坏	—	(10.6)	<4.3>	脚部1/2	明赤褐5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外面：ナデ' ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 身が凸
162	Pt105	1	土師器	壺	—	1.7	<9.7>	体部～底部	橙7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面：ハケ' ナデ' 内面：ハケ' ナデ' 指頭痕
162	Pt284	1	土師器	壺	—	—	—	体部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 白色粒	外面：輪積痕状文
162	Pt291	1	土師器	把手付埴?	—	—	<4.3>	体部小	褐灰10YR6/1	良好	密 赤褐色粒・白色粒・金色雲母	外面：ハケ' ナデ'
162	Pt292	1	土師器	甕	—	—	<3.6>	口縁部小	橙7.5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外面：口縁 刺突刻 上部ヨコハケ' 下部タテハケ' 内面：上部ヨコハケ'

※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
162	SD1	1	土師器	鉢?	—	—	5.7	口縁～底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 金色雲母	外面:ヘラケスリ
162	SD1	2	土師器	坏	(13.0)	<2.4>	3.5	口縁部1/4	明赤褐2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ナデ
162	SD1	3	土師器	坏	(12.4)	—	<3.1>	口縁1/4～体部	灰褐7.5YR6/2	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ
162	SD1	4	土師器	坏	(15.8)	—	<3.4>	口縁小～底部小	にぶい・黄橙10YR7/4	良好	密 赤色粒・赤褐色粒	外面:上部ナデ 内面:ナデ 下部ケスリ 内面:ナデ 外内面とも摩耗激しい
162	SD1	5	土師器	坏	(15.0)	(6.0)	3.3	口縁1/4～体部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ
162	SD1	6	土師器	坏	(15.0)	7.0	3.0	口縁1/2～底部1/2	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密	外面:ヘラケスリ 内面:ハケ ミカキ
162	SD1	7	土師器	坏	—	(5.0)	<4.1>	体部～底部1/4	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 金色雲母	外・内・底面:ミカキ
162	SD1	8	土師器	坏	—	<5.0>	<1.1>	底部	浅黄橙7.5YR8/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外・内面:ナデ
162	SD1	9	土師器	坏	—	7.2	<1.6>	体部～底部3/4	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ヘラケスリ 内面:ナデ ヘラナデ 外内全面赤彩
163	SD1	10	土師器	手捏土器	—	(1.4)	<3.5>	体部～底部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 長石	
163	SD1	11	土師器	手捏土器	(4.2)	1.4	4.9	口縁1/2～底部	明褐灰5YR7/2	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	
163	SD1	12	土師器	高坏	(15.6)	—	<3.0>	口縁1/5～体部小	黒7.5YR2/1	良好	密 白色粒・石英	外面:ナデ 内面:ミカキ 外内全面黒彩
163	SD1	13	土師器	高坏	(14.0)	—	<8.0>	口縁～脚部1/3	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 長石・金色雲母	外・内面:ナデ 外内全面赤彩
163	SD1	14	土師器	高坏	—	—	<3.7>	体部小	明赤褐2.5YR5/6	良好	密 赤色粒	外面:ナデ 内面:ナデ ミカキ
163	SD1	15	土師器	高坏	—	—	<7.5>	脚部	橙5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
163	SD1	16	土師器	高坏	—	—	<4.9>	脚部～底部小	にぶい・橙5YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・赤褐色粒	外面:ヨコミカキ
163	SD1	17	土師器	高坏	—	7.5	<3.7>	脚部～底部1/2	にぶい・黄橙10YR6/4	良好	密 金色雲母	
163	SD1	18	土師器	高坏	—	(11.0)	<4.8>	脚部～底部2/3	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・赤褐色粒	外面:ミカキ 内面:ヘラナデ
163	SD1	19	土師器	高坏	—	—	<8.3>	脚部1/2	にぶい・黄橙10YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ヘラケスリ 内面:ヘラナデ 身が凸? 中期の高坏
163	SD1	20	土師器	甕	—	<9.0>	<8.0>	体部～底部1/2	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	底面:木葉痕
163	SD1	21	土師器	甕	—	9.4	<7.7>	体部小～底部	にぶい・橙7.5YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:はつきりしたハケではないが調整底のように見える 内面:細かいハケがすく残っている
163	SD1	22	土師器	有孔鉢	—	—	<2.5>	体部～底部	にぶい・橙7.5YR7/3	良好	密 長石	
163	SD1	23	土師器	甕	(30.0)	—	<13.0>	口縁部1/4	橙2.5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ハケ
163	SD1	24	土師器	壺	—	2.0	<2.9>	体部～底部	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	内面:ヘラナデ 底面:ヘラケスリ
163	SD1	25	土師器	壺	—	2.2	<4.4>	体部小～底部	にぶい・黄橙10YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラ 内面:見込み部ナデ 体部コナデ
163	SD1	26	土師器	壺	—	<4.2>	<6.1>	体部小～底部	にぶい・橙7.5YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	外面:ミカキ 内面:ハケ ヘラケスリ
163	SD1	27	土師器	甕	—	<9.0>	<3.2>	底部	外面:橙5YR6/6 内面:にぶい・橙5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・黒色雲母	外面:剥離 内面:指ナデ
163	SD1	28	土師器	甕	—	<10.0>	<4.0>	底部3/4	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色雲母・ 黒色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ ヘラケスリ

※(数値)は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
163	SD1	29	土師器	壺?	(9.0)	5.8	13.8	口縁1/2～底部	灰黄2.5Y6/2	良好	外面:ナデ 内面:ナデ 内面:ナデ 底面:木葉痕	
164	SD1	30	土師器	甕	(31.8)	9.8	<31.4>	口縁～底部	褐色5YR6/6	良好	外面:ナデ 内面:ナデ 輪轡痕 外面:口縁ハケ後ナデ 底面:木葉痕	
164	SD1	31	土師器	台付甕	—	10.8	<6.1>	脚部	にぶい黄褐色10YR6/3	良好	密 白色粒	
164	SD1	32	土師器	甕	(14.4)	—	<6.8>	口縁部1/4～体部1/4	外面:にぶい黄褐色2.5YR6/3 内面:灰5Y6/1	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 内面:ハケ ナデ
164	SD1	33	土師器	甕	12.0	—	<10.5>	口縁～体部	にぶい黄褐色7.5YR7/4～にぶい黄褐色5YR6/4	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:指ナデ 蜜あり かすかにハケ残る 内面:ナデ
164	SD1	34	土師器	甕	(13.2)	7.4	16.8	口縁1/5～底部	にぶい黄褐色2.5Y6/3	良好	密 長石	外面:ハケナズリ ナデ 内面:ナデ 内面:ナデ 底面:ハケナデ
164	SD1	35	土師器	甕	15.9	6.6	19.4	口縁～底部	にぶい黄褐色10YR6/4	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケナデ 内面:ハケナデ 底面:ハケナデ
165	SD1	36	土師器	甕	19.3	—	<25.5>	口縁3/4～体部	にぶい赤褐色2.5YR5/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石	外面:体部ハケ 口縁ハケの後ナデ 内面:ハケ ナデ
165	SD1	37	土師器	甕	(17.4)	—	<31.3>	口縁1/2～底部	明黄褐色10YR6/6	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケナデ 内面:ハケナデ 輪轡痕
165	SD1	38	土師器	甕	17.7	8.0	28.8	口縁1/2～底部1/2	にぶい赤褐色5YR5/4	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ ナデ 指頭痕 内面:ハケ ナデ 底面:摩耗
165	SD1	39	土師器	甕	20.2	—	<8.1>	口縁部3/4	褐色5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ 内面:ナデ 輪轡痕 外内面赤彩 口唇部粘土帯貼り付
165	SD1	40	土師器	甕	(16.2)	—	<16.2>	口縁小～体部	にぶい黄褐色10YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ 内面:ナデ 内面:ナデ 輪轡痕 外内面赤彩
166	SD1	41	土師器	甕	29.6	10.6	29.6	口縁2/3～底部	にぶい黄褐色7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:スミあり 体部上半ハケ 体部下半ハケナズリ後ナデ 口縁ナデ 内面:ハケ ナデ
166	SD1	42	土師器	甕	26.1	(9.6)	28.4	口縁2/3～底部2/3	にぶい黄褐色10YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:全体にハケその後口縁部はナデ 体部はハケナズリ 内面:全体にハケその後下半分はナデ 口縁部はハケナデ
167	SD1	43	土師器	甕	32.8	10.3	31.0	口縁～底部	黄褐色7.5YR7/8	良好	密 長石	外面:ハケ後ハケナデ 内面:ハケナデ ナデ 輪轡痕
167	SD1	44	土師器	甕	(32.6)	9.6	23.1	口縁小～底部	明褐色7.5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:口縁ハケの後ナデ 体部ハケナズリ ハケ 内面:ハケ
168	SD1	45	土師器	甕	(26.7)	11.1	29.1	口縁1/4～底部	にぶい黄褐色5YR6/4～黒褐色5YR2/1	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:口縁ハケ後ナデ 体部ハケ後ハケナズリ 内面:体部ハケ 口縁見込みハケナデ 底面:ハケナズリ
168	SD1	46	土師器	台付甕	—	—	<6.4>	体部小	明褐色7.5YR7/2	良好	砂礫含む 白色粒	外面:ハケナデ 内面:ナデ 脚部内面:ナデ
168	SD1	47	土師器	甕	—	8.0	<7.5>	体部～底部	にぶい黄褐色5YR6/4	良好	密 長石	外面:ハケ 内面:ナデ 指頭痕 底面:木葉痕
168	SD1	48	土師器	甕	—	9.5	<18.6>	体部～底部	明褐色7.5YR5/6	良好	密 長石・石英	外:内面:ハケ 内面:輪轡痕 底面:木葉痕 摩耗
168	SD1	49	土師器	甕	—	6.0	<3.9>	体部小～底部	にぶい黄褐色10YR6/3	良好	密 赤色粒・白色粒・金色粒	外:内面:ハケ 底面:ハケ 木葉痕
168	SD1	50	土師器	甕	—	7.0	<7.7>	体部小～底部	赤褐色5YR4/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:上部ハケ 下部ハケナズリ 内面:ヨコハケ 見込み部ナデ 底面:木葉痕
168	SD1	51	土師器	甕	—	(5.2)	<5.3>	体部小～底部1/2	にぶい黄褐色7.5YR6/4	良好	密 白色粒	外面:ハケナズリ ハケナデ 内面:ハケ 底面:ハケナデ
168	SD1	52	土師器	甕	—	7.1	6.1	体部～底部	明赤褐色5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:下部ハケ 中央部ハケ後ハケナズリ 内面:ハケ
169	SD1	53	土師器	甕	(21.3)	8.8	25.3	口縁3/4～底部	にぶい黄褐色10YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ ハケナデ 内面:ハケ ハケナデ
169	SD1	54	土師器	甕	23.5	8.5	27.0	口縁～底部	灰黄褐色10YR6/2	良好	粗砂粒含む	外面:ナデ 内面:ナデ 内面:ハケ ナデ 輪轡痕
169	SD1	55	土師器	有孔鉢	(10.8)	—	5.4	口縁～底部	外面:にぶい黄褐色7.5YR7/3 内面:褐色7.5YR5/1	良好	密 長石・金色雲母	底面:木葉痕 穴あり
169	SD1	56	土師器	甕	—	—	<11.7>	口縁～体部	にぶい黄褐色7.5YR7/4	良好	密 長石	外:内面:ヨコナデ



※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
169	SD1	57	土師器	甔	—	—	<12.4>	口縁～体部	にぶい椀7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	
170	SD1	58	須恵器	蓋	—	—	<2.0>	体部小	黄灰2.5Y4/1	良好	密	外面:回転へラキリ 自然釉付着 内面:ロクロナデ
170	SD1	59	須恵器	蓋	—	<9.0>	<1.0>	体部小	灰白N8/	良好	密 長石	外面:回転へラキリ 内面:ロクロナデ
170	SD1	60	須恵器	蓋	—	14.3	4.6	ほぼ完形	灰N6/	良好	密 長石	外・内面:ロクロナデ
170	SD1	61	須恵器	坏	—	—	<2.2>	口縁小～体部小	灰N5/	良好	密	外・内面:ロクロナデ
170	SD1	62	須恵器	坏	13.4	—	3.2	口縁1/2～体部	灰10Y5/1	良好	密 長石	外面:ロクロナデ
170	SD1	63	須恵器	坏	12.4	2.0	4.4	口縁～底部	灰N6/	良好	密 長石	外・内面:ロクロナデ 底面:回転へラキリ
170	SD1	64	須恵器	甃	—	—	<4.5>	口縁～体部小	灰N5/	良好	密	外面:ナデ 内面:へラナデ 自然釉付着
170	SD1	65	須恵器	甃	—	—	<2.2>	体部小	青灰5PB6/1	良好	密	
170	SD1	66	石製模造品	劍形	3.5	1.3	0.3		オリーブ灰7.5YR6/1	良好	密	重さ<2.73g> 石材 滑石
170	SD1	67	石器	磨製石鏃	<3.4>	<2.5>	<0.4>		明オリーブ灰色2.5GY7/1			重さ<4.45g> 石材 緑泥片岩 弥生時代?
170	SD1	68	石製品	砥石	(13.0)	(10.9)	4.1		灰10Y6/1	良好	密 長石	
170	SD1	69	木製品	槽	<22.5>	<6.8>	2.1				樹種:ヒノキ	重さ<179.7g> 横木取り
170	SD1	70	木製品	楸榧	<39.0>	7.5	6.1				樹種:コナラ属コナラ節	重さ<774.1g> 芯材・榧部面取り・打撃痕?
170	SD1	71	木製品	椅子	<19.6>	11.2	<7.0>				樹種:サギ	重さ<437.9g> 芯材・表面炭化
170	SD1	72	木製品	曲物 御板	<21.3>	<6.0>	0.35				樹種:ヒノキ	重さ<26.0g> 板目
170	SD1	73	木製品	曲物 御板	<23.9>	<6.2>	0.3				樹種:ヒノキ	重さ<34.4g> 板目
170	SD1	74	木製品	曲物 御板	<17.5>	<6.9>	0.3				樹種:ヒノキ	重さ<22.3g> 板目
171	SD1	75	木製品	曲物 御板	<142.5>	<6.5>	0.5				樹種:ヒノキ	重さ<92.7g> 榎目
171	SD1	76	木製品	曲物底板	30.3	31.0	1.5				樹種:ヒノキ	重さ<958.9g> 板目・一部炭化・鑿痕・手拵痕
171	SD1	77	木製品	弓状木製品	73.5	2.8	2.4				樹種:コナラ	重さ<315.4g> 弓弾残存・一部穿孔・面取り
171	SD1	78	木製品	部材(柱?)	32.3	11.0	4.4				樹種:ヒノキ	重さ<840.2g> 芯材・手拵痕
172	SD1	79	木製品	部材(柱?)	<31.1>	<7.2>	5.0				樹種:ヒノキ	重さ<493.5g> 芯材・表面一部炭化
172	SD1	80	木製品	着柄軸?	<10.2>	<5.5>	1.7					重さ<69.5g> 芯材・先端部炭化
172	SD1	81	木製品	着柄軸?	<16.2>	<5.5>	2.3				樹種:アサギ	重さ<114.1g> 芯材・広葉樹
172	SD1	82	木製品	棒状木製品	25.0	2.2	1.3				樹種:ヒノキ	重さ<57.4g> 板目
172	SD1	83	木製品	棒状木製品	33.4	2.2	1.9				樹種:サギ	重さ<88.0g> 芯材・欠込み
172	SD1	84	木製品	蓄串	<36.8>	<3.2>	0.6				樹種:ヒノキ	重さ<43.1g> 榎目・一部炭化

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
172	SD1	85	木製品	斎串	<19.1>	2.5	0.4				糖種・七片	重さ<9.0g> 榎目
172	SD1	86	木製品	斎串	46.2	2.9	0.6					重さ<45.3g> 榎目・表面一部炭化
172	SD1	87	木製品	斎串	17.3	1.3	0.5					重さ<7.9g> 榎目
172	SD1	88	木製品	斎串	<29.2>	1.1	0.2					重さ<5.5g> 榎目
172	SD1	89	木製品	斎串	<38.2>	1.8	0.3					重さ<12.1g> 榎目
172	SD1	90	木製品	斎串	<18.5>	1.4	0.5					重さ<13.0g> 板目
172	SD1	90	木製品	斎串	<12.5>	1.6	0.5					重さ<8.0g> 板目
172	SD1	91	木製品	棒状木製品	34.1	4.7	3.4					重さ<342.5g> 芯特材・加工痕
172	SD1	92	木製品	棒状木製品	<58.8> <52.2>	3.0 2.6	2.4 1.6					重さ<365.1g> 先端部炭化
173	SD1	93	木製品	棒状木製品	<58.2>	3.2	2.5					重さ<204.9g> 芯特材
173	SD1	94	木製品	棒状木製品	<54.4>	<5.2>	3.8					重さ<521.2g> 芯特材・加工痕・一部炭化
173	SD1	95	木製品	棒状木製品	46.2	2.4	2.2					重さ<114.3g> 芯去材
173	SD1	96	木製品	棒状木製品	<66.2>	<2.5>	<2.0>					重さ<223.4g> 面取り・棒状
173	SD1	97	木製品	棒状木製品	39.4	5.1	2.0					重さ<290.4g> 芯特材・穿孔・加工痕
173	SD1	98	木製品	棒状木製品	<44.2>	<3.0>	<1.7>					重さ<152.0g> 芯去材
173	SD1	99	木製品	棒状木製品	<59.9>	<3.1>	<1.8>					重さ<217.9g> 芯去材
173	SD1	100	木製品	棒状木製品	21.9	4.0	1.5					重さ<104.0g> 芯去材・欠込み?
173	SD1	101	木製品	棒状木製品	<15.6>	1.1	1.2					重さ<16.0g> 榎目
173	SD1	102	木製品	棒状木製品	<12.5>	1.4	1.3					重さ<18.5g> 榎目
173	SD1	103	木製品	棒状木製品	<22.8>	1.1	1.0					重さ<16.0g> 榎目・面取り
173	SD1	104	木製品	棒状木製品	<21.2>	<1.5>	<1.0>					重さ<21.8g> 榎目・面取り
173	SD1	105	木製品	棒状木製品	<8.4>	<1.5>	<0.6>					重さ<5.2g> 芯去材
173	SD1	106	木製品	棒状木製品	<14.3>	1.0	0.6					重さ<6.6g> 芯去材
173	SD1	107	木製品	棒状木製品	<12.0>	1.5	0.8					重さ<13.2g> 榎目
173	SD1	108	木製品	棒状木製品	<20.5>	<2.2>	<1.3>					重さ<26.1g> 榎目・面取り
173	SD1	109	木製品	板状木製品	27.45	7.25	2.15					重さ<196.6g> 芯去材・工具痕
174	SD1	110	木製品	板状木製品	<8.5>	<3.6>	<0.8>					重さ<11.0g> 榎目
174	SD1	111	木製品	棒状木製品	<20.7>	2.1	1.1					重さ<43.4g> 芯特材

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
174	SD1	112	木製品	板状木製品	57.6	7.0	1.4					重さ<342g> 板目・加工痕
174	SD1	113	木製品	板状木製品	<60.4>	<5.2>	1.5					重さ<225.9g> 板目
174	SD1	114	木製品	板状木製品	<21.6>	13.0	3.1					重さ<598.6g> 芯去材
174	SD1	115	木製品	舟形状木製品	28.2	<3.5>	4.2					重さ<163.5g> 芯去材・横木取り
174	SD1	116	木製品	板状木製品	<7.2>	<4.4>	<1.8>					重さ<44.3g> 芯去材・表面炭化
174	SD1	117	木製品	板状木製品	<12.3>	<2.9>	<0.9>					重さ<22.6g> 榎目
174	SD1	118	木製品	板状木製品	<29.9>	<4.1>	<2.3>					重さ<154.2g> 芯去材
174	SD1	119	木製品	板状木製品	<9.4>	<2.4>	<0.9>					重さ<14.7g> 榎目
174	SD1	120	木製品	板状木製品	<18.5>	4.4	<0.9>					重さ<51.6g> 板目・工具痕・一部炭化
174	SD1	121	木製品	板状木製品	<17.8>	<3.0>	<0.8>					重さ<34.4g> 榎目
174	SD1	122	木製品	板状木製品	<11.0>	<2.7>	<0.7>					重さ<9.5g> 板目・一部炭化
174	SD1	123	木製品	棒状木製品	111.7	4.2	2.8					重さ<807.9g> 芯持材・先端部炭化・
175	SD1	124	木製品	杭	48.4	4.7	2.7				樹種:ヒノキ	重さ<557.1g> 榎目・面取り
175	SD1	125	木製品	杭	<23.6>	<4.5>	<4.5>					重さ<214.6g> 芯持材・先端部面取り・広葉樹
175	SD1	126	木製品	部材	62.3	7.3	4.8				樹種:トナリ属トナリ節	重さ<1316.5g> 芯持材・表面炭化・手斧痕・広葉樹
175	SD1	127	木製品	部材	<49.8>	<8.55>	<3.1>					重さ<858.2g> 芯去材
175	SD1	128	木製品	部材	<90.1>	12.9	4.8					重さ<744.9g><1093.2g> 芯持材・加工前?・一部炭化
175	SD1	129	木製品	部材	<69.0>	4.6	3.1					重さ<542.5g> 角材
175	SD1	130	木製品	部材	<26.2>	11.0	8.1					重さ<1600g> 芯持材・加工痕・一部炭化
175	SD1	131	木製品	部材	<19.6>	<5.9>	<3.2>					重さ<179.6g> 芯去材
176	SD1	132	木製品	部材	303.9	10.2	6.4					芯持材 先端部加工
176	SD1	133	木製品	木樋	<239.0>	14.0	4.1				樹種:クワ	横木取り
176	SD1	134	木製品	棒状木製品	(189.7)	(4.4)	<4.5>				樹種:ヒノキ	榎目 芯去材 面取り
176	SD1	135	木製品	杭	98.0	5.8	4.5					芯持材 先端部加工痕
176	SD1	136	木製品	板状木製品	<146.0>	<16.0>	3.2				樹種:モミ属	板目 先端部炭化
176	SD1	137	木製品	部材	137.3	6.2	5.5					芯持材 加工痕あり
176	SD1	138	木製品	部材	<84.0>	8.8	8.0				樹種:コナラ属コナラ節	芯持材
176	SD1	139	木製品	部材	(85.5)	(12.1)	<5.2>				樹種:コナラ属クワ節	芯持材・欠込み

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
-	SD1	140	自然木	-							樹種:ヤナギ属	
-	SD1	141	木製品	部材							樹種:コナラ属クヌギ節	
-	SD1	142	自然木	-							樹種:コナラ属コナラ節	
177	SD2	1	土師器	坏	(10.0)	-	<2.3>	口縁部1/8	橙7.5YR7/6	良好	密	外・内面:ナテ' ハラナテ'
177	SD2	2	土師器	坏	-	-	<3.3>	口縁小〜体部小	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ナテ' ハラナテ' 赤彩 内面:ナテ'
177	SD2	3	土師器	高坏	-	-	<2.8>	体部小	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナテ'
177	SD2	4	土師器	甕	-	7.6	<2.4>	底部	黒褐10YR3/1	良好	粗砂粒含む 白色粒・石英	外・内・底面:ハラナテ' 底面磨耗激しい
177	SD2	5	土師器	甕	-	-	<4.2>	把手	淡黄橙7.5YR8/4	良好	密 長石	外・内面:ハケ 把手ハラナテ'調整
177	SD2	6	石製品	砥石	<9.1>	<6.2>	<3.4>		灰白5Y7/2	良好	密	
177	SD5	1	土師器	坏	-	<5.6>	<2.4>	底部1/4	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外面:ナテ' ハラナテ' 内面:ナテ' ハラナテ'
177	SD6	1	土師器	高坏	-	-	<3.2>	体部	明黄褐10YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ハラナテ' 脚が凸
177	SD6	2	土師器	台付甕	-	-	<2.1>	脚部	橙5YR6/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナテ'
177	SD6	3	土師器	甕	-	-	<2.3>	体部小〜底部小	明赤褐2.5YR5/6	良好	密 白色粒・金色雲母	外面:ハラナテ' 内面:ハケ 底面:ハラナテ'
177	SD6	4	須恵器	蓋	-	-	<1.2>	口縁部小	灰N4/0	良好	密	外・内面:ナテ'
177	SD11	1	縄文土器	深鉢	-	-	<4.1>	体部小	灰褐5YR4/2	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	陸帯 条線 中期後葉 黄利式
177	SD11	2	土師器	台付甕	(13.8)	-	<1.7>	口縁部小	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ナテ' ハケ 内面:ナテ'
177	SD11	3	土師器	甕	-	-	<1.8>	体部小	にぶい橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・石英	外面:ナテ' 口唇部刻み目 内面:ナテ'
177	SD11	4	土師器	甕	-	-	<2.6>	口縁部小	にぶい黄橙10YR5/3	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ナテ' 口唇部刻み目 内面:ナテ'
177	SD11	5	土師器	甕	-	(5.5)	<2.5>	体部小〜底部	にぶい黄橙10YR6/4	良好	粗砂粒含む 白色粒	外面:ハケ ハラナテ' 内面:ナテ'
177	SD11	6	石器	凹石	14.6	16.6	10.8	完形				安山岩
178	SD12	1	縄文土器	注口土器?	-	-	<6.1>	把手	明赤褐5YR5/6	良好	密 長石	堀之内式? 注口土器? 後期前葉
178	SD12	2	土師器	壺	-	-	<3.6>	体部小	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石・石英	外面:ナテ' 櫛描波状文 内面:ナテ'
178	SD12	3	土師器	壺	-	-	<9.8>	体部	橙5YR7/6	良好	密 白色粒	外・内面:ナテ' 肩部にボタン状貼付文の痕がわかれた痕跡あり
178	SD12	4	土師器	甕	-	-	3.1	口縁部小	にぶい橙7.5YR5/3	良好	細砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ 口唇部刻み目 内面:ハケ
178	SD12	5	土師器	甕	(11.8)	-	<8.0>	口縁1/7〜体部小	にぶい橙7.5YR7/3	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナテ' ハケ 内面:ナテ' ハラナテ'
178	SD12	6	土師器	甕	(16.7)	-	<3.4>	口縁部1/4	黄橙7.5YR7/8	良好	密 長石	外面:ハケ 口唇部刻み目 内面:ハケ
178	SD12	7	土師器	甕	13.6	6.8	16.3	ほぼ完形	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハラナテ' 口唇部に刻み目
178	SD12	8	土師器	甕	-	7.2	<4.4>	底部1/2	外面:橙7.5YR7/6 内面:にぶい橙7.5YR5/3	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面:ハラナテ' ハラナテ' 内面:ナテ'

※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	口径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
178	SD13	1	土師器	坏	(14.0)	—	<3.9>	口縁1/6~体部	にぶい、橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 黒色雲母	外面:ナデ' ヘラケスリ 内面:ナデ' ヘラナデ' 外面:ヘラケスリ' ヘラナデ' 内面:ヘラナデ' ヘラケスリ
178	SD13	2	土師器	高坏	—	—	<5.7>	脚部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ヘラケスリ' ヘラナデ' 内面:ヘラナデ' ヘラケスリ
178	SD13	3	土師器	高坏	—	<20.8>	<4.3>	脚部	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:ハケ 内面:ナデ' ヘラケスリ' 穴2段 個数不明
178	SD13	4	土師器	壺	(4.4)	(1.8)	5.4	口縁1/2~底部1/2	黄橙7.5YR7/8	良好	密	外面:ヘラケスリ' ハケ 内面:ヘラナデ' 頸部穴2ヶ所
178	SD13	5	土師器	甗	(17.0)	—	<5.0>	口縁部1/4	黄橙10YR8/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ヘラナデ'
178	SD13	6	土師器	甗	—	(6.6)	<5.4>	体部~底部	にぶい、赤褐5YR5/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘラナデ' ハケ 内面:ヘラナデ' 底面:木葉痕
178	SD13	7	土師器	甗	—	—	<7.5>	把手	にぶい、橙7.5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ナデ' ヘラナデ' 内面:ナデ'
178	SD14	1	土師器	壺	(16.8)	—	<8.4>	口縁1/4~体部	橙7.5YR7/6	良好	密	外面:ハケ ヘラナデ' 内面:ヘラナデ'
178	SD14	2	鉄製品	鎌	<5.4>	2.8	0.8	—	—	—	重さ<15.98g 鍛造?	—
179	SD17	1	土師器	高坏	(13.8)	—	5.2	口縁1/4~体部	橙7.5YR7/6	良好	密 赤褐色粒・黒色粒	外面:ケスリ 内面:ヘラナデ'
179	SD17	2	土師器	高坏	14.0	—	<5.7>	口縁2/3~体部2/3	橙5YR6/6	良好	砂礫含む 赤色粒・白色粒・黒色粒	外、内面:ヘラナデ'
179	SD17	3	土師器	高坏	11.0	7.3	7.7	口縁1/2~脚部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	脚外面:シキ 脚内面:ナデ' 坏内面:シキ 全体に表面劣化
179	SD17	4	土師器	高坏	13.4	—	<8.8>	口縁1/2~脚部小	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒	外、内面:ナデ' シキ
179	SD17	5	土師器	高坏	13.3	(8.3)	9.8	口縁2/3~底部1/2	にぶい、黄橙10YR1/4	良好	密 赤色粒	外、内面:ナデ' 見込みヘラ痕あり
179	SD17	6	土師器	高坏	(12.8)	—	<4.5>	口縁~体部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ シキ 内面:シキ
179	SD17	7	土師器	高坏	22.4	—	<8.0>	口縁1/2~体部1/2	明赤褐5YR5/6~にぶい、橙5YR6/4	良好	細砂粒含む	—
179	SD17	8	土師器	高坏	(19.8)	—	<8.7>	口縁1/4~体部	淡黄橙7.5YR8/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:暗文 内面:ナデ' 3孔
179	SD17	9	土師器	高坏	(24.8)	—	<10.5>	口縁1/3~脚部小	外面:明赤褐5YR5/6 内面:黒褐10YR3/2	良好	粗砂粒含む 長石・金色雲母	外、内面:ハケ シキ 穴3ヶ所
179	SD17	10	土師器	高坏	21.9	—	<14.0>	口縁~脚部1/2	橙5YR6/6~にぶい、橙5YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	かすかにシキ? 状の跡が見られるが摩耗が激しい、脚部上部穴3ヶ所
179	SD17	11	土師器	高坏	(26.0)	—	<8.3>	口縁1/4~体部小	橙7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・ 石英・金色雲母・黒色雲母	外、内面:ナデ'
179	SD17	12	土師器	高坏	21.2	—	<8.7>	口縁1/2~脚部小	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒	外、内面:シキ 脚が凸
179	SD17	13	土師器	高坏	(23.4)	—	<9.7>	口縁1/3~脚部小	橙5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外、内面:ナデ' シキ
179	SD17	14	土師器	高坏	—	—	<8.4>	体部~脚部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:シキ ハケ
180	SD17	15	土師器	高坏	(18.8)	—	6.4	口縁1/3~体部	にぶい、橙5YR7/4	良好	密 赤褐色粒・金色雲母	—
180	SD17	16	土師器	高坏	(11.8)	—	<5.8>	口縁1/4~体部	橙5YR6/8	良好	密 白色粒・黒色粒・金色雲母	—
180	SD17	17	土師器	高坏	(19.2)	—	<7.7>	口縁~体部	にぶい、橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒	外面:ハケ シキ 内面:シキ
180	SD17	18	土師器	高坏	18.0	—	<5.6>	体部	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外、内面:ナデ'
180	SD17	19	土師器	高坏	(17.3)	—	<6.2>	口縁1/4~体部1/4	外面:灰白10YR8/2 内面:橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ヘラナデ' ナデ' 内面:ナデ' ハケ

※(数値)は復元値、<数値>は残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
180	SD17	20	土師器	高坏	(19.0)	—	<4.1>	口縁部1/6～体部1/3	糖5YR7/6	良好	密	外・内面:コロンナデ
180	SD17	21	土師器	高坏	(20.0)	—	<6.4>	口縁1/4～体部1/4	明褐7.5YR5/8	良好	密	外面:ナデ 内面:ハケ
180	SD17	22	土師器	高坏	—	—	<3.4>	体部～脚部	糖7.5YR6/6	良好	密 長石	表面劣化 調整は不明
180	SD17	23	土師器	高坏	—	—	<5.5>	体部小～脚部小	糖5YR7/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ 内面:ハケ
180	SD17	24	土師器	高坏	—	—	<9.1>	体部	糖5YR6/8	良好	密 長石	外面:ハケナズリ 内面:ハケナズリ 内面:ハケ 穴6カ所
180	SD17	25	土師器	高坏	—	—	<10.5>	体部～脚部	にぶい・赤褐5YR5/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:シカキ 内面:ハケ 穴6カ所
180	SD17	26	土師器	高坏	—	(12.2)	<8.8>	体部～脚部2/3	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ
180	SD17	27	土師器	高坏	—	12.4	6.1	脚部	糖5YR7/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・石英・金色雲母	外・内面:ナデ 穴4カ所 外面から穿孔
180	SD17	28	土師器	高坏	2.4	13.4	<7.0>	脚部	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:シカキ ナデ
180	SD17	29	土師器	高坏	—	(13.8)	<7.6>	脚部	にぶい・糖7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ ハケナズリ 内面:ナデ
181	SD17	30	土師器	高坏	—	13.5	<9.5>	脚部	糖5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ハケ調整後シカキ 内面:中心部から外に向け土のかきだしあり コロンナデ
181	SD17	31	土師器	高坏	—	(10.4)	<6.1>	脚部	黄糖7.5YR7/8	良好	密	外面:ハケナズリ 内面:ナデ 穴5カ所
181	SD17	32	土師器	高坏	—	11.6	<7.1>	脚部	糖2.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英	内面:タナデ 穴3ヶ所
181	SD17	33	土師器	高坏	—	<10.0>	<5.7>	脚部	外面:赤糖10R6/8 内面:糖5YR7/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:赤彩 内面:指ナデ
181	SD17	34	土師器	高坏	—	<12.8>	<6.4>	脚部3/4	糖7.5YR7/6	良好	密 長石	外・内面:ナデ 穴3ヶ所
181	SD17	35	土師器	高坏	—	11.4	<4.5>	体部～底部3/4	にぶい・黄糖10YR7/3	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケナデ ナデ 穴3ヶ所
181	SD17	36	土師器	高坏	—	9.6	<6.6>	脚部	にぶい・糖5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	
181	SD17	37	土師器	高坏	—	<11.4>	6.4	脚部～底部1/4	にぶい・糖5YR6/3	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ハケ
181	SD17	38	土師器	高坏	—	9.5	5.5	脚部1/2	外面:にぶい・糖5YR6/4 内面:褐灰7.5YR4/1	良好	密 金色雲母	外面:ハケナズリ
181	SD17	39	土師器	高坏	—	(21.4)	<8.7>	脚部小～底部小	糖5YR7/8	良好	細砂粒含む 白色粒	外・内面:ハケナデ 穴あり
181	SD17	40	土師器	高坏	—	(22.0)	<4.8>	脚部1/2	糖5YR6/6	良好	密 赤色粒	
181	SD17	41	土師器	高坏	(20.0)	—	<8.1>	口縁部1/2	糖5YR7/8	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ナデ
181	SD17	42	土師器	高坏	—	<7.2>	<3.5>	脚部	明黄褐10YR7/6	良好	細砂粒含む	
181	SD17	43	土師器	高坏	—	<6.2>	<3.8>	脚部	糖5YR7/8	良好	細砂粒含む	スス付着
182	SD17	44	土師器	器台	(4.2)	—	<4.0>	口縁1/2～脚部小	にぶい・糖7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	脚部内面 ナデ
182	SD17	45	土師器	器台	9.5	—	<5.7>	口縁3/4～脚部	糖7.5YR7/6	良好	密 長石	杯外内面:ナデ 脚外面:ケズリ 表面全体に劣化
182	SD17	46	土師器	器台	(10.0)	—	<6.6>	口縁1/4～脚部	糖7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・黒色粒	内面:ナデ 脚部:シカキ 穴あり
182	SD17	47	土師器	器台	(8.5)	—	<7.6>	口縁3/4～脚部	糖7.5YR6/6	良好	密	脚部 シカキ 穴3ヶ所

※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	口径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
182	SD17	48	土師器	器台	8.8	9.8	8.4	口縁3/4～脚部	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・長石・石英・金色雲母	脚外面:シガキ 内面:ハケ 外面:ナデ 内面:ナデ 穴3ヶ所
182	SD17	49	土師器	器台	8.3	—	<9.1>	口縁1/2～脚部小	にぶい・橙5YR6/4	良好	密 長石	外面:ハラケズリ 内面:ヨコナデ 穴4ヶ所
182	SD17	50	土師器	器台	—	(14.0)	<7.5>	脚部1/2	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:シガキ 摩耗している 内面:ナデ
182	SD17	51	土師器	蓋	6.0	—	<3.7>	つまみ部1/2～体部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ 内面:ハラケナデ ナデ 穴1カ所(配置不明)
182	SD17	52	土師器	蓋	—	<6.4>	<2.5>	脚部	橙7.5YR7/6	良好	密	
182	SD17	53	土師器	蓋	6.2	—	<3.2>	つまみ部小～体部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	
182	SD17	54	土師器	蓋	—	3.6	<4.8>	つまみ部～体部小	明赤褐5YR5/8	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ ハケ
182	SD17	55	土師器	蓋	—	3.2	<5.3>	つまみ部～体部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ ナデ
182	SD17	56	土師器	蓋	—	4.5	<2.3>	つまみ部～体部小	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 摩耗している スズ附着
182	SD17	57	土師器	蓋	—	—	<2.8>	つまみ部～体部小	赤褐5YR4/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ハケ
182	SD17	58	土師器	鉢	6.7	4.0	3.7	口縁3/4～底部	にぶい・黄橙10YR6/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ 削り
182	SD17	59	土師器	鉢	(7.2)	2.4	4.4	口縁1/4～底部3/4	にぶい・黄橙10YR7/4	良好	密 長石	外面:ハケ
182	SD17	60	土師器	鉢	7.4	3.7	5.1	完形	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ ハケ
182	SD17	61	土師器	鉢	(11.5)	4.5	4.0	口縁1/4～底部	にぶい・黄橙10YR7/4～黒褐2.5Y3/2	良好	細砂粒含む・長石	内面:ハケ ナデ 外面:ナデ 輪郭真
182	SD17	62	土師器	鉢	(10.0)	4.5	5.2	口縁小～底部	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ ハケ
182	SD17	63	土師器	鉢	(9.6)	4.4	7.0	口縁3/4～底部	橙7.5YR6/6	良好	密 長石・石英	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ ハケナデ
182	SD17	64	土師器	鉢	(10.3)	1.5	6.1	口縁小～底部	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む・赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ 外面に一部コホケが残る
182	SD17	65	土師器	鉢	(10.8)	—	7.4	口縁2/5～底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒・石英	外・内面:ナデ 摩耗して歪みあり
182	SD17	66	土師器	鉢	(11.6)	3.9	8.3	口縁小～底部	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外・内面:ナデ ハケ
182	SD17	67	土師器	鉢	14.8	3.0	7.3	口縁～底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒	外面:ハラケズリ ナデ 内面:ナデ
182	SD17	68	土師器	鉢	(15.8)	(5.0)	10.0	口縁1/2～底部1/2	にぶい・橙7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む・赤色粒・長石	外・内面:ハケ
182	SD17	69	土師器	鉢	—	—	6.9	口縁～体部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ケズリ 指ナデ 内面:ケズリ
182	SD17	70	土師器	有孔鉢	(3.2)	—	<4.6>	口縁1/4～体部1/4	橙5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外・内面:ナデ
182	SD17	71	土師器	有孔鉢	—	3.0	<3.3>	体部小～底部	にぶい・黄橙10YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハケ スズ附着 内面:ハケ
183	SD17	72	土師器	鉢	—	(13.6)	<5.2>	底部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:模様あり 内面:ナデ
183	SD17	73	土師器	鉢	—	3.4	<5.8>	体部～底部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒	
183	SD17	74	土師器	鉢	8.5	—	6.8	ほぼ完形	赤褐2.5YR4/8	良好	粗砂粒含む・赤色粒・白色粒	外面:ケズリ
183	SD17	75	土師器	壺	—	(3.0)	<5.3>	体部～底部1/4	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒	外面:ハラケナデ シガキ 内面:指頭痕 輪郭真

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
183	SD17	76	土師器	壺	—	2.4	<7.8>	体部小~底部	明赤褐5YR5/8	良好	密	外面:ハラケスリ 内面:指頭痕
183	SD17	77	土師器	壺	—	4.0	<2.1>	体部1/3~底部	にぶい黄褐10YR7/2	良好	細砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外面:指頭痕 スズ付着
183	SD17	78	土師器	壺	—	4.4	<2.7>	体部1/3~底部	にぶい褐7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英・金色雲母	
183	SD17	79	土師器	壺	—	4.1	<5.6>	体部1/3~底部	にぶい褐5YR6/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	
183	SD17	80	土師器	壺	—	4.5	<4.4>	体部~底部	黒褐2.5Y3/1	良好	密	
183	SD17	81	土師器	壺	—	(13.6)	<9.7>	脚部1/2	褐7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外・内面:ナデ
183	SD17	82	土師器	壺	12.7	—	<7.1>	口縁~体部	にぶい褐7.5YR6/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ ナデ 内面:ナデ
183	SD17	83	土師器	壺	(10.0)	—	<5.0>	口縁1/4~体部	褐2.5YR6/8	良好	密 長石・石英	外面:ハケ 内面:ハケ 指頭痕
183	SD17	84	土師器	壺	—	4.8	<8.7>	体部~底部	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ ハラナデ 内面:ハケ ナデ
183	SD17	85	土師器	壺	—	2.0	<11.3>	体部2/3~底部	にぶい褐7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母・黒色雲母	外面:ナデ クスリ 内面:ハケ
183	SD17	86	土師器	壺	—	4.1	<4.1>	体部1/3~底部	褐5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・黒色粒・長石	
183	SD17	87	土師器	壺	—	3.0	<7.6>	体部3/4~底部	外面:明黄褐10YR6/6 内面:にぶい黄褐10YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	内面:ヨコナデ 穴の回り少々スズ付着
183	SD17	88	土師器	壺	14.0	—	<7.9>	口縁~体部1/3	にぶい褐7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 刻み 縞縞波状文 内面:ハラケスリ ナデ 突起物5ヶ所
183	SD17	89	土師器	壺	19.5	—	<6.7>	口縁~体部	にぶい褐7.5YR6/4	良好	密 赤色粒・長石	外面:刻み 内面:ヨコナデ ハケ後ナデ
183	SD17	90	土師器	壺	(12.0)	—	<3.8>	口縁1/2~体部小	褐7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・半透明粒	外面:ハケ ハラナデ 内面:ハラナデ
183	SD17	91	土師器	壺	(17.8)	—	<6.6>	口縁1/4~体部	褐7.5YR7/6	良好	密	外面:ナデ 内面:ハラケスリ 指頭痕 輪線痕
183	SD17	92	土師器	壺	8.8	—	<9.9>	口縁1/4~体部	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石	内面:ハラケスリ ナデ 内面:ハラケスリ ナデ シキ
183	SD17	93	土師器	壺	(8.6)	5.7	15.1	体部1/4~底部3/4	褐5YR7/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 下細シキ 内面:指頭痕 ナデ
184	SD17	94	土師器	壺	12.2	—	<5.2>	口縁~体部小	褐5YR7/6	良好	密 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ナデ
184	SD17	95	土師器	壺	—	—	<5.0>	口縁部小	明赤褐5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ
184	SD17	96	土師器	壺	(17.8)	—	<9.2>	口縁部2/3	にぶい褐7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外・内面:シキ
184	SD17	97	土師器	壺	—	18.3	<42.1>	体部2/3~底部	にぶい褐7.5YR5/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ハケ ナデ
184	SD17	98	土師器	壺	21.6	—	<6.7>	口縁3/4~頸部	褐7.5YR6/6	良好	粗砂粒含む 黒色粒・長石	外・内面:ハケ ナデ
184	SD17	99	土師器	壺	(19.0)	—	<5.2>	口縁1/4~体部	褐5YR6/8	良好	密 赤色粒・長石	外・内面:ナデ
184	SD17	100	土師器	壺	(20.0)	—	<4.2>	口縁1/4	にぶい褐7.5YR7/3	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ナデ シキ 内面:ナデ ハケ 外内全面赤彩
184	SD17	101	土師器	壺	—	—	<10.4>	口縁~頸部	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	
185	SD17	102	土師器	甌	(14.3)	8.2	35.1	口縁1/6~底部	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外・内面:ハケ
185	SD17	103	土師器	壺	(14.0)	5.1	16.6	口縁1/4~底部	外面:にぶい褐7.5YR7/4 内面:黒褐10YR3/1	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:シキ ナデ 内面:ナデ 輪線痕



※ (数値) は復元値、<数値は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
185	SD17	104	土師器	壺	(19.8)	11.6	<5.7> <24.9>	口縁1/4~底部	褐7.5YR7/6	良好	密 長石	外面:ハケ後ナデ 内面:ハケ 折り返し口縁ボタニ状貼付
186	SD17	105	土師器	台付甕	—	—	<4.0>	口縁部小	にぶい・褐5YR7/4	良好	細砂粒含む 白色粒・黒色粒	内面:ヨコハケ 指頭痕 口縁部刻みあり
186	SD17	106	土師器	台付甕	(16.2)	9.5	29.7	口縁1/4~脚部	褐5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・金色雲母	外面:ハケ
186	SD17	107	土師器	台付甕	20.2	—	<25.6>	口縁~体部	外面:灰黄褐10YR4/2 内面:褐7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	内面:指頭痕
186	SD17	108	土師器	台付甕	17.0	—	<7.4>	口縁~体部小	褐7.5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	
186	SD17	109	土師器	台付甕	16.5	—	<9.1>	口縁~体部1/4	にぶい・褐7.5YR6/4	良好	密 長石・金色雲母	内面:ヘラカスリ 指頭痕
186	SD17	110	土師器	台付甕	14.8	—	<5.0>	口縁部	浅黄褐7.5YR8/3	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:指頭痕
186	SD17	111	土師器	台付甕	13.8	—	<4.6>	口縁部	浅黄褐7.5YR8/3	良好	密 赤色粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・金色雲母	外面:ハケ 内面:指頭痕
186	SD17	112	土師器	台付甕	(10.0)	(6.4)	14.0	口縁1/12~脚部1/4	灰白10YR8/2	良好	密 長石	内面:指頭痕
186	SD17	113	土師器	台付甕	11.8	—	<15.3>	口縁~接合部	褐5YR6/6	良好	密 金色雲母	外面:ハケ スス付着 内面:カスリ ハケ
187	SD17	114	土師器	台付甕	(13.8)	—	<16.8>	口縁1/2~体部1/2	褐7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ
187	SD17	115	土師器	台付甕	(11.0)	7.4	15.8	口縁1/2~脚部	浅黄褐7.5YR8/6	良好	密 長石・金色雲母	内面:ナデ
187	SD17	116	土師器	台付甕	—	(7.2)	<14.1>	体部1/4~脚部1/2	褐5YR6/6	良好	細砂粒含む 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ
187	SD17	117	土師器	台付甕	(13.2)	—	<7.6>	口縁部1/2	にぶい・褐7.5YR7/4	良好	密 金色雲母	外面:ハケ
187	SD17	118	土師器	台付甕	15.8	—	<8.3>	口縁3/4~体部	褐5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ 指頭痕
187	SD17	119	土師器	台付甕	—	—	<8.6>	体部~台接合部	外面:にぶい・褐7.5YR6/4~ 褐5YR6/6 内面:褐5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ 内面:ナデ
187	SD17	120	土師器	台付甕	(11.4)	—	<9.7>	口縁1/2~体部1/2	明赤褐2.5YR5/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ナデ
187	SD17	121	土師器	台付甕	(15.8)	—	<14.1>	口縁小~体部1/2	褐7.5YR4/4	良好	密 白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ
187	SD17	122	土師器	台付甕	18.2	8.2	25.6	口縁~脚部3/4	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 長石・金色雲母	外面:ハケ ナデ 指頭痕 内面:ハケ ナデ
187	SD17	123	土師器	台付甕	(16.4)	8.8	22.6	口縁1/2~脚部	褐5YR6/6~黒褐7.5YR3/1	良好	粗砂粒含む 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ シキ
188	SD17	124	土師器	台付甕	16.6	—	<22.5>	口縁~体部	褐5YR6/6	良好	粗砂粒含む 長石・金色雲母	外・内面:ハケ ナデ
188	SD17	125	土師器	台付甕	(15.6)	—	<15.4>	口縁~体部1/3	黒褐7.5YR3/2	良好	密 白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ ハケ
188	SD17	126	土師器	台付甕	—	(6.7)	9.2	体部~底部1/4	明赤褐5YR5/6~黒褐5YR3/1	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ハケ
188	SD17	127	土師器	台付甕	—	8.4	<14.4>	体部~脚部	灰褐7.5YR4/2	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ ハケ
188	SD17	128	土師器	台付甕	—	<8.6>	<5.7>	脚部	褐2.5YR6/8	良好	砂礫含む 長石・石英・金色雲母	
188	SD17	129	土師器	台付甕	—	20.0	<6.6>	脚部	にぶい・黄褐10YR7/3	良好	密 長石	外・内面:ハケ
188	SD17	130	土師器	台付甕	—	8.4	<5.7>	脚部~底部	褐7.5YR6/8	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ナデ
188	SD17	131	土師器	台付甕	—	10.5	<6.9>	脚部~底部	外面:褐7.5YR7/6 内面:黒褐7.5YR3/2	良好	粗砂粒含む 赤褐色粒・白色粒	外面:ハケ 指頭痕 内面:ハケ

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
188	SD17	132	土師器	台付甕	—	(8.2)	<6.6>	体部小～脚部3/4	縹7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケを押しえつけた痕?指頭痕
188	SD17	133	土師器	台付甕	—	8.9	<7.8>	体部小～脚部	縹7.5YR6/6	良好	密 白色粒・金色粒	外面:ハケ 内面:ハケ ナデ
188	SD17	134	土師器	台付甕	—	(9.8)	<7.2>	体部小～脚部1/2	縹7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 白色粒・金色粒	外面:ハケ 内面:指頭痕
188	SD17	135	土師器	台付甕	—	9.1	<6.6>	体部小～脚部1/4	にぶい・黄縹10YR6/3	良好	粗砂粒含む 白色粒・金色雲母	外面:ハケ スス付着
188	SD17	136	土師器	台付甕	—	<8.0>	<6.3>	脚部	縹5YR6/8	良好	密 長石・金色雲母	
188	SD17	137	土師器	台付甕	—	7.8	<7.5>	体部小～脚部	浅黄縹7.5YR8/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ハケ ナデ
188	SD17	138	土師器	台付甕	—	8.0	<6.9>	体部小～脚部	縹7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外・内面:ナデ、ハケ
188	SD17	139	土師器	台付甕	—	7.4	<7.4>	体部～脚部	縹7.5YR7/6	良好	密 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:指頭痕
188	SD17	140	土師器	台付甕	—	7.7	<6.1>	脚部～底部	にぶい・縹7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒	外面:ケスリ ハケ
188	SD17	141	土師器	台付甕	—	8.7	<6.2>	体部小～底部	明赤縹2.5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	外面:タテハケ 内面:ヨコハケ
188	SD17	142	土師器	台付甕	—	8.3	<5.2>	脚部	にぶい・縹7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:一部ハケ残る 表面摩擦 内面:ハケ
188	SD17	143	土師器	台付甕	—	7.2	3.9	脚部	縹2.5YR6/6	良好	密 赤褐色粒・長石・金色雲母	
188	SD17	144	土師器	台付甕	—	<8.2>	<4.5>	脚部	縹5YR7/6	良好	細砂粒含む	
189	SD17	145	土師器	甕	15.4	—	<17.4>	口縁～体部3/4	にぶい・縹5YR6/4～縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・白色粒・金色雲母	外面:口縁下部タテハケ 内面:ヨコハケ 口縁部刻みあり 他タテ 斜めハケ
189	SD17	146	土師器	甕	15.8	—	<16.3>	口縁～体部	外面:黒褐5YR3/1 内面:明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ハケ
189	SD17	147	土師器	甕	(19.8)	—	<21.9>	口縁1/3～体部1/4	縹5YR6/6	良好	粗砂粒含む 長石・金色雲母	外面:ハケ 内面:ハケ シヤキ
189	SD17	148	土師器	甕	(15.6)	—	<17.2>	口縁～体部1/4	外面:縹5YR6/6 内面:縹7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ハケ
189	SD17	149	土師器	甕	(18.4)	—	<12.5>	口縁～体部1/2	縹5YR7/6	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外・内面:ハケ
189	SD17	150	土師器	甕	(16.1)	6.2	22.7	口縁1/4～底部	にぶい・縹7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	外面:ハケ 内面:ハケ 指頭痕
190	SD17	151	土師器	甕	(18.0)	—	<8.0>	口縁1/2～体部小	縹5YR7/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒・長石・ 石英・金色雲母	外・内面:ハケ
190	SD17	152	土師器	甕	(25.0)	—	<6.1>	口縁1/16～体部1/4	にぶい・縹7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石・金色雲母	外・内面:ハケ 口縁部 刻み
190	SD17	153	土師器	甕	(24.0)	—	<6.1>	口縁部1/2	縹5YR6/8～にぶい・黄縹10YR7/4	良好	密 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:ハケ 指頭痕 内面:ヨコハケ
190	SD17	154	土師器	甕	12.4	—	<6.9>	口縁1/4～体部1/4	灰褐7.5YR6/2	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・石英	
190	SD17	155	土師器	甕	(13.8)	—	<7.6>	口縁部1/4	黄縹7.5YR7/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ハケ
190	SD17	156	土師器	甕	13.6	—	<10.1>	口縁3/4～体部1/4	縹5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・金色雲母	外面:タテハケ 内面:ヨコハケ
190	SD17	157	土師器	甕	(11.4)	—	<9.5>	口縁1/4～体部	縹2.5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ 内面:指頭痕
190	SD17	158	土師器	甕	(10.0)	9.0	14.8	口縁1/4～底部	明赤褐5YR5/6～黒褐10YR3/1	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:ハケ
190	SD17	159	土師器	甕	(5.3)	<4.2>	—	口縁1/4～底部	縹5YR7/6	良好	密 長石	外・内面:ハケ

※ (数値) は復元値、<数値>は>残存値

図番号	図名	遺物番号	種別	器種	口径(長)	底径(幅)	器高<厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
190	SD17	160	土師器	甕	(6.6)	4.2	9.1	口縁1/4~底部	灰褐7.5YR5/2	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ハケ ヘラズリ 内面:ハケ
190	SD17	161	土師器	甕	—	(4.0)	<2.8>	体部3/4~底部	外面:赤10R5/6 内面:橙5YR7/6	良好	密	外:内面:ハケ
190	SD17	162	土師器	甕	—	<5.0>	<3.0>	体部1/3~底部	外面:明黄褐10YR6/8 内面:にぶい黄褐10YR7/3	良好	細砂粒含む 赤褐色粒	外:内面:一部スチ付着
190	SD17	163	土師器	甕	—	6.5	<2.0>	体部小~底部	にぶい黄褐7.5YR7/4	良好	密 長石・金色雲母	外:内面:ハケ 底面:ヘラズリ調整
190	SD17	164	土師器	甕	—	6.2	1.9	体部~底部	にぶい橙7.5YR7/3	良好	密 赤色粒	
190	SD17	165	土師器	甕	—	5.9	<2.7>	体部小~底部	にぶい橙7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ハケ 内面:ヘラズリ
190	SD17	166	土師器	甕	—	6.6	<2.0>	底部	にぶい橙5YR7/3	良好	細砂粒含む 赤色粒	外面:チチハケ
190	SD17	167	土師器	甕	—	6.5	<2.7>	体部小~底部	黒褐10YR3/1	良好	密 白色粒・金色雲母	内面:ハケ 指頭痕
190	SD17	168	土師器	甕	—	7.8	<3.7>	底部	にぶい橙5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・黒色粒・長石・石英	外面:ハケ 内面:チチ 底面:木葉痕
190	SD17	169	土師器	甕	—	8.0	<3.9>	体部小~底部	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒	外:内面:チチ 内面:ハケ
190	SD17	170	土師器	甕	—	7.6	<4.0>	体部~底部	外面:にぶい黄褐10YR7/3 内面:浅黄褐7.5YR8/6	良好	密 長石・金色雲母	外:内面:ハケ
190	SD17	171	土師器	甕	—	—	<6.2>	把手	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・金色雲母	外面:チチ
191	SD17	172	土師器	手焙	<5.8>	—	—	口縁部小	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	内面:ハケ チチ
191	SD17	172	土師器	手焙	<2.3>	—	—	口縁部小	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	内面:ハケ チチ
191	SD17	172	土師器	手焙	<2.2>	—	—	口縁部小	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石	内面:ハケ チチ
191	SD17	173	石器	叩き石	<7.5>	(10.0)	6.6		灰10Y6/1	良好	密	
191	SD17	174	石製品	砥石	<6.6>	<1.2>	3.8		灰白 N7/	良好	密	
191	SD17	175	石製品	砥石	<10.0>	<13.6>	3.5					
191	SD17	176	鉄製品	鎌	<5.4> <5.2>	1.6 2.0	0.3 0.4	刃部先端部と柄部の端部 (中間がない)				重さ刃先<6.81g> 柄側基部<5.42g> 鍛造?
191	SD17	177	石器	石鏃	1.6	0.95	0.2		黒 透明	良好		重さ<0.22g> 黒曜石 脚部折損 片面調整
178	SD28	1	土師器	甕	—	(8.4)	<11.7>	体部1/4~底部	橙7.5YR6/6	良好	密	外面:ハケ ヘラズリキ 内面:チチ 中期中葉
192	SD32	1	縄文土器	深鉢	—	—	<2.7>	体部小	外面:にぶい橙7.5YR6/4 内面:明褐7.5YR3/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・長石・石英・金色雲母・黒色雲母	外面:角押文 チチ 内面:チチ 中期中葉
192	SD32	2	石器	打製石斧	<16.9>	<6.6>	1.8					緑泥片岩
192	SD32	3	石器	石鏃	<2.3>	<1.5>	<0.3>					黒曜石
192	SD32	4	石器	原石	6.1	1.9	1.5		黒	良好	密	黒曜石
192	SD33	1	縄文土器	深鉢	—	—	<3.6>	体部	明赤褐5YR5/6	良好	密	隆背渦巻文 中期 後葉背刺式
192	SD33	2	縄文土器	深鉢	—	—	<4.3>	口縁部小	明赤褐5YR5/8	良好	密 金色雲母	口縁部の隆背による区画に角押文が沿う 区画内は波状の角押文 中期中葉 猪沢式
192	SD33	3	石器	打製石斧	<10.2>	7.4	1.9	完形	灰白7.5Y7/1	良好	密	ホムフエボス?

※(数値)は復元値、<数値は>残存値

図 番号	図名	遺物 番号	種別	器種	口径 (長)	底径 (幅)	器高 <厚>	部位	色調	焼成	胎土	備考
192	SD33	4	土師器	坏	(13.0)	—	<3.7>	口縁～底部1/5	灰黄褐10YR4/2	良好	密	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ヘナナデ' 外内全面黒彩
192	SD33	5	土師器	坏	(12.0)	—	<2.9>	口縁部1/4	外面:黒褐7.5YR3/1 内面:黒褐7.5YR5/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ミカキ 外内全面黒彩
192	SD33	6	土師器	坏	(13.0)	—	<5.7>	口縁1/8～底部小	外面:明黄褐10YR6/6 内面:黒10YR2/1	良好	密 赤色粒	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ミカキ 全面黒彩
192	SD33	7	土師器	坏	(12.0)	—	<4.0>	口縁1/8～底部小	橙7.5YR7/6	良好	密 赤色粒	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ' 全面黒彩
192	SD33	8	土師器	坏	15.3	11.2	3.7	口縁～底部	橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ' ヘナナデ'
192	SD33	9	土師器	坏	(12.0)	—	<4.5>	口縁部1/4	外面:明褐7.5YR5/6 内面:黒褐10YR2/2	良好	密 長石・金色雲母	外面:ヘナナデ' 後サキ ヘラカスリ'後サキ 内面:全面黒彩・ミカキ
192	SD33	10	土師器	坏	(14.0)	—	<2.4>	口縁部1/8	橙5YR6/6	良好	密 赤色粒・金色雲母	外面:ナデ' ヘラカスリ 内面:ナデ' 外内全面赤彩
192	SD33	11	土師器	坏	14.4	11.0	3.8	完形	橙7.5YR7/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒・ 金色雲母	外面:口縁部黒彩 体部ヘラカスリ 内面:全面黒彩 ナデ' ヘナナデ'
193	SD33	12	土師器	坏	—	7.4	<1.1>	体部小～底部3/4	橙5YR6/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外面:ヘラカスリ 内面:見込み部ロコナデ' 底面:ヘラカスリ 高台削り出し 平安時代
193	SD33	13	土師器	器台	—	—	<4.2>	脚部	橙5YR6/8	良好	密 赤色粒	外・内面:ヘナナデ' 前期?
193	SD33	14	土師器	高坏	14.7	9.6	9.0	口縁～脚部	にぶい・橙5YR6/4	良好	密	外面:ヘナナデ' ヘラカスリ 内面:ヘナナデ' 身も脚も凸みし?
193	SD33	15	土師器	高坏	—	—	<7.2>	脚部～底部	明赤褐5YR5/6	良好	細砂粒含む 赤色粒・白色粒	外・内面:ヘナナデ' 穴3ヶ所 前期?
193	SD33	16	土師器	高坏	—	—	<5.7>	脚部	橙5YR6/6	良好	密	外面:ヘナナデ' 後ヨコナデ' 内面:ハケ ヘナナデ'
193	SD33	17	土師器	鉢	(11.0)	—	<3.7>	口縁1/5～体部小	淡黄褐7.5YR8/4	良好	密 赤色粒・白色粒・長石・石英・ 金色雲母	外面:ヘラカスリ'後ナデ' 内面:ナデ' ヘナナデ'
193	SD33	18	土師器	台付甕	(15.5)	—	<4.5>	口縁小～体部小	橙7.5YR6/6	良好	密 赤色粒・白色粒・石英・金色雲母	外面:ナデ' ハケ 内面:ナデ' 指頭痕
193	SD33	19	土師器	甕	(17.8)	—	<18.0>	口縁1/3～体部	橙5YR6/6	良好	密	外面:ヘナナデ' ハケ 内面:ハケ ヘナナデ'
193	SD33	20	土師器	甕	—	6.8	<2.8>	底部	外面:橙7.5YR6/6 内面:橙5YR6/6	良好	粗砂粒含む 赤色粒・長石・石英・ 金色雲母	外・内面:ハケ 底面:木葉痕
193	SD33	21	土師器	甕	—	9.4	<3.4>	底部	暗赤褐5YR3/4	良好	粗砂粒含む 長石・石英・金色雲母	外・内面:ハケ 底面:木葉痕
193	SD33	22	須臾器	坏	—	—	<3.2>	口縁小～体部小	灰N6/0	良好	密 白色粒・黒色粒・黒色雲母	外・内面:ロコナデ'
193	SD33	23	銅製品	鈴?	<2.3>	<2.3>	0.4		明緑灰10YG7/1			重さ<10.30g> 直径2.3cmの球体か?
194	遺構外	1	土師器	手捏土器	(6.8)	5.0	<5.0>	口縁1/5～底部3/4	明赤灰2.5YR7/2	良好	密 赤色粒	外面:ハケ ナデ' 内面:ナデ'
194	遺構外	2	土師器	高坏	(8.6)	—	<3.3>	口縁部	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	細砂粒含む 赤色粒・長石・石英	外面:ヘナナデ' 内面:ナデ' ヘナナデ'
194	遺構外	3	土師器	器台	(6.1)	(9.9)	5.8	口縁小～底部小	明赤褐5YR5/6	良好	粗砂粒含む 白色粒・石英	外面:ナデ' ヘナナデ' 内面:ナデ' 穴3ヶ所
194	遺構外	4	土師器	蓋	13.7	—	<1.9>	つまみ部	にぶい・橙5YR7/4	良好	細砂粒含む 白色粒	外面:ヘナナデ' 内面:ヘナナデ' 指頭痕 上部穴2ヶ所
194	遺構外	5	土師器	注口付土器	(1.7)	(4.2)	<1.5>	注口	にぶい・橙7.5YR7/4	良好	密 赤色粒・長石	
194	遺構外	6	須臾器	壺	(16.0)	—	<5.6>	口縁～体部	外面:灰N4/ 内面:灰N6/	良好	細砂粒含む	外面:縞描波状文
194	遺構外	7	須臾器	壺	—	—	<5.8>	体部小	灰白2.5Y7/1	良好	密 赤色粒	外面:ロコナデ' 刻み目 沈線 内面:ロコナデ'
194	遺構外	8	銅製品	鉄砲玉	1.2	1.2	1.2	完形	灰白7.5Y8/1			重さ<9.11g> 鐘型の跡あり

## 第5章 自然科学分析

### 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtavidze・黒沼保子

#### 1. はじめに

甲府市の塩部遺跡から出土した試料 6 点について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

#### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は、炭化材 5 点と炭化種実 1 点で、Pit180 から出土した炭化材（木 55 : PLD-37065）と、Pit203 から出土した炭化材（木 58 : PLD-37066）、SI10 から出土した炭化草本（木 108 : PLD-37067）、SI7a から出土した炭化材（木 121 : PLD-37068）、SI7b から出土した炭化材（木 125 : PLD-37069）、SK31 から出土した炭化種実（種 55 : PLD-37070）である。炭化材は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。調査所見による遺構の推定時期は、Pit180 と Pit203、SK31 が古墳時代、SI10 と SI7b が古墳時代前期、SI7a が古墳時代中期である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-37065	遺構 : Pit180 試料No. 木55	種類 : 炭化材 (ケヤキ) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N)
PLD-37066	遺構 : Pit203 試料No. 木58	種類 : 炭化材 (コナラ属クヌギ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N)
PLD-37067	遺構 : SI10 試料No. 木108	種類 : 炭化草本 (イネ科) 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N) 処理備考 : 状態悪い? 鈹物混じり
PLD-37068	遺構 : SI7a 試料No. 木121	種類 : 炭化材 (コナラ属クヌギ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N) 処理備考 : 状態悪い
PLD-37069	遺構 : SI7b 試料No. 木125	種類 : 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状 : 最終形成年輪以外、部位不明 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N)
PLD-37070	遺構 : SK31 試料No. 種55	種類 : 炭化種実 (イネ種子) 状態 : dry	超音波洗浄 有機溶剤処理 : アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2N, 水酸化ナトリウム : 1.0N, 塩酸 : 1.2N)

#### 3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦

年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、図 1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal14.3 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				$1\sigma$ 暦年代範囲	$2\sigma$ 暦年代範囲
PLD-37065 Pit180 試料No. 木55	-24.39 $\pm$ 0.23	1804 $\pm$ 16	1805 $\pm$ 15	144-154 cal AD (6.2%) 169-195 cal AD (19.3%) 210-245 cal AD (42.6%)	135-252 cal AD (94.6%) 308-311 cal AD (0.8%)
PLD-37066 Pit203 試料No. 木58	-28.82 $\pm$ 0.26	1731 $\pm$ 18	1730 $\pm$ 20	256-300 cal AD (44.5%) 317-342 cal AD (23.7%)	250-358 cal AD (89.1%) 365-380 cal AD (6.3%)
PLD-37067 SI10 試料No. 木108	-23.13 $\pm$ 0.24	1719 $\pm$ 17	1720 $\pm$ 15	259-281 cal AD (24.7%) 324-354 cal AD (31.7%) 366-380 cal AD (11.8%)	255-302 cal AD (37.2%) 315-387 cal AD (58.2%)
PLD-37068 SI7a 試料No. 木121	-29.99 $\pm$ 0.15	1731 $\pm$ 16	1730 $\pm$ 15	257-298 cal AD (45.6%) 319-340 cal AD (22.6%)	250-358 cal AD (89.8%) 365-380 cal AD (5.6%)
PLD-37069 SI7b 試料No. 木125	-25.40 $\pm$ 0.26	1861 $\pm$ 17	1860 $\pm$ 15	91-99 cal AD (6.1%) 124-176 cal AD (44.9%) 191-212 cal AD (17.1%)	85-220 cal AD (95.4%)
PLD-37070 SK31 試料No. 種55	-27.03 $\pm$ 0.18	1816 $\pm$ 17	1815 $\pm$ 15	143-155 cal AD (11.0%) 168-195 cal AD (26.6%) 209-237 cal AD (30.6%)	134-240 cal AD (95.4%)

#### 4. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち  $2\sigma$  暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して、結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については藤尾 (2013)、古墳時代の暦年代については赤塚 (2009) を参照した。

Pit180 から出土した炭化材 (木 55: PLD-37065) は、135-252 cal AD (94.6%) および 308-311 cal AD (0.8%) であった。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代に対して整合的である。

Pit203 から出土した炭化材（木 58 : PLD-37066）は、250-358 cal AD (89.1%) および 365-380 cal AD (6.3%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代に対して整合的である。

SI10 から出土した炭化草本（木 108 : PLD-37067）は、255-302 cal AD (37.2%) および 315-387 cal AD (58.2%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代前期に対して整合的である。

SI7a から出土した炭化材（木 121 : PLD-37068）は、250-358 cal AD (89.8%) および 365-380 cal AD (5.6%) であった。これは、古墳時代前期～中期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代中期に対して整合的である。

SI7b から出土した炭化材（木 125 : PLD-37069）は、85-220 cal AD (95.4%) であった。これは、弥生時代後期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代前期よりもやや古い年代であった。

SK31 から出土した炭化種実（種 55 : PLD-37070）は、134-240 cal AD (95.4%) であった。これは、弥生時代後期に相当する暦年代で、遺構の推定時期である古墳時代よりもやや古い年代であった。

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の炭化材試料は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、残っている最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。なお、草本試料は1年生と思われるため、測定結果は枯死した年代を、種実試料の測定結果は種実の結実年代を示す。

#### 引用・参考文献

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代。日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集」：14-20，日本文化財科学会。

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎（2013）弥生文化像の新構築。275p，吉川弘文館。

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」：3-20，日本第四紀学会。

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

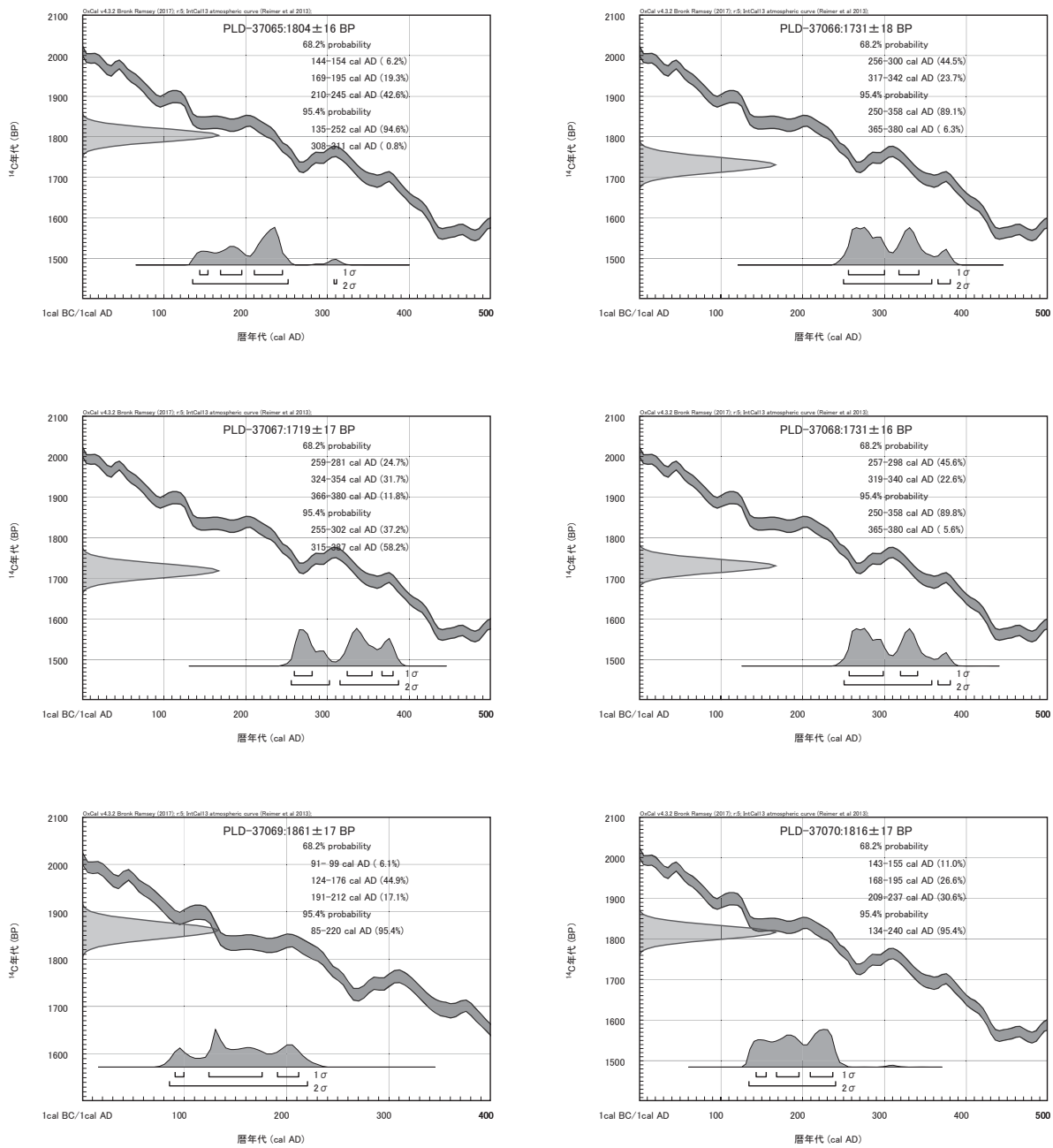


图1 曆年較正結果



1. はじめに

山梨県甲府市に所在する塩部遺跡の発掘調査では、集落内遺構の土壌水洗によって、住居址、土坑、溝などの遺構から動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料はチャック付きポリ袋 68 袋である。1つの袋につき 1 点ないし複数点の骨片が含まれていた。観察は肉眼と実体顕微鏡下で行い、標本との比較により同定した。

3. 結果と考察

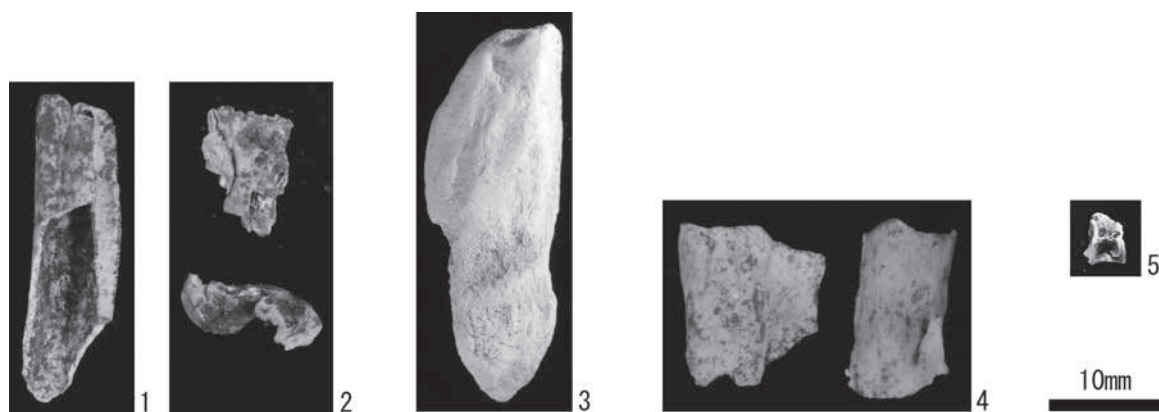
同定されたのは、哺乳綱 (Mammalia)、イノシシ (*Sus scrofa*)、シカ (*Cervus nippon*)、ウシ (*Bos taurus*)、コイ科 (Cyprinidae) の計 5 分類群である。

イノシシは、SI20 で右下顎第 2 切歯が 1 点、SI35、SI36、SK35 で臼歯破片が複数みられた。イノシシと同定した試料が、野生のイノシシであるか飼育されたブタであるかは不明である。

シカは、SI37 で骨角器の可能性のある焼けた角片 1 点が見られた。

ウシは、SI5 と Pit483 で臼歯破片が複数みられた。また、SI7a、SI7b、SI24、SI27、SI32、Pit181、Pit462、SD17 でウシの可能性のある歯の破片が複数みられた。塩部遺跡では、家畜としてウシが飼育されていたと考えられる。

コイ科は、SI38 で焼けた腹椎 1 点が見られた。河川や池沼で魚類が捕獲され、食用にされていたと考えられる。



図版1 塩部遺跡出土動物遺体

1. イノシシ右下顎第2切歯(骨21) 2. イノシシ臼歯(骨37) 3. シカ角, 骨角器?(骨41)  
4. ウシ臼歯(骨52) 5. コイ科腹椎(骨42)

表1 塩部遺跡動物遺体一覧

試料番号	遺構名	取上げ	備考	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
骨1	SI1	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨2	SI1	一括	SI21分	哺乳綱	頭蓋骨	—	破片	1	焼
骨3	SI2	一括	Pit118付近	哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨4	SI3	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨5	SI4	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨6a	SI5	一括		ウシ	臼歯	不明	破片	6	焼?
骨6b	SI5	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	2	焼
骨7	SI6	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨8a	SI7a	No. 28		ウシ?	臼歯	不明	破片	23	焼?
骨8b	SI7a	No. 28		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨9	SI7b	一括		ウシ?	歯	不明	破片	10	焼
骨10	SI9	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨11	SI9	床下焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨12	SI10	炉2一括	床下検出	哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨13	SI10	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	20<	焼
骨14	SI11	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨15	SI13	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨16	SI14	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	22	焼
骨17	SI14	No. 3		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨18	SI14	No. 4		哺乳綱	不明	不明	破片	30<	焼
骨19	SI16	No. 6		哺乳綱	不明	不明	破片	100<	焼
骨20	SI19	No. 76		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨21	SI20	No. 627		イノシシ	下顎第2切歯	右	遊離歯	1	焼?
骨22	SI20	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨23	SI22	No. 241		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨24	SI22	No. 295		哺乳綱	不明	不明	破片	5	焼
骨25	SI23	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	13	焼
骨26	SI24	No. 17		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨27a	SI24	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	2	焼
骨27b	SI24	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨28a	SI25	カマド一括		哺乳綱	肋骨	不明	破片	1	焼
骨28b	SI25	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	15	焼
骨29	SI27	No. 77		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨30	SI27	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨31a	SI27	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	40<	焼?
骨31b	SI27	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	5	焼
骨31c	SI27	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	22	焼
骨32	SI28	炉一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨33a	SI28	一括		哺乳綱?	四肢骨	不明	骨幹	1	焼
骨33b	SI28	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨34	SI32	No. 105		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨35a	SI32	一括		ウシ?	歯	不明	破片	11	焼?
骨35b	SI32	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨36	SI35	No. 26	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨37	SI35	No. 55		イノシシ	臼歯	不明	破片	70<	焼?
骨38	SI36	No. 1		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨39	SI36	No. 28		イノシシ	臼歯	不明	破片	39	焼?
骨40	SI36	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨41	SI37	一括		シカ	角	不明	破片、骨角器?	1	焼
骨42	SI38	No. 133	土器の中	コイ科	腹椎	—	椎体	1	焼
骨43	SI38	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	40<	焼
骨44a	SI38	一括		哺乳綱	四肢骨	不明	破片	9	焼
骨44b	SI38	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	70<	焼
骨45	SI39	カマド一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼、岩石片あり
骨46	SK16	焼土一括		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨47a	SK35	一括		イノシシ	臼歯	不明	破片	20<	焼?
骨47b	SK35	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨48	SK36	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	9	焼
骨49	Pit180	一括	SI7内	哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨50a	Pit181	No. 1	SI7内、土器の中	ウシ?	歯	不明	破片	2	焼
骨50b	Pit181	No. 1	SI7内、土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	8	焼
骨51	Pit462	一括	SI13内	ウシ?	臼歯	不明	破片	20<	焼?
骨52	Pit483	No. 1	SI28内	ウシ	臼歯	不明	破片	14	焼?
骨53	Pit566	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨54	SD1	No. 114	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼

骨55	SD1	No. 159	土器の中	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨56	SD1	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
骨57a	SD17	一括		ウシ?	臼歯	不明	破片	5	焼?
骨57b	SD17	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10<	焼
骨58	SD25	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨59a	SX3	No. 22	焼土1内	哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨59b	SX3	No. 22	焼土1内	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨60	SX3	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	10	焼
骨61	SY2	一括		哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
骨62	SY3	一括	SI22内	哺乳綱	不明	不明	破片	14	焼
骨63	SY4	一括	SI1内	哺乳綱	不明	不明	破片	7	焼
骨64	SY5	一括	SI23内	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
骨65	SY10	一括	SI36内	哺乳綱	不明	不明	破片	8	焼
骨66	IG1068	No. 1068		哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼
骨67	IG1306	No. 1306		哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
骨68	IG1325	No. 1325	SX1付近	哺乳綱	頭蓋骨?	不明	後頭骨?	1	

### 1. はじめに

山梨県甲府市塩部遺跡のSD01とされる川の堆積物中より得られた昆虫化石について、同定し、当時の古環境について推定した。なお、同一遺構で花粉分析やプラント・オパール分析、大型植物遺体分析も行われている。

### 2. 試料と方法

分析試料は、試料1はSD01中に廃棄された甗 (No. 159) 内の堆積物試料、試料2は同じくSD01中に廃棄された甗 (No. 207) 内の堆積物試料、試料3はSD01から出土した土器破片を一括し、水洗する過程で発見された試料である。試料1と2の水洗は、昭和測量株式会社によって行われた。水洗方法は、2.0mm目と0.85mm目の篩を上下に重ねて水洗した。水洗量は、No. 159が5711g、No. 207が848gである。試料の時期は、いずれも古墳時代後期である。

### 3. 結果

同定結果を表1に、また主な出現昆虫については、図版1に示した。以下に、明らかになった結果について述べる。

試料1には、計8点の昆虫化石が含まれていた。オオゴミムシ *Lesticus magnus* の右上翅片が1点と、エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. の前胸背板片が2点、ハネカクシ科 Staphylinidae の胸部が1点、キンバエ属 *Lucilia* sp. の囲蛹片が1点、ルリヒラタゴミムシ *Dicranoncus femoralis* の右上翅が1点、オサムシ科 Carabidae の上翅片が2点であった。

エンマコガネ属は食糞性昆虫、キンバエ属は糞にも見られるが、多くは動物質の腐敗物に集まる昆虫である。ハネカクシ科は主に食屍性だが、雑食性の種類もある。ルリヒラタゴミムシは、河原や水辺周辺の湿潤地表面上で観察される (WEB 図鑑「里山のゴミムシ」) が、ときにクマザサの葉上にもいることもある (土生, 1941) という。検出されたすべての昆虫が地表性昆虫に属し、地表面上に存在する肉質物や糞などを食べる種類であった。

試料2には、計19点の昆虫化石が含有されていた。オオゴミムシが2点、オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica* が5点、オサムシ科 (いずれも大型) が9点、アリ科 Formicidae が3点であった。

オオゴミムシは、成虫・幼虫ともに肉食性の大型の地表性歩行虫、オオヒラタシデムシは、食屍性の地表性歩行虫である。

オオゴミムシは、低地から山麓にかけて生息する平地性の食肉性歩行虫である。山地では、ほとんど採集されることはない。野原や畑・河原などに多く見られ、普通種である。日中石の下などに隠れていて夜間活動し、鱗翅目の幼虫などを好んで食べる。森林内や人気の少ないところを好まず、人里周辺に多い。

オオヒラタシデムシは、平地から山地までふつうに産する。成虫は土中で越冬して春から現れ、動物の死体はじめ主に腐敗動物質を食する。多くのシデムシ類が森林内や自然度の高い地表面上に生活するのに対し、オオヒラタシデムシは人家に近いところに生息する攪乱環境の指標種である。

9点確認されたオサムシ科の昆虫片は、いずれも大型種に属するものであり、オオゴミムシに同定され

る可能性もあるが、分類・同定が困難な部位のため、詳細な同定はできなかった。試料1同様、得られたすべての昆虫が、地表性昆虫であった。

試料3には、計6点の昆虫化石が含まれていたが、検出された昆虫は試料1および2とは異なり、いずれも食植性昆虫であった。コガネムシ *Mimela splendens* の右上翅が1点、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の右上翅や前胸背板片などが計4点、コガネムシ科 Scarabaeidae に属する腹部腹板片が1点であった。

コガネムシは、主に河川敷や河川堤防など開けた場所（酒井・藤岡，2007）に生える草木の葉を食する。一方、ヒメコガネは、ヒトが植栽した畑作物や果樹、二次林の樹葉などに集まる人里昆虫（森，1999）である。

#### 4. 考察

出現昆虫のうち、古墳時代後期の土器内の堆積物から得られた試料はすべて地表性昆虫、一括土器と共に得られた試料はすべて陸生の食植性昆虫であった。

試料1および試料2から得られたオオゴミムシとオオヒラタシテムシは、共に森林内や標高の高い場所に棲むことがなく、平地を代表する地表性歩行虫である。この結果、遺跡は、周囲が開けた平地や台地のような場所に展開していた可能性が考えられる。

また、両昆虫ともに人里周辺の攪乱地表面上に多い昆虫であるため、遺跡一带に腐敗動物質や生活ゴミなどが散在する畑のような環境であったと想定される。こうした推定は、食糞性のエンマコガネ属や腐敗動物質に多いキンバエ属、多くが食屍性の地表性昆虫であるハネカクシ科やアリ科の出現によっても示される。

試料1および試料2に、まったく食植性昆虫が含有されていなかったため、遺跡の周囲には、あまり植物は生えていなかっただろう。

一方、SD01内の一括試料では、主に畑作物を加害するヒメコガネや河川敷などに生活するコガネムシなど、ともに食葉性の昆虫が発見されたことが注目される。この結果により、遺跡からやや離れた場所にヒトが植栽した畑作物や果樹などが存在したと考えられる。

#### 引用文献

土生和申（1941）数種の北海道産歩行虫に就いて．昆虫界，9（91），651-655.

日本産環境指標ゴミムシ類データベース作成グループ WEB 図鑑「里山のゴミムシ」．滋賀県立琵琶湖博物館．（[www.biawahaku.jp/research/data/gomimushi/](http://www.biawahaku.jp/research/data/gomimushi/) 2018年11月23日参照）

森 勇一（1999）昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史．歴博国際シンポジウム「過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告第81集，311-342，国立歴史民俗博物館．

酒井 香・藤岡昌介（2007）日本産コガネムシ上科図説（第2巻食葉群1）．173p，昆虫文献六本脚．

表1 甲府市塩部遺跡から産出した昆虫化石

試料1:SD01(No. 159)

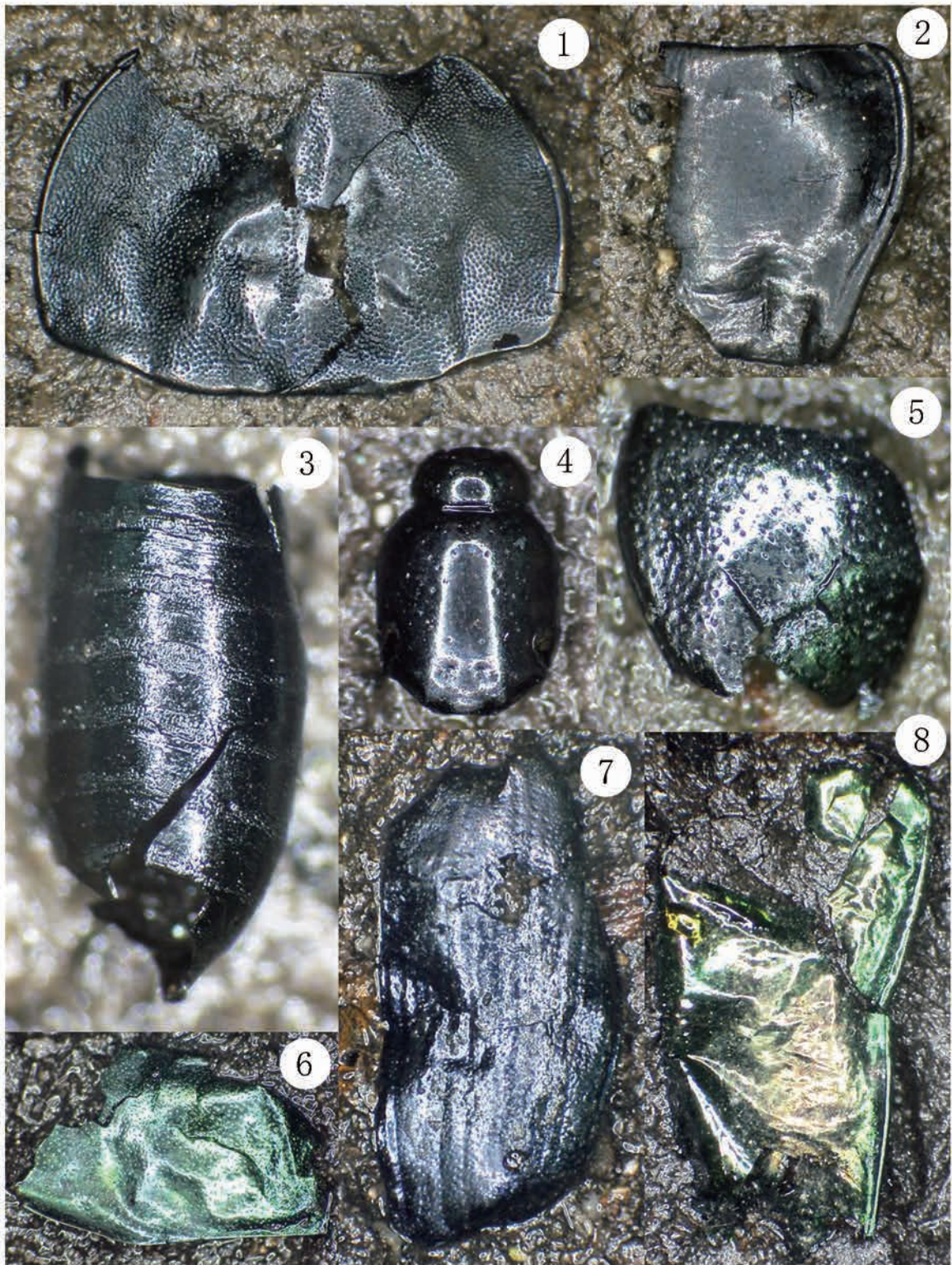
	昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motchulsky)	右上翅片	食肉性	地表性	11.5
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部	食屍性	地表性	2.2
3	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	食糞性	地表性	2.8
4	キンバエ属	<i>Lucilia</i> sp.	蛹片	食糞性	地表性	4.8
5	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.8
6	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.6
7	ルリヒラタゴミムシ	<i>Dicranoncus femoralis</i> Chaudoir	右上翅	食肉性	地表性	5.0
8	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	食糞性	地表性	1.8

試料2:SD01(No. 207)

	昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	前胸背板	食屍性	地表性	9.5
2	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	前胸背板片	食屍性	地表性	8.0
3	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	右上翅会合部	食屍性	地表性	5.2
4	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motchulsky)	前胸背板右半部	食肉性	地表性	5.1
5	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motchulsky)	前胸背板下半部	食肉性	地表性	5.2
6	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片	食肉性	地表性	6.2
7	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	後胸腹板片	食肉性	地表性	4.8
8	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	中胸腹板片	食肉性	地表性	6.4
9	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	上翅片	食屍性	地表性	4.9
10	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i> (Motschulsky)	上翅片	食屍性	地表性	5.9
11	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板	食肉性	地表性	5.5
12	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	雑食性	地表性	1.8
13	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	2.4
14	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	食肉性	地表性	3.4
15	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	4.4
16	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片	食肉性	地表性	5.4
17	オサムシ科 (大型)	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	食肉性	地表性	6.4
18	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	雑食性	地表性	1.8
19	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	雑食性	地表性	2.2

試料3:SD01 (一括)

	昆虫和名	昆虫学名	部位	食性	生息環境	大きさ (mm)
1	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> Gyllenhal	右上翅	食植性	植物上	8.5
2	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	右上翅	食植性	植物上	10.5
3	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	前胸背板片	食植性	植物上	5.2
4	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	上翅片	食植性	植物上	2.4
5	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	上翅片	食植性	植物上	5.6
6	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	食植性	植物上	7.2



図版1 塩部遺跡から産出した昆虫化石

1. オオヒラタシデムシ *Eusilpha japonica* (Motschulsky) 前胸背板 幅9.5mm (試料2)
2. オオゴミムシ *Lesticus magnus* (Motschulsky) 左上翅 幅5.1mm (試料2)
3. キンバエ属 *Lucilia* sp. 困蛹片 長さ4.8mm (試料1)
4. ハネカクシ科 Staphylinidae gen. et sp. indet. 胸部 長さ2.2mm (試料1)
5. エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 前胸背板片 長さ2.8mm (試料1)
6. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky 前胸背板片 長さ5.2mm (試料3)
7. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky 右上翅 長さ10.5mm (試料3)
8. コガネムシ *Mimela splendens* Gyllenhal 右上翅 長さ8.5mm (試料3)

### 1. はじめに

甲府市塩部に所在する塩部遺跡は、甲府市中央部に流れる相川と荒川の両河川に挟まれた場所に立地する、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡である。ここでは、集落内に確認された古墳時代を主体とする竪穴住居跡や土坑などから回収された土壌中の大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物、遺構周辺における栽培状況や植生について検討する。なお、一部の試料については、炭化材樹種同定や放射性炭素年代測定も行われている（別項参照）。

### 2. 試料と方法

試料は、水洗済みの堆積物試料が 63 試料である。堆積物試料は、竪穴住居跡 (SI)、ピット (Pit)、土坑 (SK)、溝 (SD)、焼土 (SY)、分類不明遺構 (SX)、遺構外出土遺物 (IG) から採取された。堆積物の水洗選別および炭化種実の抽出は、昭和測量株式会社により行われた。考古学的な所見による遺構の推定時期は、1 試料を除き、いずれも古墳時代前期～後期の範疇である。遺構ごとの詳細な時期については、表 1～5 を参照されたい。

計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号で表記した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のブドウ属 A 炭化種子とブドウ種子、モモ核・炭化核、スモモ核、ケヤキ炭化果実、クリ炭化果実、オニグルミ核・炭化核、ウルシ属ーヌルデ炭化内果皮、ムクロジ炭化種子の 9 分類群、草本植物ではヒルムシロ属核とヒエ属炭化種子 (穎果)、イネ炭化種子 (穎果)、コムギ炭化種子 (穎果)、キケマン属種子、ダイズ炭化種子、ダイズ属炭化種子、ハギ属炭化種子、エンドウ属炭化種子、ササゲ属アズキ亜属 (以下、アズキ亜属) 炭化種子、アサ核、カナムグラ核、スイカ種子、メロン仲間種子・炭化種子、ヒョウタン仲間種子・炭化種子、スマレ属炭化種子、ヤナギタデ果実・炭化果実、ウナギツカミ炭化果実、シソ属炭化果実、オナモミ総苞・炭化総苞、ヤブジラミ総苞の 21 分類群の、計 30 分類群が得られた (表 1～5)。この他に、科以上の同定ができなかった炭化種実を不明 A 炭化種実とし、不明の炭化芽を不明炭化芽として一括した。また、科以上の絞り込みに必要な識別点を持たない一群を同定不能炭化種実とした。大型植物遺体以外に昆虫遺体と骨片が見られたが、同定の対象外とした。

以下に、産出した主な大型植物遺体について遺構別に記載する。なお、分類群の学名は米倉・梶田 (2003-) に準拠し、APGⅢリストの順とした。

SI1：オナモミがわずかに得られた。

SI3：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI4：イネがわずかに得られた。



表1 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (1) (括弧内は破片数)

分類群	整理番号	遺構名	種1	種2	種3	種4	種5	種6	種7	種8	種9	種10	種11	種12	種13
			S11	S13	S14	S15	S16	S17a	S18	S19	S110				
			採取No.	カマド一括	炉一括	炉一括	一括	炉一括	灰層一括	一括	カマド一括	床下土一括	炉2一括	北東一括	南東一括
採取位置	古墳中期～後期		古墳中期	古墳中期	古墳中期～後期	古墳前期	古墳中期	古墳前期	古墳後期		古墳前期				
モモ	炭化核								1				(1)		(3)
ケヤキ	炭化果実												13 (10)	4 (13)	
ウルシ属-スルデ	炭化内果皮												3		
ムクロジ	炭化種子												(2)		
ヒメ属	炭化種子													1	
イネ	炭化種子			(2)	2 (15)	(3)	(2)			4 (12)	1 (2)		8 (31)	22 (26)	(1)
ダイズ属	炭化種子						1						(13)		
エンドウ属	炭化種子													(2)	
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子						(1)								
スマレ属	炭化種子												1		
ヤナギタデ	炭化果実													(1)	
シソ属	炭化果実													1	
オナモミ	炭化総苞	(8)								1					
同定不能	炭化種実		(1)				(7)						(2)	(1)	
不明	炭化芽												2	2	

表2 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (2) (括弧内は破片数)

分類群	整理番号	遺構名	種14	種15	種16	種17	種18	種19	種20	種21	種22	種23	種24	種25	種26
			S110	S111	S113	S114	S116	S117	S121	S122	S124	S125			
			採取No.	北西一括	焼土一括	カマド一括	焼土一括	炉一括	炉一括	No. 57	No. 241	No. 295	カマド一括	No. 17	カマド一括
採取位置	古墳前期		古墳中期～後期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳前期～中期	カマド監製の中		土器の中	-	土器の中	-
時期	古墳前期		古墳中期～後期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳前期～中期	古墳中期		古墳中期	古墳中期～後期	古墳後期	
ブドウ属A	炭化種子		1												
モモ	炭化核	(2)	1							1					
ケヤキ	炭化果実	(2)		(2)											
イネ	炭化種子	10 (17)		1 (9)	2 (10)	(1)	(1)				2 (9)			2 (11)	1 (3)
コムギ	炭化種子				(1)										
ダイズ属	炭化種子	1		1									2 (16)		
ハギ属	炭化種子	1													
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子														1
ヤナギタデ	炭化果実	2													
同定不能	炭化種実	(2)							(4)		(1)		(15)		
不明	炭化芽	1													

表3 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (3) (括弧内は破片数)

分類群	整理番号	遺構名	種27	種28	種29	種30	種31	種32	種33	種34	種35	種36	種37	種38	種39
			S127	S128	S128	S138	S139	S140	S143	Pit140	Pit180	Pit186			
			採取No.	No. 154	カマド一括	炉一括	一括	No. 133	焼土一括	カマド一括	No. 32	集石一括	焼土一括	No. 1	一括
採取位置	土器の中	-	-	-	土器の中	-	-	土器の中	-	-	土器の中	炭化物層	S117内床面粘土	-	
時期	古墳中期～後期		古墳中期～後期		古墳中期		古墳後期		古墳前期		古墳中期～後期		古墳	古墳前期～中期	古墳前期
ブドウ	種子		1					1				1			
オニグルミ	炭化核									(3)					
イネ	炭化種子	2 (7)		(1)	1 (1)	1		1 (1)	2 (8)	1 (2)			(1)		(6)
ダイズ	炭化種子													1	
エンドウ属	炭化種子										1				
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子					1									
同定不能	炭化種実	(4)										(3)			

表4 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (4) (括弧内は破片数)

分類群	整理番号	遺構名	種40	種41	種42	種43	種44	種45	種46	種47	種48	種49	種50	種51	種52
			S127	Pit324	S128	S138	S139	S140	S143	Pit140	Pit180	Pit186			
			採取No.	一括	No. 3	No. 114	No. 159	No. 161	No. 162	No. 180	No. 202	No. 207	一括	No. 1414	No. 1903
採取位置	S110内	意の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	土器の中	
時期	古墳中期～後期		古墳中期		古墳後期		古墳前期								
モモ	核 (完形)											6			
	核 (動物食痕)											3 (3)			
	核 (半割)				(1)							(7)			
	核 (破片)				(1)							(2)			
	炭化核														
スモモ	核				(1)										
ケヤキ	炭化果実	2 (4)													
オニグルミ	核 (半割)											(1)			
	核 (打撃痕)											(1)			
	核 (破片)											(3)			
ヒルムシロ属	核									1					
イネ	炭化種子	1 (3)	1										(2)	1	(1)
キクマン属	種子								(2)						
ダイズ	炭化種子										1				
ダイズ属	炭化種子										(1)				
ササゲ属アズキ亜属	炭化種子					(1)	(1)								
アサ	核				(1)										
カナムグラ	核				7 (33)	(4)			2 (6)	1	1 (1)				
スイカ	種子							2							
メロン仲間	種子				(1)					(1)					
ヒョウタン仲間	種子				4 (2)										
	炭化種子				1										
ヤナギタデ	果実								1						
	炭化果実										1				
ウナギツカミ	炭化果実								1						
オナモミ	総苞				10 (2)				1			1			
	炭化総苞			(2)	1										
ヤブジラミ	総苞				7 (5)	2			2						
不明A	炭化種実				1										
同定不能	炭化種実								(1)						
不明	炭化芽	1													

SI5：少量のイネが得られた。

SI6：イネがわずかに得られた。

SI7a：イネとダイズ属、アズキ亜属がわずかに得られた。

表5 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (5) (括弧内は破片数)

整理番号	種53	種54	種55	種56	種57	種58	種59	種60	種61	種62	種63	
遺構名	SD17	SK25	SK31	SK47	SX3	SY2	SY3	SY4	SY8	SY10	IG646	
採取No.	一括	一括	No. 4	No. 2	一括	一括	一括	一括	一括	一括	No. 646	
採取位置	-	SI10内	SI9内、土器の中	SI20内、壘の中	焼土1内	-	SI22内	SI11内	SI27内	SI36内	川底炭	
分類群	時期	古墳前期	古墳前期	古墳前期～中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期	古墳中期～後期	古墳中期～後期	古墳中期～後期	古墳前期以前
ブドウ	種子						(16)					
モモ	炭化核	1										
クリ	炭化果実		(1)									
イネ	炭化種子		1 (2)	1	1	(1)	2 (8)	1 (1)		1	1	
メロン仲間	炭化種子							(8)				
不明A	炭化種実							1				
同定不能	炭化種実											(1)

SI8：モモがわずかに得られた。

SI9：イネが少量とオナモミがわずかに得られた。

SI10：イネが多く、ケヤキとダイズ属が少量、ブドウ属 A とモモ、ウルシ属-ヌルデ、ムクロジ、ヒエ属、ダイズ属、ハギ属、エンドウ属、スマレ属、ヤナギタデ、シソ属がわずかに得られた。

SI11：イネが少量、ケヤキとダイズ属がわずかに得られた。

SI13：イネが少量とコムギがわずかに得られた。

SI14：イネがわずかに得られた。

SI16：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI17：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

SI21：モモがわずかに得られた。

SI22：少量のイネとダイズ属が得られた。

SI24：少量のイネが得られた。

SI25：イネとアズキ亜属がわずかに得られた。

SI27：イネが少量、ブドウとケヤキがわずかに得られた。

SI28：イネがわずかに得られた。

SI38：ブドウとイネ、アズキ亜属がわずかに得られた。

SI39：イネがわずかに得られた。

SI40：イネが少量、ブドウとオニグルミ、エンドウ属がわずかに得られた。

SI43：同定可能な炭化種実は得られなかった。

Pit140：イネがわずかに得られた。

Pit180：ダイズがわずかに得られた。

Pit186：イネがわずかに得られた。

Pit324：イネがわずかに得られた。

SD1：カナムグラがやや多く、モモとオナモミ、ヤブジラミが少量、スモモとオニグルミ、ヒルムシロ属、キケマン属、ダイズ、ダイズ属、アズキ亜属、アサ、スイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、ヤナギタデ、ウナギツカミ、不明 A がわずかに得られた。

SD17：モモとイネがわずかに得られた。

SK25：イネがわずかに得られた。

SK31：クリとイネがわずかに得られた。

SK47：イネがわずかに得られた。

SX3：イネがわずかに得られた。

SY2：イネがわずかに得られた。

SY3：ブドウが少量とイネがわずかに得られた。

SY4：メロン仲間と不明 A がわずかに得られた。

SY8：イネがわずかに得られた。

SY10：イネがわずかに得られた。

IG646：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) ブドウ属 A *Vitis* sp. A 炭化種子 ブドウ科

上面観は楕円形、側面観は基部が尖る倒卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に1本の縦筋が走り、その両側に細長く深い溝孔が2つある。種皮は薄く硬い。長さ3.6mm、幅2.5mm、厚さ2.2mm。ヤマブドウ以外の野生ブドウ属である。

(2) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に1本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が2つある。種皮は薄く硬い。長さ6.4mm、幅4.4mm、厚さ2.8mm。基部が太く円柱状に突出し、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。炭化核は、表面の一部が炭化していた。完形の核の大きさは、長さ23.4mm、幅20.5mm、厚さ16.1mm、動物食痕のある個体は、長さ24.5mm、残存幅17.5mm、厚さ15.2mm、半割の個体は、長さ21.0mm、幅19.0mm、残存厚8.1mm、炭化核は、残存長17.8mm、幅19.2mm、厚さ13.5mm。SD1 から出土した10点のモモ核の大きさを表6に示した。

表6 モモ核の大きさ (単位: mm)

番号	長さ	幅	厚さ	形態
SD1、種49	23.4	20.5	16.1	完形
	23.8	19.6	15.0	完形
	23.2	18.1	13.9	完形
	25.3	21.5	16.2	完形
	24.0	19.2	14.1	完形
	20.4	19.0	14.9	完形
	24.5	(17.5)	15.2	動物食痕
	(20.5)	20.0	16.7	動物食痕
	19.1	19.2	(6.7)	半割
	21.0	19.0	(8.1)	半割
最小	19.1	18.1	13.9	
最大	25.3	21.5	16.7	
平均	22.7	19.6	15.3	
標準偏差	2.1	1.0	1.0	

括弧は破片値を示す

(4) スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。残存高13.9mm、残存幅7.2mm。

(5) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕があるが、残存していない。果皮内面には、いわゆる渋皮が厚く付着する。残存高2.3mm、残存幅3.4mm。

(6) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核・炭化核クルミ科

黄褐色で、側面観は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の

縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。内部は二室に分かれる。半割の個体は残存高 27.3mm、幅 23.8mm、残存厚 11.9mm、打撃痕のある個体は高さ 32.7mm、幅 26.3mm、残存厚 13.7mm。

(7) ウルシ属—ヌルデ *Toxicodendron* spp. - *Rhus javanica* L. 炭化内果皮 ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、片方がやや膨れる。ざらついた質感がある。表面および断面構造の詳細な検討が行えなかったため、実体顕微鏡下でのウルシ属—ヌルデの同定に留めた。長さ 2.9mm、幅 3.5mm、厚さ 2.3mm。

(8) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. 炭化種子 ムクロジ科

球形。表面は平滑で木質。基部は残存しないが、平らでやや凹み、果実着痕が縦方向の溝となってみられる。残存長 10.4mm、残存幅 11.0mm、残存厚 9.5mm。

(9) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子 (穎果) イネ科

細長い円形。胚は幅が広いうちわ型で、長さは全長の 2/3 程度と長い。内穎は膨らまない。種子の大きさは、長さ 1.8mm、幅 1.5mm。

(10) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.0mm、幅 2.5mm (図版 1-14) と長さ 4.8mm、幅 2.8mm (図版 1-15)。

(11) コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい形状である。断面形状は腹面側が窪み、背面側が

表7 ダイズ属炭化種子の大きさ

番号	長さ	幅	厚さ
SI7a、種6	2.9	2.4	1.6
SI10、種14	3.3	2.5	2.0
SI11、種16	3.5	2.2	1.9
SI22、種23	4.2	2.9	2.3
	3.7	2.7	1.9
最小	2.9	2.2	1.6
最大	4.2	2.9	2.3
平均	3.5	2.5	1.9
標準偏差	0.5	0.3	0.3

(単位: mm)

円形となる。またコムギの場合、側面観で最も幅の広い部分が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは、一般的な呼称で記載した。残存長 3.1mm、幅 2.9mm、厚さ 2.3mm。

(12) ダイズ *Glycine max* (L.) Merr. subsp. *max* 炭化種子 マメ科

変形しているが、上面観は楕円形、側面観は片側の側面が窪む楕円形。臍の長さは全体の 2/3 未満で、長楕円形と考えられるが、痕跡のみが残る。長さ 11.2mm、幅 8.4mm、厚さ 6.0mm (図版 2-17)、長さ 11.3mm、幅 6.7mm、厚さ 5.7mm (図版 2-18)。小畑 (2008) に示された現生種と比較すると、栽培種の大きさに近い。

(13) ダイズ属 *Glycine* spp. 炭化種子 マメ科

変形が著しいが、本来の上面観は楕円形、側面観は長楕円形か。へそは側面のほぼ中央にあり、長楕円形で、全長の 1/3 未満、片側に寄る。長さ 3.3mm、幅 2.5mm、厚さ 2.0mm。それ例外のダイズ属炭化種子の大きさを表 7 に示す。

(14) エンドウ属 *Pisum* spp. 炭化種子 マメ科

球形に近い広楕円体。臍側はやや扁平。表面は平滑で、にぶい光沢がある。側面の全体に長楕円形

の臍がある。臍の大きさは、全長の3/4程度。臍の中央には縦溝がある。長さ2.1mm、幅2.0mm、厚さ2.0mm。

(15) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna* subgenus *Ceratotropis* spp. 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。長さ4.6mm、残存幅2.5mm、厚さ3.6mm。

(16) アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で、側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。完形ならば表面には脈状の模様がある。長さ4.0mm、幅3.2mm。

(17) スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ10.6mm、残存幅5.5mm。

(18) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子・炭化種子 ウリ科

淡褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1~8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。長さ8.0mm、幅4.0mm。SD1から産出した種子の大きさは、長さ7.8mm、幅3.9mmで、大きさで分類するとマクワウリ・シロウリ型であった。

(19) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子・炭化種子 ウリ科

やや淡黄褐色~褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象。先端はW字状で、浅く広い溝2本が基部から先端まで走る。壁はややスポンジ質。長さ9.8mm、幅5.1mm。

(20) シソ属 *Perilla* spp. 炭化果実 シソ科

いびつな球形。下端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.3mm、幅1.2mm。

(21) 不明A Unknown A 炭化種実

上面観は楕円形、側面観は狭倒卵形。状態が悪く、へそなどの特徴は見えなかった。長さ5.3mm、幅2.6mm。

#### 4. 考察

古墳時代の遺構などから出土した炭化種実を検討した結果、栽培植物のモモとスモモ、イネ、コムギ、エンドウ属、アサ、ダイズ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、スイカが得られた。このうち、エンドウ属とスイカについては古墳時代以前の種子の確実な出土例がない(石田ほか, 2016)。ブドウは栽培種であるが、生の種実が残らない遺構から生の種実が出土しているため、後世からの混入の可能性が高いため、除外した。また、栽培植物の組成には時期による顕著な差はみられなかった。メロン仲間は、藤下(1984)の分類でいうマクワウリ・シロウリ型の大きさの種子であった。多産したイネは、種子のみが得られた。また、このほかに食用可能な種実として、ブドウ属Aとクリ、オニグルミ、ムクロジが見出された。ムクロジは食用のほか、石鹼などにも利用可能な種実である。オニグルミの核は、頂部などに打撃痕がみられる個体も確認された。核が割られて中身の子葉が取り出された可能性

がある。ウルシ属-ヌルデとダイズ属、アズキ亜属には、栽培種と野生種の両方が含まれるが、形態からは両者の区別ができなかった。

食用などに利用できないケヤキは、竪穴住居の周辺に生育していて、果実が遺構内に堆積したと考えられる。その他の樹木は、食用にもなる有用樹であり、遺跡周辺から採取されて持ち込まれた可能性も考慮すると、周辺にはほとんど林分がなかったと考えられる。

草本植物では、乾いた草地や荒地、道端に生育する種類が多かった。これらのうち、カナムグラやキケマン属などは畑地にも生育する種類であるため、上記の栽培植物を栽培する畑が存在した可能性もある。ヒエ属は、形態から判断して、野生種に近いと思われる。

回収された種実のうち、多産した種実のほとんどは、食用や他の用途に利用可能な種実であった。遺構内には遺物などが廃棄されており、これらに混ざって食用や他の用途に利用された後の種実も廃棄されたと考えられる。

モモ核については、山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代では比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。また、鎌倉期では大きさの変異幅が大きく、江戸時代後期になると大型になり、平均核長2.69cm、最大で3.8cm程度の核がみられるという。今回の古墳時代後期のSD1出土のモモ核は、長さ平均 $2.27 \pm 2.1$ cm、幅平均 $1.96 \pm 0.10$ cmで、縦長の個体が多かった。

以下、時期別に検討する。

#### [古墳時代前期以前]

遺構外出土遺物のIG646からは、同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

#### [古墳時代前期]

古墳時代前期では、竪穴住居跡4棟、Pit1基、溝1条、土坑1基の種実を検討した。これらの遺構のうち、竪穴住居跡1棟を除くすべての遺構からイネが得られた。多種類の炭化種実が得られたSI10からは、栽培植物としてイネとモモ、エンドウ属が、栽培種の可能性がある植物としてウルシ属-ヌルデとダイズ属、野生種の可能性があるブドウ属Aが得られた。食用にならないハギ属やスミレ属、ヤナギタデなどは、竪穴住居の屋根や周辺に生育していたものが、住居の焼失に伴って炭化し、堆積した可能性がある。また、SI10とSI40の2棟から得られたエンドウ属については、これまでに古墳時代以前の確実な出土例がないため、時期の確認が必要である。

#### [古墳時代前期～中期]

古墳時代前期～中期では、竪穴住居跡1棟、Pit1基、土坑1基の種実を検討した。いずれの遺構も炭化種実の含有量はわずかであったが、栽培植物のモモとダイズ、イネ、食用可能なクリが得られた。

#### [古墳時代中期]

古墳時代中期では、竪穴住居跡9棟、Pit1基、性格不明遺構1基、焼土2基の種実を検討した。これらの遺構のうち、竪穴住居跡3棟からは大型植物遺体は得られなかった。この竪穴住居跡3棟以外の遺構すべてからイネが得られた。また、イネのほかには、栽培植物のコムギ、栽培植物の可能性のあるダイズ属とアズキ亜属が得られた。

[古墳時代中期～後期]

古墳時代中期～後期では、竪穴住居跡7棟、焼土3基の種実を検討した。竪穴住居跡7棟のうちの1棟からは大型植物遺体が得られなかった。イネは5棟の竪穴住居跡から得られた。この時期の遺構からは、ほかに栽培植物のメロン仲間(マクワウリ・シロウリ型)、栽培植物の可能性のあるダイズ属などが得られた。

[古墳時代後期]

古墳時代後期では、竪穴住居跡3棟、溝1条の種実を検討した。イネは、竪穴住居跡3棟すべてから得られた。そのほかには、栽培植物の可能性のあるアズキ亜属が得られた。溝であるSD1からは、栽培植物のモモとスモモ、アサ、ダイズ、スイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間、栽培植物の可能性のあるダイズ属とアズキ亜属が得られた。また、乾いた草地に生育するカナムグラやヤブジラミ、オナモミが目立ち、古墳時代後期にはSD1の周辺は開けた環境であったと推定される。

今回、回収された種実はほとんどが食用などとして利用可能な種実であり、栽培植物が多数を占めた。古墳時代における塩部遺跡の遺構周辺は、食料の栽培や利用のためにかなり人の手が加わった環境であったと推定される。

引用文献

藤下典之(1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」: 638-654, 同朋舎出版.

石田糸絵・工藤雄一郎・百原 新(2016) 日本の遺跡出土大型植物遺体データベース. 植生史研究, 24, 18-24.

新津 健(1999) 遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—. 山梨考古学論集 IV, 361-374.

小畑弘己(2008) マメ科種子同定法. 小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」: 225-252, 熊本大学.

米倉浩司・梶田 忠(2003-) BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



スケール 1, 2, 8, 11, 13-16: 1mm, 3-10, 12: 5mm

図版1 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (1)

1. ブドウ属A炭化種子 (SI10、種14)、2. ブドウ種子 (SI38、種32)、3. モモ核完形 (SD1、種49)、4. モモ核動物食痕 (SD1、種49)、5. モモ核半割 (SD1、種49)、6. モモ炭化核 (SI8、種7)、7. スモモ核 (SD1、種43)、8. クリ炭化果実 (SK31、種55)、9. オニグルミ核半割 (SD1、種49)、10. オニグルミ核打撃痕 (SD1、種49)、11. ウルシ属-ヌルデ炭化内果皮 (SI10、種11)、12. ムクロジ炭化種子 (SI10、種11)、13. ヒエ属炭化種子 (SI10、種12)、14. イネ炭化種子 (SI10、種12)、15. イネ炭化種子 (SK31、種55、PLD-37070)、16. コムギ炭化種子 (SI13、種17)





スケール 17a-b, 18, 24, 26:5mm, 19a-b, 20-23, 25, 27, 28:1mm, 17c, 19cは任意

図版2 塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析 (2)

17. ダイズ炭化種子 (Pit180、種38)、18. ダイズ炭化種子 (SD1、種48)、19. ダイズ属炭化種子 (SI10、種14)、20. エンドウ属炭化種子 (SI40、種35)、21. エンドウ属炭化種子 (SI10、種12)、22. ササゲ属アズキ亜属炭化種子 (SI38、種31)、23. アサ核 (SD1、種43)、24. スイカ種子 (SD1、種45)、25. メロン仲間種子 (SD1、種47)、26. ヒョウタン仲間種子 (SD1、種43)、27. シソ属炭化果実 (SI10、種12)、28. 不明A炭化種実 (SD1、種43)

### 1. はじめに

甲府市塩部に所在する塩部遺跡は、甲府市中央部を流れる相川と荒川の両河川に挟まれた場所に立地する、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡である。ここでは、古墳時代後期の土器や木器が大量に出土した河川跡から得られた大型植物遺体の同定結果を報告し、食用などに利用された植物、遺構周辺における栽培状況や植生について検討する。なお、同一試料を用いて花粉分析とプラント・オパール分析も行われている (別項参照)。

### 2. 試料と方法

試料は、地山・自然堆積層と河川跡のSD1から採取された堆積物試料、計10試料である (堆積物の詳細については花粉分析とプラント・オパール分析の項目を参照、試料採取位置は第90図を参照)。

水洗は、パレオ・ラボにて300ccの堆積物を計量し、0.5mm目の篩を用いて行った。大型植物遺体の抽出および同定、計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその数を記号で表記した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のブドウ属 A 種子とキイチゴ属核、クワ属核、サンショウ種子、マタタビ属種子、ニワトコ核の 6 分類群、草本植物ではヘラオモダカ果実とオモダカ属果実・種子、ツユクサ種子、コナギ種子、ウキヤガラ炭化果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属 A 果実、スゲ属 B 果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実・炭化果実、ヒメクグ果実、ハリイ属果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果、ヒエ属炭化種子 (穎果)、イネ籾殻・炭化籾殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果)、エノコログサ属有ふ果、イネ科 A 炭化種子 (穎果)、キケマン属種子、クサネム果実、マメ科 A 炭化種子、オランダイチゴ属ーヘビイチゴ属果実、カナムグラ核、メロン仲間種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、オトギリソウ属種子、ヤナギタデ果実、イヌタデ果実、イシミカワ果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、ヤエムグラ属種子、ナス属種子・炭化種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、シソ属果実、ニガクサ属果実・炭化果実、メナモミ属果実、オナモミ炭化総苞、キク科 A 果実、キク科 B 果実、セリ果実、ヤブジラミ総苞の 44 分類群の、計 50 分類群が見いだされた。このほかに、残存状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、炭化した子嚢菌や昆虫遺体が得られたが、同定の対象外とした (表 1)。

以下、産出した主な種実について、層位別に記載する (同定不能炭化種実は除く)。

土 1 : 同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

土 2 : ニワトコがわずかに得られた。

土 3 : アカザ属がわずかに得られた。

土 4 : アカザ属が少量、スゲ属 A とスゲ属 B、カヤツリグサ属、カナムグラ、オトギリソウ属、ウシ

表1 塩部遺跡の河川跡 (SD1) における大型植物遺体分析 (括弧内は破片数)

分類群	番号	採取位置	±1	±2	±3	±4	±5	±6	±7	±8	±9	±10		
			SD1						地山・自然堆積層					
			層名	IIIb	4	6	7	8	9	11	IVd	IVe	9b	
			時期	古墳時代	古墳時代後期									
水洗量 (cc)	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300			
ブドウ属A	種子					(1)						(1)		
キイチゴ属	核				(1)	(1)								
クワ属	核								2					
サンショウ	種子								(1)			(1)		
マタタビ属	種子				(1)									
ニワトコ	核		1											
ヘラオモダカ	果実				1			1	1					
オモダカ属	果実				1									
	種子				1	1	1							
ツユクサ	種子								1					
コナギ	種子				1									
ウキヤガラ	炭化果実				1									
スゲ属アゼスゲ節	果実				1									
スゲ属A	果実				5 (3)	6	3	1				1		
スゲ属B	果実				4		1	3						
カワラスガナ	果実							(1)	7					
カヤツリグサ属	果実				7	1	1	4				1		
	炭化果実					1								
ヒメクグ	果実				2									
ハリイ属	果実								1					
ホタルイ属	果実				1				1			3		
メヒシバ属	有ふ果													
ヒエ属	炭化種子				1									
イネ	籾殻					(1)	(2)	(++)				(3)		
	炭化籾殻							(+)						
	小穂軸								10			1		
	炭化小穂軸						3	3	4					
	炭化種子							(2)						
	有ふ果										1			
エノコログサ属	炭化種子							1						
イネ科A	種子							7 (5)	9 (2)	26 (4)				
キケマン属	果実									(6)				
クサネム	炭化種子				1									
マメ科A	果実				1									
オランダイチゴ属-ヘビイチゴ属	果実				1				1			1 (1)		
カナムグラ	核				(5)	(25)	6 (30)	(22)				(5)		
メロン仲間	種子								2 (5)					
カタバミ属	種子					1	1	3						
エノキグサ属	種子								(2)					
オトギリソウ属	種子				5				1					
ヤナギタデ	果実							1	(1)					
イヌタデ	果実						6 (34)	6 (16)	2 (1)					
イシミカワ	果実								1 (2)					
ウシハコベ	種子				7	4	10 (4)	11				1		
アカザ属	種子			3 (4)	17 (13)	42 (38)	60 (1)	46 (2)			1 (2)	1 (2)		
ヤエムグラ属	種子						1							
ナス属	種子				2 (2)	(2)	2 (2)	2						
	炭化種子				1									
トウバナ属	果実											1		
メハジキ属	果実				5 (2)	35 (9)	14	2						
シソ属	果実				(5)	(1)	1	1 (2)				(3)		
ニガクサ属	果実											4		
	炭化果実				2									
メナモミ属	果実					1			(3)			1 (3)		
オナモミ	炭化総苞				(2)									
キク科A	果実					1	3	3						
キク科B	果実							1						
セリ	果実													
ヤブジラミ	総苞				3	(7)	2 (17)	2 (9)						
同定不能	炭化種実	(2)			(4)					(1)	(4)	(3)		
子囊菌	炭化子囊				1	2								
不明	昆虫遺体	(+)	(+)	(+)	(++)	(+)	(++)	(++)	(++)		(+)	(++)		

+ : 1-9, ++ : 10-49

ハコベ、ナス属、メハジキ属、シソ属、セリがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土5 : アカザ属がやや多く、キケマン属とカナムグラ、イヌタデ、メハジキ属が少量、スゲ属A、イネ、ウシハコベ、ヤブジラミがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土6 : アカザ属がやや多く、キケマン属とカナムグラ、イヌタデ、ウシハコベ、メハジキ属、ヤブジラミが少量、スゲ属Aとイネ、ナス属、キク科Aがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土7 : イネとキケマン属、カナムグラ、ウシハコベ、アカザ属、ヤブジラミが少量、スゲ属Bとカワラスガナ、カヤツリグサ属、クサネム、メロン仲間、カタバミ属、イヌタデ、イシミカワ、シソ属、メナモミ属、キク科Aがわずかに得られた。それ以外の分類群は2点以下の産出数であった。

土8：同定可能な大型植物遺体は得られなかった。

土9：エノコログサ属とアカザ属がわずかに得られた。

土10：ブドウ属Aとサンショウ、スゲ属アゼスゲ節、カヤツリグサ属、ホタルイ属、イネ、オランダイチゴ属ーヘビイチゴ属、カナムグラ、ウシハコベ、アカザ属、トウバナ属、シソ属、ニガクサ属、メナモミ属がわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APGⅢリストの順とした。なお、ブドウ属Aの記載は、集落内の遺構から産出したブドウ属Aに対応する。

(1) クワ属 *Morus* spp. 核 クワ科

赤褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚く、やや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ 2.2mm、幅 1.8mm。

(2) サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は楕円形ないし倒卵形。縦方向に中央部まで伸びる稜線があり、短い臍が斜め下を向く。網目状隆線は、低く細かい。種皮は厚く硬い。残存長 2.7mm、残存幅 2.6mm。

(3) ニワトコ *Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) H. Hara var. *sieboldiana* Miq. 核 レンブクソウ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形で基部がやや尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。波状の凹凸が横方向に走る。残存長 2.3mm、幅 1.4mm。

(4) コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm. f.) C. Presl ex Kunth 種子 ミズアオイ科

明赤黄色で、上面観は円形、側面観は楕円形。表面には縦方向の低い隆起があり、隆起の間には横方向の線が密に入る。長さ 1.0mm、幅 0.6mm。

(5) スゲ属A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ属

黄褐色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒狭卵形。表面には非常に微細な網目状隆線がある。長さ 1.3mm、幅 0.9mm。

(6) スゲ属B *Carex* spp. B 果実 カヤツリグサ属

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形。側面観は楕円形。表面に微細な網目状隆線がある。長さ 1.5mm、幅 1.0mm。

(7) カヤツリグサ属 *Cyperus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は狭倒卵形。頂部と基部が突出する。表面には微細な網目状の文様がある。やや光沢がある。長さ 1.1mm、幅 0.7mm。

(8) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子（穎果） イネ科

細長い円形。胚は幅が広いうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。内穎は膨らまない。種子の大きさは、長さ 1.8mm、幅 1.3mm。

(9) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻・炭化籾殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子（穎果） イネ科

籾殻は橙褐色で、側面観は長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長 1.8mm、残存幅 0.8mm。小穂軸は残存長 1.7mm、残存幅 1.1mm。

炭化小穂軸は残存長 1.5mm、残存幅 0.9mm。種子（穎果）は破片であるが、本来の種子の形態は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚があった凹みがあり、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。残存長 2.4mm、幅 2.7mm。

(10) エノコログサ属 *Setaria* sp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は紡錘形。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.6mm、幅 1mm。

(11) イネ科 A Poaceae sp. A 炭化種子 イネ科

長楕円形で、上端はやや扁平。下端に全長の 1/3 程度の長さのうちわ型の胚がある。栽培種ではない。長さ 1.9mm、幅 0.7mm。

(12) マメ科 A Fabaceae sp. A 炭化種子 マメ科

変形しており状態が悪いが、上面観は楕円形、側面観はいびつな楕円形。臍は小さく楕円形で、種瘤がみられる。臍は、側面の 1/3 程度の長さで中央部に付くと推定される。表面は平滑。長さ 2.5mm、幅 2.3mm、厚さ 1.7mm。

(13) カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 核 アサ科

灰黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。一端に黄白色で心形の着点がある。壁は薄く、やや硬い。長さ 4.4mm、幅 4.2mm、厚さ 3.2mm。

(14) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下 (1984) は、種子の大きさからおおむね次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1~8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。今回、塩部遺跡の SD1 から出土したメロン仲間の種子は、長さ 8.0mm、幅 3.9mm で、マクワウリ・シロウリ型である。

(15) ナス属 *Solanum* spp. 種子 ナス科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には畝状突起の細かい網目状隆線がある。着点の一端がやや突出する。ここでいうナス属とは、ナス以外のナス属である。長さ 1.8mm、幅 2.1mm。

(16) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

黒褐色で、いびつな球形。下端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.3mm、幅 1.2mm。

#### 4. 考察

河川跡である SD1 が形成される以前の堆積物（土 10~8）については、土 10 以外は大型植物遺体がほとんど残存していなかったため、詳細は不明である。土 10~8 でわずかに得られた大型植物遺体の種類をみると、河川跡の堆積物である土 7 以上でみられる草本植物主体の組成とほぼ同様のため、分析を行った堆積層の下位層から上位層にかけては植生の変化がほとんどなかったと考えられる。土 10 ではホタルイ属といった抽水植物もみられたが、乾いた草地に生育する分類群が多かった。花粉分析の結果でも、下位層から上位層にかけて花粉組成の顕著な変化は確認されておらず、大型植物遺体の結果と整合的であった。なお、栽培植物としては、イネがわずかに得られたが、水田雑草など、大型

植物遺体から水田の存在を示す草本植物の組成はみられなかった。

SD1の堆積物(土7~2)では、土7~4にかけて多くの大型植物遺体が得られた。上位層の試料である土3と土2には大型植物遺体がほとんど含まれていないため、大型植物遺体が堆積しなかった可能性や、水位が下がって乾燥状態になるなどしたために生の大型植物遺体が遺存しにくい埋蔵環境であった可能性などが考えられる。SD1から得られた大型植物遺体は、全般的に草本植物が主体の組成である。木本植物では、ブドウ属Aやキイチゴ属、クワ属、サンショウ、マタタビ属、ニワトコといった食用になるしょう果類のみが産出しており、河川跡周辺は人為的な関与が高い植生であった可能性がある。水生植物では抽水植物や沈水植物が多く、ヘラオモダカやコナギといった水田にも生える雑草も産出するため、ごく近くに水田が存在した可能性が高い。水田や流路の淀んだ場所には抽水植物のホタルイ属や湿生~抽水~沈水植物のハリイ属など、湿地にはスゲ属アゼスゲ節やカワラスガナ、ヒメクグなどが生育していたと考えられる。イネは、籾殻や種子(いわゆるコメ)が土7~5にかけて産出している。また、土7では栽培植物であるメロン仲間が産出している。イヌタデやウシハコベといった畑地雑草(笠原, 1971)にもなる乾いた草地に生育する草本植物が多産しており、河川付近には畑も存在した可能性がある。土4から産出したマメ科の詳細な同定はできなかったが、炭化しており、利用された可能性がある。

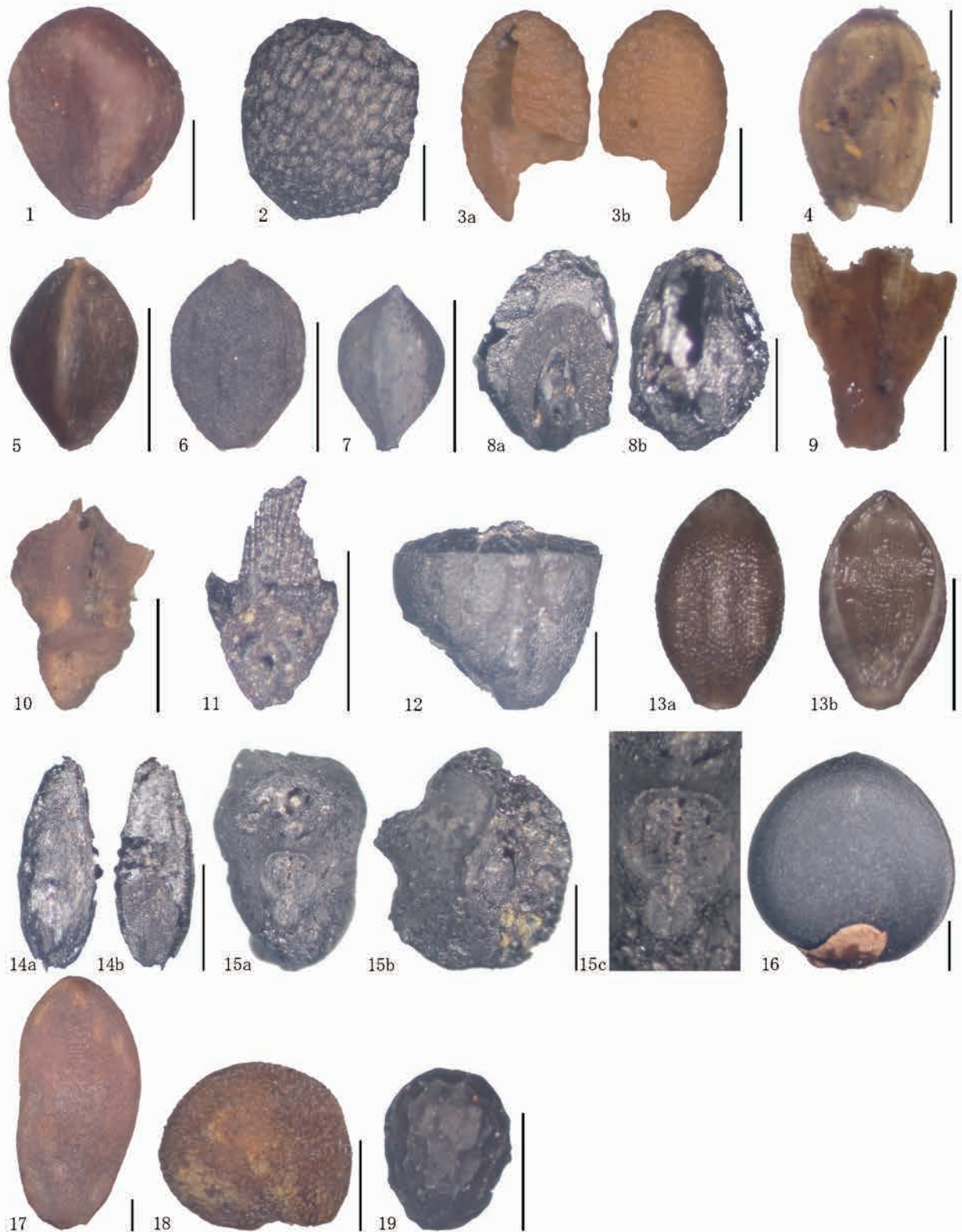
土1からは、生の大型植物遺体は全く検出されなかった。古墳時代の遺物包含層の堆積時期には、大型植物遺体が残りにくい乾燥した環境であったと推定される。

#### 引用文献

笠原安夫(1971)山野草、人里植物、帰化植物、雑草および作物の種類群と相互関係. 雑草研究, 1971-12, 23-27.

藤下典之(1984)出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」: 638-654, 同朋舎出版.

米倉浩司・梶田 忠 (2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 塩部遺跡の河川跡 (SD1) における大型植物遺体分析  
 スケール 1-15a-b, 16, 18, 19:1mm, 17:5mm, 15cは任意

1. クワ属核 (SD1、11層、土7)、2. サンショウ種子 (SD1、11層、土7)、3. ニワトコ核 (SD1、4層、土2)、4. コナギ種子 (SD1、7層、土4)、5. スゲ属A果実 (SD1、7層、土4)、6. スゲ属B果実 (SD1、9層、土6)、7. カヤツリグサ属果実 (SD1、7層、土4)、8. ヒエ属炭化種子 (SD1、7層、土4)、9. イネ籾殻 (SD1、11層、土7)、10. イネ小穂軸 (SD1、11層、土7)、11. イネ炭化小穂軸 (SD1、11層、土7)、12. イネ炭化種子 (SD1、9層、土6)、13. エノコログサ属有ふ果 (地山・自然堆積層、IVe層、土9)、14. イネ科A炭化種子 (SD1、9層、土6)、15. マメ科A炭化種子 (SD1、7層、土4)、16. カナムグラ核 (SD1、9層、土6)、17. メロン仲間種子 (SD1、11層、土7)、18. ナス属種子 (SD1、7層、土4)、19. シソ属果実 (SD1、9層、土6)

1. はじめに

甲府市に所在する塩部遺跡において、集落内遺構の土壌水洗で得られた炭化材と生材、および住居跡出土の炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、土壌水洗で得られた試料と、現地取り上げされた試料である。SI7a と SI7b、SI10 の炭化材の一部は、現地取り上げされた炭化材である。残りの住居跡や土坑、溝、焼土、不明遺構や、遺構外では、土壌の水洗選別が行われ、炭化材と生材が抽出された。なお、土壌の水洗選別は昭和測量株式会社で行われた。遺構の時期は、いずれも古墳時代前期～後期と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台上に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹ではモミ属とマツ属複維管束亜属、ヒノキ、イヌガヤ、広葉樹ではクスノキ科、モモ、サクラ属、ケヤキ、エノキ属、クワ属、クリ、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、オニグルミ、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、カバノキ属、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）、シラキ、ヤナギ属、ムクロジ、キハダ、ミズキ、タイミンタチバナ、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）、トネリコ属トネリコ節（以下、トネリコ節）、ムラサキシキブ属、単子葉類のイネ科の、27 分類群が確認された。そのほかに、状態が悪いために針葉樹、広葉樹、樹皮までの同定に留めた試料や、同定不能の試料、微細破片のため同定不可の試料もあった。樹種同定結果を表 1、結果の一覧を付表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、顕微鏡写真を図版に示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c (木 45)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織で数珠状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 1~4 個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロ

表1 樹種同定結果

樹種	計
モミ属	1
マツ属複維管束亜属	3
ヒノキ	17
イヌガヤ	2
針葉樹	1
クスノキ科	2
モモ	1
サクラ属	4
ケヤキ	12
エノキ属	5
エノキ属?	1
クワ属	3
クワ属?	1
クリ	1
コナラ属クヌギ節	44
コナラ属コナラ節	24
コナラ属コナラ節?	1
オニグルミ	1
ハンノキ属ハンノキ亜属	2
カバノキ属	3
クマシデ属イヌシデ節	1
シラキ	1
ヤナギ属	2
ムクロジ	1
キハダ	1
ミズキ	1
タイミンタチバナ	1
トネリコ属シオジ節	1
トネリコ属トネリコ節	1
ムラサキシキブ属	1
広葉樹	9
樹皮	1
イネ科	14
同定不能	2
総計	166



モミヤシラベ、トドマツなど約5種がある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 図版1 2a-2c (木61)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、靱性は大である。

(3) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 3a-3c (木107-2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(4) イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K. Koch var. *harringtonia* イヌガヤ科 図版 4a-4c (木69-2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。仮道管は薄壁で、晩材部の幅は非常に狭い。樹脂細胞は早材・晩材を通じて均等に分布する。放射組織は単列で2～5細胞高、分野壁孔はトウヒ型で、1分野に1～2個存在する。仮道管にらせん肥厚がある。

イヌガヤは岩手県以南の暖帯から温帯に生育する常緑の低木または小高木である。材は堅硬および緻密である。

(5) 針葉樹 Coniferous wood

仮道管と放射組織を有する針葉樹である。状態が悪く、これ以上の同定は困難であった。

(6) クスノキ科 Lauraceae 図版1 5a-5c (木3-1)

やや小型の道管が、単独ないし2～4個複合してまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～3列幅である。

クスノキ科は熱帯から温帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木である。ニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属など8属がある。

(7) モモ *Amygdalus persica* L. バラ科 図版1・2 6a-6c (木106-2)

半環孔性の散孔材で、年輪のはじめにやや大きな道管が1～3列程度並ぶ。晩材部では道管が単独で散在する。道管に着色物質を含むものがあり、穿孔は単一である。放射組織は異性で、1～7列幅である。

モモは温帯に分布する落葉高木である。材は重硬である。

(8) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版 7a-7c (木4-2)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に2～3個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～5列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属は、さらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモ

とバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は、比較的重硬および緻密だが、加工は容易である。

(9) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版2 8a-8c (木55)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3~5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や溪畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

(10) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版2 9a-9c (木3-2)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状~翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3~8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において、放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(11) クワ属 *Morus* クワ科 図版2 10a-10c (木44)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは数個複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は3~5列幅で、上下端の1~2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は亜熱帯から温帯に分布する落葉高木で、ケグワとマグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、韌性に富む。

(12) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版2・3 11a-11c (木95-3)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(13) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版3 12a-12c (木14)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

(14) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版3 13a-13c (木1)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(15) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. クルミ科 図版3 14a-14c (木 95-4)

やや大型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して散在し、晩材部で径を減ずる半環孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性で、1~4列幅である。

オニグルミは暖帯から温帯に分布する落葉高木で、川沿いなど湿気の多いところに生育する。材はやや軽軟で粘りがあるが、保存性は低い。

(16) ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 図版3 15a-15c (木 36)

小型の道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織は単列同性で、集合放射組織が存在する。

ハンノキ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ハンノキやヤマハンノキなど7種がある。材は全般に硬さおよび重さが中庸で、加工は容易である。

(17) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版3 16a-16c (木 10)

やや小型で丸い道管が、ほぼ単独でまばらに分布する散孔材である。道管の穿孔は10~20段程度の階段状である。放射組織はほぼ同性で、1~3列幅である。道管相互壁孔は交互状で極めて小さく、密に分布する。

カバノキ属は温帯から亜寒帯に分布する落葉高木もしくは低木で、カバノキやミズメなど11種がある。材は全般的にやや重厚で、切削および加工は中庸である。

(18) クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版4 17a-17c (木 95-7)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は晩材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同性で1~3列幅、集合放射組織がみられる。

イヌシデ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシデとイワシデ、アカシデがある。材は重硬で靱性が大きく、割裂しにくい。

(19) シラキ *Neoshirakia japonica* (Siebold et Zucc.) Esser トウダイグサ科 図版4 18a-18c (木 49)

径が中型でやや厚壁の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは線状で、道管の穿孔は単一である。放射組織はほぼ単列で、平伏細胞、方形細胞、直立細胞が混在する異性である。

シラキは暖帯から温帯下部に分布する落葉小高木で、日当たりの良い山腹に生育する。材はやや重硬であるが、切削加工は困難ではない。

(20) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版4 19a-19c (木 101-2)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケシヨウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種ほどがある。材は全般に軽軟で、強度は低いが靱性があり、切削加工は容易である。

(21) ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版4 20a-20c (木103)

大型でやや厚壁の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では小径管が数個放射方向に複合して散在する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小径管の内胞にはらせん肥厚がみられる。軸方向柔組織は周囲状～帯状となる。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性で、3～5列幅のややいびつな紡錘形である。

ムクロジは茨城県と新潟県以南の亜熱帯から暖帯に分布する落葉高木である。材はやや重硬から中庸程度である。

(22) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 図版4 21a-21c (木27-2)

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の小径管が集団をなして帯状～斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、1～6列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易であり、水湿に強い。

(23) ミズキ *Cornus controversa* Hemsl. ex Prain ミズキ科 図版4・5 22a-22c (木95-5)

小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は20段程度の階段状である。放射組織は縁辺部に方形もしくは直立細胞が2～4程度ある異性で、細胞幅は5列程度である。

ミズキは落葉中高木で、温帯亜から寒帯に広く分布する。材はやや硬いが、加工は比較的容易である。

(24) タイミンタチバナ *Myrsine seguinii* H. Lévl. ヤブコウジ科 図版5 23a-23c (木98)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は10列幅以上ある異性で、細胞高も非常に高い。

タイミンタチバナは千葉県以西の亜熱帯から暖帯に分布する、常緑の小高木である。沿海地に多く、常緑広葉樹林内によく生育する。材は耐朽性および保存性は高いが、反りや振れなどの狂いが生じやすい。

(25) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 図版5 24a-24c (木105-3)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小径管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1～3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

(26) トネリコ属トネリコ節 *Fraxinus* sect. *Ornus* モクセイ科 図版5 25a-25c (木69-4)

年輪のはじめに大型の道管が1列程度並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小径管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で1～3列幅である。

トネリコ節は温帯に分布する落葉高木で、トネリコやアオダモなど7種がある。材は中庸～やや重硬で、切削加工は容易、保存性は中庸である。

(27) ムラサキシキブ属 *Callicarpa* シソ科 図版 5 26a-26c (木 75)

小型の道管が、単独もしくは数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は随伴散在状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、1~4列幅である。

ムラサキシキブ属は熱帯から温帯にかけて分布する落葉または常緑の低木または小高木で、ヤブムラサキやムラサキシキブなど 11 種がある。

(28) 広葉樹 Broadleaf wood

道管と放射組織を有する広葉樹である。状態が悪く、これ以上の同定は困難であった。

(29) 樹皮 Bark

師細胞および師部放射組織からなる二次細胞および周皮で構成される樹皮である。樹皮は対象標本が少なく、同定には至っていない。

(30) イネ科 Poaceae 図版 27a (木 108)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

#### 4. 考察

遺構の性格別の樹種同定結果を表 2 に、住居跡出土炭化材の時期別の樹種同定結果を表 3 に、全試料の時期別の樹種同定結果を表 4 に示す。

住居跡と、住居跡内の Pit と焼土では、クヌギ節とコナラ節を中心とした落葉広葉樹が多くみられ、ほかにはヒノキやモミ属といった針葉樹と、イネ科草本が確認された。水洗選別で得られた炭化材は用途不明であるが、炉やカマド、焼土から出土した炭化材は燃料材、そのほかの試料は建築部材や器具材であった可能性が考えられる。SI7a と SI7b の現地取上の炭化材は、サイズと形状が不明の試料が多いが、大型であり、建築部材であったと推測される。また、SI10 ではイネ科の稈が束になって出土しており、屋根材や壁材であった可能性が考えられる。山梨県で確認されている古墳時代の住居跡出土の炭化材では、クヌギ節とコナラ節を中心とした落葉広葉樹が多用される傾向がある (伊東・山田編, 2012)。今回の分析結果も同様の傾向を示したが、住居跡出土の炭化材を時期別にみると、古墳時代前期にはややコナラ節が多く、古墳時代中期以降になるとクヌギ節が多くなる傾向が見られた (表 3 参照)。

住居跡以外の遺構の試料をみると、溝の試料はクヌギ節が 7 点でやや多く、イネ科が 5 点、ヒノキとコナラ節が各 3 点、ケヤキが 2 点、マツ属複維管束亜属とイヌガヤ、クスノキ科、サクラ属、クワ属?、ヤナギ属、トネリコ節、ムラサキシキブ属、樹皮が各 1 点であった。川底炭では、イヌガヤとケヤキ、クリ、オニグルミ、カバノキ属、イヌシデ節、ミズキが各 1 点確認された。不明遺構では、ヒノキとコナラ節? が各 1 点確認された。自然流路や遺構外では、ヒノキが 3 点、マツ属複維管束亜属とヤナギ属、ムクロジ、タイミンタチバナが各 1 点確認された。全体を時期別でみると、住居跡出土の炭化材でクヌギ節とコナラ節の時期差がみられるほかは、時期による樹種の利用傾向の違いは確認できなかった (表 4)。

なお、古墳時代後期の溝 (河川跡) SD1 で行われた花粉分析の結果によれば、遺跡周辺の丘陵地などにスギ林やナラ類からなる落葉樹林や、カシ類からなる照葉樹林など、さらにモミ属やツガ属が分

布していたと推測されており、河畔林を構成する分類群であるサワグルミ属-クルミ属やニレ属-ケヤキ属、トチノキ属なども確認されている（花粉分析の項参照）。溝や川底炭、自然流路などで確認された炭化材と木材でも、多様な広葉樹と針葉樹が確認されており、花粉分析の結果と矛盾しない。遺跡周辺に生育していた樹木が、燃料材もしくは加工材として利用されたと推測される。

引用・参考文献

平井信二（1996）木の大本科. 394p, 朝倉書店.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

表2 遺構の性格別の樹種同定結果

樹種／遺構の種別	住居跡	Pit (住居内含む)	土坑 (住居内含む)	焼土 (住居内含む)	溝	川底炭	不明 遺構	自然流路 ・遺構外	総計
モミ属	1								1
マツ属複雑管束亜属		1			1			1	3
ヒノキ	9		1		3		1	3	17
イヌガヤ					1	1			2
針葉樹								1	1
クスノキ科	1				1				2
モモ	1								1
サクラ属	3				1				4
ケヤキ	4	2	1	2	2	1			12
エノキ属	5								5
エノキ属?	1								1
クワ属	2		1						3
クワ属?					1				1
クリ						1			1
コナラ属クヌギ節	26	5	2	4	7				44
コナラ属コナラ節	18	3			3				24
コナラ属コナラ節?							1		1
オニグルミ						1			1
ハンノキ属ハンノキ亜属	2								2
カバノキ属	1			1		1			3
クマシデ属イヌシデ節						1			1
シラキ	1								1
ヤナギ属					1			1	2
ムクロジ								1	1
キハダ	1								1
ミズキ						1			1
タイミンタチバナ								1	1
トネリコ属シオジ節	1								1
トネリコ属トネリコ節					1				1
ムラサキシキブ属					1				1
広葉樹	7							2	9
樹皮					1				1
イネ科	8		1		5				14
同定不能	1	1							2
総計	93	12	6	7	29	7	2	10	166

表3 住居跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種/時期	古墳時代前期	古墳時代 前期～中期	古墳時代中期	古墳時代 中期～後期	古墳時代 後期	古墳時代	計
モミ属			1				1
マツ属複雑管束亜属			1				1
ヒノキ	5			5			10
クスノキ科			1				1
モモ	1						1
サクラ属	1			2			3
ケヤキ	1		4	3			8
エノキ属			5				5
エノキ属?	1						1
クワ属			3				3
コナラ属クヌギ節	4		18	10	3		35
コナラ属コナラ節	10		5	5		1	21
ハンノキ属ハンノキ亜属		1	1				2
カバノキ属	1			1			2
シラキ	1						1
キハダ				1			1
トネリコ属シオジ節	1						1
広葉樹	2		1	3	1		7
イネ科	7			2			9
同定不能				1		1	2
総計	35	1	40	33	4	2	115

表4 時期別の樹種同定結果

樹種/時期	古墳時代 前期以前	古墳時代 前期	古墳時代 前期～中期	古墳時代 中期	古墳時代 中期～後期	古墳時代 後期	古墳時代	平安時代 以前	古墳時代～ 平安時代	総計
モミ属				1						1
マツ属複雑管束亜属	1			2						3
ヒノキ		6		1	5	2			3	17
イヌガヤ	1					1				2
針葉樹								1		1
クスノキ科				1		1				2
モモ		1								1
サクラ属		2			2					4
ケヤキ	1	1	1	6	3					12
エノキ属				5						5
エノキ属?		1								1
クワ属				3						3
クワ属?						1				1
クリ	1									1
コナラ属クヌギ節		8		19	10	5	2			44
コナラ属コナラ節		12		5	5	1	1			24
コナラ属コナラ節?				1						1
オニグルミ	1									1
ハンノキ属ハンノキ亜属			1	1						2
カバノキ属	1	1			1					3
クマシデ属イヌシデ節	1									1
シラキ		1								1
ヤナギ属						1			1	2
ムクロジ									1	1
キハダ					1					1
ミズキ	1									1
タイミンタチバナ									1	1
トネリコ属シオジ節		1								1
トネリコ属トネリコ節						1				1
ムラサキシキブ属		1								1
広葉樹		2		1	3	1		1	1	9
樹皮						1				1
イネ科		7			2	5				14
同定不能					1		1			2
総計	8	44	2	46	33	20	4	2	7	166

付表1 樹種同定結果一覧 (1)

番号	遺構名	取り上げ	樹種	形状	残存径	残存年輪数	取上方法	時期	年代測定番号
木1	SI1	カマド一括	コナラ属コナラ節	丸木?	半径1.8cm	6	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木2	SI2	炉一括	-	微細破片	-	-	土壌水洗	古墳時代中期	
木3-1	SI4	炉一括	クスノキ科	破片	4.3cm	10	土壌水洗	古墳時代中期	
木3-2	SI4	炉一括	エノキ属	破片	1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木4-1	SI5	一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木4-2	SI5	一括	サクラ属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木5	SI5	No. 147	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木6	SI5	No. 148	ヒノキ	破片	1cm	10	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木7	SI5	No. 149	ヒノキ	破片	2cm	5	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木8	SI5	No. 150	ヒノキ	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木9	SI5	No. 151	コナラ属クスギ節	破片	1cm	4	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木10	SI6	炉一括	カバノキ属	破片	0.3cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木11	SI6	No. 56	-	微細破片	-	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木12-1	SI9	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代後期	
木12-2	SI9	カマド一括	広葉樹	破片	0.5cm	不明	土壌水洗	古墳時代後期	
木13-1	SI11	焼土一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	12	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木13-2	SI11	焼土一括	広葉樹	丸木?	直径0.2cm	1	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木13-3	SI11	焼土一括	ヒノキ	破片	0.3cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木14	SI13	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木15	SI14	No. 5	エノキ属	破片	1.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木16	SI14	No. 117	エノキ属	破片	2.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木17	SI14	No. 118	エノキ属	破片	3.5cm	3?	土壌水洗	古墳時代中期	
木18	SI14	焼土一括	エノキ属	破片	1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木19	SI15	炉一括	エノキ属?	丸木?(節)	半径0.7cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木20	SI19	No. 73	コナラ属コナラ節	破片(節)	2.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木21	SI19	No. 80	コナラ属クスギ節	破片	2.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木22	SI20	No. 224	コナラ属コナラ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木23	SI22	No. 240	コナラ属コナラ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木24	SI22	No. 241	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期	
木25	SI22	No. 295	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木26	SI23	No. 77	サクラ属	破片	3.5cm	5?	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木27-1	SI24	No. 17	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木27-2	SI24	No. 17	キハダ	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木28	SI25	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	6	土壌水洗	古墳時代後期	
木29	SI26	No. 5	コナラ属クスギ節	破片	3.5cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木30	SI27	No. 76	同定不能	破片	3.5cm?	不明	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木31	SI27	No. 158	コナラ属クスギ節	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木32	SI27	カマド一括	広葉樹	破片	0.2cm	-	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木33	SI28	炉一括	広葉樹	破片	0.2cm	-	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木34	SI28	一括	コナラ属コナラ節	破片	1cm	10	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木35	SI29	No. 47	イネ科	破片(稈)	0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木36	SI30	一括	ハンノキ属ハンノキ亜属	みかん割り状	半径3cm	5	土壌水洗	古墳時代前期～中期	
木37	SI32	No. 70	ケヤキ	丸木?	3cm	8	土壌水洗	古墳時代中期	
木38	SI32	No. 162	コナラ属クスギ節	破片	2cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木39-1	SI33	No. 45	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木39-2	SI33	No. 45	ハンノキ属ハンノキ亜属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木40	SI33	No. 46	ケヤキ	破片	1.5cm	10	土壌水洗	古墳時代中期	
木41	SI37	No. 98	コナラ属コナラ節	割材?	6.5×2.8cm	55	土壌水洗	古墳時代中期	
木42	SI37	No. 99	広葉樹	不明	2.5cm?	不明	土壌水洗	古墳時代中期	
木43	SI37	No. 100	クワ属	破片(節)	4.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木44	SI37	No. 101	クワ属	破片(節)	1.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木45	SI37	No. 102	モミ属	丸木	直径2cm	16	土壌水洗	古墳時代中期	
木46	SI38	焼土一括	ケヤキ	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木47	SI39	カマド一括	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代後期	
木48	SI40	No. 2	ヒノキ	破片	2cm	10	土壌水洗	古墳時代前期	
木49	SI40	No. 3	シラキ	破片	1.3cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木50	SI40	No. 4	広葉樹	破片	2cm	不明	土壌水洗	古墳時代前期	
木51	SI40	炉一括	-	微細破片	-	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-1	SI40	集石一括	コナラ属コナラ節	破片	0.5cm	5	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-2	SI40	集石一括	ケヤキ	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木52-3	SI40	集石一括	ヒノキ	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木53	SI43	焼土一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期～後期	
木54	Pit163	一括(SI16内?)	コナラ属コナラ節	丸木	半径1.5cm	20	土壌水洗	古墳時代	
木55	Pit180	一括	ケヤキ	丸木?	半径1cm	3	土壌水洗	古墳時代前期～中期	PLD-37065
木56	Pit182	一括(SI7b内)	コナラ属クスギ節	破片	2cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木57	Pit186	一括(SI7b内)	コナラ属コナラ節	破片	1cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木58	Pit203	一括(SI10内)	コナラ属クスギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	PLD-37066
木59	Pit248	一括(SI9内?)	同定不能	不明	-	-	土壌水洗	古墳時代	
木60	Pit395	一括	コナラ属クスギ節	破片	1cm	13	土壌水洗	古墳時代	
木61	Pit561	No. 3(SI37内)	マツ属複雑管束重属	破片	2cm	15	土壌水洗	古墳時代中期	
木62	Pit573	一括(SI37内)	コナラ属コナラ節	破片	1cm	5	土壌水洗	古墳時代中期	
木63	Pit604	一括(SI22内)	コナラ属クスギ節	破片	1.5cm	12	土壌水洗	古墳時代中期	
木64-1	Pit614	No. 1(SI22内)	コナラ属クスギ節	破片	0.8cm	4	土壌水洗	古墳時代中期	
木64-2	Pit614	No. 1(SI22内)	ケヤキ	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代中期	
木65	SD1	No. 114	イネ科	稈	直径0.3～0.4cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-1	SD1	No. 159	イネ科	稈	直径0.2～1cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-2	SD1	No. 159	ヒノキ	破片	1.5cm	20	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-3	SD1	No. 159	ヤナギ属	丸木	直径0.5～1cm	1	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-4	SD1	No. 159	コナラ属クスギ節	丸木	直径1cm	2	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-5	SD1	No. 159	コナラ属コナラ節	丸木	直径1cm	3	土壌水洗	古墳時代後期	

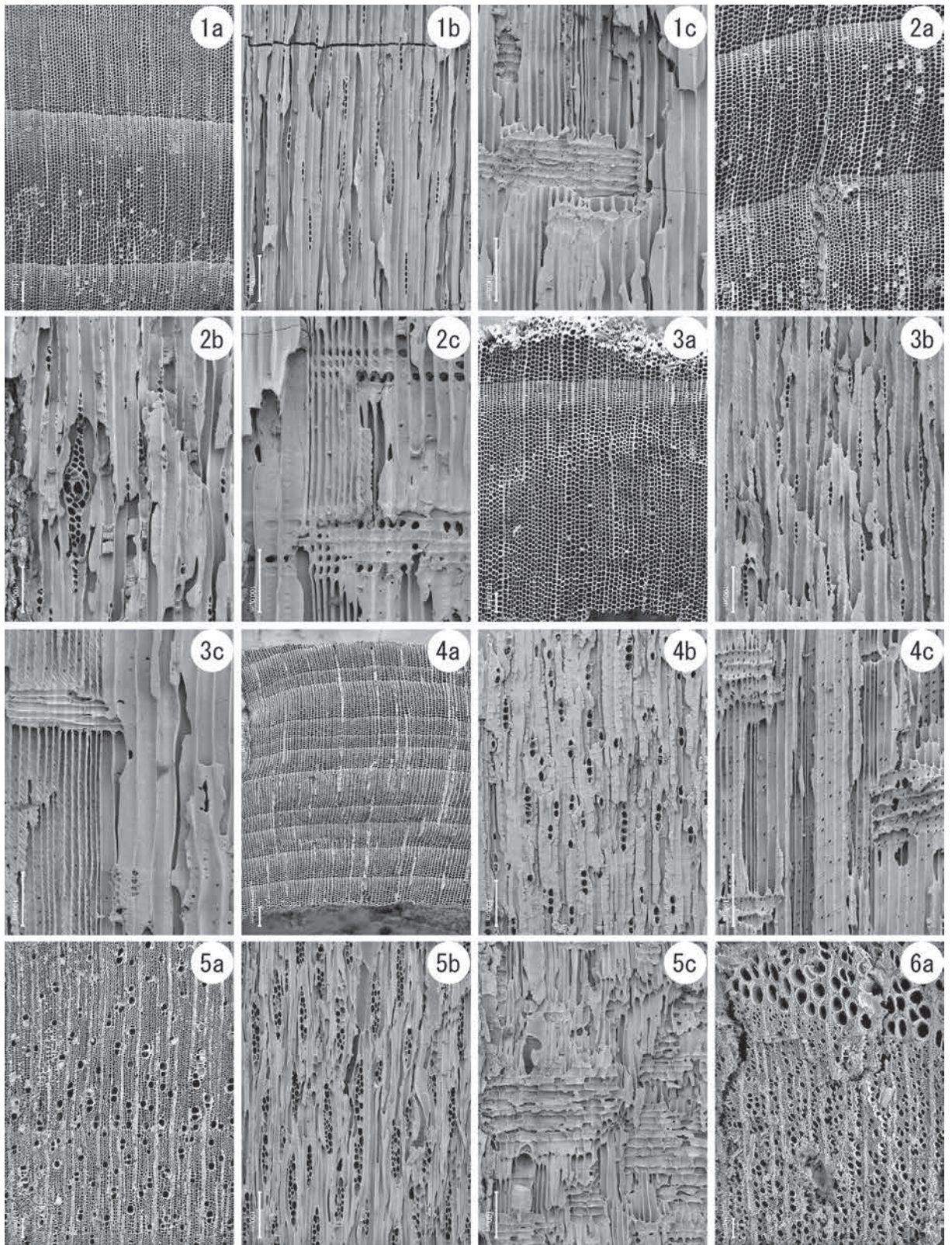


付表2 樹種同定結果一覧 (2)

番号	遺構名	取り上げ	樹種	形状	残存径	残存年輪数	取上方法	時期	年代測定番号
木66-6	SD1	No. 159	クワ属?	破片	0.5cm	2	土壌水洗	古墳時代後期	
木66-7	SD1	No. 159	樹皮	破片	1cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木67	SD1	No. 161	イネ科	破片(稈)	0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木68-1	SD1	No. 180	イネ科	稈	直径0.3~1cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木68-2	SD1	No. 180	コナラ属クヌギ節	破片	1cm	4	土壌水洗	古墳時代後期	
木69-1	SD1	No. 207	イネ科	稈	直径0.4~0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木69-2	SD1	No. 207	イヌガヤ	丸木	直径1cm	15	土壌水洗	古墳時代後期	
木69-3	SD1	No. 207	クスノキ科	丸木	直径0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代後期	
木69-4	SD1	No. 207	トネリコ属トネリコ節	破片	1.3cm	6	土壌水洗	古墳時代後期	
木70	SD1	一括	ヒノキ	加工木	3.0×1.0cm	-	土壌水洗	古墳時代後期	
木71	SD8	No. 3	コナラ属クヌギ節	破片	2.5cm	5	土壌水洗	古墳時代	
木72	SD13	No. 74	ケヤキ	破片	0.3cm	2	土壌水洗	古墳時代中期	
木73	SD13	No. 75	ケヤキ	破片	2cm	3	土壌水洗	古墳時代中期	
木74	SD13	No. 77	マツ属複雑管束亜属	不明	不明	-	土壌水洗	古墳時代中期	
木75	SD17	No. 694	ムラサキシキブ属	破片	0.8cm	2	土壌水洗	古墳時代前期	
木76	SD17	No. 781	コナラ属クヌギ節	破片	1.5cm	7	土壌水洗	古墳時代前期	
木77	SD17	No. 900	コナラ属クヌギ節	破片	2.5cm	16	土壌水洗	古墳時代前期	
木78	SD17	No. 901	コナラ属クヌギ節	丸木?	半径1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木79	SD17	No. 1414	コナラ属コナラ節	破片	1.5cm	5	土壌水洗	古墳時代前期	
木80	SD17	No. 1747	サクラ属	丸木?	直径1.5cm	2	土壌水洗	古墳時代前期	
木81	SD17	No. 2077	コナラ属クヌギ節	破片	3cm	5	土壌水洗	古墳時代前期	
木82	SD17	No. 2172	コナラ属コナラ節	破片	2.5cm	6	土壌水洗	古墳時代前期	
木83	SD17	No. 2189	ヒノキ	破片	4.5cm	5?	土壌水洗	古墳時代前期	
木84	SK28	一括(SI11)	イネ科	稈	0.3cm	-	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木85	SK35	一括(SI24内)	ケヤキ	破片	1.5cm	5	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木86	SK42	No. 2(SI36内)	コナラ属クヌギ節	破片	1.5cm	3	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木87	SK42	No. 3(SI36内)	ヒノキ	破片	2.5cm	20	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木88-1	SK47	No. 2(SI20内)	コナラ属クヌギ節	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木88-2	SK47	No. 2(SI20内)	クワ属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木89-1	SX3	一括	ヒノキ	破片	0.8cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木89-2	SX3	一括	コナラ属コナラ節?	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期	
木90	SY2	一括	コナラ属クヌギ節	破片	0.5cm	4	土壌水洗	古墳時代中期	
木91	SY3	一括(SI22内)	-	微細破片	-	-	土壌水洗	古墳時代中期	
木92-1	SY4	一括(SI1内)	コナラ属クヌギ節	破片	0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木92-2	SY4	一括(SI1内)	ケヤキ	破片	0.7cm	2	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木92-3	SY4	一括(SI1内)	カバノキ属	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木93-1	SY8	一括(SI27内)	コナラ属クヌギ節	破片	0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木93-2	SY8	一括(SI27内)	ケヤキ	破片(節)	0.7cm	2?	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木94	SY10	一括(SI36内)	コナラ属クヌギ節	破片	0.5cm	2	土壌水洗	古墳時代中期~後期	
木95-1	SD32	No. 646	イヌガヤ	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-2	SD32	No. 646	ケヤキ	破片	0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-3	SD32	No. 646	クリ	破片	0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-4	SD32	No. 646	オニグルミ	破片	0.5cm	7?	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-5	SD32	No. 646	ミズキ	破片	0.5cm	2	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-6	SD32	No. 646	カバノキ属	破片	0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木95-7	SD32	No. 646	クマシデ属イヌシデ節	破片	0.5cm	2	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木96	IG647	No. 647	マツ属複雑管束亜属	不明	1.2cm	-	土壌水洗	古墳時代前期以前	
木97	IG706	No. 706	広葉樹	破片	1.5cm?	不明	土壌水洗	平安時代以前	
木98	IG822	No. 822	タイミンタチバナ	破片	1.5cm	1?	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木99	IG836	No. 836	針葉樹	不明	不明	-	土壌水洗	平安時代以前	
木100-1	IG969	No. 969	ヒノキ	破片	1cm	1	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木100-2	IG969	No. 969	広葉樹	破片	不明	不明	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木101-1	IG970	No. 970	ヒノキ	破片	1cm	10	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木101-2	IG970	No. 970	ヤナギ属	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木102	IG1024	No. 1024	ヒノキ	不明	3.0×1.3cm	-	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木103	IG1037	No. 1037	ムクロジ	丸木	直径1.5cm	-	土壌水洗	古墳時代~平安時代	
木104	SI10	炉2一括	-	微細破片	0.2cm	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木105-1	SI10	北東一括	イネ科	稈	直径0.3~0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木105-2	SI10	北東一括	ヒノキ	破片	1cm	2	土壌水洗	古墳時代前期	
木105-3	SI10	北東一括	トネリコ属シオジ節	破片	0.5cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木106-1	SI10	南東一括	イネ科	稈	直径0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木106-2	SI10	南東一括	モモ	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木106-3	SI10	南東一括	ヒノキ	破片	1cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木106-4	SI10	南東一括	広葉樹	破片	直径0.5cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木107-1	SI10	北西一括	イネ科	稈	直径0.5cm	-	土壌水洗	古墳時代前期	
木107-2	SI10	北西一括	ヒノキ	破片	0.8cm	3	土壌水洗	古墳時代前期	
木107-3	SI10	北西一括	コナラ属クヌギ節	破片	0.3cm	1	土壌水洗	古墳時代前期	
木108	SI10	炭No. 2	イネ科	稈	直径0.5~1cm	-	現地取上	古墳時代前期	PLD-37067
木109	SI10	炭No. 17	イネ科	稈	直径0.5~1cm	-	現地取上	古墳時代前期	
木110	SI10	炭No. 37	イネ科	稈	直径0.5~1cm	-	現地取上	古墳時代前期	
木111	SI10	炭No. 46	イネ科	稈	直径0.5~1cm	-	現地取上	古墳時代前期	
木112	SI7a	灰層一括	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木113	SI7b	炉一括	サクラ属	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木114	SI7a	炭No. 6	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木115	SI7a	炭No. 7	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木116	SI7a	炭No. 8	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木117	SI7a	炭No. 11	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木118	SI7a	炭No. 12	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木119	SI7a	炭No. 15	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	

付表3 樹種同定結果一覧 (3)

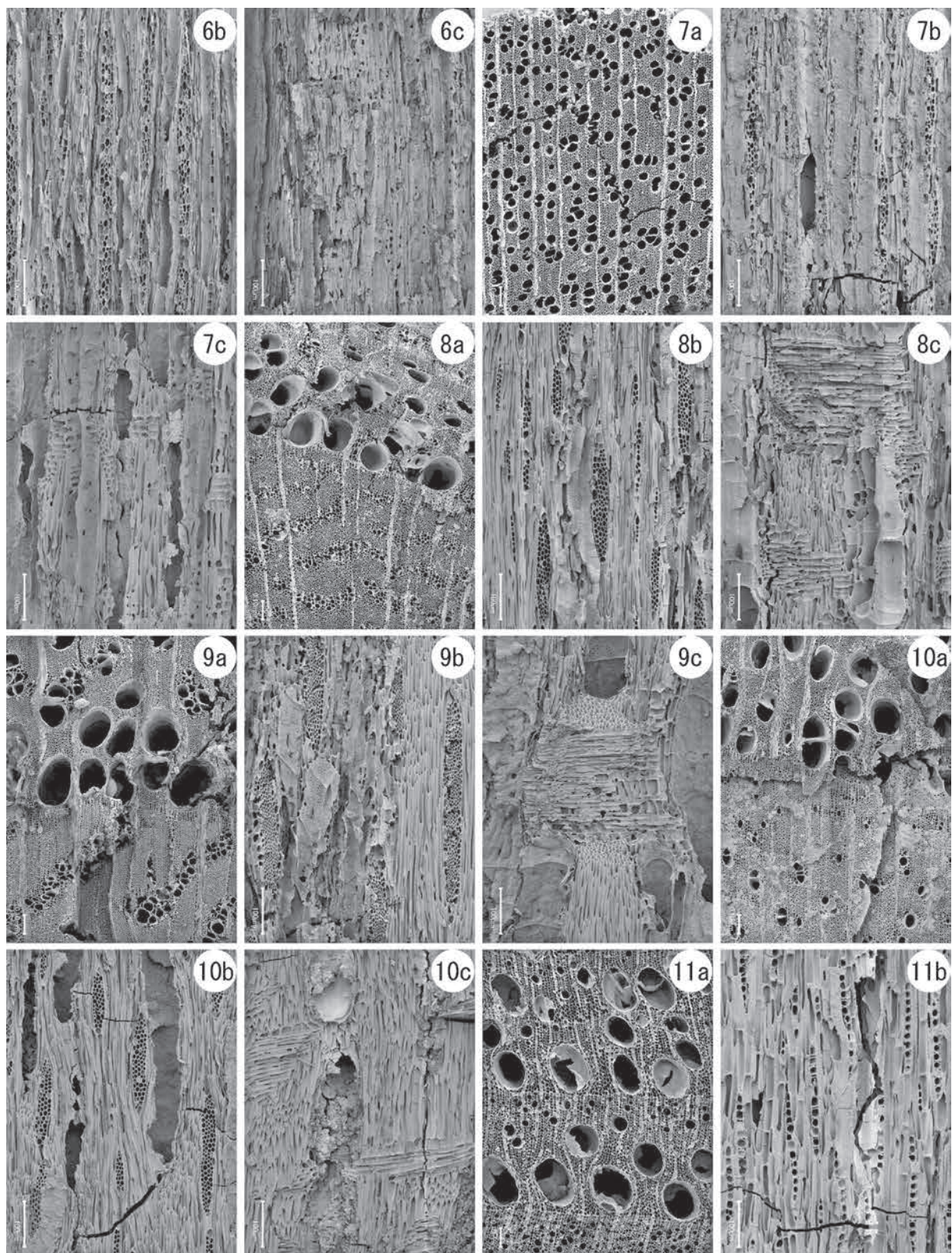
番号	遺構名	取り上げ	樹種	形状	残存径	残存年輪数	取上方法	時期	年代測定番号
木120	SI7a	炭No. 17	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木121	SI7a	炭No. 23	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	PLD-37068
木122	SI7a	(a)0208-1	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木123	SI7a	(a)0208-2	コナラ属クヌギ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代中期	
木124	SI7b	炭No. 1	コナラ属コナラ節	不明	5.0cm	1	現地取上	古墳時代前期	
木125	SI7b	炭No. 2-1	コナラ属コナラ節	不明	10cm	1	現地取上	古墳時代前期	PLD-37069
木126	SI7b	炭No. 3	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木127	SI7b	炭No. 4	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木128	SI7b	炭No. 5	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木129	SI7b	炭No. 6	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木130	SI7b	炭No. 7	コナラ属コナラ節	不明	不明	1	現地取上	古墳時代前期	
木131	SI7b	炭No. 8	コナラ属コナラ節	不明	5.0cm	1	現地取上	古墳時代前期	



図版1 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (1)

1a-1c. モミ属 (木45)、2a-2c. マツ属複維管束亜属 (木61)、3a-3c. ヒノキ (木107-2)、4a-4c. イヌガヤ (木69-2)、5a-5c. クスノキ科 (木3-1)、6a. モモ (木106-2)

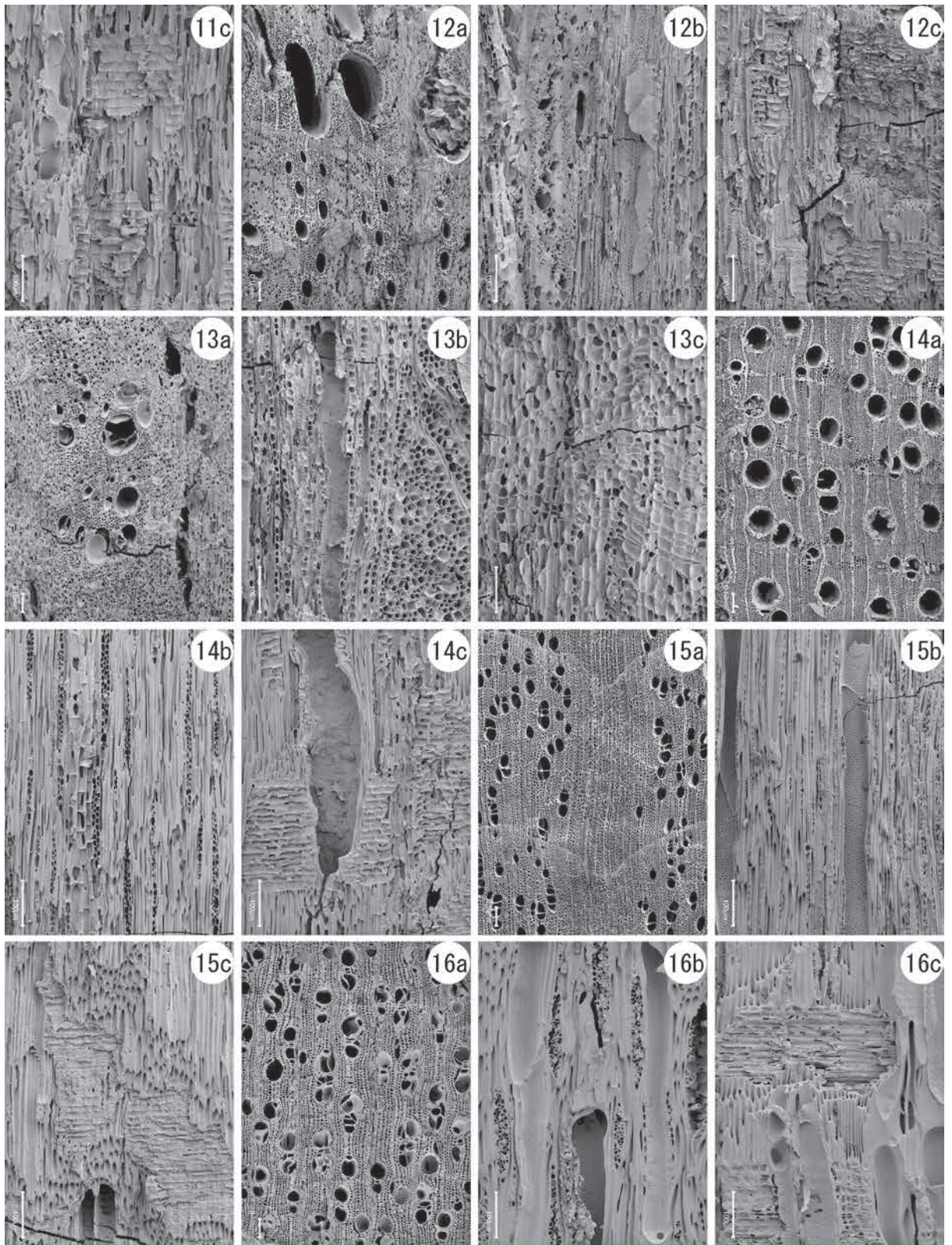
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版2 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (2)

6b-6c. モモ (木106-2)、7a-7c. サクラ属 (木4-2)、8a-8c. ケヤキ (木55)、9a-9c. エノキ属 (木3-2)、10a-10c. クワ属 (木44)、11a-11b. クリ (木95-3)

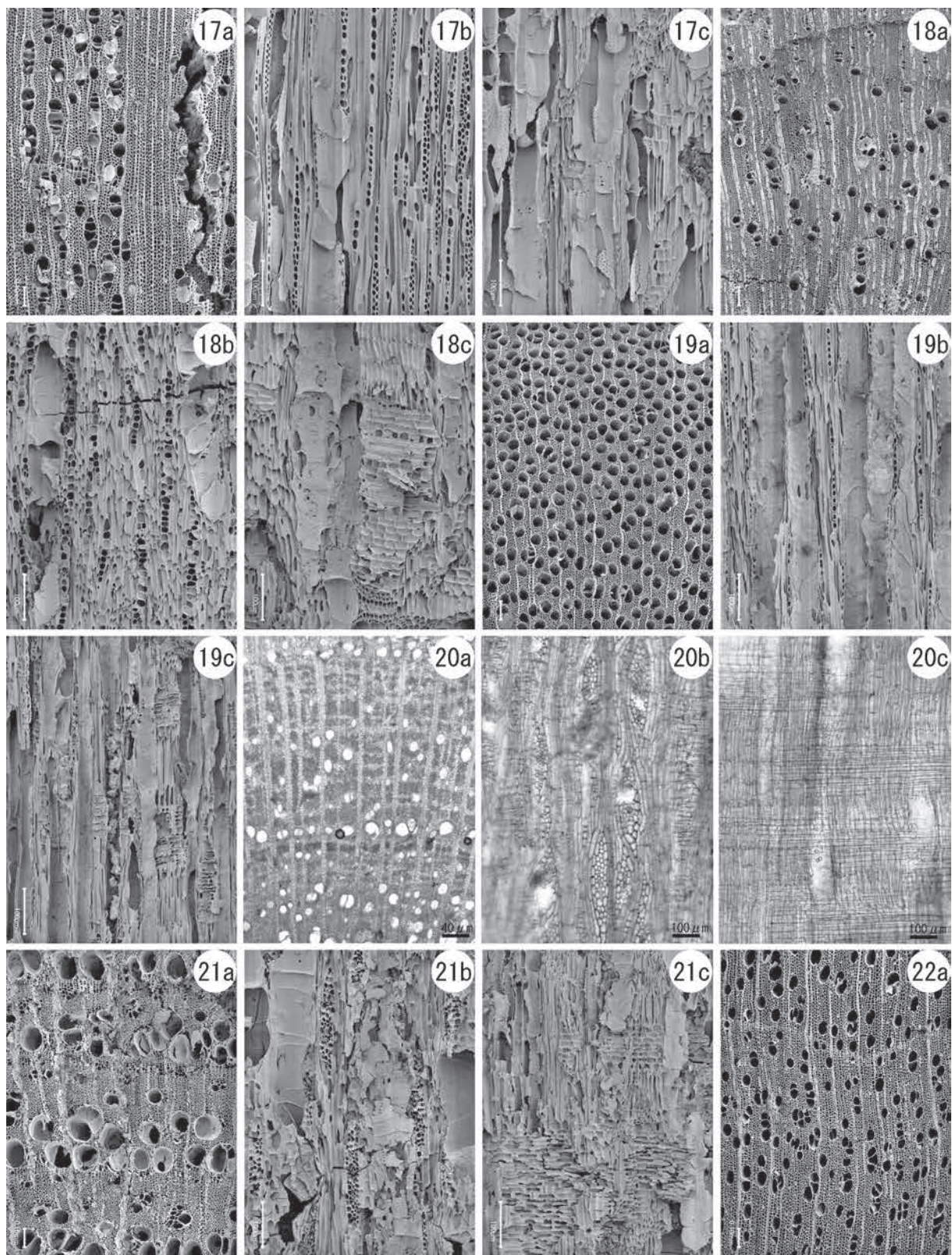
a : 横断面、b : 接線断面、c : 放射断面



図版3 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (3)

11c. クリ (木95-3)、12a-12c. コナラ属クヌギ節 (木14)、13a-13c. コナラ属コナラ節 (木1)、  
 14a-14c. オニグルミ (木95-4)、15a-15c. ハンノキ属ハンノキ亜属 (木36)、16a-16c. カバノキ  
 属 (木10)

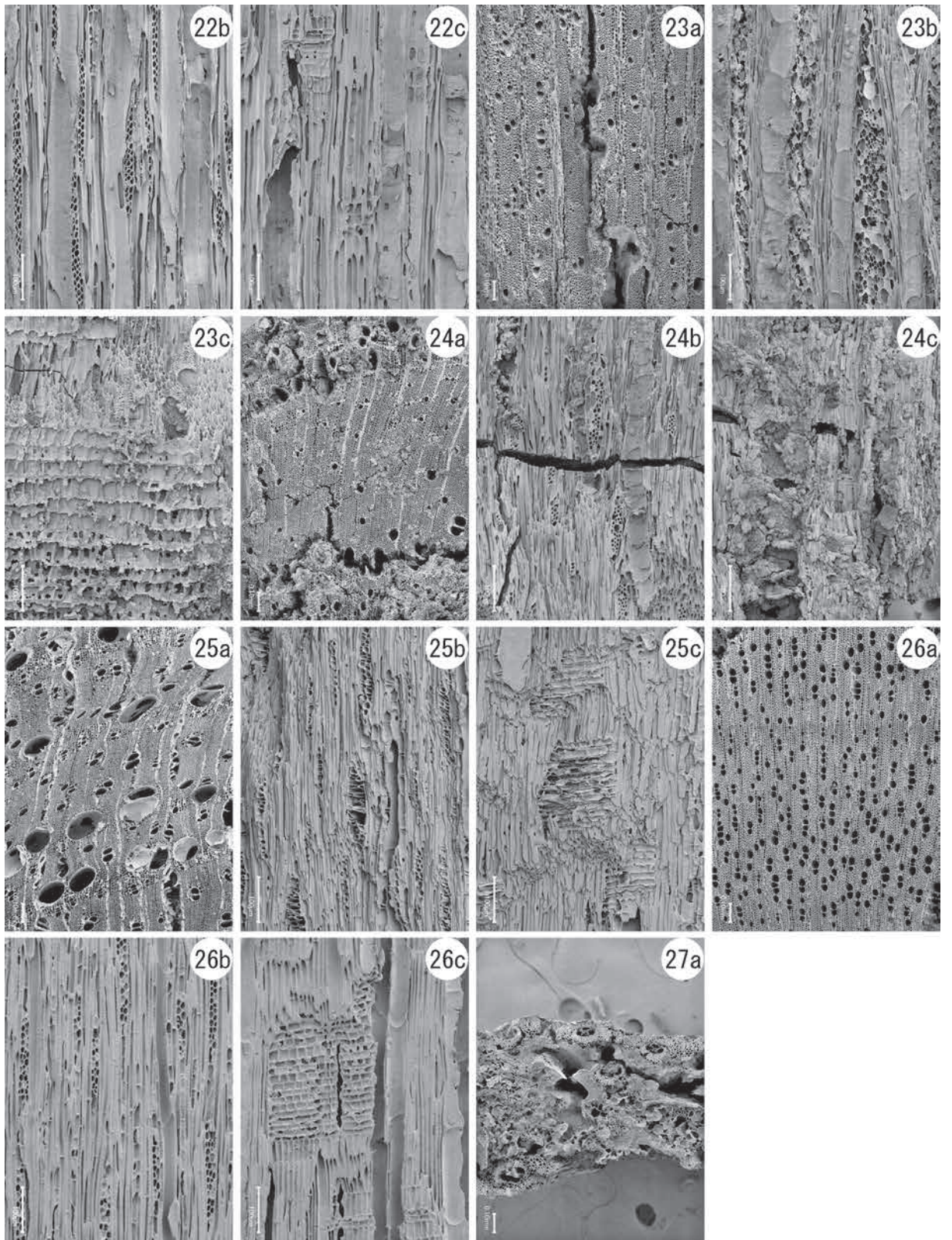
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版4 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (4)

17a-17c. クマシデ属イヌシデ節 (木95-7)、18a-18c. シラキ (木49)、19a-19c. ヤナギ属 (木101-2)、20a-20c. ムクロジ (木103)、21a-21c. キハダ (木27-2)、22a. ミズキ (木95-5)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



図版5 炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (5)

22b-22c. ミズキ (木95-5)、23a-23c. タイミンタチバナ (木98)、24a-24c. トネリコ属シオジ節 (木105-3)、25a-25c. トネリコ属トネリコ節 (木69-4)、26a-26c. ムラサキシキブ属 (木75)、  
27a. イネ科草本 (木108)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

## 1. はじめに

甲府市に所在する塩部遺跡から出土した木製品 27 点について樹種同定を行った。

## 2. 試料と方法

試料は、古墳時代後期の河川跡 SD1 から出土した木製品や自然木などの木質遺物、計 27 点である。

これらの試料について、木取りの確認後、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。プレパラートを光学顕微鏡で観察し、同定および写真撮影を行った。

## 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のモミ属とヒノキ、スギ、アスナロ、広葉樹のクリとコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、アサダ、ヤナギ属、トネリコ属トネリコ節（以下、トネリコ節）の 10 分類群が確認された。結果の一覧を付表 1 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版 1 1a-1c (木 81)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織で数珠状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 1~4 個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約 5 種がある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 1 2a-2c (木 88)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1 分野に 2 個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(3) スギ *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don ヒノキ科 図版 1 3a-3c (木 8)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(4) アスナロ *Thujaopsis dolabrata* (L. f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版 1 4a-4c (木 102)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内にも樹脂を豊富に含む。分野壁孔は小型のスギ型~ヒノキ型で、1 分野に不揃いに 3~4 個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は、加工性や割裂性は中庸だが、耐朽性および保存



性が高い。

(5) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 5a-5c (木76-1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(6) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版1・2 6a-6c (木53)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

(7) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版2 7a-7c (木70)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(8) アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 図版2 8a-8c (木35)

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1~4列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

(9) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版2 9a-9c (木90)

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケシヨウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種ほどがある。材は全般に軽軟で、強度は低いが韌性があり、切削加工は容易である。

(10) トネリコ属トネリコ節 *Fraxinus* sect. *Ornus* モクセイ科 図版2 10a-10c (木10)

年輪のはじめに大型の道管が1列程度並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2~3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で1~3列幅である。

トネリコ節は温帯に分布する落葉高木で、トネリコやアオダモなど7種がある。材は中庸~やや重硬で、切削加工は容易、保存性も中庸である。

#### 4. 考察

器種別の樹種同定結果を表1に示す。横槌はコナラ節、着柄軸?はアサダであった。弓状木製品はアスナロ、椅子はスギ、曲物と曲物底板、槽、斎串はヒノキであった。木樋はクリ、杭はヒノキとコナラ節であった。部材はヒノキとスギ、コナラ節、クヌギ節、トネリコ節、部材(栓?)はヒノキであった。板状木製品はモミ属、棒状木製品はヒノキであった。自然木はコナラ節とヤナギ属であった。

横槌や着柄軸?、木樋などで確認された広葉樹のクリやコナラ節、アサダは、いずれも重硬な材である。一方、弓状木製品と椅子、曲物と曲物底板、槽、斎串、部材(栓?)、板状木製品と棒状木製品には、モミ属やヒノキ、スギ、アスナロといった針葉樹が使用されていた。これらの針葉樹は、軽軟で加工容易である。杭や部材には針葉樹と広葉樹の両方が見られた。木製品の用途によって、適した材質の木材を選択していたと考えられる。

また、自然木はコナラ節とヤナギ属であった。コナラ節は木製品にも利用されており、二次林によく生育する樹種である。ヤナギ属は、河川など湿潤な土地に分布する樹種である。SD01は河川跡であり、河川沿いにヤナギ属が生育していたと推測される。

表1 器種別の樹種同定結果

樹種/器種	横槌	着柄軸?	弓状 木製品	椅子	曲物	曲物底板	槽	斎串	木樋	杭	部材	部材 (栓?)	板状 木製品	棒状 木製品	自然木	計
モミ属													1			1
ヒノキ					1	1	1	2		1	1	2		2		11
スギ				1							1					2
アスナロ			1													1
クリ									1							1
コナラ属クヌギ節											2					2
コナラ属コナラ節	1								1	1	2				1	6
アサダ		1														1
ヤナギ属															1	1
トネリコ属トネリコ節											1					1
計	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	7	2	1	2	2	27

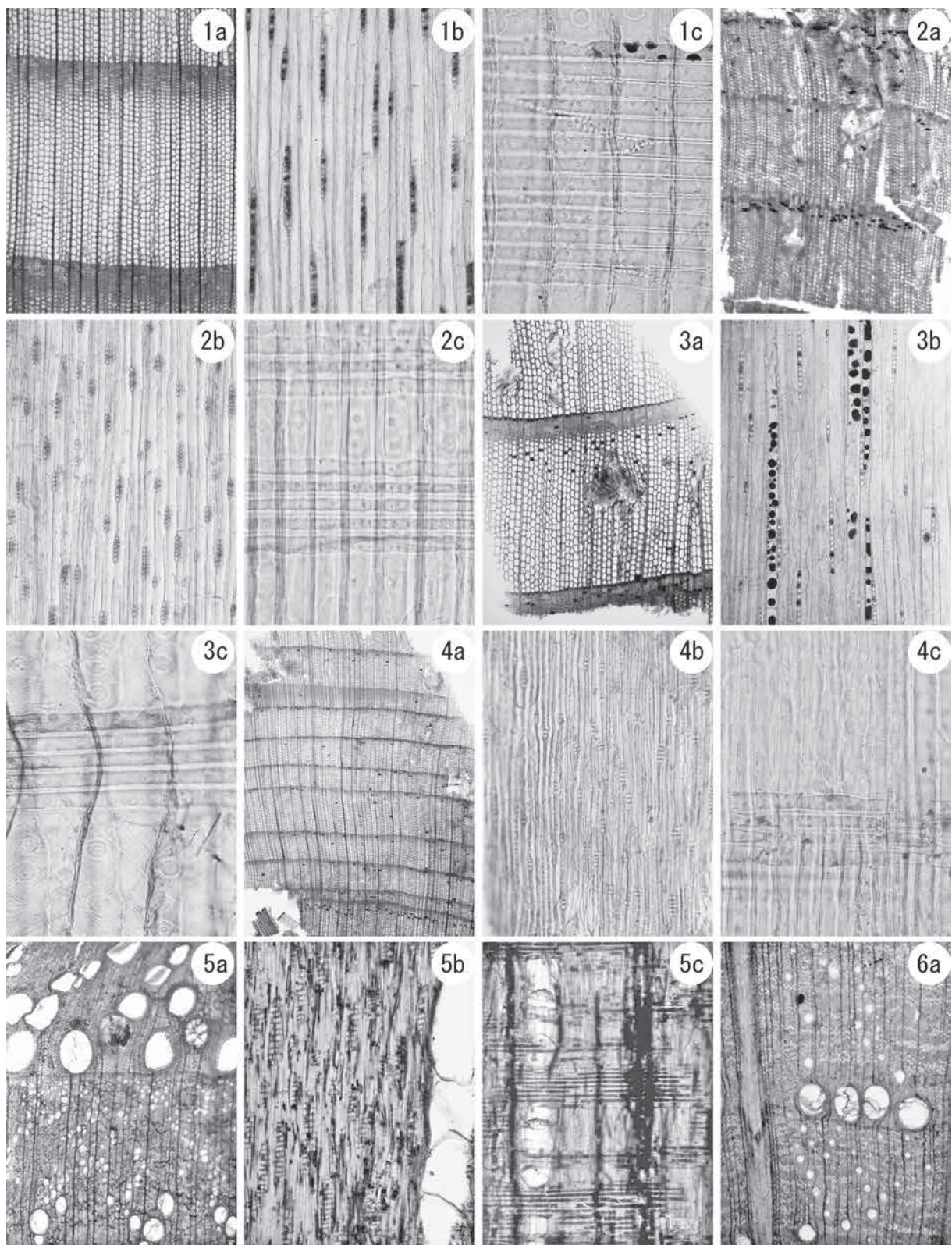
#### 参考文献


平井信二(1996) 木の百科. 394p, 朝倉書店.

伊東隆夫・山田昌久編(2012) 木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

付表1 樹種同定結果一覧

No.	遺物番号	種別	樹種	備考
木1	SD1No.85	斎串	ヒノキ	榫目
木2	SD1No.78	部材(栓?)	ヒノキ	芯去材・手斧痕
木3	SD1No.82	棒状木製品	ヒノキ	板目
木4	SD1No.76	曲物底板	ヒノキ	板目・一部炭化・撃痕・手斧痕
木7	SD1No.84	斎串	ヒノキ	榫目・一部炭化
木8	SD1No.83	部材	スギ	芯去材・欠込み
木10	SD1No.126	部材	トネリコ属トネリコ節	芯持材・表面炭化・手斧痕
木14	SD1No.71	椅子	スギ	芯去材・表面炭化
木15	SD1No.69	槽	ヒノキ	横木取り
木16	SD1No.79	部材(栓?)	ヒノキ	芯去材・表面一部炭化
木35	SD1No.81	着柄軸?	アサダ	芯去材
木37	SD1No.70	横槌	コナラ属コナラ節	芯持材・柄部面取り・打撃痕?
木39	SD1No.125	杭	コナラ属コナラ節	芯持材・先端部面取り
木40	SD1No.127	部材	ヒノキ	芯去材
木48	SD1No.72	曲物	ヒノキ	-
木53	SD1No.139	部材	コナラ属クヌギ節	芯持材・欠込み
木70	SD1No.138	部材	コナラ属コナラ節	芯持材
木71	SD1No.142	自然木	コナラ属コナラ節	-
木76-1	SD1No.133	木樋	クリ	横木取り・片側別部材による添木
木76-2	SD1No.133	-	コナラ属コナラ節	木樋の添木か
木81	SD1No.136	板状木製品	モミ属	板目・先端部炭化
木86	SD1No.132	部材	コナラ属コナラ節	芯持材
木88	SD1No.134	棒状木製品	ヒノキ	芯去材・面取り
木90	SD1No.140	自然木	ヤナギ属	-
木92	SD1No.124	杭	ヒノキ	榫目・面取り
木97	SD1No.141	部材	コナラ属クヌギ節	芯持材
木102	SD1No.77	弓状木製品	アスナロ	弓弭残存・一部穿孔・面取り



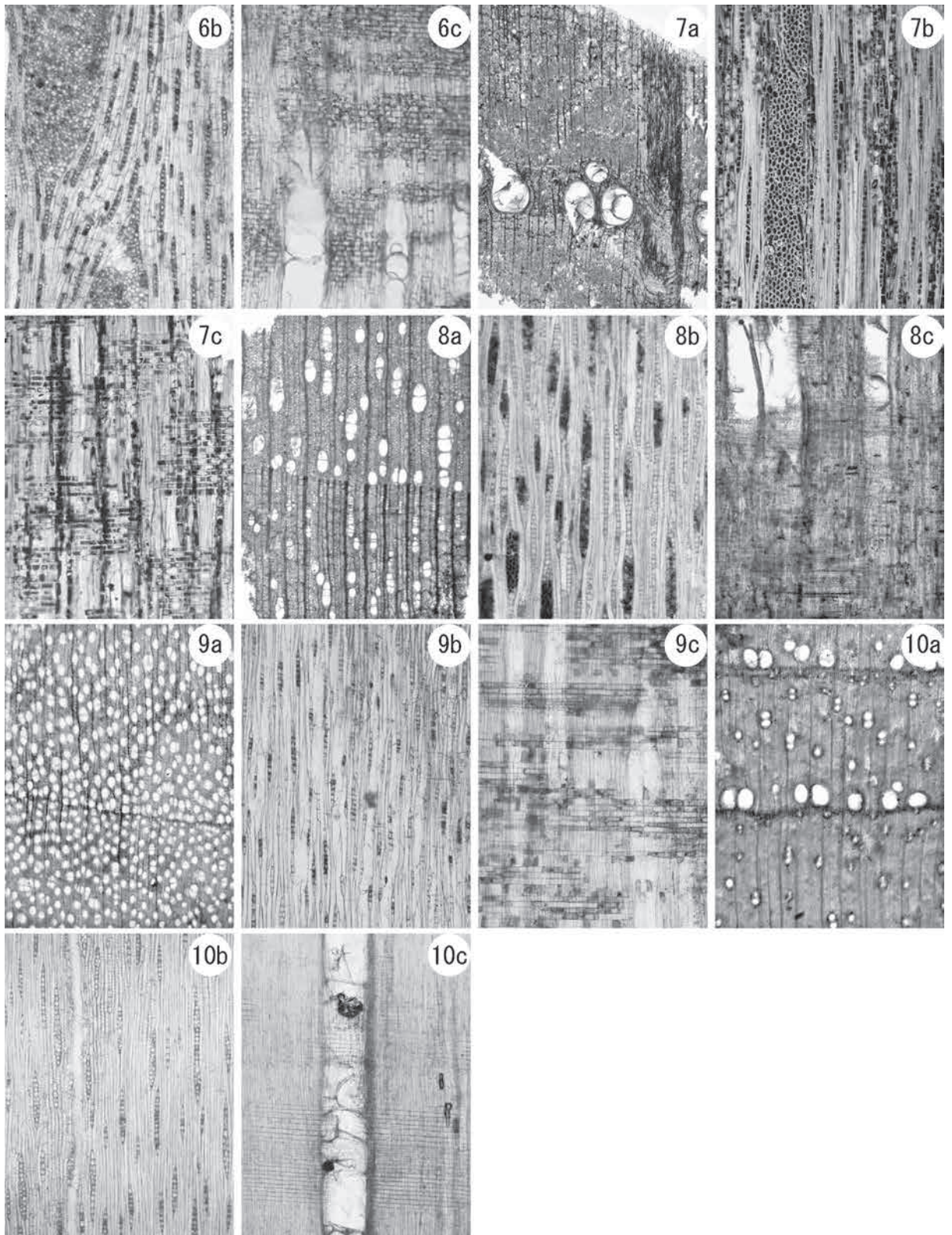
スケール： 


図版1 木材の光学顕微鏡写真 (1)

1a-1c. モミ属 (木81)、2a-2c. ヒノキ (木88)、3a-3c. スギ (木8)、4a-4c. アスナロ (木102)

、5a-5c. クリ (木76-1)、6a. コナラ属クヌギ節 (木53)

a : 横断面 (スケール=500  $\mu$ m)、b : 接線断面 (スケール=200  $\mu$ m)、c : 放射断面 (スケール=1-4 : 50  $\mu$ m、5 : 200  $\mu$ m)



スケール： 

図版2 木材の光学顕微鏡写真 (2)

6b-6c. コナラ属クヌギ節 (木53)、7a-7c. コナラ属コナラ節 (木70)、8a-8c. アサダ (木35)、

9a-9c. ヤナギ属 (木90)、10a-10c. トネリコ属トネリコ節 (木10)

a: 横断面 (スケール=500  $\mu$ m)、b: 接線断面 (スケール=200  $\mu$ m)、c: 放射断面 (スケール=200  $\mu$ m)

1. はじめに

塩部遺跡で検出された竪穴建物跡のカマドの灰と、イネ科植物とみられる壁材を同定する目的で、植物珪酸体分析を行った。なお、一部の同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（別項参照）。以下に、分析結果を記す。

2. 試料と方法

試料は、竪穴建物跡 SI7a の灰層 1 点（分析 No. 1）と SI9 のカマドの灰 5 点（分析 No. 2～No. 6）と、SI10 の壁材 4 点（分析 No. 7～No. 10）の、計 10 点である。遺構の時期は、SI10 が古墳時代前期、SI7a が古墳時代中期、SI9 が古墳時代後期で、いずれも焼失住居跡である。なお、分析 No. 2 について放射性炭素年代測定が行われた結果、古墳時代前期の暦年代であった（PLD-37067）（別項参照）。

灰試料 6 点については、以下の手順で植物珪酸体の抽出を行った。土壤に混ざった微細な灰の塊部分をピンセットで採取し、グリセリンで封入したプレパラートを作製した後、生物顕微鏡（300～600 倍）で検鏡した。

一方、壁材については、炭化した状態であったため、まず、試料に付着する土壤を水と筆を用いて洗浄し、乾燥させた試料を管瓶にとり、電気炉を用いて灰化した。灰化する工程は、藤原（1976）を参考にした。はじめは毎分 5℃のペースで温度を上げ、100℃において 15 分ほどその温度を保ち、その後毎分 2℃のペースで 550℃まで温度を上げ、6 時間温度を保持し、灰化を行った。灰化した試料は、グリセリンで封入し、生物顕微鏡（300～600 倍）で検鏡した。

3. 観察の結果

観察の結果を表 1 に示す。

表 1 塩部遺跡の竪穴建物跡の灰試料と壁材の植物珪酸体の検出状況（◎：多く検出、○検出、△わずかに検出）

分析 No.	試料 No.	試料	遺構	遺構の時期	取り上げ	機動細胞珪酸体		短細胞珪酸体列	イネ科穀物の珪酸体	棒状型植物珪酸体
						イネ	ヨシ属	イネ型		
1	87	灰層	SI7a	古墳時代中期	2017. 2. 8	○	—	△	—	○
2	39	カマド灰	SI9	古墳時代後期	2017. 2. 3	—	—	△	—	○
3	40	カマド灰層前面	SI9	古墳時代後期	2017. 2. 4	△	—	—	◎	○
4	43	カマド前面灰層	SI9	古墳時代後期	2017. 2. 6	—	△	—	—	△
5	86	カマド前灰	SI9	古墳時代後期	2017. 2. 8	—	—	—	△	◎
6	165	カマド煙道灰	SI9	古墳時代後期	2017. 2. 10	△	—	—	—	◎
7	炭 No. 2	壁材	SI10	古墳時代前期	2017. 2. 4	—	—	—	—	△
8	炭 No. 17	壁材	SI10	古墳時代前期	2017. 2. 6	—	—	—	—	△
9	炭 No. 37	壁材	SI10	古墳時代前期	2017. 2. 6	—	—	—	—	△
10	炭 No. 46	壁材	SI10	古墳時代前期	2017. 2. 6	—	—	—	—	△

分析 No. 1（SI7a：灰層）

イネの機動細胞珪酸体が検出された。また、イネ型の短細胞珪酸体列がわずかに検出された。イネ型短細胞珪酸体列は、8 の字型の短細胞珪酸体が細胞の形成方向に対して垂直方向に配列し、同様の配列がイネやヨシ、マコモなどにみられるため、分類群の特定は困難である。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。棒状型の植物珪酸体は、すべてのイネ科植物に類似した形態の植物珪酸体

が形成されるため（近藤，2010）、由来した分類群の同定は難しい。

分析 No. 2（SI9：カマド灰）

イネ型の短細胞珪酸体列がわずかに観察された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 3（SI9：カマド灰層前面）

イネの籾殻に形成される珪酸体が多く観察された。また、イネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 4（SI9：カマド前面灰層）

ヨシ属の機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が観察された。

分析 No. 5（SI9：カマド前灰）

イネの籾殻に形成される珪酸体がわずかに観察された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が多く観察された。

分析 No. 6（SI9：カマド煙道灰）

イネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。このほかに、棒状型の植物珪酸体が多く観察された。

分析 No. 7（SI10：壁材）

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 8（SI10：壁材）

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 9（SI10：壁材）

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

分析 No. 10（SI10：壁材）

棒状型の植物珪酸体がわずかに観察された。

#### 4. 考察

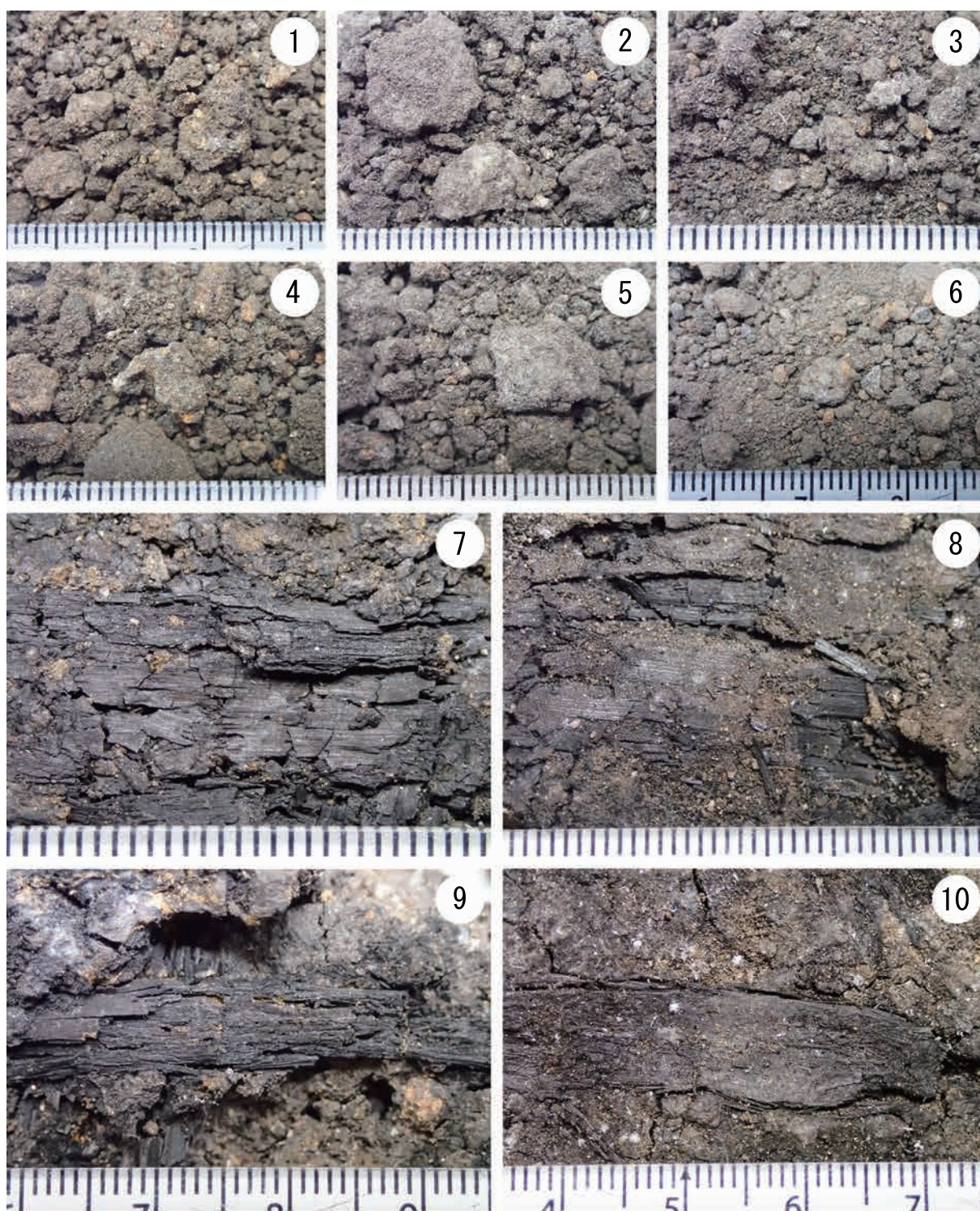
竪穴建物跡の灰 6 試料について植物珪酸体分析を行った結果、SI7a の灰層（分析 No. 1）からは、イネの機動細胞珪酸体が検出された。また、イネ型短細胞珪酸体列がわずかに検出された。SI7a では、稲藁が着火材などとして利用された可能性がある。SI9 では、カマド灰層前面（分析 No. 3）とカマド煙道灰（分析 No. 6）からイネの機動細胞珪酸体がわずかに検出された。カマド灰層前面（分析 No. 3）とカマド前灰（分析 No. 5）からはイネ籾殻に形成される珪酸体が検出された。また、カマド前面灰層（分析 No. 4）からは、ヨシ属の機動細胞珪酸体がわずかに検出された。SI9 のカマドでは、稲藁や籾殻、ヨシ属（ヨシやツルヨシなど）が着火材などとして利用された可能性がある。

一方、壁材の 4 試料からは、いずれも棒状型の植物珪酸体がわずかに検出されたのみであった。SI10 の壁材はイネ科植物である可能性があるが、今回の試料には機動細胞珪酸体や短細胞珪酸体が認められなかったため、詳細な分類群の同定は困難である。

#### 引用文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，9，15-29。

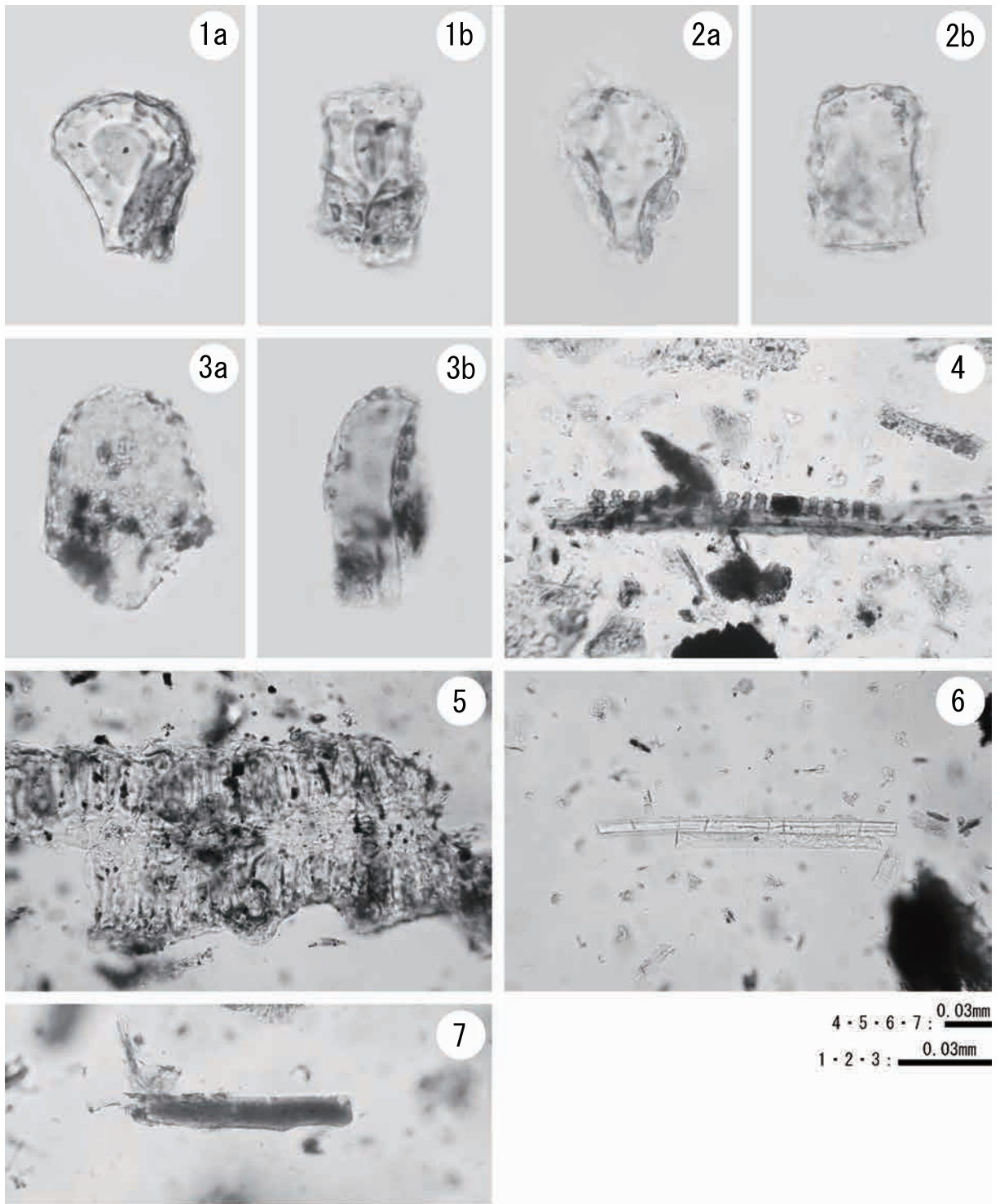
近藤錬三（2010）プラント・オパール図譜。167p，北海道大学出版会。



図版1 塩部遺跡の堅穴建物跡の灰試料と壁材

1. 分析No. 1、2. 分析No. 2、3. 分析No. 3、4. 分析No. 4、5. 分析No. 5、6. 分析No. 6、7. 分析No. 7、8. 分析No. 8、9. 分析No. 9、10. 分析No. 10





図版2 塩部遺跡の堅穴建物跡の灰試料と壁材の植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体 (分析No. 1)、2. イネ機動細胞珪酸体 (分析No. 6)、3. ヨシ属機動細胞珪酸体 (分析No. 4)、4. イネ型短細胞珪酸体列 (分析No. 2)、5. イネ籾殻の珪酸体 (分析No. 3)、6. 棒状型の植物珪酸体 (分析No. 9)、7. 棒状型の植物珪酸体 (分析No. 10)

a: 断面、b: 側面

1. はじめに

塩部遺跡において、古環境を検討するために土壌試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、地山・自然堆積層と河川跡の SD1 から採取された計 10 試料である (表 1)。これらのうち、花粉分析には全試料を、プラント・オパール分析には 5 試料を供した。これらの試料について、次の手順で分析を実施した。

表1 分析試料一覧

試料No.	層位	岩質	備考	花粉	プラント・オパール
土1	IIIb	黒褐色 (7.5YR3/2) 粘土質シルト	古墳包含層	○	
土2	4	黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト	SD1	○	○
土3	6	黒褐色 (2.5Y3/2) 粗砂		○	
土4	7	黒色 (5Y2/1) 粘土		○	○
土5	8	灰色 (5Y4/1) 砂		○	
土6	9	オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土		○	○
土7	11	オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土		○	
土8	IVd	灰色 (7N/) シルト			○
土9	IVe	黒色 (7.5Y2/1) 粘土	地山・自然堆積層	○	○
土10	9b	砂礫		○	

2-1. 花粉分析

試料 (湿重量約 4g) を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え 10 分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え 1 時間放置する。水洗後、比重分離 (比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離) を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎) を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が 200 を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が得られない試料については、プレパラート 1 枚の全面を検鏡するに留めた。さらに、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本 (PLC. 2637~2643) を作製し、写真を図版 1 に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する (絶対乾燥重量測定)。別に試料約 1g (秤量) をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ (直径約 0.04mm) を加える。これに 30%の過酸化水素水を約 20~30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版 2 に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

10 試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 25、草本花粉 24、形態分類のシダ植物

表2 産出花粉孢子一覽表

学名	和名	±1	±2	±3	±4	±5	±6	±7	±8	±9	±10
樹木											
<i>Podocarpus</i>	マキ属	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Abies</i>	モミ属	11	33	8	7	16	21	8	-	-	22
<i>Tsuga</i>	ツガ属	24	17	4	2	4	5	7	-	-	14
<i>Picea</i>	トウヒ属	6	3	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	9	1	-	-	6	1	-	-	-	4
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	60	71	17	15	73	58	9	-	-	51
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	2	1	7	-	-	-	-	6
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	9	7	1	1	4	9	1	-	-	5
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	3	-	1	1	4	6	-	-	-	8
<i>Betula</i>	カバノキ属	7	2	1	-	5	3	1	-	-	5
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	2	-	-	-	2	2	-	-	-	2
<i>Fagus</i>	ブナ属	4	6	3	-	3	-	1	-	-	3
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	26	22	3	1	35	37	4	1	-	45
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	27	14	6	3	17	42	1	-	-	17
<i>Castanea</i>	クリ属	5	6	-	-	6	2	-	-	-	2
<i>Castanopsis-Pasania</i>	シノキ属-マテバシイ属	1	8	-	-	2	-	-	-	-	2
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	2	10	3	1	5	2	1	-	-	3
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	9	6	-	-	-	4
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	スルデ属-ウルシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	2	-	-	-	-	2	-	-	-	9
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	2	-	1	3	1	-	-	-	1
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本											
<i>Typha</i>	ガマ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	4	1	1	-	1	-	-	-	-	-
Gramineae	イネ科	82	73	5	1	50	37	40	-	-	144
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	8	1	-	24	2	-	-	-	8
<i>Commelina</i>	ツユクサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Moraceae	クワ科	-	-	-	-	24	3	-	-	-	-
<i>Rumex</i>	ギンギシ属	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2	6	3	9	14	17	5	-	-	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-
Rosaceae	バラ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Leguminosae	マメ科	1	1	1	-	1	-	-	-	-	1
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	-	-	-	1	2	-	-	-	-	3
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Menyanthes</i>	ミツガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Nymphoides</i>	アサザ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Labiatae	シソ科	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ambrosia-Xanthium</i>	ブタクサ属-オナモミ属	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
<i>Carthamus</i>	ベニバナ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1	17	1	1	14	18	2	-	-	24
Tubuliflorae	キク亜科	2	1	-	1	-	1	-	-	-	3
Liguliflorae	タンポポ亜科	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2
シダ植物											
monolete type spore	単条溝孢子	19	5	3	1	5	1	1	-	-	10
trilete type spore	三条溝孢子	2	1	-	-	-	-	-	-	-	3
Arboreal pollen	樹木花粉	202	203	49	33	203	201	34	1	-	206
Nonarboreal pollen	草本花粉	115	111	13	13	134	84	47	-	-	189
Spores	シダ植物孢子	21	6	3	1	5	1	1	-	-	13
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	338	320	65	47	342	286	82	1	-	408
Unknown pollen	不明花粉	-	5	-	-	6	7	-	-	-	3

孢子2の、総計51である。これらの花粉・孢子の一覽表を表2に、花粉分布図を図1に示す。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率、草本花粉・孢子の産出率は産出花粉孢子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、そ



表3 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	イネ穎破片 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	ポイント型 (個/g)
土2	38,700	1,300	42,500	1,300	7,700	16,800	42,500	24,500	5,200
土4	24,800	7,100	15,300	1,200	4,700	9,400	38,900	31,900	8,300
土6	27,400	16,100	38,700	1,600	12,900	17,800	88,800	50,100	3,200
土8	0	0	2,500	1,200	0	1,200	2,500	2,500	0
土9	2,800	0	2,800	0	0	5,500	6,900	15,200	0

これらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、土3, 4, 7, 8, 9の層準については十分な量の花粉化石が含まれていなかった。

### 3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から、試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(表3)、分布図に示した(図2)。

検鏡の結果、5試料ではイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の7種類の機動細胞珪酸体が確認できた。また、イネの籾殻に形成されるイネ穎破片の産出も確認できた。

## 4. 考察

花粉分析の結果では、十分な量の花粉化石が得られていない層準があるものの、下位層から上位層にかけて、顕著な花粉組成の変化は見られなかった。よって、分析試料の堆積期間は顕著な植生の変化はなかったと考えられる。検出された花粉化石群集を見ると、樹木花粉ではスギ属やコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立つため、遺跡周辺の丘陵地などにはスギ林やナラ類からなる落葉樹林、カシ類からなる照葉樹林などが分布していたと考えられる。また、中間温帯林の構成種であるモミ属やツガ属などの産出も見られ、遺跡周辺の丘陵地に分布していたと思われる。さらに、サワグルミ属-クルミ属やニレ属-ケヤキ属、トチノキ属などは河畔林を構成する分類群として知られており、河川周辺の水分条件の良好な場所に生育していた可能性がある。草本花粉ではイネ科やアカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などの産出が目立ち、これらの草本類が河川周辺に分布を広げていたと思われる。ただし、地山の土10では、イネ科の産出率が高く、他の草本類の産出率が低いため、河川が形成される前の遺跡周辺には、主にイネ科の草本類が分布を広げていたと考えられる。

イネ科については、プラント・オパール分析においてより詳細な種類がわかる。地山の土8, 9ではネザサ節型やヨシ属、キビ族、ウシクサ族などの機動細胞珪酸体が産出しているため、遺跡周辺の湿潤な場所には抽水植物のヨシ属が生育しており、やや乾燥した開けた場所にはネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと思われる。土6以上の層準になると、各分類群の機動細胞珪酸体の産出量が増加する。土6以上の層準は、SD1の埋土であるため、河川には多くの葉身が集積していた状況が推測される。土6以上の層準においても、主に検出されるのがネザサ節型やヨシ属、キビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体であり、河川形成前と形成後で機動細胞珪酸体の産出量に違いがあるものの、試料採取地点周辺に分布していたイネ科植物の構成種は同様であったと考

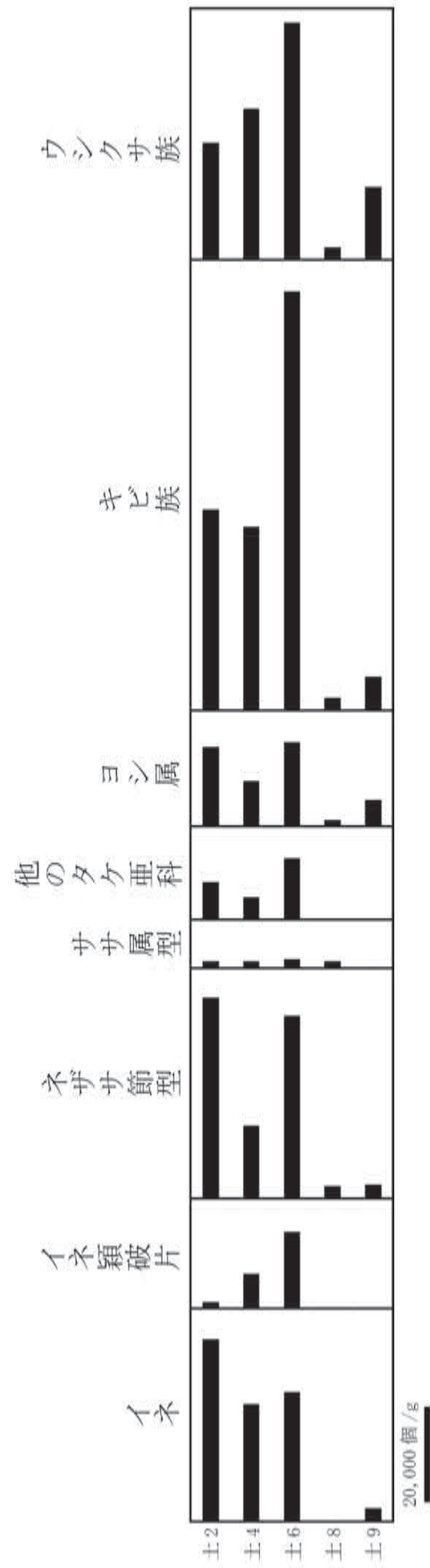


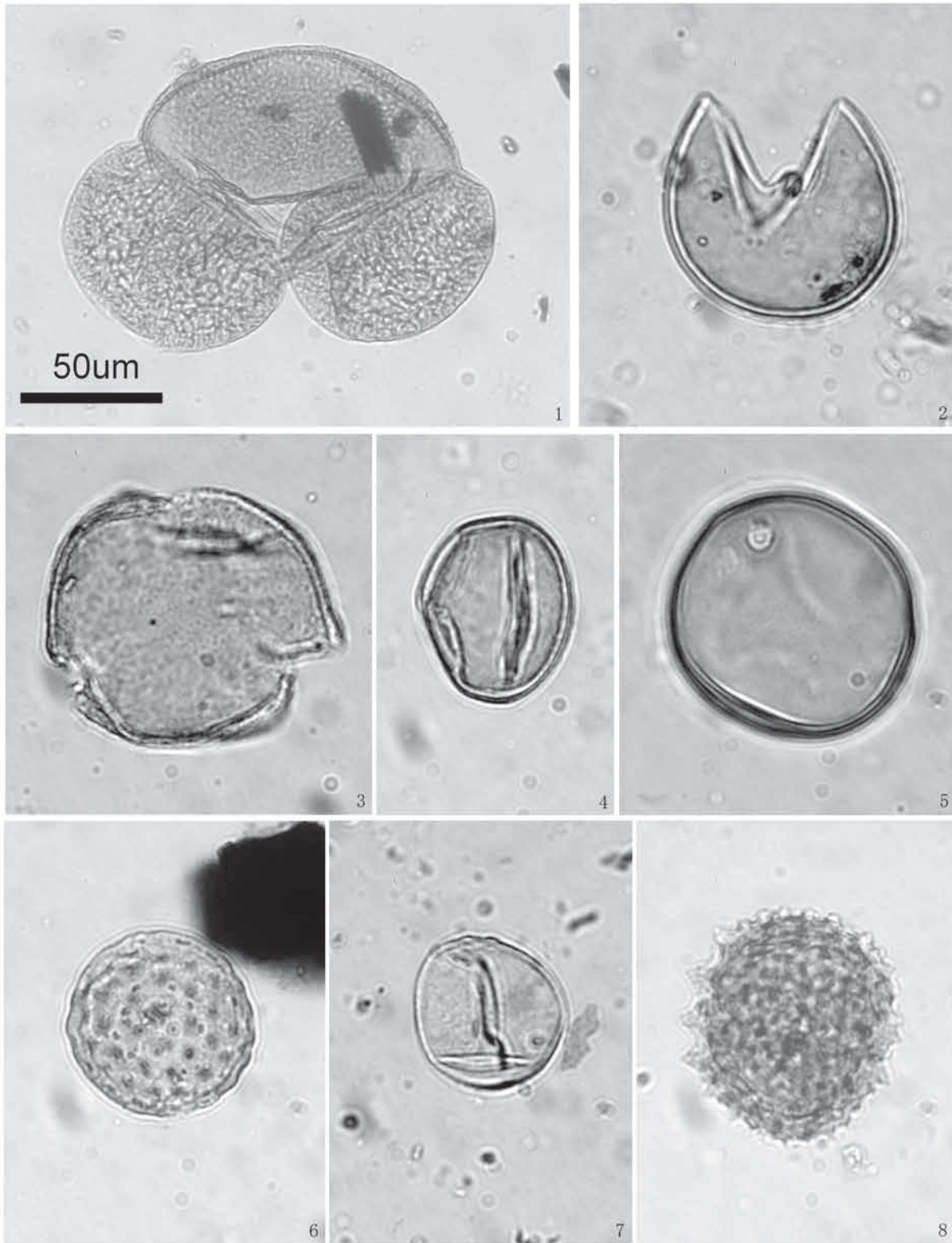
図2 塩部遺跡における植物珪酸体分布図

えられる。

土6以上の層準ではイネ機動細胞珪酸体も産出量を増している。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料1g当り5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原, 1984）、試料1g当り5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせると、地山層の土8と土9では、イネ機動細胞珪酸体が検出されていないか、検出されていても水田土壌の目安を下回るため、河川形成前の遺跡周辺にはイネは存在していたものの、水田などの集約されるような状況下になかったと考えられる。河川形成に伴い、イネの葉身が集積することで多くのイネ機動細胞珪酸体が産出するようになるが、花粉分析の結果では、土5以上の層準で水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、キカシグサ属などの産出が見られるため、河川周辺に水田が存在した状況も推測できる。さらに、土2ではベニバナ属花粉が検出された。土2堆積時は河川周辺においてベニバナ栽培も行われていた可能性がある。

#### 引用文献

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—。考古学ジャーナル, 227, 2-7.



図版1 産出した花粉化石

1. モミ属 (土5 PLC. 2637)

3. コナラ属コナラ亜属 (土5 PLC. 2639)

5. イネ科 (土5 PLC. 2641)

7. クワ科 (土5 PLC. 2643)

2. スギ属 (土5 PLC. 2638)

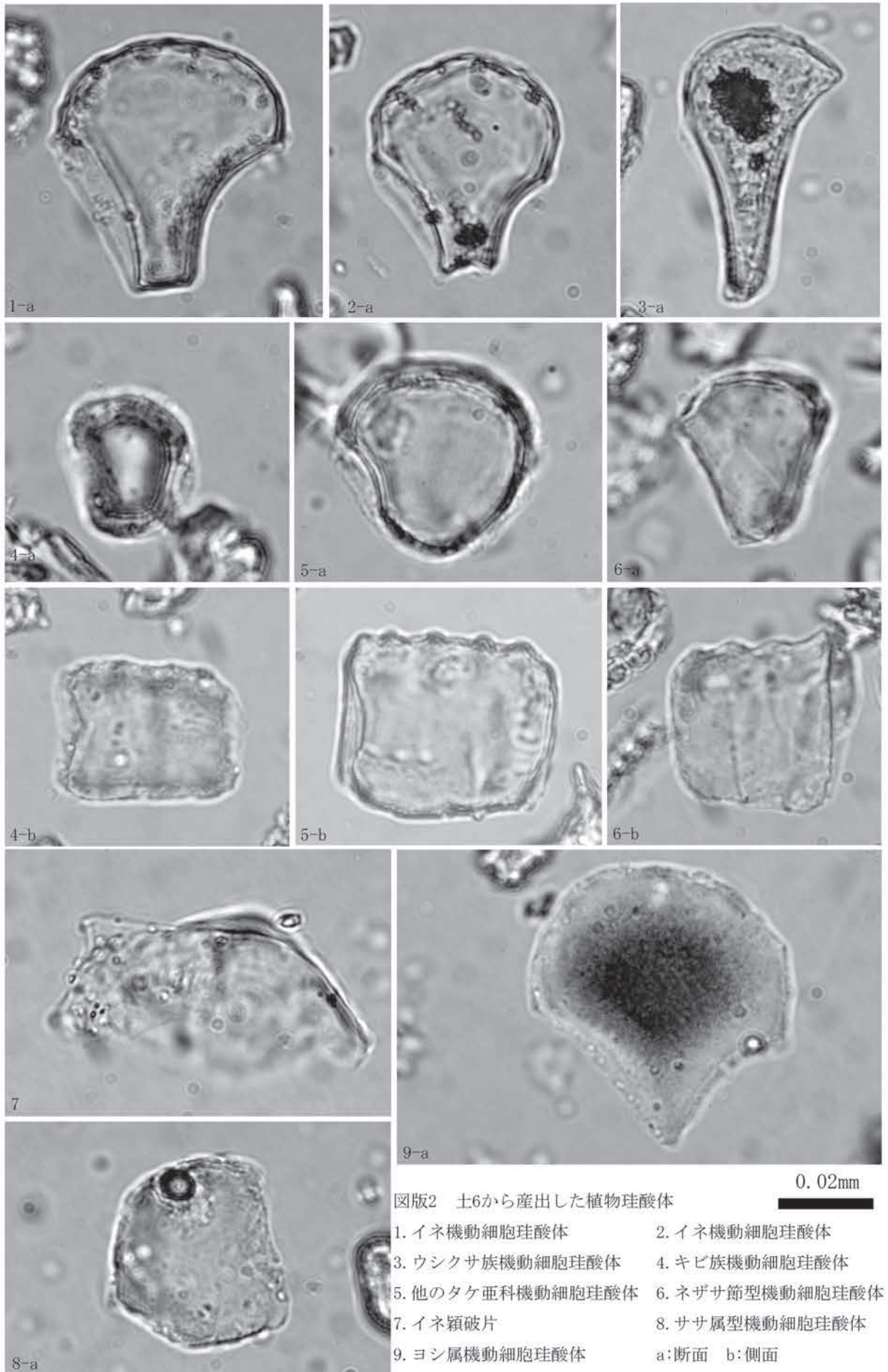
4. コナラ属アカガシ亜属 (土5 PLC. 2640)

6. アカザ科-ヒユ科 (土5 PLC. 2642)

8. ベニバナ属 (土2 PLC. 2644)

2~8:0.02mm





## 第6章 まとめ

### 第1節 塩部遺跡の遺構と遺物

今回の発掘調査では古墳時代前期から後期の遺構・遺物が出土した。主な検出遺構は建物 52 軒（S I 1～40・43・44、S X 3、S B 1～4）と溝・流路（S D 1・S D 17・S D 32・33）である。建物の内、竪穴建物 44 軒、掘立柱建物 2 軒、平地建物 6 軒である。遺物は主として古墳時代の土師器が出土し、古墳時代前期から後期まで見られる。土師器、須恵器に伴い、金属製品、ガラス製品、石製品、土製品、木製品、動植物遺体などが出土している。その他には縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石製品、平安時代の土師器などが少量出土している。

主な遺構について遺物の時期別に区分すると大きく 7 区分することができる（第 195・196 図）。

1期では S 字状の口縁部に刺突文が入り、胴部に斜め、肩部に横走するハケ目を持つ台付甕、口唇部に刻目を持つ単純口縁台付甕や幅広折返し口縁壺や、単純口縁加飾壺などが出土している。山梨県史の I 期に比定すると思われる。S I 10 や S D 17 など出土している。

2期では S 字状の口縁部に刺突文がなく、胴部に斜め、肩部に横走するハケ目を持つ台付甕、大形の高坏、器台、単純口縁壺などが出土している。山梨県史の II 期に比定すると思われる。S I 40 や S D 17 など出土している。

3期では S 字状の口縁部に刺突文がなく、肩部に横走するハケ目がなく、胴部に斜めのハケ目を持つ台付甕、単純口縁加飾壺、高坏、器台、単孔の有孔鉢、丸底鉢などが出土している。山梨県史の III 期に比定すると思われる。S I 6・7 b・8・15・21・31・40 など出土している。

4期では高坏、丸底壺、壺、碗形の坏、深めの半球型の坏、鉢などが出土している。山梨県史の V 期に比定すると思われる。S I 2・14・16・17・26・34・35・38 など出土している。

5期では模倣土師製の甕、球胴形の甕、やや長胴形の甕、丸底壺、浅めの半球型の坏、鉢、碗形の坏などが出土している。山梨県史の VI 期に比定すると思われる。S I 4・13・18・32・37 など出土している。

6期では碗形の坏、口縁部が外反する坏、半球形の坏、須恵器蓋坏を逆転した形の坏、須恵器坏、低脚の高坏、やや長胴化した甕などが出土している。山梨県史の VII 期から VIII 期に比定すると思われる。S I 5・19・22・23・24・27・28・29・36・43・44 など出土している。

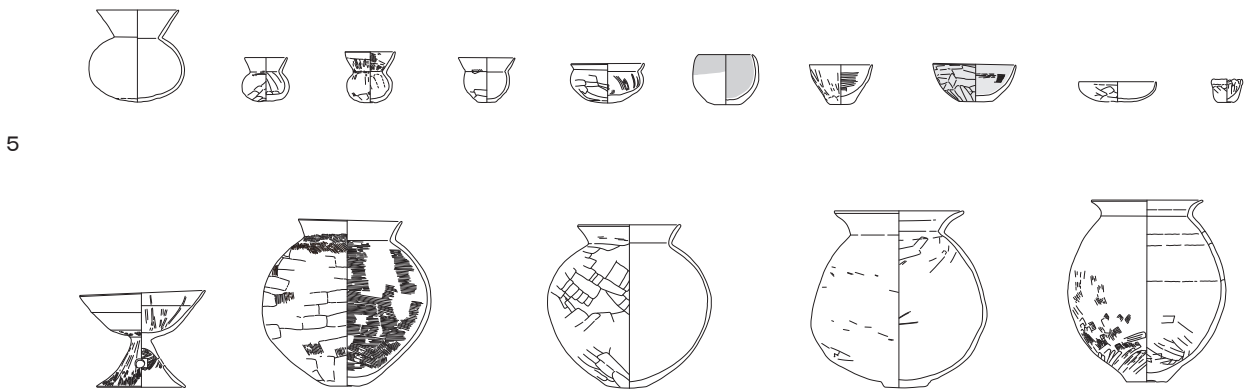
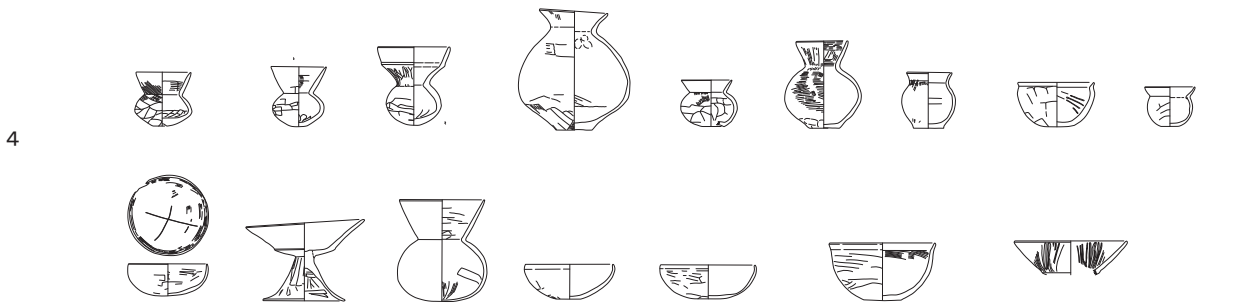
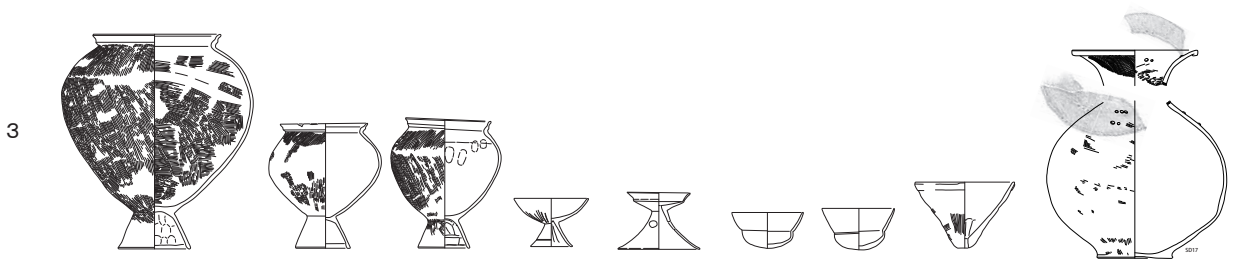
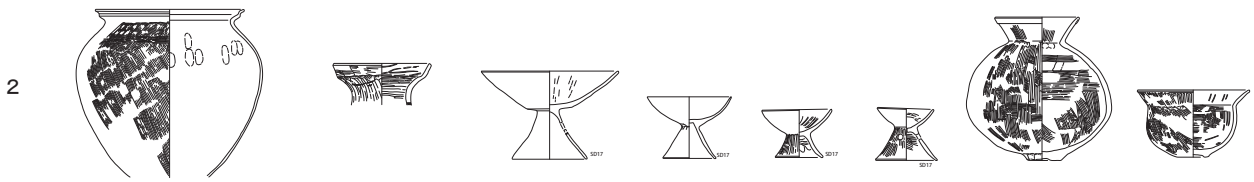
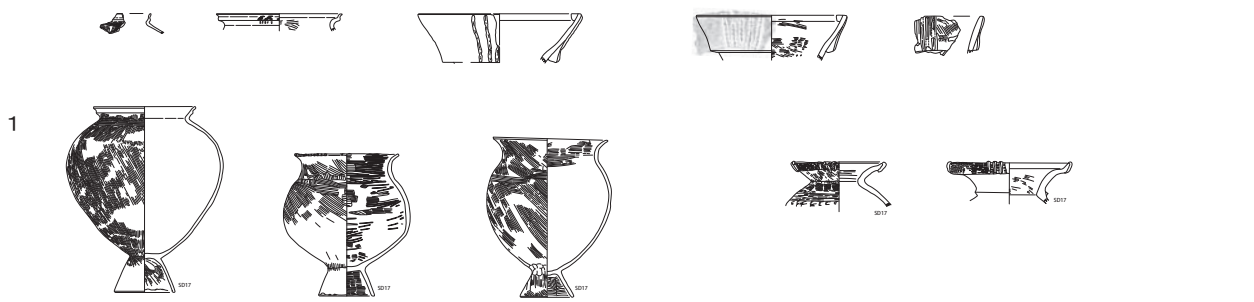
7期では扁平な形態の半球型の坏、須恵器蓋坏を逆転した形の坏、須恵器坏、須恵器坏蓋、多孔の有孔鉢、長胴化した甕、大きな口径でやや球胴の大甕、大形甗などが出土している。山梨県史の IX 期から X 期に比定すると思われる。S I 1、9、25、39、S D 1 など出土している。

次に時期別の遺構分布を 4 期に分けて示す（第 197 図）。古墳時代前期以前の様相として S D 32 が前期以前の流路で調査区北側から西側へ北から南へ流れている。調査区西側では北から南へ流路 S D 33 が北から南へ流れている。次に古墳時代前期では、遺構は調査区中央部まとまっており、北側に区画溝 S D 17 が北西から南東方向に位置している。古墳時代中期になると、遺構の分布は調査区内に均等に広がるようになる。古墳

時代後期になると流路SD1が調査区西側に、流路SD33が東側にそれぞれ北から南へ流れている。流路の間の微高地内に遺構が均等に分布している。流路SD33からは後期の遺物が中心として出土しているが、最上層で10世紀から11世紀の平安時代末の遺物が出土している。平安時代末までは流れがあったと考えられる。調査区内で検出した流路は塩部遺跡の過去の調査地点の平成6・7年度調査地点（第3図）の川・沼の南側にあたるため連続した流れの可能性がある。塩部遺跡の東側を流れている相川の旧流路と思われる。また、西側に隣接する平成13年度調査地点B地区を参照すると古墳時代前期の遺構は地区をまたいでまとまって分布している。中期と後期の遺構分布は平成13年度調査地点では少なく、今回の調査地点に集落の中心があると思われる。

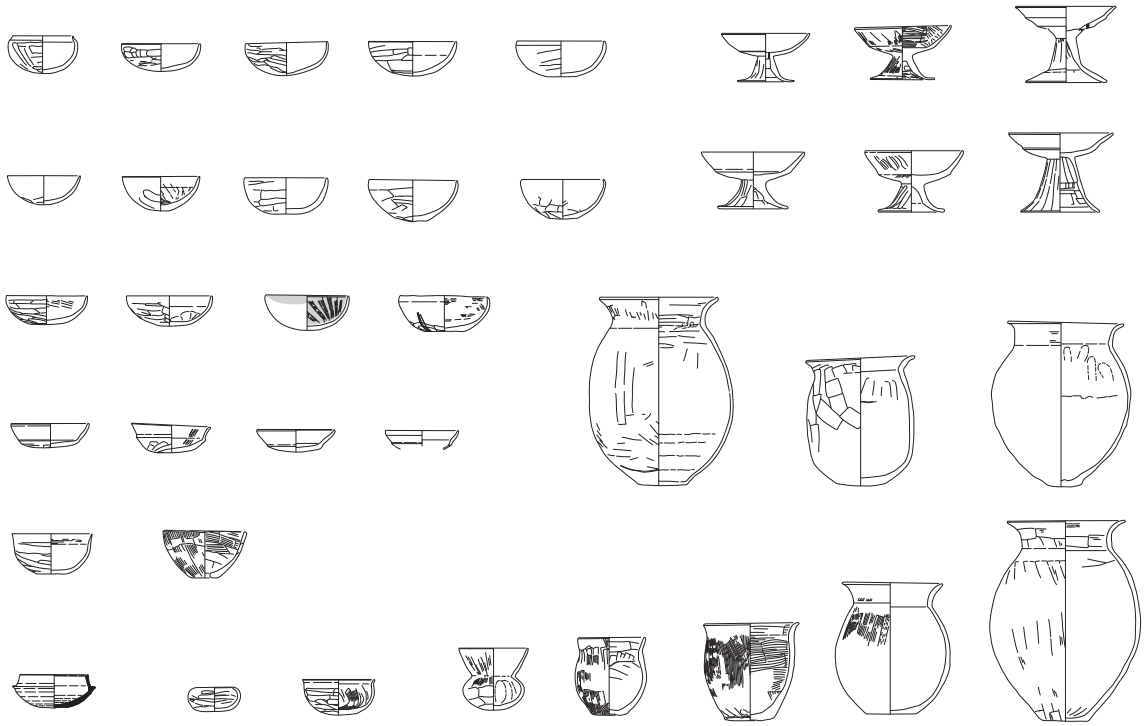
#### 参考文献

- 山梨県教育委員会 1996 『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第123集  
山梨県 1999 『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）』  
甲府市教育委員会 2004 『塩部遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告24  
甲府市教育委員会 2005 『塩部遺跡Ⅱ』甲府市文化財報告30  
甲府市教育委員会 2009 『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告44



第 195 図 古墳時代土師器 (1)

6



7



第 196 図 古墳時代土師器 (2)



古墳時代前期以前



古墳時代前期



古墳時代中期



古墳時代後期



第197図 遺構変遷図

## 第2節 塩部遺跡の焼失建物について

調査区の中央部で検出したS I 7・10は古墳時代前期から中期にかけての焼失竪穴建物であった。現場では肉眼観察で遺存状態が良好と判断した炭化材を採取し、それとは別に土壌試料も採取した。それぞれの試料を整理選別後、株式会社パレオ・ラボに依頼し自然科学分析を行い大きな成果を得ている（第5章自然科学分析）。あらためて焼失建物が内包する情報量の多さを痛感したが、現場調査時は建物がいつどのように焼失したか、それをどのように記録するかが課題であった。ここではその課題を踏まえつつ、焼失建物についてのこれまでの塩部遺跡の成果を簡潔に整理しておきたい。

竪穴建物・掘立柱建物など建物の種類にかかわらず、これまでに刊行された塩部遺跡の発掘調査報告書と当報告書に記載された建物の総数は148軒である。時代別では弥生時代後期から古墳時代が139軒、奈良・平安時代が9軒となる。このうち報告書上で炭化材や焼土の範囲が図示され、焼失状況に関する記載や所見があるものを焼失建物として表にまとめた。

### 1. 塩部遺跡の焼失建物の時期

表1は塩部遺跡の焼失建物一覧である。奈良・平安時代の焼失建物は検出されていない。弥生時代後期から古墳時代の建物139軒のうち焼失建物は29軒である。また弥生時代後期から古墳時代初頭に限定すると、建物の総数は35軒で、そのうち焼失建物は16軒である。焼失率は45.7%にのぼる。山梨県内の弥生6期の集落では、上の平遺跡59%、六科丘遺跡27%、平野遺跡44%、東山北遺跡57%（山梨県1999）と焼失率が高い傾向があり、この傾向は同時期の塩部遺跡でも同様であることが指摘されていた（甲府市教育委員会2005）がそれを裏付ける結果となった。また古墳時代前期から後期では、総数104軒のうち焼失建物は13軒で焼失率は12.5%であった。同じ塩部遺跡内の古墳時代と比べても焼失率の高さは顕著である。

### 2. 塩部遺跡の焼失建物の事例

報告書の記載から焼失状況を窺い知ることのできる事例として6軒の竪穴建物を取り上げ、どの時点で焼失したかに着目してみていく。

#### 事例1：塩部I-7号竪穴

- ①壁面全体を焼土塊が覆っており、壁材として粘土を貼っていた。
- ②4号土坑で底部に近い覆土から炭化した材や遺物出土。建物機能時には開口か。
- ③多くの遺物が二次被熱を受けた状態で散乱。
- ④558号ピット（支柱穴）で火災による廃絶後に柱材を抜き取り、意図的に小壺を埋納。

①～③から建物の機能時に近い状態で焼失したと推定する。特に②の4号土坑は貯蔵穴の可能性が示唆されており、炭化した材や遺物が貯蔵物であるなら、建物機能時の焼失と考えたい。④は焼失状況の直接的な手がかりではないが、焼失後の建物の使用者の行為が特定できる。柱穴から柱材を抜き取り、土器を埋納したらしい事例は当報告書のS I 3の柱穴などでも報告している。S I 3は焼失建物ではなかったが、建物廃絶後にある程度普遍的に行われた行為であった可能性がある。

#### 事例2：塩部II C地区-1号竪穴

- ①屋根材と考えられる建築部材が出土。
- ②炭化材より高い位置で出土した焼土塊は部分的に土を屋根材に使用していたものか。
- ③床面の炭化物層から炭化米を採取。

①～③から建物の機能時または機能停止直後の焼失と推定する。②からは少なくとも屋根が朽ち落ちる前に焼失したと推定でき、③からは米が土壌化する前の早い段階で焼失により炭化したと言える。

#### 事例3：塩部II C地区-12号竪穴

①壁面に炭化材の痕跡。壁際に粘土で固定された板材が存在。

②ピット状の落ち込みの中に炭化物や焼土が入り込んでいた。

①②から建物の機能時または機能停止直後の焼失と推定する。②はピット状の落ち込みが開口した状態で建物が焼失した結果とみることができる

#### 事例 4：塩部ⅡC地区－16号竪穴（上層・下層）

①下層建物にムシロのような敷物痕跡。

②下層建物の壁面に炭化物と焼土塊の帯が形成。壁際に板材使用か。

③下層建物の遺物は火災による放置で残りが良い。完形品あり。

④上層建物は下層建物の焼失による建て替えか。

①～③から建物の機能時の焼失と推定する。特に③の遺物は器種も多彩であったとの記載があり、①のムシロ状の敷物痕跡と合わせて、家財道具がそのままの状態の意図しない焼失を考えたい。④は建物焼失後の使用者の行為が特定できる。

#### 事例 5：塩部Ⅲ－S I 5

①床面上で広範囲の炭化物粒と板状の炭化材を検出。

②炭化物・炭化材の上で遺物が出土。

①②から建物の機能停止後の焼失と推定する。①の板状の炭化材は建物の構築材の可能性はあるが量的にはわずかで、主要な材はあらかじめ取り払われた後とみたい。②の遺物は炭化材の直上にまとまって出土しており、焼失後に投棄されたものである。建物の焼失は意図したものと考えたい。

#### 事例 6：塩部Ⅲ－S I 10a

①床面上で検出の炭化物の多くは分析の結果、屋根材または壁材に使用されたとみられるイネ科草本の稈。柱材となるような太い材はほとんどない。

②柱穴の覆土に顕著な炭化物層が堆積する。柱穴が柱を取り除いた後の開口状態で建物が焼失か。

③遺物の出土量が少なく（報告書掲載は25点）、破片資料がほとんどである。

①～③から建物の機能停止後の焼失と推定する。①②からは建物の主要な構築材をあらかじめ取り払い、壁などを覆っていた藁状の材を不要物として焼却した状況を推測する。③は現場調査時の印象となるが、平面規模7.8m×7.8mと今回の調査では最も大形の竪穴建物で、床面まで35cmと遺構の遺存状態も良好であったことを考えると、相対的な遺物量が少なく出土位置も散在していた。必要な家財道具を持ち去った後の状況を想定でき、建物の焼失は意図した焼却と考えたい。

以上、建物がどの時点で焼失したかを推定しつつ6事例を取り上げた。出発点は塩部遺跡の現場で目にした多くの焼土や炭化材が建物の焼失によるもので、その建物はいつどのように焼失したか、火事なのか焼却なのかという疑問であった。ここではその解決の糸口となり得る事例を提示した。また、表中に掲載したのみで詳細に触れていないが平地建物や掘立柱建物など上部構造が異なる建物の焼失事例の蓄積と検討も今後の課題である。

#### 引用・参考文献

山梨県教育委員会 1996『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第123集

山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）』

甲府市教育委員会 2004『塩部遺跡Ⅰ』甲府市文化財調査報告24

甲府市教育委員会 2005『塩部遺跡Ⅱ』甲府市文化財報告30

甲府市教育委員会 2009『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告44



表1 塩部遺跡の焼失建物一覧

報告書地区※1	遺構番号	平面形	規模 ※2	主軸方向 ※2	炉・カマド	建物構造・出土遺物等	焼失状況に関する記載	時期 ※3
塩部	SB01	小判形	4.5×3.9	—	炉	竪穴建物。柱穴6基検出。	床面近くに多量の焼土・炭化物散在。焼失家屋。	弥生時代末 中山編年6期 (県史弥生6期)
塩部Ⅰ	1号竪穴	長方形	3.5×3.0	N-26° -E	炉	柱穴不明。	床面全体に炭化物・焼土塊多い。火災により腐絶。	—
塩部Ⅰ	6号竪穴	隅丸方形	南北6.0	N-72° -E	確認できず	主柱2基検出	覆土及び床面全体に炭化物・焼土塊散在、焼失した痕跡確認。土器の多くに被熱。	古墳時代後期 塩部Ⅰ-V期 (5C後半～6C前半)
塩部Ⅰ	7号竪穴	隅丸方形	6.0×5.9	N-73° -E	カマド 煙道が建物外に張り出す	4本主柱。柱材残存。編物用石錘124個出土。	覆土及び床面全体に炭化物・焼土、焼失建物。壁面全体に焼土塊、壁材に粘土。多くの遺物が被熱。火災による腐絶後に柱材を抜き取り小壺を埋納か。4号土坑の底部から炭化した材・遺物が出土。建物機能時には開口、貯蔵穴か。	古墳時代後期 塩部Ⅰ-V期 (5C後半～6C前半)
塩部Ⅱ C地区	1号竪穴	小判型か 隅丸方形	[2.4]×4.5	N-45° -W	炉(埋甕)	主柱2基検出。	全体に炭化物・焼土塊検出。火災により腐絶。屋根材の建築部材の他、土を屋根材とした痕跡確認。床面炭化物層から炭化米採取。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	2号竪穴 上層	小判型	[3.2]×3.7	N-42° -E	炉	柱穴不明。	下層建物の火災後にほぼ同規模で建て替え。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	2号竪穴 下層	小判型	[3.0]×3.6	—	炉 小型の袖石	主柱2基検出。	床面の広範囲に火災による炭化物層。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	5号竪穴	小判型	[3.2]×4.3	N-25° -W	確認できず	主柱2基検出。主柱に3回の重複、建て替えか。	床面に炭化物層検出。火災による焼失。	弥生時代末 塩部Ⅱ-II期 (県史弥生6B相)
塩部Ⅱ C地区	10号竪穴	小判型	[1.4]×[3.4]	(N-34° -W)	確認できず	主柱2基検出。柱穴の重複2回、建て替えか。	床面の広範囲に炭化物層。火災にあっている。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	12号竪穴	小判型	[1.6]×[4.4]	N-66° -E	確認できず	主柱1基検出。	全面炭化物と焼土塊検出。火災により焼失。壁際に粘土で固定の板材か。炭化物・焼土が入り込む落ち込みあり。貯蔵穴か。	弥生時代末 塩部Ⅱ-II期 (県史弥生6B相)
塩部Ⅱ C地区	13号竪穴	小判型	[4.5]×[5.0]	N-34° -W	炉	主柱2基検出。5本柱の建物か。	床面全体に炭化物層。火災により焼失。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	14号竪穴	隅丸方形	[2.4]×5.4	N-34° -W	炉	主柱2基検出。柱根遺存。建物外周溝伴う。北陸系・伊勢湾系土器共伴。馬? 歯出土。	床面全体から炭化物層及び炭化材検出。火災により焼失。壁面に板材か。石も被熱して剥離片が散乱。	弥生時代末 塩部Ⅱ-II期 (県史弥生6B相)
塩部Ⅱ C地区	16号竪穴 上層	小判型	[5.2]×5.8	N-30° -W	炉	主柱4基検出。	床面中央から北側を中心に炭化物層。火災による焼失。下層建物の焼失による建て替えか。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	16号竪穴 下層	小判型	[5.4]×5.0	N-30° -W	炉 小型袖石2石	主柱4基検出。柱根遺存。面取りの角材。	床面全体に炭化物層。火災により焼失。ムシロのような敷物痕跡。壁面に板材か。遺物は火災により放置のため残りが良い。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	17号竪穴 上層	小判型	[3.8]×5.4	N-35° -W	炉	主柱は確認されない。伊勢湾系の土器様相。	—	弥生時代末 塩部Ⅱ-II期 (県史弥生6B相)
塩部Ⅱ C地区	17号竪穴 下層	小判型	[4.5]×4.3	N-35° -W	炉	主柱3基検出。	壁際を中心に炭化物層。火災により焼失。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	18号竪穴	小判型	[2.3]×[4.9]	(N-30° -W)	炉	主柱1基検出。	火災により焼失。	弥生時代末 塩部Ⅱ-I b期 (県史弥生6A相)
塩部Ⅱ C地区	1号平地	—	—	N-28° -W	炉	平地建物。6基の柱穴検出。	面的に炭化物層、付近にも炭化物の広がり、火災により焼失。	—
塩部Ⅱ C地区	4号平地	—	(6.0)×(4.6)	N-36° -W	炉	平地建物。8基の柱穴検出。丸太材の柱根残存。多量の炭化米・雑穀類検出。	床面に火災によるとみられる炭化物を広範囲に確認。	弥生時代末 塩部Ⅱ-II期 (県史弥生6B相)
塩部Ⅱ D地区	1号竪穴	隅丸方形	[3.9]×[2.7]	N-28° -E	炉 袖石2石	主柱2基検出。建物外周溝伴う。	床面全体に炭化物。火災により焼失。	—
塩部 2009	6号住居社	—	[3.08]×[2.52]	—	カマド	竪穴建物。ピット3基確認。	覆土全体に焼土・炭化物が多く混入し、下層に炭化材が多く混入。※4	古墳時代後期
塩部 2009	7号住居社	方形か	[2.7]×[2.68]	—	—	竪穴建物。柱穴不明。	覆土全体に焼土・炭化物が多く混じり、特に下層に炭化物が集中。焼失家屋。	弥生時代後期
塩部 2009	8号住居社	—	[4.3]×[3.15]	—	—	竪穴建物。柱穴不明。	覆土全体に焼土粒・炭化物混入。部分的に焼土・炭化材が集中。※4	古墳時代後期
塩部Ⅲ	S15	隅丸方形	4.3×4.0	N-20° -W	炉	竪穴建物。床面検出。柱穴不明。甌出土。	床面上に広範囲に炭化物粒、板状の炭化材出土。建物焼失後に土器を投棄か。	県史古墳Ⅷ期
塩部Ⅲ	S17a	—	—	—	—	竪穴建物。北壁と床面を検出。柱穴不明。	床面直上で炭化材。焼失建物。出土遺物は炭化材の上で出土。建物焼失後に投棄か。	県史古墳Ⅵ期
塩部Ⅲ	S17b①	—	(南北4.6m)	N-23° -W	(炉)	竪穴建物。柱穴4基検出。	床面で数カ所にわたって焼土塊・炭化材検出。焼失建物。	県史古墳Ⅲ期
塩部Ⅲ	S110a	隅丸方形	7.8×7.8	N-21° -W	炉	竪穴建物。柱穴4基検出。S110bの建て替えか。	床面上で多量の炭化物を検出。焼失建物。屋根材または壁材とみられるイネ科草本の稗を検出。柱穴覆土に炭化物堆積。柱を取り除いた後に開口状態焼失か。	県史古墳Ⅲ～Ⅳ期
塩部Ⅲ	SX3a	—	—	N-27° -W	—	平地建物か。柱穴4基検出。	広範囲にわたる焼土・炭化物を検出。焼土が柱穴の上面に覆い被さる。	県史古墳Ⅵ期
塩部Ⅲ	SX3b	—	—	N-28° -W	—	平地建物か。柱穴4基検出。	広範囲にわたる焼土・炭化物を検出。焼土が柱穴の上面に覆い被さる。	県史古墳Ⅵ期

※1 「塩部」は『塩部遺跡』山梨県教育委員会1996、「塩部Ⅰ」は『塩部遺跡Ⅰ』甲府市教育委員会2004、「塩部Ⅱ」は『塩部遺跡Ⅱ』甲府市教育委員会2005、「塩部2009」は『塩部遺跡』甲府市教育委員会2009、「塩部Ⅲ」は『塩部遺跡Ⅲ』2019(本報告)を示す。

※2 規模・主軸方向の( )は推定値、[ ]は残存値を示す。主軸方向の数値はそれぞれの報告書の記載に従った。

※3 時期はそれぞれの報告書の記載に従い、可能な場合は『山梨県史』弥生時代の編年、古墳時代の編年によるものを併記した。

※4 「塩部2009」では焼失家屋と記載があるのは7号住居社のみだが、記載内容と遺構図から焼失建物と判断した。

### 第3節 塩部遺跡の木製品について

今回の調査区では多様な木製品が出土した。刳物容器の槽や横槌、椅子、曲物などの生活道具に加え両端にホゾを施した建築部材、導水施設の樋など大形の木製品もあり、全て古墳時代後期の流路SD1の下層から出土したものである。山梨県内では出土例が希少で、各遺物の詳細な検討が必要だが、その前提として、これまでの塩部遺跡の発掘調査で出土した木製品の出土状況について概観しておきたい。

『塩部遺跡』1996 報告書に掲載された木製品は150点である。主な出土地点はNUMA、KAWA2とされた奈良・平安時代の流路である。板状・棒状の木製品が大半を占めるが皿・椀・曲物・下駄の他、人形木製品2点、齋串36点が出土している。人形木製品のうちの1点は墨書で顔が描かれる。報告書では人形木製品と齋串を律令期祭祀具と位置づけ考察している。

『塩部遺跡Ⅰ』2004 報告書に掲載された木製品は13点で、全て1号溝跡から出土したものである。板状の木製品の他、端部に加工を施した棒状の木製品が出土している。下層の黒色土層から多量の土器に伴って出土しており、古墳時代中期の時期を主体とする。

『塩部遺跡Ⅱ』2005 報告書に掲載された木製品は65点である。24号溝跡で15点、1号方形周溝墓で40点とその大半を占める。24号溝で織機部材とみられるものが3点、1号方形周溝墓で二又鍬が1点出土している。24号溝は集落の環濠の可能性が指摘される溝である。覆土中位に周辺の火災処理に伴うとみられる炭化物層が堆積し、この層から多量の土器・木製品が出土した。多くは二次被熱している。時期は弥生時代末である。1号方形周溝墓では、二又鍬の他に金属で削られたとみられる板状・棒状の木製品が出土した。方形周溝墓の造営に関わる遺物と考えられている。時期は古墳時代初頭である。

『塩部遺跡』2010 報告書に掲載された木製品は2点である。いずれも4号溝から出土した板状木製品である。出土遺物の時期は古墳時代から平安時代である。

『塩部遺跡Ⅲ』2019 本報告書で図示した木製品は71点である(第170～176図)。71点のうち14点には炭化部位が観察された。69～76は容器や工具など日常の生活道具とみられるものである。77は当初、弓と考えたが一端部を穿孔しており何かの部品となる可能性が高い。78・79は栓と報告する例もあるが、材と材を接合するための部品か。84～90は板状の材の一端部を尖らせたもので齋串とした。132は両端にホゾを切った部材で、建物の建築材か。長さは3.03mである。133は木樋である。出土時点の残存長は2.7mであった。幅14cmの丸太状の材を断面コの字形に刳り抜いたものである。これらの木製品はいずれもSD1の底面付近で出土した。出土地点は流路の湾曲部にあたるため、投棄された木製品が湾曲部で滞留して溜まったものと推測する。時期は、同じ層位の出土土器、上層の土器も古墳時代後期で、県史古墳編年ではX期段階にほぼ限定される。またこれらの遺物は隣接する集落から投棄されたものと考えたが、今回の調査で検出した集落にX期段階の建物はほとんど無く、これまでの塩部遺跡の調査でもあまり検出されていない。

塩部遺跡全体ではこれまでに弥生時代末から古墳時代初頭、古墳中期、奈良・平安時代のそれぞれの段階の木製品が報告されており、そこに今回の古墳後期の資料が新しく加わったこととなる。日常生活の道具に加え、齋串状の製品、建築部材や木樋など多様な木製品がまとまって出土しており、時期もほぼ限定される。古墳時代の塩部集落に暮らした人々の生活様式を検討する上で又とない貴重な資料である。引き続き、個々の遺物に詳細な検討を加え、塩部集落のどこで使用されたものかも解明していく必要がある。

#### 引用・参考文献

小学館 2003『考古資料大観 木・繊維製品』

甲府市教育委員会 2010『塩部遺跡』甲府市文化財調査報告53

※『塩部遺跡』1996、『塩部遺跡Ⅰ』1994、『塩部遺跡Ⅱ』2005は第2節の引用・参考文献参照。また塩部Ⅲは本報告書である。

#### 第4節 塩部遺跡出土植物種子とウシ骨についての一所見

各遺構の炭化物層や焼土層サンプルを水洗選別し、種子類や骨片等を抽出した。これらを株式会社パレオ・ラボにお願いして同定・分析を行った。その成果は「第5章自然科学分析」にて報告されたとおりである。ここではその成果をもとに現状での意義と課題について若干の検討を行う

##### 1 種子類について

佐々木由香氏、バンダリ・スダルシャン氏による「塩部遺跡集落内の遺構から出土した大型植物遺体分析」表1～表5から分かるように竪穴建物や溝等から多くの種子類が確認された。特にS I 10からは多くのイネを始めとしてヒエ属やダイズ属・エンドウ属等のマメ類、モモ、ブドウ属、シソ属等が報告された。この遺構は古墳時代前期の竪穴建物で、火災を受けたらしく壁面に沿うように炭化材や炭化物・焼土を含む層が土手状に堆積していた。調査担当者は焼け落ちた屋根或いは壁材を想定している。この壁際を土手状に巡っている焼失層の北東辺、南東辺、南西辺、北西辺からそれぞれサンプルを採取し、水洗選別を行なった。その結果各辺のサンプルから上記の炭化種子が抽出されており、南西を除いた各辺とも種子類構成に共通性があることから、古墳時代前期の種子類として確実性は高いものと認められる。イネとともにダイズ属等のマメ類がみられることには注目したい。特にエンドウ属については佐々木氏の報告では古墳時代以前の確実な例がないとのことで時期の確認が求められている。しかし上記のとおり他の炭化種子と同じ地点からの抽出品であり時期的には問題ないと思われる。S I 10以外に同じ前期であるS I 40からもエンドウ属を抽出しており、この時期にイネ等の穀類や豆類がセットとして栽培されていた可能性は高い。

後世の攪乱が少ない流路であるSD1内堆積土から抽出した種子類にも注目したい。ここには複数のモモ核を始めスモモ、オニグルミがあり、ダイズ属に加えてスイカ、メロン仲間、ヒョウタン仲間等のウリ類も抽出されている。炭化種子もあるが多くは種子および核のままであり、やはり水流の関係で保存状況が良かったものと思われる。なおSD1では花粉等の分析用として採取した土壌サンプルからも、パレオ・ラボにての水洗選別によって種子類が検出されている（「塩部遺跡の河川跡（SD1）における大型植物遺体分析」参照）。多くは河川周辺の草本植物であるが、イネやメロン仲間等の栽培植物もわずかながら含まれ、ブドウ属やサンショウ等も見られた。

次にブドウ属についてもふれておく。山梨県内の出土例には南アルプス市大師東丹保遺跡から弥生中期3点、鎌倉～室町59点がある（山梨県教育委員会1997）。これらは野生とみられ、当時の環境を考える上で参考となる。一方、人が食用等に利用したかどうかは不明であるものの、その関わりは大きな課題といえる。ちなみに山梨はブドウの産地としてよく知られており、栽培起源についても上野晴朗氏による詳細な研究があり、法菓の一種として仏教の伝来と共に日本にやってきた可能性が説かれている（上野1962）。このような栽培種以前の状況を考える上で塩部遺跡の事例も参考となるが、現生種の混入についても慎重な検討が必要である。佐々木氏の報告ではブドウ属Aとブドウとの二種類に分類し、前者をヤマブドウ以外の野生ブドウ属とし、エビヅルの可能性も考えられるとのことである。後者については大きさ・形態から栽培種のブドウと同定した。まずブドウ属Aについてみると、焼失住居であるS I 10からイネやモモ等と共に炭化物として出土していることから遺構に伴うものとしてよからう。また流路SD1堆積土中の種子も当時のものがパックされた状態で見なされる。ブドウと同定された種子についてはS I 27、S I 38、S I 40、S Y 3（S I 22内焼土）から出土しているが、生の種子であるとともに大きさや形状から現生栽培種の混入品の可能性が考えられる。特にS I 38例は近世以降の水田床土直下の焼土層出土、S I 40例は集石からの出土という点も考慮したい。なお本遺跡の上流地域の一つである山宮地区は江戸時代からのブドウ栽培地でもある。

このような状況にあってS I 10出土ブドウ属Aの事例は、栽培植物であるイネやモモ、マメ類とともに出土しており同時性のみならず有用植物としての位置づけを考える上で重要と言える。またエビヅル（エビカズラ）

も含めた蔓性植物については、古事記黄泉国の項にもあるように穢れを払い邪気を防ぐ役割があったことも考える必要があろう（新津 2017）。

## 2 動物骨について

中村賢太郎氏「塩部遺跡から出土した動物遺体」の報告ではイノシシ、シカ、ウシ、コイが同定されている（表 1）。このうちウシについてふれる。

ウシと同定されたのは全て臼歯を含む歯の破片であるが、古墳時代前期の竪穴建物 S I 7b・13、中期の 7a・32、中期～後期の 5・24・27・28 や前期の土器を多く含む溝 SD17 からの抽出であり、古墳時代の遺物として見てよい。中村氏は家畜として飼われていた可能性を報告している。

山梨県内でのウシの出土については南アルプス市百々遺跡がよく知られる。この遺跡からは骨や歯が出土しており確実なものとして 37 個体を数え、同時にウマも 45 個体ありウシ・ウマ区別不明も加えて総数 100 個体以上と報告されている（今福 2004b）。時期は 9 世紀前半から 12 世紀であり、ウシ・ウマともに祭祀に関わるような出土状況が窺われ、疫病対策や雨乞い等を含む殺牛馬儀礼が考えられている。ウマについては埋葬状況も報告されている。またウシの用途については古代甲斐国に課せられた税・貢物に「牛皮」とチーズに類する「蘇」があることから、今福氏はこれらの前提としてのウシの存在を考えている（今福 2004a）。百々遺跡一帯は中世の八田牧とされ、馬飼育の場であったことが推測されているが、平安時代に遡ってウシも伴いながら飼育が行なわれていた可能性が極めて強いことが指摘されている。

塩部遺跡のウシは百々遺跡例をさらに 400 年以上遡る、律令時代以前の古墳時代前期から中期の事例である。少ない個体数とはいえ複数の遺構から出土していることは、塩部集落において飼育されていた可能性は高いと思われる。加えて、今回の調査区の北に接する 1994 年の発掘調査では 4 世紀後半の方形周溝墓からウマの歯がまとまって出土しており（山梨県教育委員会 1996）、古墳時代前期にウシとウマとが塩部集落において飼われていたことになる。この時期のウマとしては甲斐国古墳発生の曾根丘陵地域である甲府市東山北遺跡の方形周溝墓からも出土しており（山梨県教育委員会 1993）、墓との関わりが強いことが考えられる。全国例では後期古墳にウシ埴輪も見られるが、集落遺跡からウシが出土することの意味も考えねばならない。牛革や蘇がこの時期にも求められていたのであろうか。いずれにしても前期古墳が集中する甲府盆地南部の曾根丘陵地域と向かい合った盆地北部の塩部一帯に、ウシ・ウマを保有する集団が存在していた可能性が窺われ、大きな問題を提示したことになる。

## 引用文献

- 今福利恵 2004a 『百々遺跡 2・4』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 212 山梨県教育委員会他  
今福利恵 2004b 『百々遺跡 3・5』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 213 山梨県教育委員会他  
上野晴朗 1962 「勝沼町と葡萄の歴史」『勝沼町誌』勝沼町誌刊行委員会  
新津 健 2017 「文化的景観の視点からみた山梨の歴史環境（4）」～日川流域：勝沼周辺の歴史景観～  
『山梨県考古学協会誌』25 山梨県考古学協会  
山梨県教育委員会 1993 『東山北遺跡 -1 ～ 3 次 -』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 79  
山梨県教育委員会 1996 『塩部遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 123  
山梨県教育委員会 1997 『大師東丹保遺跡 I 区』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 131



調査区全景モザイク写真

図版 2



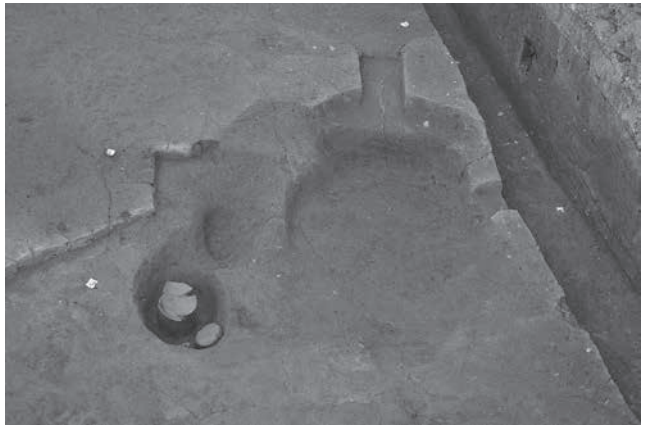
SI1 完掘 南から



SI1 カマド検出状況 南から



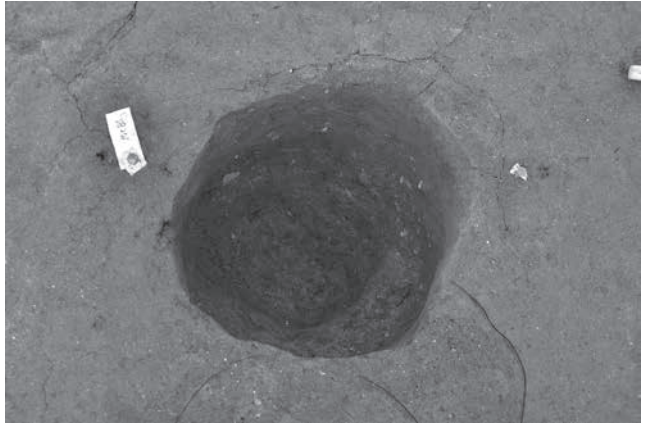
SI1 カマド遺物出土状況 南から



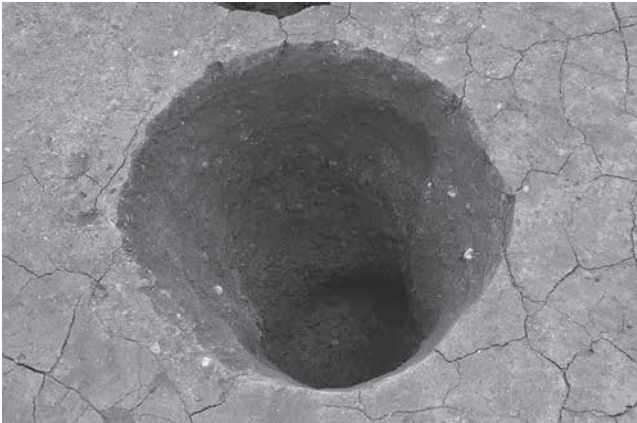
SI1 カマド堀方 南から



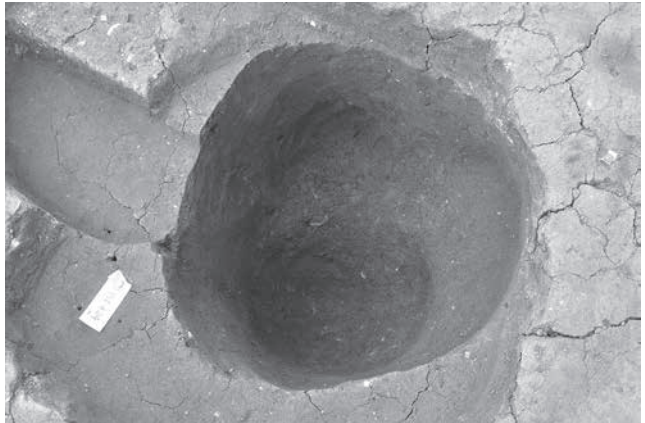
Pit80 (SI1 柱穴) 完掘 南から



Pit85 (SI1 柱穴) 完掘 南から



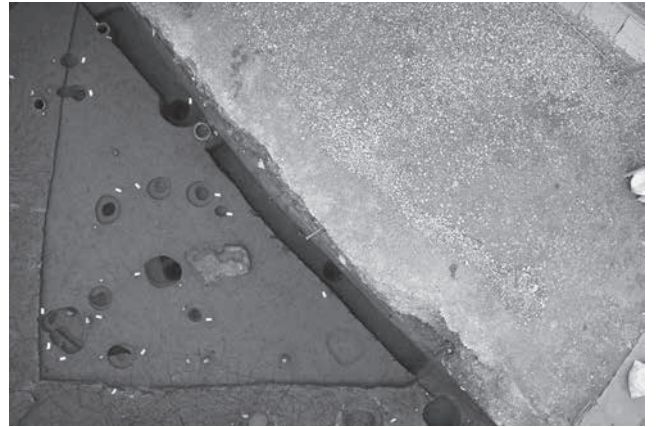
Pit419 (SI1 柱穴) 完掘 東から



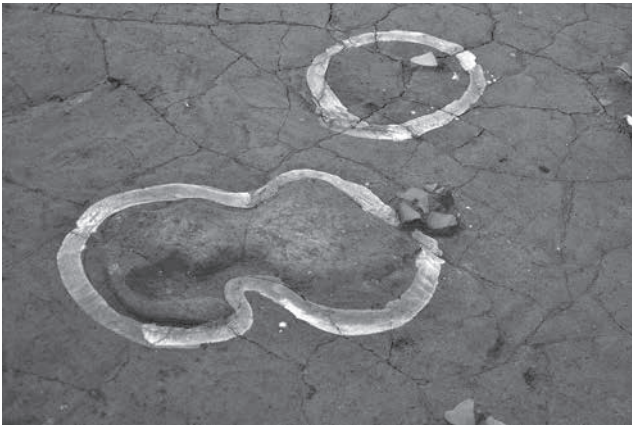
Pit424 (SI1 柱穴) 完掘 北から



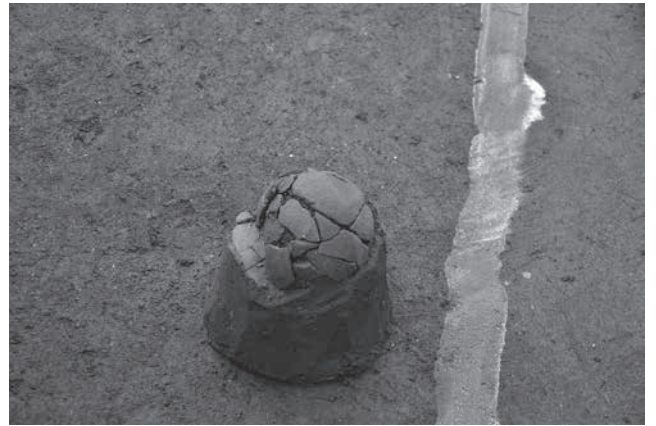
SI2 完掘 南から



SI2 完掘 北西から



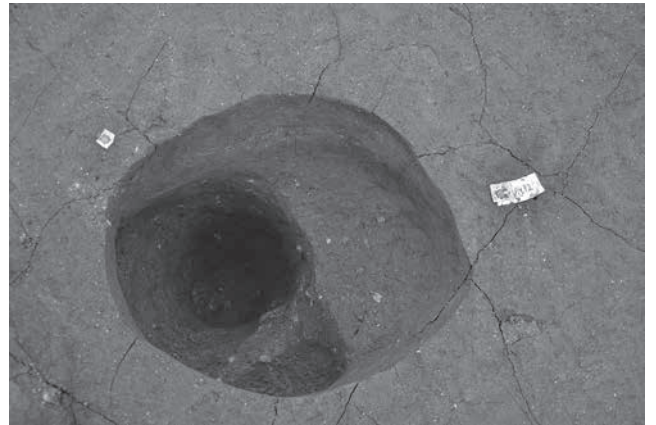
SI2 炉検出状況 南東から



SI2 遺物出土状況 南東から



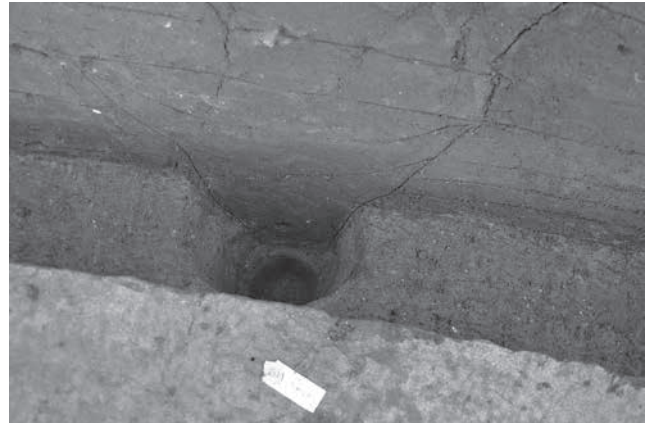
SI2 遺物出土状況 北東から



Pit92 (SI2 柱穴) 完掘 南から



Pit122 (SI2 柱穴) 完掘 北から



Pit123 (SI2 柱穴) 完掘 北から

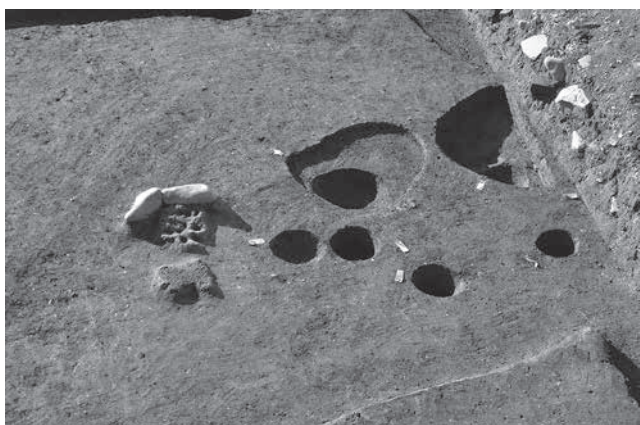
図版4



SI3 完掘 南西から



SI3 完掘 東から



SI3 炬検出状況 北から



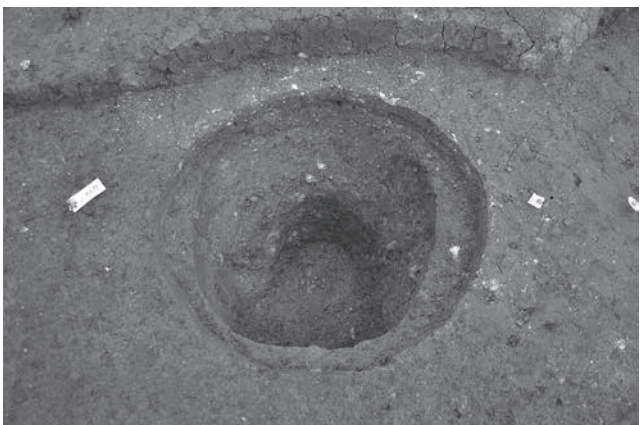
SK4 遺物出土状況 南から



Pit138 (SI3 柱穴) 遺物出土状況 北から



Pit138 (SI3 柱穴) 完掘 南から

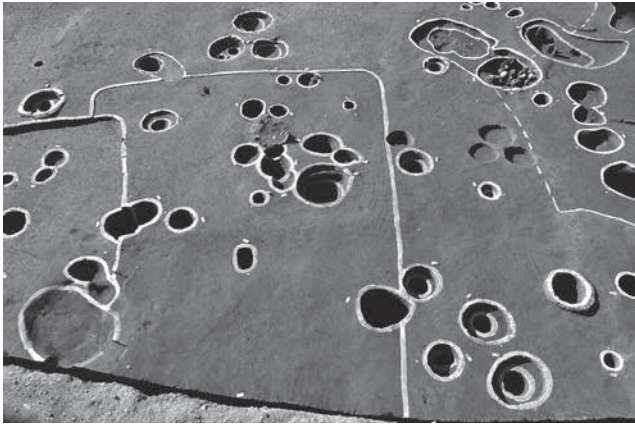


Pit77 (SI3 柱穴) 完掘 南から



Pit79 (SI3 柱穴) 完掘 北から





S14 完掘 東から



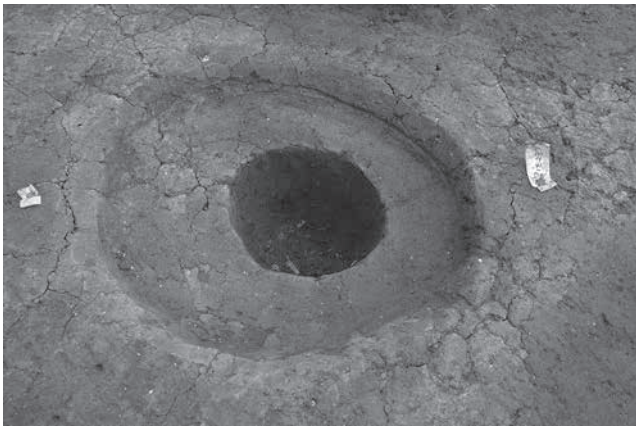
S14 炉検出状況 南から



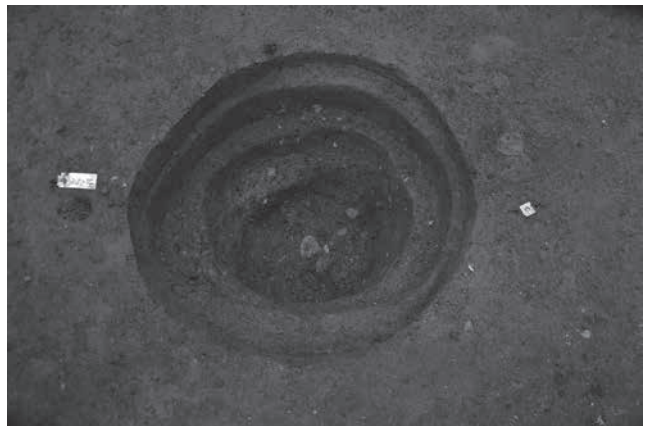
S14 遺物出土状況 北西から



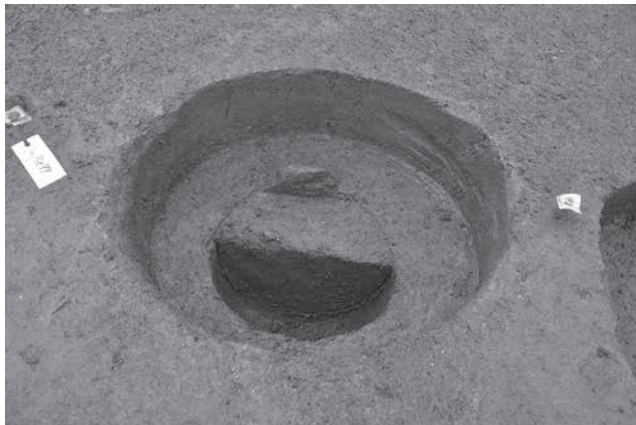
Pit140 (S14内) 遺物出土状況 西から



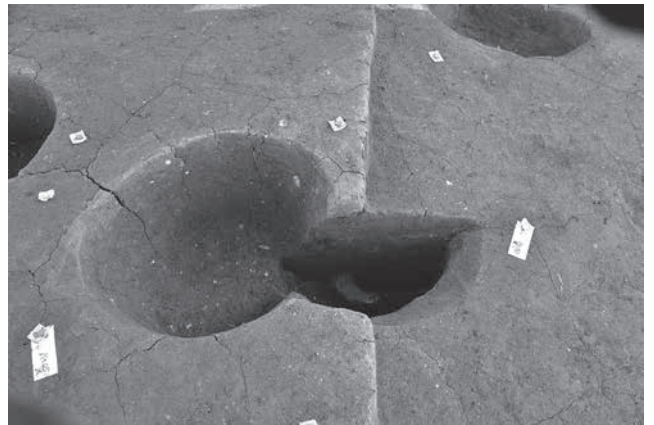
Pit23 (S14a 柱穴) 完掘 北から



Pit75 (S14a 柱穴) 完掘 西から



Pit99 (S14b 柱穴) セクション 南西から

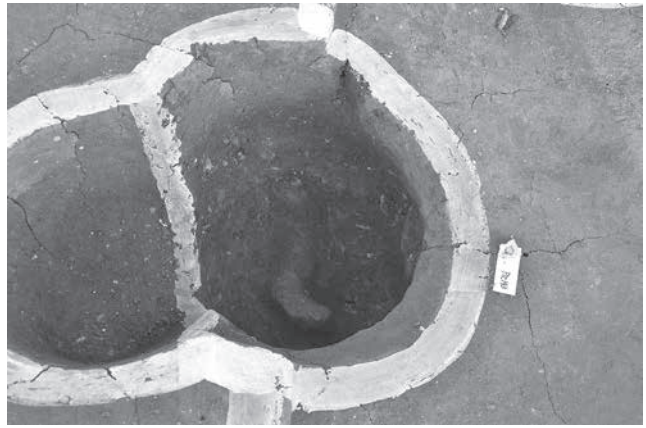


Pit125 (S14a 柱穴) 完掘 西から

図版 6



Pit130 (SI4b 柱穴) 遺物出土状況 西から



Pit143 (SI4b 柱穴) 粘土塊出土状況 西から



SI5 遺物出土状況 西から



SI5 遺物出土状況 東から



SI5 遺物出土状況 南東から



SI5 炉セクション 南から



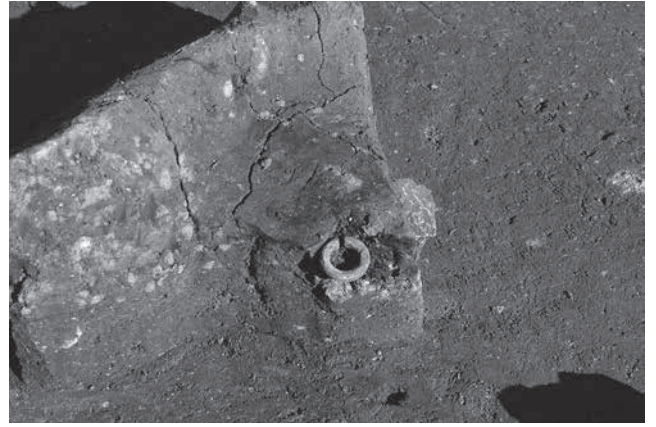
SI6 床面検出状況 南西から



SI6 掘方 西から



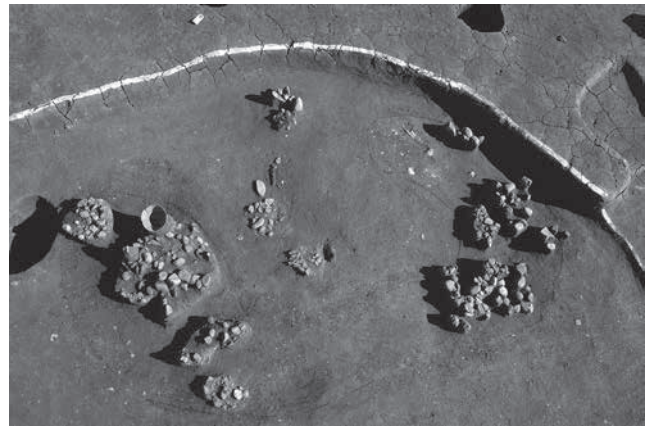
SI6 炉検出状況 西から



SI6 金環出土状況 西から



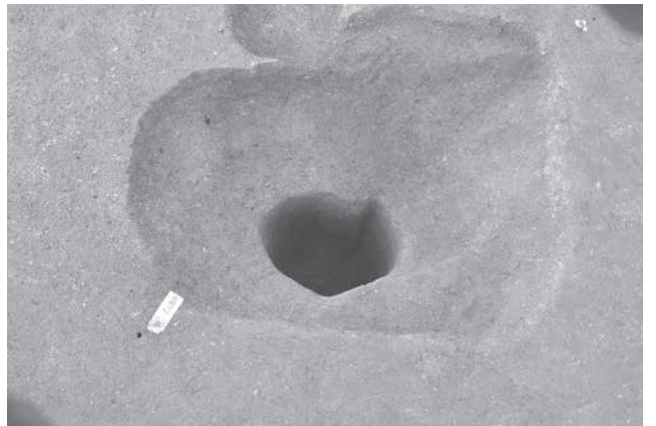
SI6 床面遺物出土状況 南東から



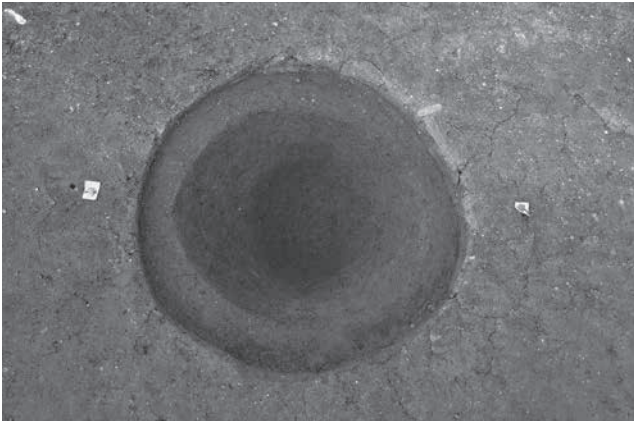
SI6 床面礫出土状況 西から



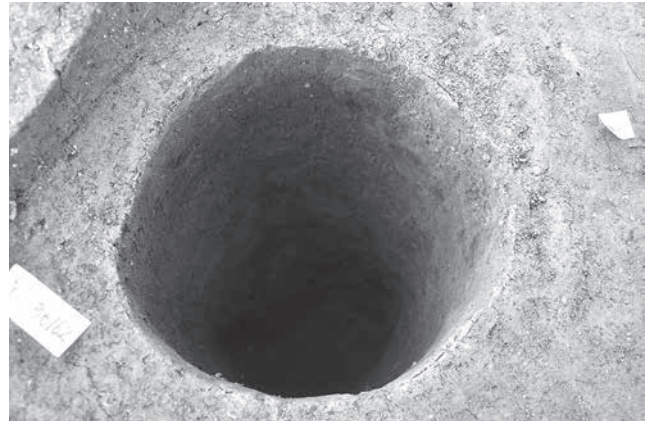
SI6 集石出土状況 南から



Pit160 (SI6 柱穴) 完掘 南から

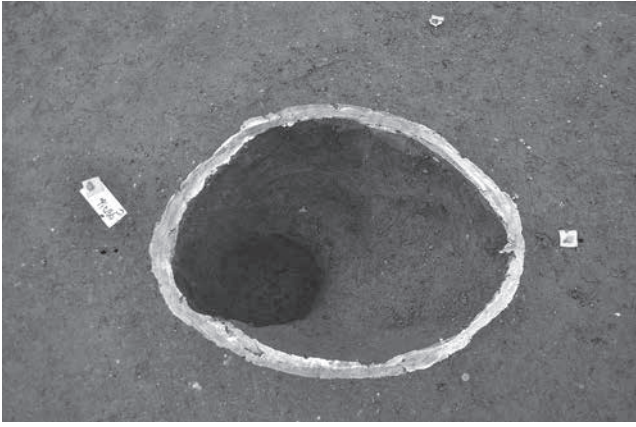


Pit161 (SI6 柱穴) 完掘 南から



Pit162 (SI6 柱穴) 完掘 南から

図版 8



Pit166 (SI6 柱穴) 完掘 東から



Pit163 (SI6 内) セクション 南から



SI7 掘方 南から



SI7b 炉・炭化材出土状況 東から



SI7a 遺物出土状況 北から



SI7a 遺物出土状況 北から



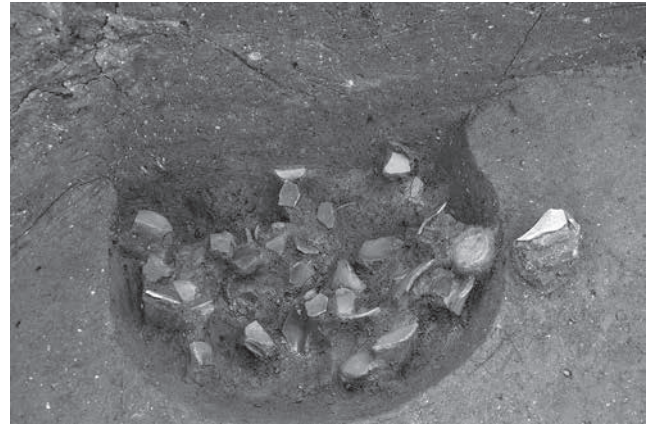
SI7a 土器集中部 北東から



SI7a 遺物出土状況 北から



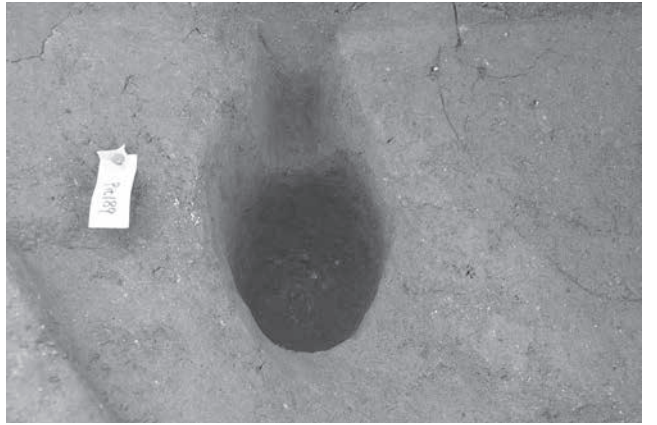
Pit181 上面 (SI7 内) 甑出土状況 南から



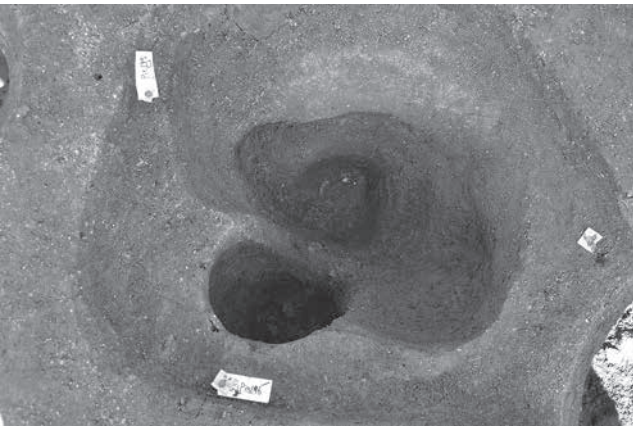
Pit180 (SI7 内) 遺物出土状況 北から



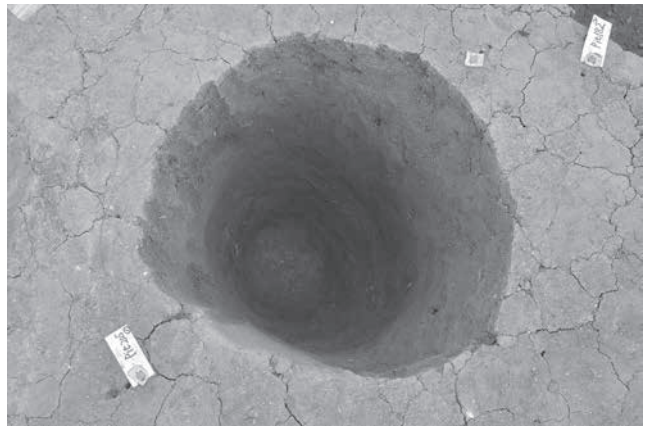
Pit182 (SI7 内) 遺物出土状況 東から



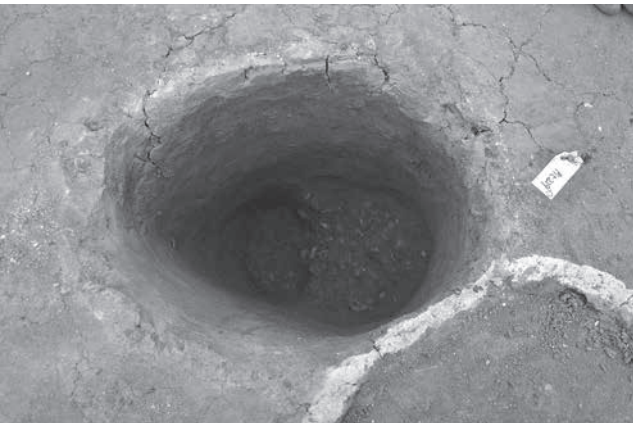
Pit189 (SI7b①柱穴) 完掘 東から



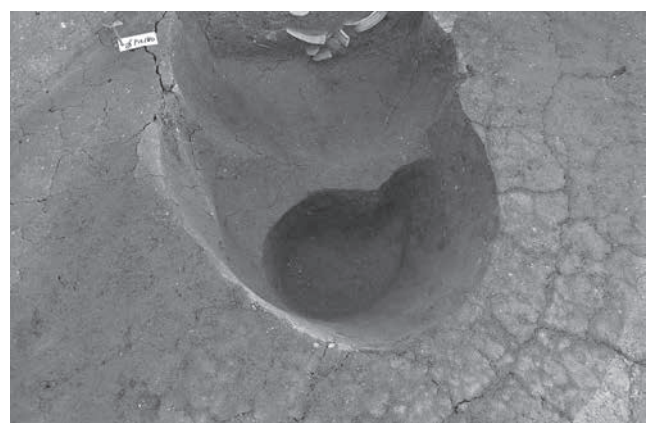
Pit195 (SI7b①柱穴) 完掘 南から



Pit205 (SI7b①柱穴) 完掘 西から



Pit229 (SI7b①柱穴) 完掘 南から



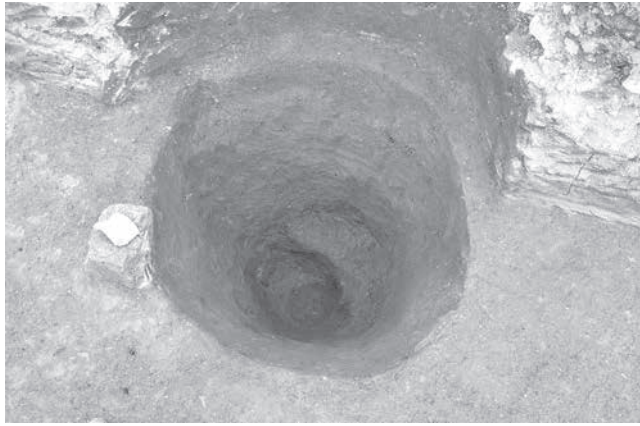
Pit184 (SI7b②柱穴) 完掘 北から



Pit197 (SI7b②柱穴) 完堀 南から



Pit245 (SI7b②柱穴)・246 セクション 南から



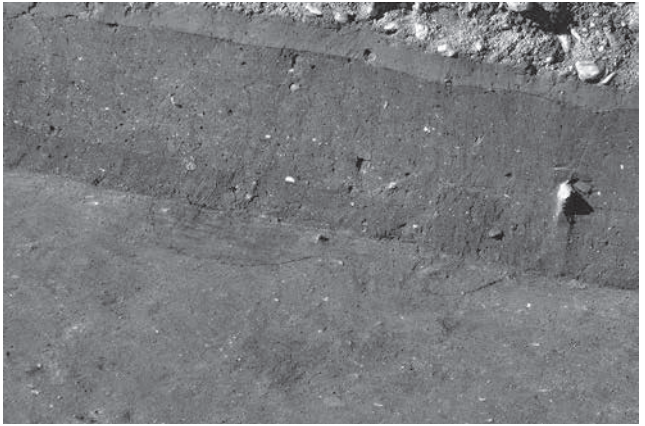
Pit584 (SI7b②柱穴) 東から



SK22 (SI7内) セクション 南東から



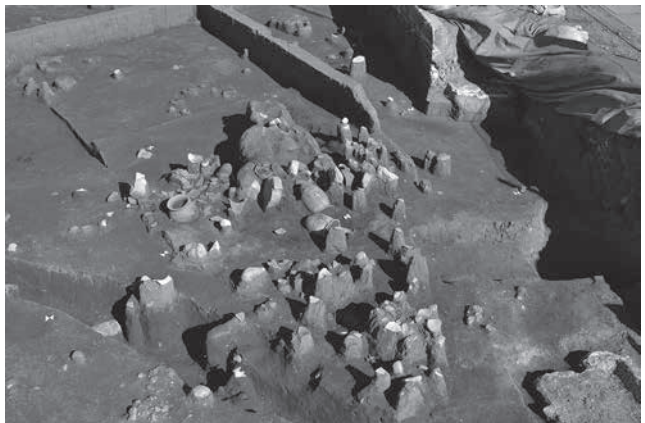
SI8 遺物出土状況 南東から



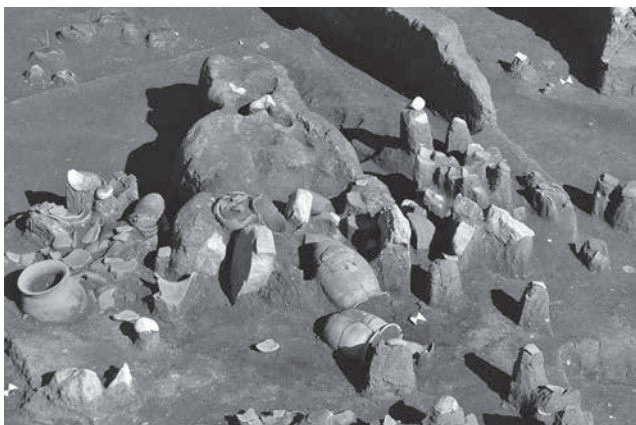
SI8 焼土検出状況 東から



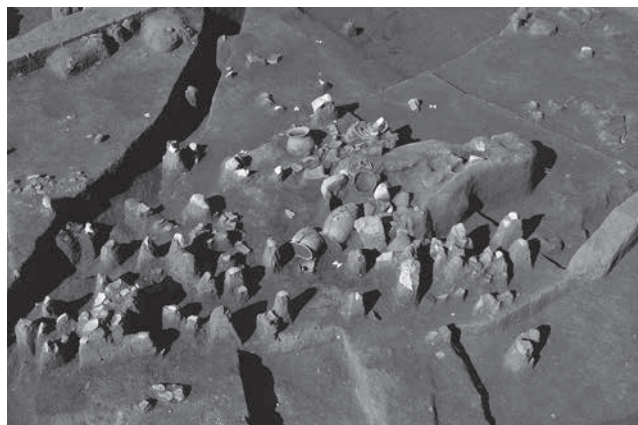
SI9 カマド遺物出土状況 南西から



SI9 カマド遺物出土状況 南から



SI9 カマド遺物出土状況 南から



SI9 カマド遺物出土状況 南東から



SI9 カマド遺物出土状況 南から



SI9 カマド断割 南から



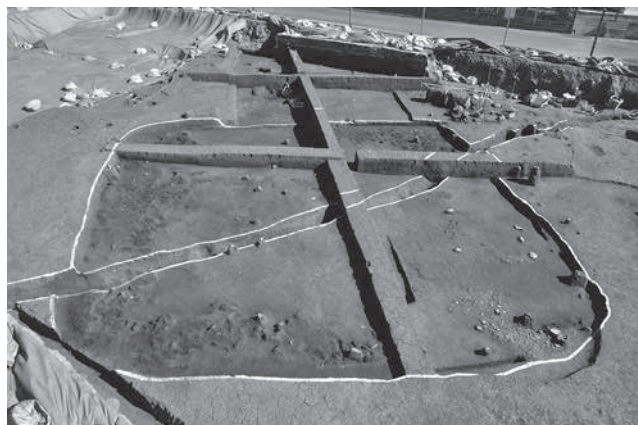
SI9 カマド断割 南から



SI9 カマド完堀 南から



SI10 床面検出状況 南から



SI10 炭化材検出状況 南西から



SI10 炭化材検出状況 東から



SI10 完掘 南から



SI10 炉検出状況 南東から



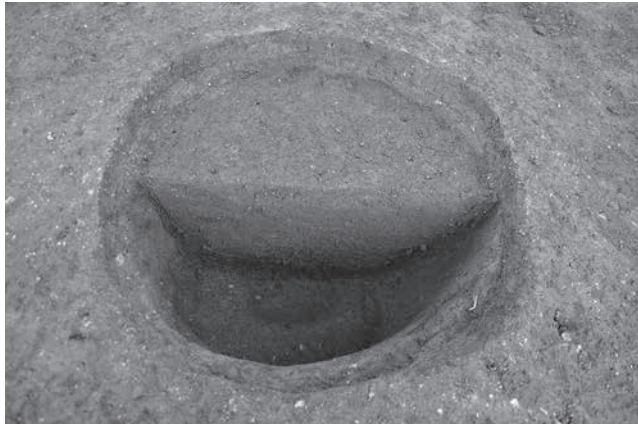
SI10 礫出土状況 西から



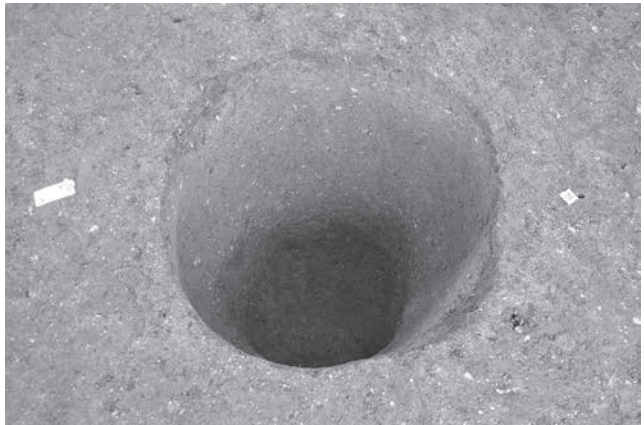
SI10 遺物出土状況 北東から



SK25 (SI10内) セクション 南から

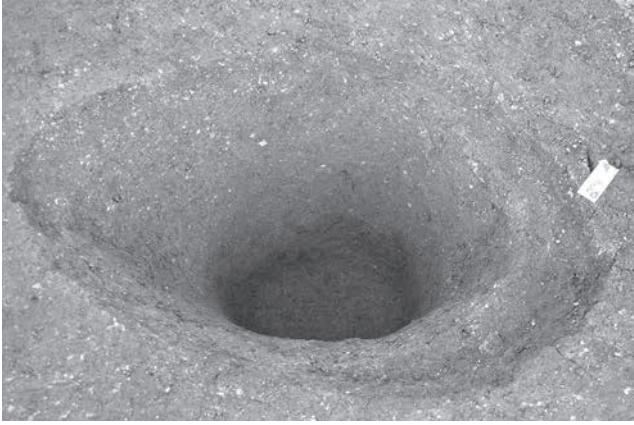


Pit201 (SI10a 柱穴) セクション 南から



Pit201 (SI10a 柱穴) 完掘 南から

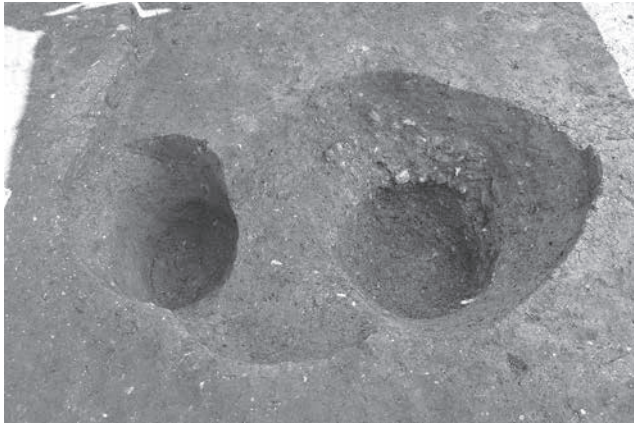




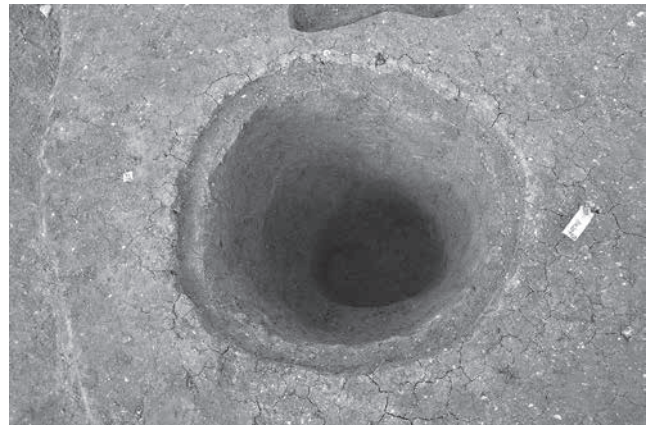
Pit202 (SI10a 柱穴) 完掘 南から



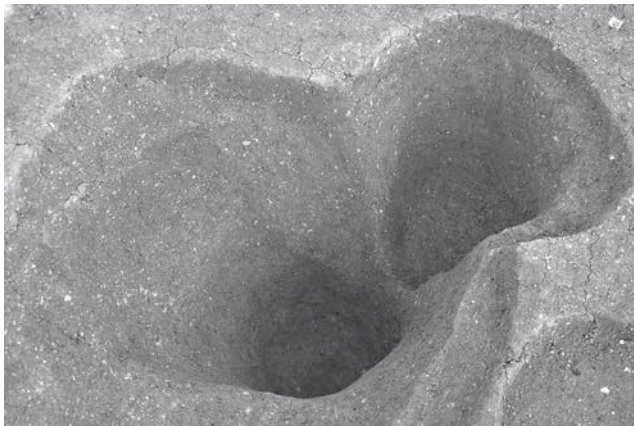
Pit203 (SI10a 柱穴) セクション 西から



Pit218・203 (SI10a 柱穴) 完掘 西から



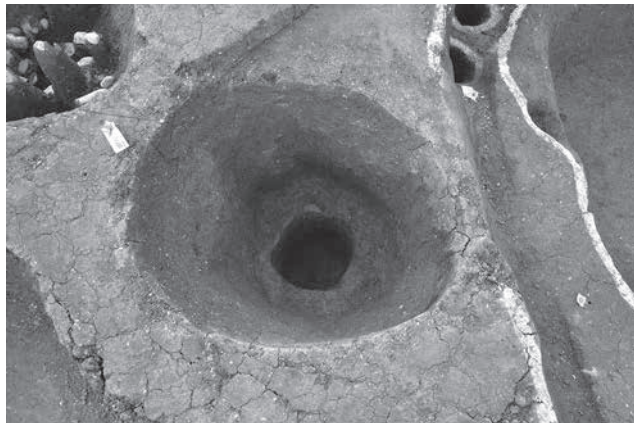
Pit204 (SI10a 柱穴) 完掘 南から



Pit210 (SI10b 柱穴) 完掘 西から



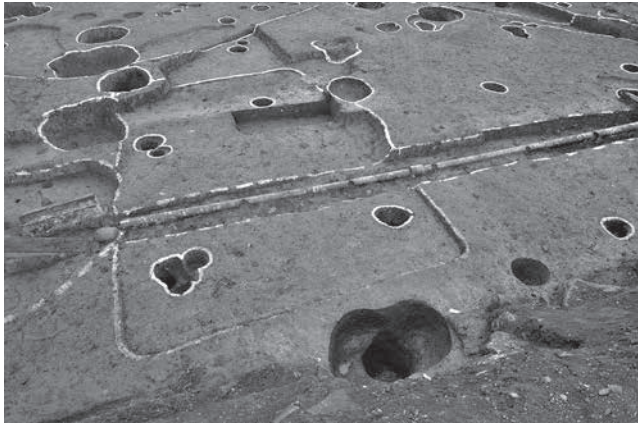
Pit211 (SI10b 柱穴) 完掘 西から



Pit230 (SI10b 柱穴) 完掘 東から



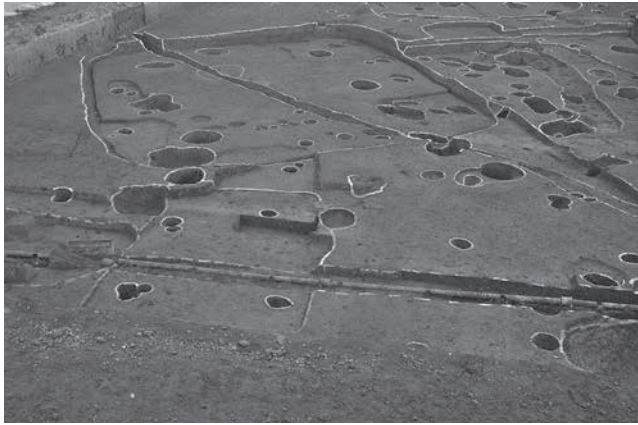
Pit259 (SI10b 柱穴) 遺物出土状況 南から



SI11 完掘 南から



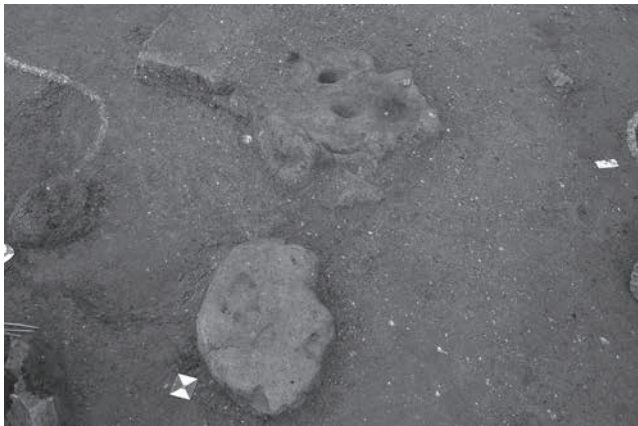
SI11 完掘 南西から



SI12a 完掘 南から



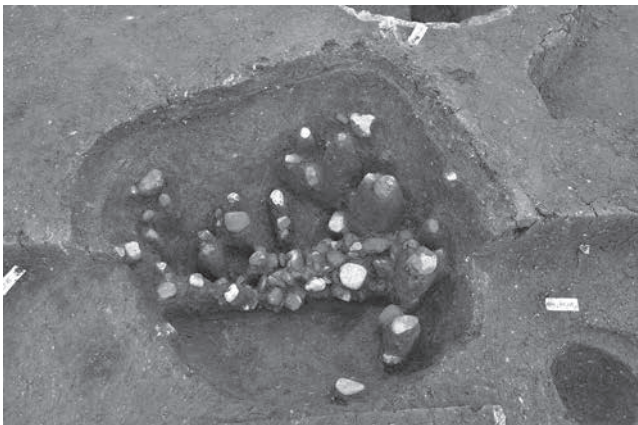
SI12b 完掘 南から



SI12a 炉検出状況 南から



SK27 (SI12 柱穴) セクション 南から



SK27 (SI12a 柱穴) 礫出土状況 南から



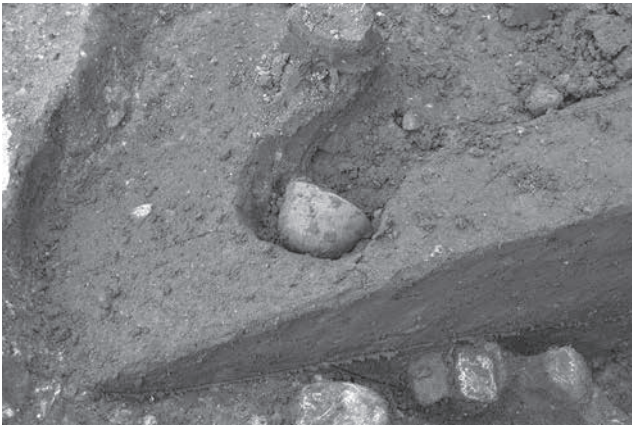
SK28 (SI12 内) 上面遺物出土状況 南から



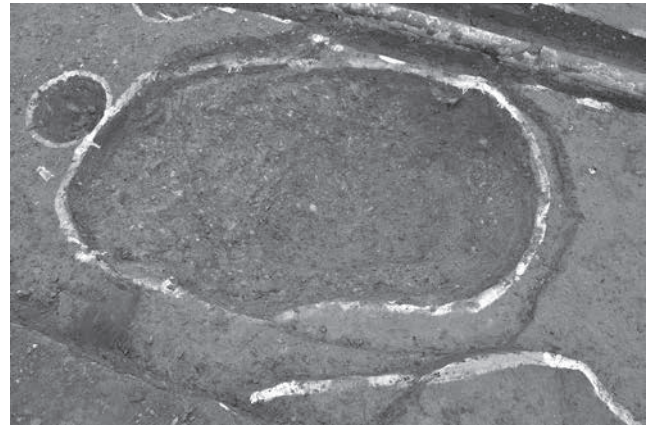
SK28 (SI12 内) セクション 南から



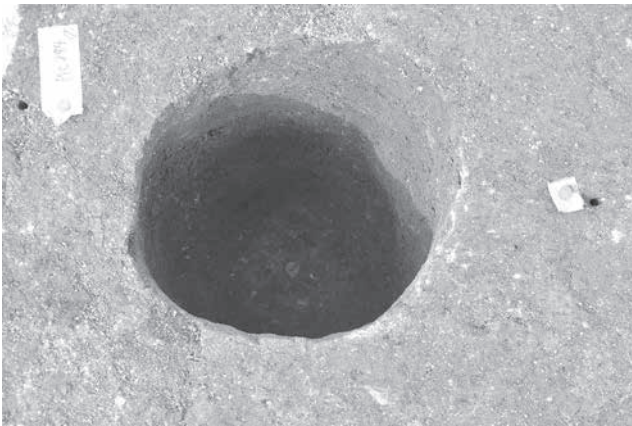
SK31 (SI12 内) セクション 南から



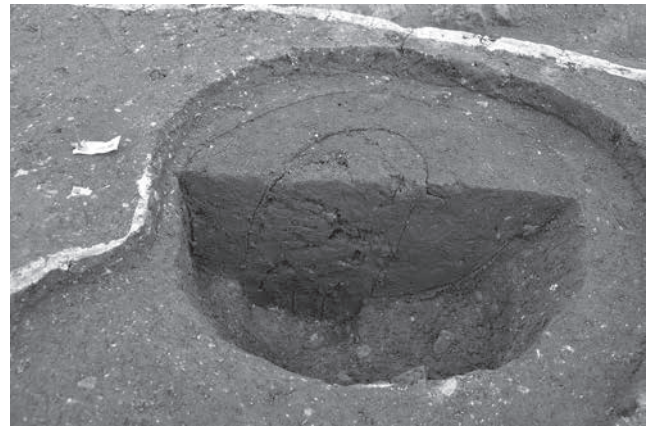
SK31 (SI12 内) 遺物出土状況 南から



SK31 (SI12 内) 完掘 南から



Pit244 (SI12b 柱穴) 完掘 南から



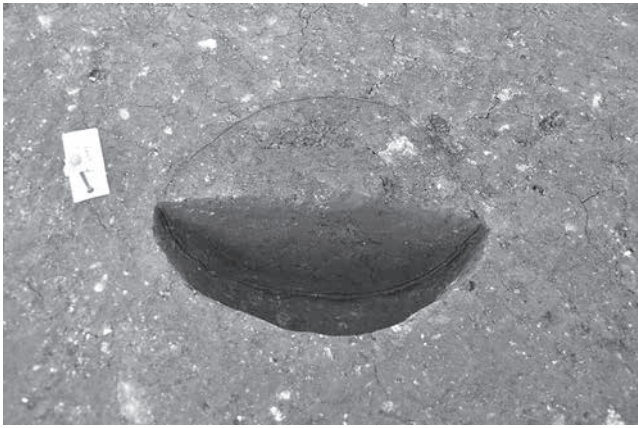
Pit248 (SI12a 柱穴) セクション 南西から



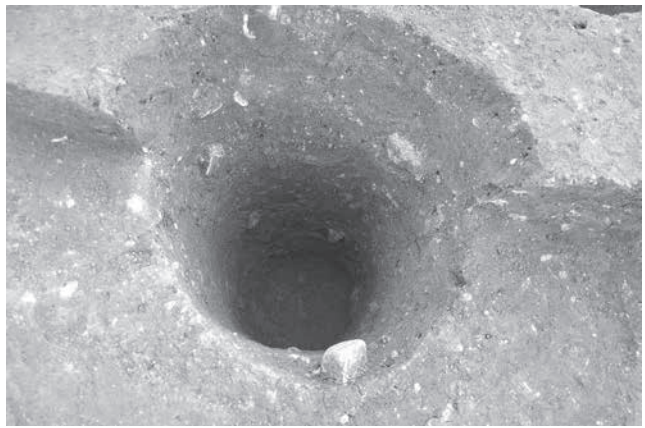
Pit250 (SI12b 柱穴) セクション 南から



Pit256・255 (SI12b 柱穴) セクション 南から



Pit257 (SI12b 柱穴) セクション 南から



Pit265 (SI12a 柱穴) 完掘 北から



Pit270 (SI12a 柱穴) 遺物出土状況 北から



Pit270 (SI12a 柱穴) 完掘 北から



SI13 セクション 北から



SI13 セクション 西から



SI13 遺物出土状況 西から



SI13 遺物出土状況 東から



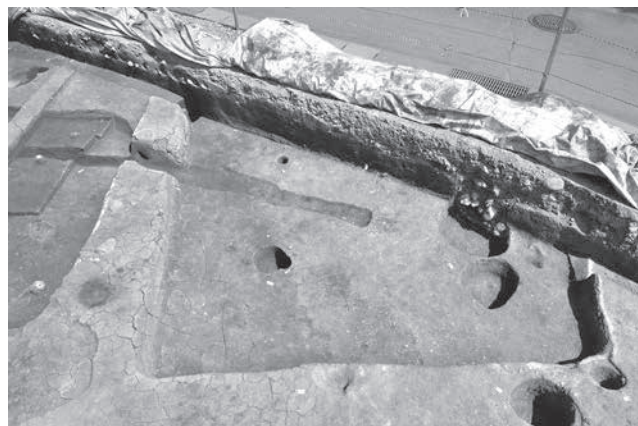
SI13 カマド完掘 南から



SI13 完掘 東から



SI13 完掘 北から



SI13 完掘 西から



SI14 セクション 南から



SI14 炉検出状況 西から



SI14 遺物出土状況 東から



SI14 完掘 南から



SI15・SI16 セクション 南から



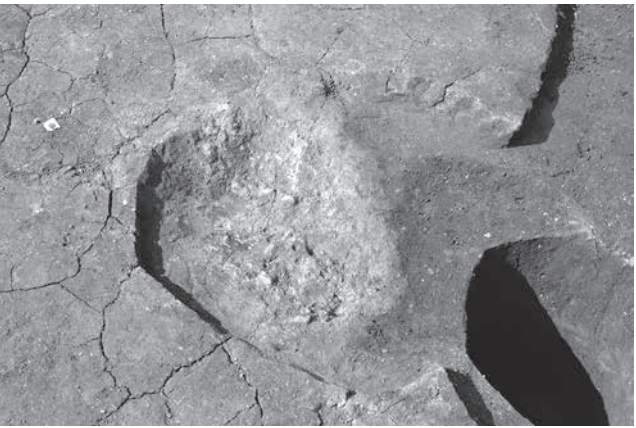
SI15 遺物出土状況 西から



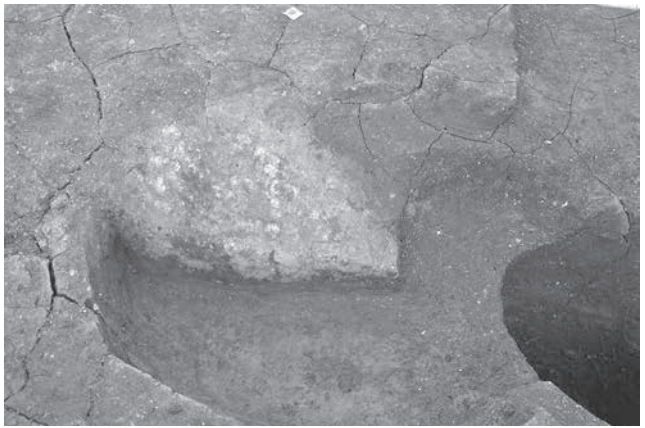
SI15 炉セクション 南から



SI15 炉遺物出土状況 南から



SI15 炉完掘 南から



SI15 炉火床部断割 南から



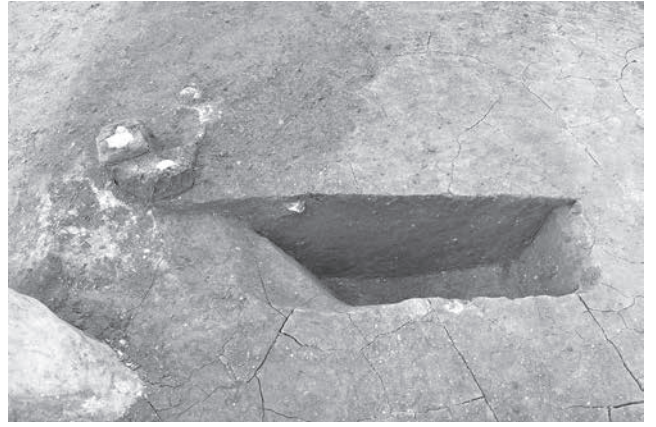
SI16 遺物出土状況 南から



SI16 遺物出土状況 東から



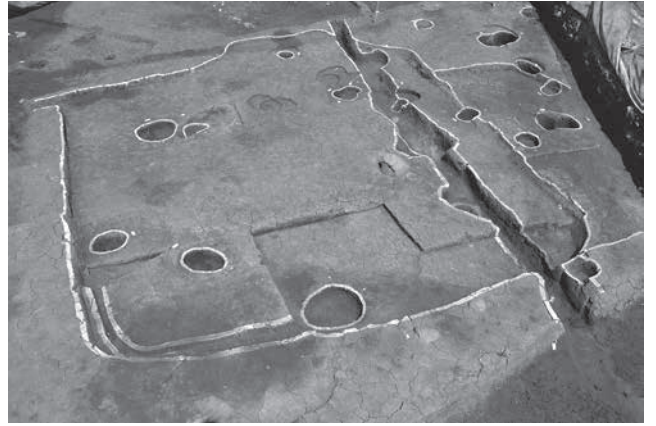
SI16 炉完掘 北から



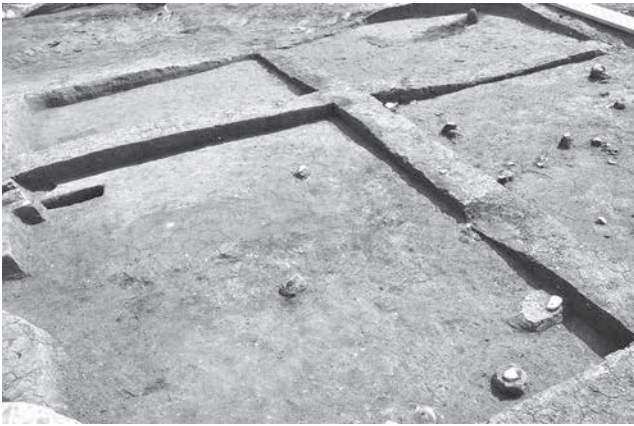
SI16 炉を切る SD14 南から



SI16 (Pit324) 遺物出土状況 東から



SI15・SI16 完掘 南から



SI17 セクション 西から



SI17 遺物出土状況 南から



SI17 (Pit355) D14 遺物出土状況 東から



SD14 完掘 SI17 を切る 南から

図版 20



SI17・SI18 完掘 南から



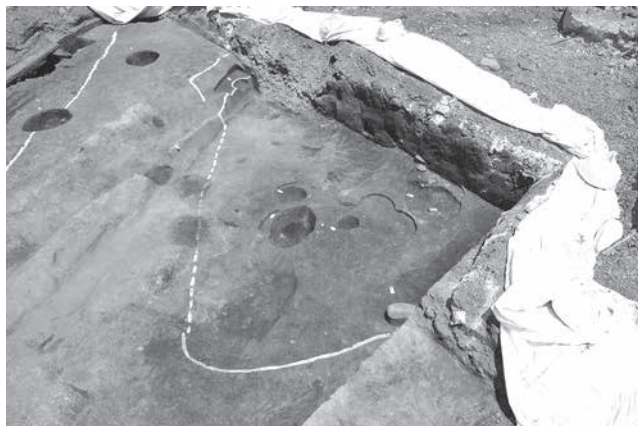
SI17・SI18 完掘 西から



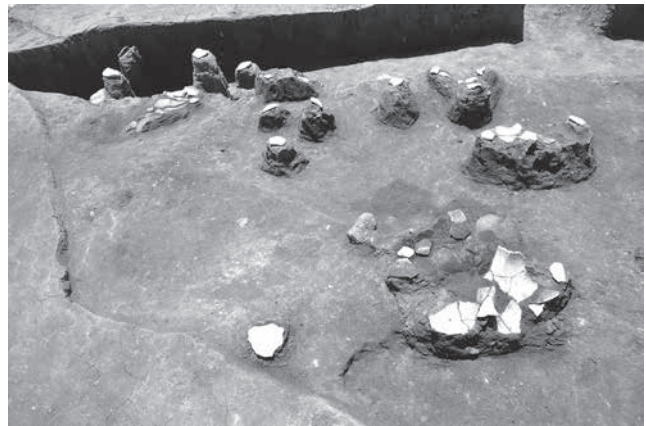
SI19 遺物出土状況 西から



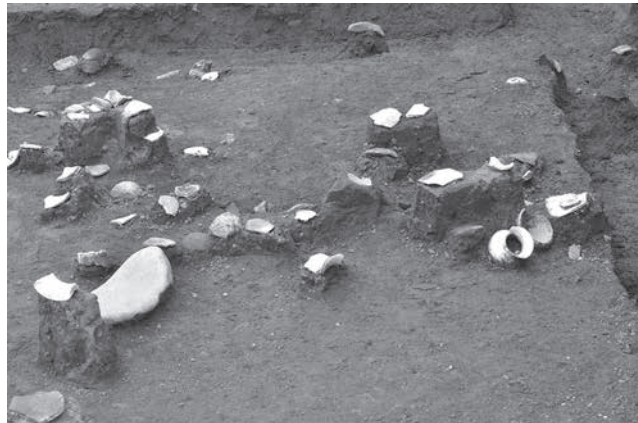
SI19 完掘 南から



SI19 完掘 東から



SI20 遺物出土状況 北から



SI20 遺物出土状況 西から



SI20・SI21 完掘 北から





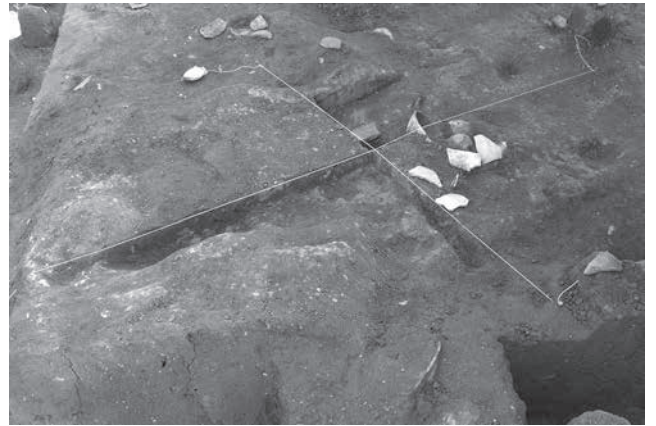
SI22 遺物出土状況 南から



SI22 遺物出土状況 北から



SI22 遺物出土状況 南から



SI22 カマドセクション 北から



SI22 カマド遺物出土状況 南から



SI22 カマド遺物出土状況 西から



SI22 カマド完掘 西から



SI22 完掘 西から



SI23 セクション 東から



SI23 遺物出土状況 南から



SI23 遺物出土状況 南から



SI23 遺物出土状況 西から



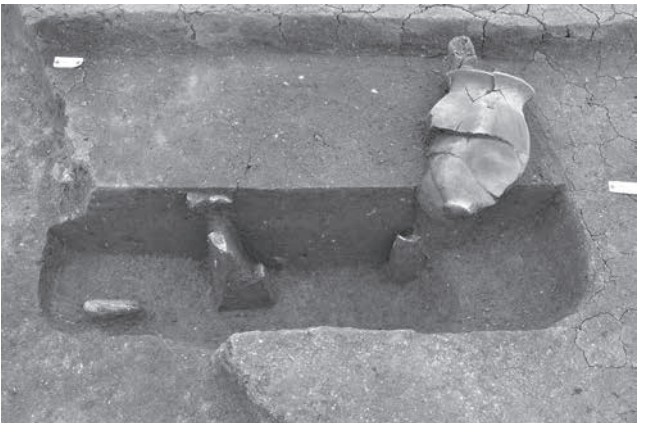
SI24 白玉出土状況 南から



SI24 セクション 南から



SI24 遺物出土状況 東から



SI24 (SK35) セクション 北から



SI24 (SK35) 遺物出土状況 東から



SI24 (SK35) 完掘 北から



SI25 遺物出土状況 西から



SI25 カマド遺物出土状況 西から



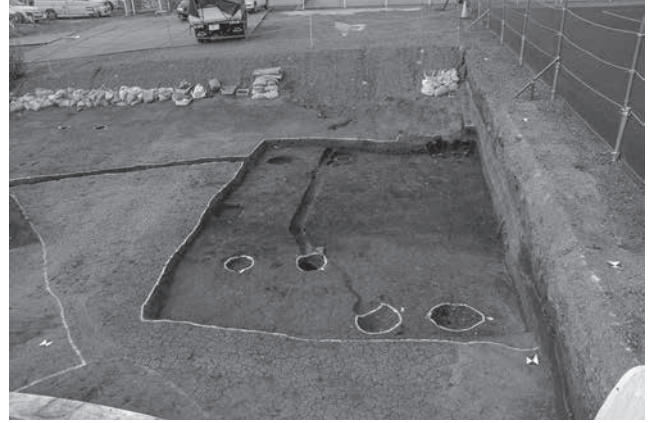
SI25 カマド完掘 南から



SI25 カマド完掘 南から



SI25 (SK43) 完掘 西から



SI25 完掘 南から



SI24・SI26 検出状況 西から



SI26 完掘 東から



SI27 管玉出土状況 北から



SI27 遺物出土状況 西から



SI27 遺物出土状況 北から



SI27 カマド遺物出土状況 西から



SI27 (SK38) セクション 南から



SI27 (SK39) 遺物出土状況 南から



SI27 カマドセクション 東から



SI27 カマド遺物出土状況 東から



SI27 カマド完掘 東から



SI27 完掘 東から



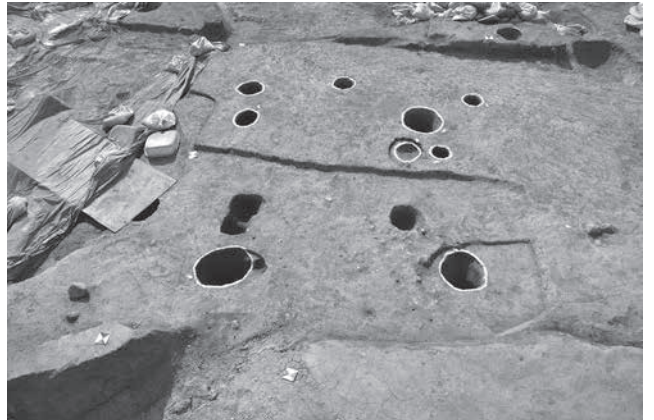
SI28 遺物出土状況 東から



SI28 遺物出土状況 西から



SI28 カマド検出状況 北から



SI28 完掘 東から



SI29 遺物出土状況 東から



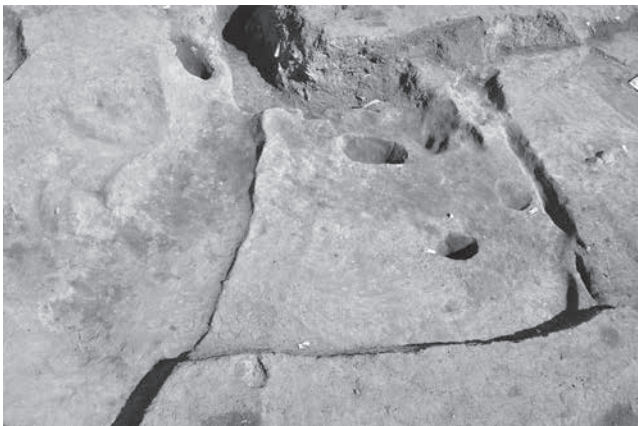
SI29 遺物出土状況 南から



SI30 遺物出土状況 東から



SI30 遺物出土状況 東から



SI30 完掘 西から



SI29・SI30 完掘 東から



SI31 遺物出土状況 西から



SI31 完掘 南から



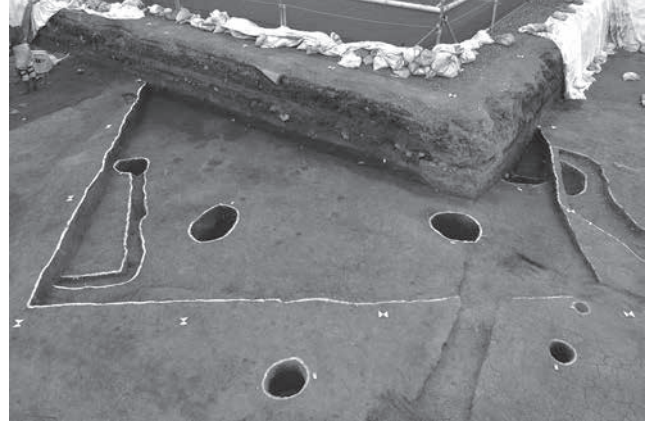
SI32 遺物出土状況 北から



SI32 遺物出土状況 西から



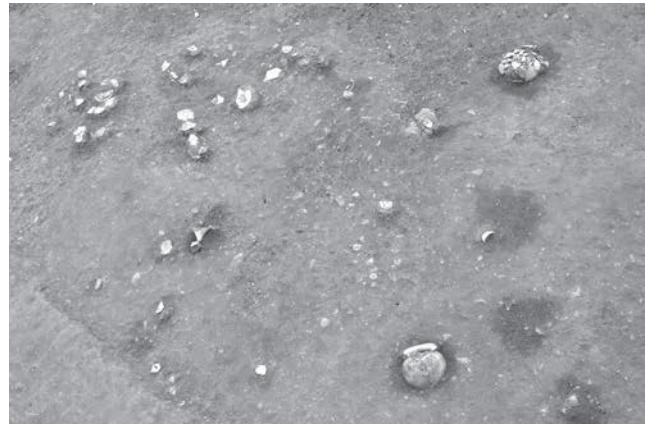
SI32・Pit554 完掘 南から



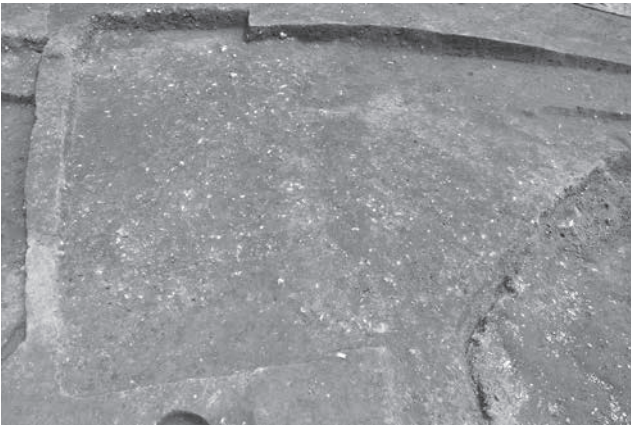
SI32 完掘 西から



SI33 セクション 東から



SI33 遺物出土状況 西から



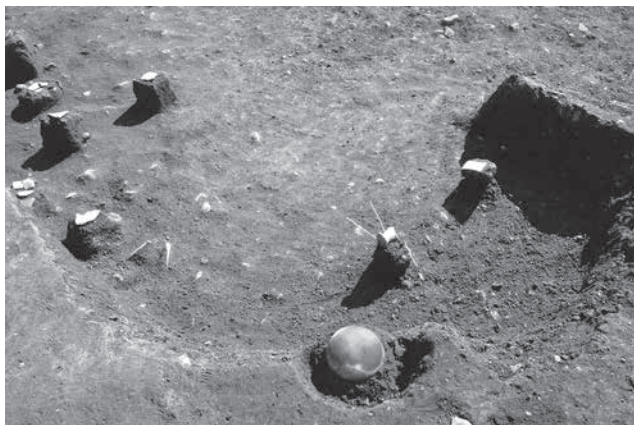
SI33 完掘 東から



SI34 完掘 東から



SI35 遺物出土状況 東から



SI35 遺物出土状況 北から



SI35 遺物出土状況 西から



SI35 遺物出土状況 北から



SI35 遺物出土状況 南から



SI35 完掘 西から



SI36 遺物出土状況 南から



SI35・SI36 完掘 南から





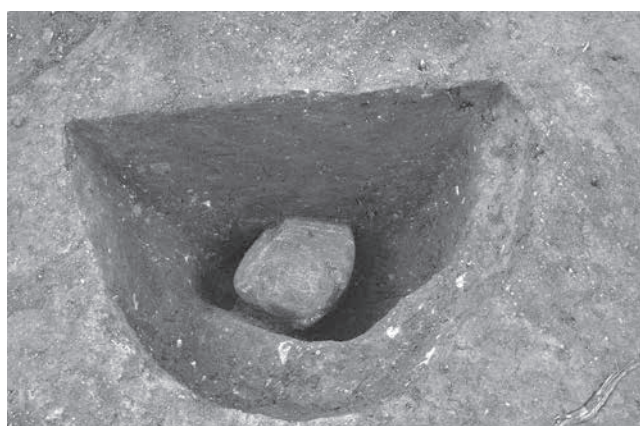
SI37 セクション 北から



SI37 セクション 北から



SI37 (Pit561) 遺物出土状況 東から



SI37 (Pit543) セクション 北から



SI37 カマド完掘 西から



SI37 完掘 東から



SI38 遺物出土状況 南から



SI38 完掘 西から



SI39 遺物出土状況 南から



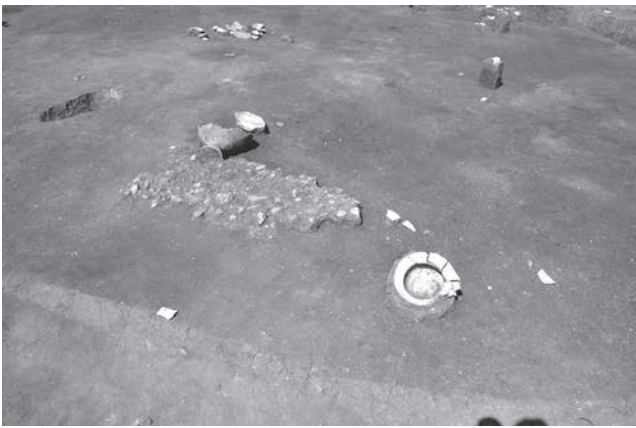
SI39 カマド完掘 南から



SI39 完掘 南から



SI39 完掘 北から



SI40 遺物出土状況 南から



SI40 炉検出状況 北から



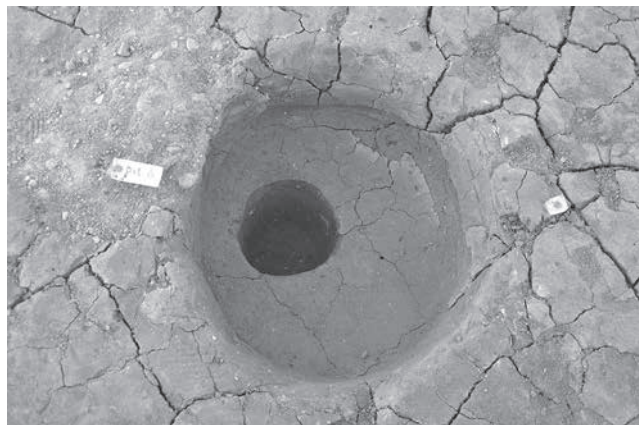
SI40 完掘 南から



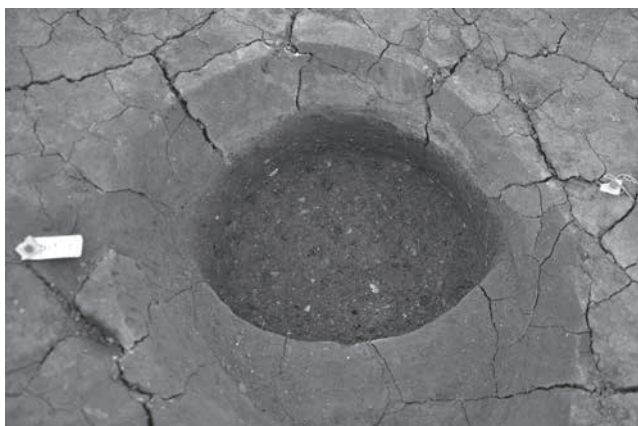
SI43 遺物出土状況 南から



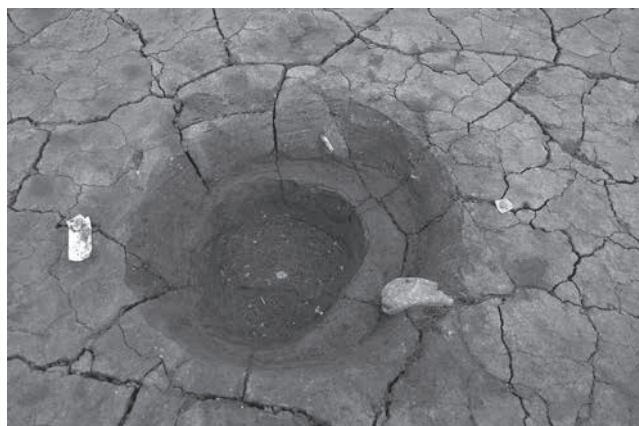
SB1 完掘 西から



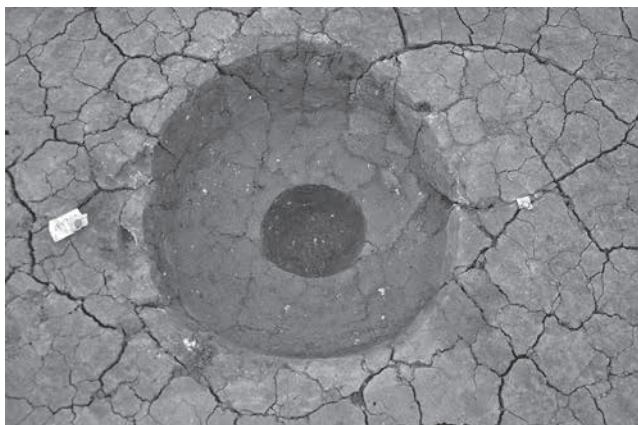
Pit6 (SB1 柱穴) 完掘 南から



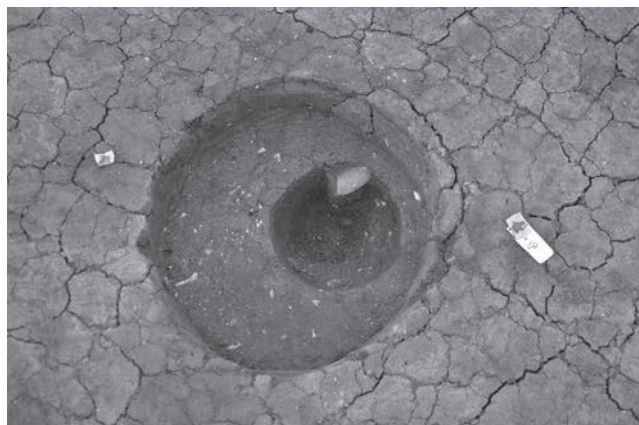
Pit9 (SB1 柱穴) 完掘 南から



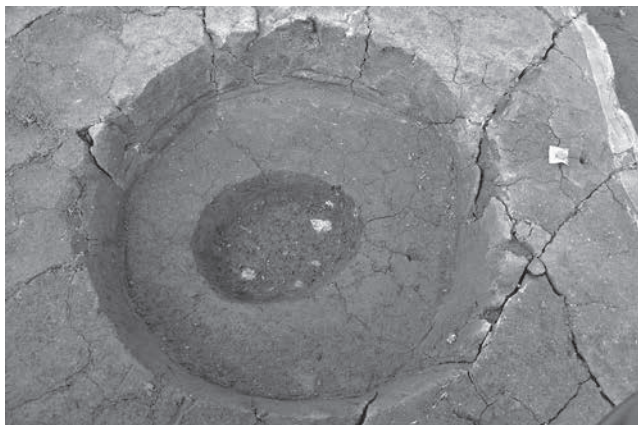
Pit11 (SB1 柱穴) 完掘 南から



Pit17 (SB1 柱穴) 完掘 南から



Pit18 (SB1 柱穴) 完掘 南から



Pit27 (SB1 柱穴) 完掘 南から



Pit55 (SB1 柱穴) セクション 南から



SB2 完掘 北から



SB2 完掘 東から



SB3・SB4 検出状況 北から



SB3 (SD23) セクション 東から



SB4 (SD24) セクション 南から



SB3 (SD23) 遺物出土状況 南から



SB4 (SD24) 遺物出土状況 南から



SB3 (SD23)・SB4 (SD24) 完掘 北から



SX2 完掘 西から



SX2 周辺遺物出土状況 西から



SX2 周辺遺物出土状況 南から



SX2 トレンチ遺物 西から



SX2 トレンチ完掘 西から



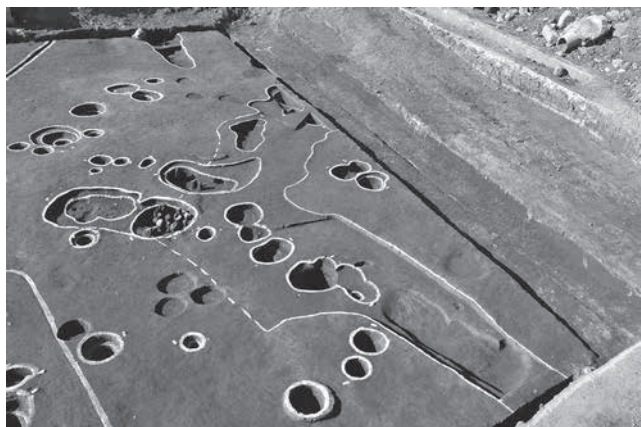
SX2 トレンチ完掘 北から



SX2 トレンチ完掘 南から



SX2 トレンチ完掘 南から



SX3 完掘 東から



SX3 焼土検出状況 北東から



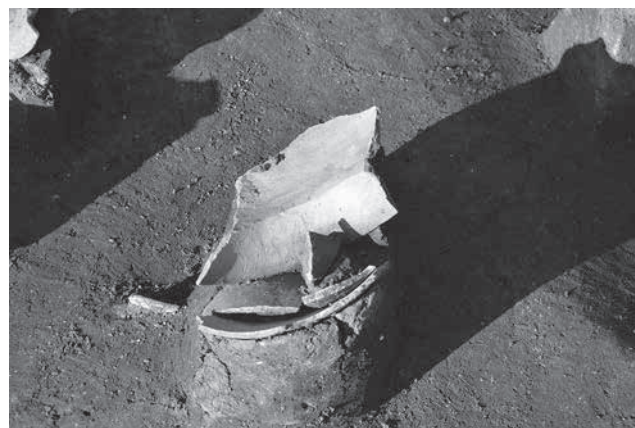
SX3 焼土検出状況 東から



SX3 焼土検出状況 北から



SX3 遺物出土状況 東から



SX3 遺物出土状況 南から



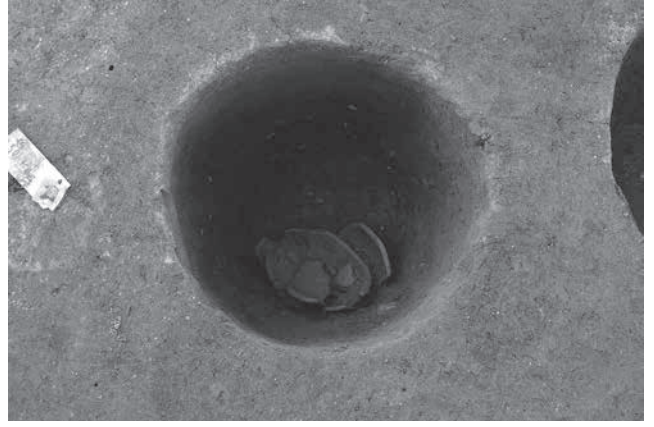
SK8 (SX3 内) 勾玉出土状況 北から



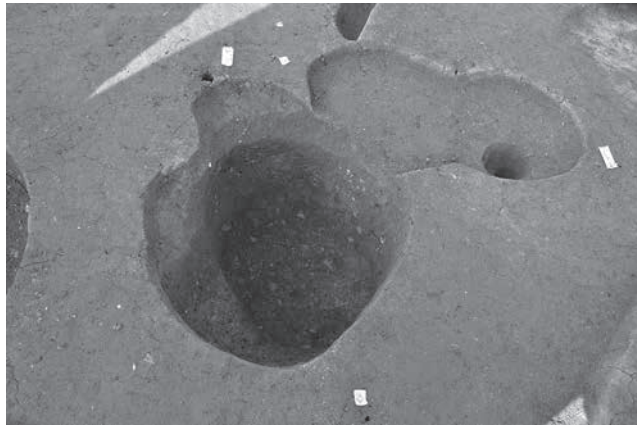
SK8 (SX3 内) 勾玉出土状況 北から



SK12 (SX3内) 遺物出土状況 東から



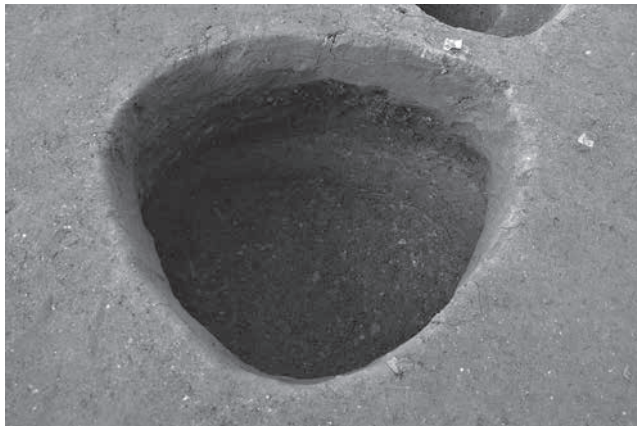
Pit105 (SX3内) 遺物出土状況 東から



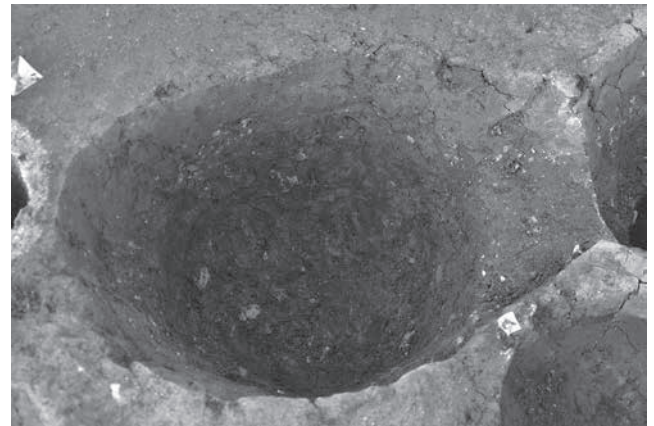
SK9 (SX3a 柱穴) 完掘 南から



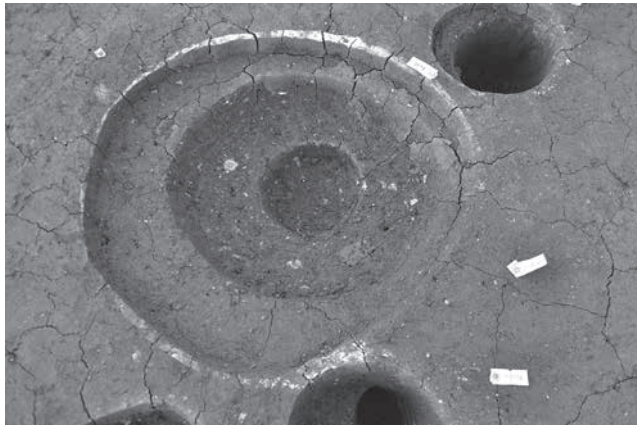
SK14 (SX3a 柱穴) 遺物出土状況 南から



Pit103 (SX3a 柱穴) 完掘 東から



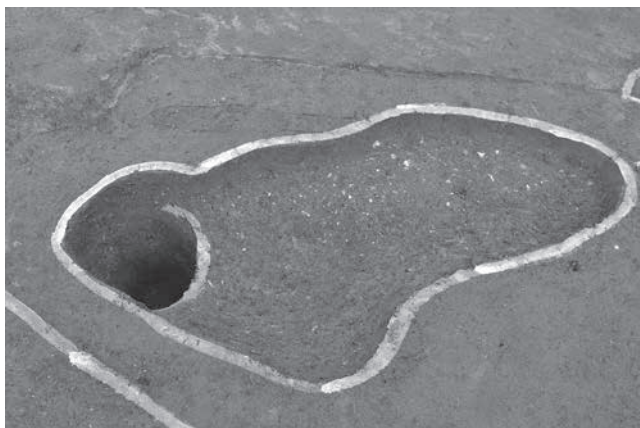
Pit127 (SX3a 柱穴・SI4 炉下) 完掘 南から



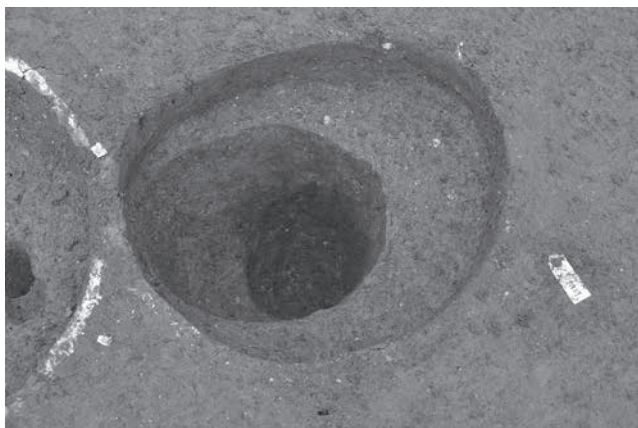
SK3 (SX3b 柱穴) 完掘 南から



SK13 (SX3b 柱穴) 遺物出土状況 南から



SK16 (SX3b 柱穴) 完掘 南西から



Pit69 (SX3b 柱穴) 完掘 南から



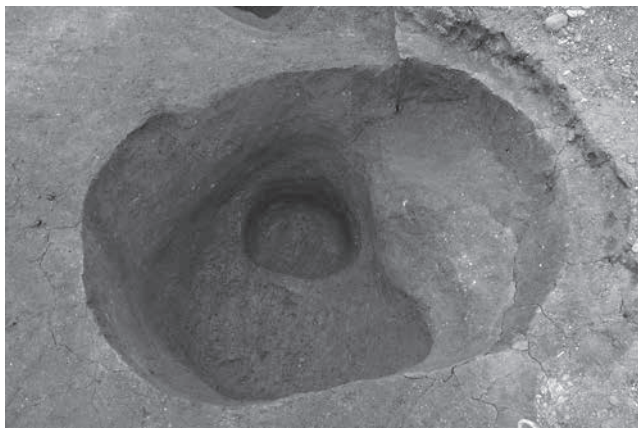
SK32 完掘 東から



SK33 (Pit415) 完掘 北から



SK34 遺物出土状況 北から



SK34 (Pit431) 完掘 北から

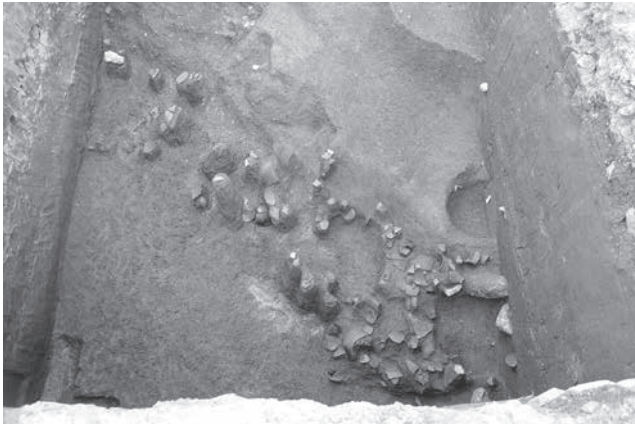


SK36 遺物出土状況 北から



SK37 遺物出土状況 南から





SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 西から



SD1 上層遺物出土状況 西から



SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層遺物出土状況 南から



SD1 上層石製品出土状況 西から



SD1 下層木製品出土状況 東から



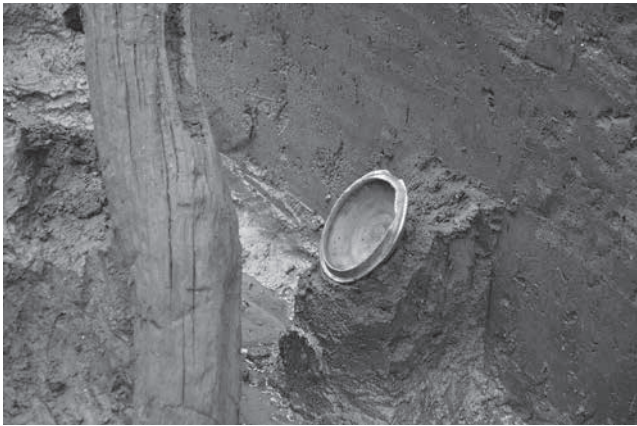
SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層木製品出土状況 北から



SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層遺物出土状況 南から



SD1 下層横槌出土状況 南から



SD1 下層木製品出土状況 南から



SD1 下層木製容器出土状況 南から



SD2・5 完掘 南西から



SD2・5 セクション 南から



SD6 完掘 西から



SD6 遺物出土状況 西から



SD10 完掘 東から



SD10 セクション 東から



SD11・12 完掘 西から



SD11・12 完掘 東から



SD11 遺物出土状況 西から



SD12 遺物出土状況 北から

図版 40



SD13 完掘 東から



SD13 完掘 北から



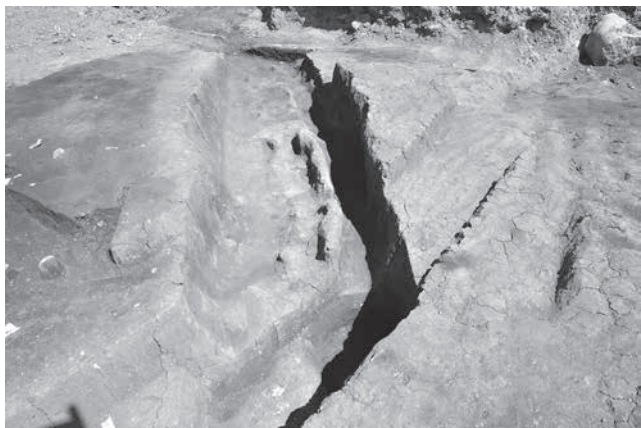
SD13 セクション 北から



SD13 遺物出土状況 北から



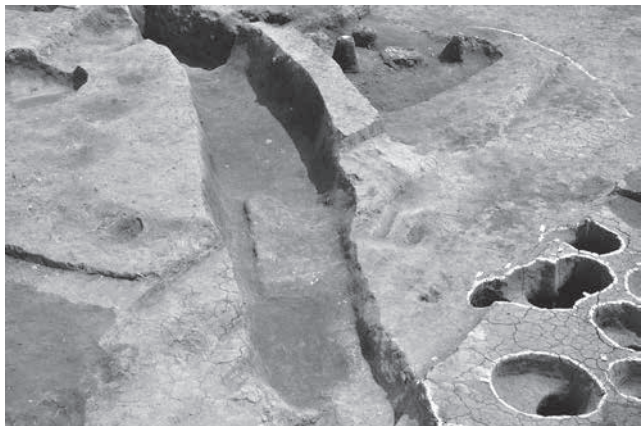
SD13 遺物出土状況 北から



SD13 完掘 西から



SD13 遺物出土状況 西から



SD13 完掘 西から



SD14 セクション 南から



SD25 完掘 南から



SD26 遺物出土状況 南から



SD27 遺物出土状況 東から



SD28 セクション 南から



SD30 セクション 北から



SD17 駿台甲府高校生体験発掘 南から



SD17 駿台甲府高校生体験発掘 東から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 北から



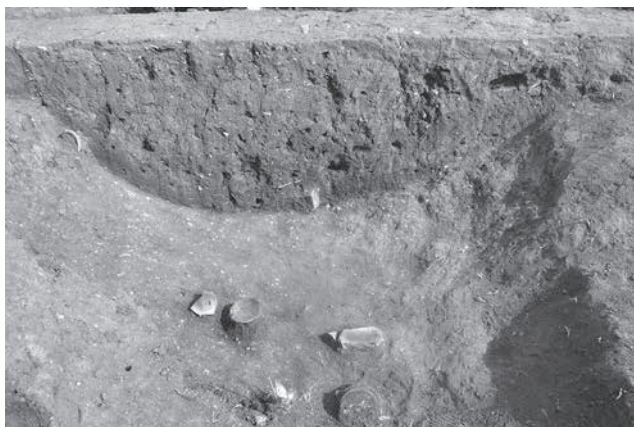
SD17 遺物出土状況 南から



SD17 遺物出土状況 北から



SD17 遺物出土状況 東から



SD17 セクション 西から



SD17 完掘 西から



SD17 完掘 東から



SD17・SD32 交差点 西から



SD32 合流地点セクション 東から



SD32 セクション 西から



SD32 遺物出土状況 東から



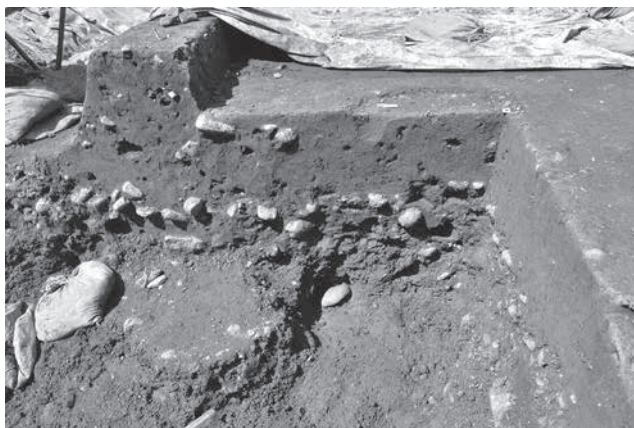
SD32 完掘 西から



SD32 完掘 東から



SD33 検出状況 北から



SD33 遺物出土状況 南から



SD33 遺物出土状況 北から



SD33 遺物出土状況 西から



SD33 銅製品出土状況 西から



SD33 トレンチ完掘 東から

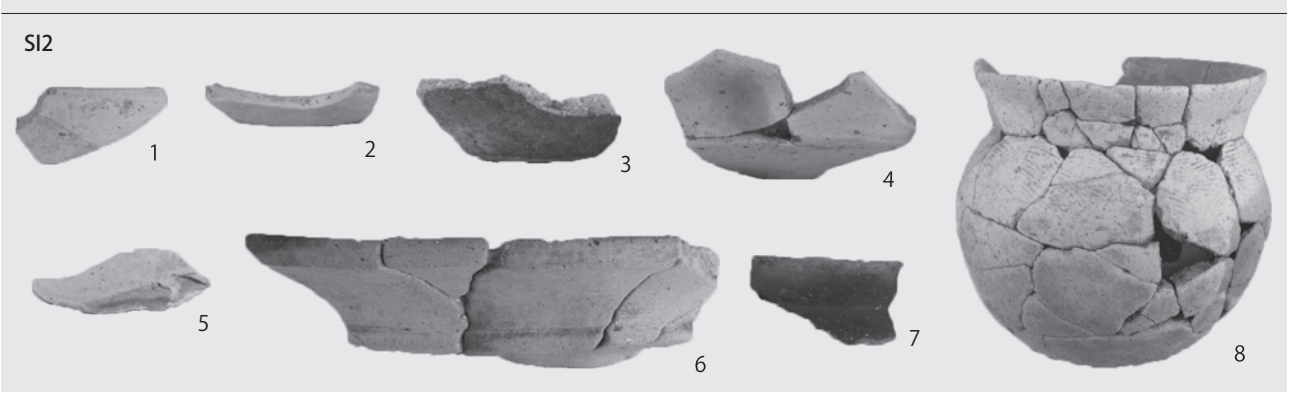


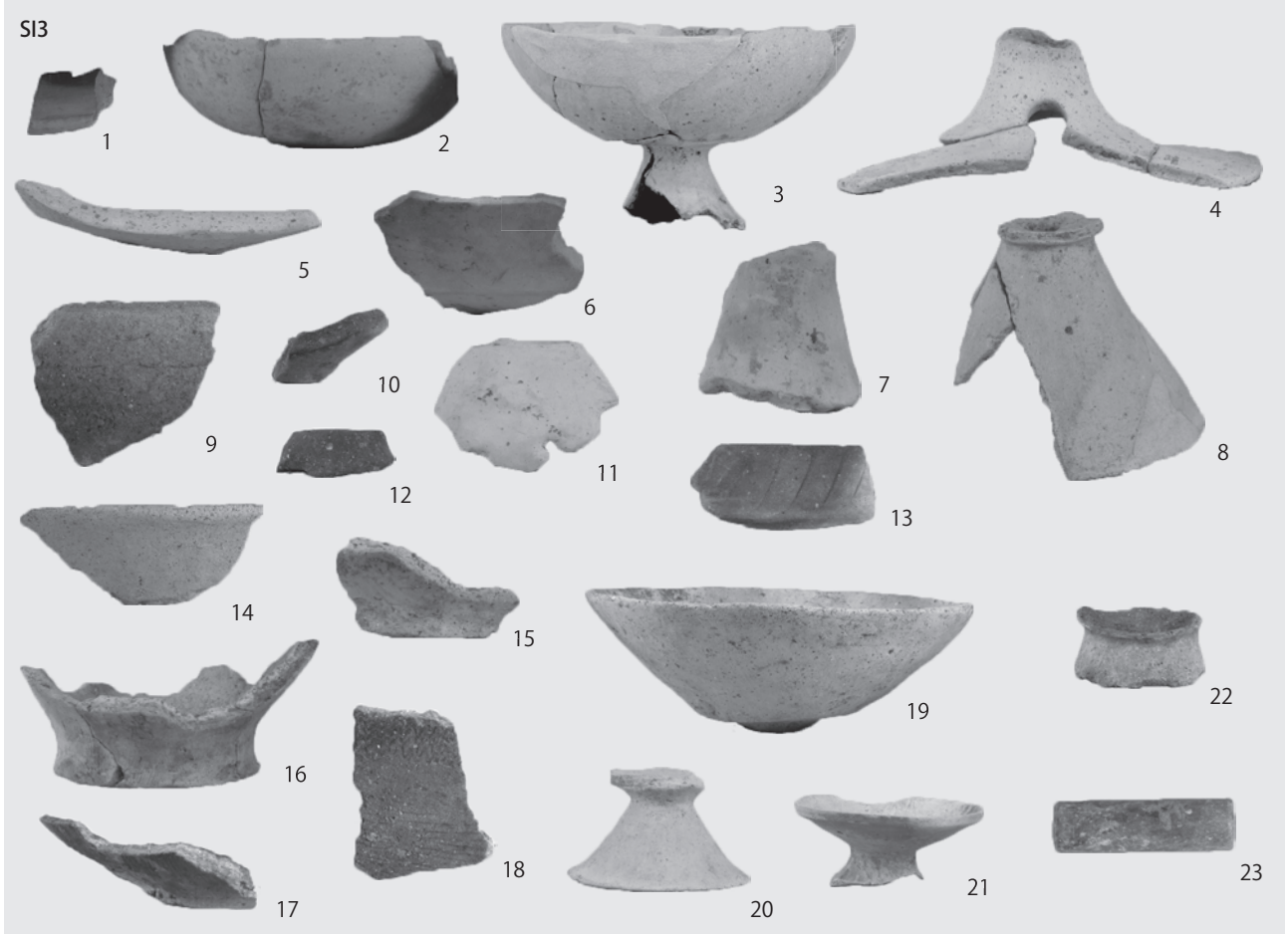
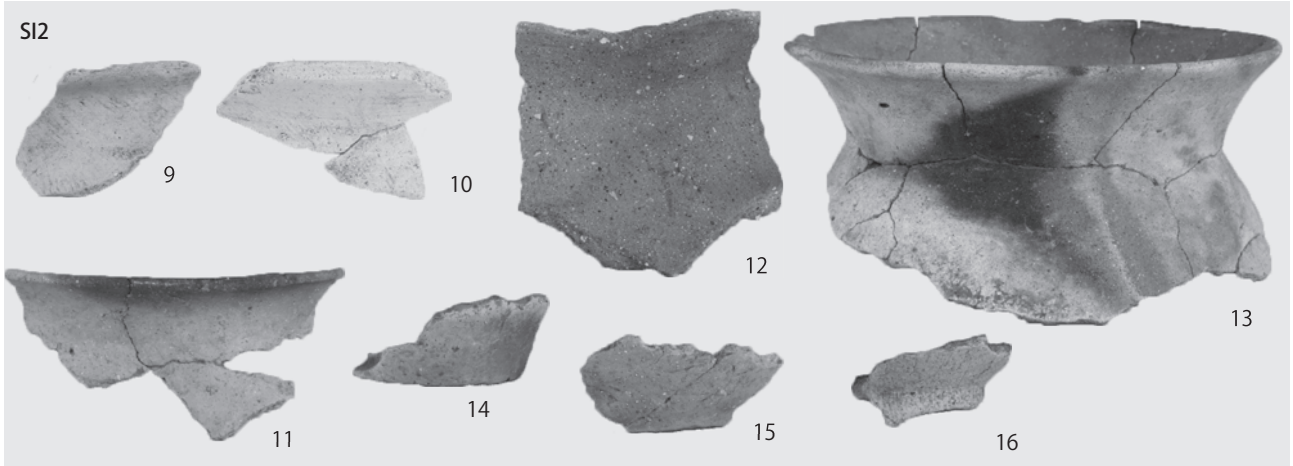
SD33 トレンチ完掘 東から



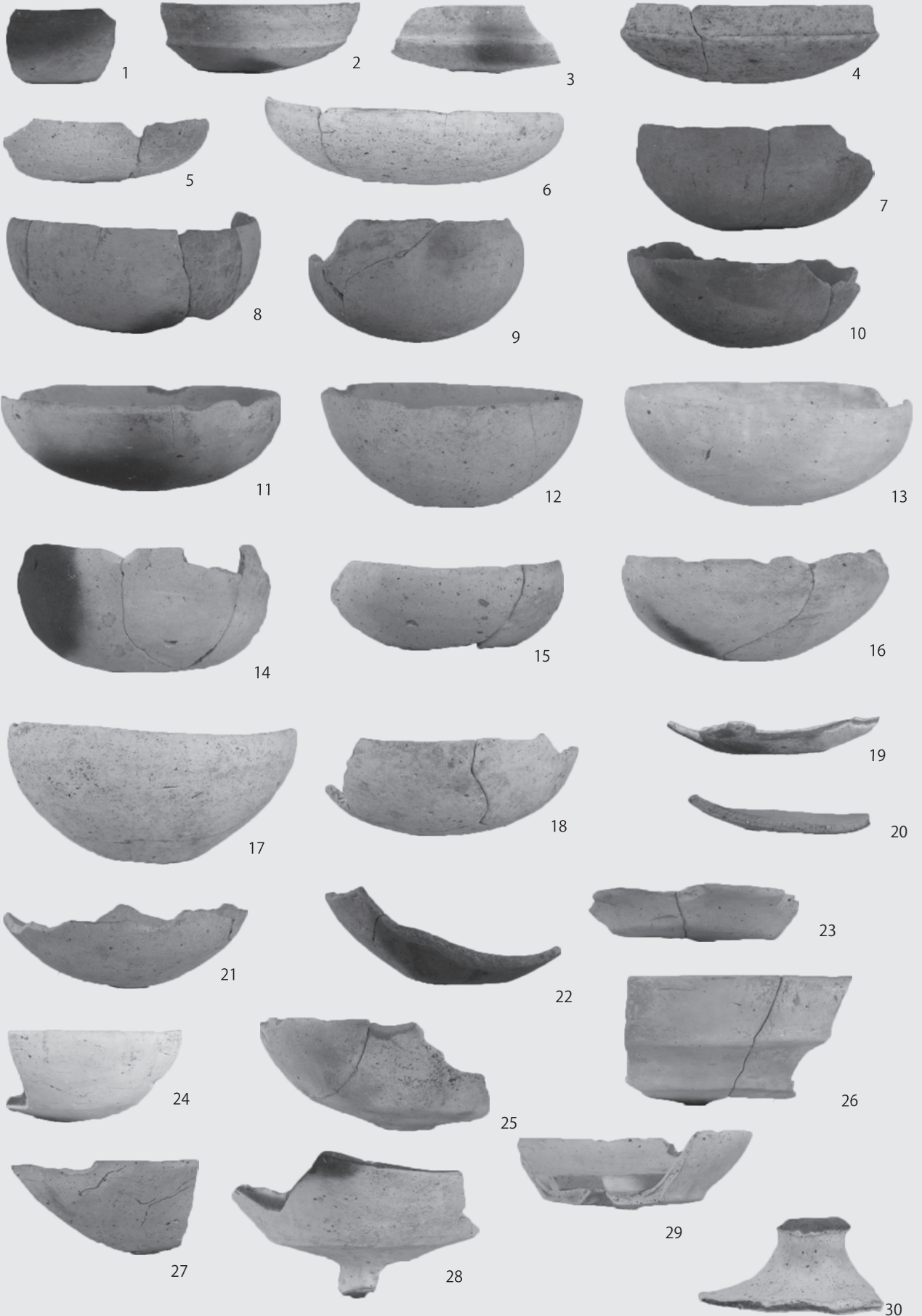
SD33 トレンチ完掘 北から

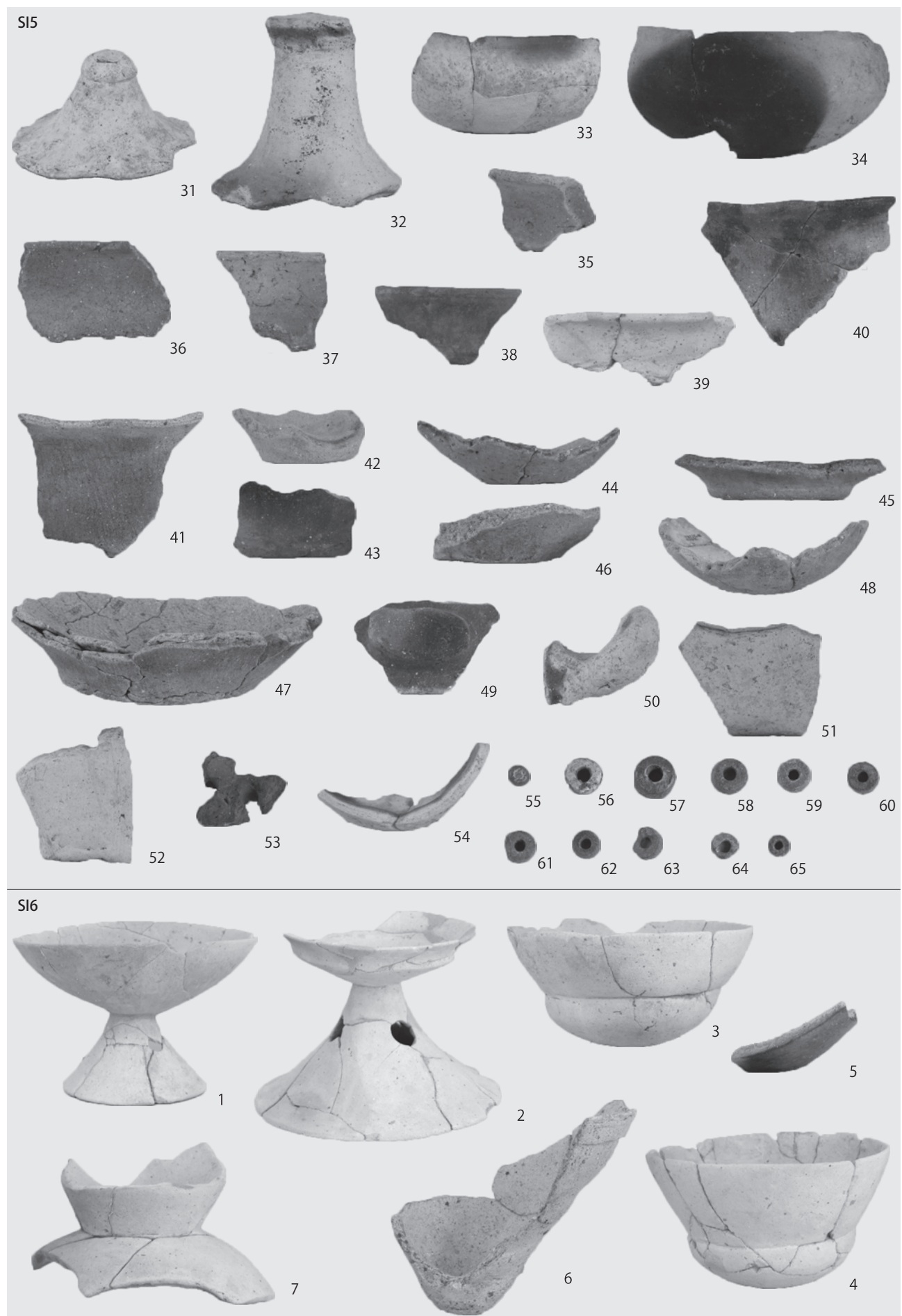




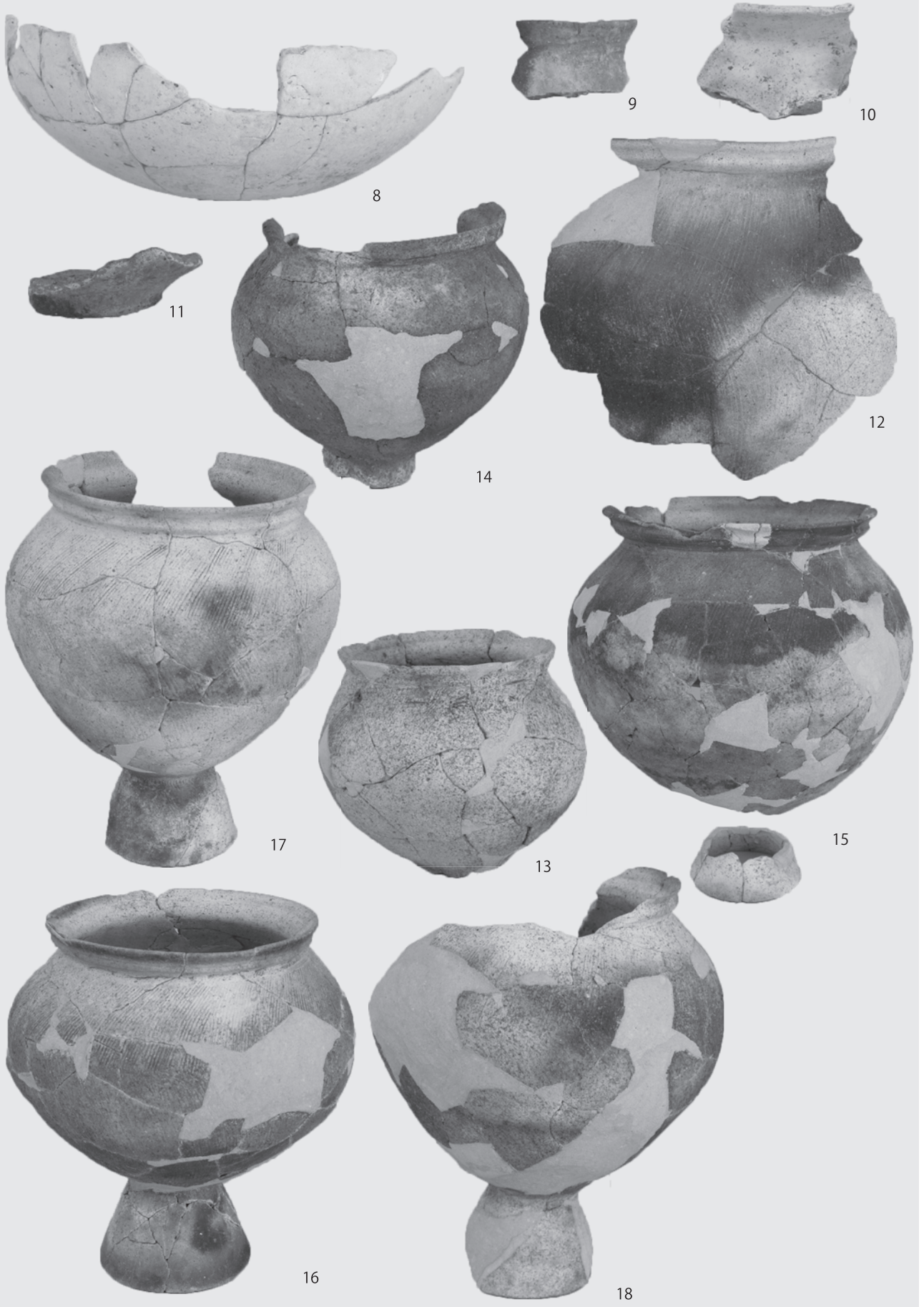


S15

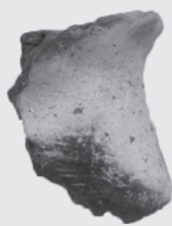




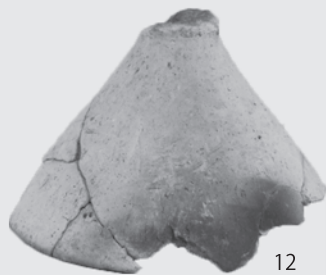
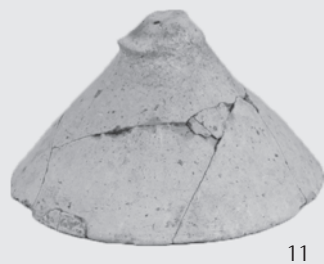
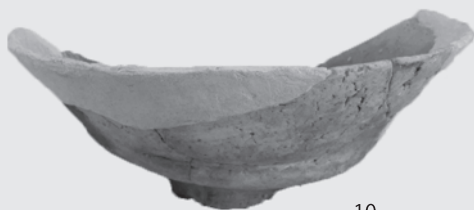
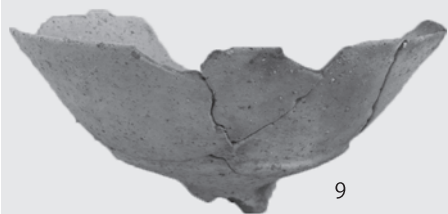
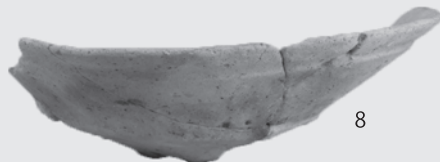
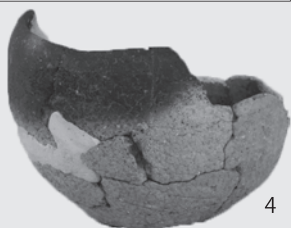
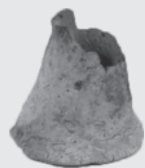
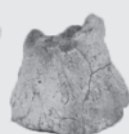
S16



S16



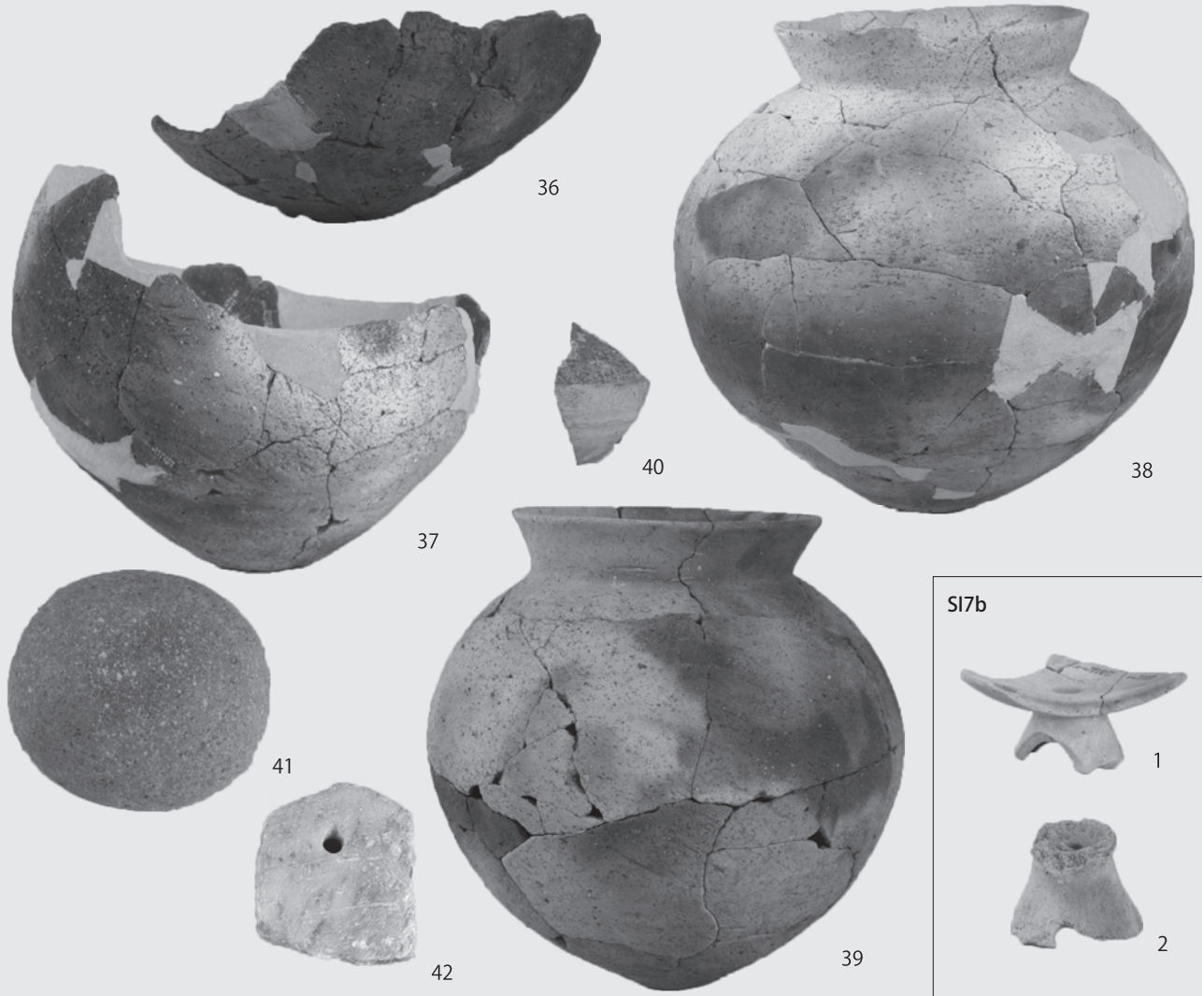
S17a



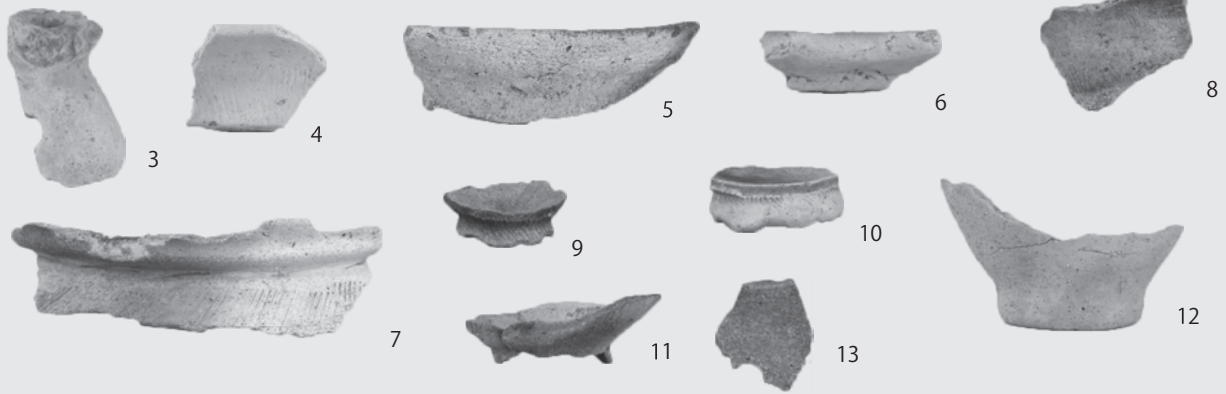
SI7a



SI7a



SI7b

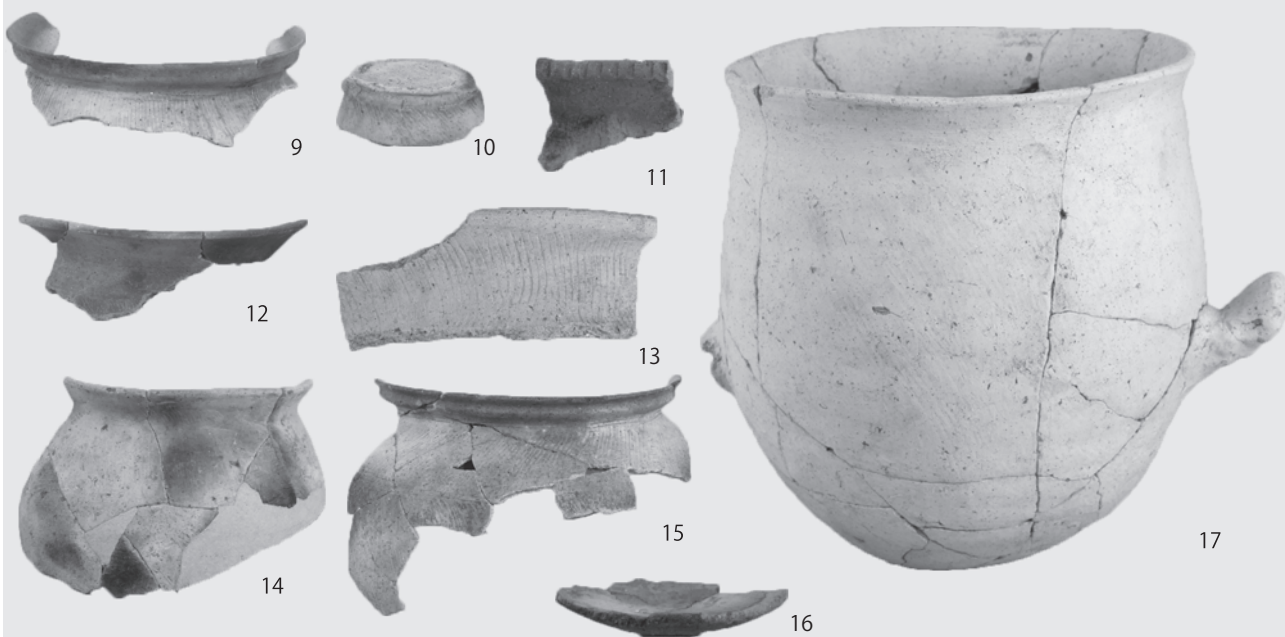


SI7 Pit

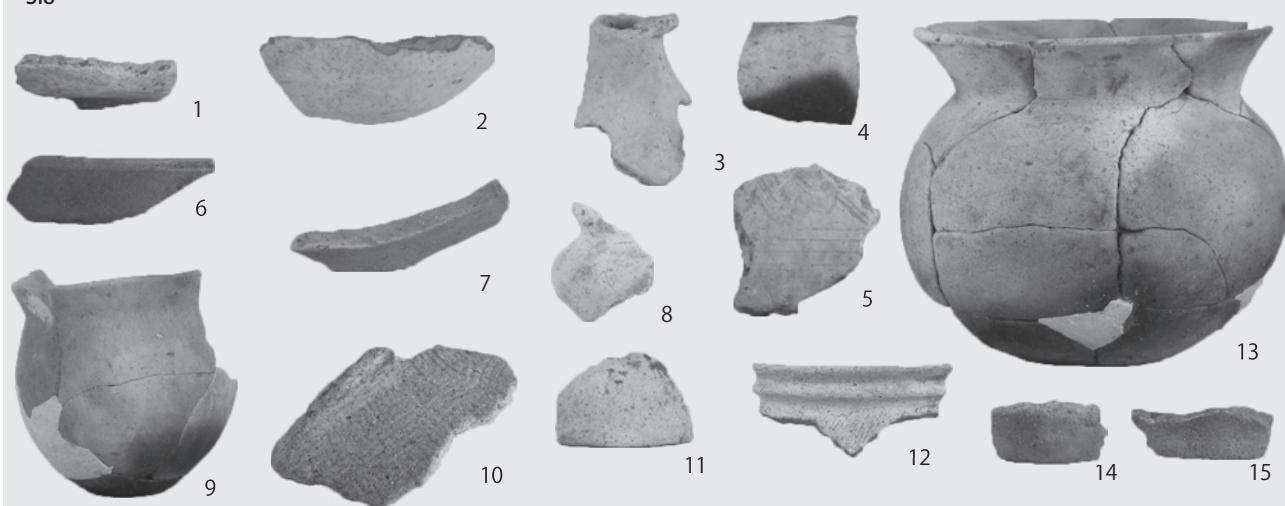




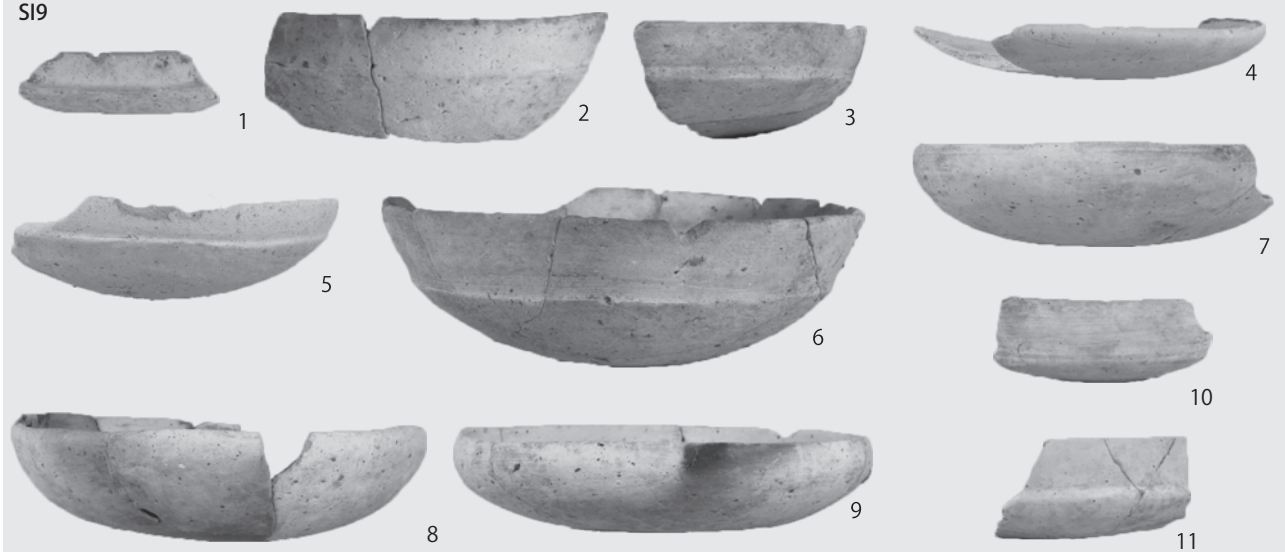
SI7Pit



SI8

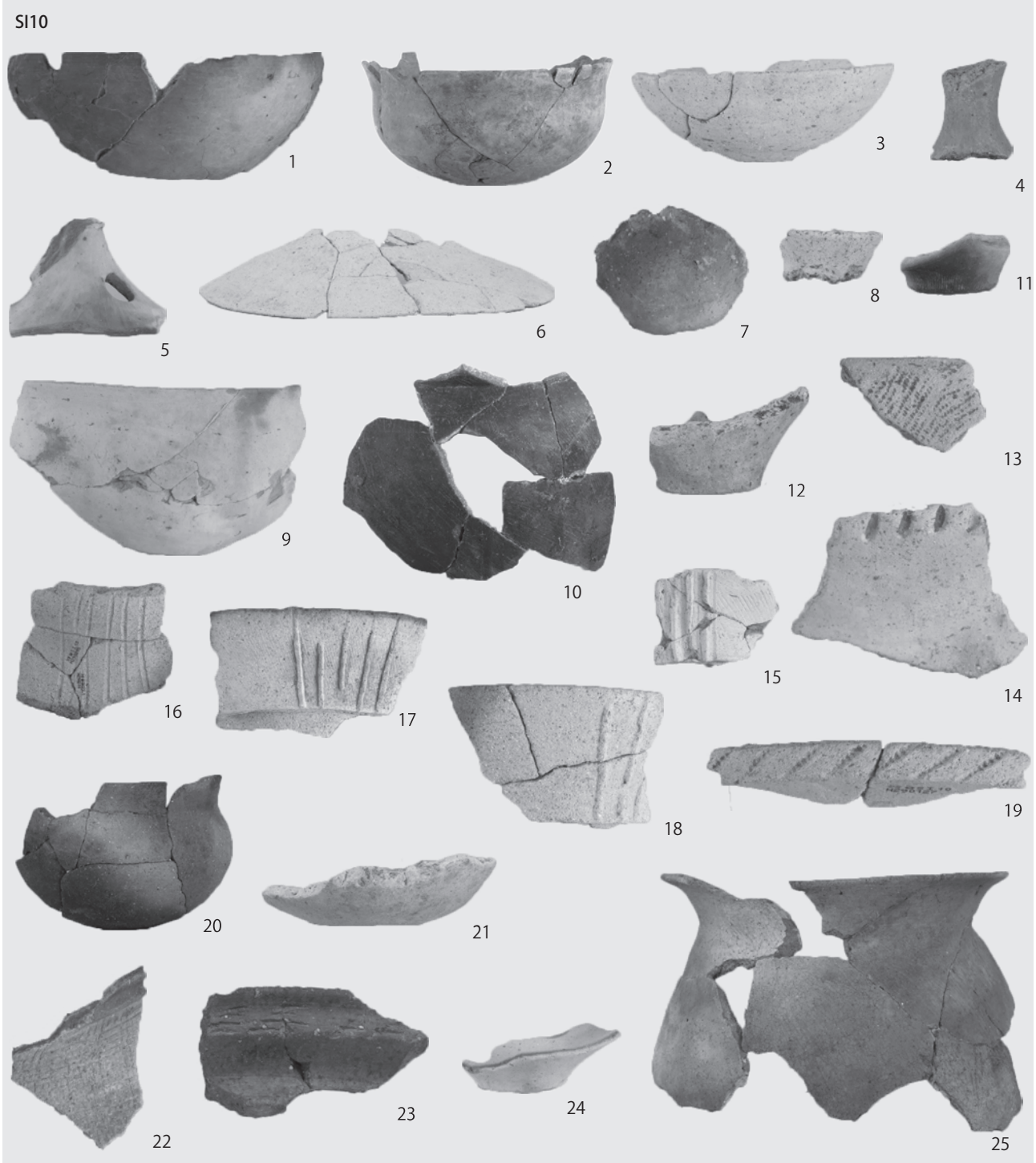
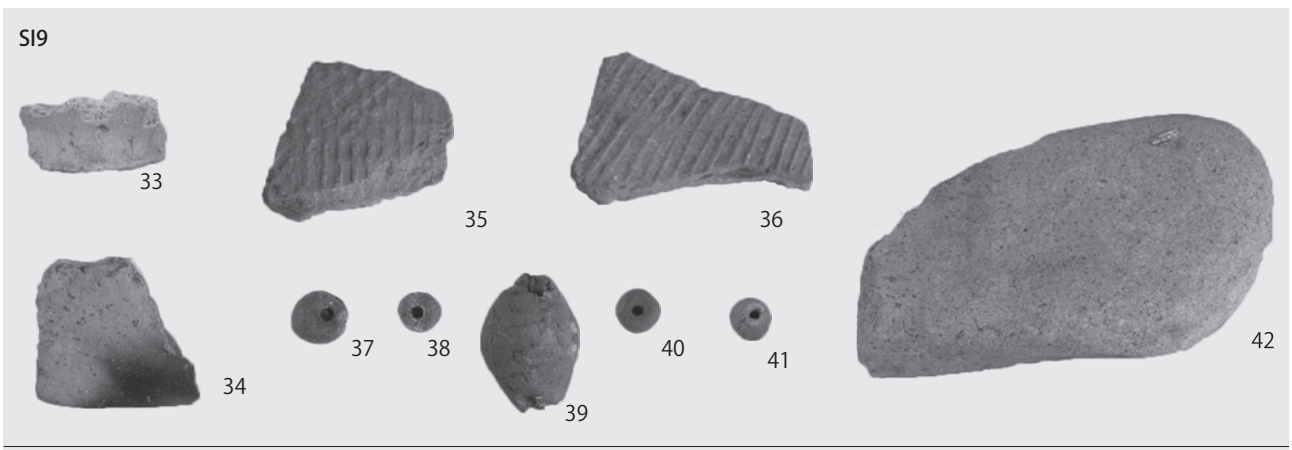


SI9

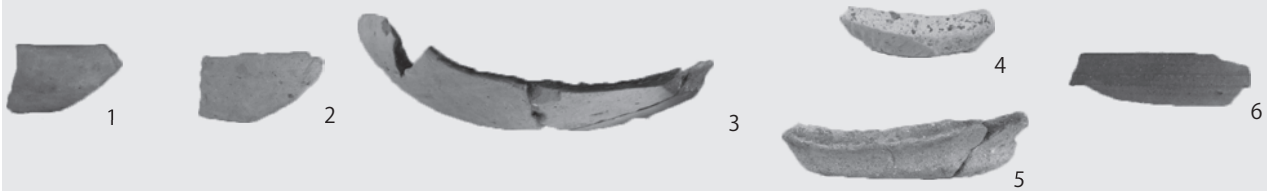


S19



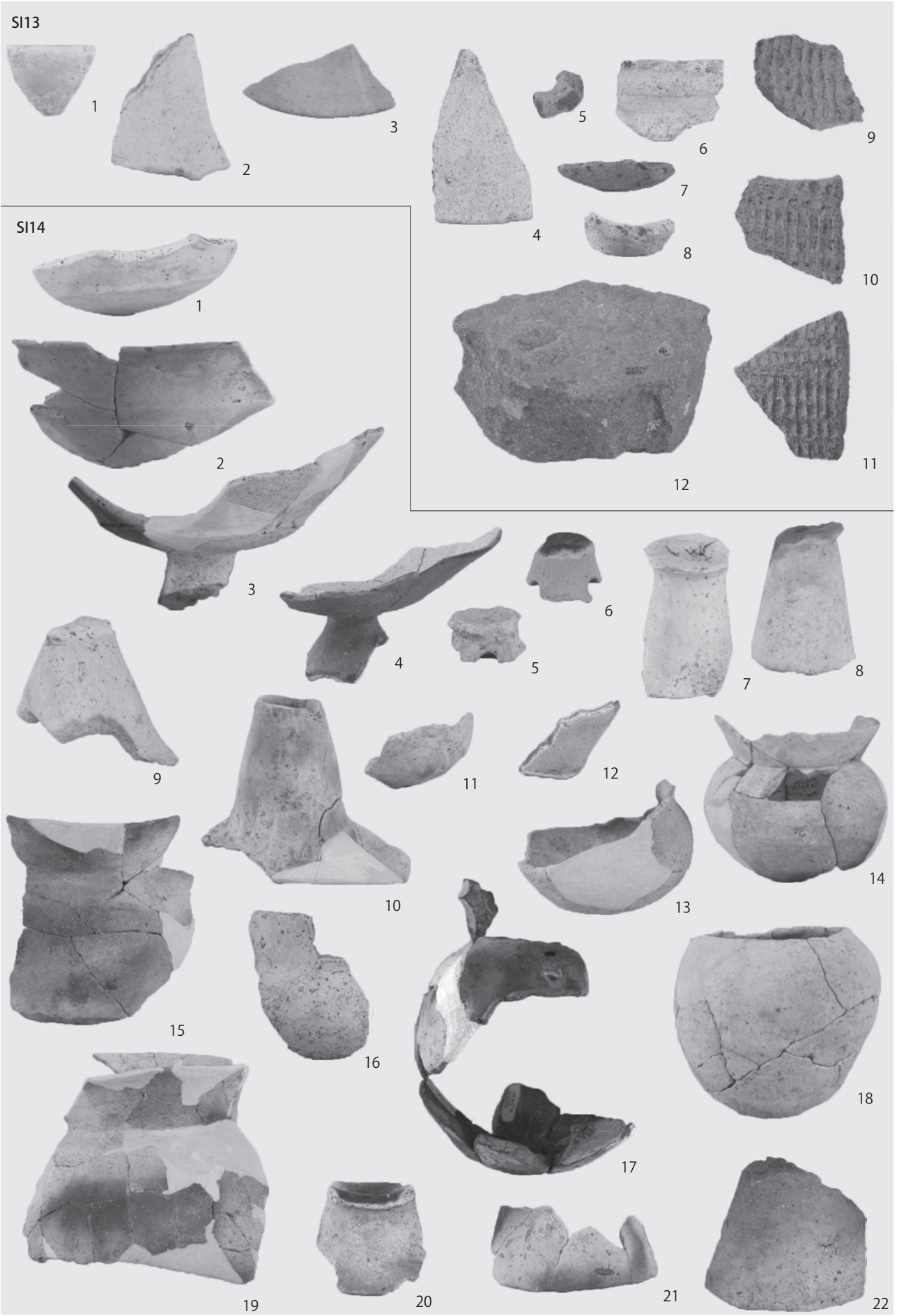


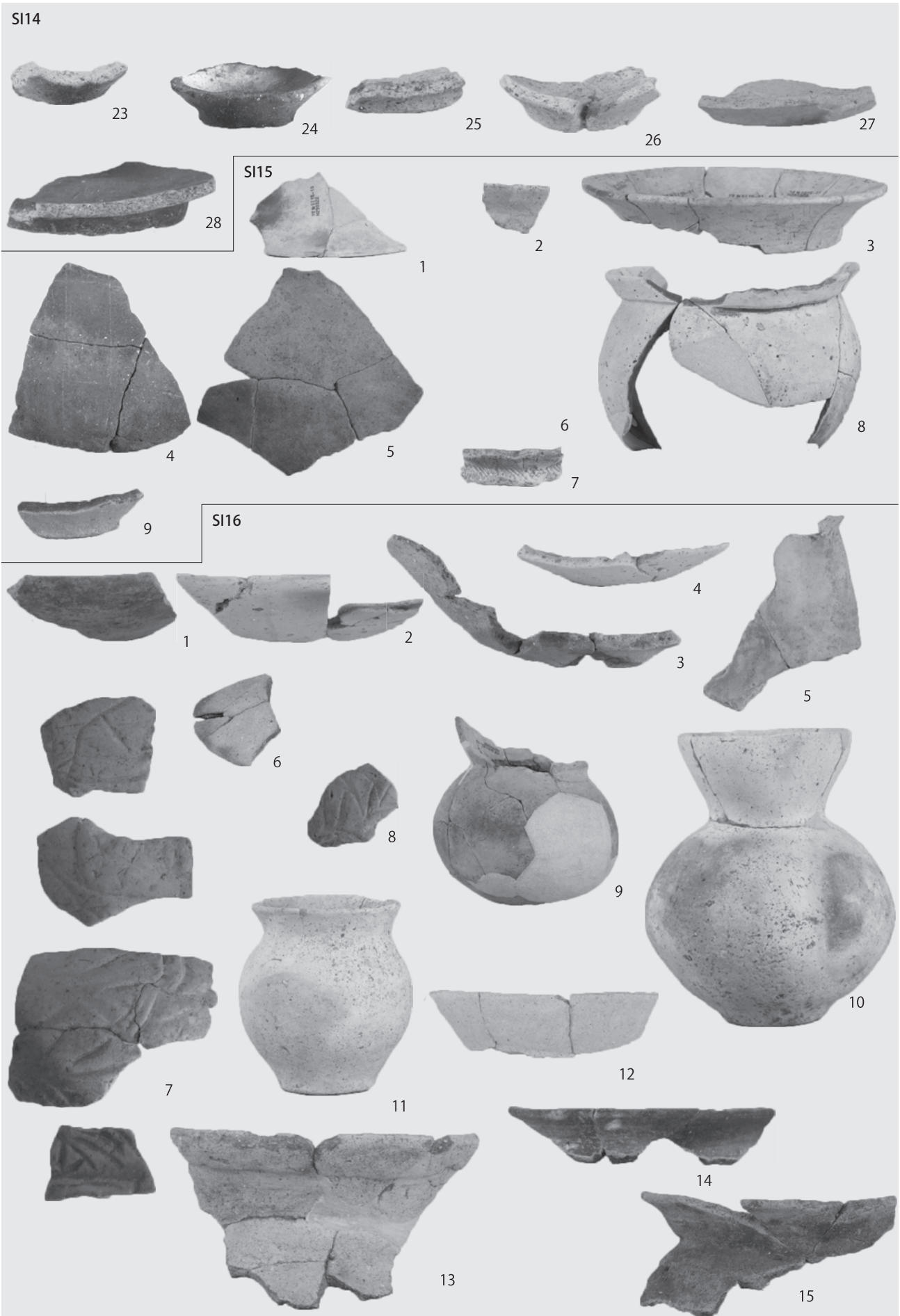
SI11

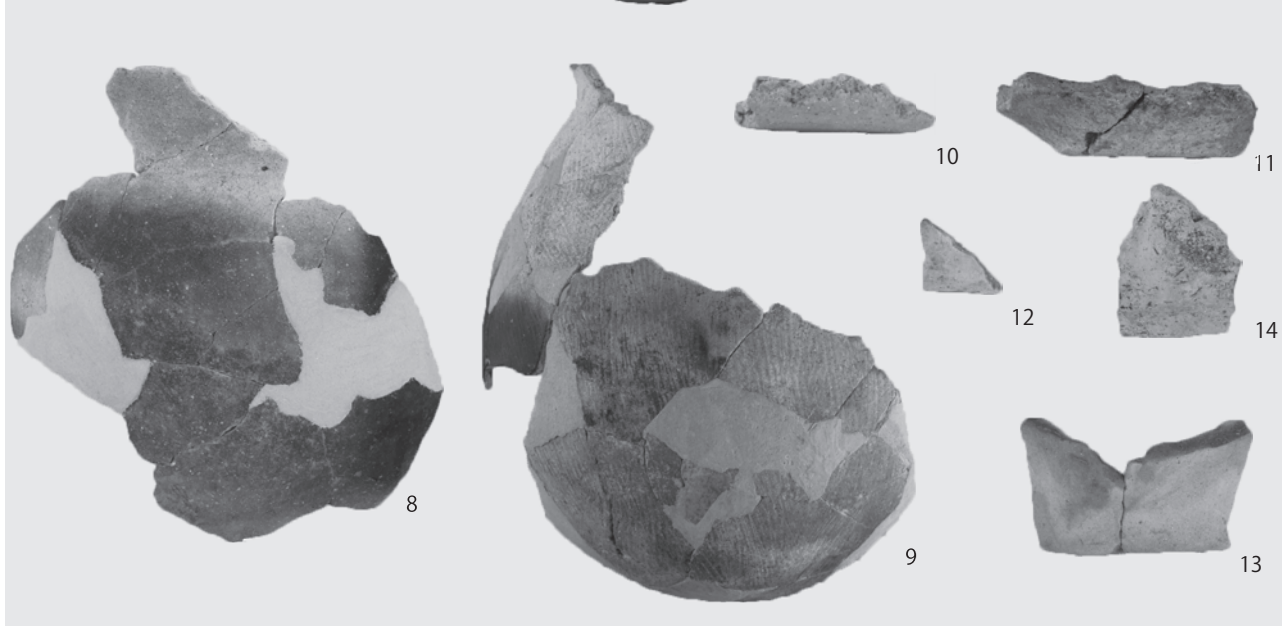
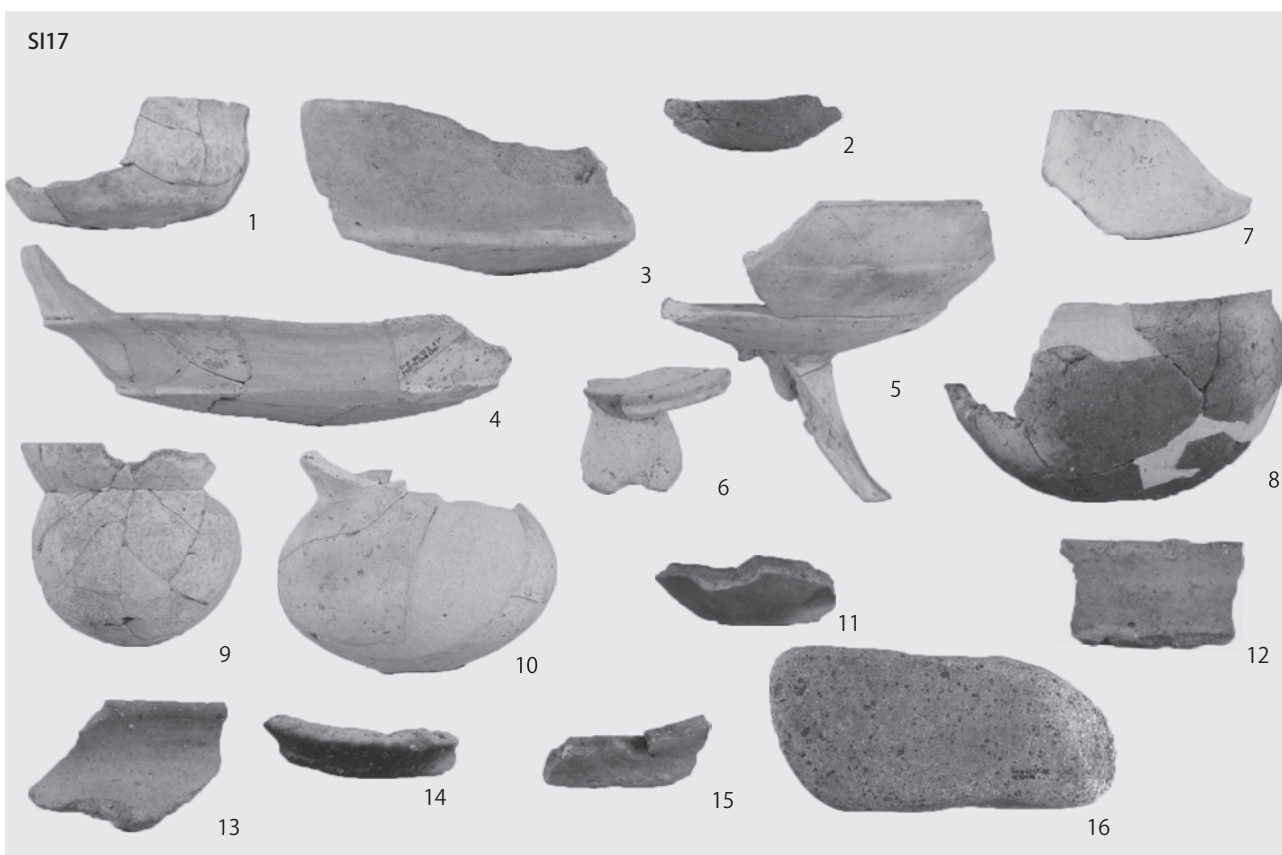


SI12

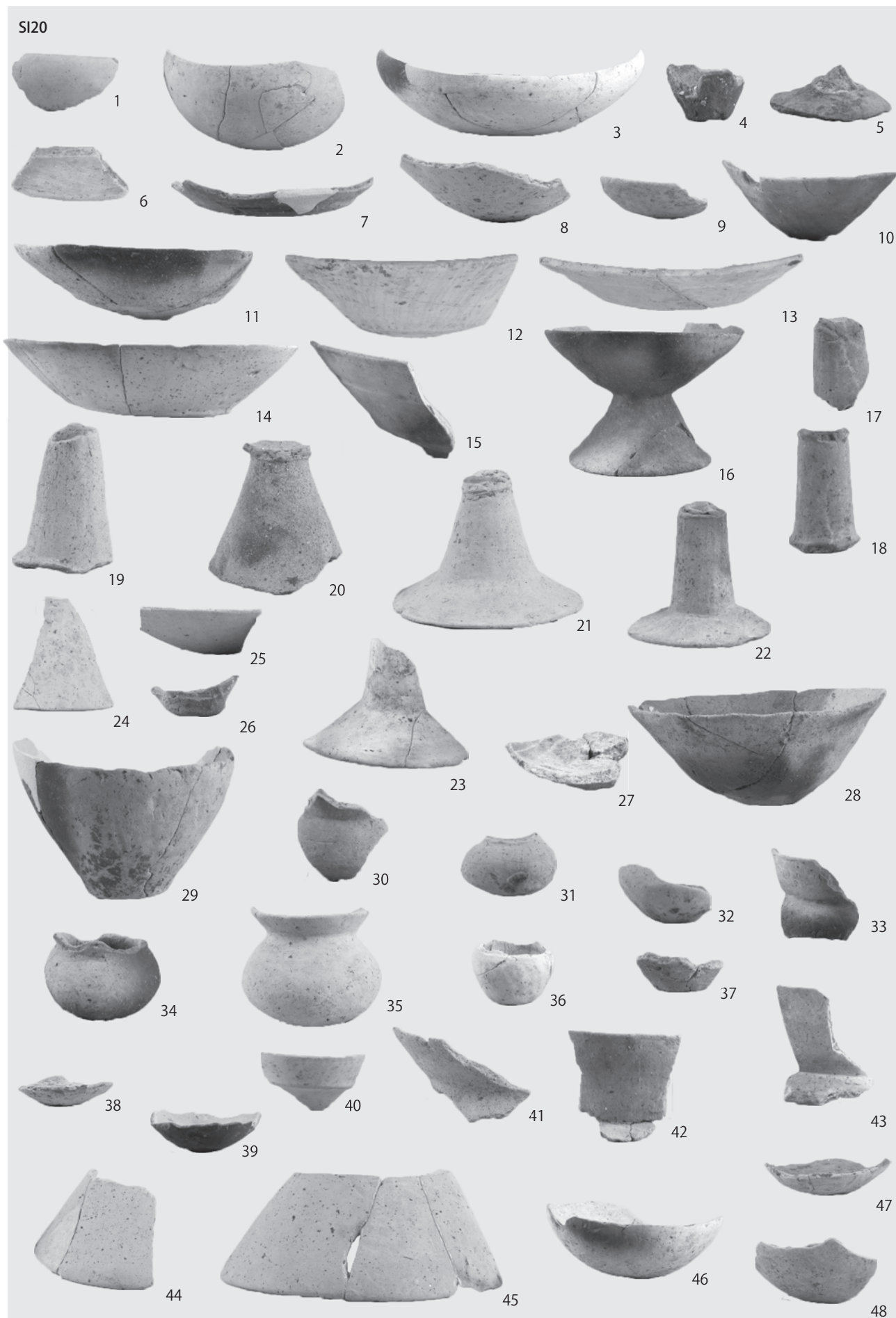








S120





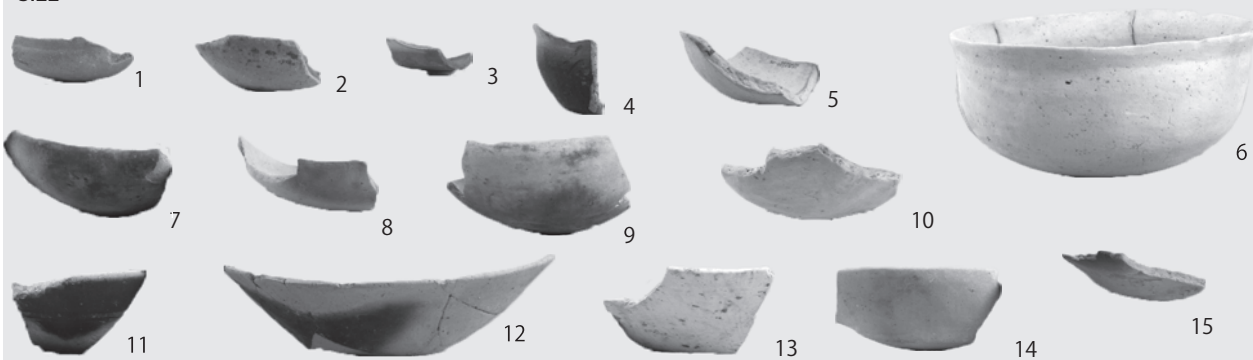
SI20



SI21

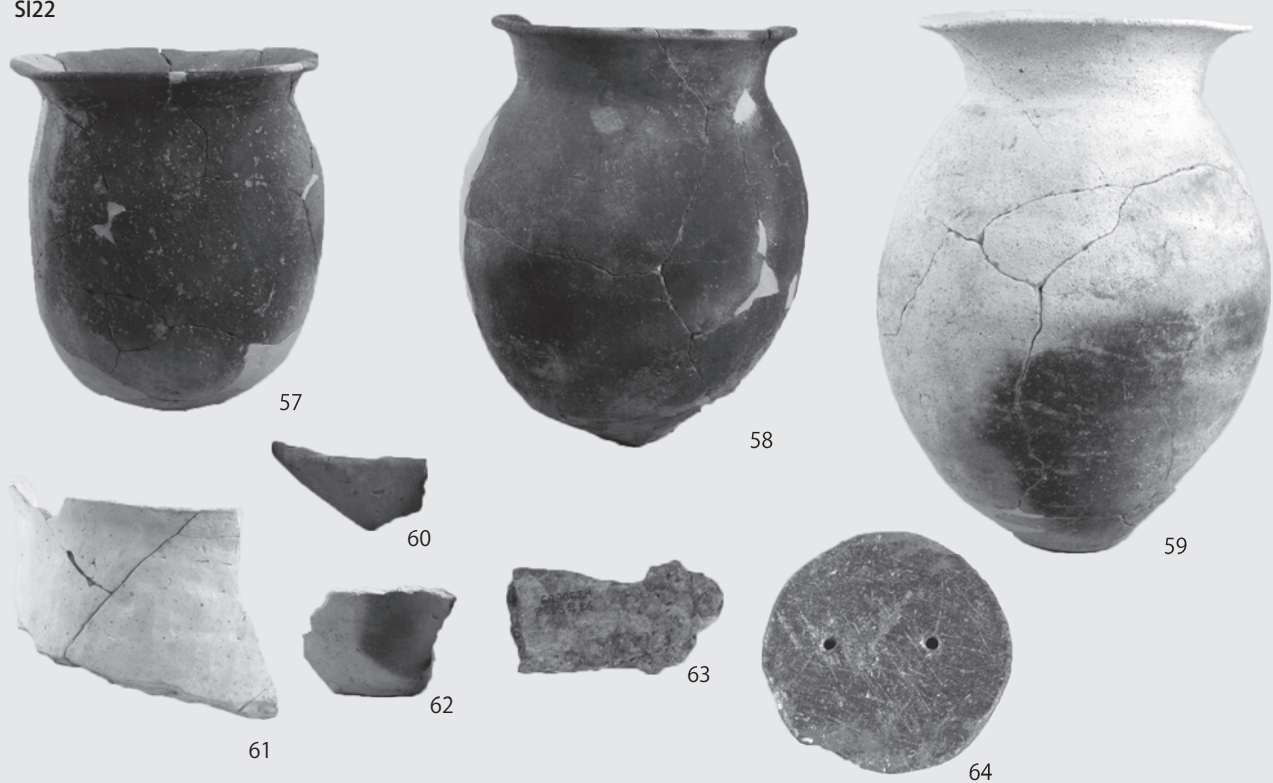


SI22

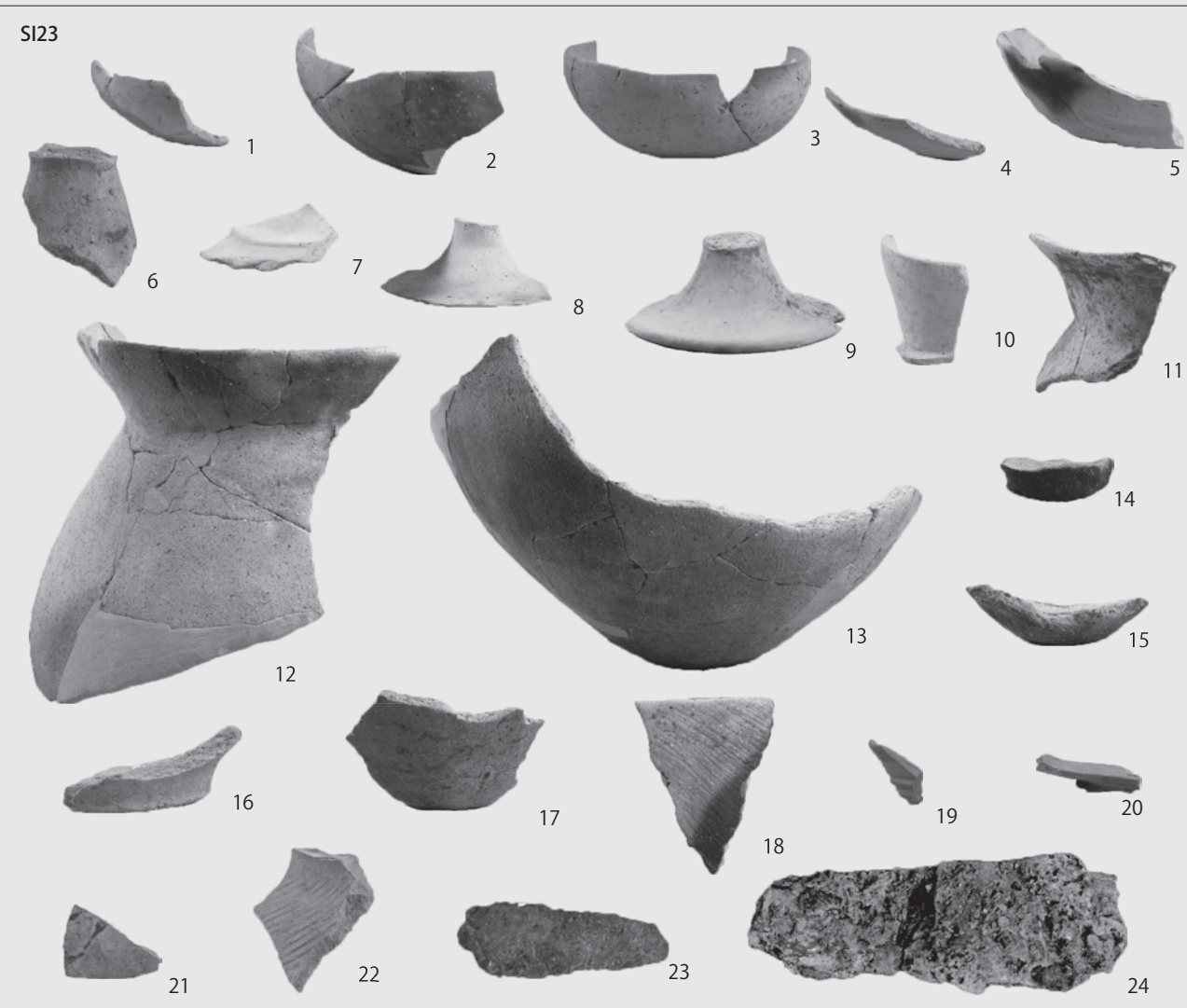


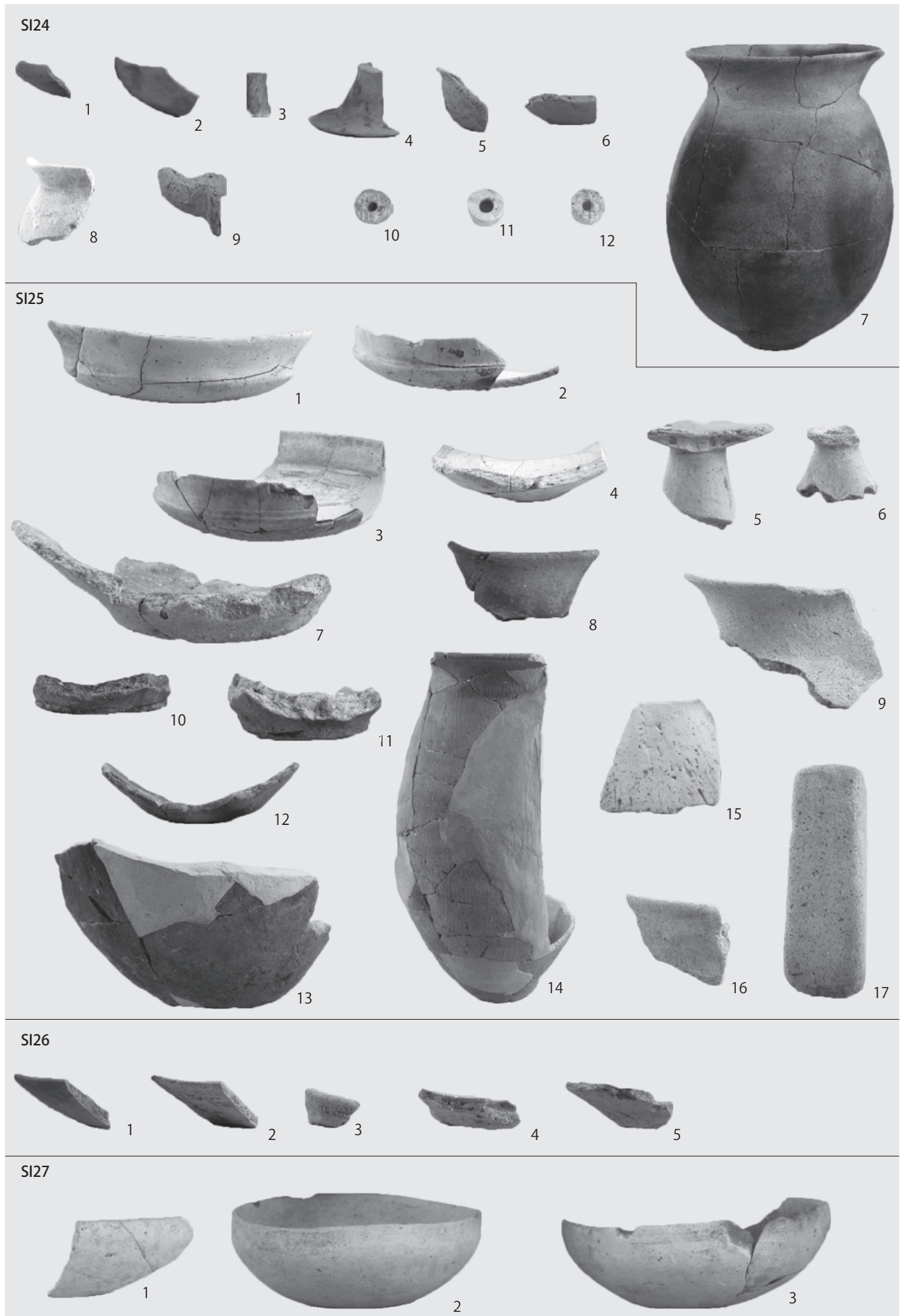


SI22



SI23





SI27

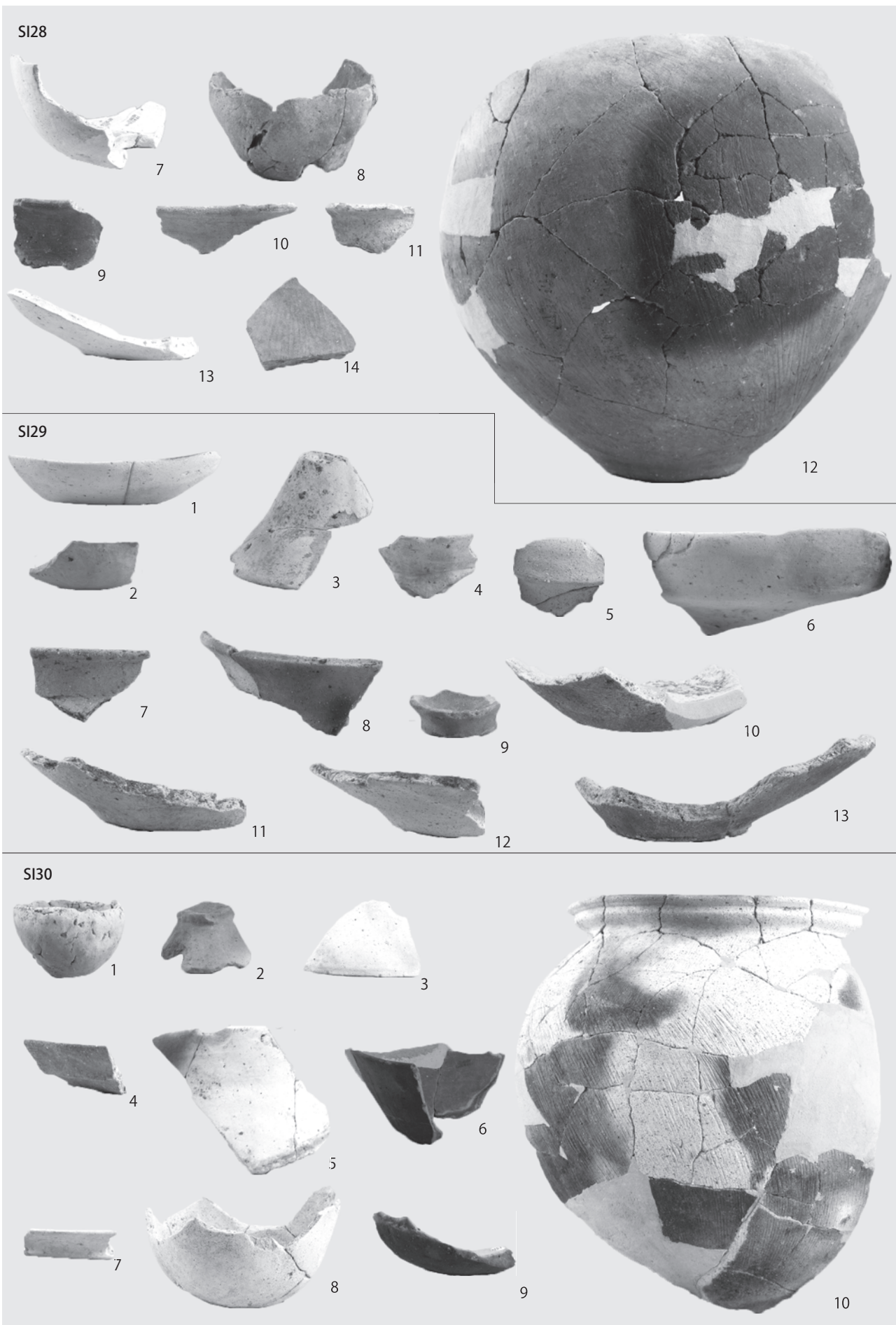


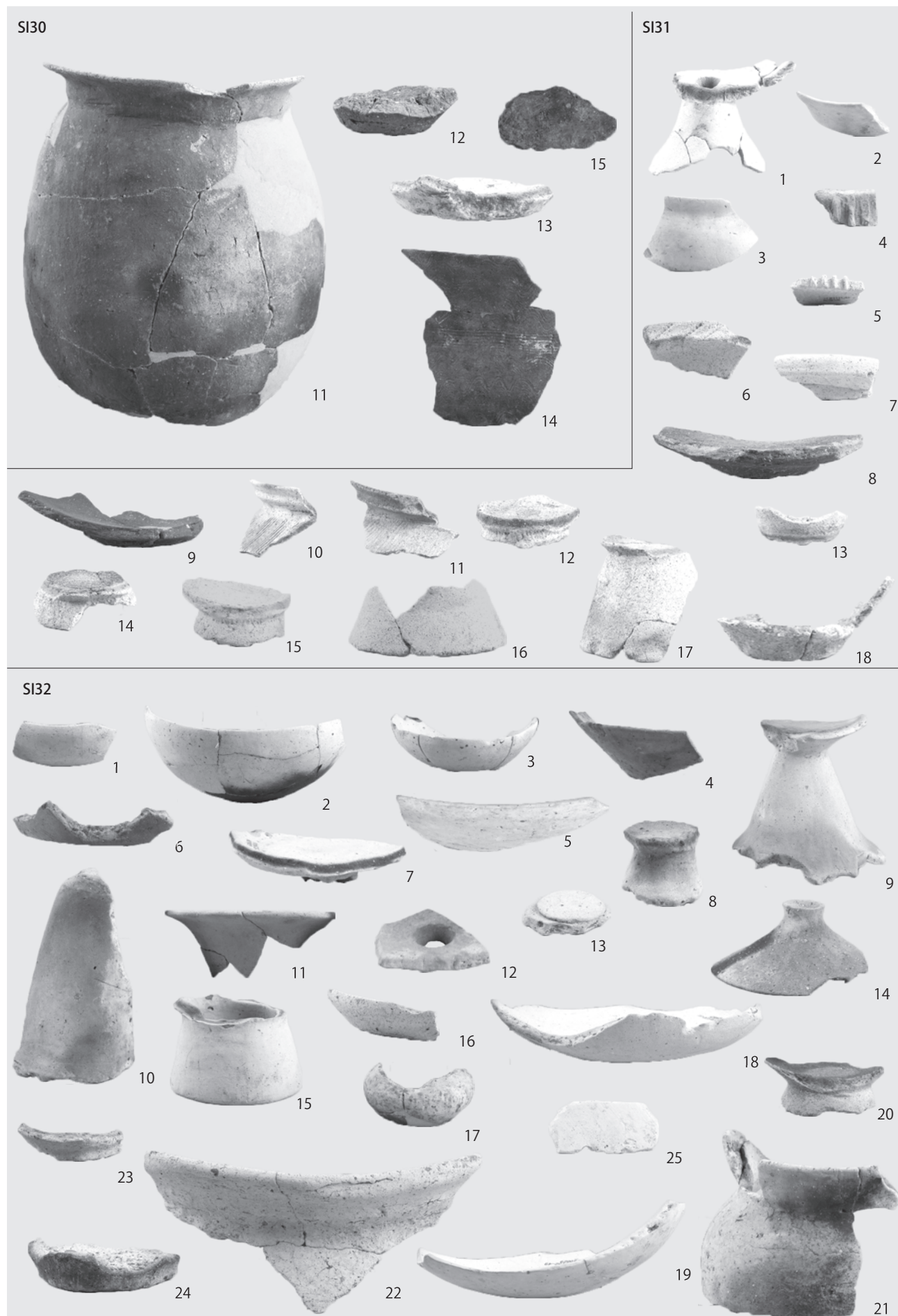
SI27



SI28









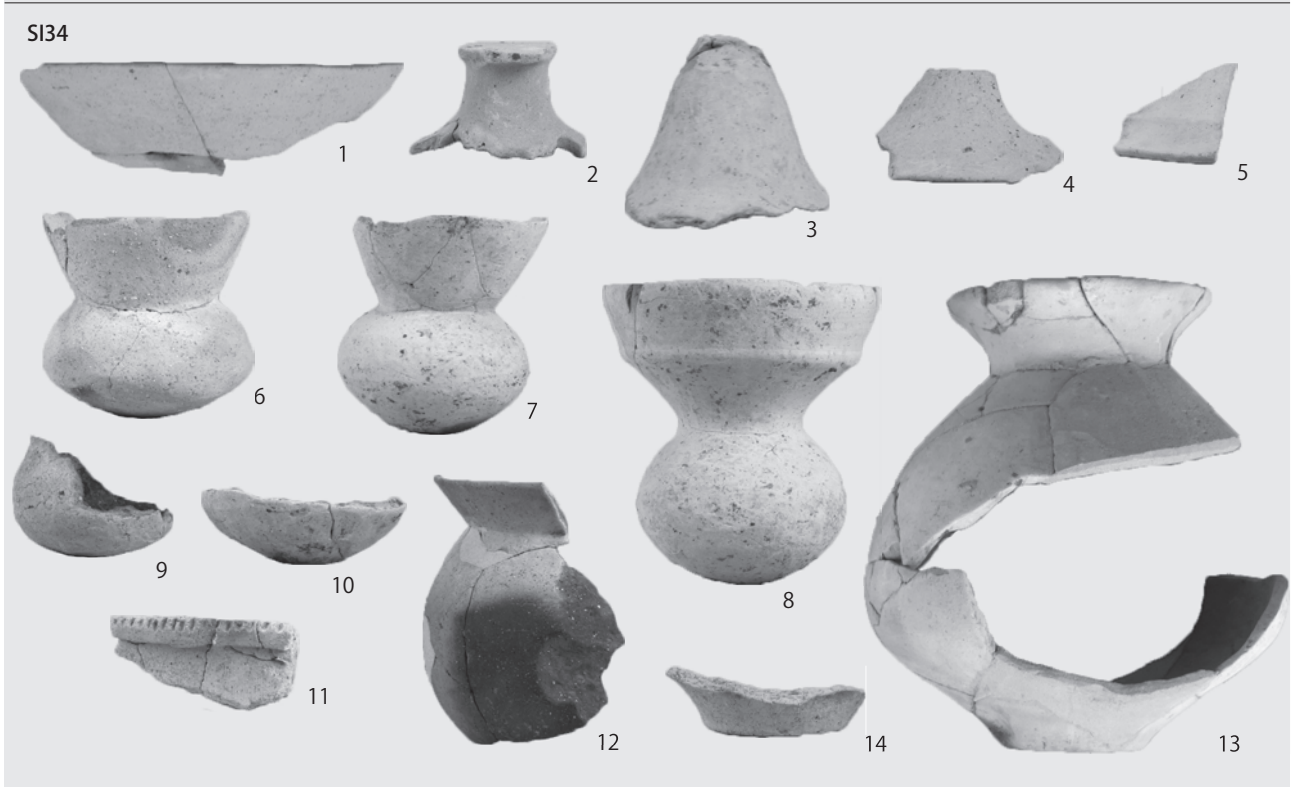
SI33



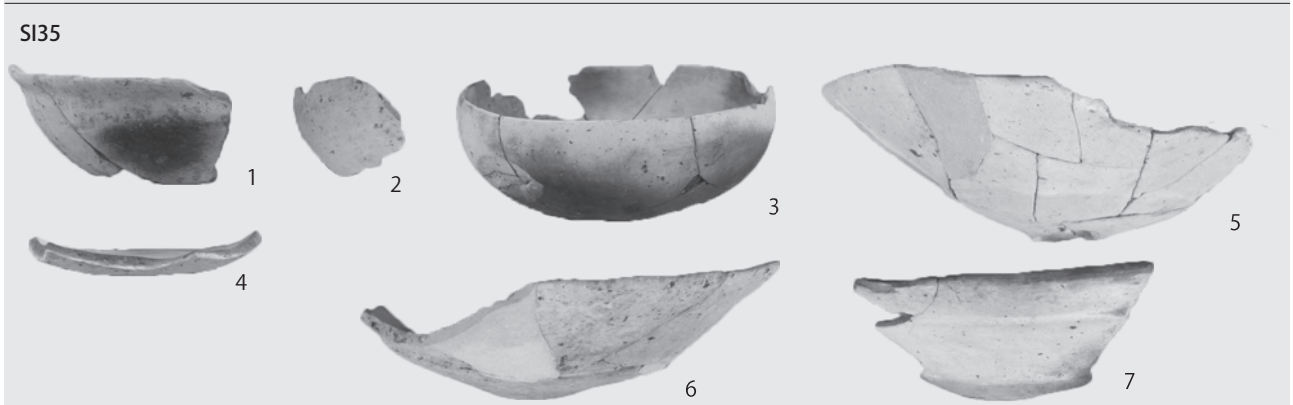
SI33

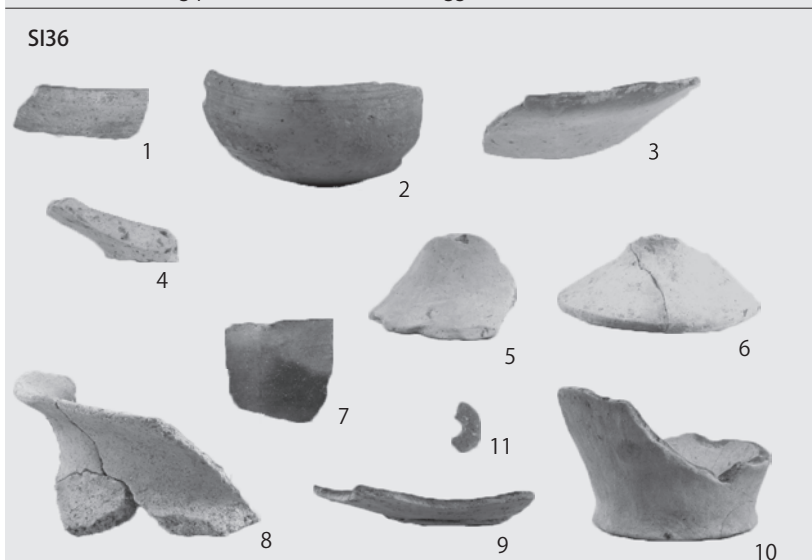


SI34



SI35

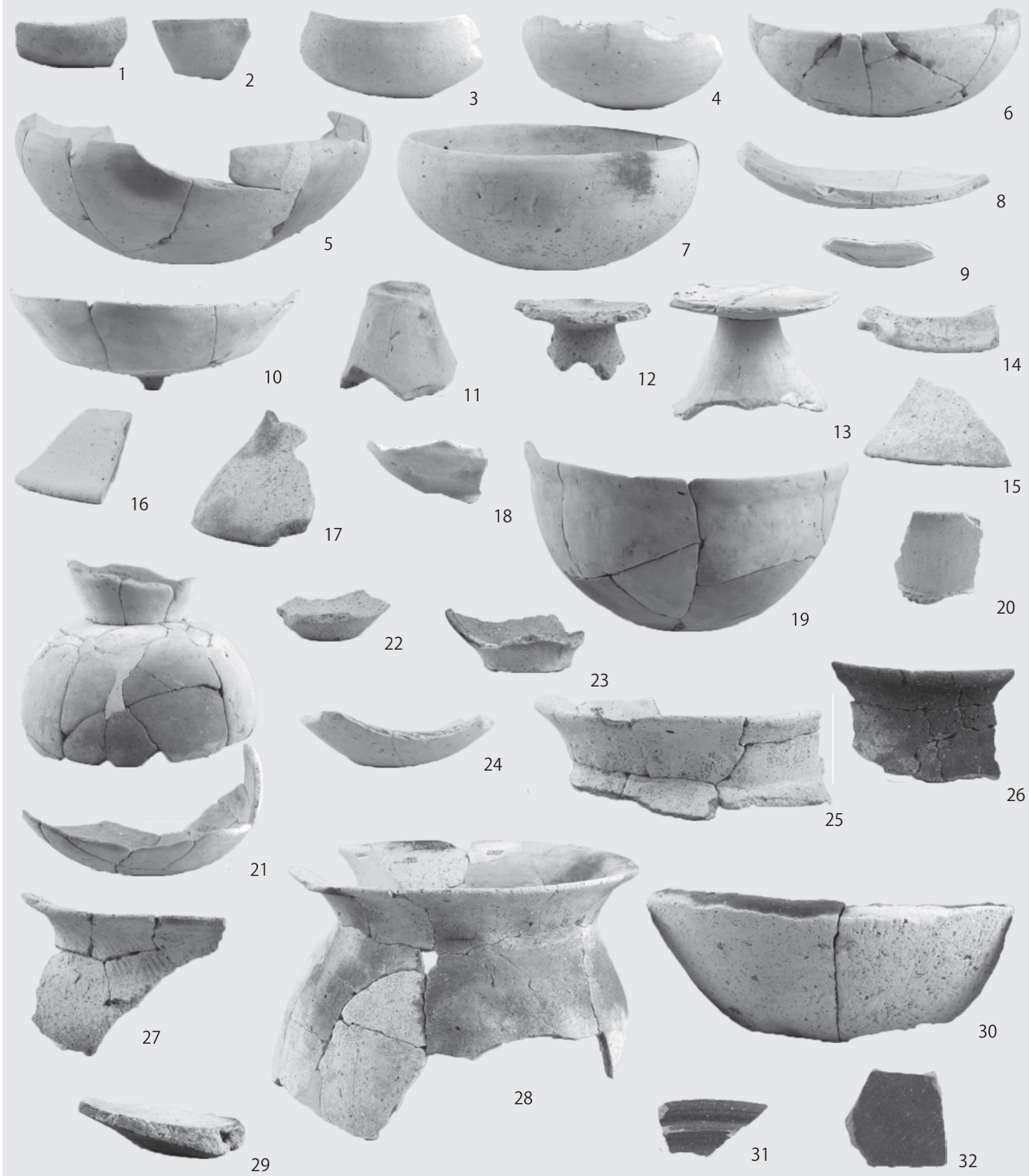




SI37



SI38



SI39



SI39



SI40



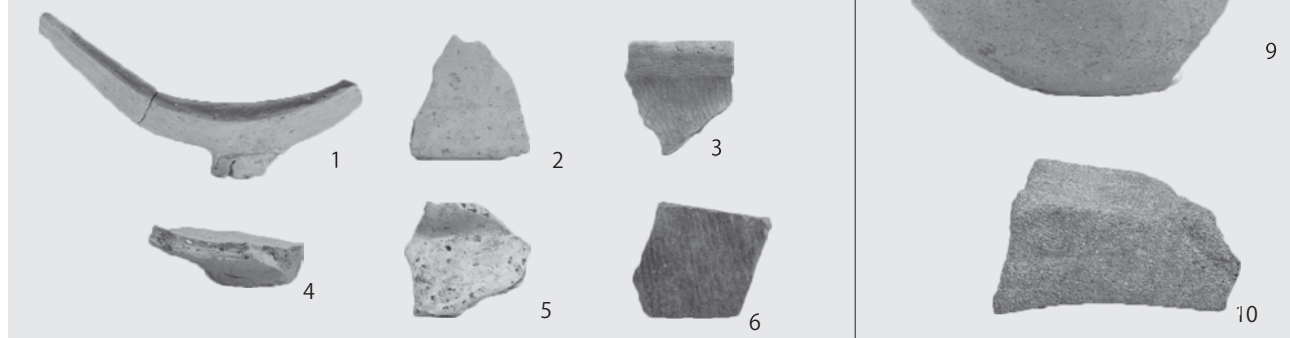
SI40



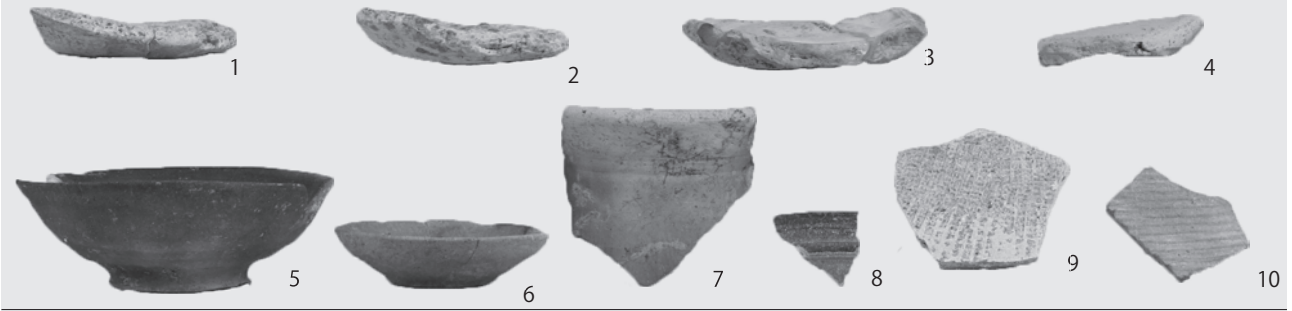
SI43



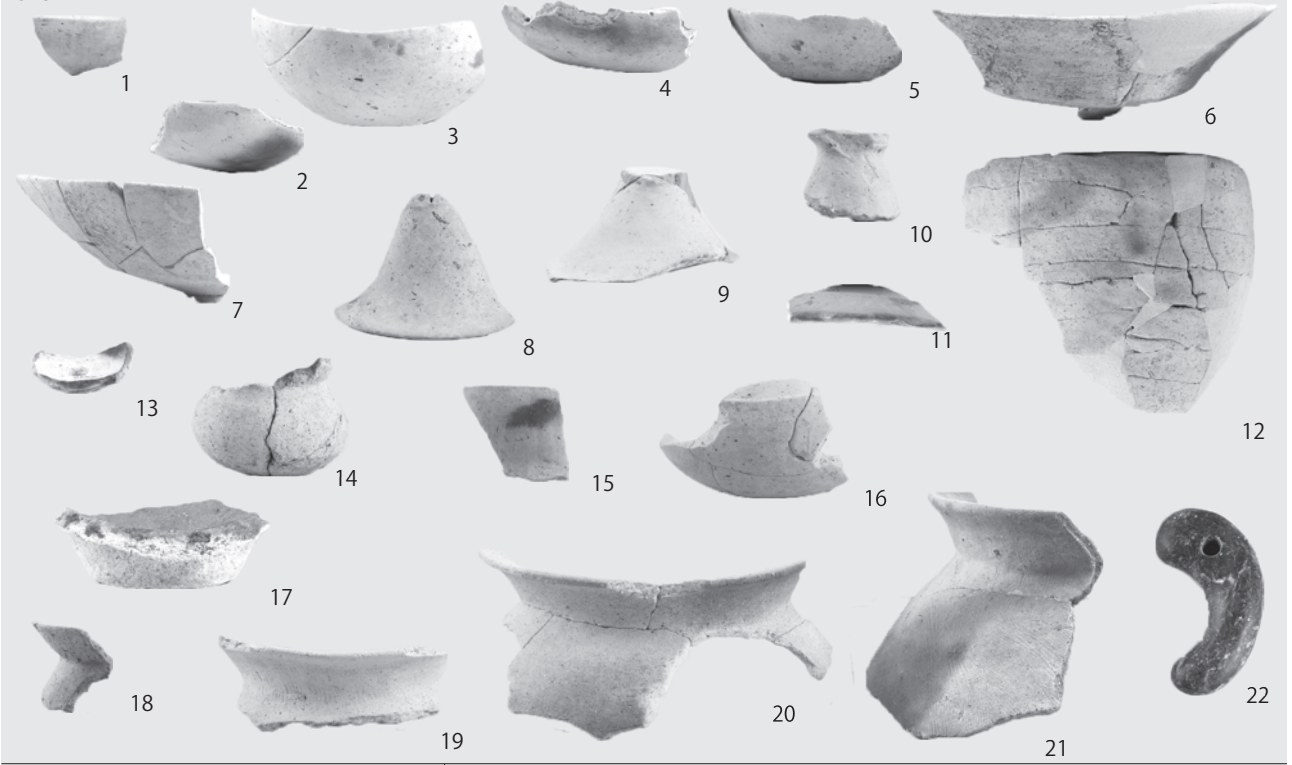
SI44



SX2



SX3



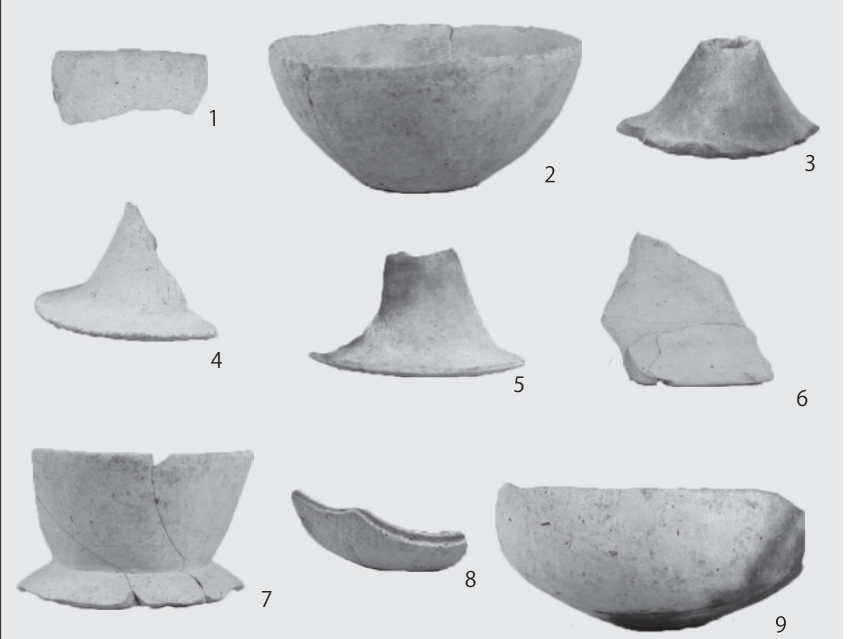
SK34



SK36



SK37

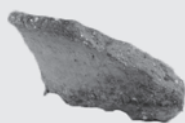




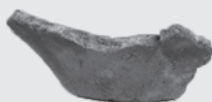
SK37



10



11



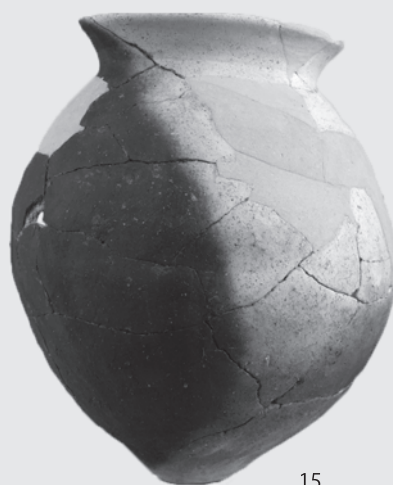
12



13



14



15

Pit12



1

Pit61

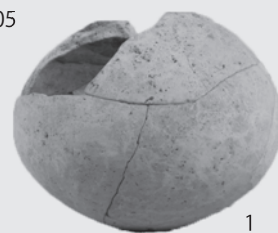


1



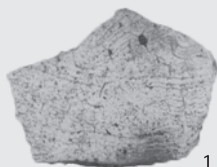
2

Pit105



1

Pit284



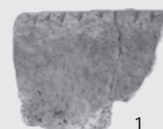
1

Pit291



1

Pit292

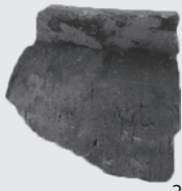


1

SD1



SD1



32



33



34



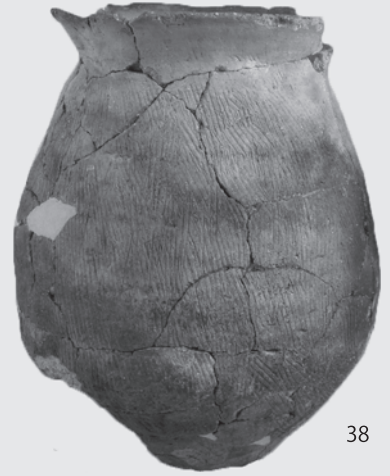
35



36



37



38



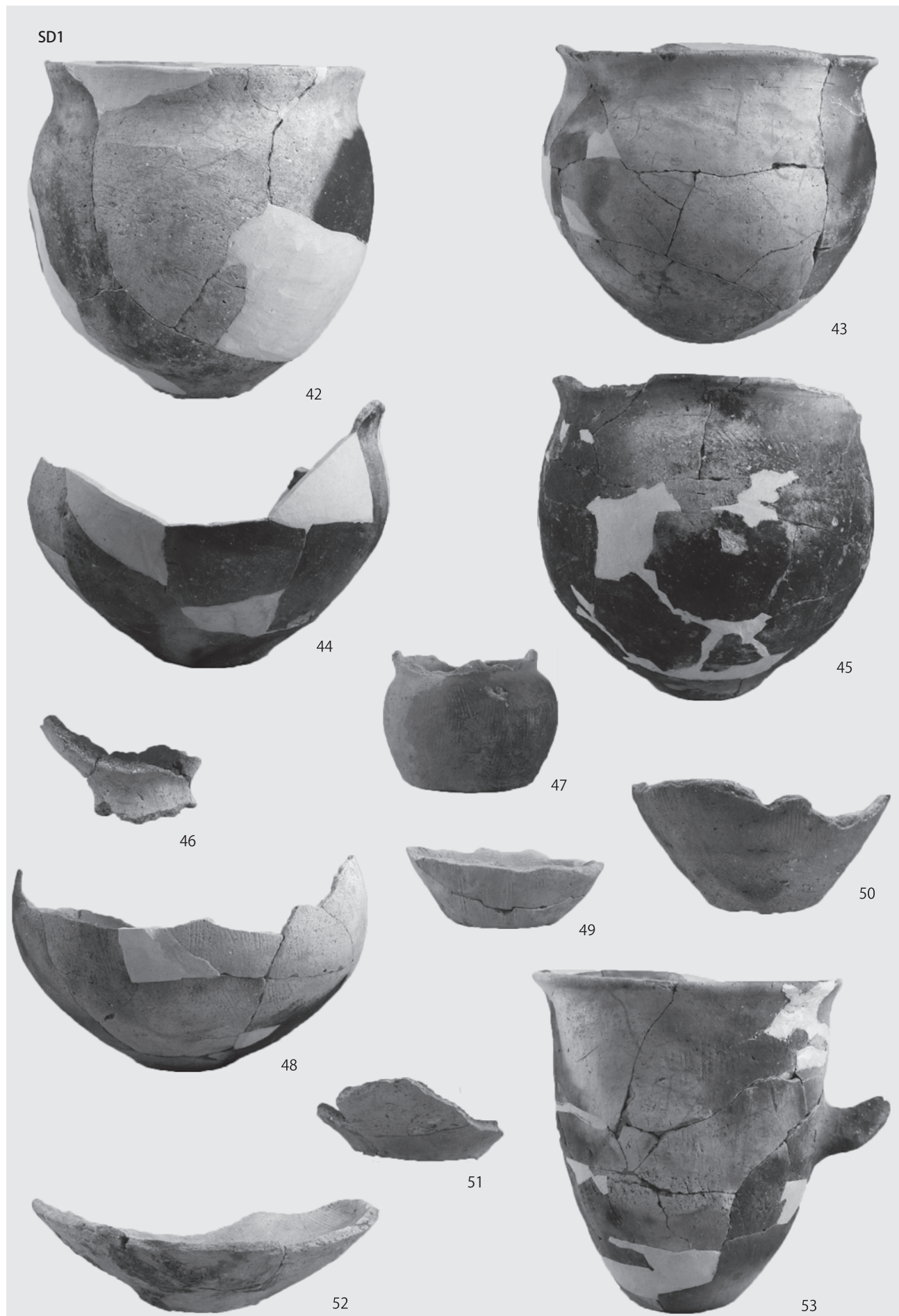
39



40



41



SD1



SD1

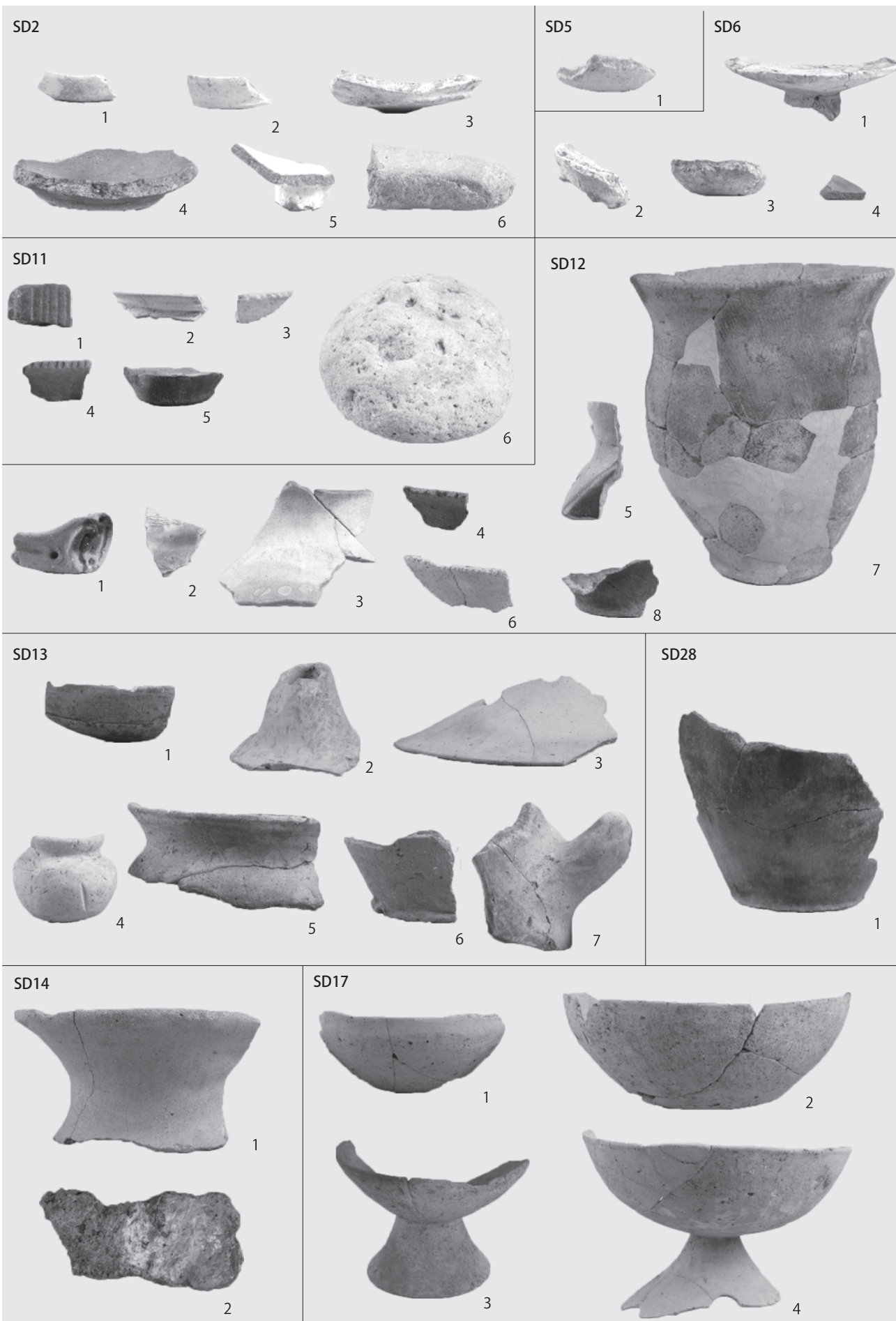


SD1

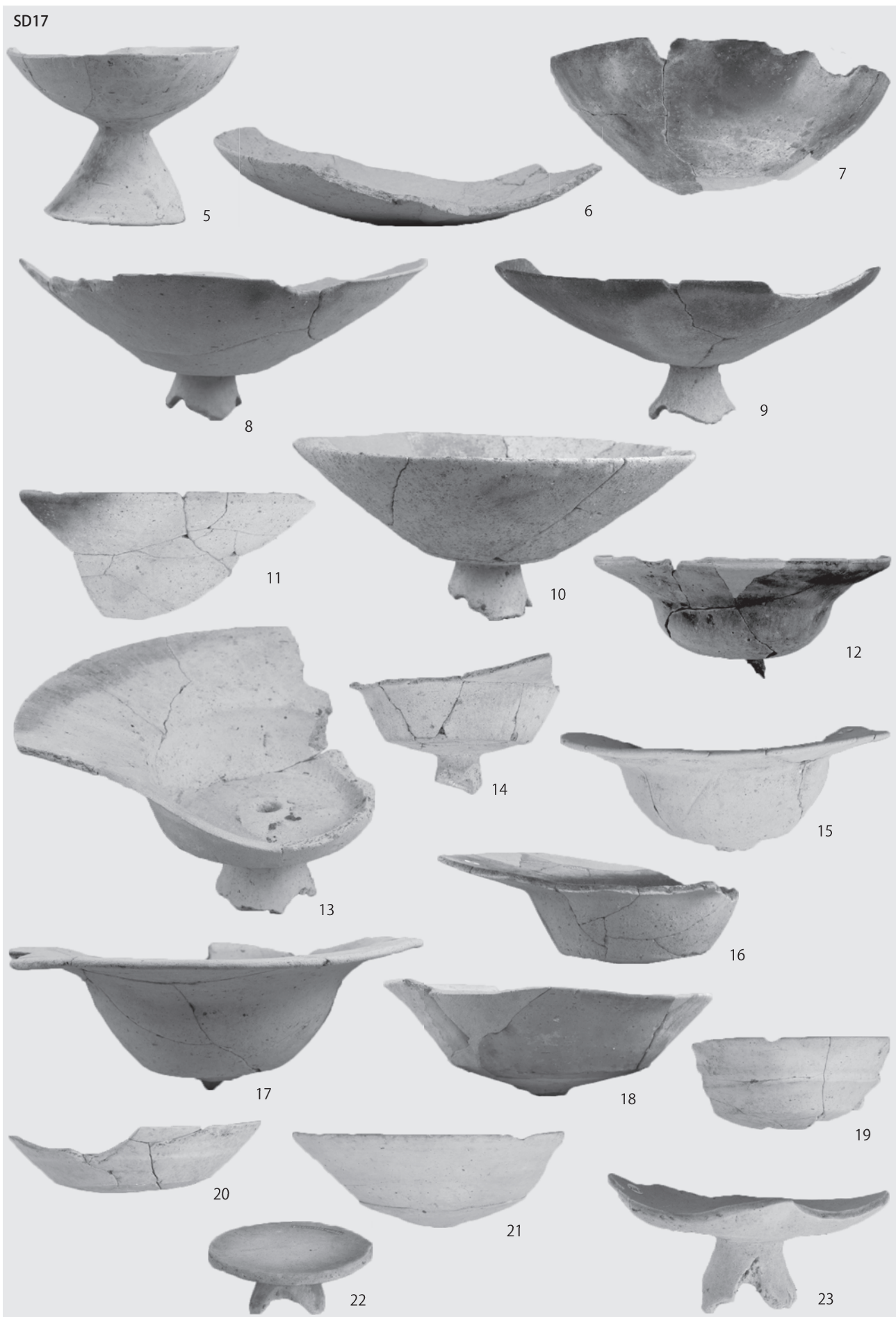




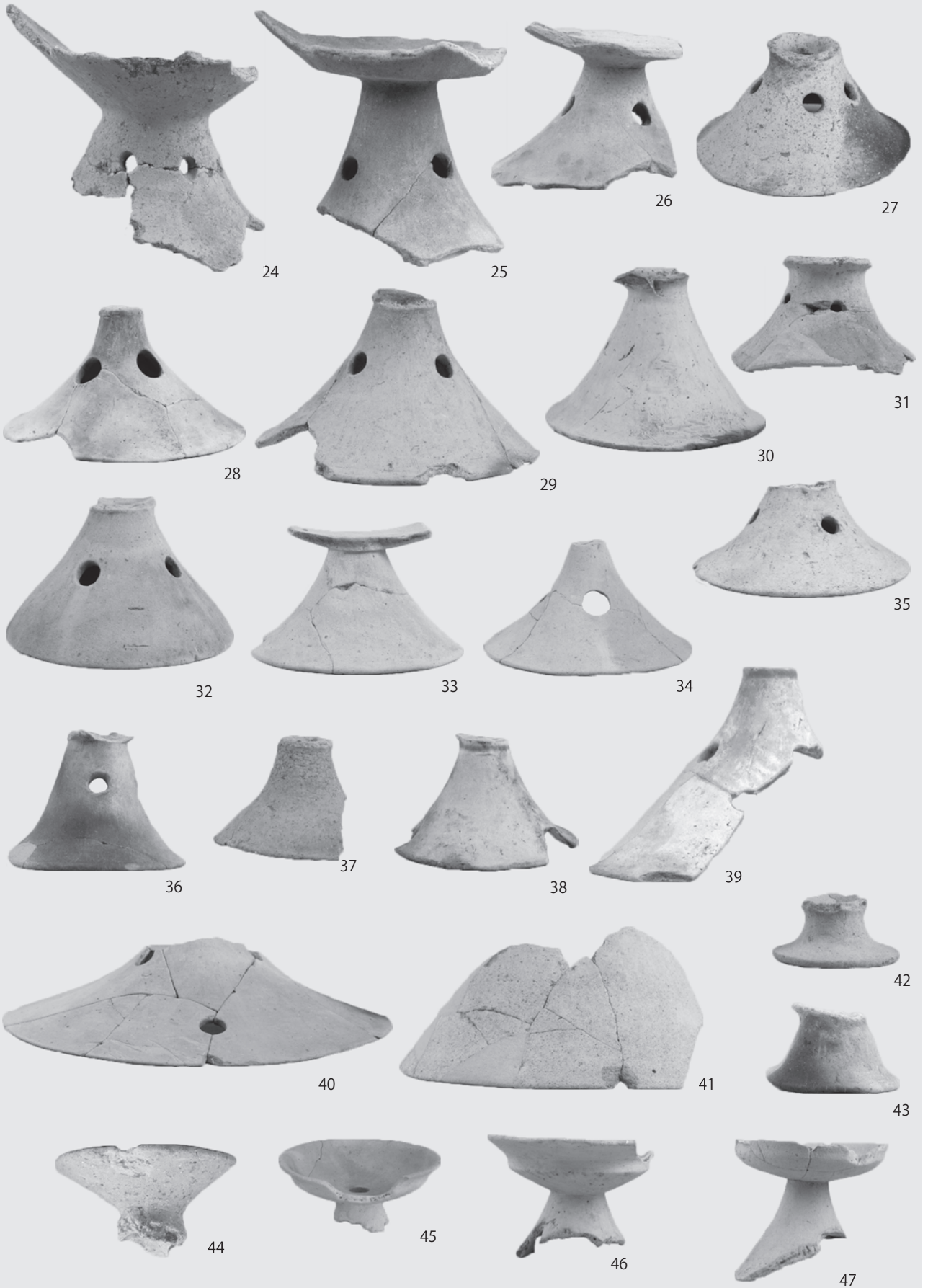




SD17



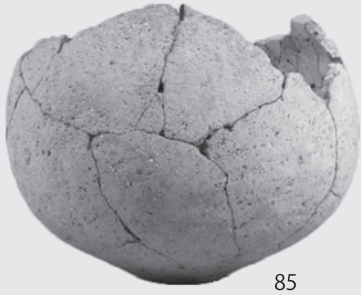
SD17



SD17



SD17



85



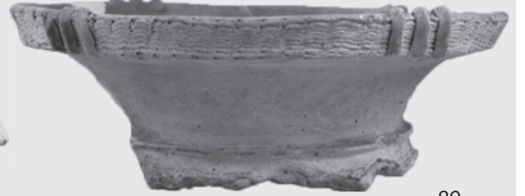
86



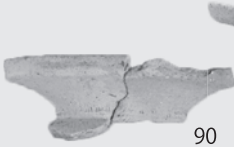
87



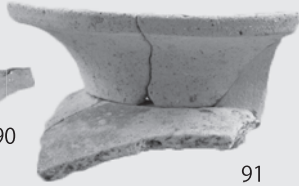
88



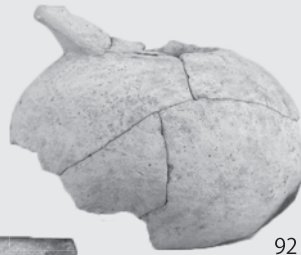
89



90



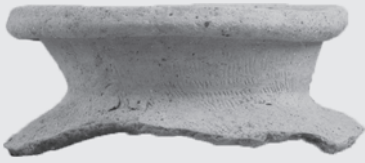
91



92



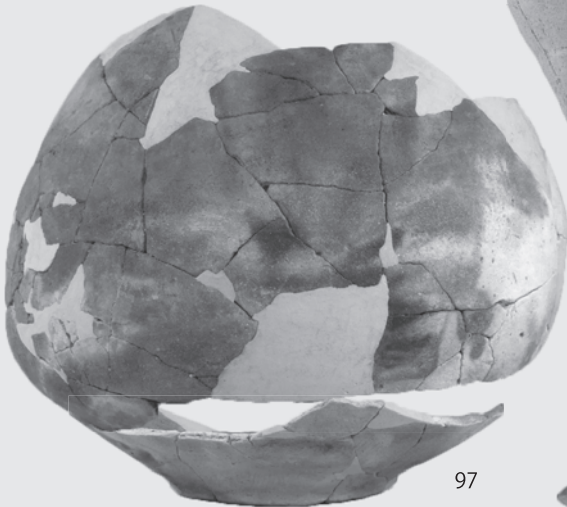
93



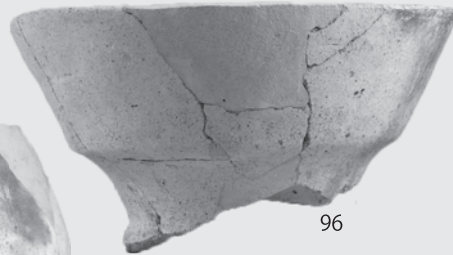
94



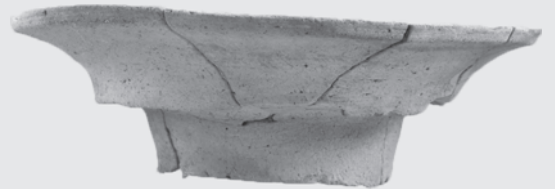
95



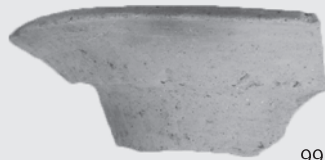
97



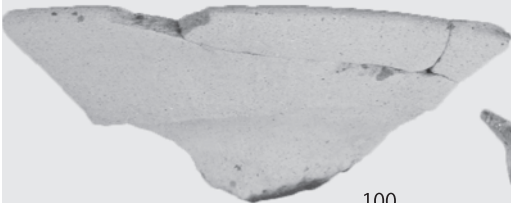
96



98



99



100

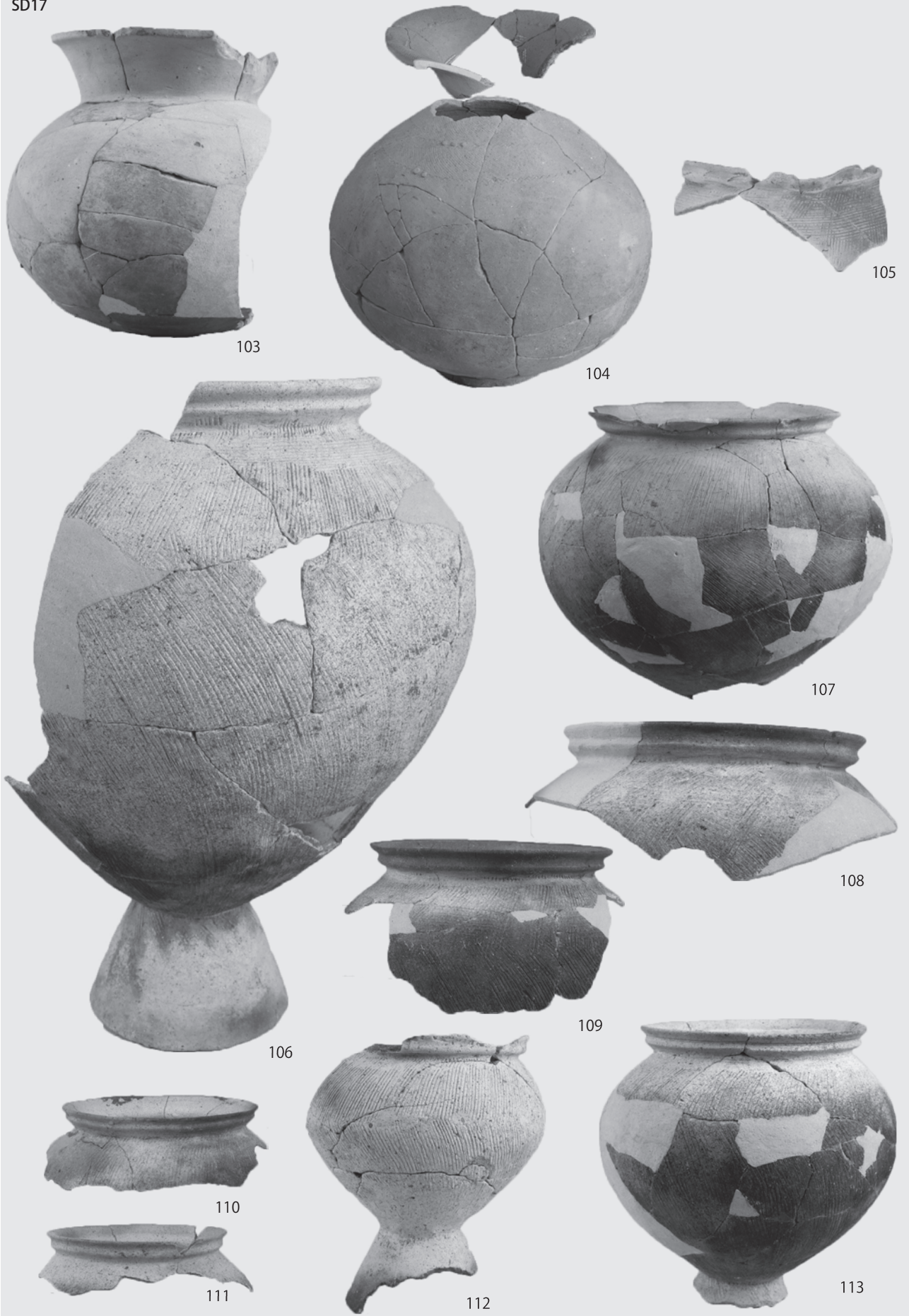


101



102

SD17



SD17



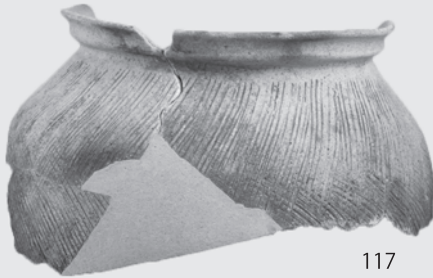
114



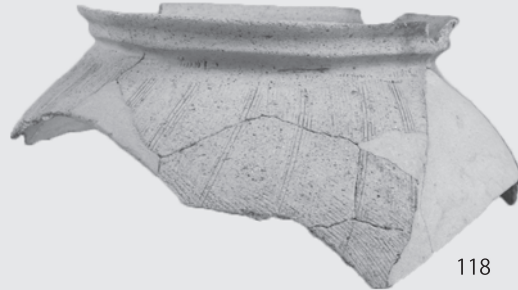
115



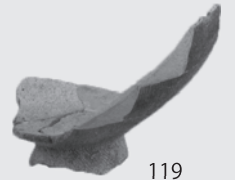
116



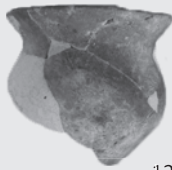
117



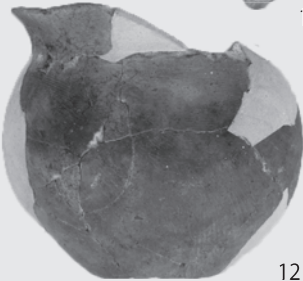
118



119



120



121



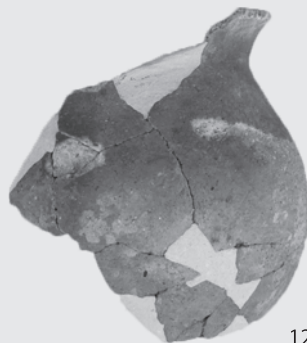
122



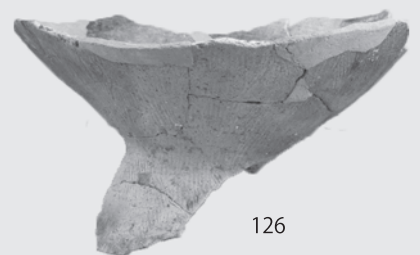
123



124



125



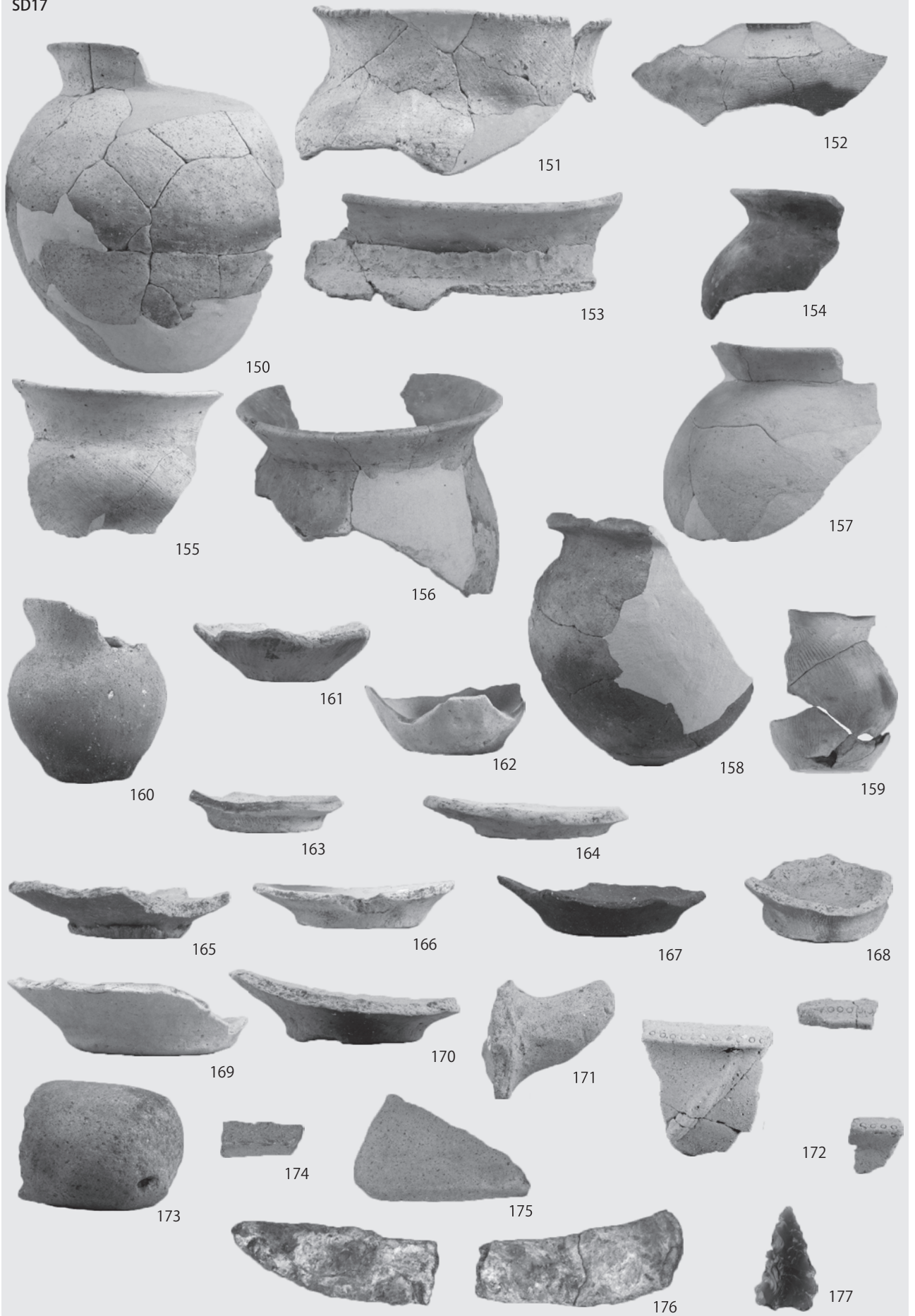
126

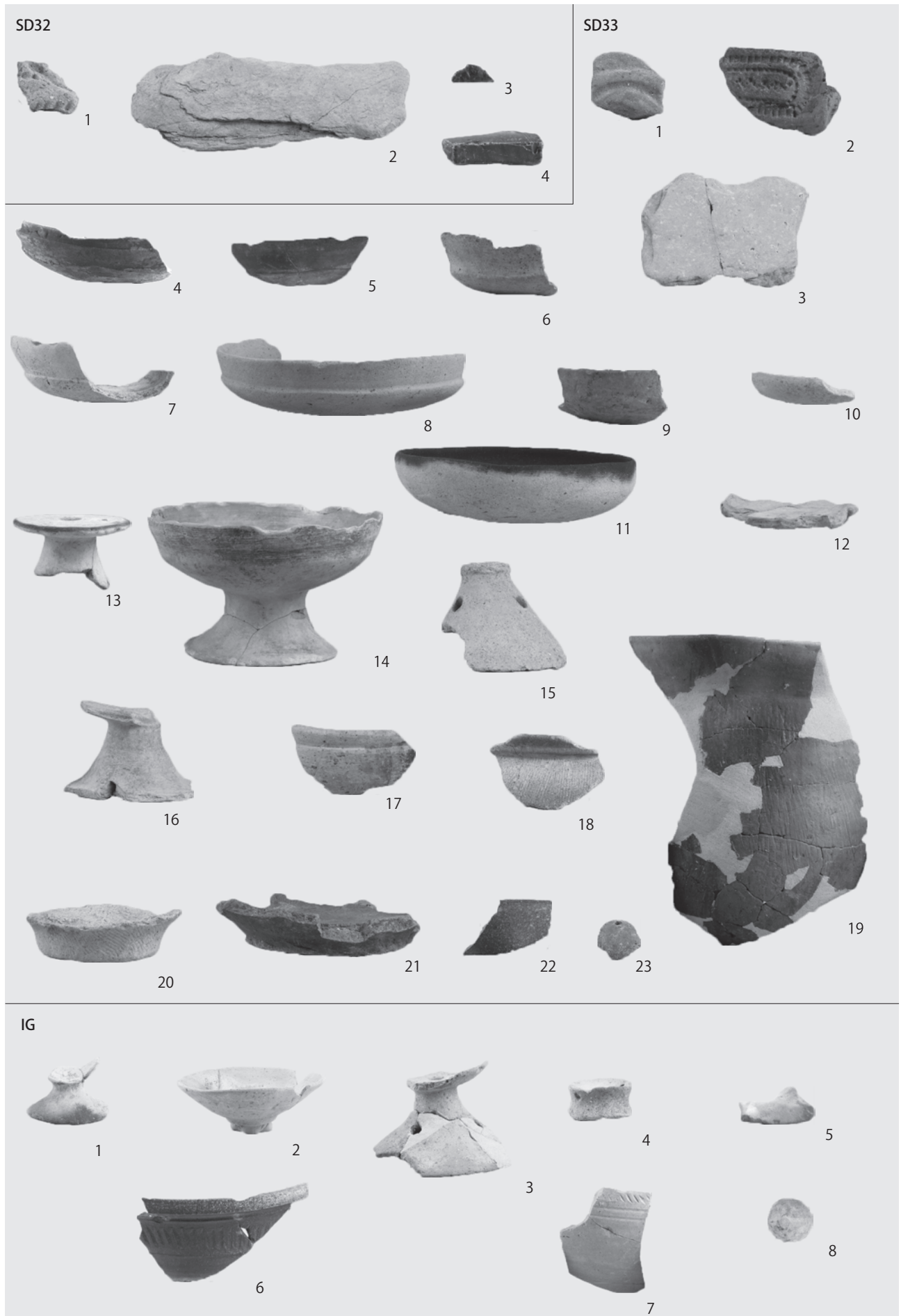
SD17





SD17





# 報告書抄録

フリガナ	シオベイセキ							
書名	塩部遺跡Ⅲ							
副書名	学校法人駿台甲府学園 駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書 (山梨県甲府市塩部二丁目1962-4番地他)							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告							
シリーズ番号	105							
編著者名	泉英樹・高野高潔							
編集機関	昭和測量株式会社							
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-27 Tel055-235-4448							
発行年月日	平成31年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シオベイセキ 塩部遺跡	ヤマナシケンコウフシ 山梨県甲府市 シオベ ニチョウメ 塩部二丁目 1962-4他	19201	74	35° 40' 13"	138° 33' 23"	H28. 10. 1 ～ H29. 9. 30	2, 584	学校建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
シオベイセキ 塩部遺跡	集落跡	古墳時代	建物跡、溝・流路	土師器、須恵器 木製品、ガラス製品 金属製品、石製品 土製品		古墳時代前期から 後期の集落跡が確 認された。古墳時 代後期の木製品を 多数検出した。		

甲府市文化財調査報告105

---

## 塩部遺跡Ⅲ

—学校法人駿台甲府学園駿台甲府中学校建設に伴う発掘調査報告書—  
(山梨県甲府市塩部二丁目1962-4番地他)

発行日 平成31年3月31日  
編集 昭和測量株式会社  
〒400-0032 山梨県甲府市中央3-11-27 TEL055-235-4448  
発行 学校法人駿台甲府学園  
甲府市教育委員会  
昭和測量株式会社  
印刷 株式会社内田印刷所  
〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18 TEL055-233-0188

---